

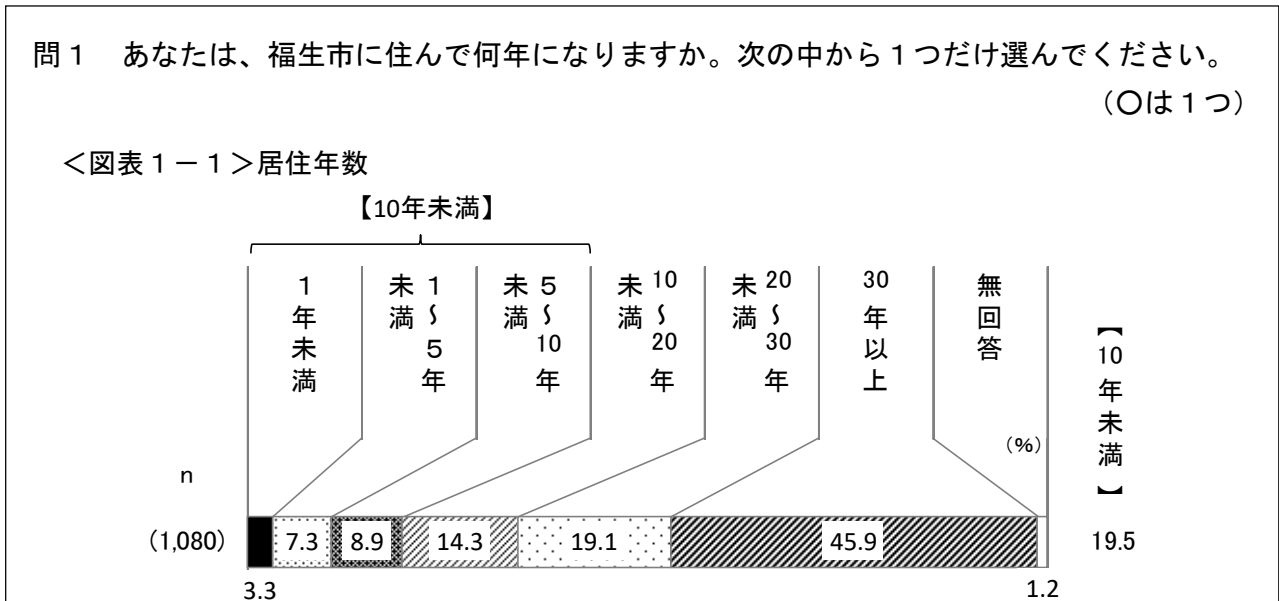
## IV 結果の分析



# 1. 定住意識

## (1) 居住年数

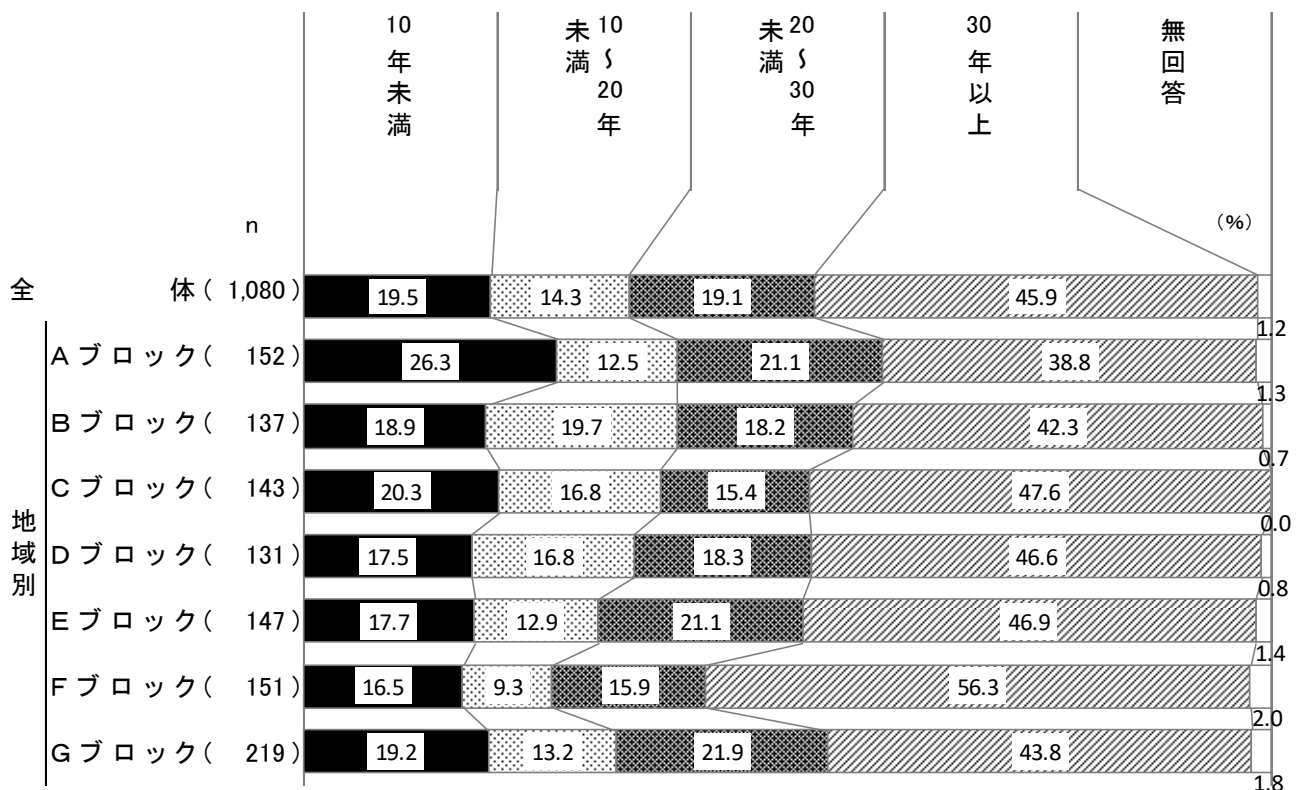
◇「30年以上」が4割台半ば



居住年数を聞いたところ、「30年以上」(45.9%)が4割台半ばで最も高く、次いで「20～30年未満」(19.1%)が約2割、「10～20年未満」(14.3%)が1割台半ばとなっている。「1年未満」(3.3%)と「1～5年未満」(7.3%)、「5～10年未満」(8.9%)の3つを合わせた【10年未満】(19.5%)は約2割となっている。(図表1-1)

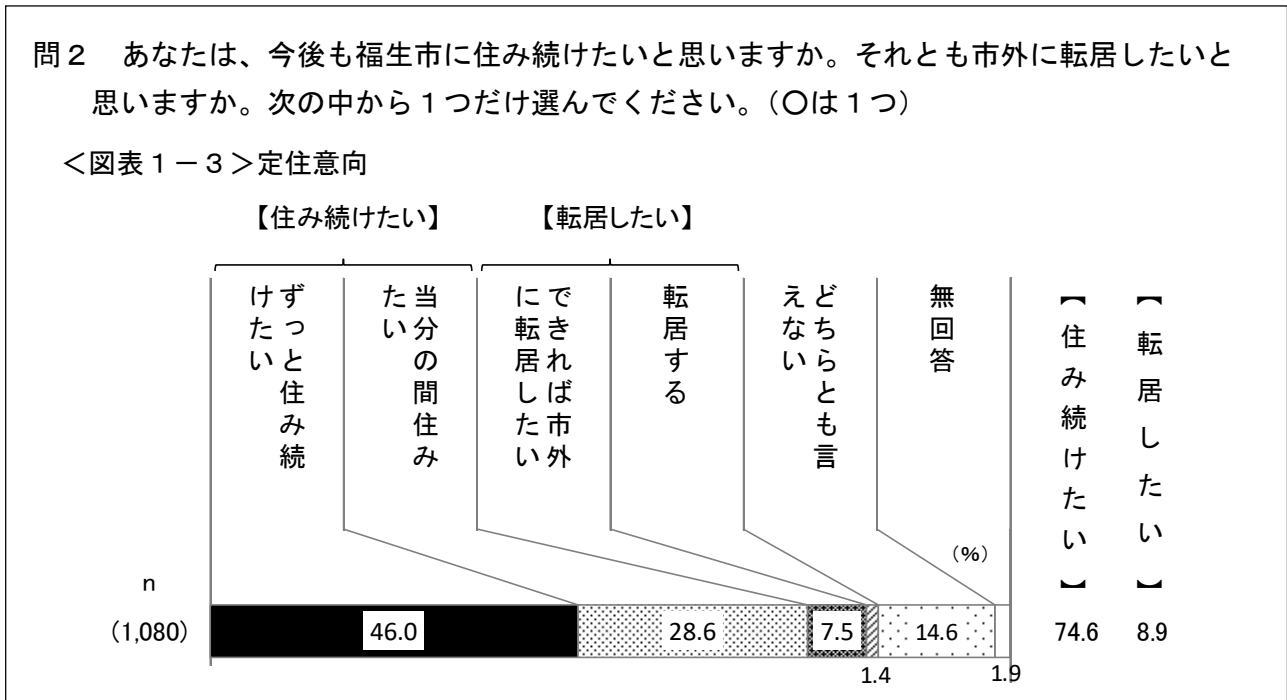
地域別でみると、「30年以上」はFブロック(56.3%)で6割弱と高くなっている。【10年未満】はAブロック(26.3%)で3割弱と高くなっている。(図表1-2)

<図表1-2>居住年数/地域別



(2) 定住意向

◇【住み続けたい】が7割台半ば

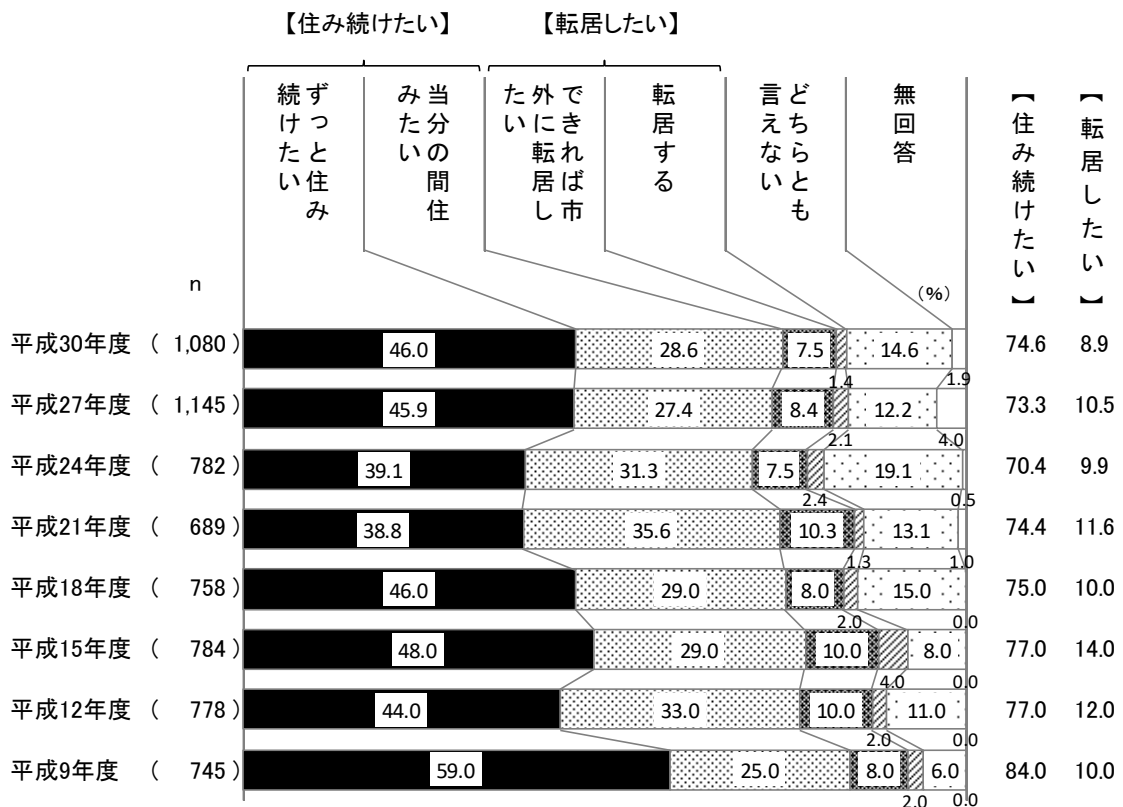


定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(46.0%)と「当分の間住みたい」(28.6%)の2つを合わせた【住み続けたい】(74.6%)が7割台半ばと高くなっている。一方、「できれば市外に転居したい」(7.5%)と「転居する」(1.4%)の2つを合わせた【転居したい】(8.9%)は約1割弱となっている。(図表1-3)

過年度の調査結果の推移をみると、【住み続けたい】は平成12年度以降7割台で推移している。

(図表1-4)

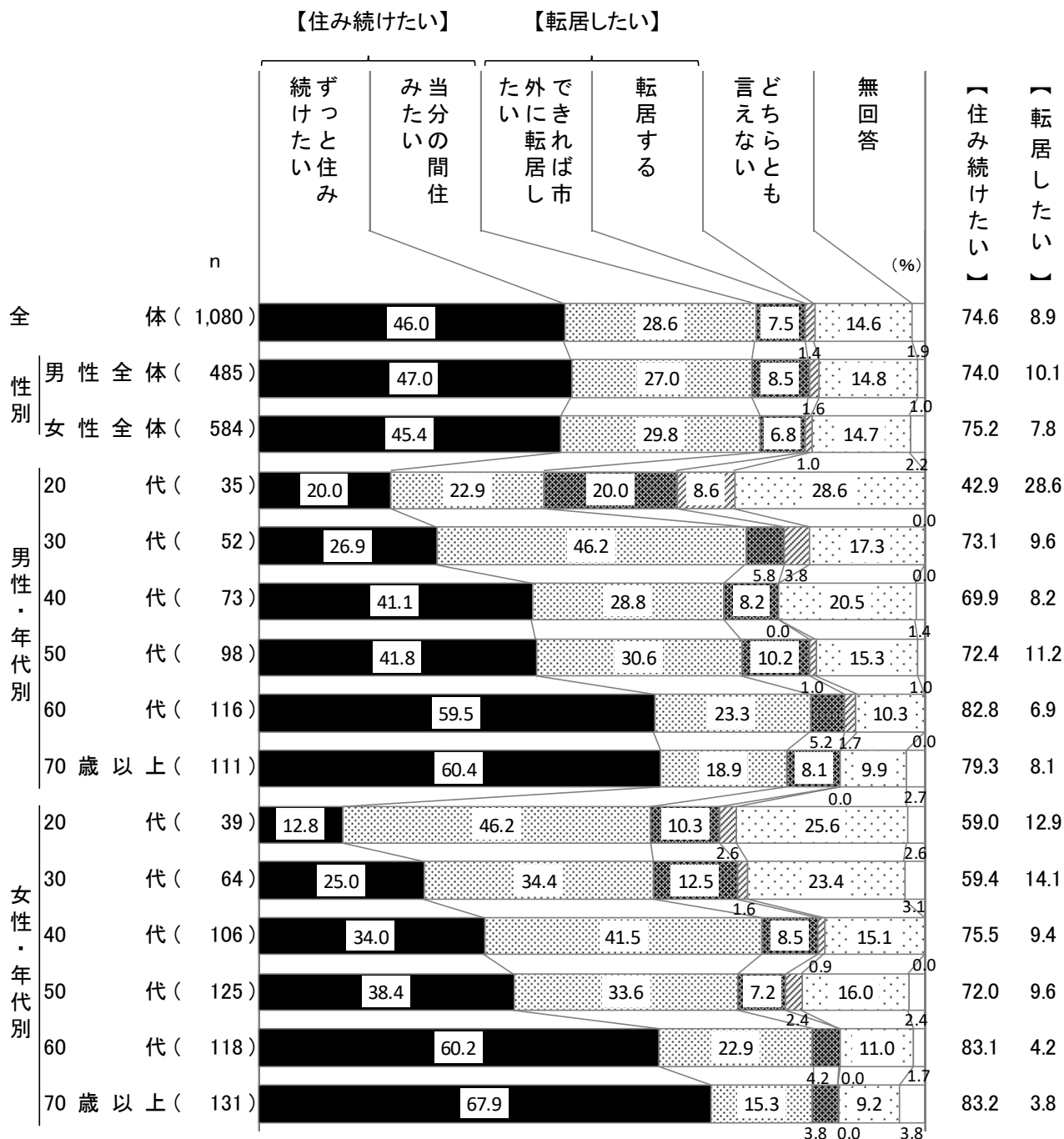
<図表1-4>定住意向/過年度推移



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

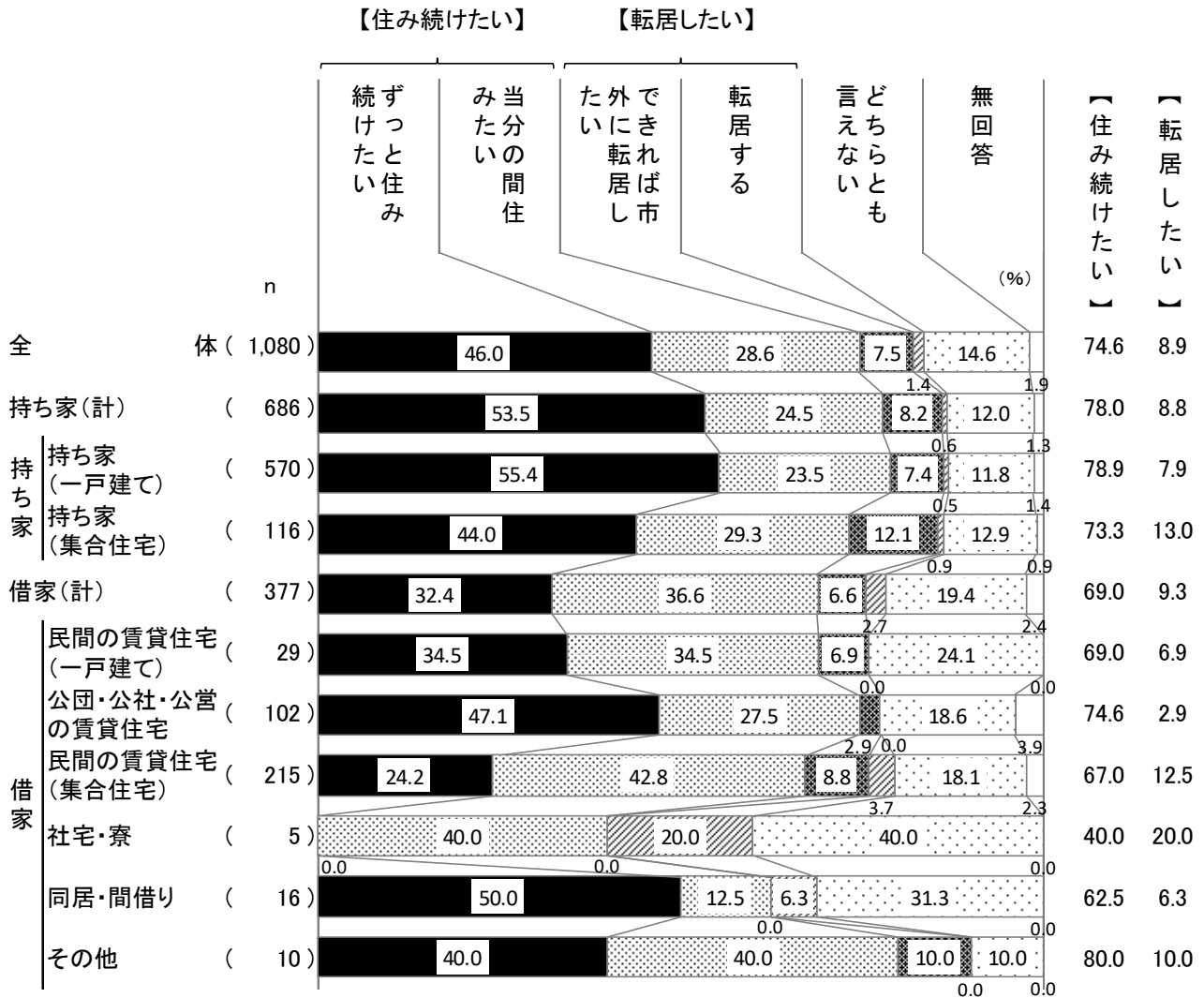
性・年代別でみると、【住み続けたい】は男性60代（82.8%）と女性60代（83.1%）・女性70歳以上（83.2%）で8割以上と高くなっている。「ずっと住み続けたい」は男女とも高い年代ほど割合が高くなっている。【転居したい】は男性20代（28.6%）で3割弱、女性30代（14.1%）で1割台半ばとなっている。（図表1-5）

＜図表1-5＞定住意向／性別、性・年代別



住居形態別でみると、【住み続けたい】は持ち家（一戸建て）（78.9%）で8割弱と高くなっている。また、【住み続けたい】は持ち家（計）では78.0%、借家（計）では69.0%となっており、持ち家（計）のほうが高くなっている。（図表1-6）

＜図表1-6＞定住意向／住居形態別

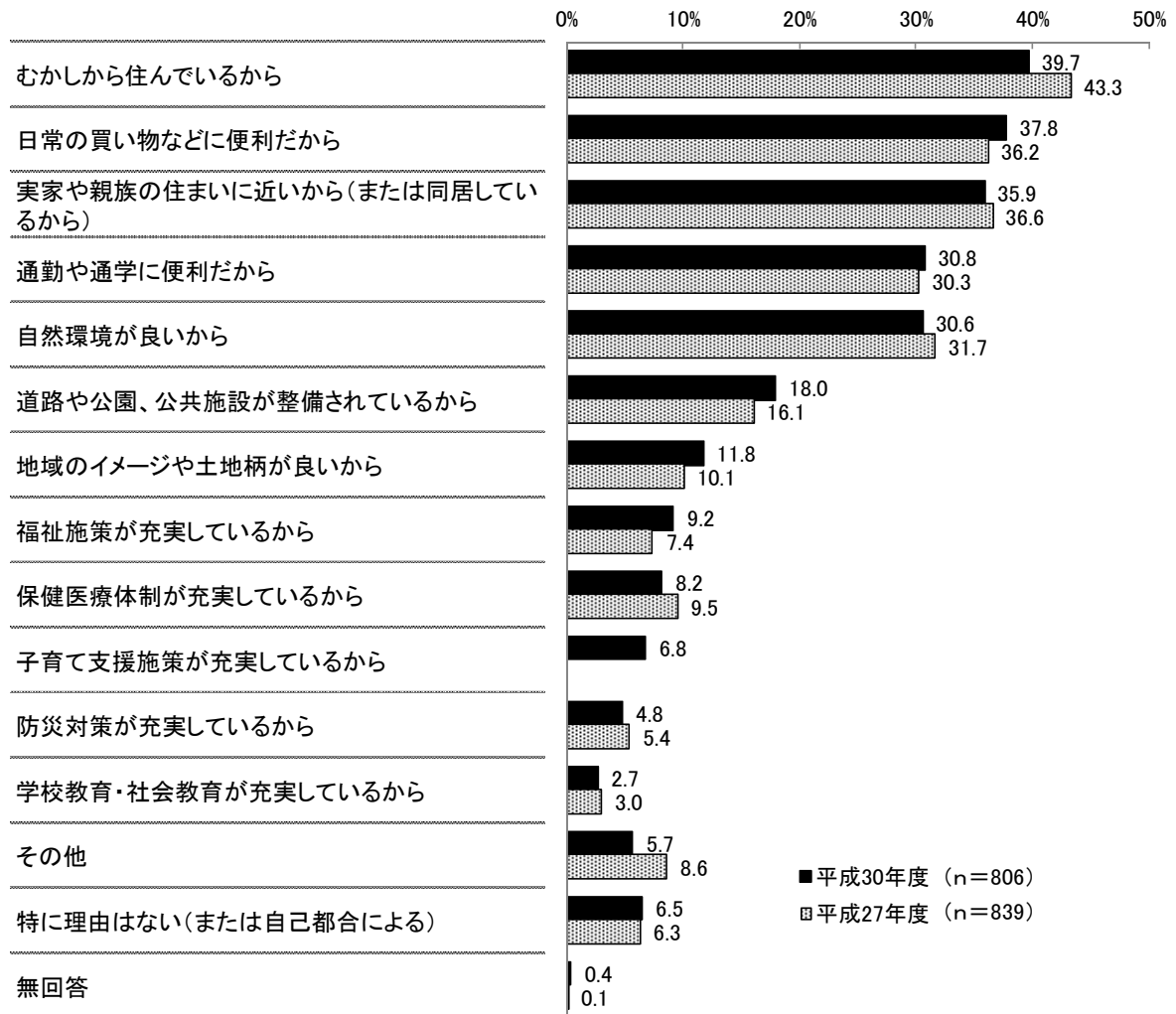


### (3) 定住したい理由

◇「むかしから住んでいるから」が約4割

(問2で、「1 ずっと住み続けたい」または「2 当分の間住みたい」を選んだ方に)  
問2-1 あなたが福生市に住み続けたいと思った理由は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

<図表1-7>定住したい理由



(注)「子育て支援施策が充実しているから」は、今回調査で追加した選択肢である。

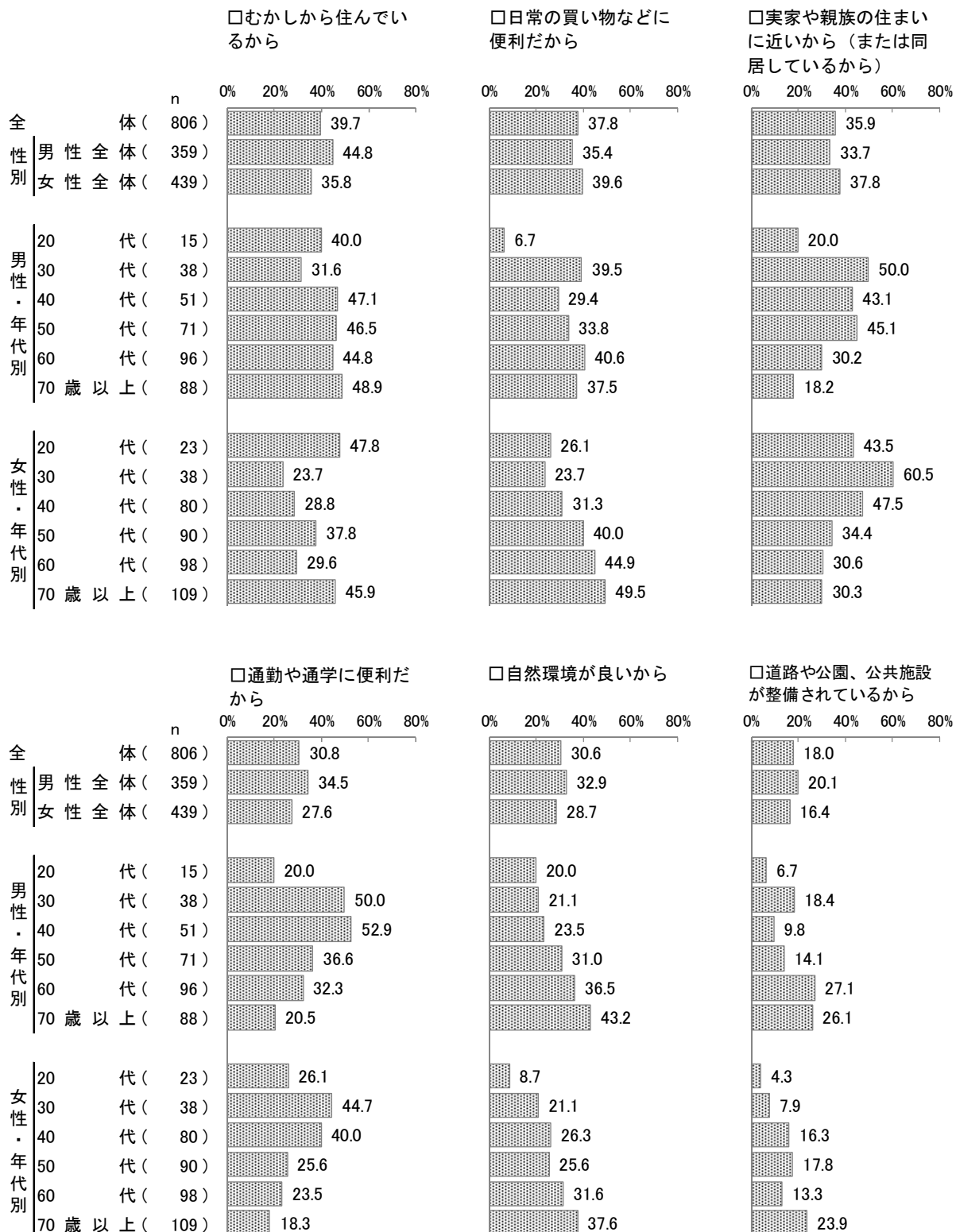
問2で「ずっと住み続けたい」または「当分の間住みたい」と答えた方に、定住したい理由を聞いたところ、「むかしから住んでいるから」(39.7%)が約4割で最も高く、次いで「日常の買い物などに便利だから」(37.8%)、「実家や親族の住まいに近いから(または同居しているから)」(35.9%)、「通勤や通学に便利だから」(30.8%)、「自然環境が良いから」(30.6%)となっている。

(図表1-7)

上位6項目について性別でみると、「むかしから住んでいるから」は男性(44.8%)が女性(35.8%)より9.0ポイント高く、「通勤や通学に便利だから」は男性(34.5%)が女性(27.6%)より6.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「むかしから住んでいるから」は男性40代(47.1%)・男性70歳以上(48.9%)と女性20代(47.8%)で5割弱と最も高くなっている。「日常の買い物などに便利だから」は女性70歳以上(49.5%)で約5割と最も高くなっている。「実家や親族のお住まいに近いから(または同居しているから)」は女性30代(60.5%)で約6割と最も高くなっている。(図表1-8)

<図表1-8>定住したい理由/性別、性・年代別(上位6項目)



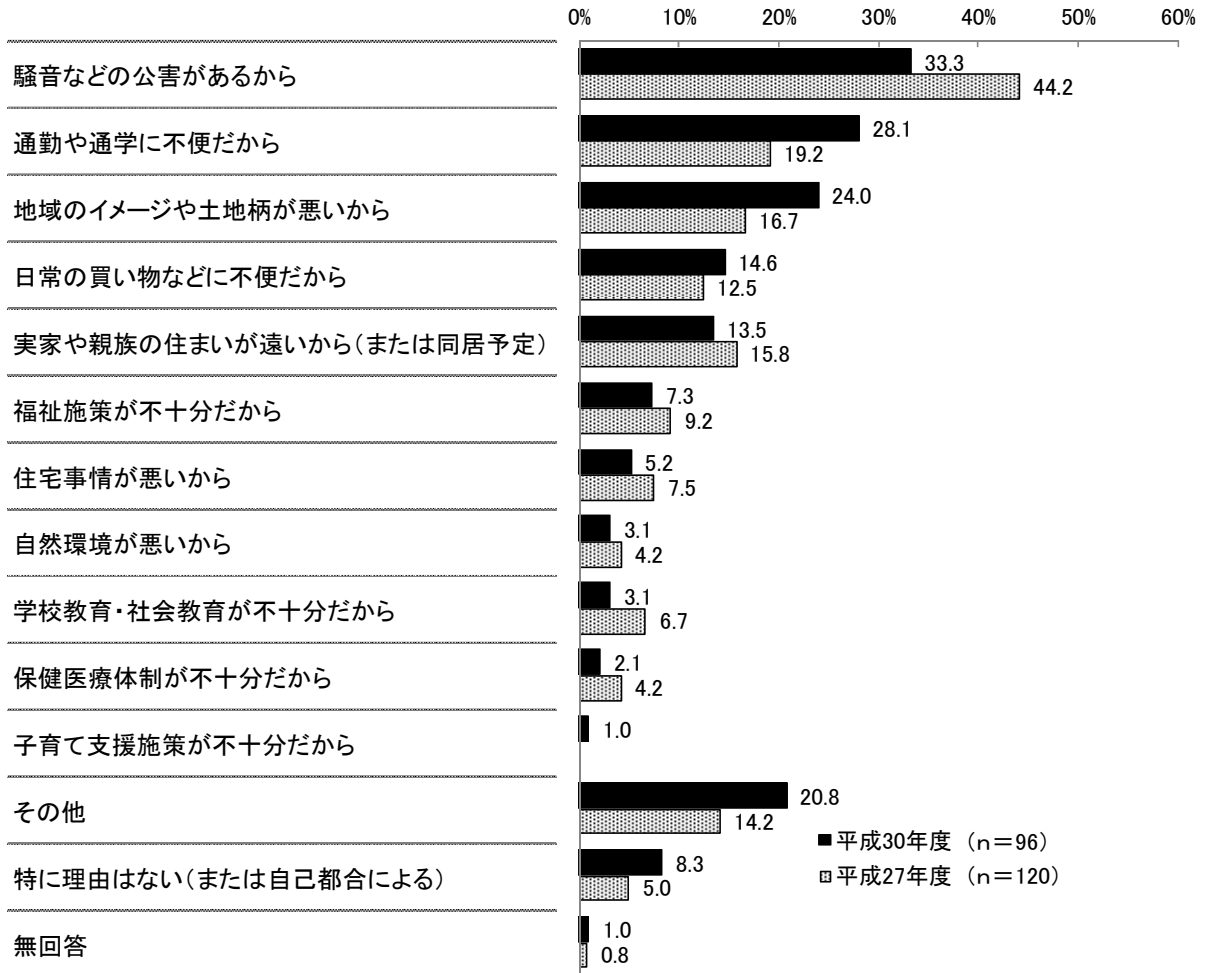


#### (4) 移転したい理由

◇「騒音などの公害があるから」が3割強

(問2で、「3 できれば市外に転居したい」または「4 転居する」を選んだ方に)  
問2-2 「転居したい」または「転居する」とお思いの理由を次の中から2つまで選んでください。(〇は2つまで)

<図表1-9> 移転したい理由



(注)「子育て支援施策が不十分だから」は、今回調査で追加した選択肢である。

問2で、「できれば市外に転居したい」または「転居する」と答えた方に、移転したい理由を聞いたところ、「騒音などの公害があるから」(33.3%)が3割強で最も高く、次いで「通勤や通学に不便だから」(28.1%)、「地域のイメージや土地柄が悪いから」(24.0%)、「日常の買い物などに不便だから」(14.6%)、「実家や親族の住まいが遠いから(または同居予定)」(13.5%)となっている。(図表1-9)

前回の調査結果と比較すると、「通勤や通学に不便だから」は8.9ポイント、「地域のイメージや土地柄が悪いから」は7.3ポイント増加している。一方、「騒音などの公害があるから」は10.9ポイント減少している。(図表1-9)

## 2. 生活環境評価

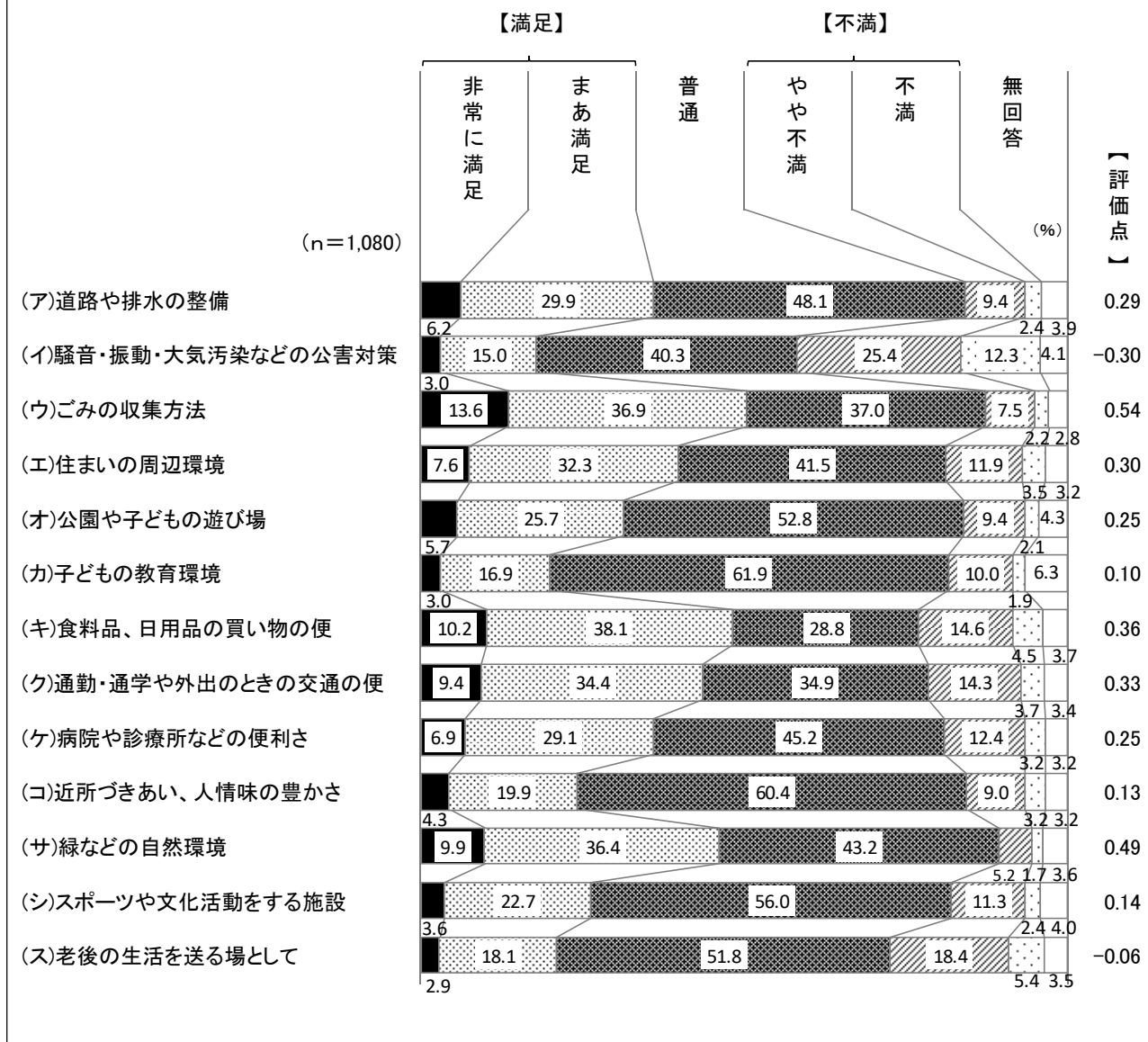
### (1) 地域の生活環境評価

◇【満足】が最も高いのは「ごみの収集方法」で約5割

問3 あなたは、「地域の住みよさ」について、普段どのように感じていますか。次の(ア)から(ス)までの項目について、それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。

(○はそれぞれ1つずつ)

<図表2-1>地域の生活環境評価



地域の住みよさについて、13項目に分けて評価を聞いたところ、「非常に満足」と「まあ満足」の2つを合わせた【満足】は、(ウ)ごみの収集方法(50.5%)が約5割で最も高く、次いで(キ)食料品、日用品の買い物の便(48.3%)、(サ)緑などの自然環境(46.3%)、(ク)通勤・通学や外出のときの交通の便(43.8%)となっている。

一方、「やや不満」と「不満」の2つを合わせた【不満】は、(イ)騒音・振動・大気汚染などの公害対策(37.7%)が4割弱で最も高く、次いで(ス)老後の生活を送る場として(23.8%)となっている。(図表2-1)

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために加重平均値による数量化を行った。これは、以下の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法である。

**評価点の算出方法**

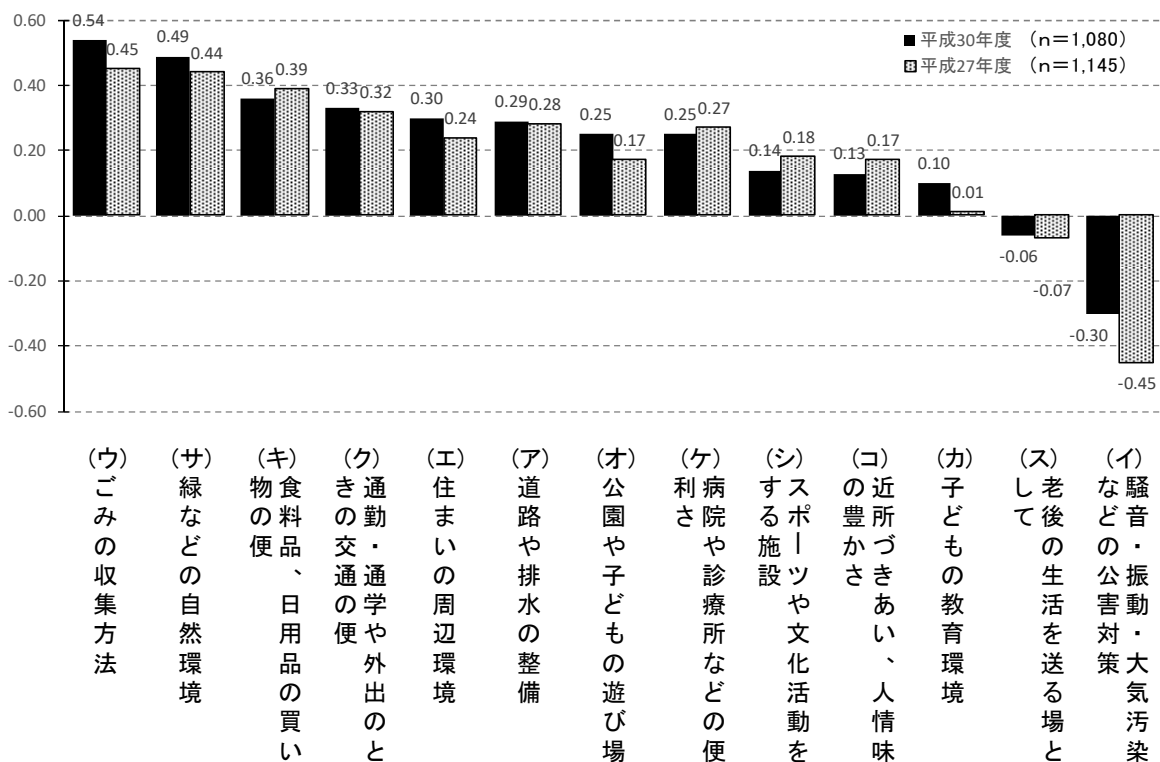
$$\text{評価点} = \frac{\begin{aligned} & \text{「非常に満足」の回答数} \times 2 \text{点} \\ & + \text{「まあ満足」の回答数} \times 1 \text{点} \\ & + \text{「普通」の回答数} \times 0 \text{点} \\ & + \text{「やや不満」の回答数} \times -1 \text{点} \\ & + \text{「非常に不満」の回答数} \times -2 \text{点} \end{aligned}}{\text{(回答者数)} - \text{(無回答者数)}}$$

この算出方法では、評価点は+2.00点～-2.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+2.00点に近いほど評価が高く、逆に-2.00点に近いほど評価が低いことになる。

評価点が最も高い項目は(ウ)ごみの収集方法(0.54)で、次いで(サ)緑などの自然環境(0.49)、(キ)食料品、日用品の買い物の便(0.36)となっている。一方、(イ)騒音・振動・大気汚染などの公害対策(-0.30)と(ス)老後の生活を送る場として(-0.06)の2項目はマイナスの評価点となっている。(図表2-2)

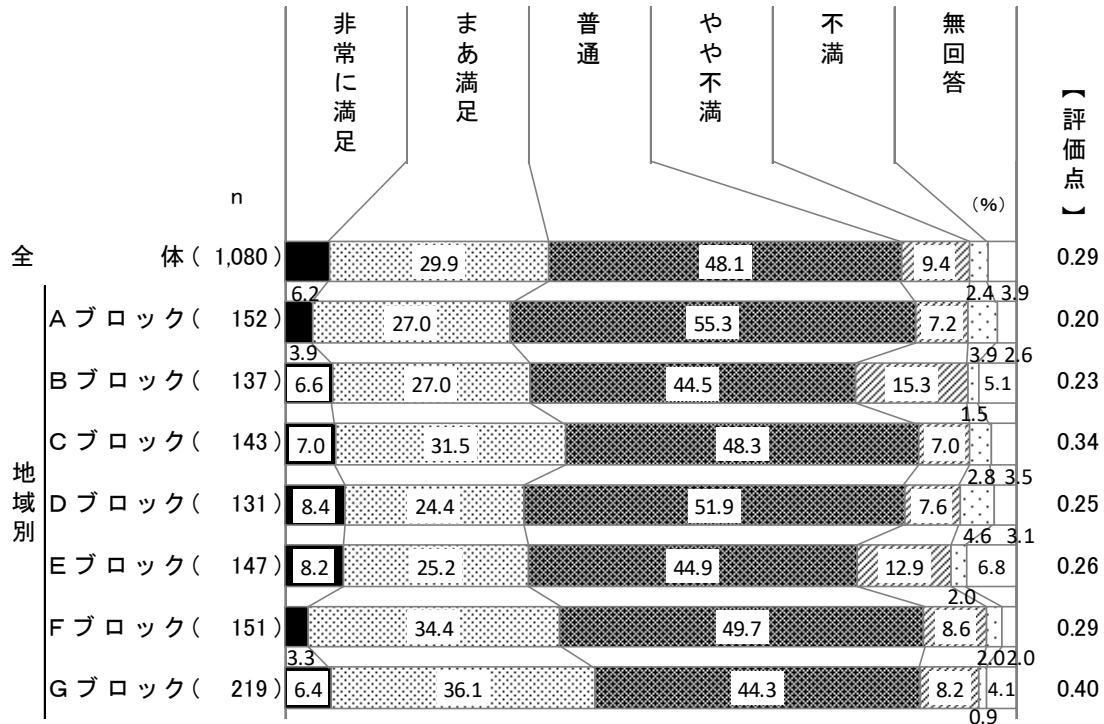
前回の調査結果と比較すると、(イ)騒音・振動・大気汚染などの公害対策が0.15ポイント増加している。一方、(シ)スポーツや文化活動をする施設と(コ)近所づきあいがともに0.04ポイント減少している。(図表2-2)

<図表2-2>地域の生活環境評価／評価点の過年度推移



(ア) 道路や排水の整備について地域別でみると、Gブロック (0.40) で最も評価点が高く、次いでCブロック (0.34) が高くなっている。一方、Aブロック (0.20) では最も評価点が低くなっている。(図表2-3)

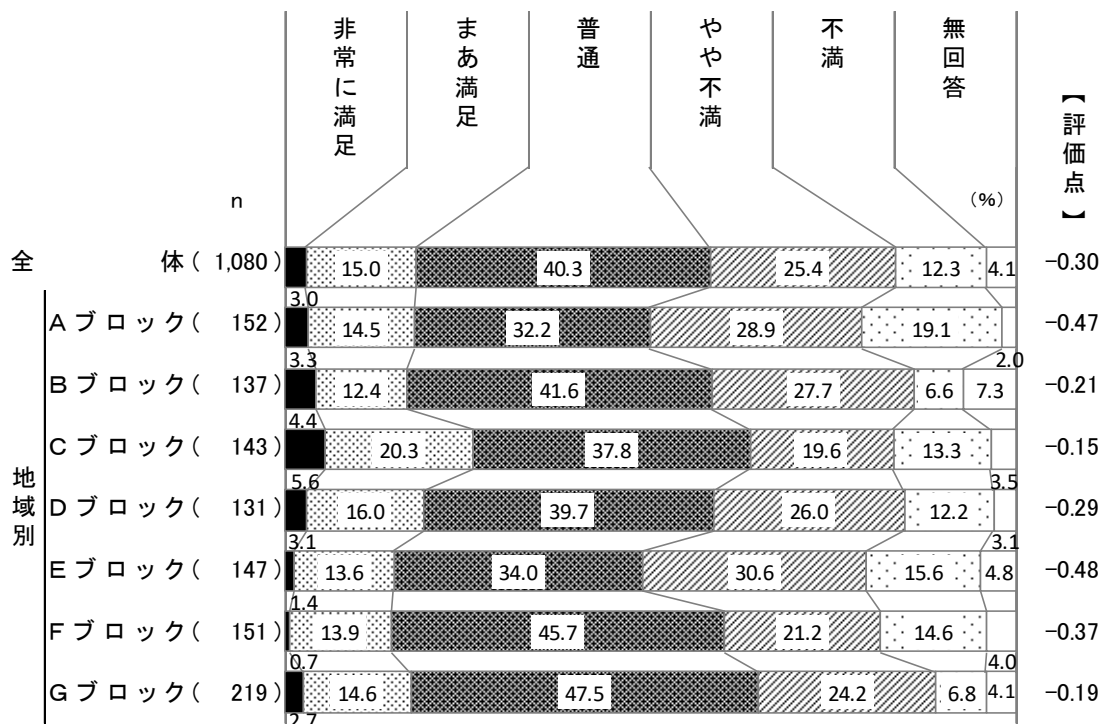
＜図表2-3＞地域の生活環境評価（ア）道路や排水の整備／地域別



(イ) 騒音・振動・大気汚染などの公害対策について地域別でみると、すべてのブロックで評価点がマイナスとなっており、Eブロック (-0.48) で最も評価点が低くなっている。

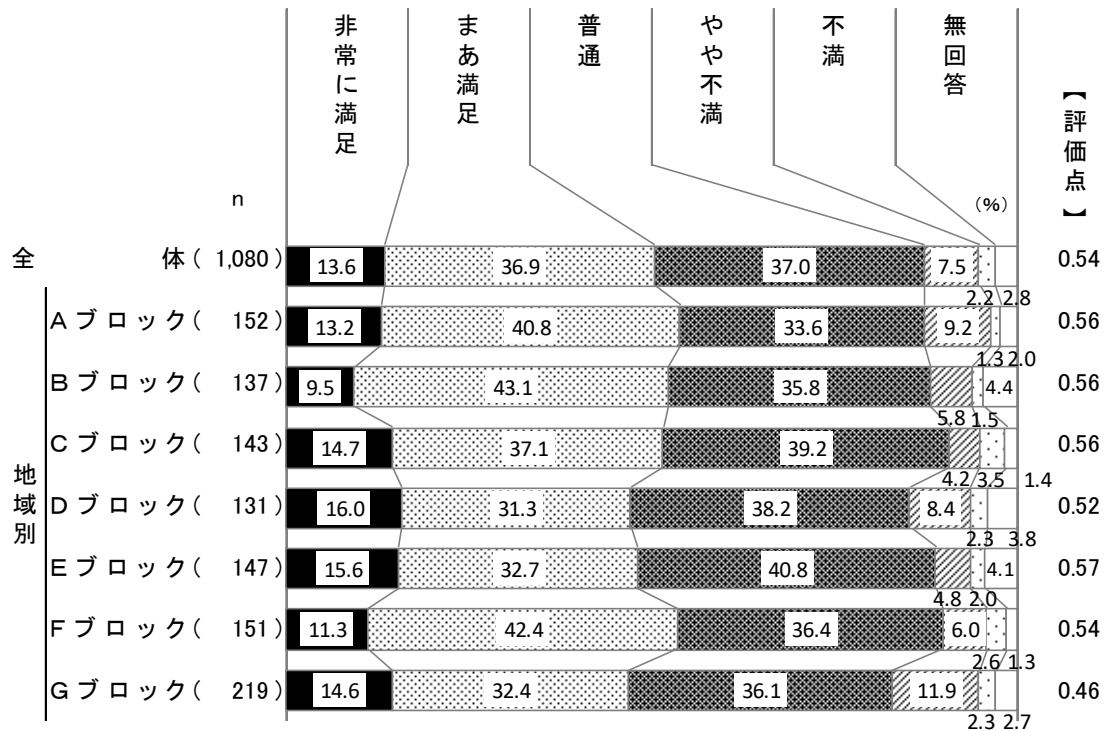
(図表2-4)

＜図表2-4＞地域の生活環境評価（イ）騒音・振動・大気汚染などの公害対策／地域別



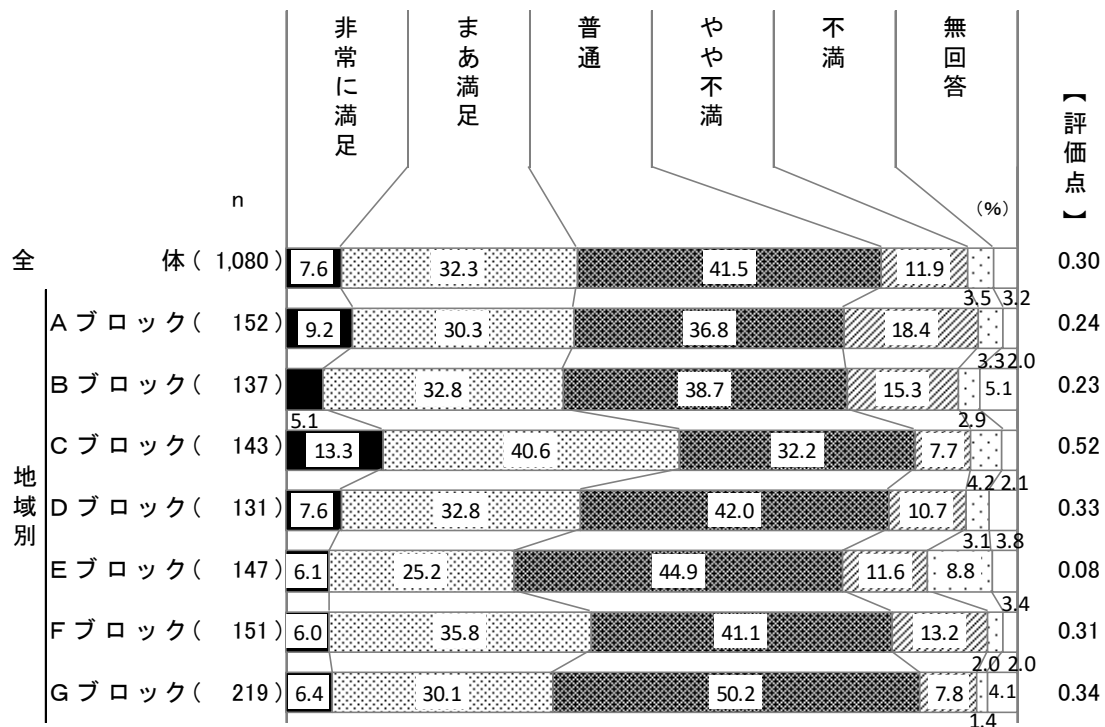
(ウ) ごみの収集方法について地域別で見ると、Eブロック (0.57) で最も評価点が高くなっている。一方、Gブロック (0.46) では最も評価点が低くなっている。(図表 2-5)

<図表 2-5>地域の生活環境評価 (ウ) ごみの収集方法/地域別



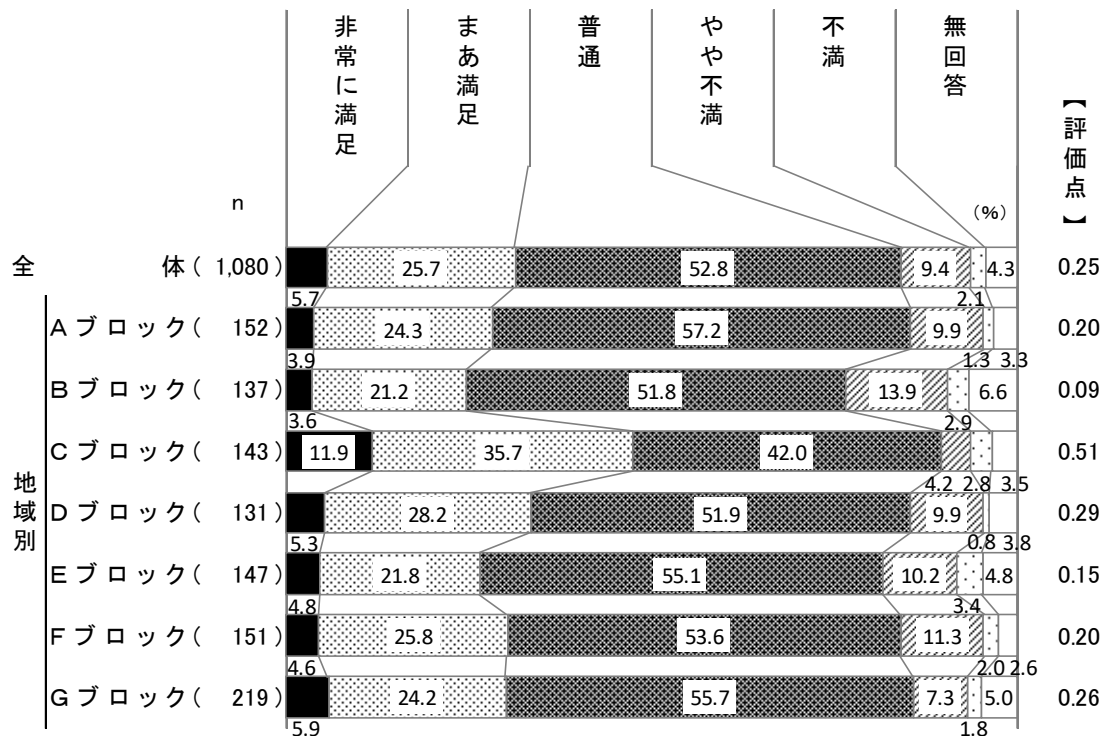
(エ) 住まいの周辺環境について地域別で見ると、Cブロック (0.52) で最も評価点が高く、次いでGブロック (0.34)、Dブロック (0.33) となっている。(図表 2-6)

<図表 2-6>地域の生活環境評価 (エ) 住まいの周辺環境/地域別



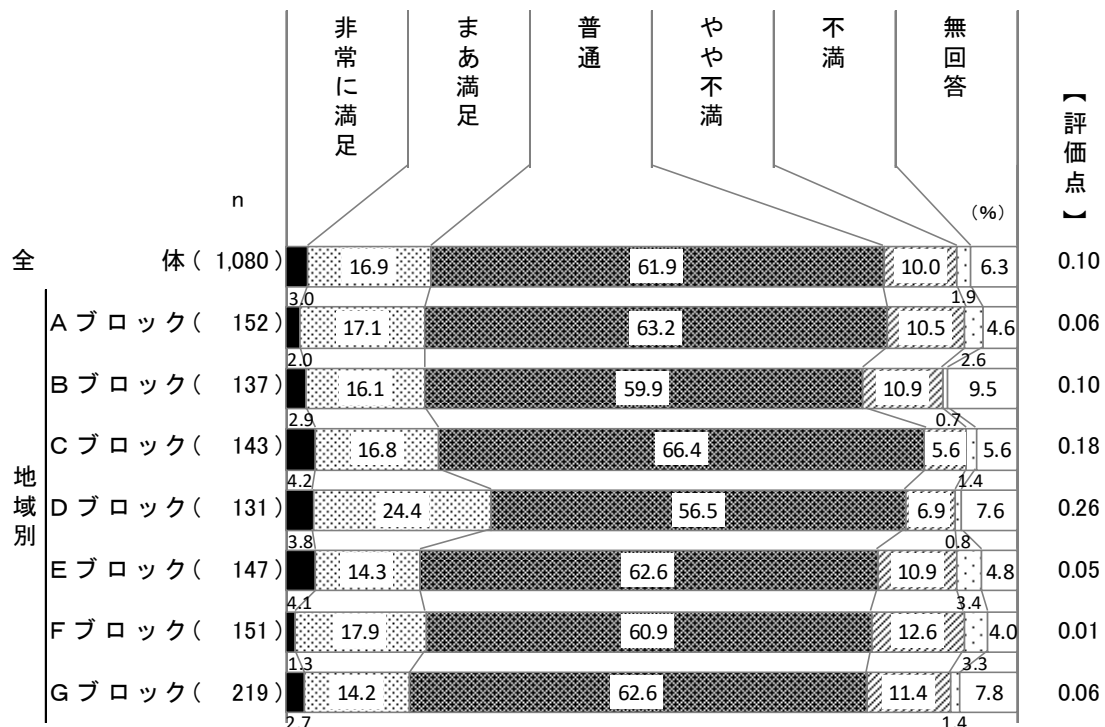
(オ) 公園や子どもの遊び場について地域別でみると、Cブロック (0.51) で最も評価点が高くなっている。一方、Bブロック (0.09) では最も評価点が低く、次いでEブロック (0.15)、Aブロック (0.20)、Fブロック (0.20) となっている。(図表2-7)

<図表2-7>地域の生活環境評価(オ)公園や子どもの遊び場/地域別



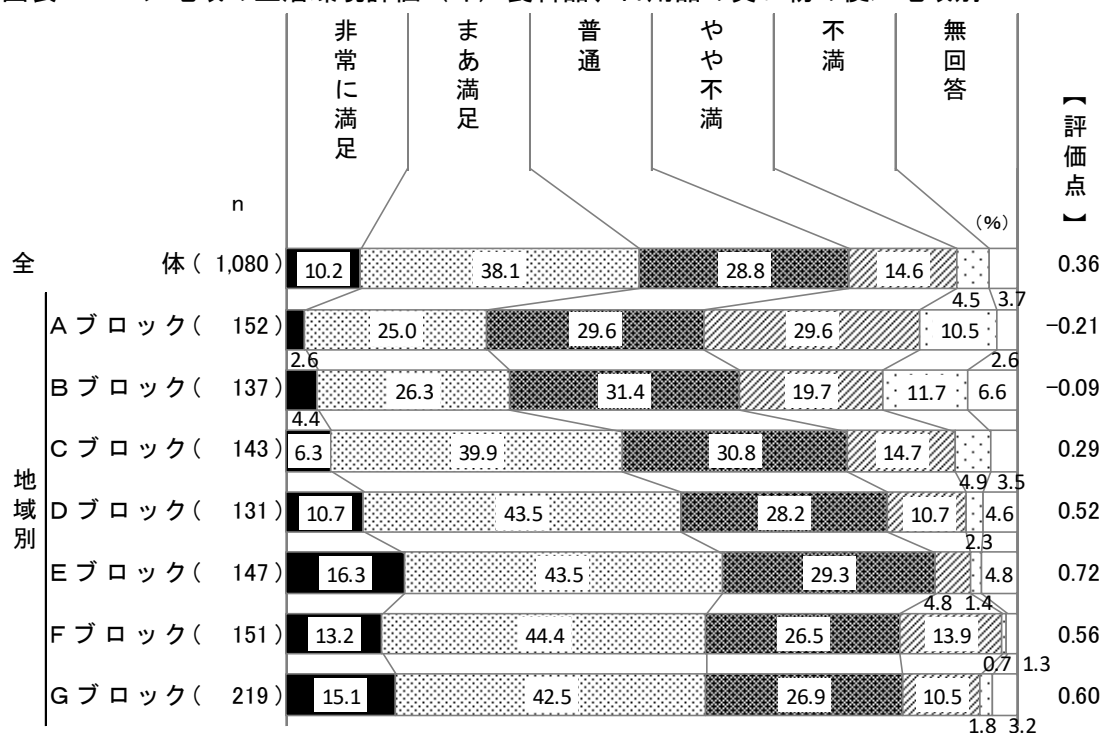
(カ) 子どもの教育環境について地域別でみると、Dブロック (0.26) で最も評価点が高くなっている。一方、Fブロック (0.01) では最も評価点が低くなっている。(図表2-8)

<図表2-8>地域の生活環境評価(カ)子どもの教育環境/地域別



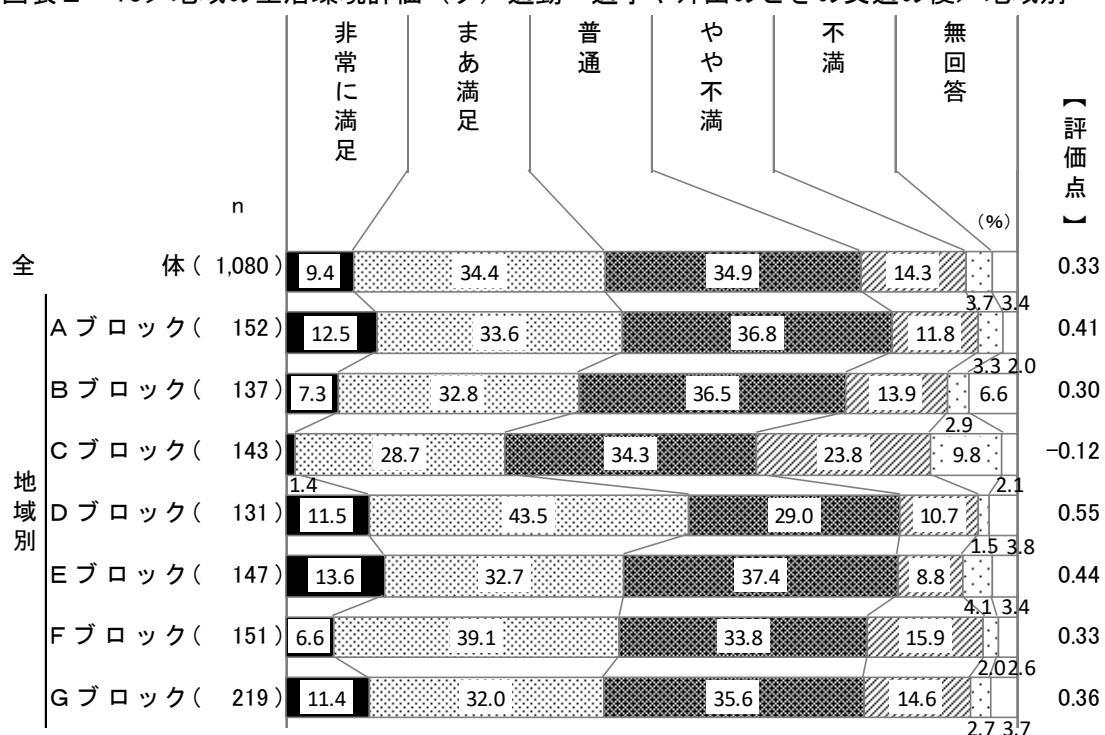
(キ) 食料品、日用品の買い物の便について地域別でみると、Eブロック (0.72) で最も評価点が高く、次いでGブロック (0.60)、Fブロック (0.56) となっている。一方、Aブロック (-0.21) とBブロック (-0.09) では評価点がマイナスとなっている。(図表2-9)

<図表2-9>地域の生活環境評価(キ) 食料品、日用品の買い物の便/地域別



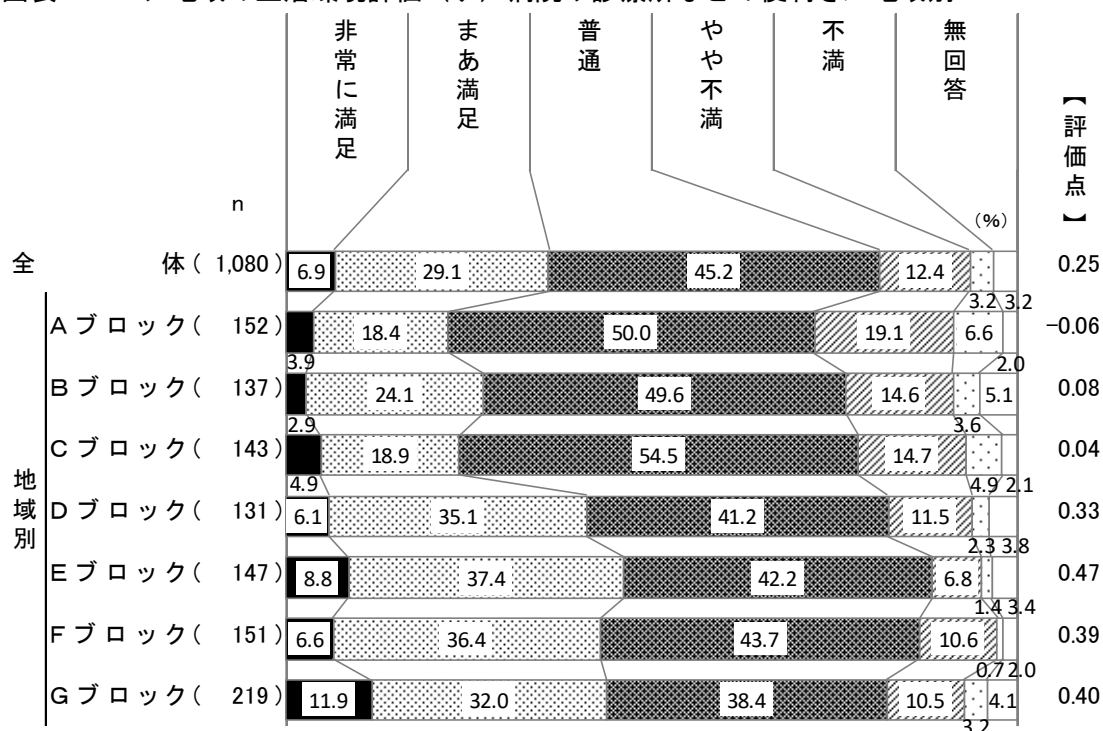
(ク) 通勤・通学や外出のときの交通の便について地域別でみると、Dブロック (0.55) で最も評価点が高く、次いでEブロック (0.44)、Aブロック (0.41) となっている。一方、Cブロック (-0.12) では評価点がマイナスとなっている。(図表2-10)

<図表2-10>地域の生活環境評価(ク) 通勤・通学や外出のときの交通の便/地域別



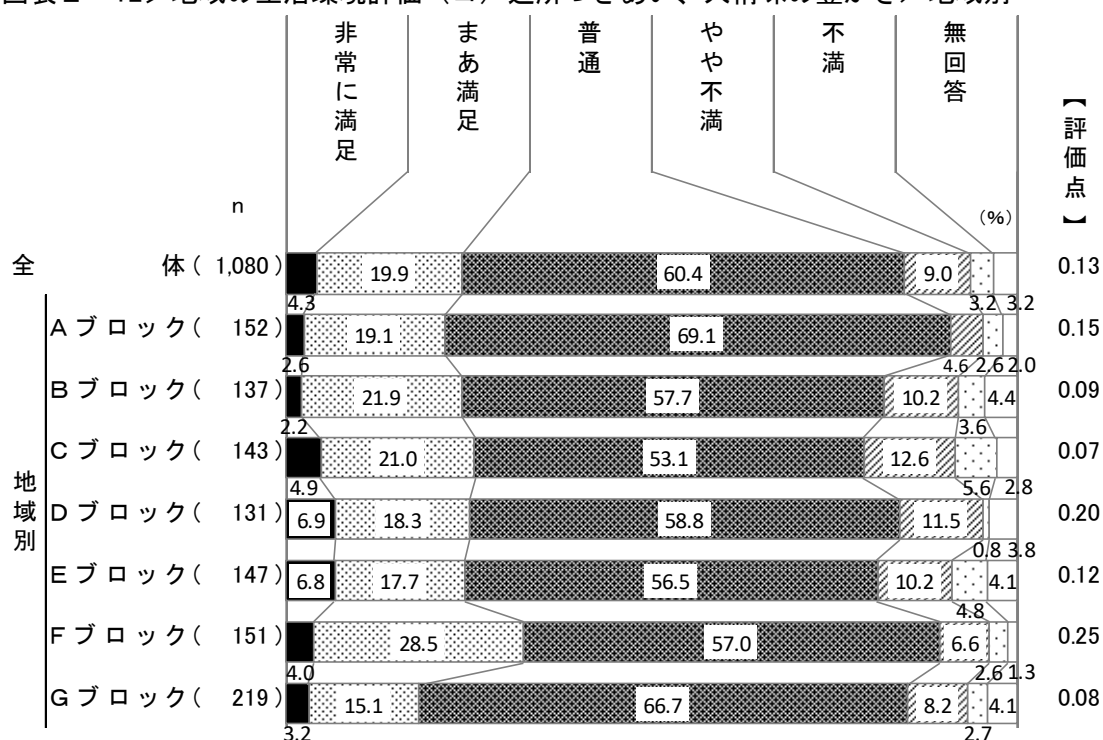
(ケ) 病院や診療所などの便利さについて地域別でみると、Eブロック (0.47) で最も評価点が高く、次いでGブロック (0.40) が高くなっている。一方、Aブロック (-0.06) では評価点がマイナスとなっている。(図表2-11)

<図表2-11>地域の生活環境評価(ケ) 病院や診療所などの便利さ/地域別



(コ) 近所づきあい、人情味の豊かさについて地域別でみると、Fブロック (0.25) で最も評価点が高く、次いでDブロック (0.20) が高くなっている。一方、Cブロック (0.07) では最も評価点が低くなっている。(図表2-12)

<図表2-12>地域の生活環境評価(コ) 近所づきあい、人情味の豊かさ/地域別

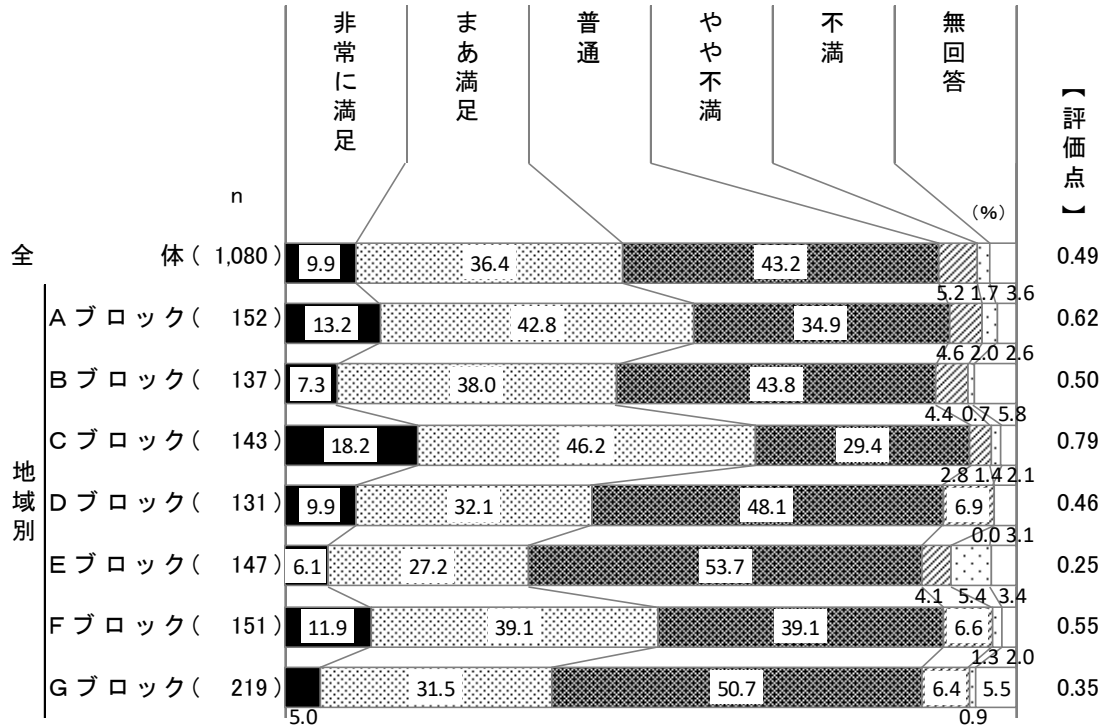




(サ) 緑や空気などの自然環境について地域別でみると、Cブロック (0.79) で最も評価点が高く、次いでAブロック (0.62)、Fブロック (0.55) となっている。一方、Eブロック (0.25) では最も評価点が低く、次いでGブロック (0.35)、Dブロック (0.46) となっている。

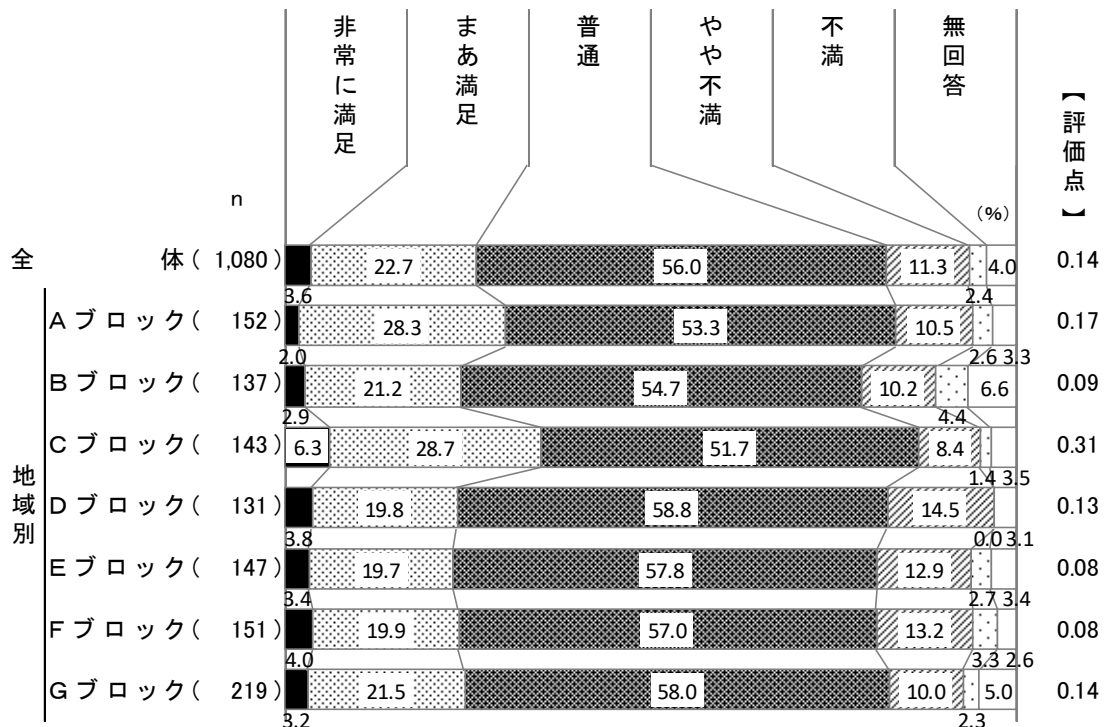
(図表 2-13)

<図表 2-13>地域の生活環境評価 (サ) 緑や空気などの自然環境/地域別



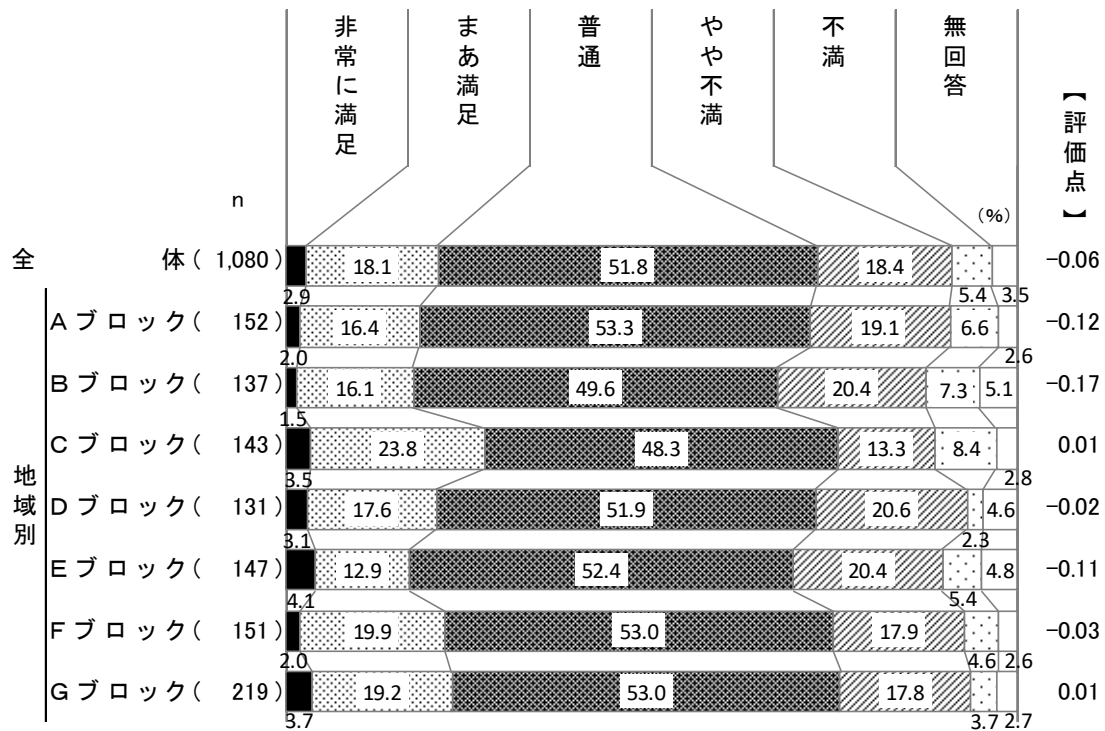
(シ) スポーツや文化活動をする施設について地域別でみると、Cブロック (0.31) で最も評価点が高く、次いでAブロック (0.17) が高くなっている。(図表 2-14)

<図表 2-14>地域の生活環境評価 (シ) スポーツや文化活動をする施設/地域別



(ス) 老後の生活を送る場としてについて地域別でみると、Cブロック (0.01) とGブロック (0.01) で最も評価点が高くなっている。一方、CブロックとGブロック以外ではいずれも評価点がマイナスとなっており、Bブロック (-0.17) では最も評価点が低くなっている。(図表2-15)

<図表2-15>地域の生活環境評価(ス) 老後の生活を送る場として/地域別

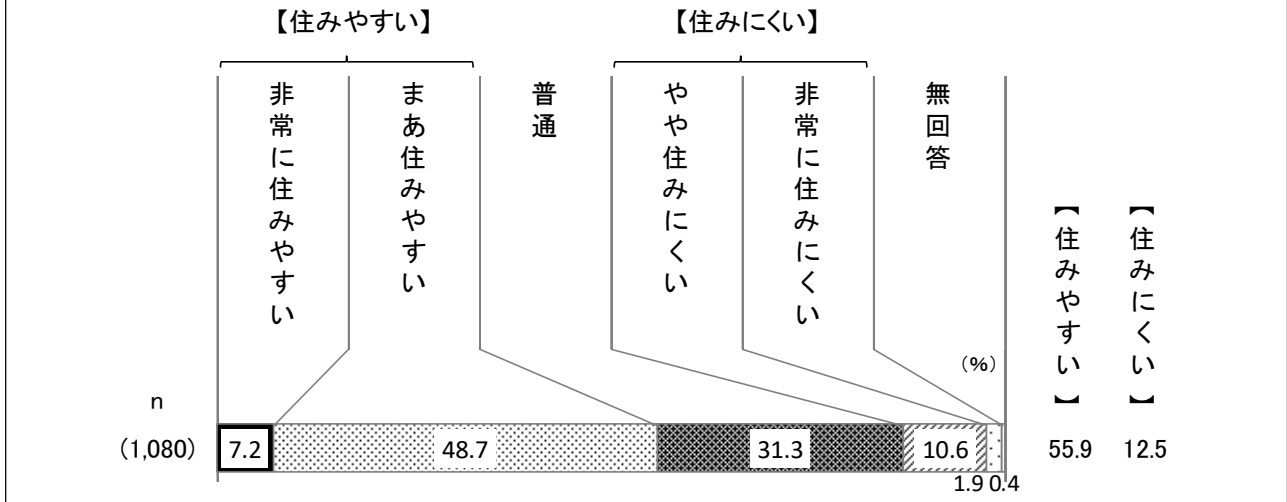


(2) 総合評価

◇【住みやすい】が5割台半ば

問4 一口に言って、福生市は住みよい所だと思いますか。それとも住みにくい所だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

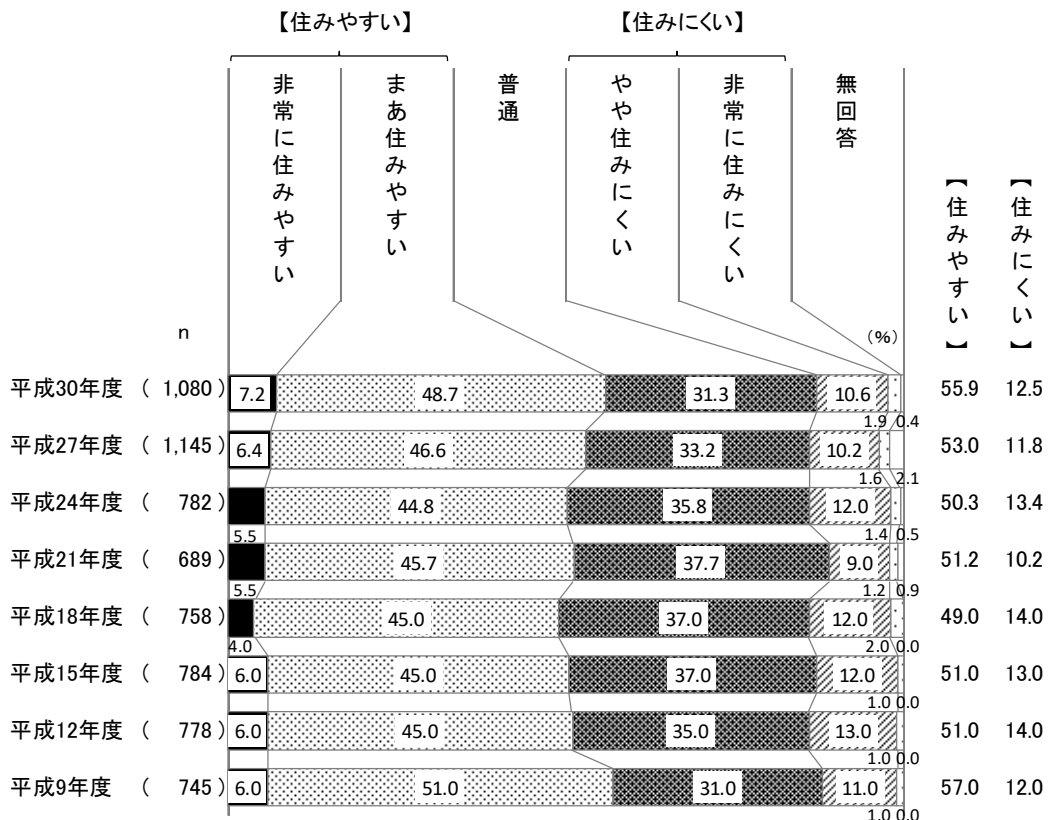
<図表2-16>総合評価



生活環境の総合評価を聞いたところ、「非常に住みやすい」(7.2%)と「まあ住みやすい」(48.7%)の2つを合わせた【住みやすい】(55.9%)が5割台半ばと高くなっている。「普通」(31.3%)は3割強となっており、「やや住みにくい」(10.6%)と「非常に住みにくい」(1.9%)の2つを合わせた【住みにくい】(12.5%)は1割強となっている。(図表2-16)

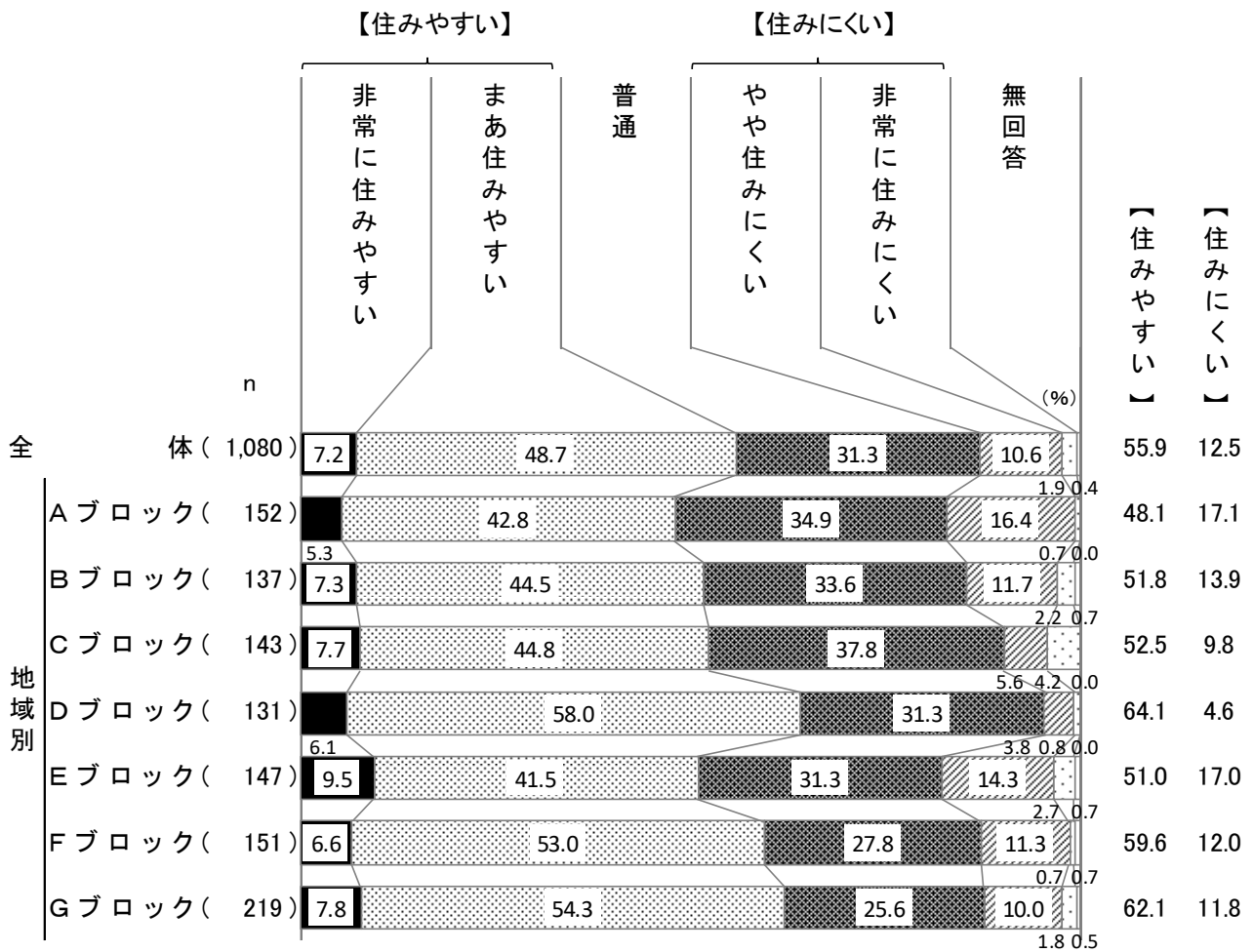
過年度の調査結果の推移をみると、【住みやすい】は平成27年度と比べて2.9ポイント増加している。(図表2-17)

<図表2-17>総合評価/過年度推移



地域別でみると、【住みやすい】はDブロック（64.1%）で6割台半ばと高くなっている。一方、【住みにくい】はAブロック（17.1%）で2割弱となっている。（図表2-18）

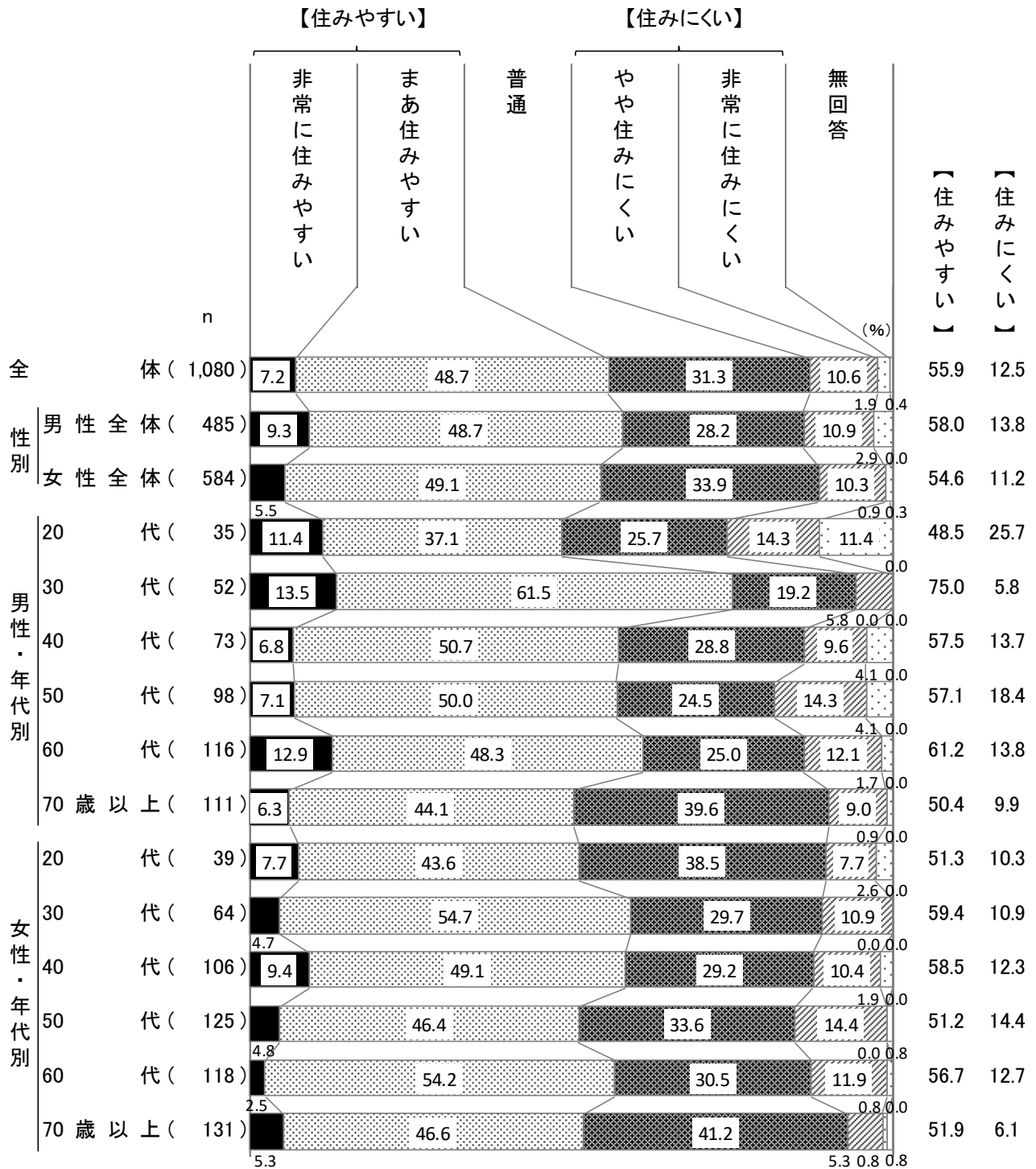
<図表2-18>総合評価／地域別



性別で見ると、【住みやすい】は男性（58.0%）が女性（54.6%）より3.4ポイント高くなっている。

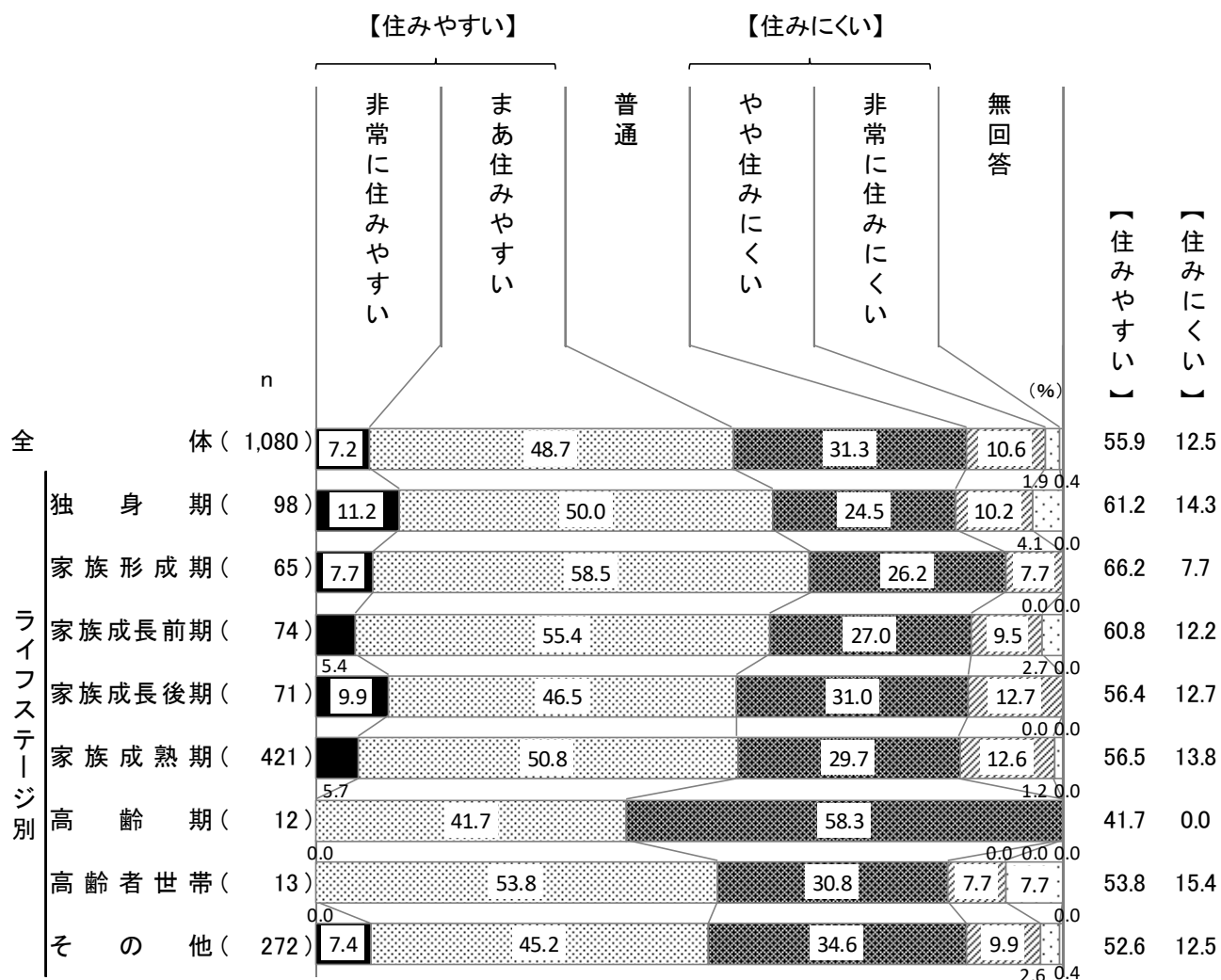
性・年代別で見ると、【住みやすい】は男性30代（75.0%）で7割台半ばと高くなっている。一方、【住みにくい】は男性20代（25.7%）で2割台半ばと最も高くなっている。（図表2-19）

＜図表2-19＞総合評価／性別、性・年代別



ライフステージ別でみると、【住みやすい】は独身期（61.2%）と家族形成期（66.2%）、家族成長前期（60.8%）で6割以上と高くなっている。一方、その他（52.6%）では5割強と低くなっている。（図表2-20）

＜図表2-20＞総合評価／ライフステージ別



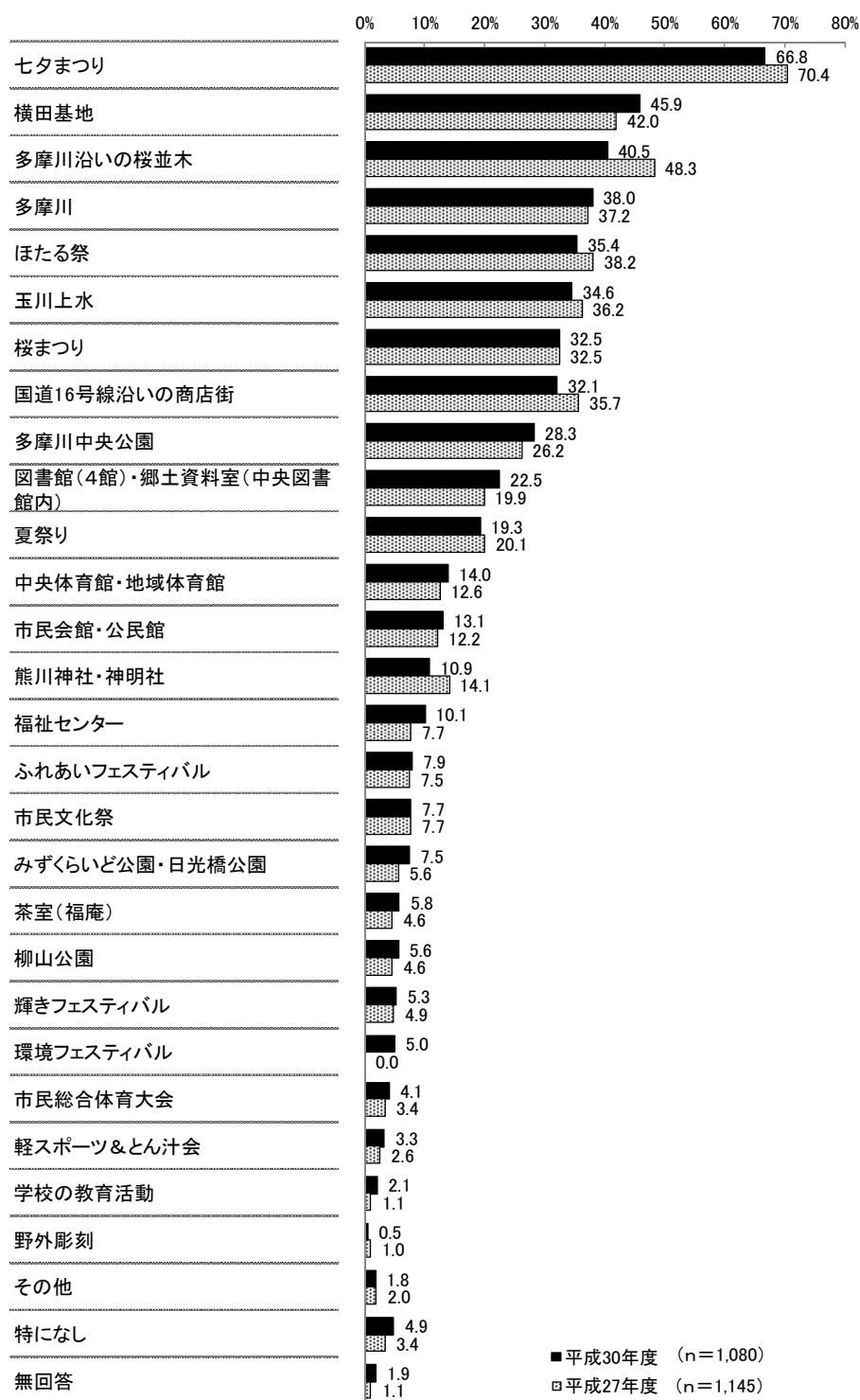
### 3. 福生市の魅力と将来像

#### (1) 福生市の魅力

◇「七夕まつり」が7割弱

問5 福生市内の施設や行事の中で、あなたが福生市らしい魅力を感じるものはどれですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

<図表3-1>福生市の魅力



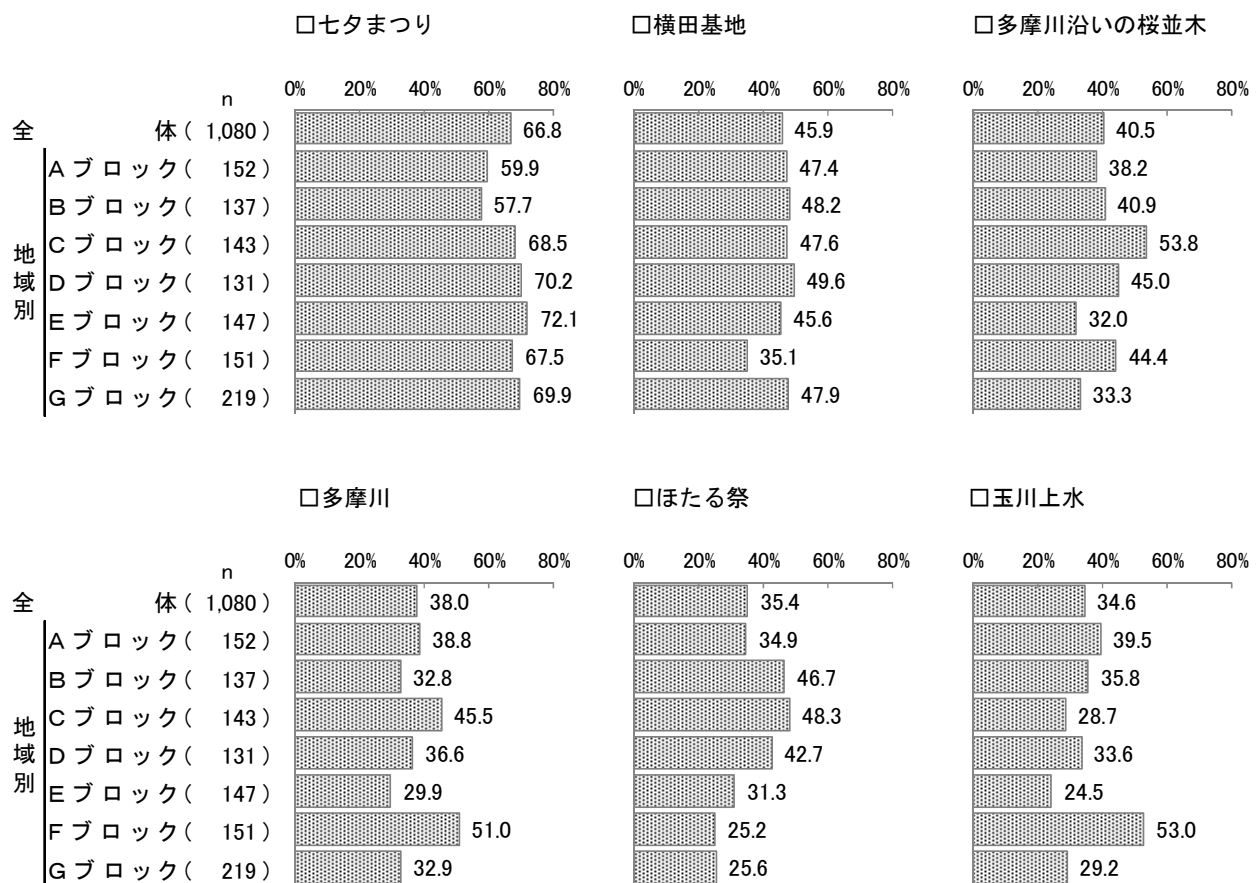
福生市内の施設や行事の中で、福生市らしい魅力を感じるものを聞いたところ、「七夕まつり」(66.8%)が7割弱で最も高く、次いで「横田基地」(45.9%)、「多摩川沿いの桜並木」(40.5%)、「多摩川」(38.0%)、「ほたる祭」(35.4%)となっている。(図表3-1)

前回の調査結果と比較すると、「横田基地」は3.9ポイント増加している。一方、「多摩川沿いの桜並木」は7.8ポイント減少している。(図表3-1)

上位6項目について地域別でみると、「七夕まつり」はEブロック(72.1%)で7割強と高くなっている。「横田基地」はDブロック(49.6%)で約5割と高くなっている。「多摩川沿いの桜並木」はCブロック(53.8%)で5割強と高くなっている。「多摩川」はFブロック(51.0%)で5割強と高くなっている。「ほたる祭」はCブロック(48.3%)で5割弱と高くなっている。

(図表3-2)

<図表3-2>福生市の魅力/地域別(上位6項目)

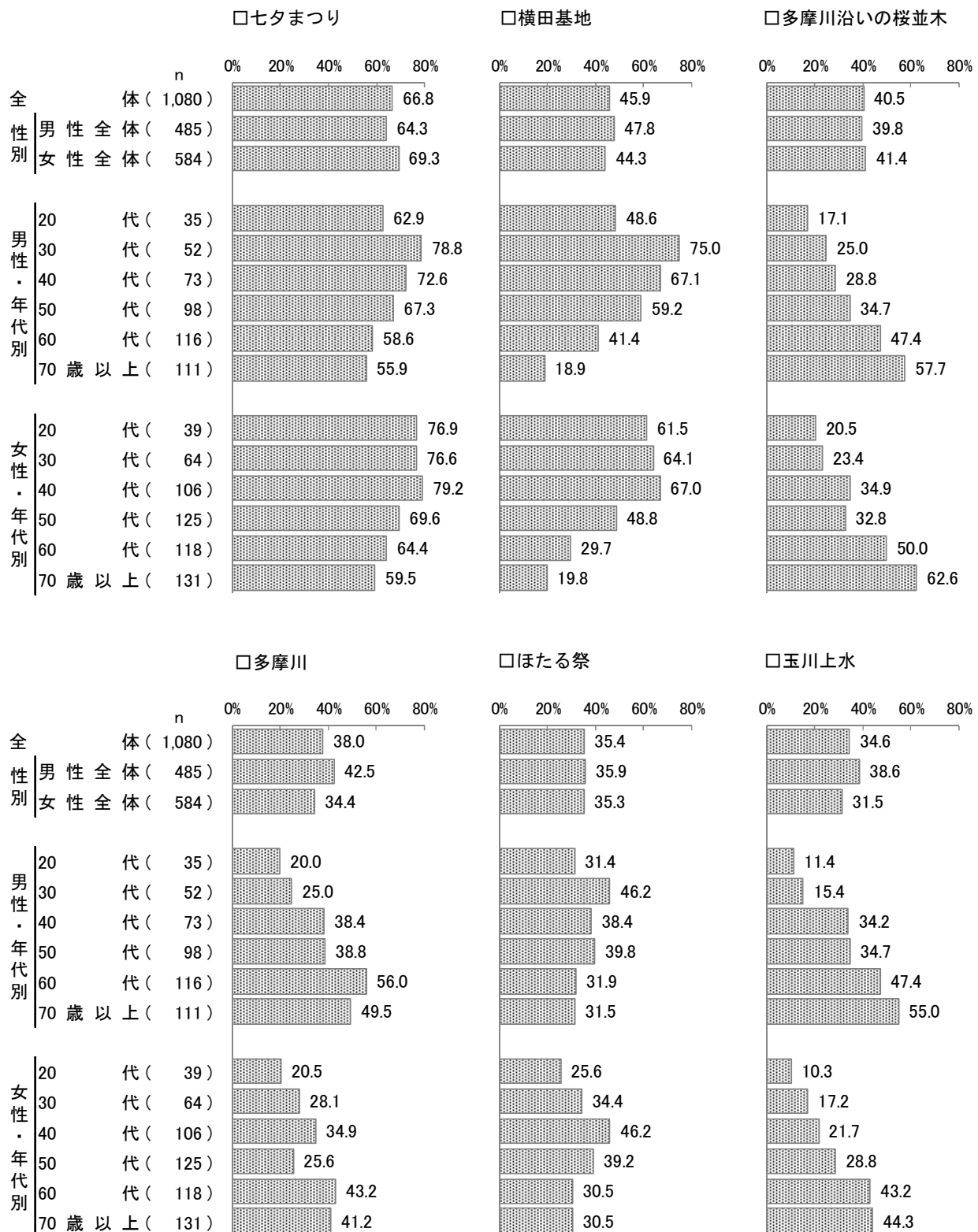




上位6項目について性別でみると、「多摩川」は男性（42.5%）が女性（34.4%）より8.1ポイント高くなっている。「七夕まつり」は女性（69.3%）が男性（64.3%）より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「七夕まつり」は男性30代（78.8%）で8割弱、女性40代（79.2%）で約8割と高くなっている。「横田基地」は男性30代（75.0%）で7割台半ばと高くなっている。「多摩川沿いの桜並木」は女性70歳以上（62.6%）で6割強と高くなっている。（図表3-3）

<図表3-3>福生市の魅力／性別、性・年代別（上位6項目）

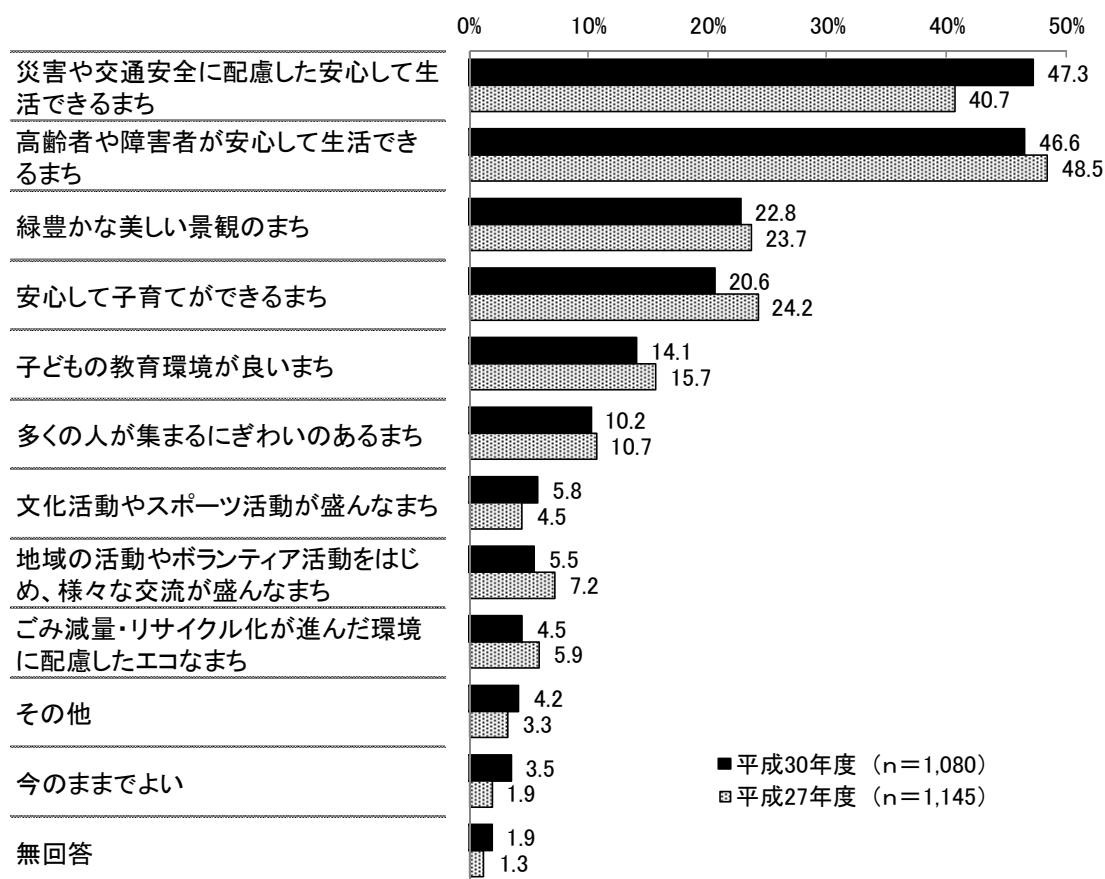


## (2) 福生市の将来像

◇「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」が5割弱

問6 将来の福生市はどのようなまちであってほしいと思いますか。あなたが希望するまちを次の中から2つまで選んでください。(〇は2つまで)

＜図表3-4＞福生市の将来像



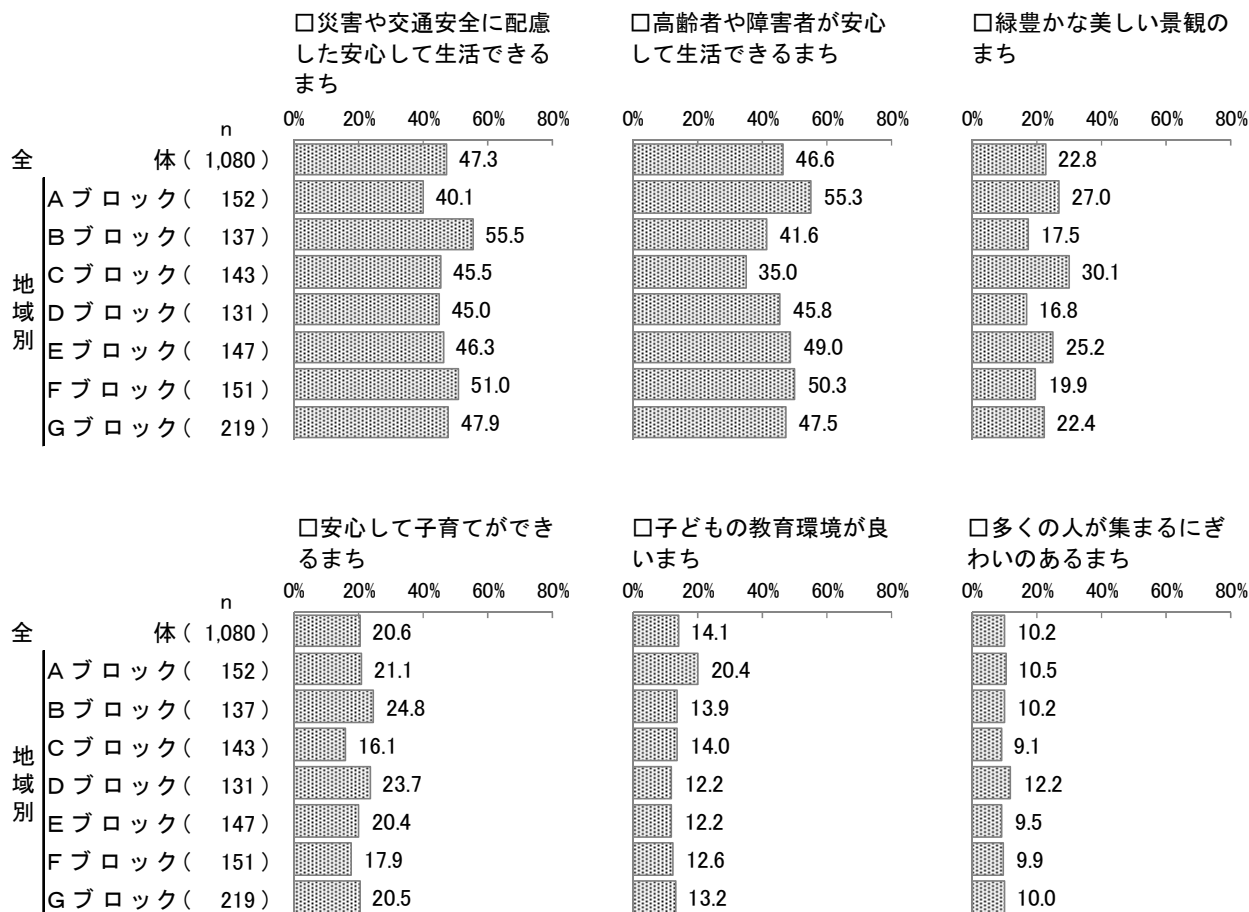
将来の福生市はどのようなまちであってほしいか聞いたところ、「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」(47.3%)が5割弱で最も高く、次いで「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」(46.6%)、「緑豊かな美しい景観のまち」(22.8%)、「安心して子育てができるまち」(20.6%)、「子どもの教育環境が良いまち」(14.1%)となっている。(図表3-4)

前回の調査結果と比較すると、「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」は6.6ポイント増加している。一方、「安心して子育てができるまち」は3.6ポイント減少している。

(図表3-4)

上位6項目について地域別でみると、「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」はBブロック（55.5%）とFブロック（51.0%）で5割以上と高くなっている。「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」はAブロック（55.3%）とFブロック（50.3%）で5割以上と高くなっている。「緑豊かな美しい景観のまち」はCブロック（30.1%）で約3割と高くなっている。「安心して子育てができるまち」はBブロック（24.8%）で2割台半ばと高くなっている。（図表3-5）

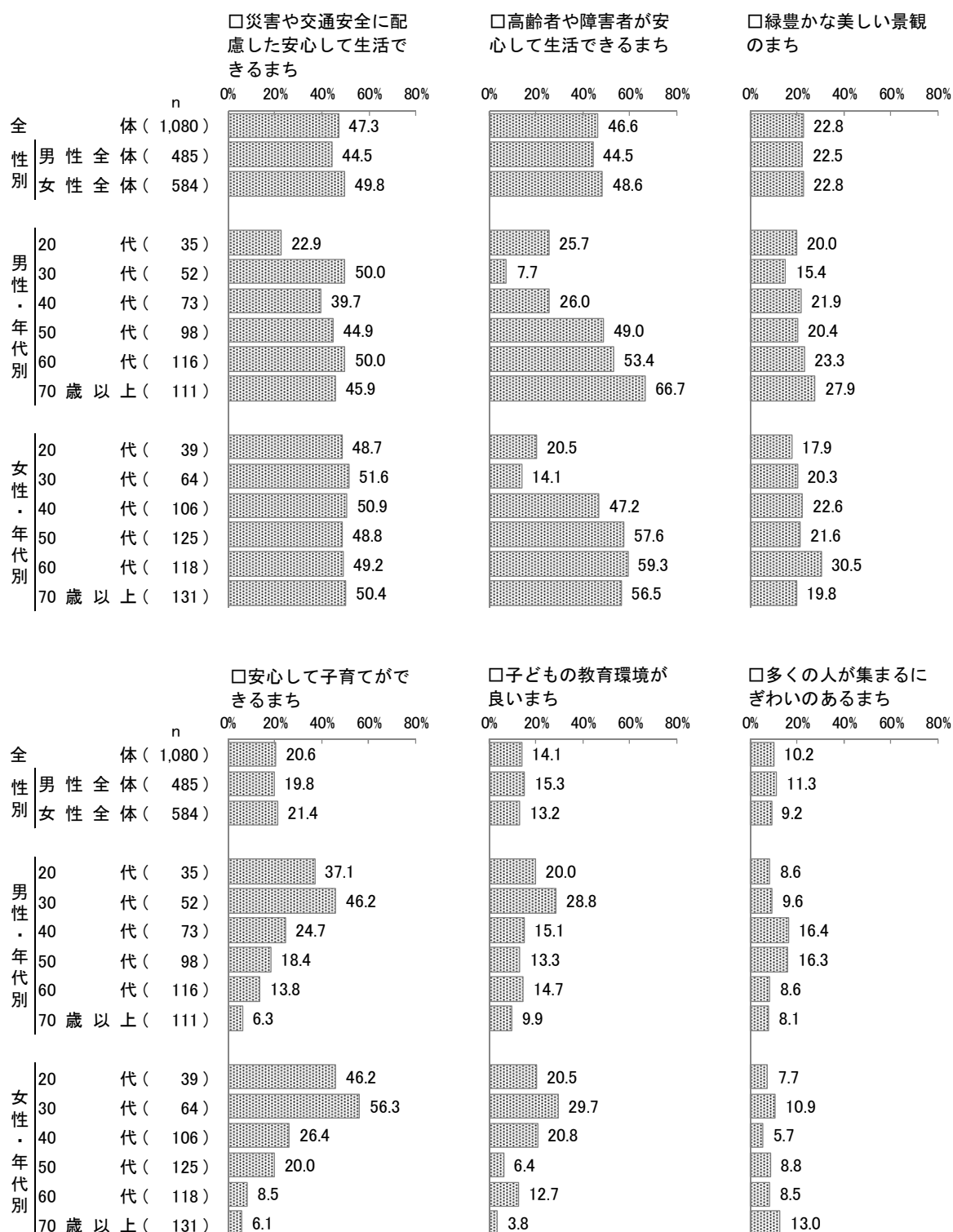
＜図表3-5＞福生市の将来像／地域別（上位6項目）



上位6項目について性別でみると、「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」は女性（49.8%）が男性（44.5%）より5.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」は男性30代（50.0%）・男性60代（50.0%）と女性30代（51.6%）・女性40代（50.9%）・女性70歳以上（50.4%）で5割以上と高くなっている。「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」は男性70歳以上（66.7%）で7割弱、女性60代（59.3%）で約6割と高くなっている。「緑豊かな美しい景観のまち」は女性60代（30.5%）で約3割と高くなっている。「安心して子育てができるまち」は女性30代（56.3%）で6割弱と高くなっている。（図表3-6）

<図表3-6> 福生市の将来像／性別、性・年代別（上位6項目）

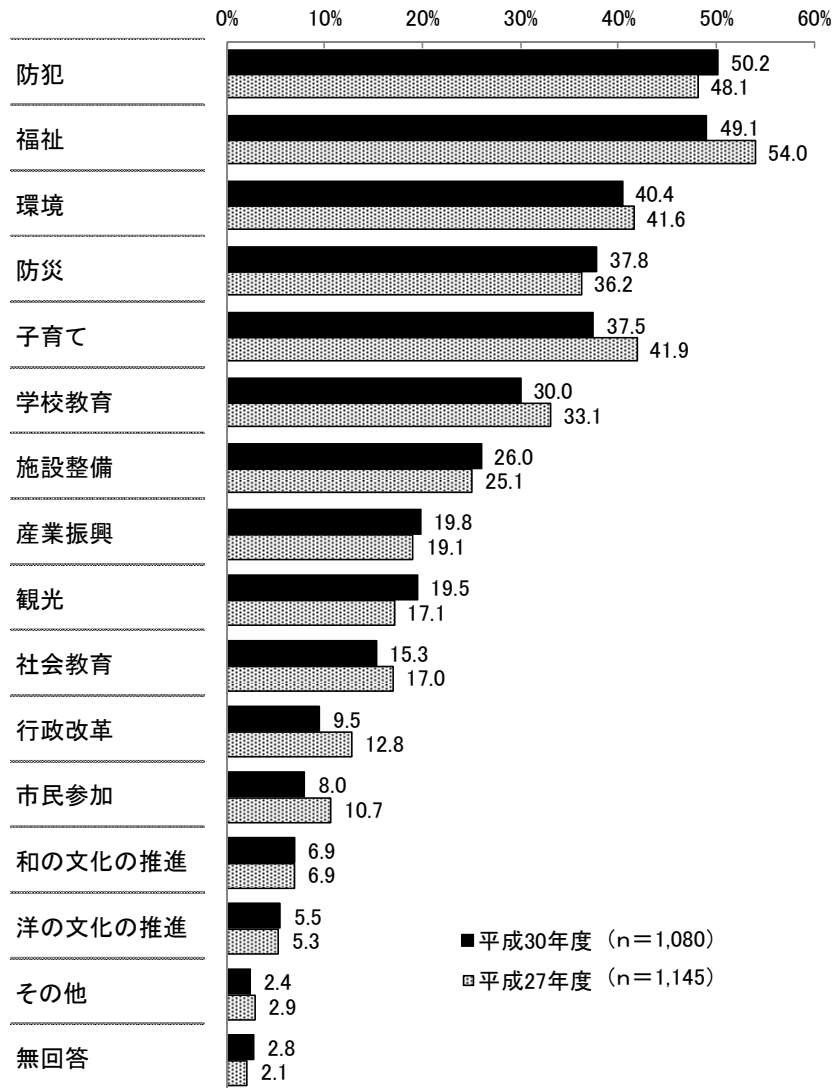


(3) まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野

◇「防犯」が約5割

問7 まちの魅力を高めるためには、どの分野に重点をおくべきでしょうか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

<図表3-7>まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野

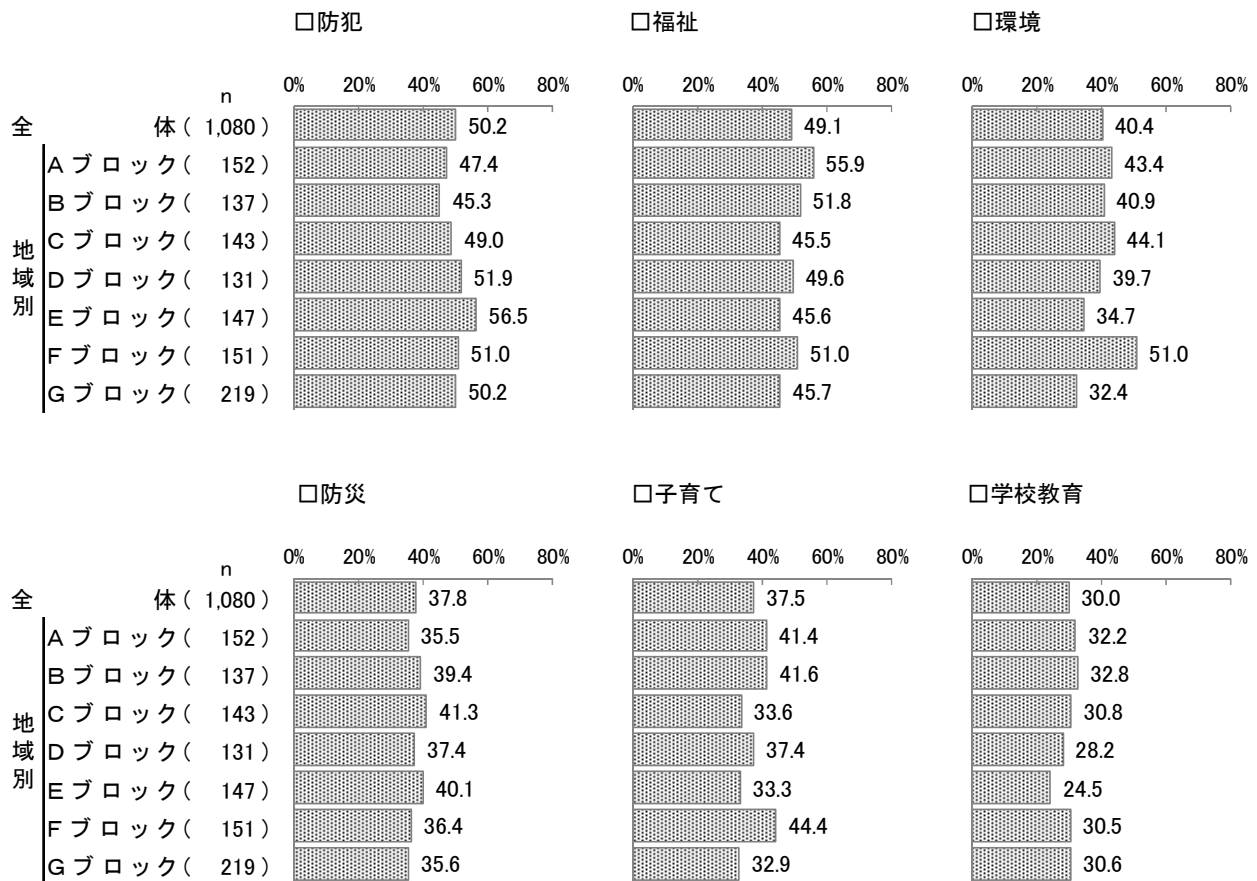


まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野を聞いたところ、「防犯」(50.2%)が約5割で最も高く、次いで「福祉」(49.1%)、「環境」(40.4%)、「防災」(37.8%)、「子育て」(37.5%)となっている。(図表3-7)

前回の調査結果と比較すると、「観光」は2.4ポイント増加している。一方、「福祉」は4.9ポイント減少している。(図表3-7)

上位6項目について地域別でみると、「防犯」はEブロック（56.5%）で6割弱と高くなっている。「福祉」はAブロック（55.9%）で5割台半ばと高くなっている。「環境」はFブロック（51.0%）で5割強と高くなっている。（図表3-8）

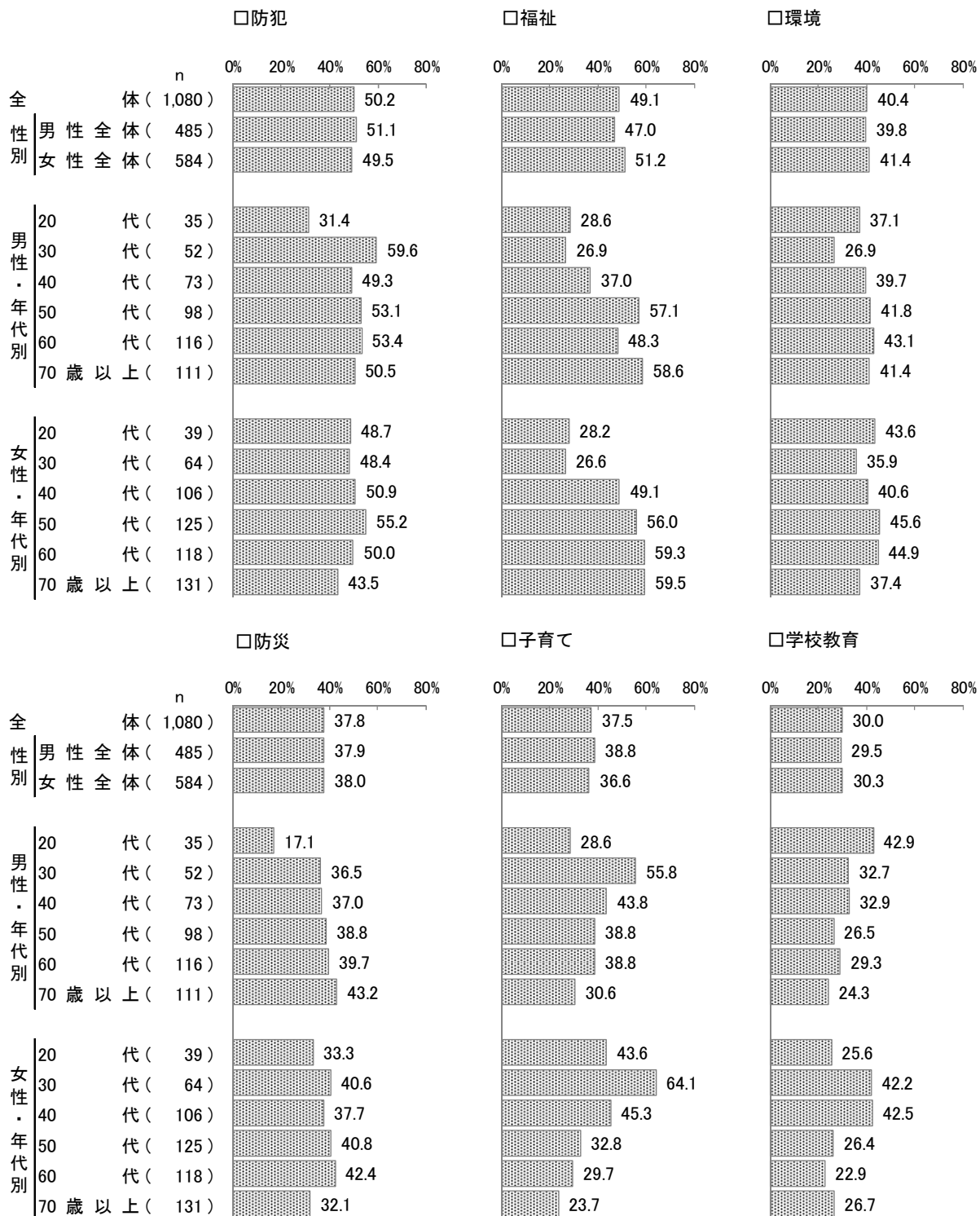
＜図表3-8＞まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野／地域別（上位6項目）



上位6項目について性別でみると、「福祉」は女性（51.2%）が男性（47.0%）より4.2ポイント高く、「子育て」は男性（38.8%）が女性（36.6%）より2.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「防犯」は男性30代（59.6%）で約6割、女性50代（55.2%）で5割台半ばと高くなっている。「福祉」は男性70歳以上（58.6%）で6割弱、女性70歳以上（59.5%）・女性60代（59.3%）で約6割と高くなっている。「環境」は女性50代（45.6%）・女性60代（44.9%）で4割台半ばと高くなっている。「防災」は男性70歳以上（43.2%）、女性30代（40.6%）・女性50代（40.8%）・女性60代（42.4%）で4割以上と高くなっている。「子育て」は女性30代（64.1%）で6割台半ばと高くなっている。（図表3-9）

<図表3-9>まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野／性別、性・年代別（上位6項目）



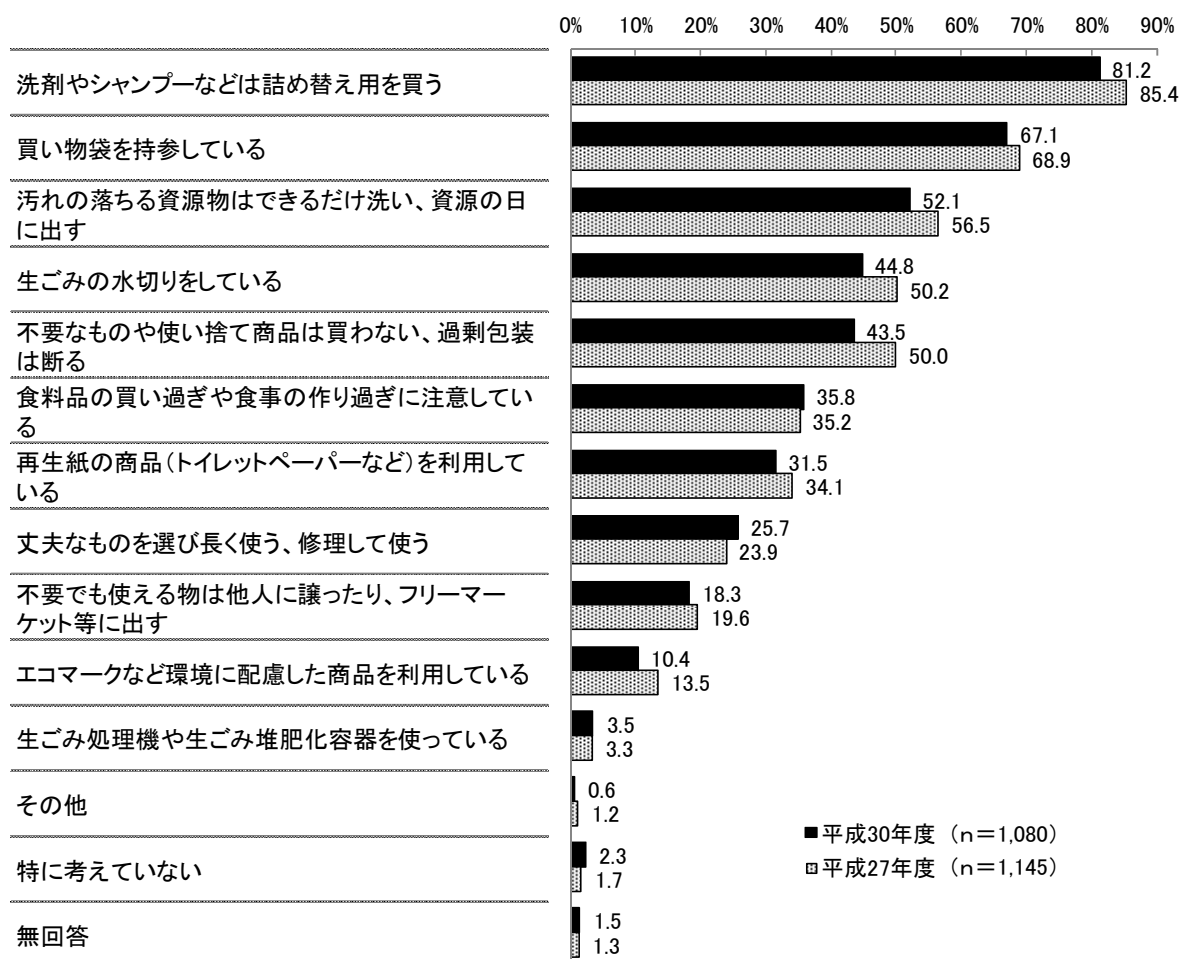
## 4. 環境問題

### (1) ごみ減量やリサイクルのために心がけていること

◇「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」が8割強

問8 あなたがごみ減量やリサイクルを進める上で、日常心がけていることは何ですか。  
次の中からあてはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

<図表4-1>ごみ減量やリサイクルのために心がけていること



ごみ減量やリサイクルのために心がけていることを聞いたところ、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」(81.2%)が8割強で最も高く、次いで「買い物袋を持参している」(67.1%)、「汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源の日に出す」(52.1%)、「生ごみの水切りをしている」(44.8%)、「不要なものや使い捨て商品は買わない、過剰包装は断る」(43.5%)となっている。

(図表4-1)

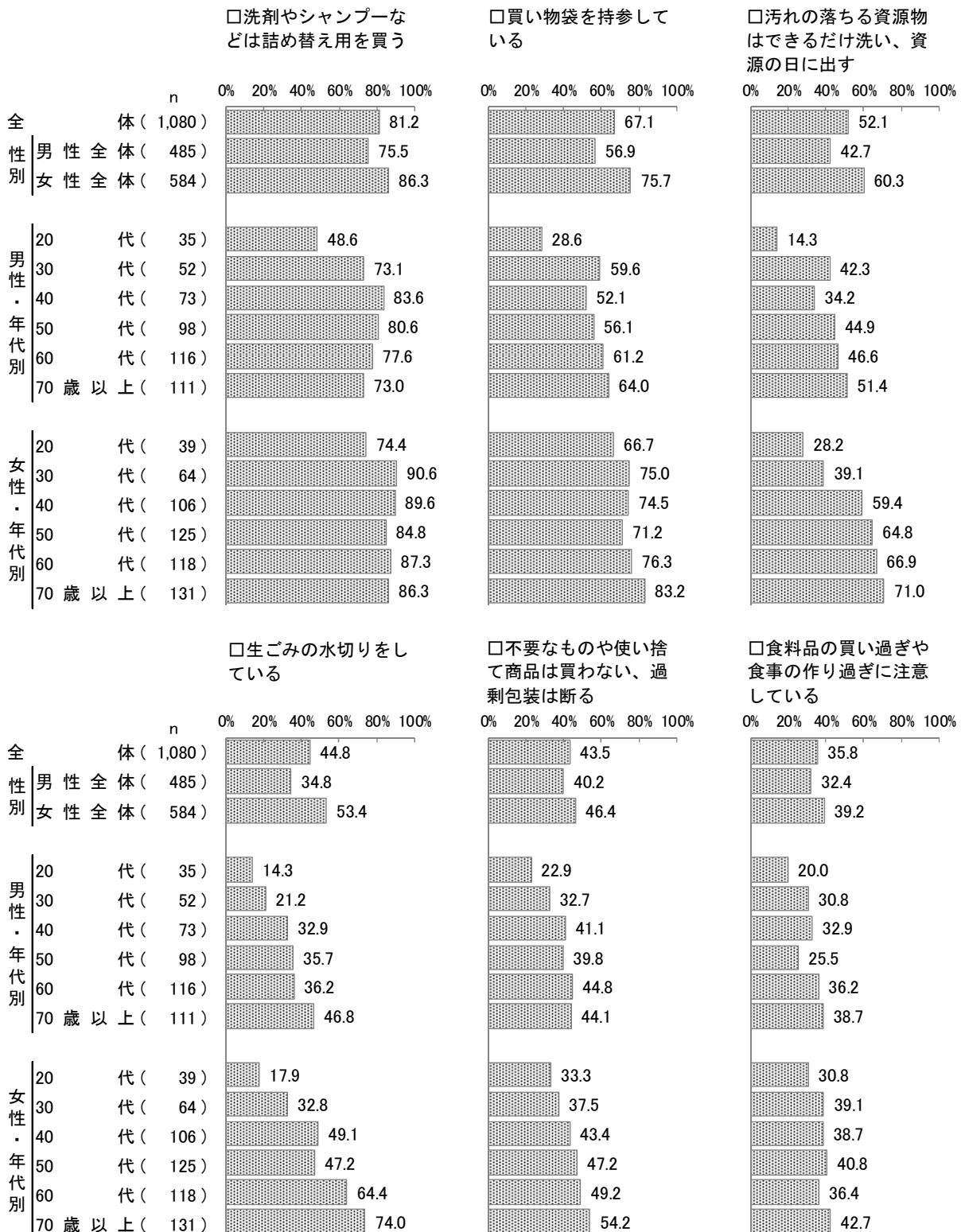
前回の調査結果と比較すると、「丈夫なものを選び長く使う、修理して使う」は1.8ポイント増加している。一方、「不要なものや使い捨て商品は買わない、過剰包装は断る」は6.5ポイント減少している。(図表4-1)



上位6項目について性別でみると、6項目すべてで女性が男性を上回っており、特に「買い物袋を持参している」は18.8ポイント、「汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源の日に出す」は17.6ポイント、「生ごみの水切りをしている」は18.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」は女性の30代以上の年代でいずれも8割以上と高くなっている。「買い物袋を持参している」は女性の30代以上の年代でいずれも7割以上と高くなっている。「生ごみの水切りをしている」は女性70歳以上（74.0%）で7割強と高くなっている。（図表4-2）

＜図表4-2＞ごみ減量やりサイクルのために心がけていること／性別、性・年代別（上位6項目）

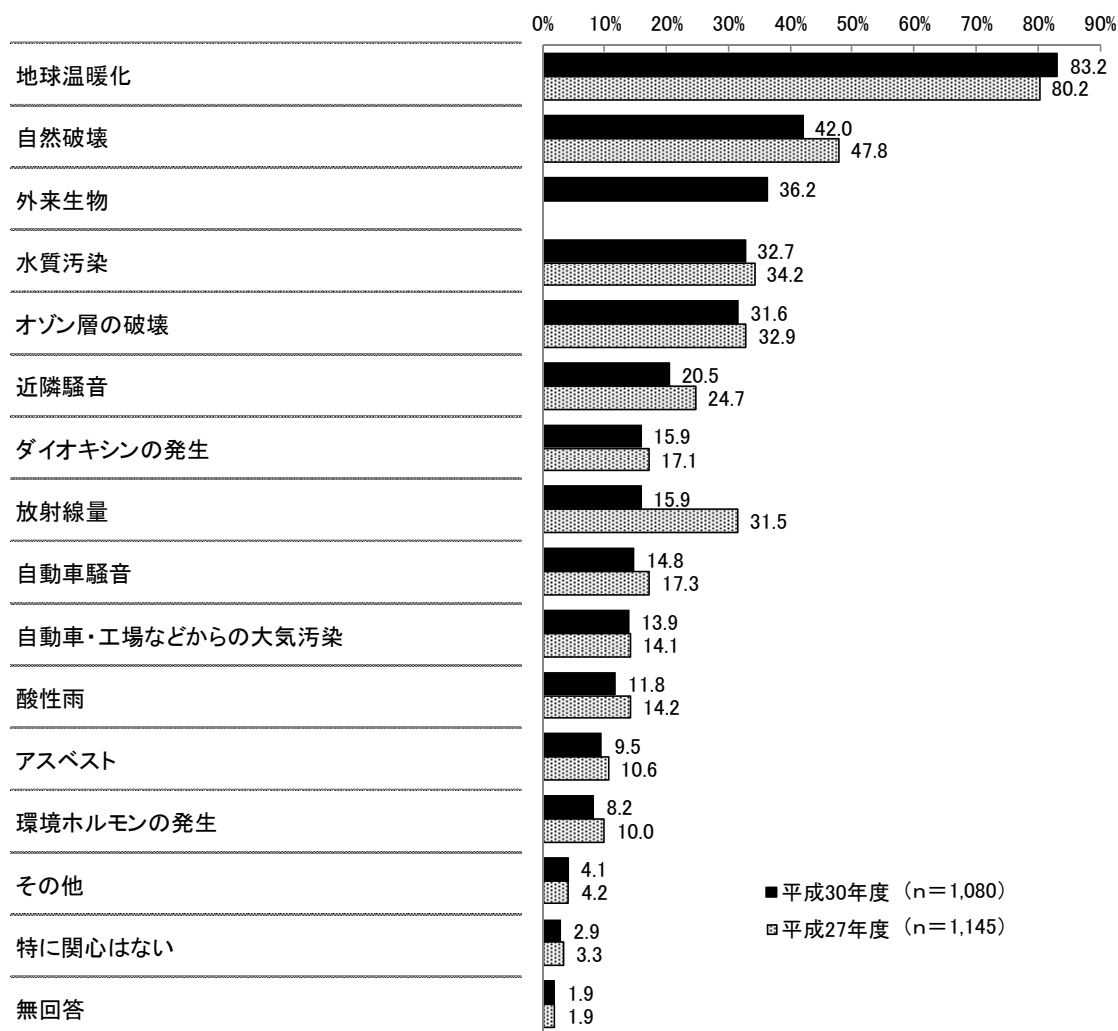


## (2) 関心のある環境問題

◇「地球温暖化」が8割強

問9 あなたは環境問題について、最近どのような事柄に関心がありますか。関心のあるものを次の中から全て選んでください。(〇はいくつでも)

＜図表4-3＞関心のある環境問題



(注)「外来生物」は、今回調査で追加した選択肢である。

関心のある環境問題を聞いたところ、「地球温暖化」(83.2%)が8割強で最も高く、次いで「自然破壊」(42.0%)、「外来生物」(36.2%)、「水質汚染」(32.7%)、「オゾン層の破壊」(31.6%)、「近隣騒音」(20.5%)となっている。(図表4-3)

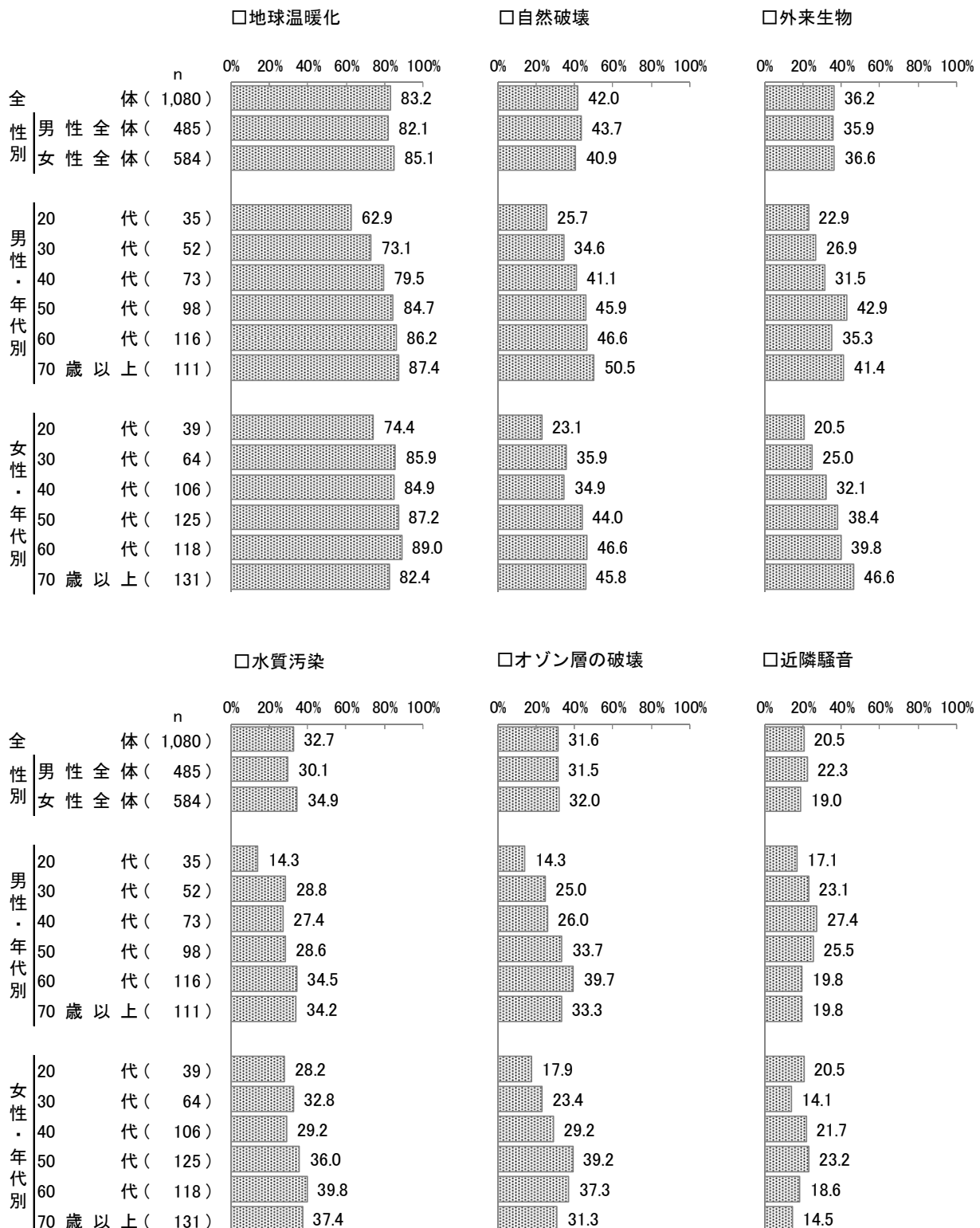
前回の調査結果と比較すると、「地球温暖化」は3.0ポイント増加している。一方、「放射線量」は15.6ポイント減少している。(図表4-3)

上位6項目について性別でみると、「水質汚染」は女性（34.9%）が男性（30.1%）より4.8ポイント高くなっている。「地球温暖化」は女性（85.1%）が男性（82.1%）より3.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「地球温暖化」は女性60代（89.0%）で約9割と高くなっている。「自然破壊」は男性70歳以上（50.5%）で約5割と高くなっている。「外来生物」は女性70歳以上（46.6%）で5割弱と高くなっている。「水質汚染」は女性60代（39.8%）で約4割と高くなっている。

（図表4-4）

＜図表4-4＞関心のある環境問題／性別、性・年代別（上位6項目）



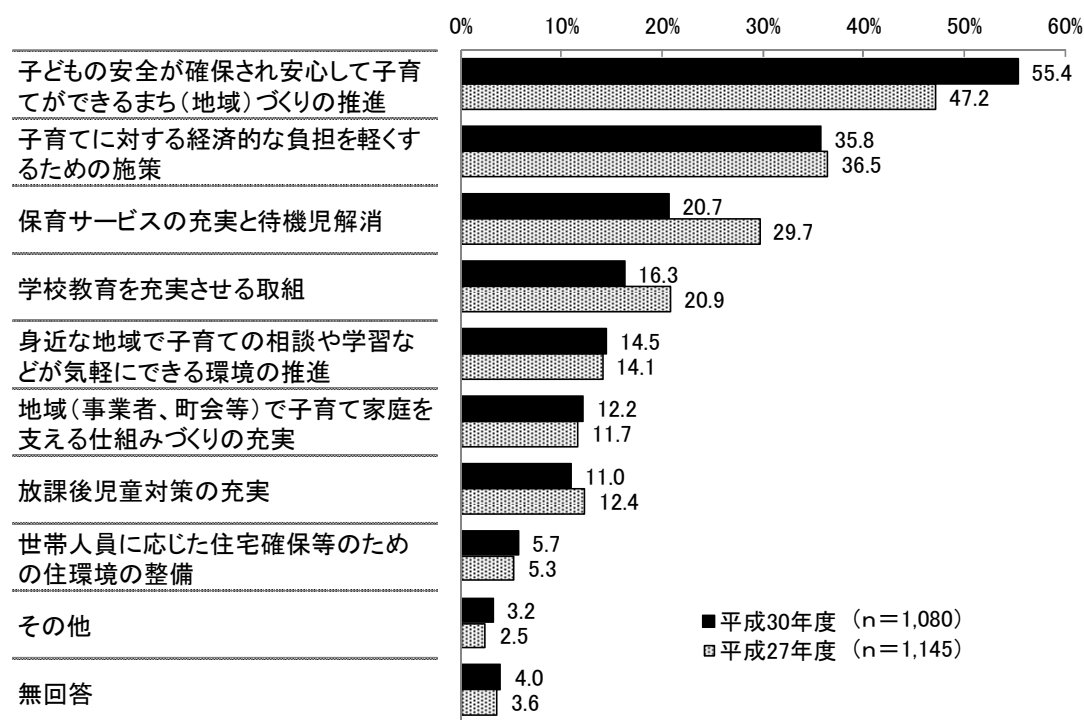
## 5. 福祉社会

### (1) 子育てに必要な施策

◇「子どもの安全が確保され安心して子育てができるまち（地域）づくりの推進」が5割台半ば

問10 「子育てするならふっさ」と実感できる社会環境づくりのためには、どのような施策が必要だと思いますか。次の中から2つまで選んでください。（○は2つまで）

<図表5-1>子育てに必要な施策

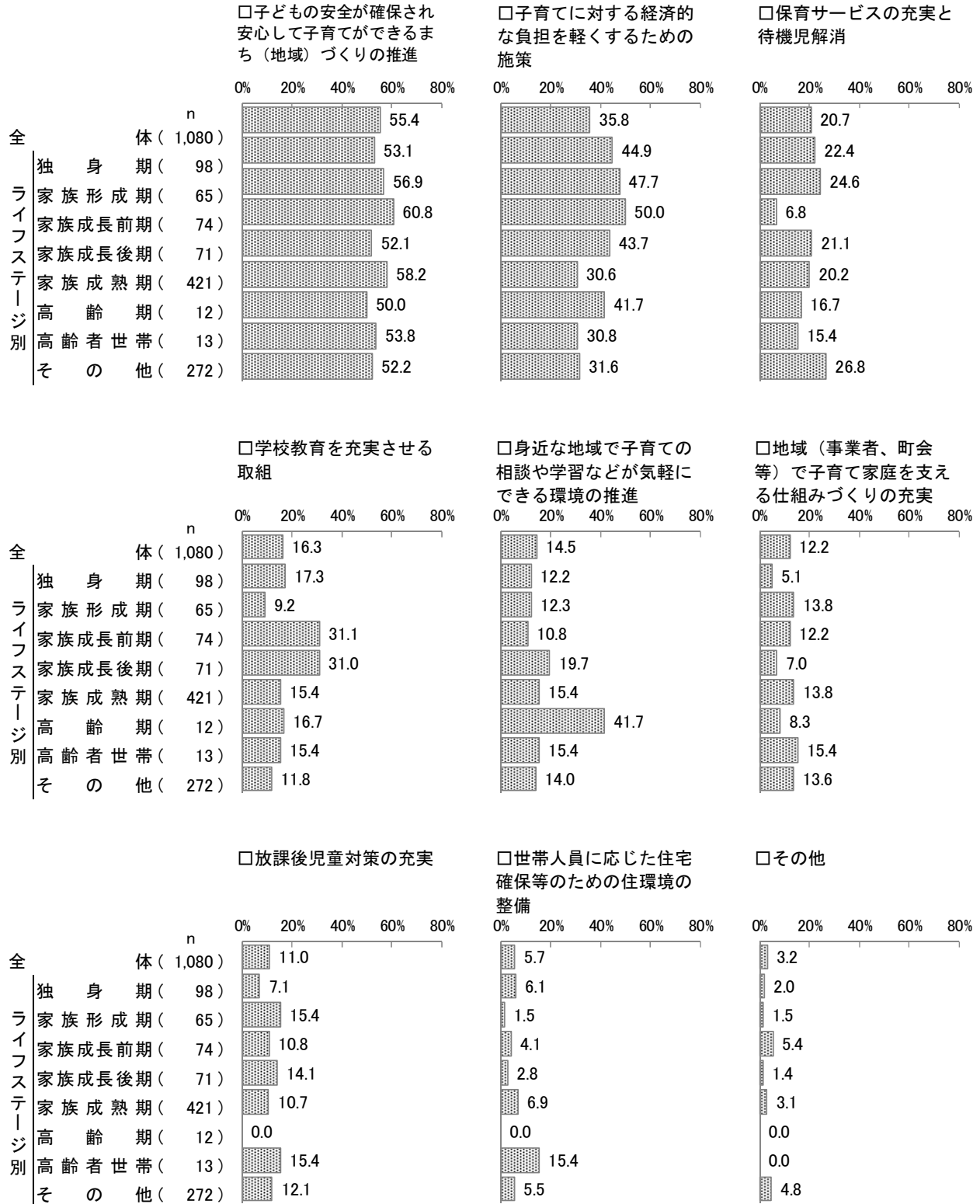


子育てに必要な施策を聞いたところ、「子どもの安全が確保され安心して子育てができるまち（地域）づくりの推進」（55.4%）が5割台半ばで最も高く、次いで「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」（35.8%）、「保育サービスの充実と待機児解消」（20.7%）、「学校教育を充実させる取組」（16.3%）、「身近な地域で子育ての相談や学習などが気軽にできる環境の推進」（14.5%）となっている。（図表5-1）

前回の調査結果と比較すると、「子どもの安全が確保され安心して子育てができるまち（地域）づくりの推進」は8.2ポイント増加している。一方、「保育サービスの充実と待機児解消」は9.0ポイント減少している。（図表5-1）

ライフステージ別でみると、「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」は家族成長前期（50.0%）で5割と高くなっている。「学校教育を充実させる取組」は家族成長前期（31.1%）と家族成長後期（31.0%）で3割強と高くなっている。（図表5-2）

＜図表5-2＞子育てに必要な施策／ライフステージ別

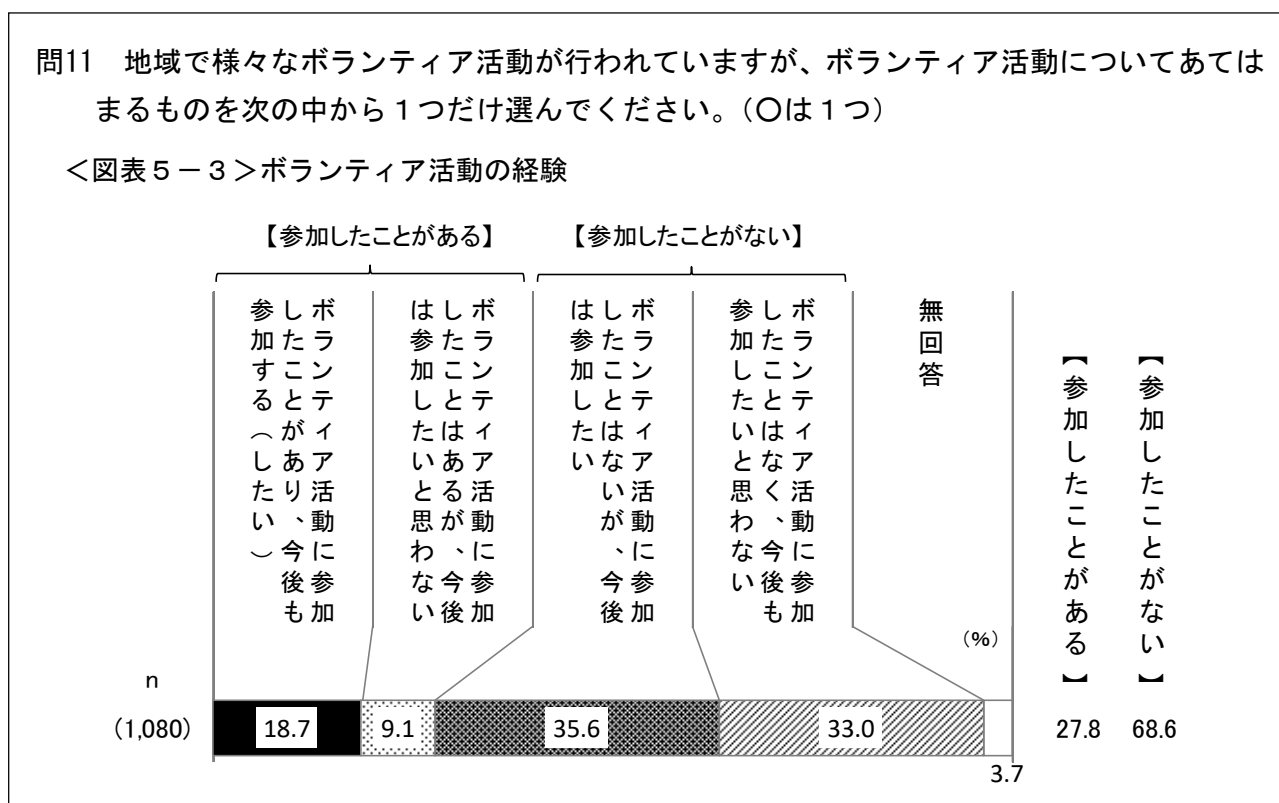


## (2) ボランティア活動の経験

◇【参加したことがある】が3割弱

問11 地域で様々なボランティア活動が行われていますが、ボランティア活動についてあてはまるものを次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

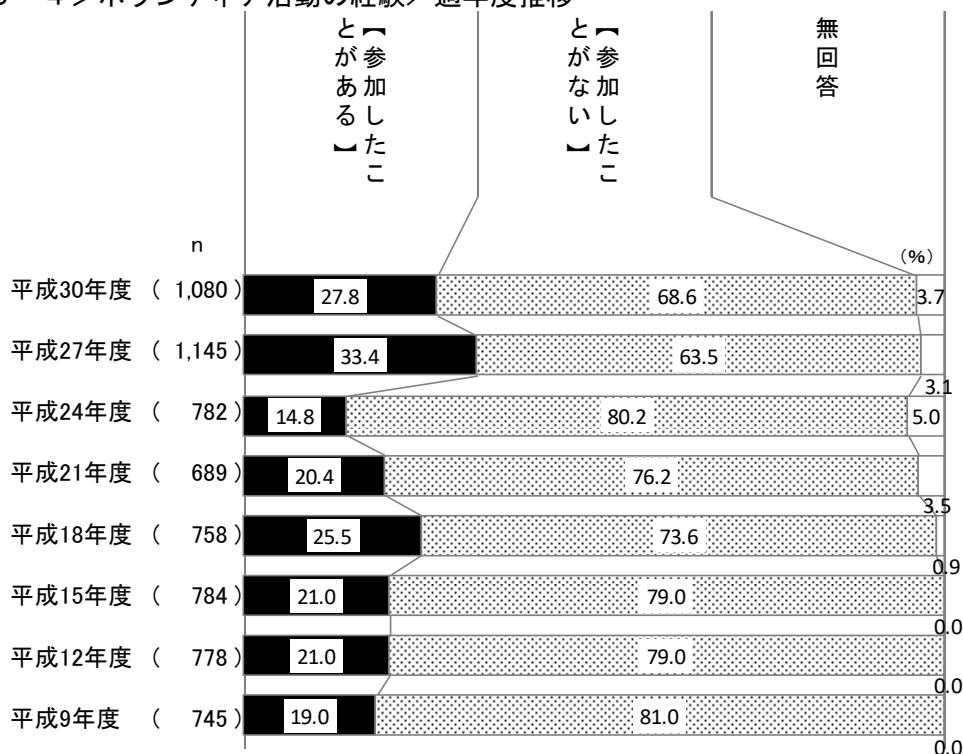
＜図表5-3＞ボランティア活動の経験



ボランティア活動の経験を聞いたところ、「ボランティア活動に参加したことがあり、今後も参加する(したい)」(18.7%)と「ボランティア活動に参加したことがあるが、今後は参加したくない(思わない)」(9.1%)の2つを合わせた【参加したことがある】(27.8%)が3割弱となっている。一方、「ボランティア活動に参加したことはないが、今後は参加したい」(35.6%)と「ボランティア活動に参加したことはなく、今後は参加したくない(思わない)」(33.0%)の2つを合わせた【参加したことがない】(68.6%)は7割弱となっている。(図表5-3)

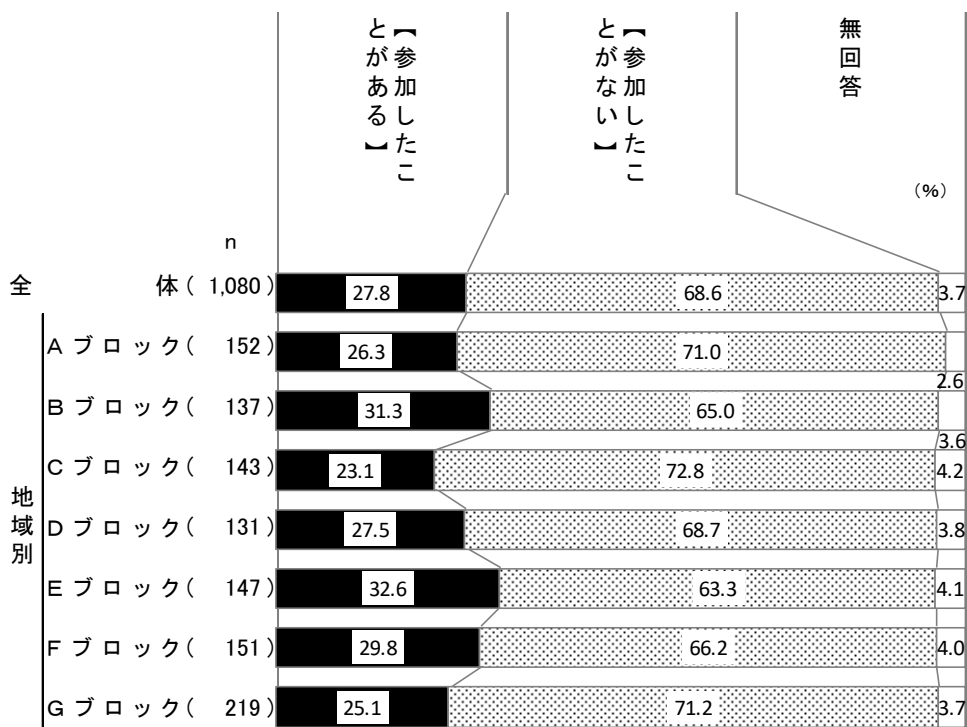
過年度の調査結果の推移をみると、【参加したことがある】は平成27年度と比べて5.6ポイント減少している。(図表5-4)

＜図表5-4＞ボランティア活動の経験／過年度推移



地域別でみると、【参加したことがある】はBブロック (31.3%)、Eブロック (32.6%) で3割強と高くなっている。一方、【参加したことはない】はAブロック (71.0%)、Cブロック (72.8%)、Gブロック (71.2%) で7割強と高くなっている。(図表5-5)

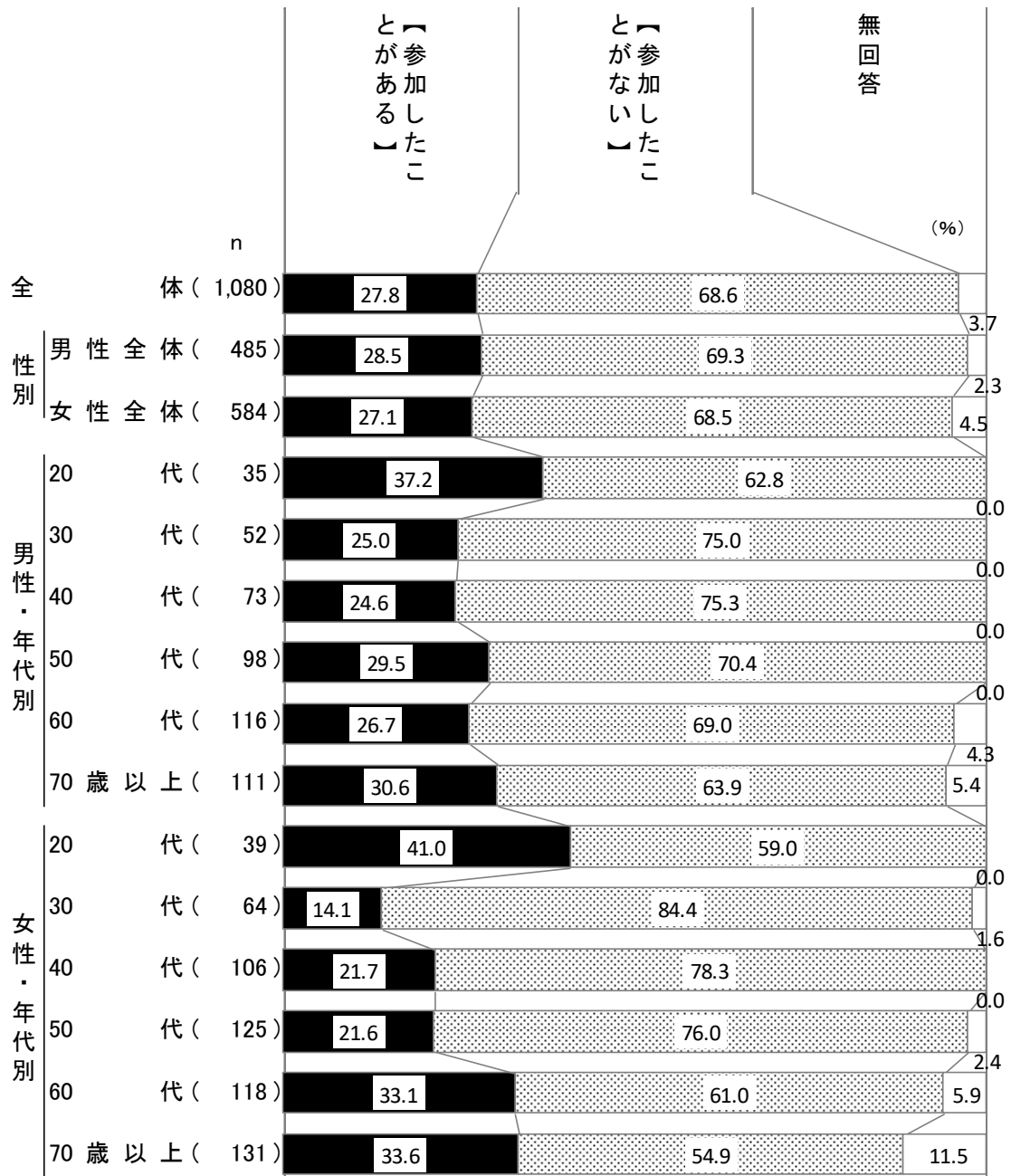
＜図表5-5＞ボランティア活動の経験／地域別



性別でみると、【参加したことがある】は男性（28.5%）が女性（27.1%）より1.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【参加したことがある】は男性20代（37.2%）で4割弱、女性20代（41.0%）で4割強と高くなっている。一方、【参加したことはない】は女性30代（84.4%）で8割台半ばと高くなっている。（図表5－6）

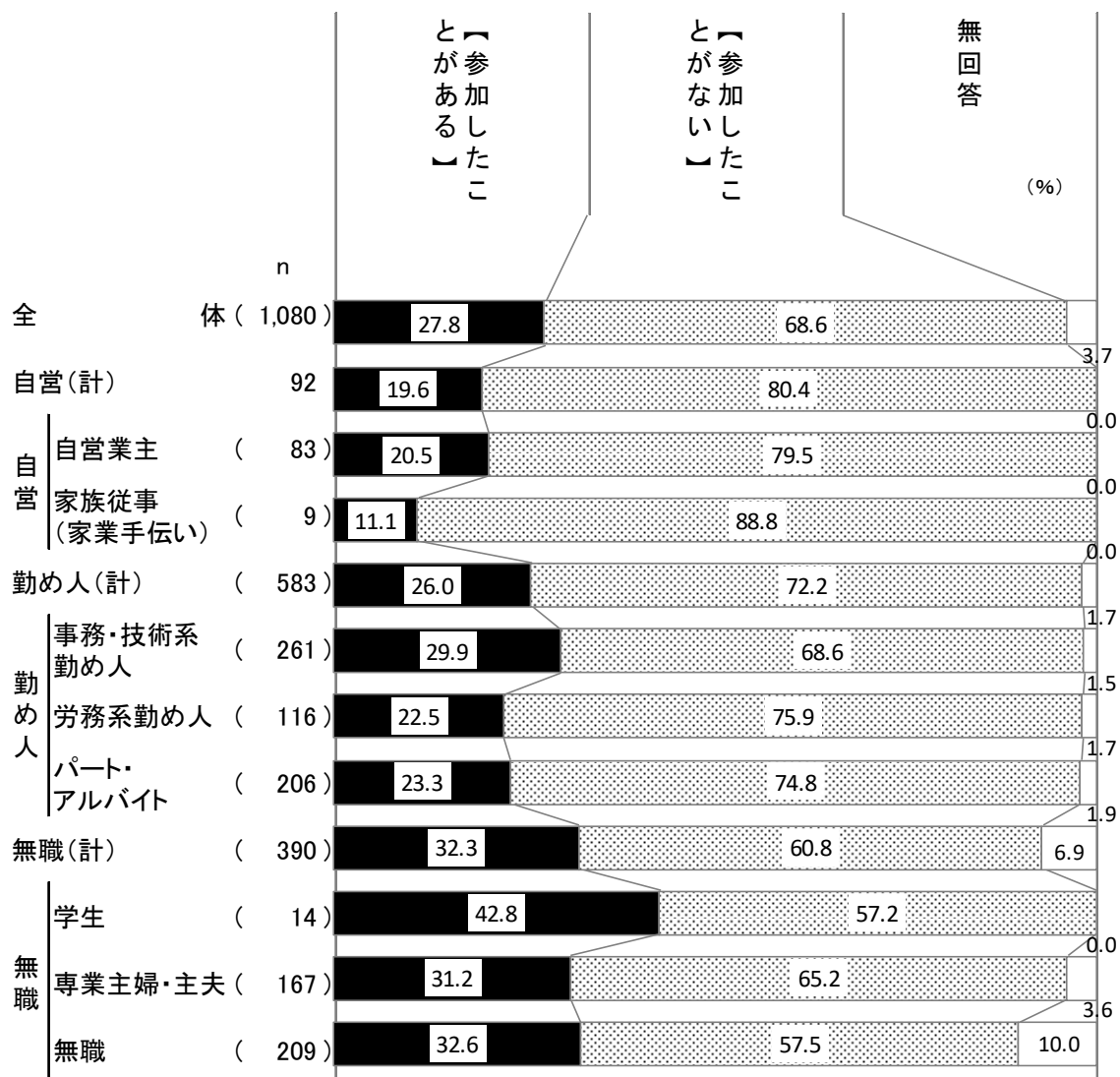
＜図表5－6＞ボランティア活動の経験／性別、性・年代別





職業別でみると、【参加したことがある】は無職（32.6%）で3割強と高くなっている。一方、【参加したことはない】は自営業主（79.5%）で約8割と高くなっている。（図表5-7）

<図表5-7> ボランティア活動の経験/職業別

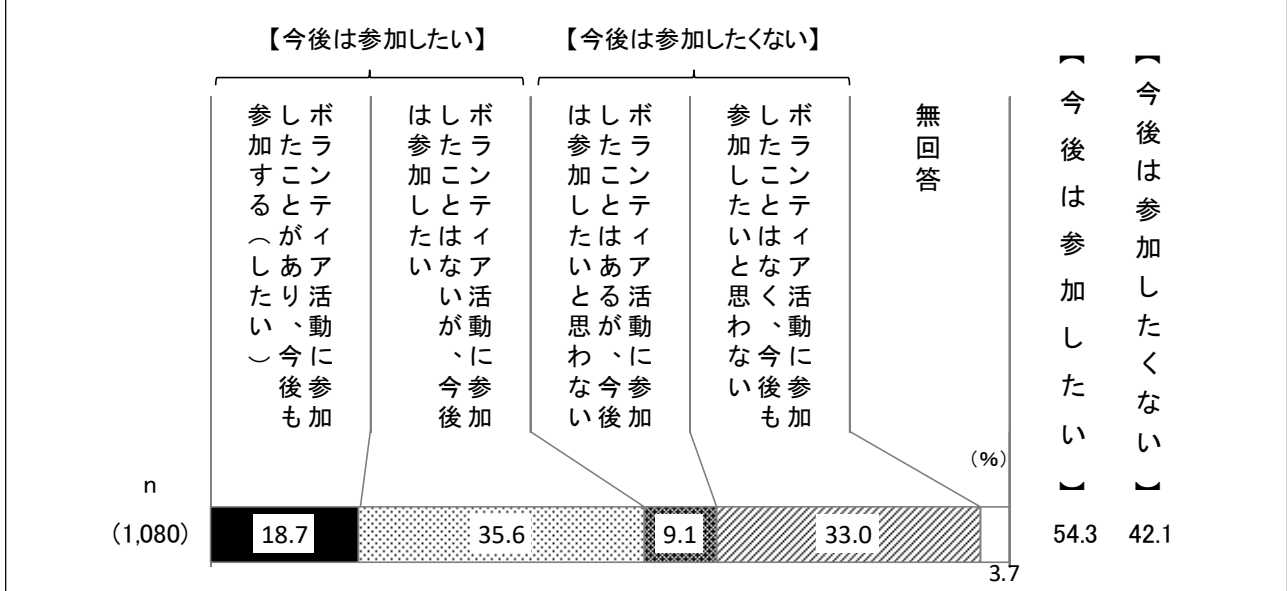


(3) ボランティア活動の参加意向

◇【今後は参加したい】が5割台半ば

問11 地域で様々なボランティア活動が行われていますが、ボランティア活動についてあてはまるものを次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

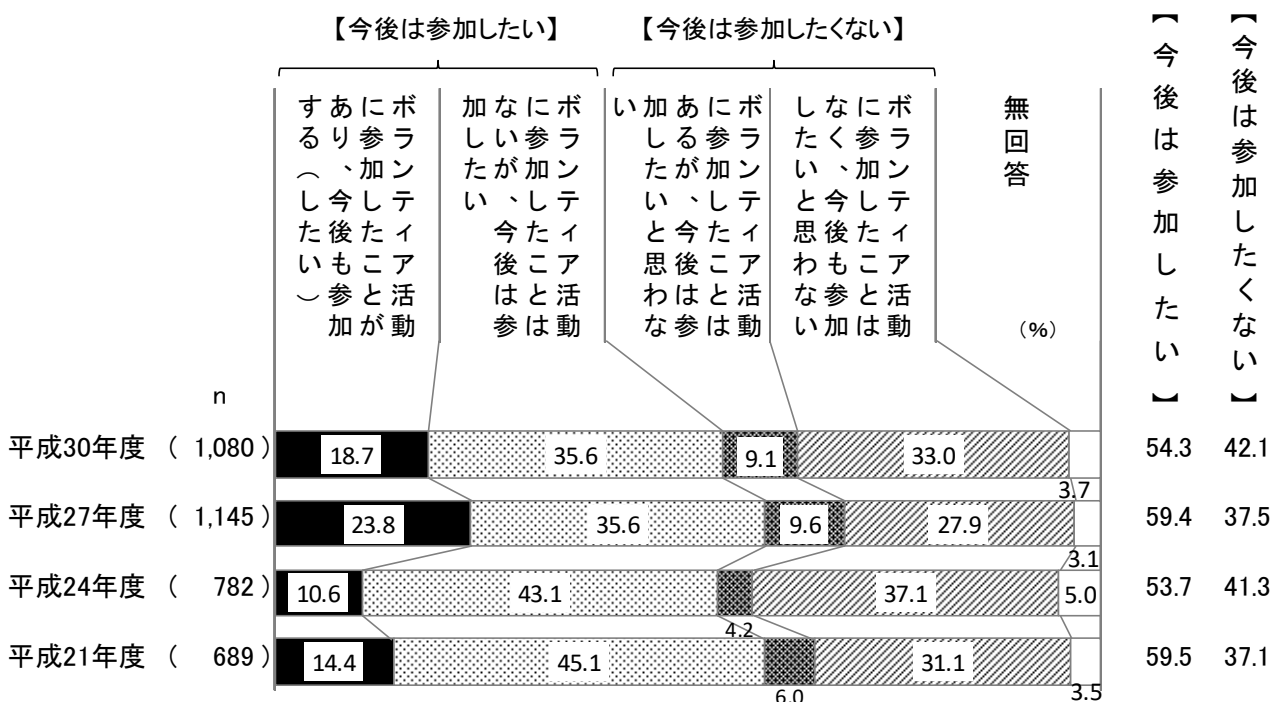
<図表5-8> ボランティア活動の参加意向



ボランティア活動の参加意向を聞いたところ、「ボランティア活動に参加したことがあり、今後も参加する(したい)」(18.7%)と「ボランティア活動に参加したことはないが、今後は参加したい」(35.6%)の2つを合わせた【今後は参加したい】(54.3%)が5割台半ばと高くなっている。一方、「ボランティア活動に参加したことがあるが、今後は参加したくないと思わない」(9.1%)と「ボランティア活動に参加したことがなく、今後も参加したくないと思わない」(33.0%)の2つを合わせた【今後は参加したくない】(42.1%)は4割強となっている。(図表5-8)

過年度の調査結果の推移をみると、【今後は参加したい】は平成27年度と比べて5.1ポイント減少している。(図表5-9)

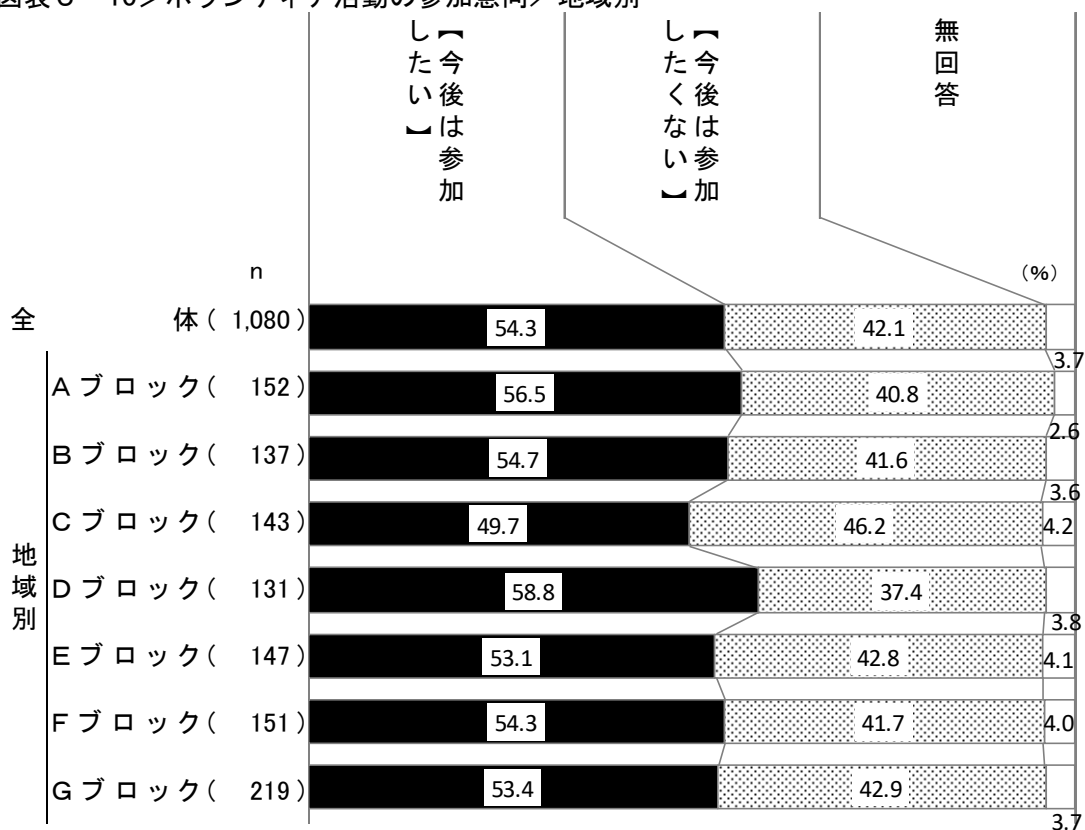
＜図表5-9＞ボランティア活動の参加意向／過年度推移



地域別でみると、【今後は参加したい】はDブロック (58.8%) で6割弱と高くなっている。一方、【今後は参加したくない】はCブロック (46.2%) で5割弱と高くなっている。

(図表5-10)

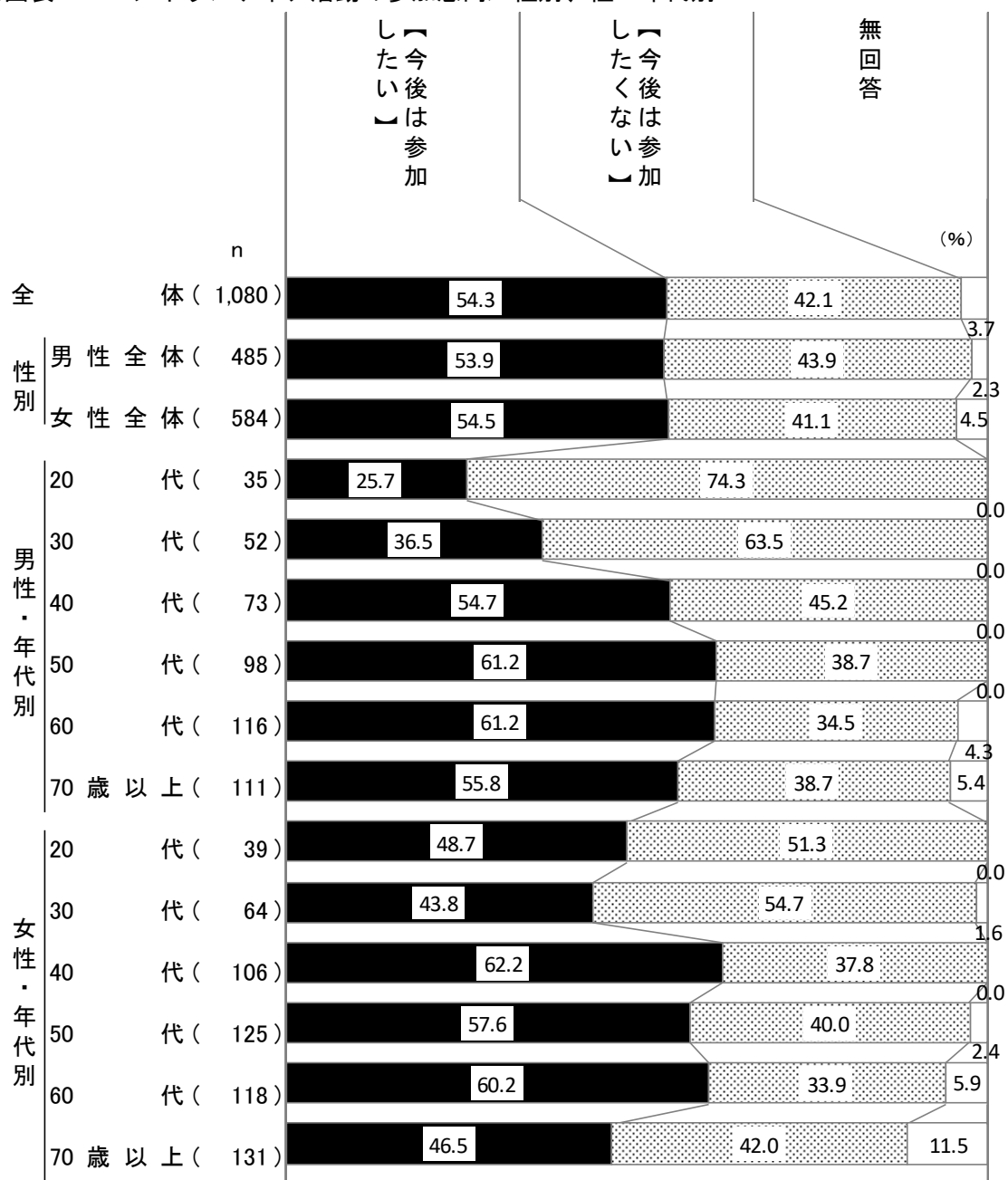
＜図表5-10＞ボランティア活動の参加意向／地域別



性別で見ると、【今後は参加したくない】は男性（43.9%）が女性（41.1%）より2.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【今後は参加したい】は男性50代（61.2%）・男性60代（61.2%）と女性40代（62.2%）・女性60代（60.2%）で6割以上と高くなっている。一方、【今後は参加したくない】は男性20代（74.3%）で7割台半ばと高くなっている。（図表5-11）

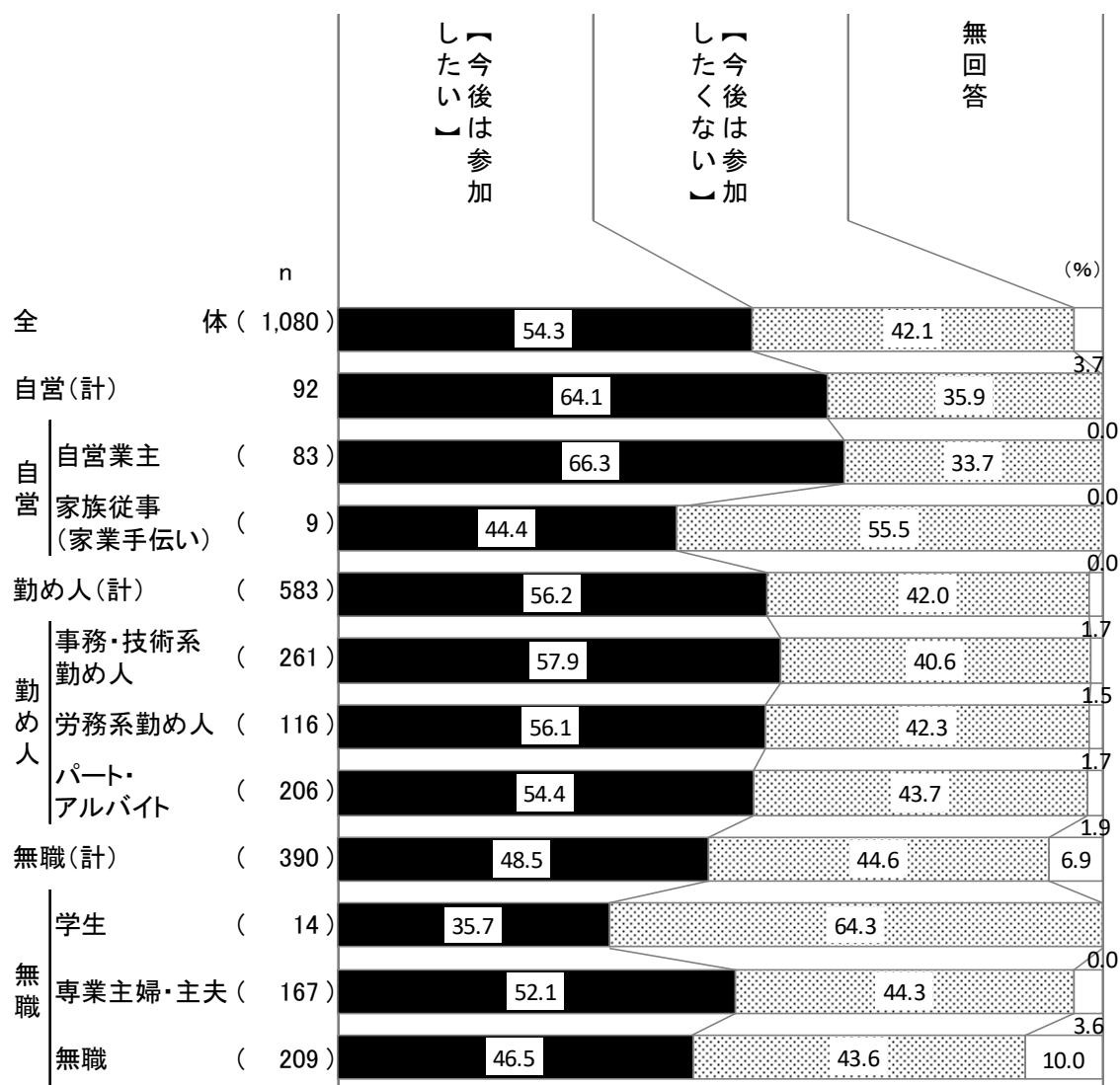
<図表5-11> ボランティア活動の参加意向／性別、性・年代別



職業別でみると、【今後は参加したい】は自営業主（66.3%）で7割弱と高くなっている。一方、【今後は参加したくない】は専業主婦・主夫（44.3%）で4割台半ばと高くなっている。

（図表5-12）

＜図表5-12＞ボランティア活動の参加意向／職業別

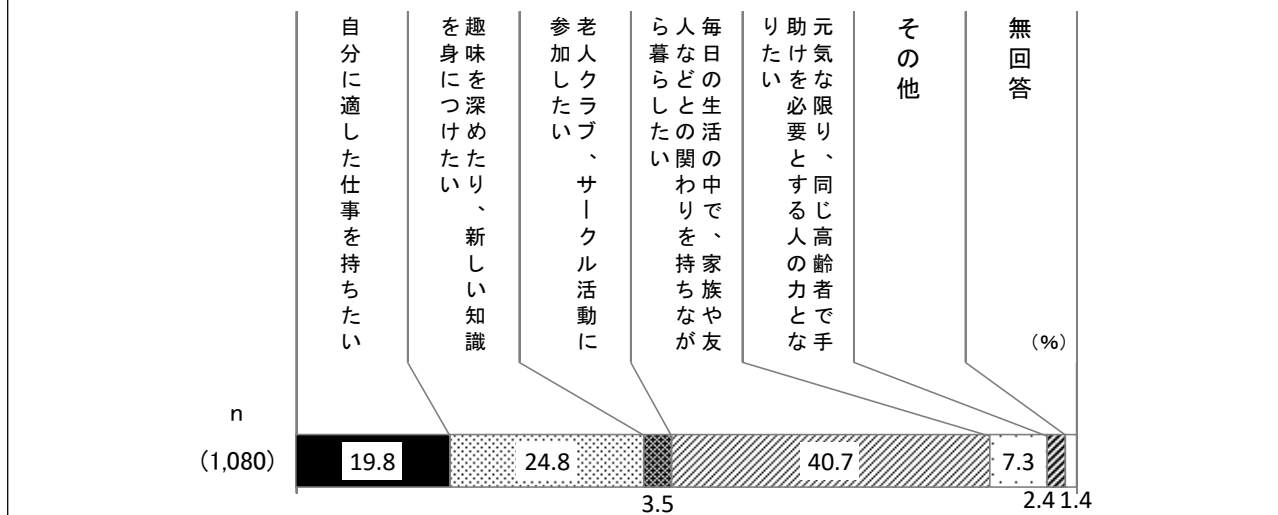


#### (4) 老後の生活

◇「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」が約4割

問12 あなたは、老後をどのように暮らしていきたいと思いますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを1つだけ選んでください。(○は1つ)

<図表5-13>老後の生活

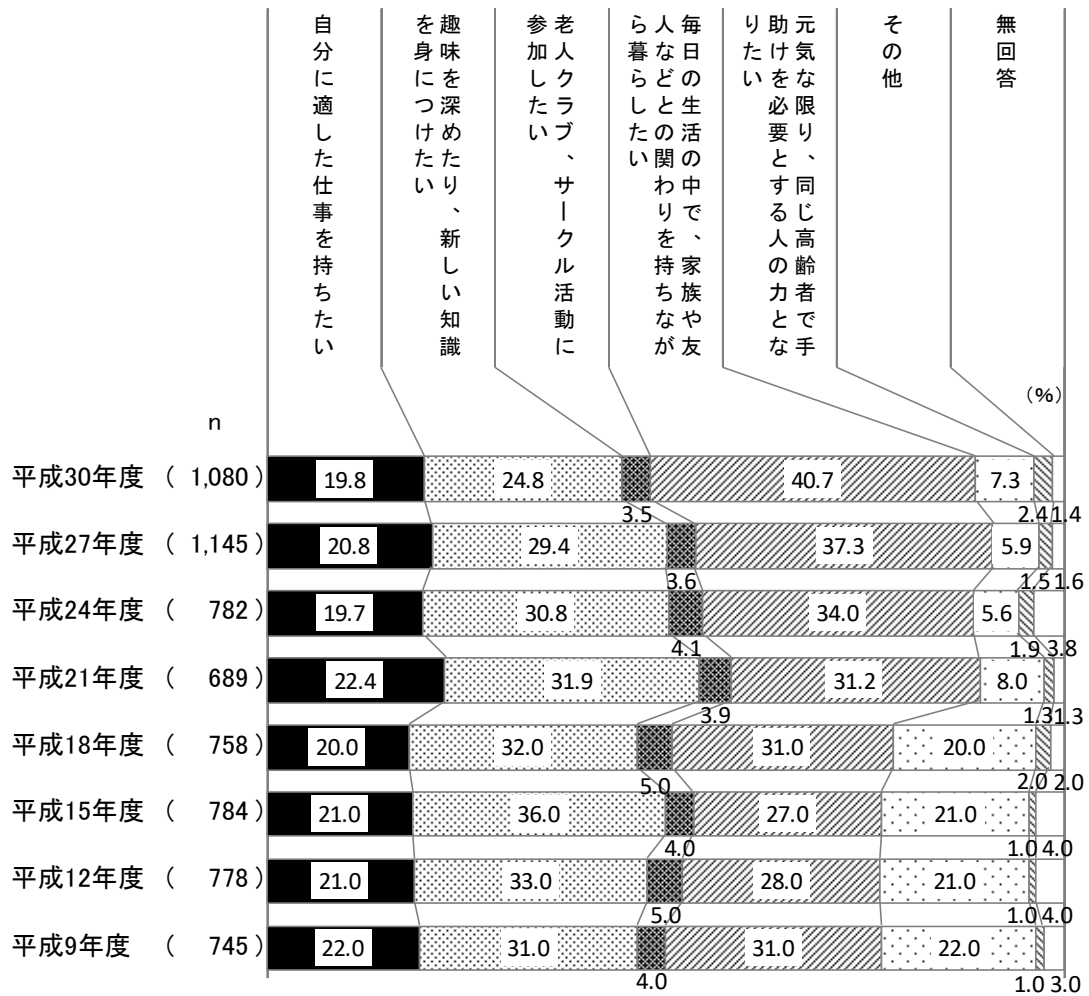


老後をどのように暮らしていきたいか聞いたところ、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」(40.7%)が約4割で最も高く、次いで「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」(24.8%)、「自分に適した仕事を持ちたい」(19.8%)となっている。

(図表5-13)

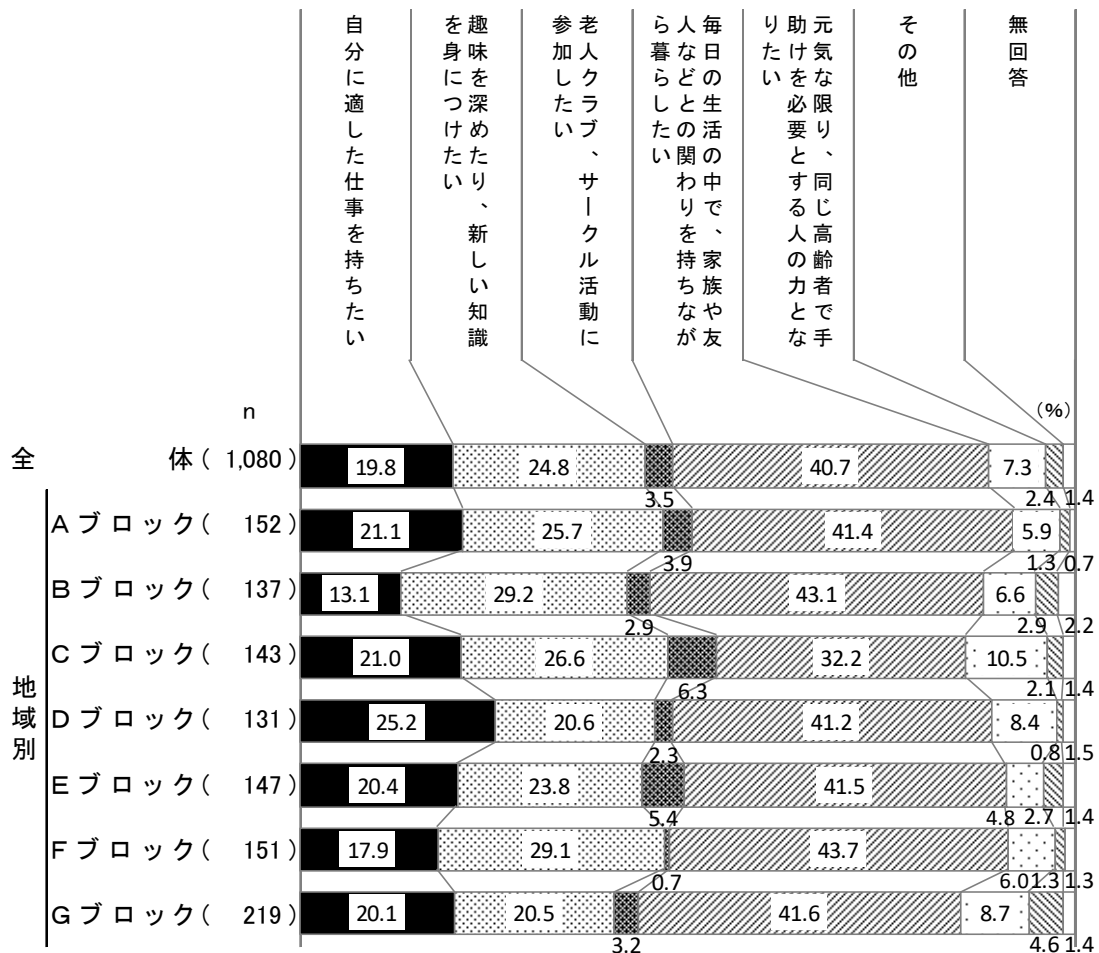
過年度の調査結果の推移をみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」は平成15年度以降増加傾向にある。(図表5-14)

＜図表5-14＞老後の生活／過年度推移



地域別でみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」はFブロック（43.7%）とBブロック（43.1%）で4割強と高くなっている。「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」はBブロック（29.2%）とFブロック（29.1%）で約3割と高くなっている。（図表5-15）

<図表5-15>老後の生活／地域別

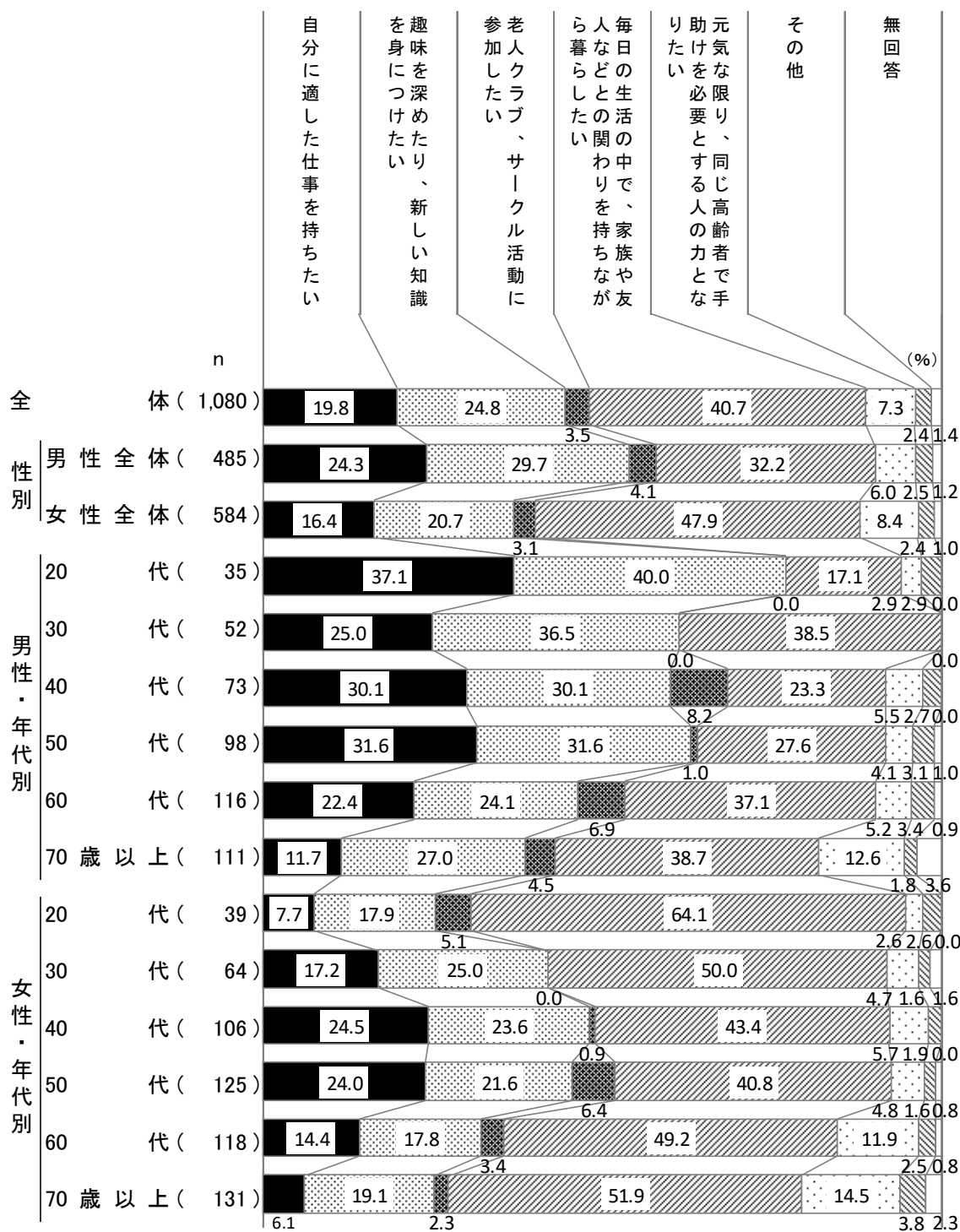




性別でみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」は女性（47.9%）が男性（32.2%）より15.7ポイント高くなっている。「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」は男性（29.7%）が女性（20.7%）より9.0ポイント高く、「自分に適した仕事をもちたい」は男性（24.3%）が女性（16.4%）より7.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」は女性20代（64.1%）で6割台半ばと高くなっている。「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」は男性20代（40.0%）で4割と高くなっている。「自分に適した仕事をもちたい」は男性20代（37.1%）で4割弱と高くなっている。（図表5-16）

<図表5-16>老後の生活／性別、性・年代別

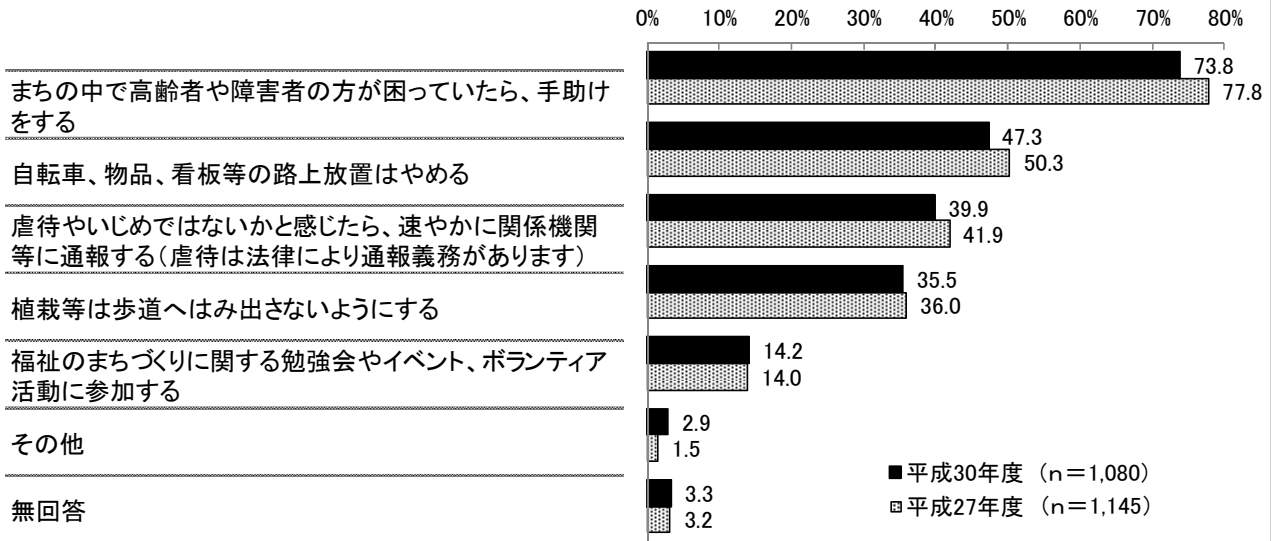


(5) 福祉のまちづくり実現のための取組

◇「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」が7割強

問13 福祉のまちづくりを実現するためには、行政、事業者、市民が協働して取り組む必要がありますが、あなたが実施している取組、または取り組むことができるものは何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

<図表5-17>福祉のまちづくり実現のための取組



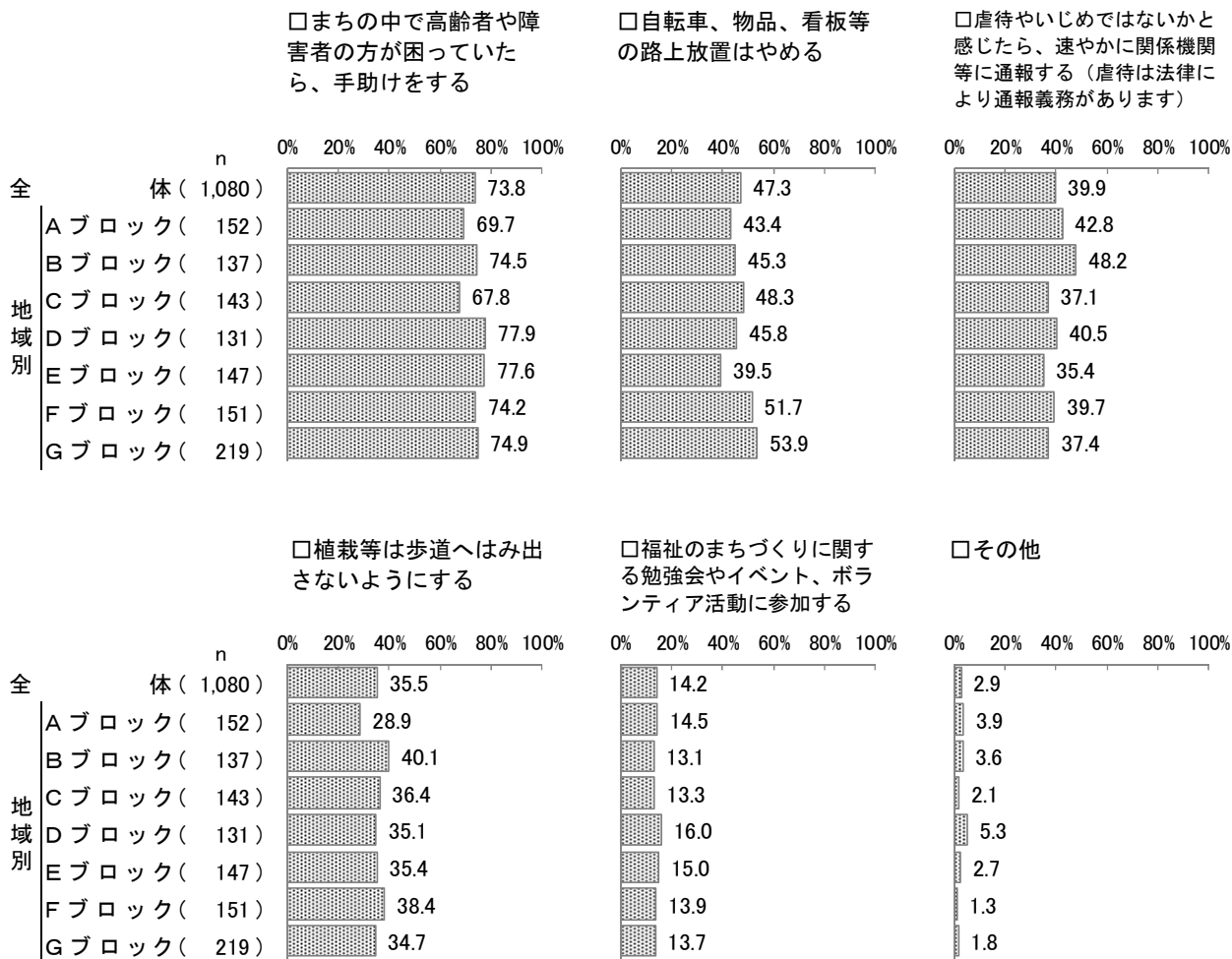
福祉のまちづくりを実現するために実施している取組、または取り組むことができるものを聞いたところ、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」(73.8%)が7割強で最も高く、次いで「自転車、物品、看板等の路上放置はやめる」(47.3%)、「虐待やいじめではないかと感じたら、速やかに関係機関等に通報する(虐待は法律により通報義務があります)」(39.9%)、「植栽等は歩道へはみ出さないようにする」(35.5%)となっている。(図表5-17)

前回の調査結果と比較すると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」は4.0ポイント減少している。(図表5-17)

地域別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」はDブロック（77.9%）とEブロック（77.6%）で8割弱と高くなっている。「自転車、物品、看板等の路上放置はやめる」はFブロック（51.7%）とGブロック（53.9%）で5割強と高くなっている。

（図表5-18）

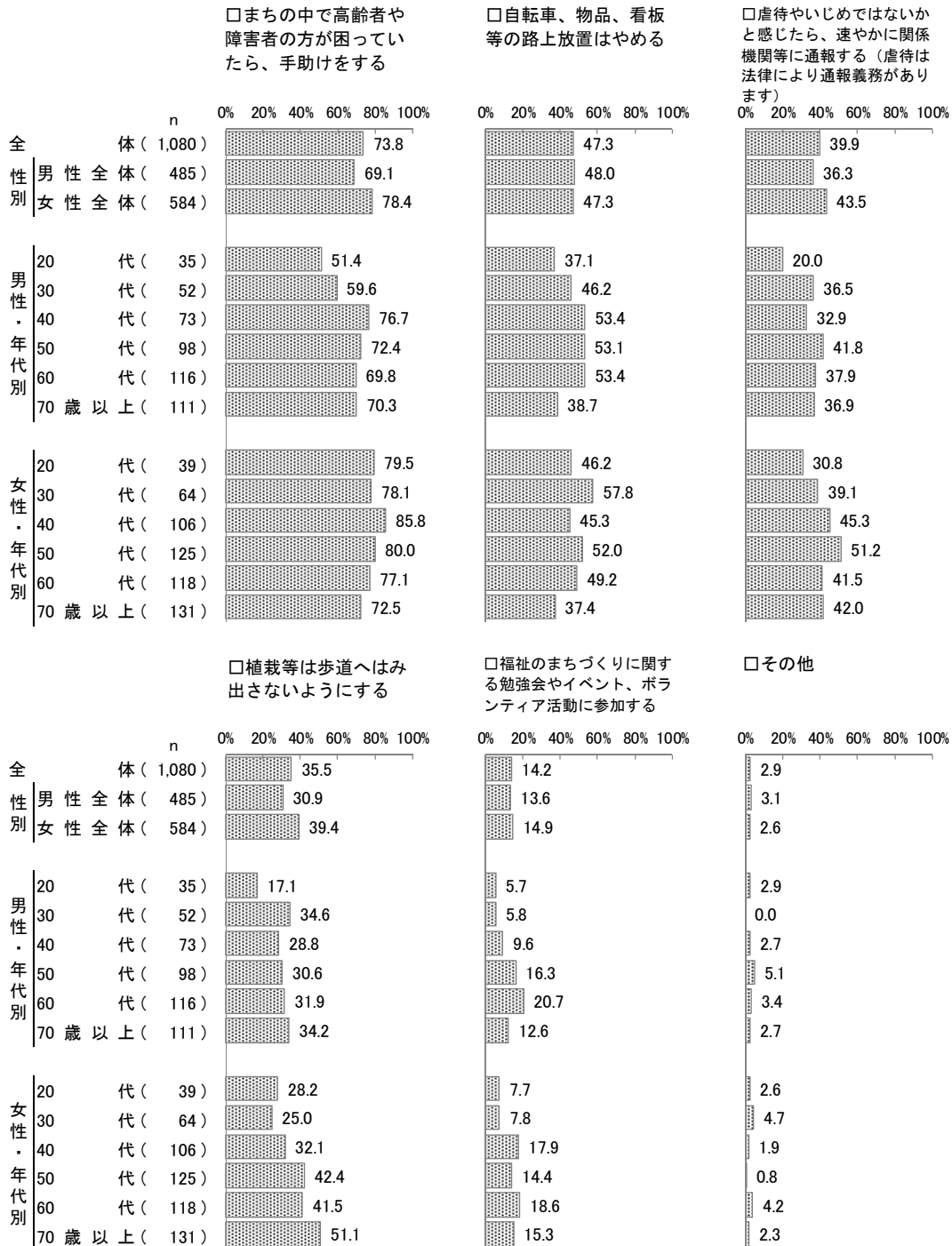
＜図表5-18＞福祉のまちづくり実現のための取組／地域別



性別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」は女性（78.4%）が男性（69.1%）より9.3ポイント高く、「植栽等は歩道へはみ出さないようにする」は女性（39.4%）が男性（30.9%）より8.5ポイント高くなっている。「虐待やいじめではないかと感じたら、速やかに関係機関等に通報する（虐待は法律により通報義務があります）」は女性（43.5%）が男性（36.3%）より7.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」は女性40代（85.8%）で8割台半ばと高くなっている。「自転車、物品、看板等の路上放置はやめる」は女性30代（57.8%）で6割弱と高くなっている。「虐待やいじめではないかと感じたら、速やかに関係機関等に通報する（虐待は法律により通報義務があります）」は女性50代（51.2%）で5割強と高くなっている。（図表5-19）

＜図表5-19＞福祉のまちづくり実現のための取組／性別、性・年代別

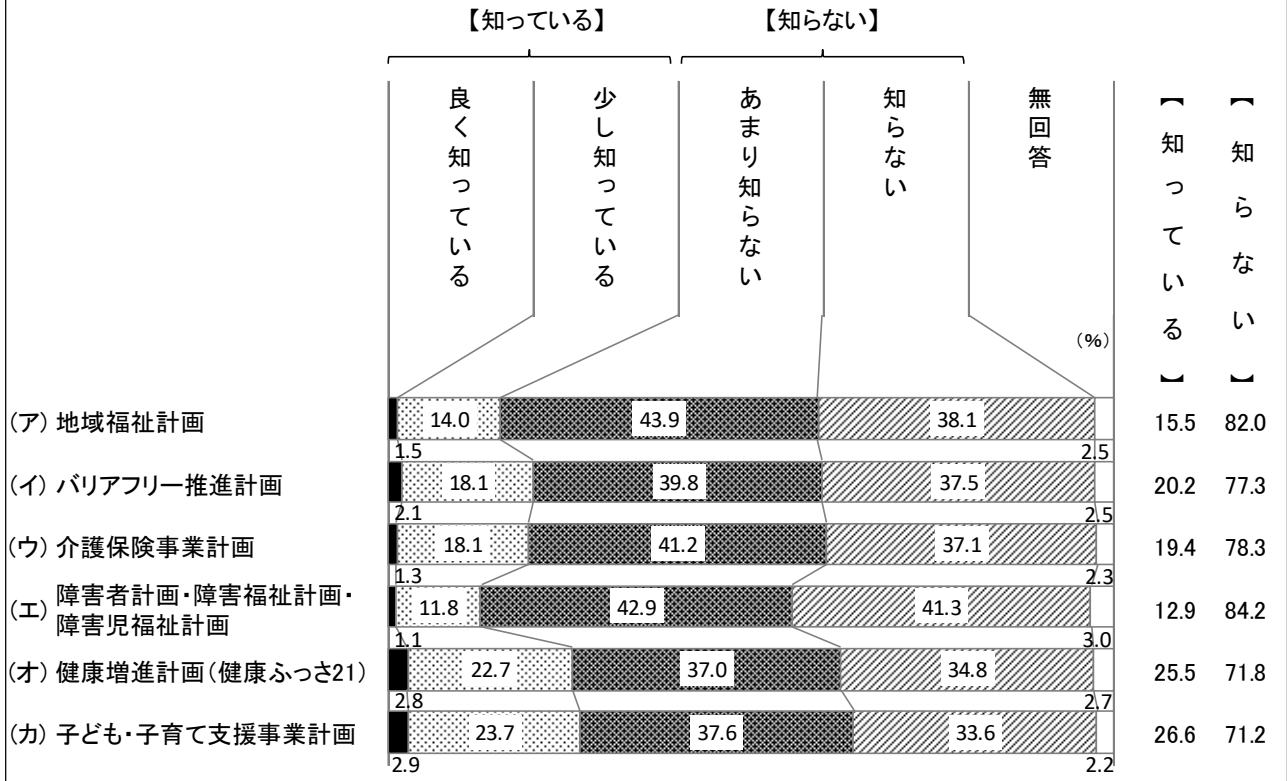


(6) 地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況

◇【知っている】は「子ども・子育て支援事業計画」が3割弱

問14 地域福祉の充実を図るため、市では各種事業計画を策定し、取り組んでいます。あなたは、次の各計画についてご存じですか。次の(ア)から(カ)までの項目について、それぞれ1つずつ番号で選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

<図表5-20>地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況

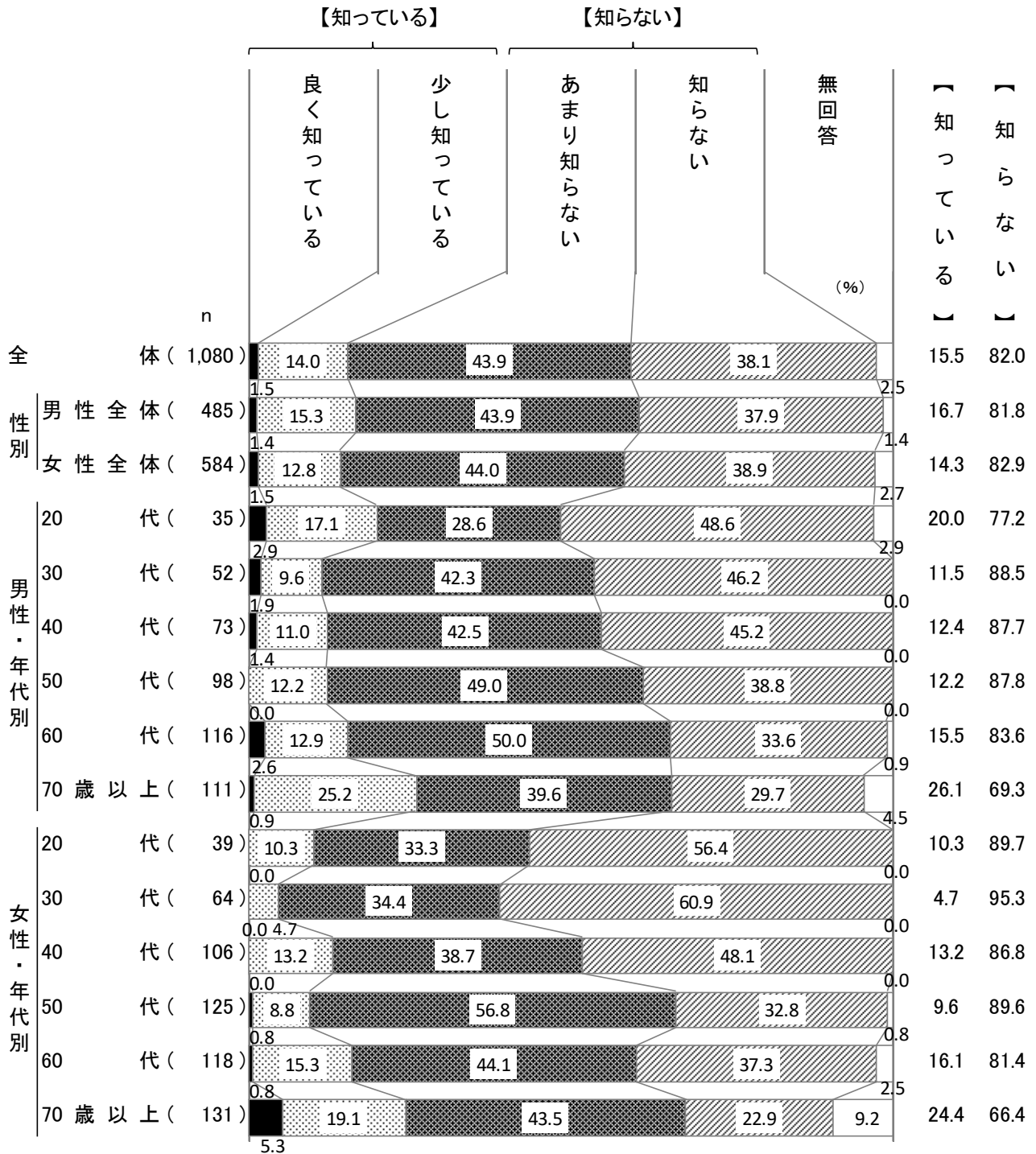


地域福祉の充実のための6項目の各種事業計画の認知状況を聞いたところ、「良く知っている」と「少し知っている」の2つを合わせた【知っている】は、(カ) 子ども・子育て支援事業計画(26.6%)が3割弱で最も高く、次いで(オ) 健康増進計画(健康ふっさ21)(25.5%)、(イ) バリアフリー推進計画(20.2%)、(ウ) 介護保険事業計画(19.4%)となっている。(図表5-20)

(ア) 地域福祉計画について性別でみると、【知っている】は男性（16.7%）が女性（14.3%）より2.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は男性70歳以上（26.1%）で3割弱、女性70歳以上（24.4%）で2割台半ばと高くなっている。（図表5-21）

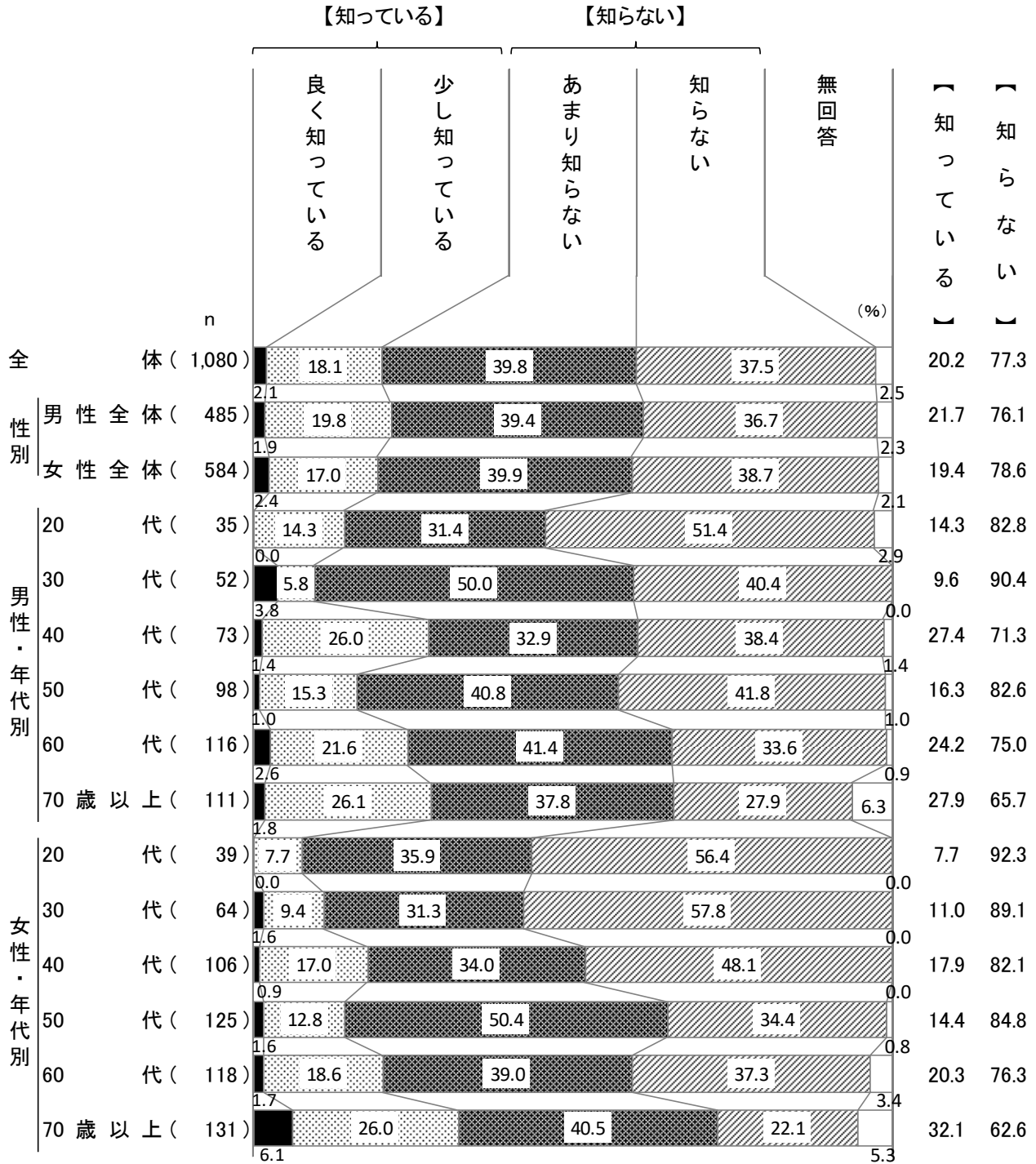
＜図表5-21＞地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（ア）地域福祉計画  
／性別、性・年代別



(イ) バリアフリー推進計画について性別で見ると、【知っている】は男性（21.7%）が女性（19.4%）より2.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は男性40代（27.4%）・男性70歳以上（27.9%）で3割弱、女性70歳以上（32.1%）で3割強と高くなっている。（図表5-22）

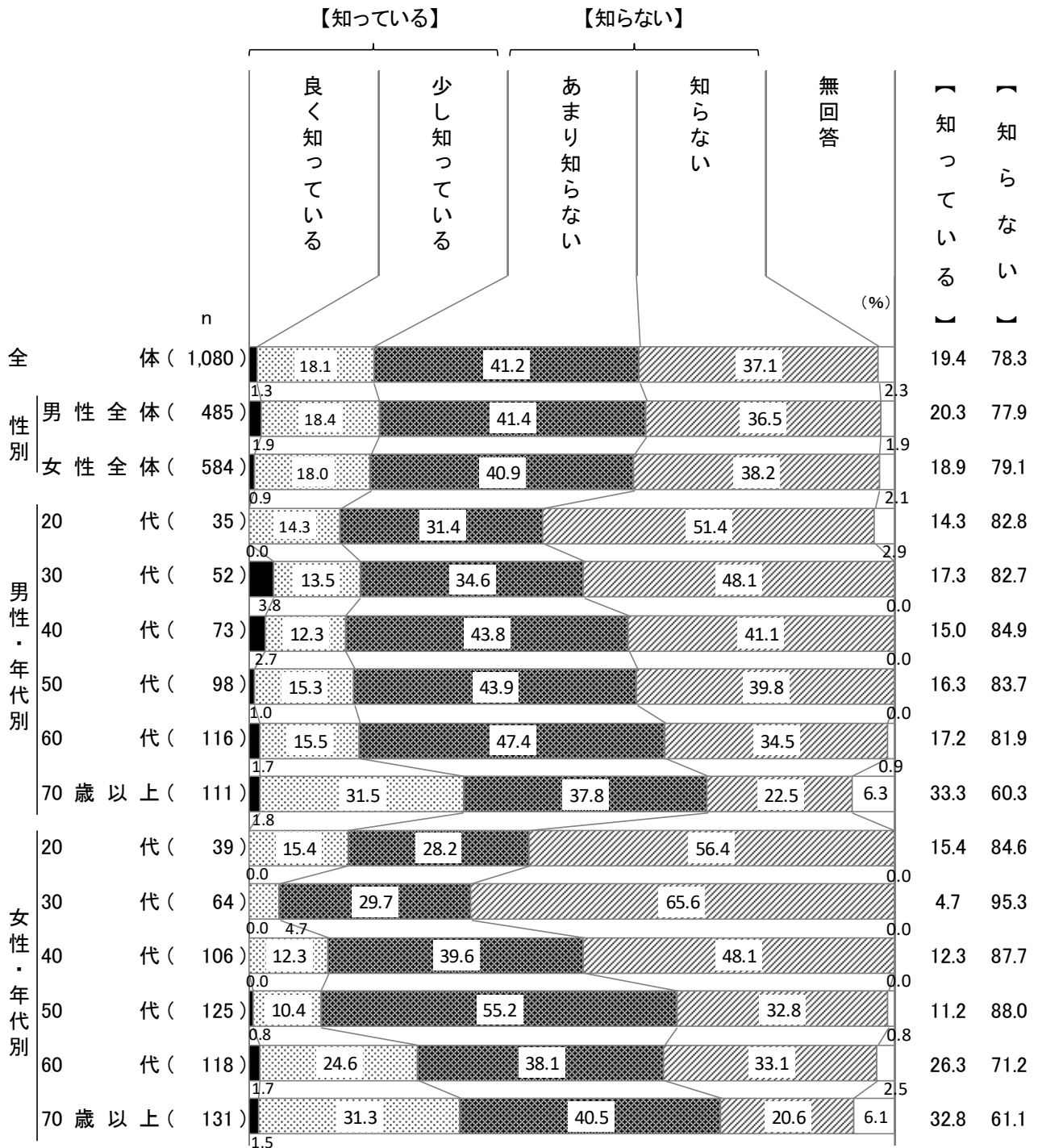
＜図表5-22＞地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（イ）バリアフリー推進計画  
／性別、性・年代別



(ウ) 介護保険事業計画について性別で見ると、【知っている】は男性(20.3%)が女性(18.9%)より1.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は男性70歳以上(33.3%)と女性70歳以上(32.8%)で3割強と高くなっている。(図表5-23)

<図表5-23>地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況(ウ)介護保険事業計画  
／性別、性・年代別

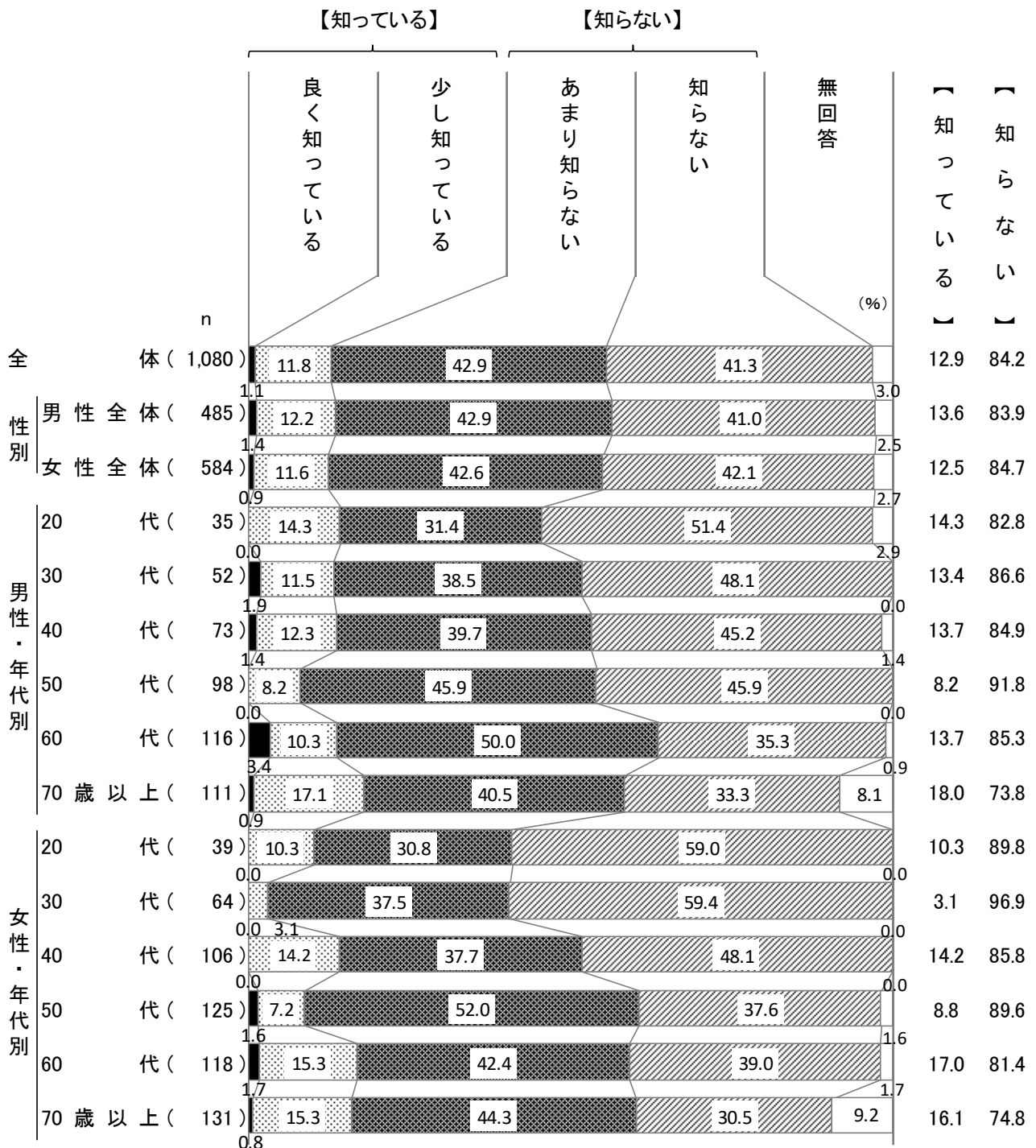




(エ) 障害者計画・障害福祉計画について性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年代別で見ると、【知っている】は男性70歳以上（18.0%）、女性60代（17.0%）・女性70歳以上（16.1%）で2割弱と高くなっている。（図表5-24）

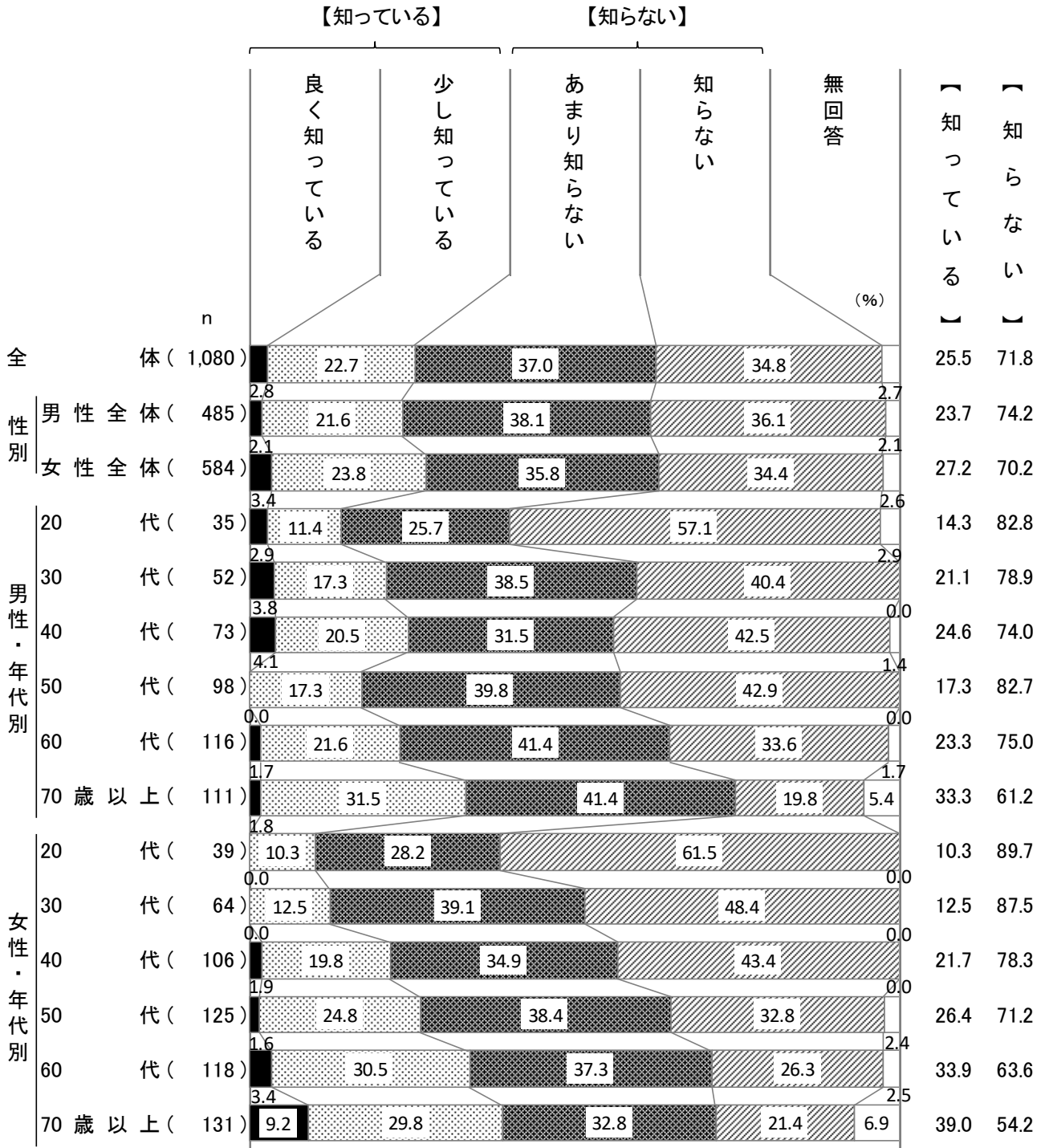
<図表5-24>地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（エ）障害者計画・障害福祉計画  
／性別、性・年代別



(オ) 健康増進計画（健康ふっさ21）について性別で見ると、【知らない】は男性（74.2%）が女性（70.2%）より4.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は男性70歳以上（33.3%）と女性60代（33.9%）で3割強、女性70歳以上（39.0%）で約4割と高くなっている。（図表5-25）

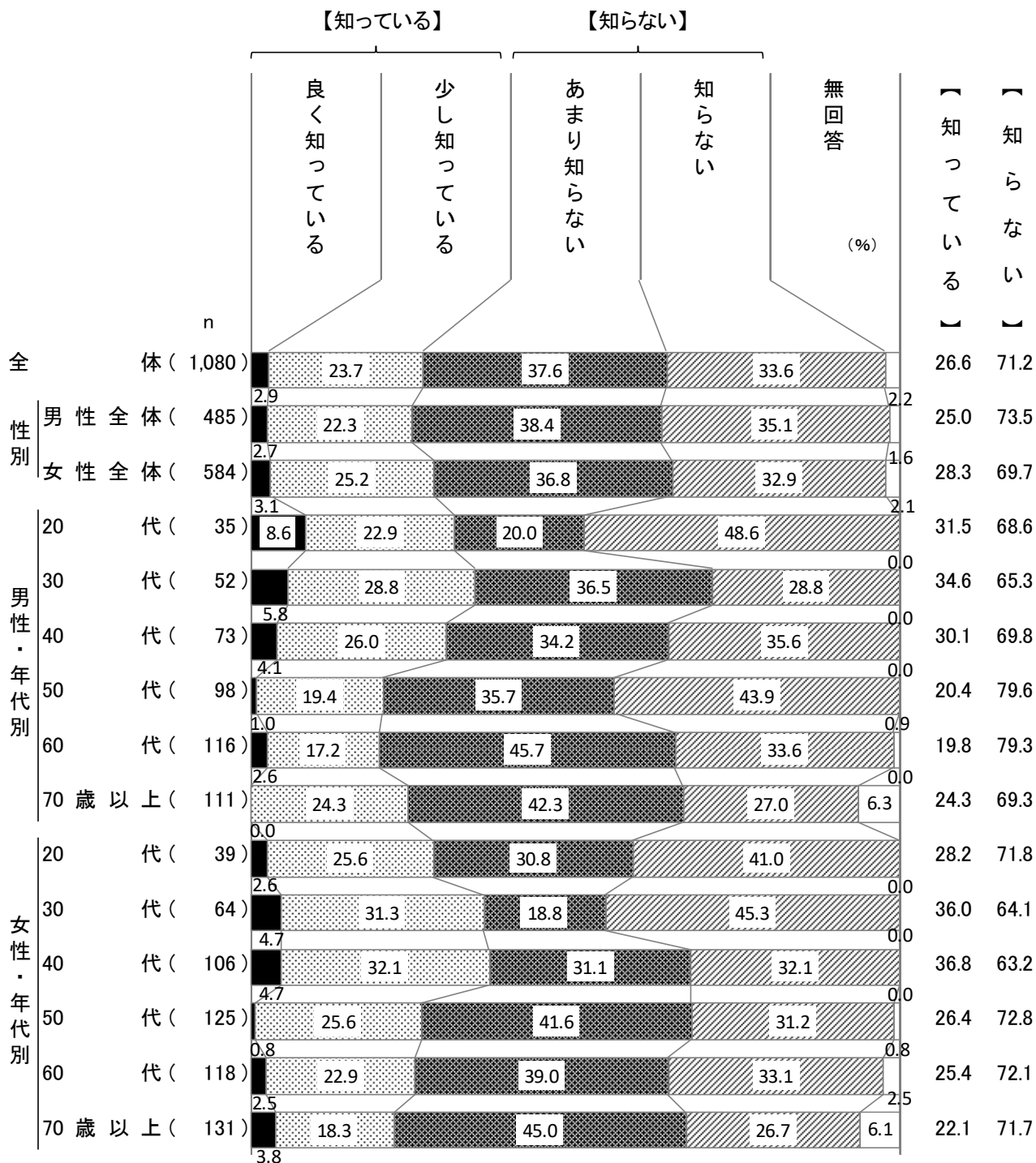
<図表5-25> 地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（オ）健康増進計画（健康ふっさ21）  
 ／性別、性・年代別



(カ) 子ども・子育て支援事業計画について性別で見ると、【知らない】は男性（73.5%）が女性（69.7%）より3.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は男性30代（34.6%）で3割台半ば、女性30代（36.0%）と女性40代（36.8%）で4割弱と高くなっている。（図表5-26）

<図表5-26>地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（カ）子ども・子育て支援事業計画  
／性別、性・年代別



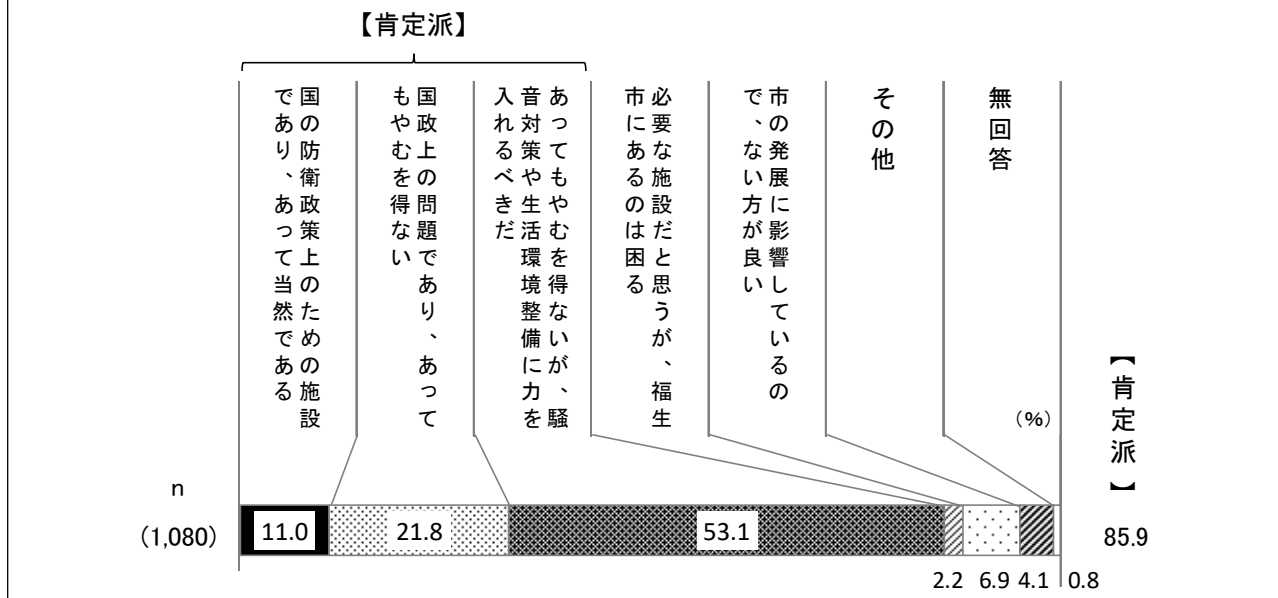
## 6. 横田基地

### (1) 横田基地の賛否

◇【肯定派】が8割台半ば

問15 横田基地について、日頃あなたが考えていることに最も近いものを、次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

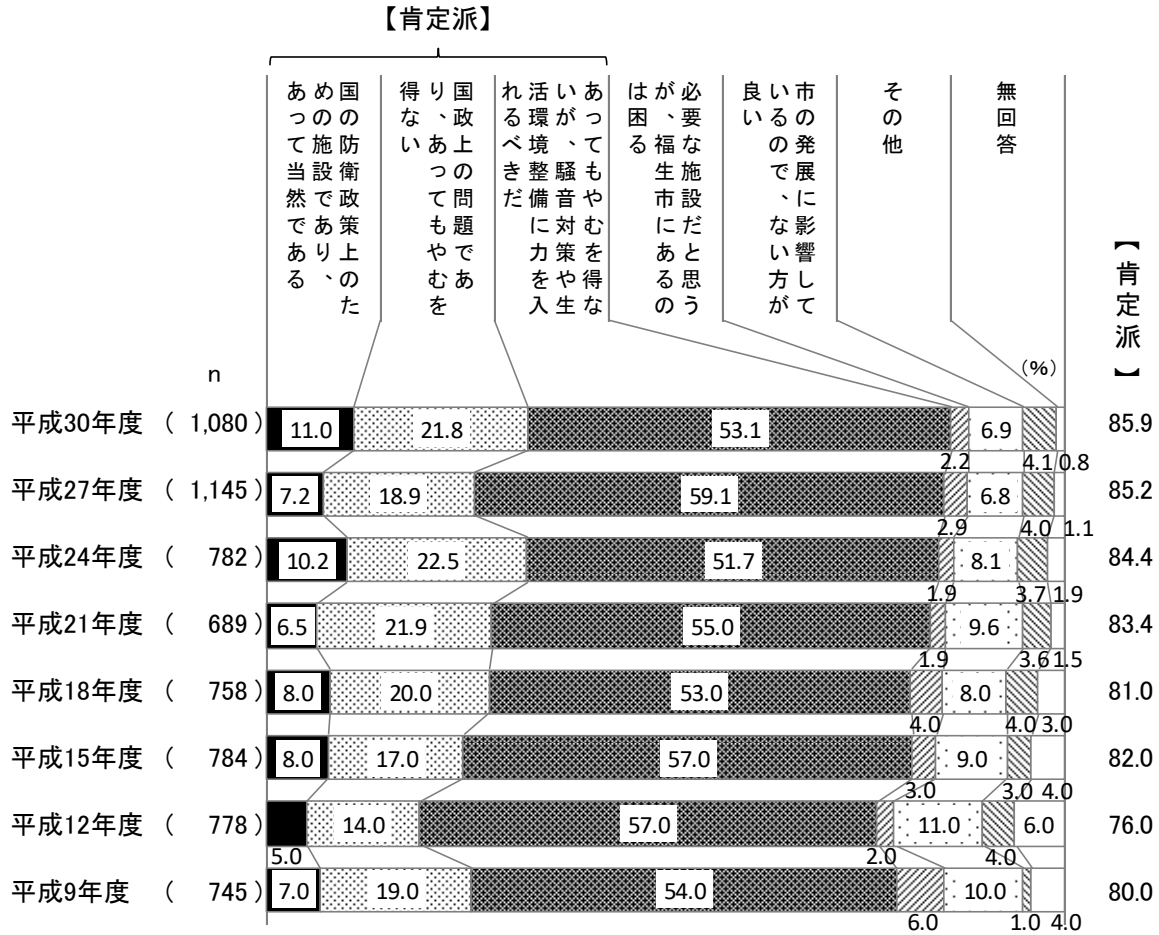
<図表6-1>横田基地の賛否



横田基地の賛否を聞いたところ、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」(53.1%)が5割強で最も高く、これと「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」(21.8%)、「国の防衛政策上のためのものであり、あってもやむを得ない」(11.0%)の3つを合わせた【肯定派】(85.9%)が8割台半ばと高くなっている。(図表6-1)

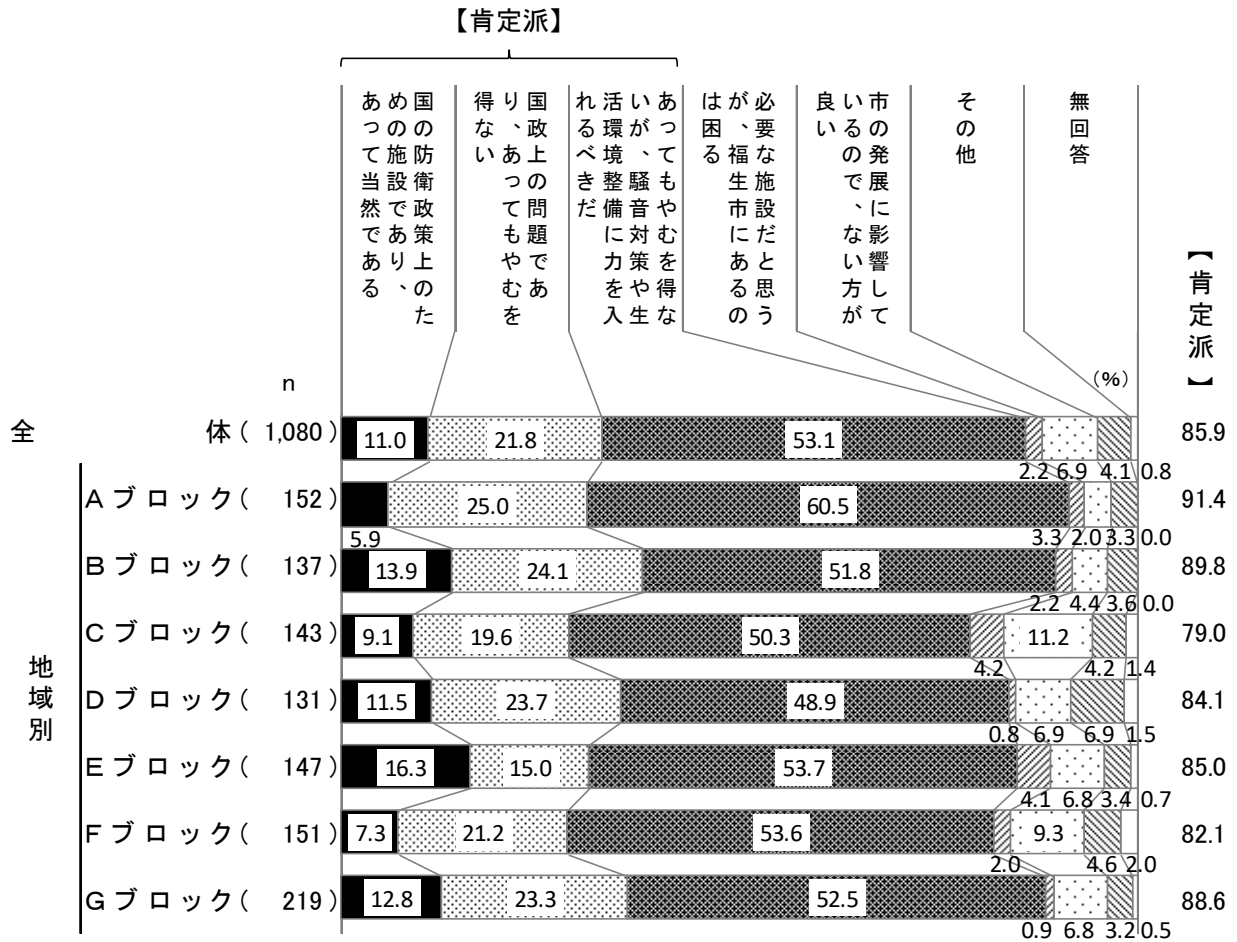
過年度の調査結果の推移をみると、【肯定派】は平成15年度以降8割台で推移している。「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」は平成27年度に比べて6.0ポイント減少している。(図表6-2)

<図表6-2>横田基地の賛否/過年度推移



地域別で見ると、【肯定派】はCブロック（79.0%）を除いてすべてのブロックで8割以上となっている。「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」はAブロック（60.5%）で約6割と高くなっている。（図表6-3）

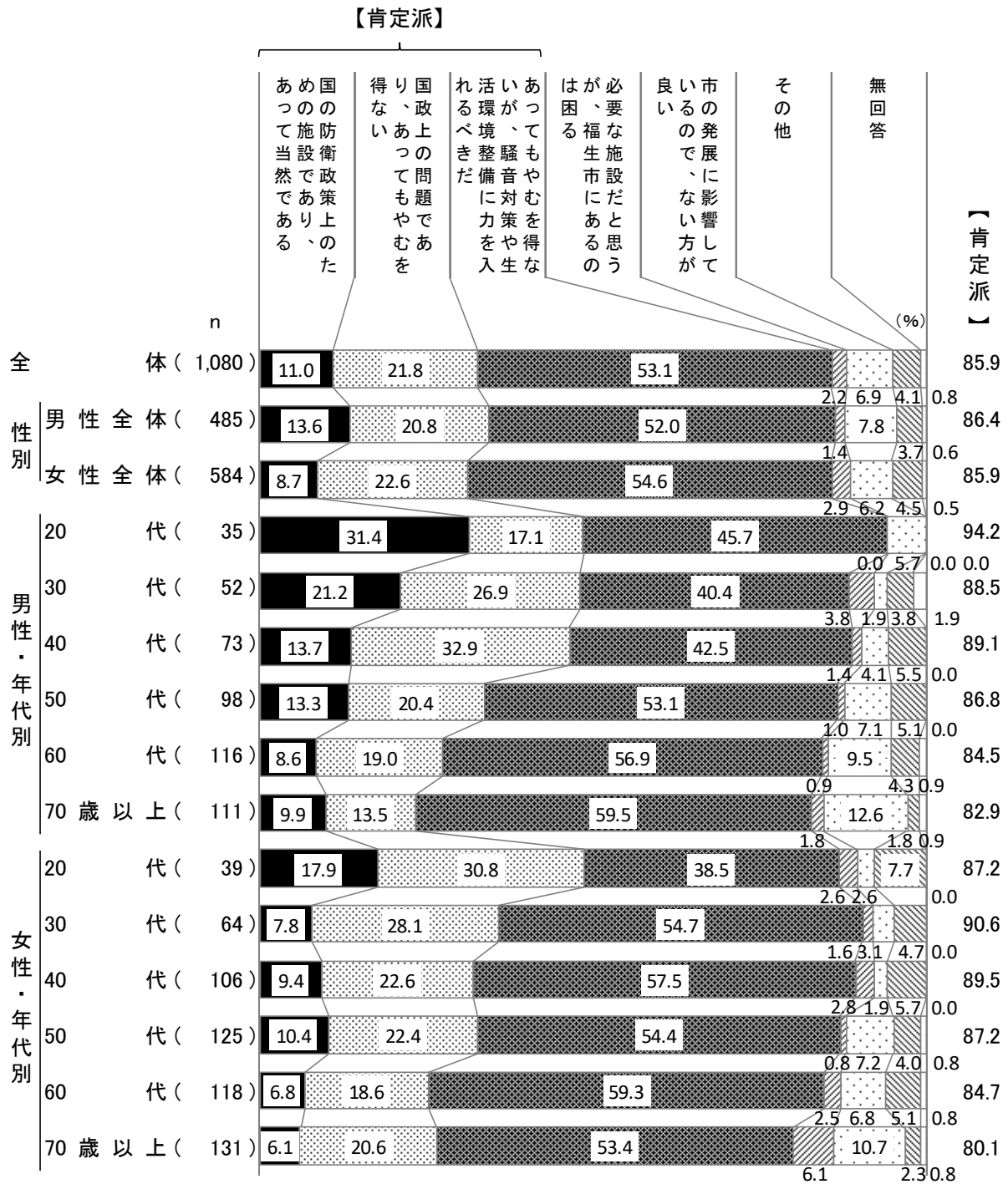
<図表6-3>横田基地の賛否／地域別



性別で見ると、「国の防衛政策上のための施設であり、あって当然である」は男性（13.6%）が女性（8.7%）より4.9ポイント高くなっている。「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」は女性（54.6%）が男性（52.0%）より2.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」は男性70歳以上（59.5%）、女性60代（59.3%）で約6割と高くなっている。「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」は男性40代（32.9%）で3割強と高くなっている。「国の防衛政策上のための施設であり、あって当然である」は男性20代（31.4%）で3割強となっている。（図表6-4）

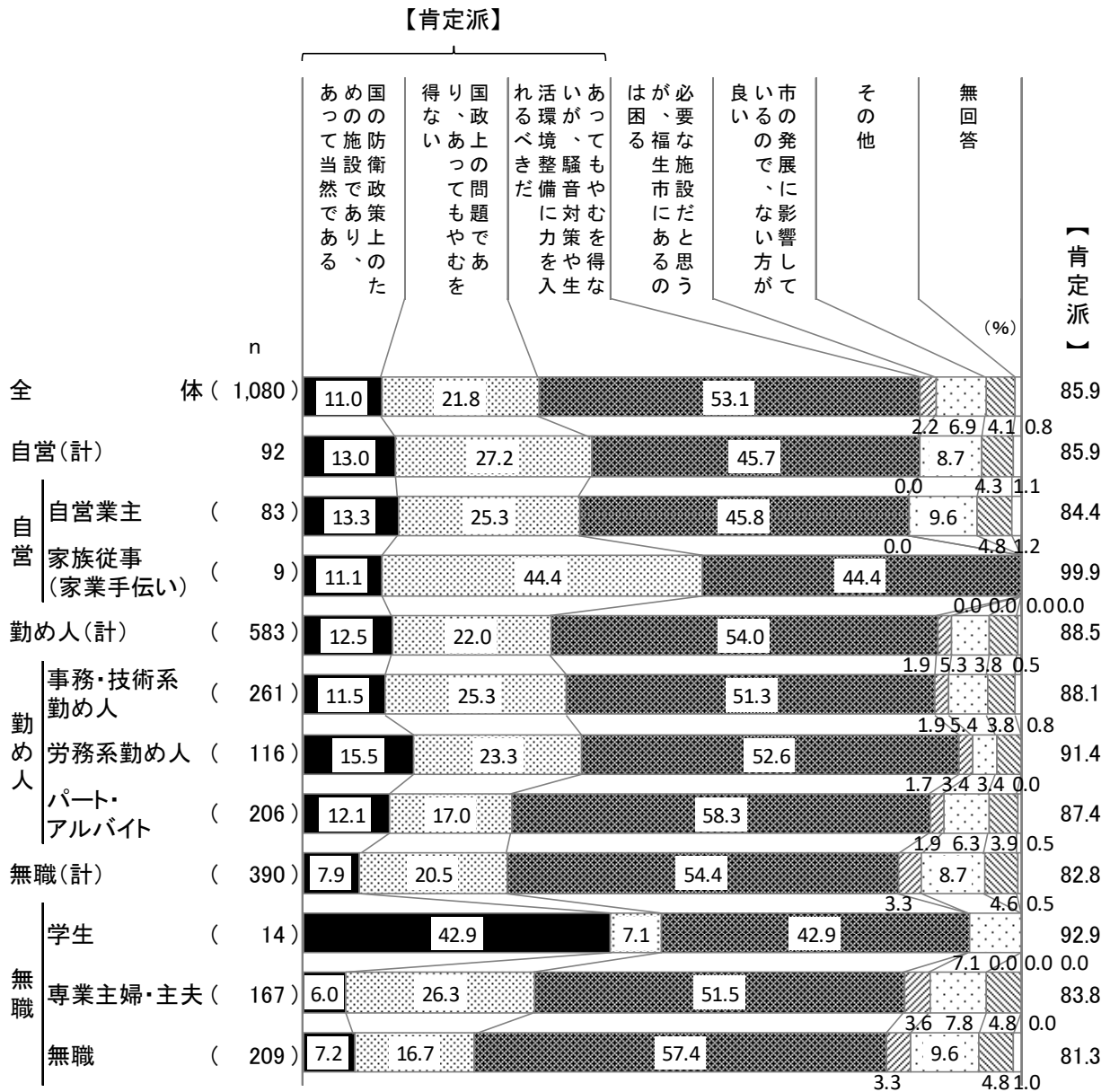
<図表6-4>横田基地の賛否／性別、性・年代別



職業別でみると、【肯定派】は労務系勤め人（91.4%）で9割強と高くなっている。「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」は専業主婦・主夫（26.3%）で3割弱と高くなっている。

（図表6-5）

<図表6-5>横田基地の賛否／職業別



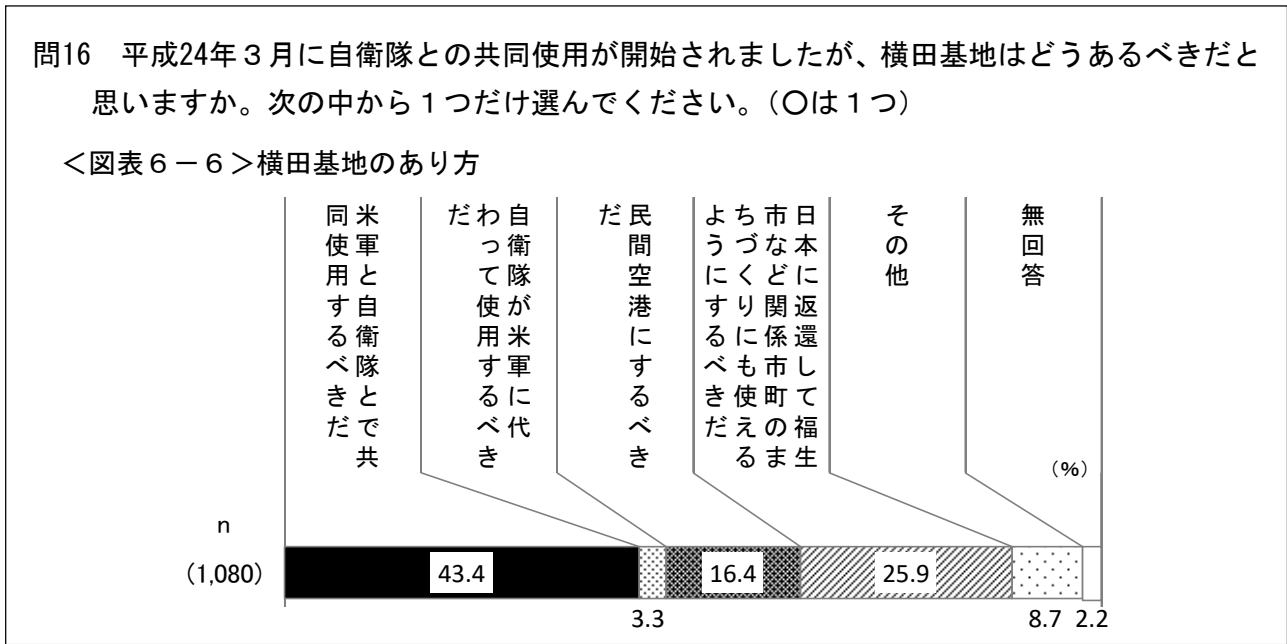


(2) 横田基地のあり方

◇「米軍と自衛隊とで共同使用すべきだ」が4割強

問16 平成24年3月に自衛隊との共同使用が開始されましたが、横田基地はどうあるべきだと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

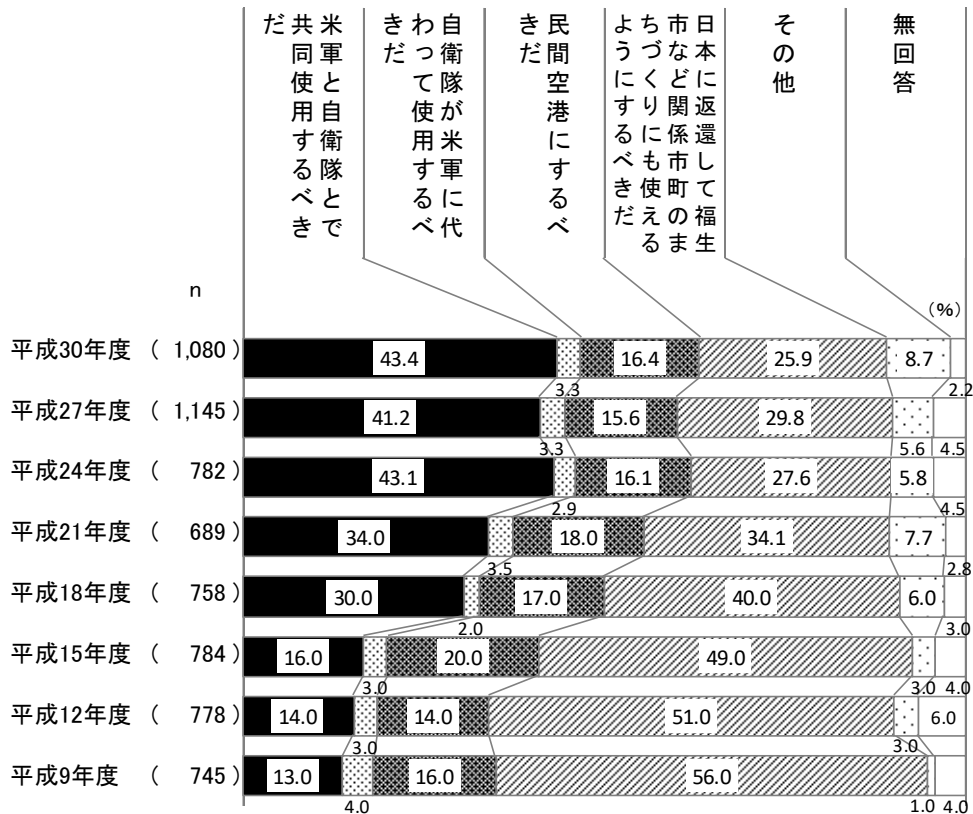
<図表6-6>横田基地のあり方



横田基地のあり方を聞いたところ、「米軍と自衛隊とで共同使用すべきだ」(43.4%)が4割強で最も高く、次いで「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」(25.9%)、「民間空港にするべきだ」(16.4%)となっている。(図表6-6)

過年度の調査結果の推移をみると、「米軍と自衛隊とで共同使用すべきだ」は平成24年度以降4割台で推移し、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」は平成24年度以降2割台後半で推移している。(図表6-7)

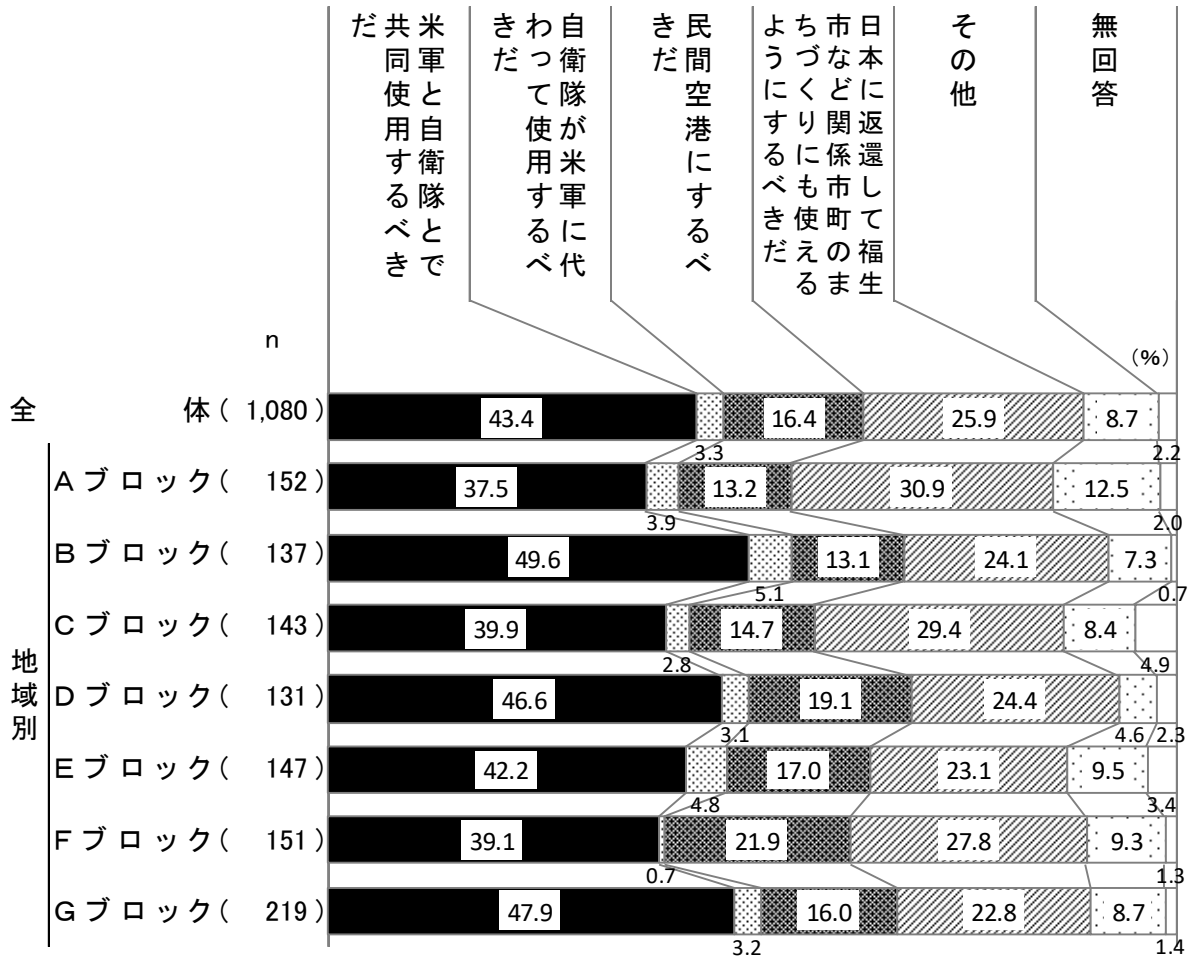
<図表6-7>横田基地のあり方/過年度推移



地域別でみると、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」はAブロック（30.9%）とCブロック（29.4%）で約3割と高くなっている。「民間空港にするべきだ」はDブロック（19.1%）で約2割、Fブロック（21.9%）で2割強となっている。

（図表6-8）

＜図表6-8＞横田基地のあり方／地域別

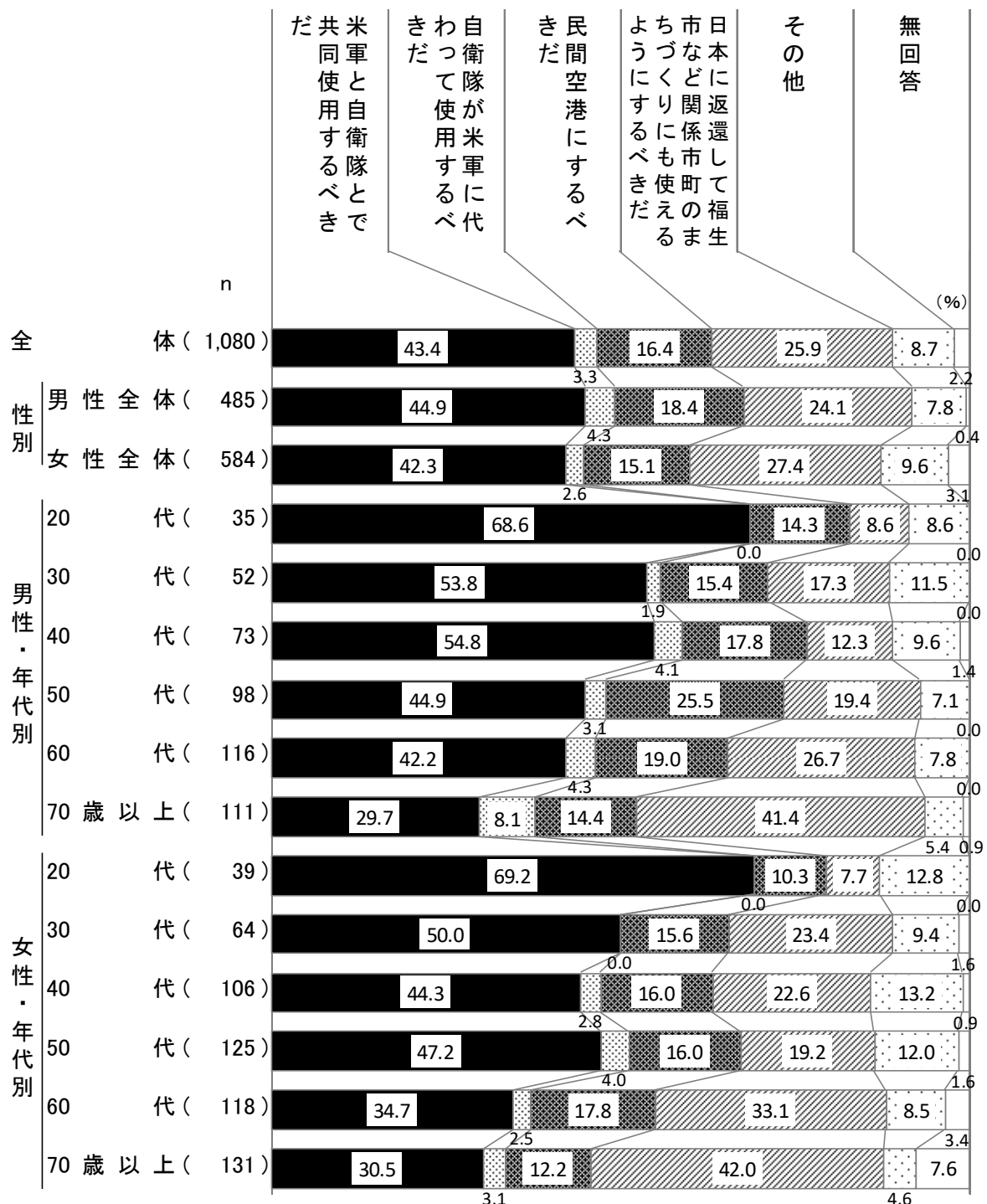


性別でみると、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」は女性（27.4%）が男性（24.1%）より3.3ポイント高くなっている。「民間空港にするべきだ」は男性（18.4%）が女性（15.1%）より3.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」は男性20代（68.6%）で7割弱、女性20代（69.2%）で約7割と高くなっている。「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」は男性70歳以上（41.4%）と女性70歳以上（42.0%）で4割強と高くなっている。「民間空港にするべきだ」は男性50代（25.5%）で2割台半ばと高くなっている。

（図表6-9）

<図表6-9>横田基地のあり方／性別、性・年代別



## 7. 防災・防犯対策

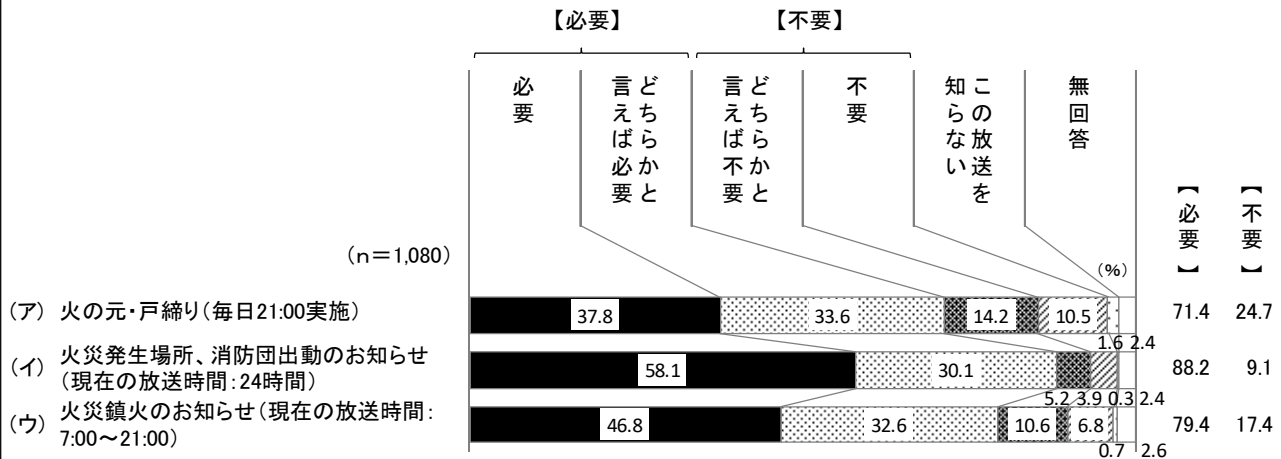
### (1) 防災行政無線による放送

◇【必要】は「気象警報のお知らせ(大雨・土砂災害・光化学スモッグ警報など)」が9割台半ば

問17 防災行政無線による放送について、次の設問にお答え下さい。

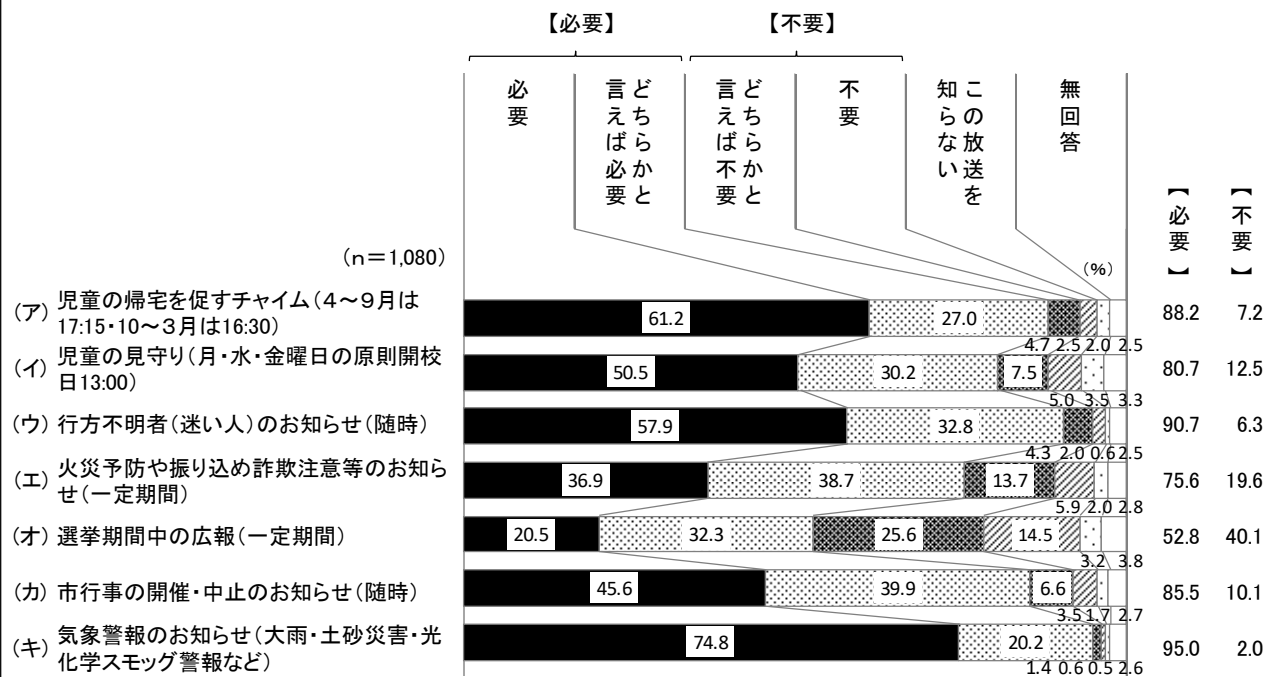
次の防災行政無線による放送について、どのように思いますか。次の(ア)から(ウ)までの項目について、それぞれ1つずつ番号で選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

<図表7-1>防災行政無線による放送



問18 次の防災行政無線による放送について、次の(ア)から(キ)の項目にあてはまるものを、それぞれ1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

<図表7-2>防災行政無線による放送



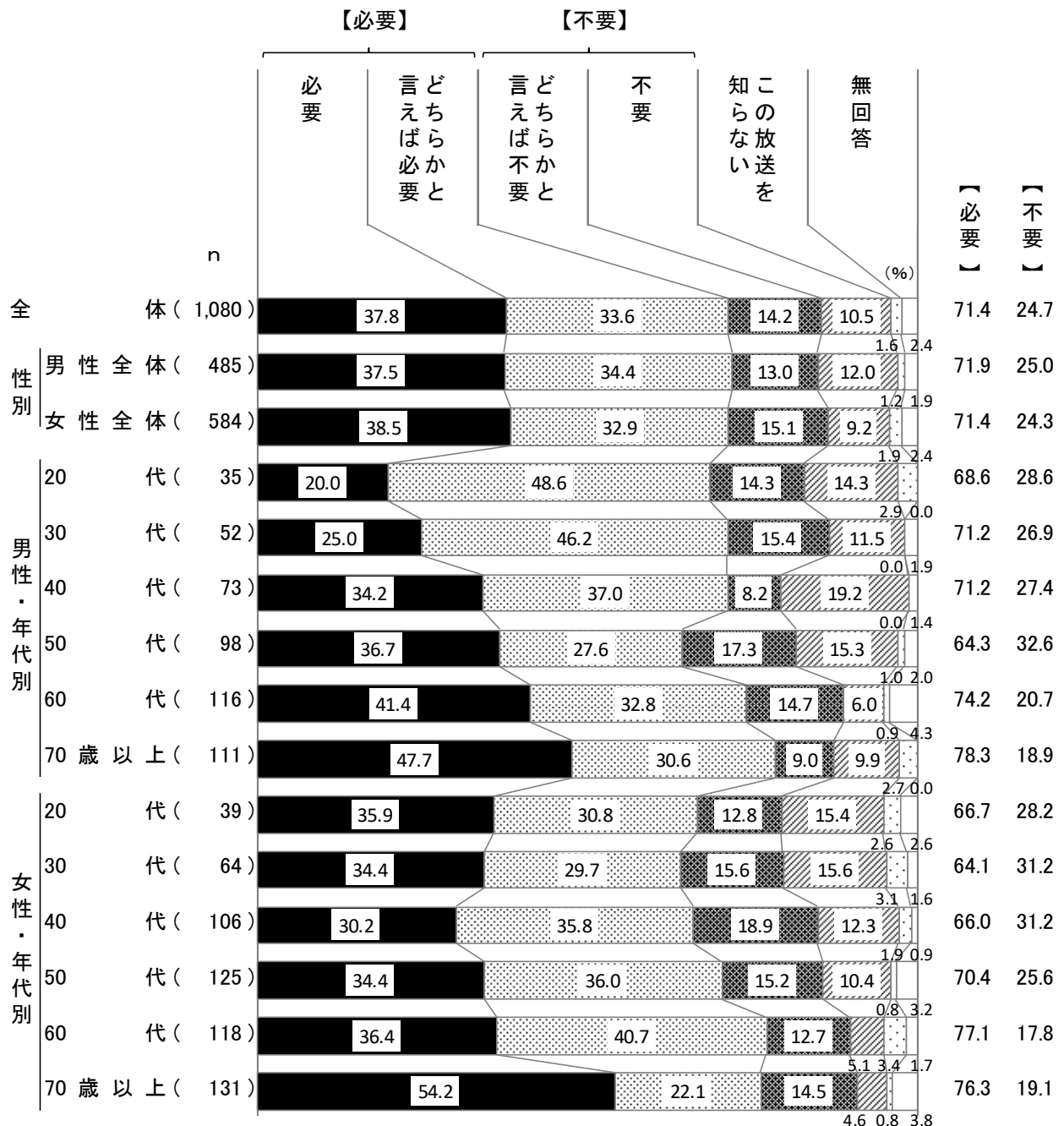
防災行政無線による放送について、10項目に分けてどのように思うか聞いたところ、「必要」と「どちらかと言えば必要」の2つを合わせた【必要】は、(キ) 気象警報のお知らせ(大雨・土砂災害・光化学スモッグ警報など) (95.0%) が9割台半ばで最も高く、次いで(ウ) 行方不明者(迷い人)のお知らせ(90.7%)、(イ) 火災発生場所、消防団出動のお知らせ(88.2%)、(ア) 児童の帰宅を促すチャイム(88.2%)となっている。

一方、「どちらかと言えば不要」と「不要」の2つを合わせた【不要】は、(オ) 選挙期間中の広報(40.1%)が約4割で最も高く、次いで(ア) 火の元・戸締り(24.7%)が2割台半ばとなっている。(図表7-1・7-2)

(ア) 火の元・戸締りについて性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年代別でみると、【必要】は男性70歳以上(78.3%)と女性60代(77.1%)・女性70歳以上(76.3%)で8割弱と高くなっている。一方、【不要】は男性50代(32.6%)、女性30代(31.2%)・女性40代(31.2%)で3割強と高くなっている。(図表7-3)

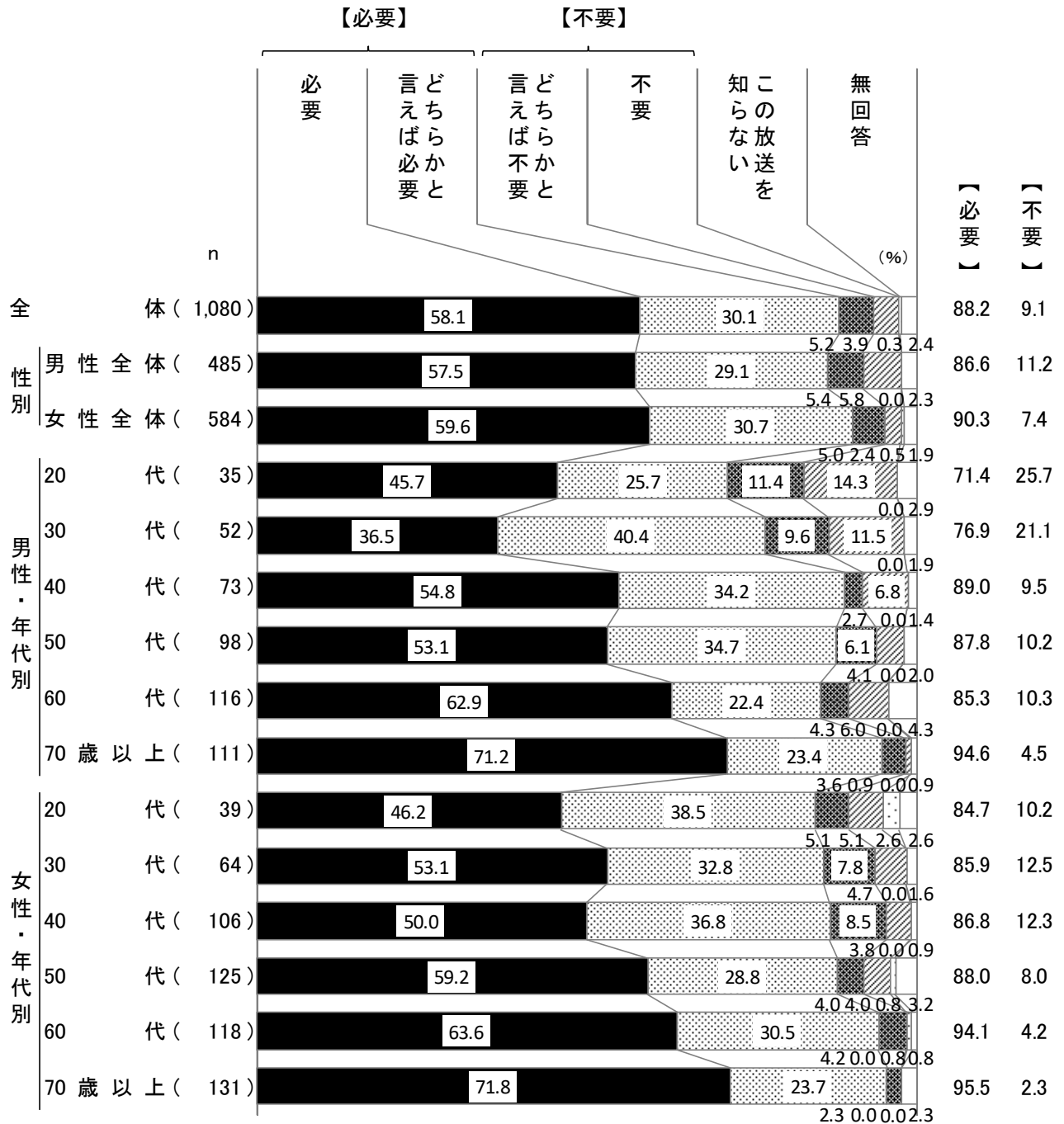
<図表7-3>防災行政無線による放送(ア)火の元・戸締り/性別、性・年代別



(イ) 火災発生場所、消防団出動のお知らせについて性別でみると、【必要】は女性（90.3%）が男性（86.6%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は男性70歳以上（94.6%）と女性60代（94.1%）・女性70歳以上（95.5%）で9割台半ばと高くなっている。一方、【不要】は男性20代（25.7%）で2割台半ばと高くなっている。（図表7-4）

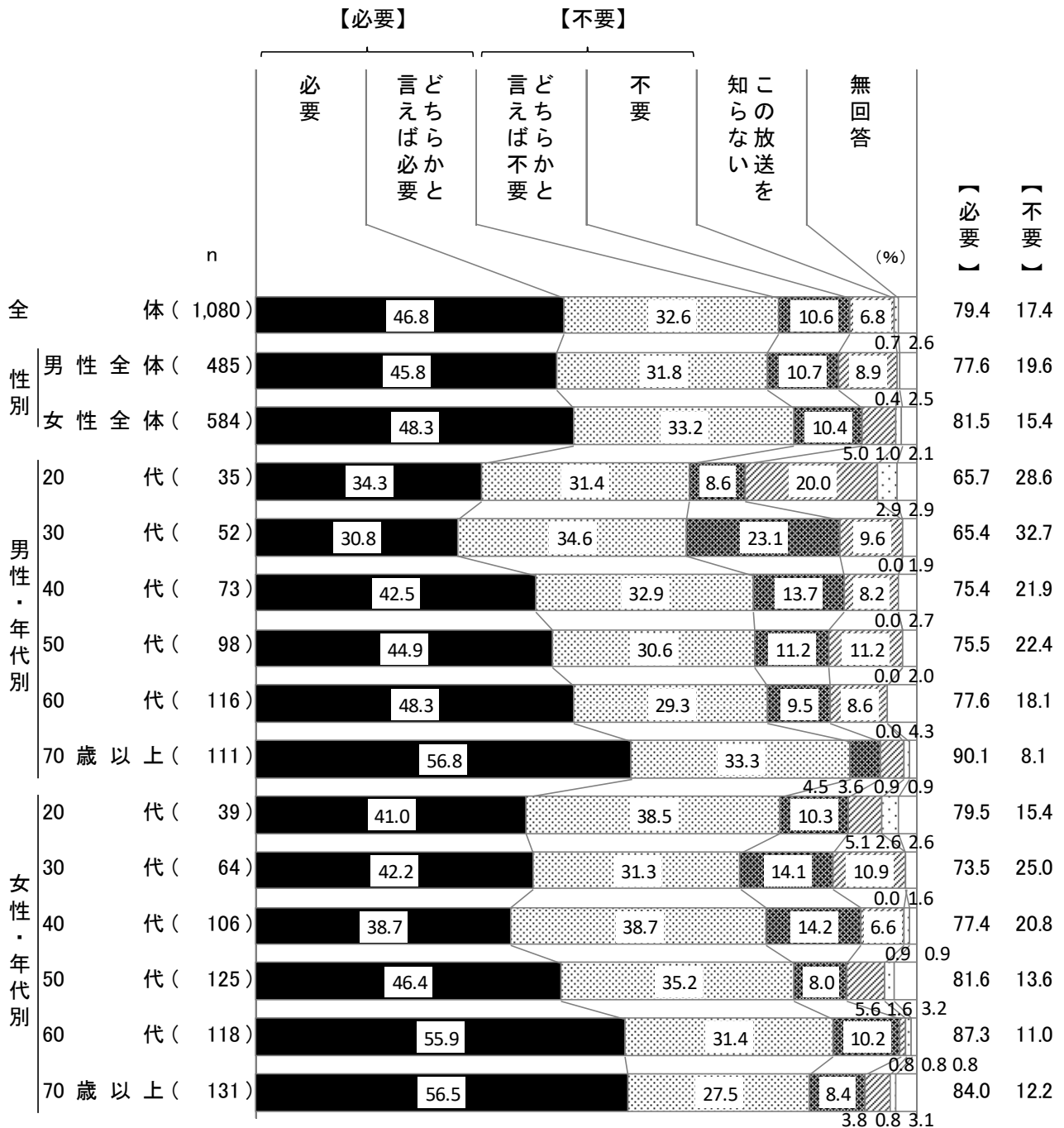
<図表7-4>防災行政無線による放送（イ）火災発生場所、消防団出動のお知らせ  
／性別、性・年代別



(ウ) 火災鎮火のお知らせについて性別でみると、【必要】は女性（81.5%）が男性（77.6%）より3.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は男性70歳以上（90.1%）で約9割と高くなっている。一方、【不要】は男性30代（32.7%）で3割強と高くなっている。（図表7-5）

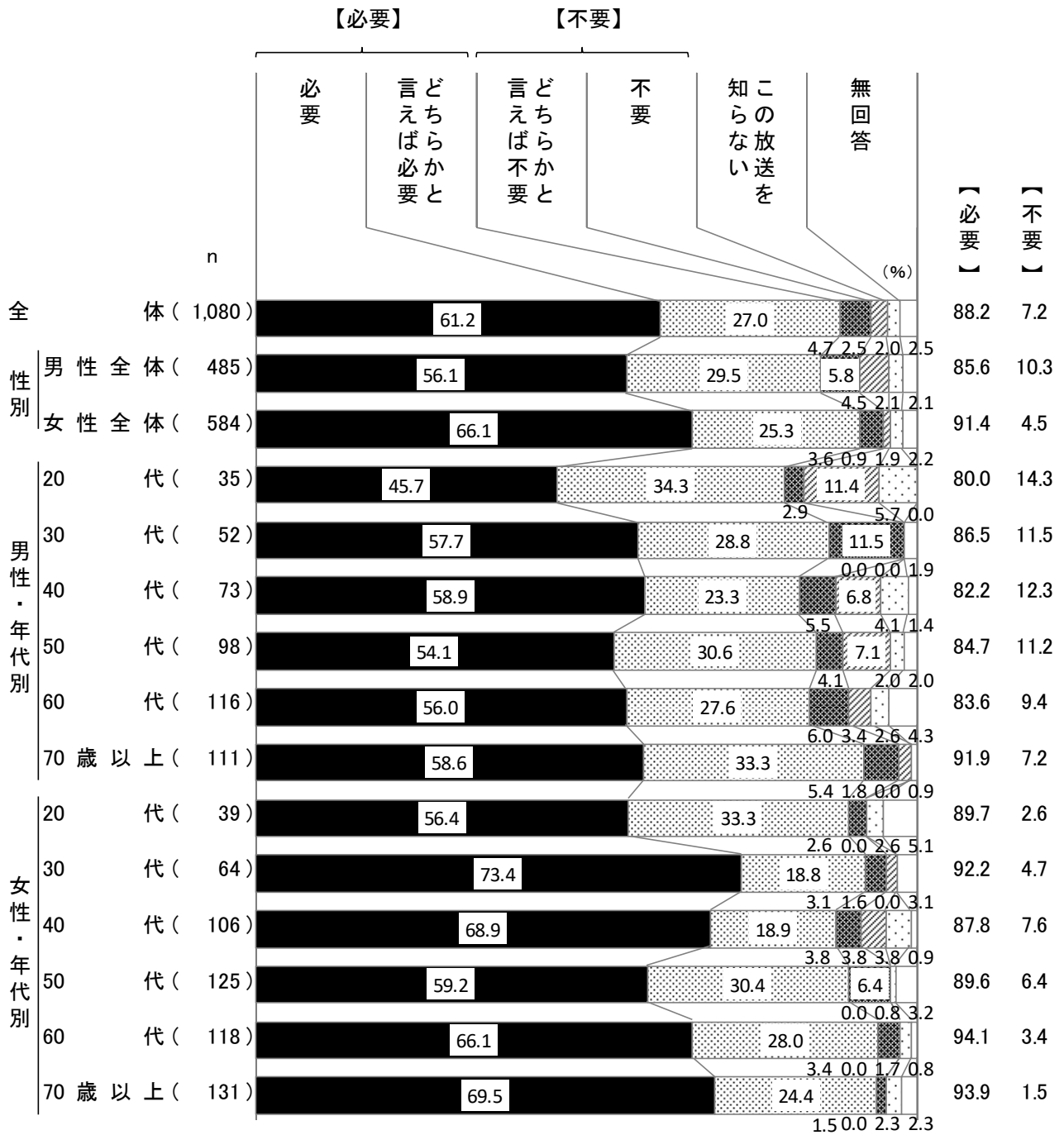
<図表7-5>防災行政無線による放送（ウ）火災鎮火のお知らせ／性別、性・年代別



(ア) 児童の帰宅を促すチャイムについて性別でみると、【必要】は女性(91.4%)が男性(85.6%)より5.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】はすべての性・年代で8割以上となっている。一方、【不要】は男性20代(14.3%)で1割台半ばとなっている。(図表7-6)

<図表7-6>防災行政無線による放送(ア)児童の帰宅を促すチャイム/性別、性・年代別

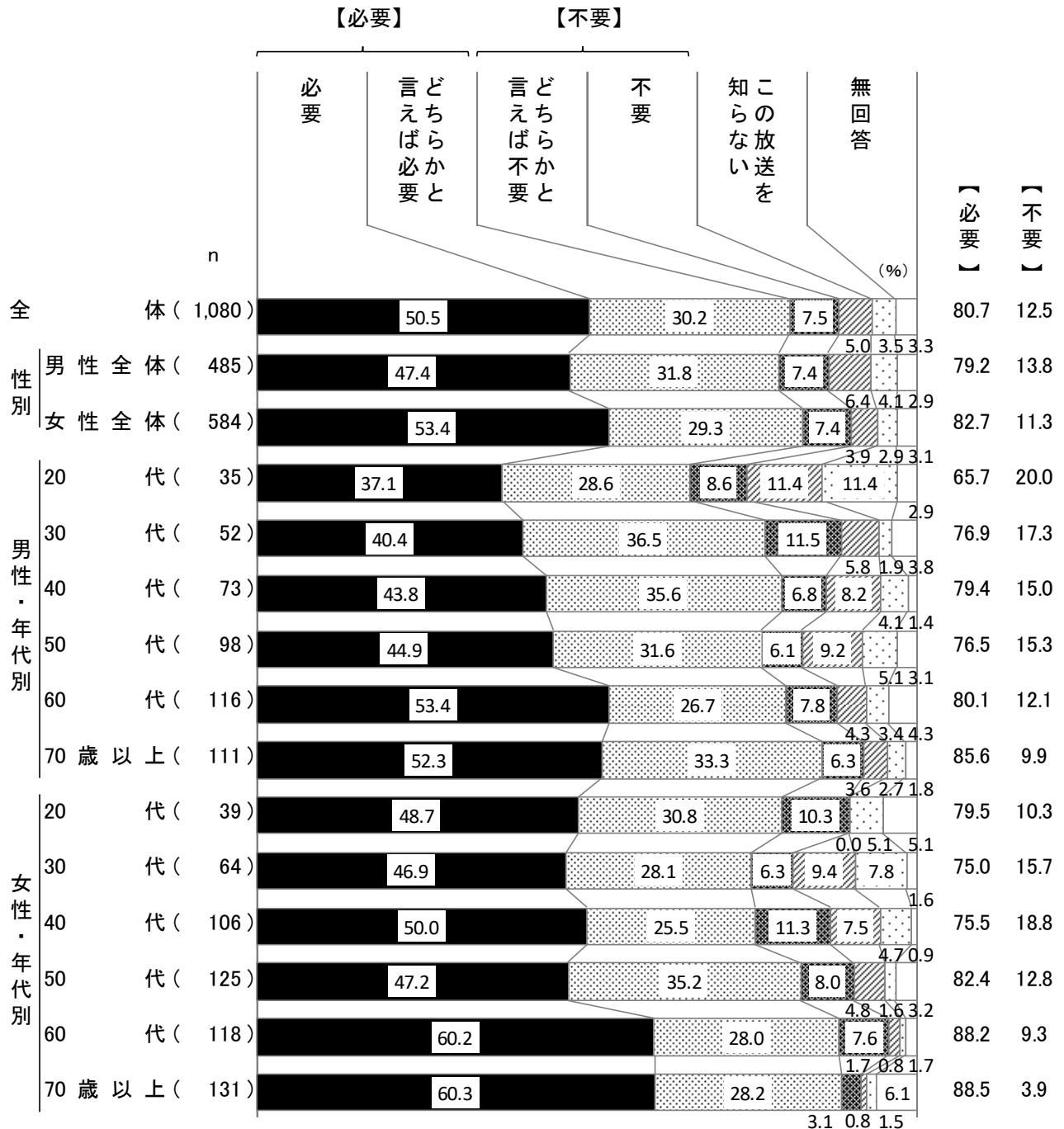




(イ) 児童の見守りについて性別でみると、【必要】は女性（82.7%）が男性（79.2%）より3.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は男性70歳以上（85.6%）で8割台半ば、女性60代（88.2%）・女性70歳以上（88.5%）で9割弱と高くなっている。一方、【不要】は男性20代（20.0%）で2割、女性40代（18.8%）で2割弱と高くなっている。（図表7-7）

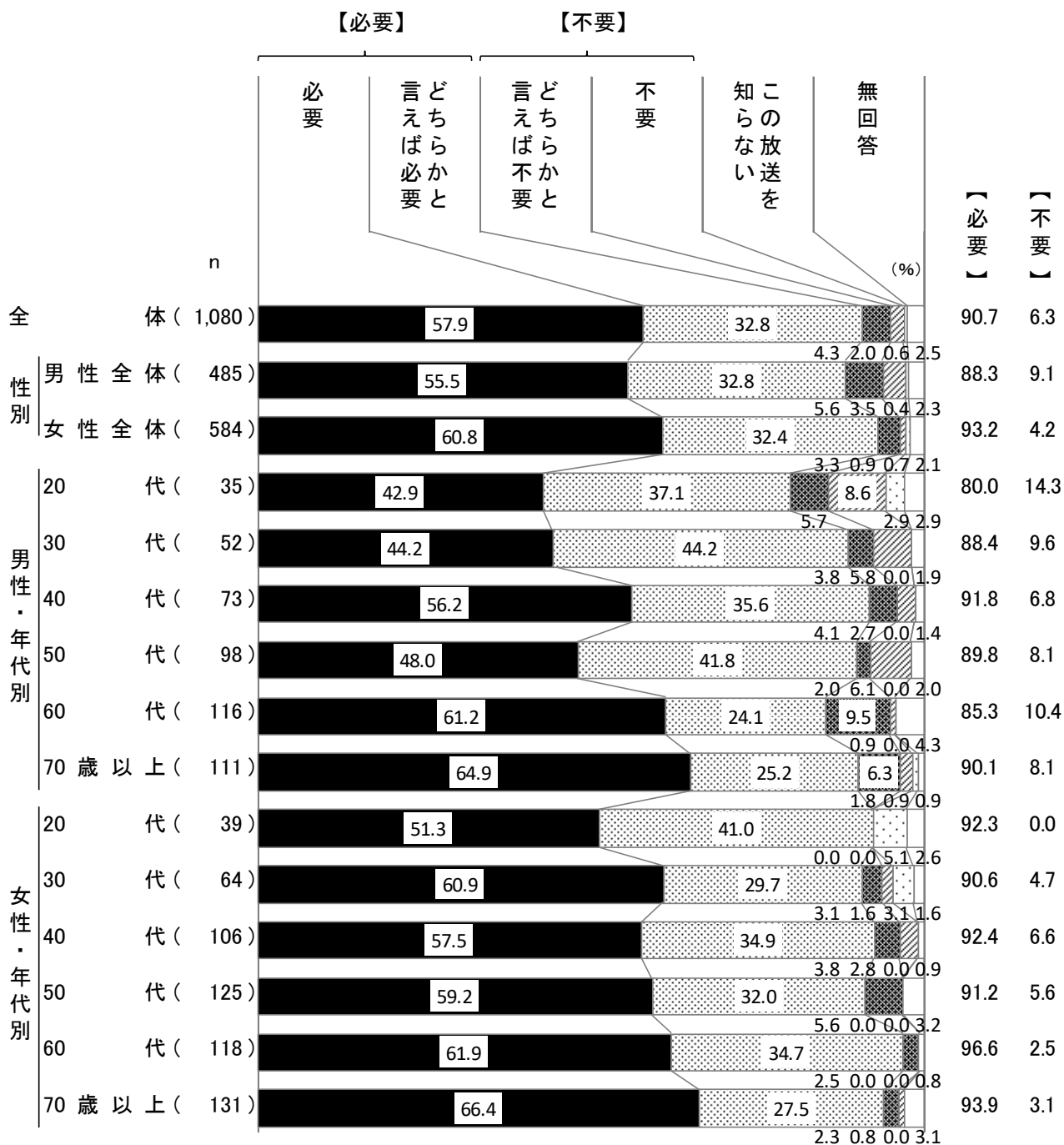
<図表7-7>防災行政無線による放送（イ）児童の見守り／性別、性・年代別



(ウ) 行方不明者のお知らせについて性別で見ると、【必要】は女性（93.2%）が男性（88.3%）より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【必要】はすべての性・年代で8割以上となっている。一方、【不要】は男性20代（14.3%）で1割台半ばと高くなっている。（図表7-8）

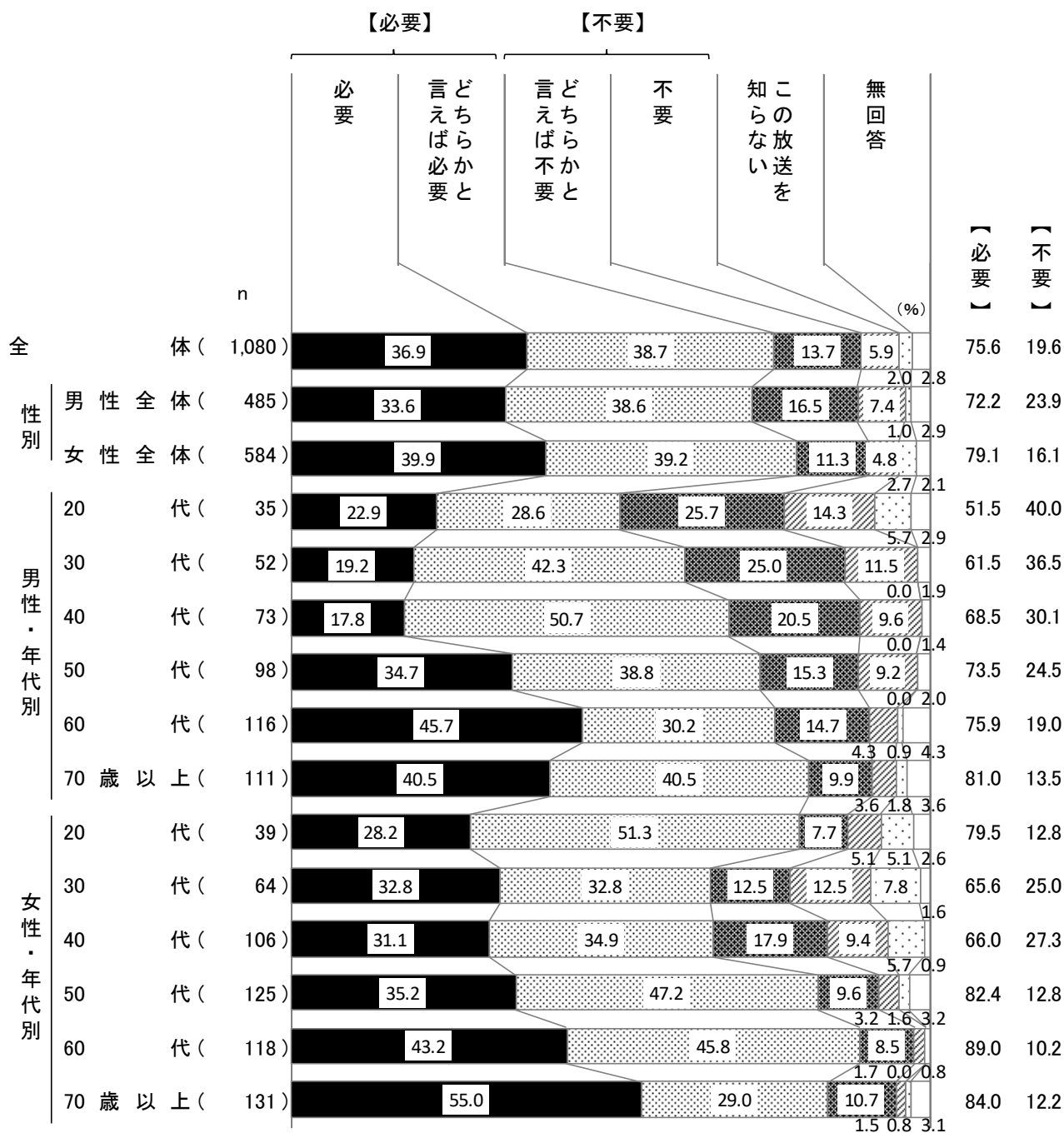
<図表7-8>防災行政無線による放送（ウ）行方不明者のお知らせ／性別、性・年代別



(エ) 火災予防や振り込め詐欺注意等のお知らせについて性別で見ると、【必要】は女性(79.1%)が男性(72.2%)より6.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【必要】は男性70歳以上(81.0%)で8割強、女性60代(89.0%)で約9割と高くなっている。一方、【不要】は男性20代(40.0%)で4割、男性30代(36.5%)で4割弱と高くなっている。(図表7-9)

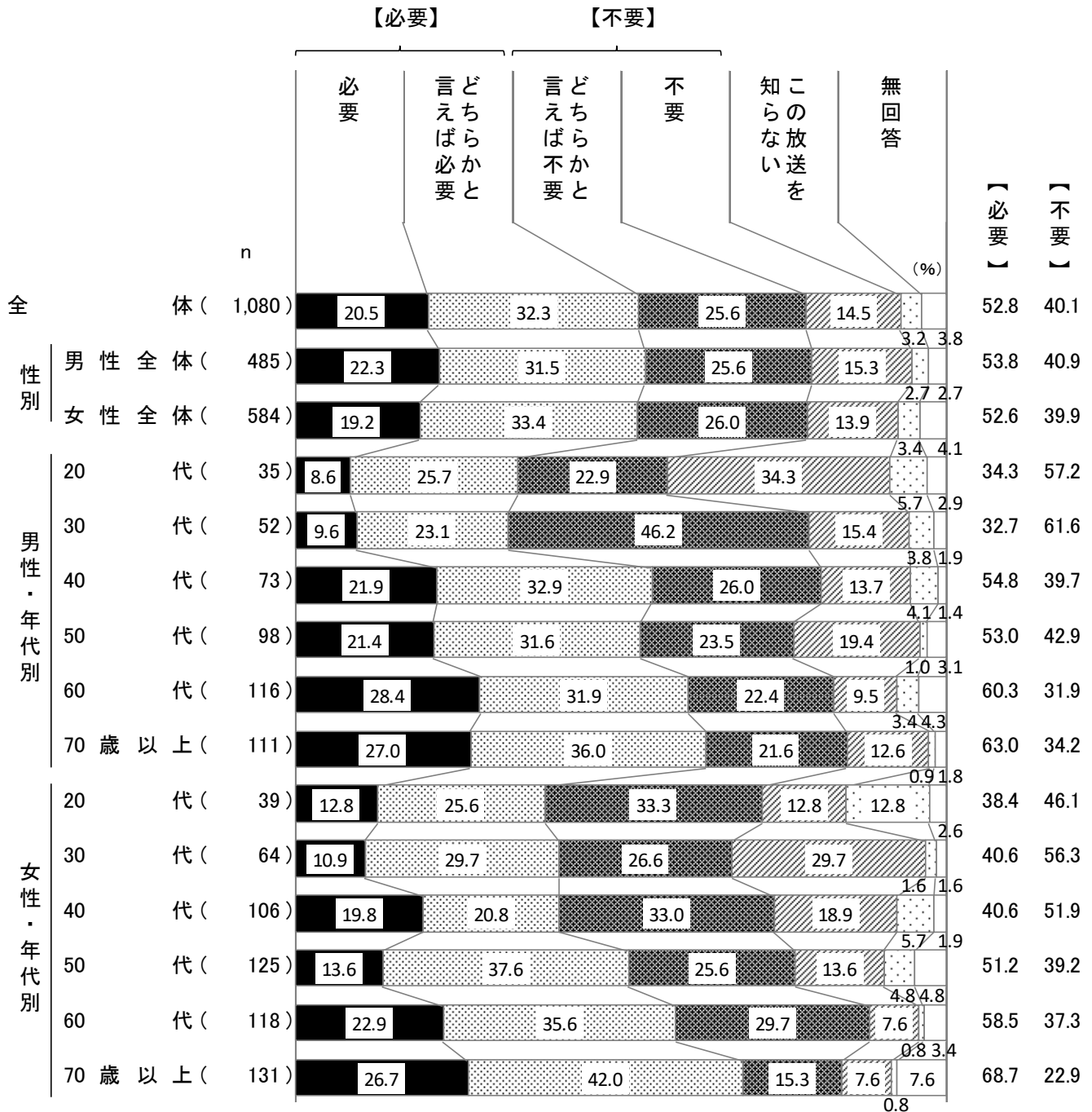
<図表7-9>防災行政無線による放送(エ)火災予防や振り込め詐欺注意等のお知らせ  
／性別、性・年代別



(オ) 選挙期間中の広報について性別でみると、【必要】は男性（53.8%）が女性（52.6%）より1.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は女性70歳以上（68.7%）で7割弱と高くなっている。一方、【不要】は男性30代（61.6%）で6割強、男性20代（57.2%）と女性30代（56.3%）で6割弱と高くなっている。（図表7-10）

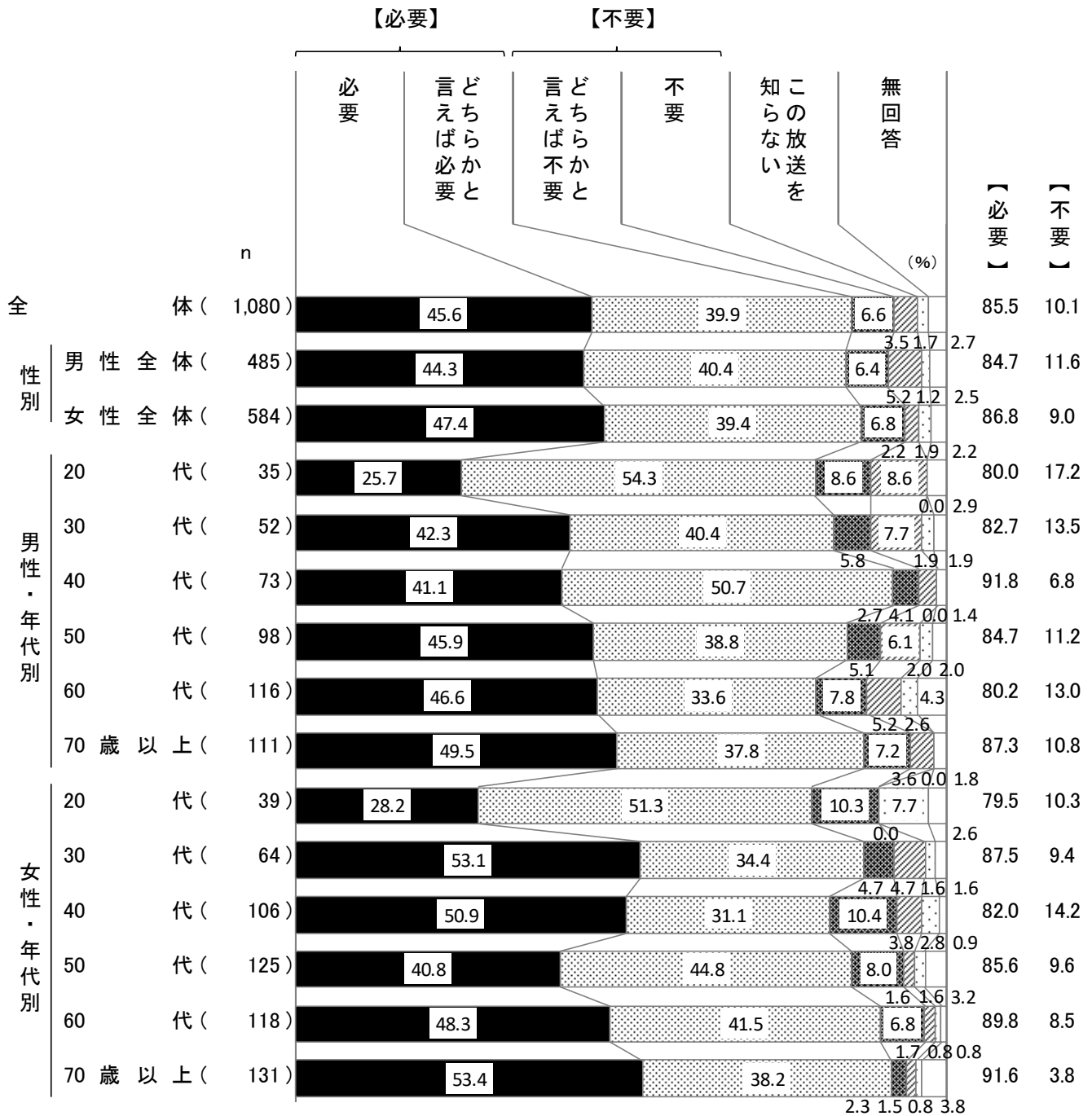
<図表7-10>防災行政無線による放送（オ）選挙期間中の広報／性別、性・年代別



(カ) 市行事の開催・中止のお知らせについて性別でみると、【必要】は女性（86.8%）が男性（84.7%）より2.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は女性20代（79.5%）を除くすべての性・年代で8割以上となっている。一方、【不要】は男性20代（17.2%）で2割弱となっている。（図表7-11）

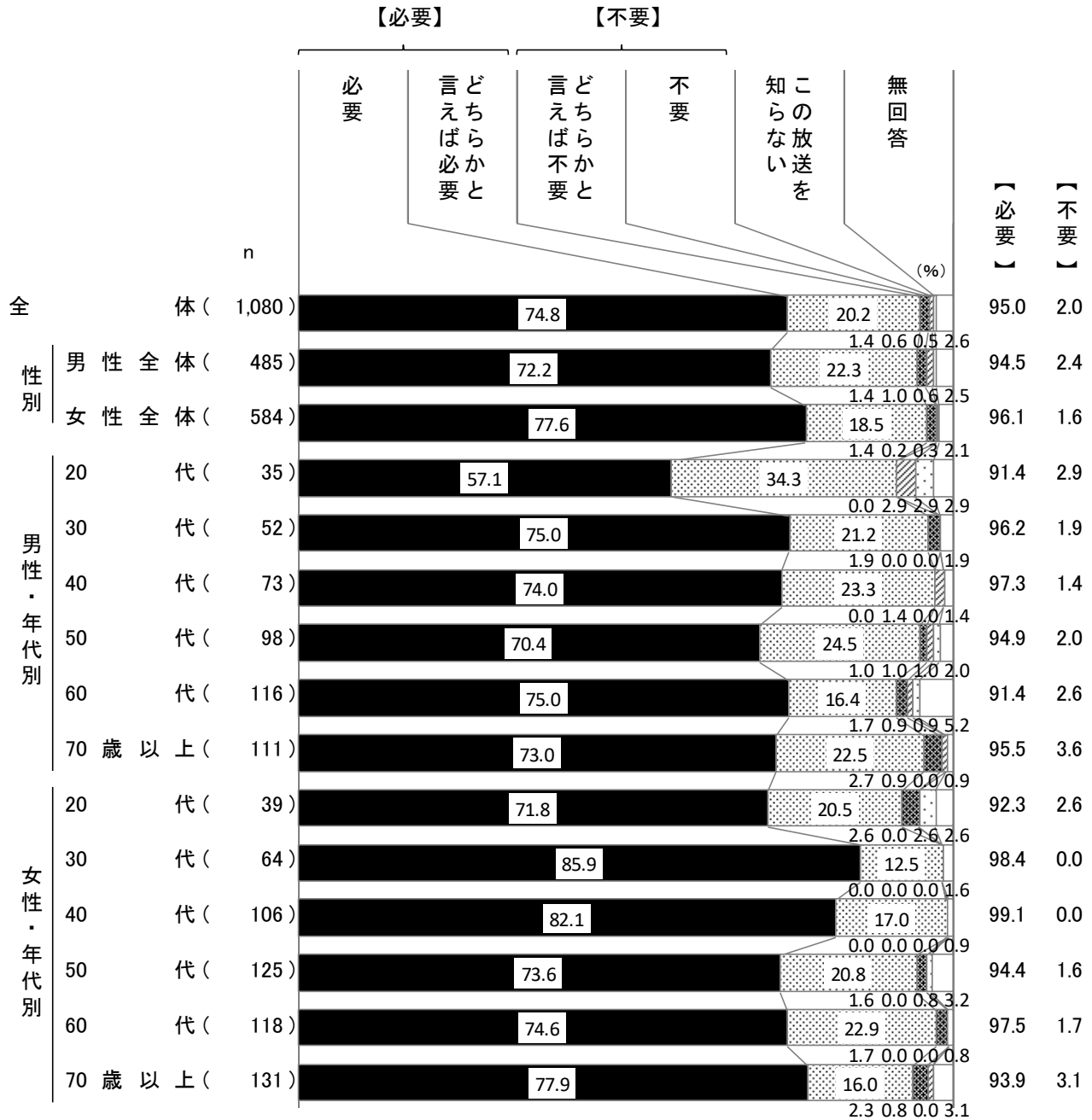
<図表7-11>防災行政無線による放送（カ）市行事の開催・中止のお知らせ／性別、性・年代別



(キ) 気象警報のお知らせについて性別でみると、【必要】は女性（96.1%）が男性（94.5%）より1.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】はすべての性・年代で9割台となっている。（図表7-12）

<図表7-12>防災行政無線による放送（キ）気象警報のお知らせ／性別、性・年代別

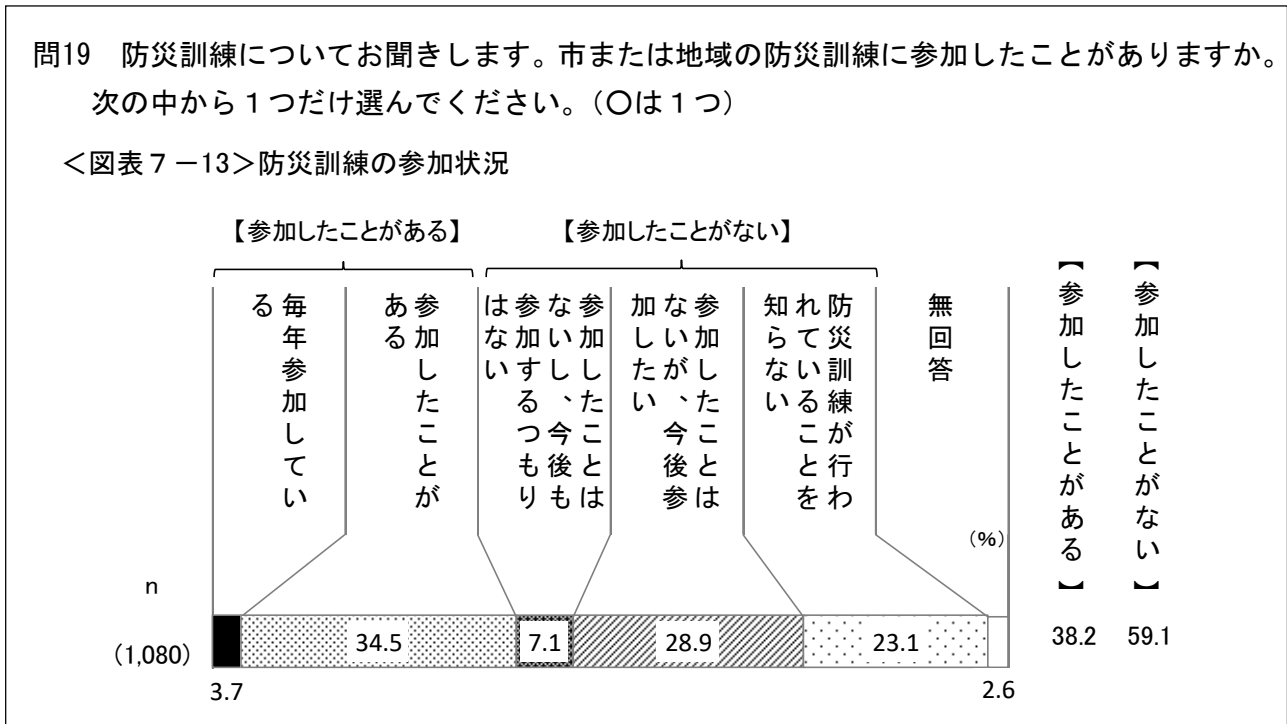


(2) 防災訓練の参加状況

◇【参加したことがある】が4割弱

問19 防災訓練についてお聞きします。市または地域の防災訓練に参加したことがありますか。  
次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

<図表7-13>防災訓練の参加状況

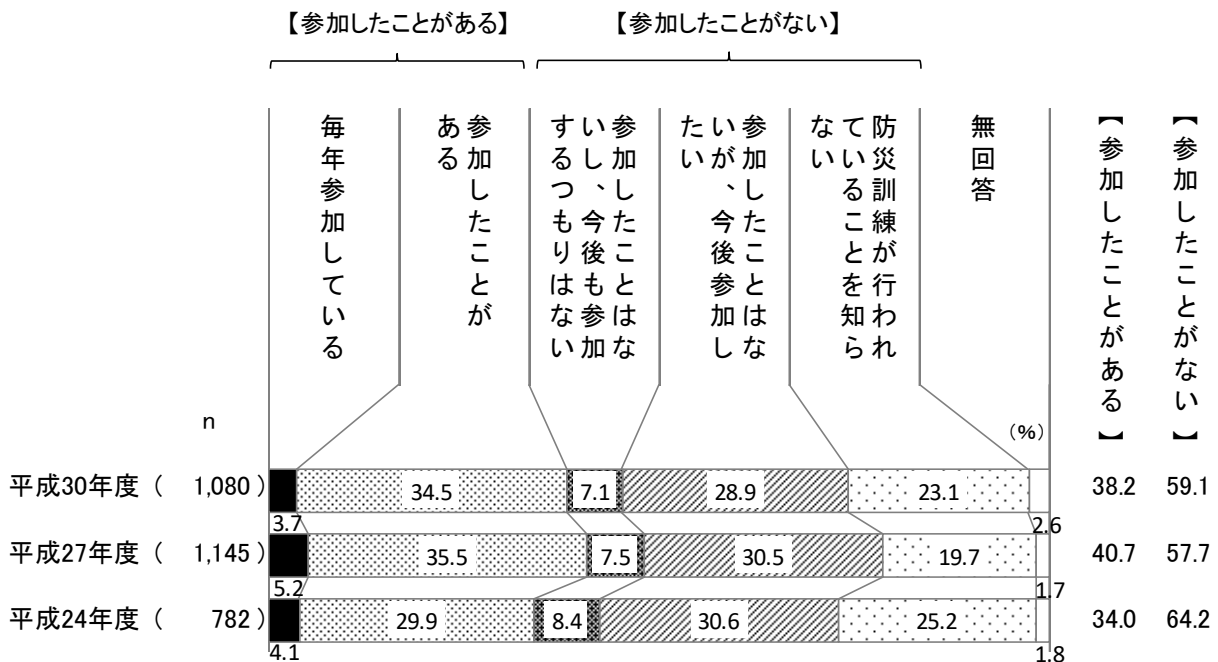


防災訓練の参加状況を聞いたところ、「毎年参加している」(3.7%)と「参加したことがある」(34.5%)の2つを合わせた【参加したことがある】(38.2%)が4割弱となっている。一方、「参加したことはないし、今後も参加するつもりはない」(7.1%)と「参加したことはないが、今後参加したい」(28.9%)、「防災訓練が行われていることを知らない」(23.1%)の3つを合わせた【参加したことがない】(59.1%)は約6割となっている。(図表7-13)

前回の調査結果と比較すると、【参加したことがある】は2.5ポイント減少している。

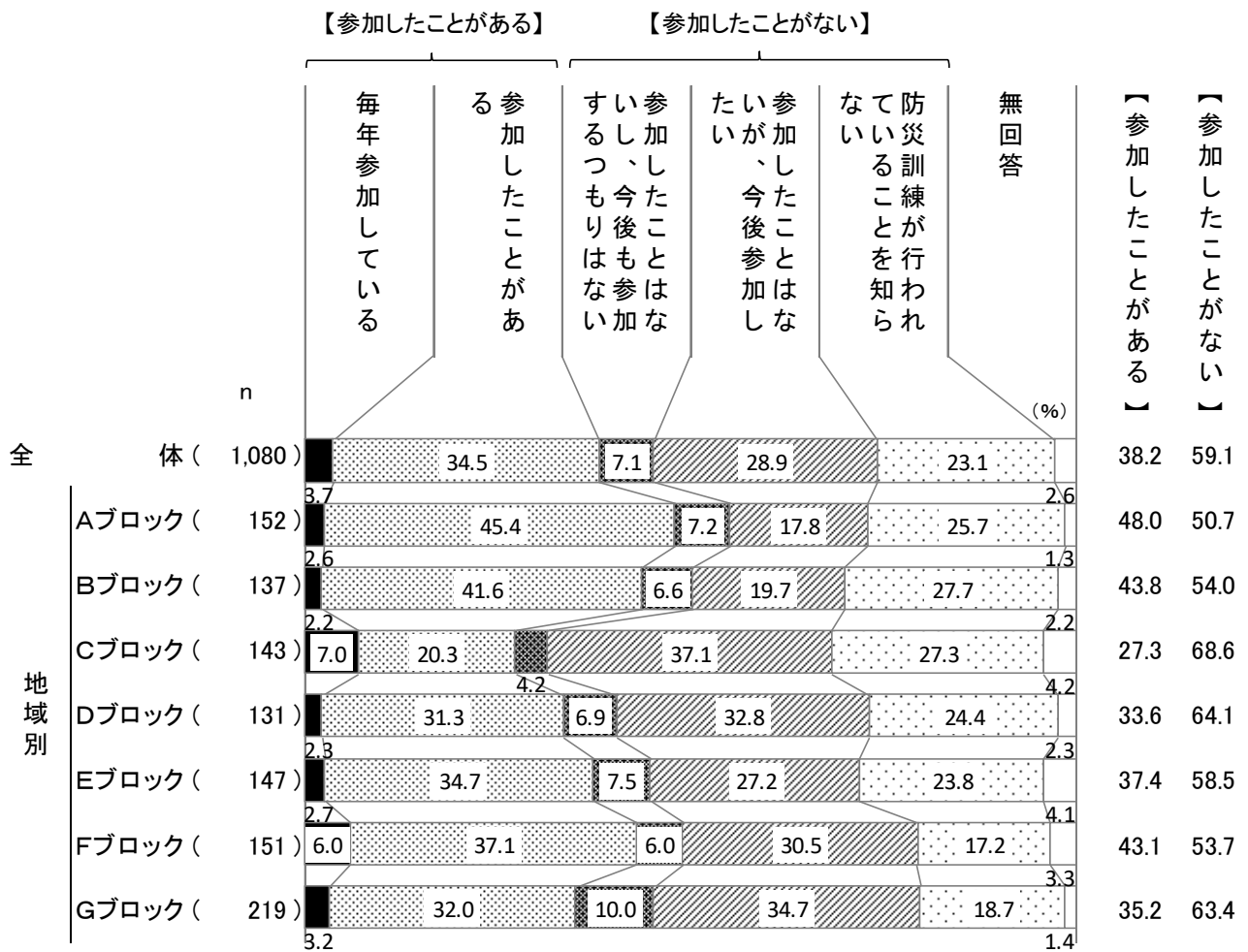
(図表7-14)

<図表7-14>防災訓練の参加状況/過年度推移



地域別で見ると、【参加したことがある】はAブロック（48.0%）で5割弱と高くなっている。一方、【参加したことがない】はCブロック（68.6%）で7割弱と高くなっている。（図表7-15）

<図表7-15>防災訓練の参加状況／地域別



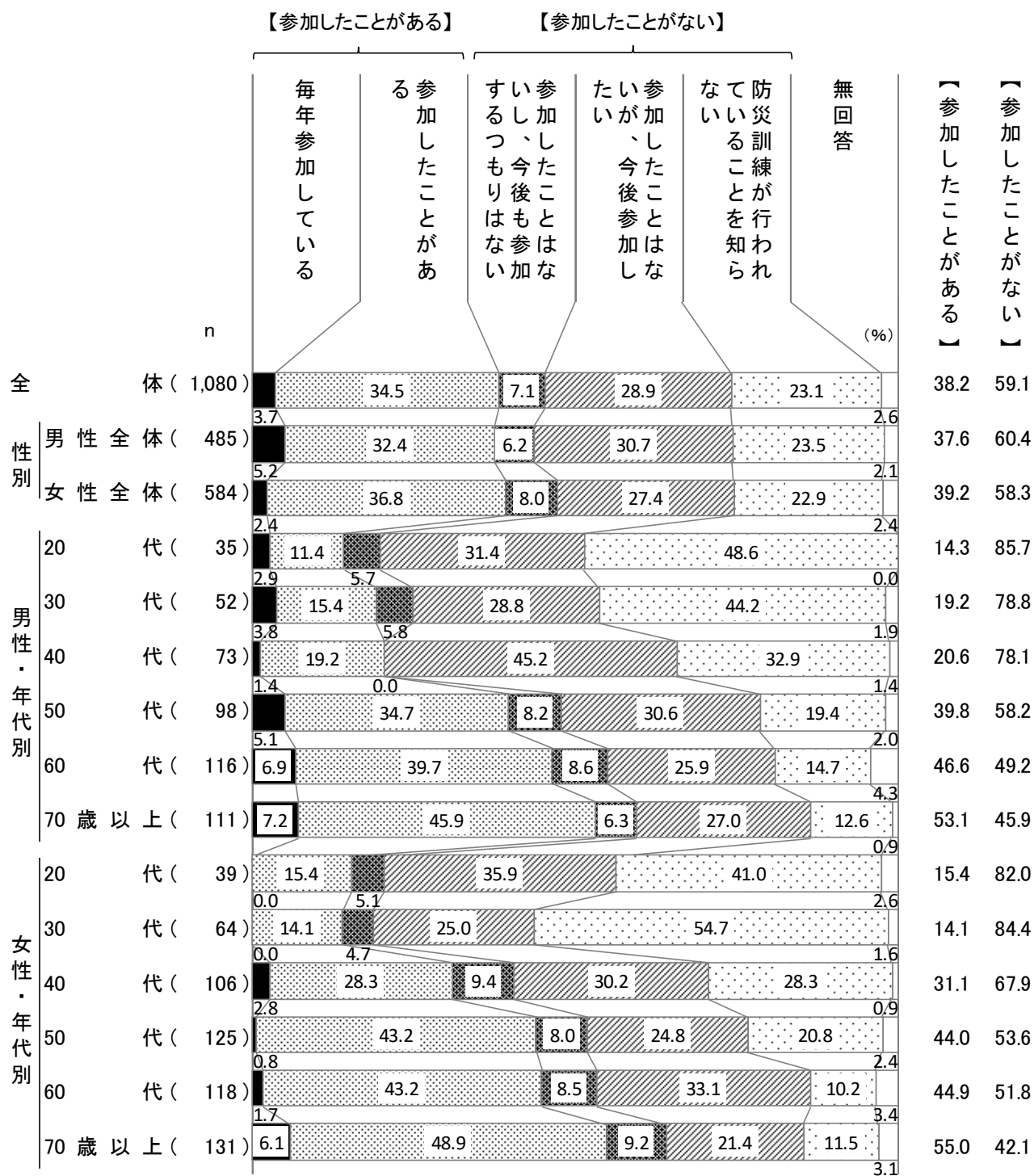


性別で見ると、【参加したことがある】は女性（39.2%）が男性（37.6%）より1.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【参加したことがある】は男性70歳以上（53.1%）で5割強、女性70歳以上（55.0%）で5割台半ばと高くなっている。一方、【参加したことがない】は男性20代（85.7%）で8割台半ば、女性20代（82.0%）・女性30代（84.4%）で8割以上と高くなっている。

（図表7-16）

＜図表7-16＞防災訓練の参加状況／性別、性・年代別

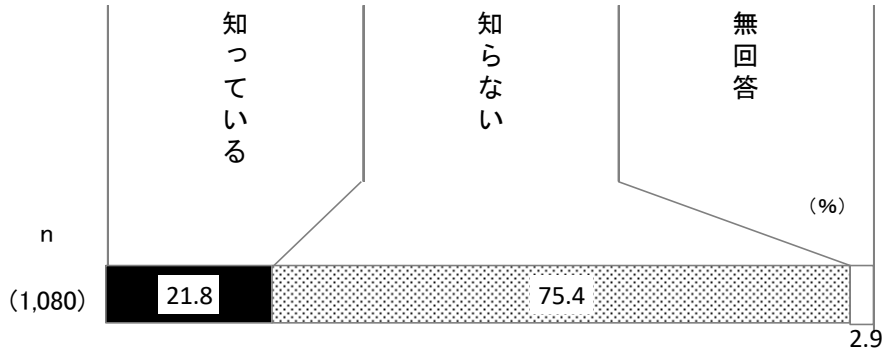


(3) 自主防災組織の認知状況

◇「知っている」が2割強

問20 自主防災組織についてお聞きします。福生市では、全市民を自主防災組織の一員としていますが、自主防災組織を知っていますか。(○は1つ)

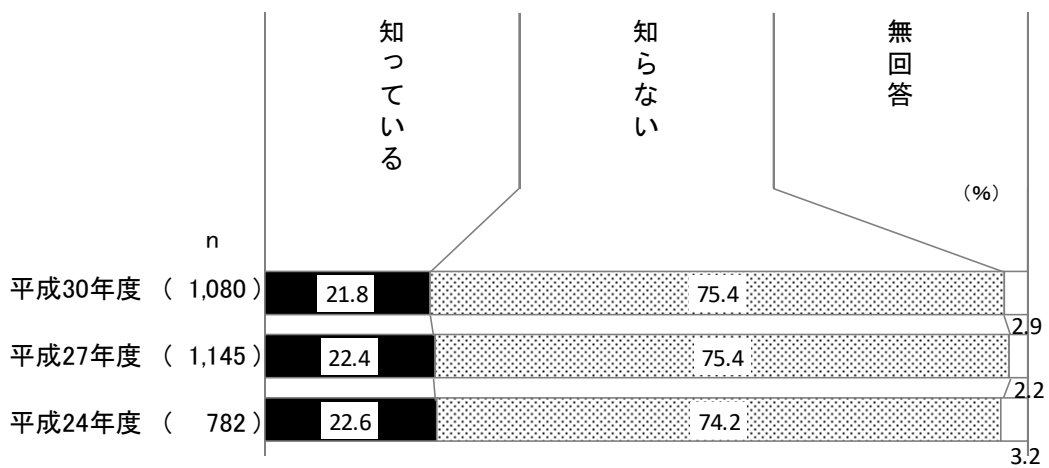
<図表7-17> 自主防災組織の認知状況



自主防災組織を知っているか聞いたところ、「知っている」(21.8%)が2割強となっている。「知らない」(75.4%)は7割台半ばとなっている。(図表7-17)

前回の調査結果と比較しても、大きな傾向の変化はみられない。(図表7-18)

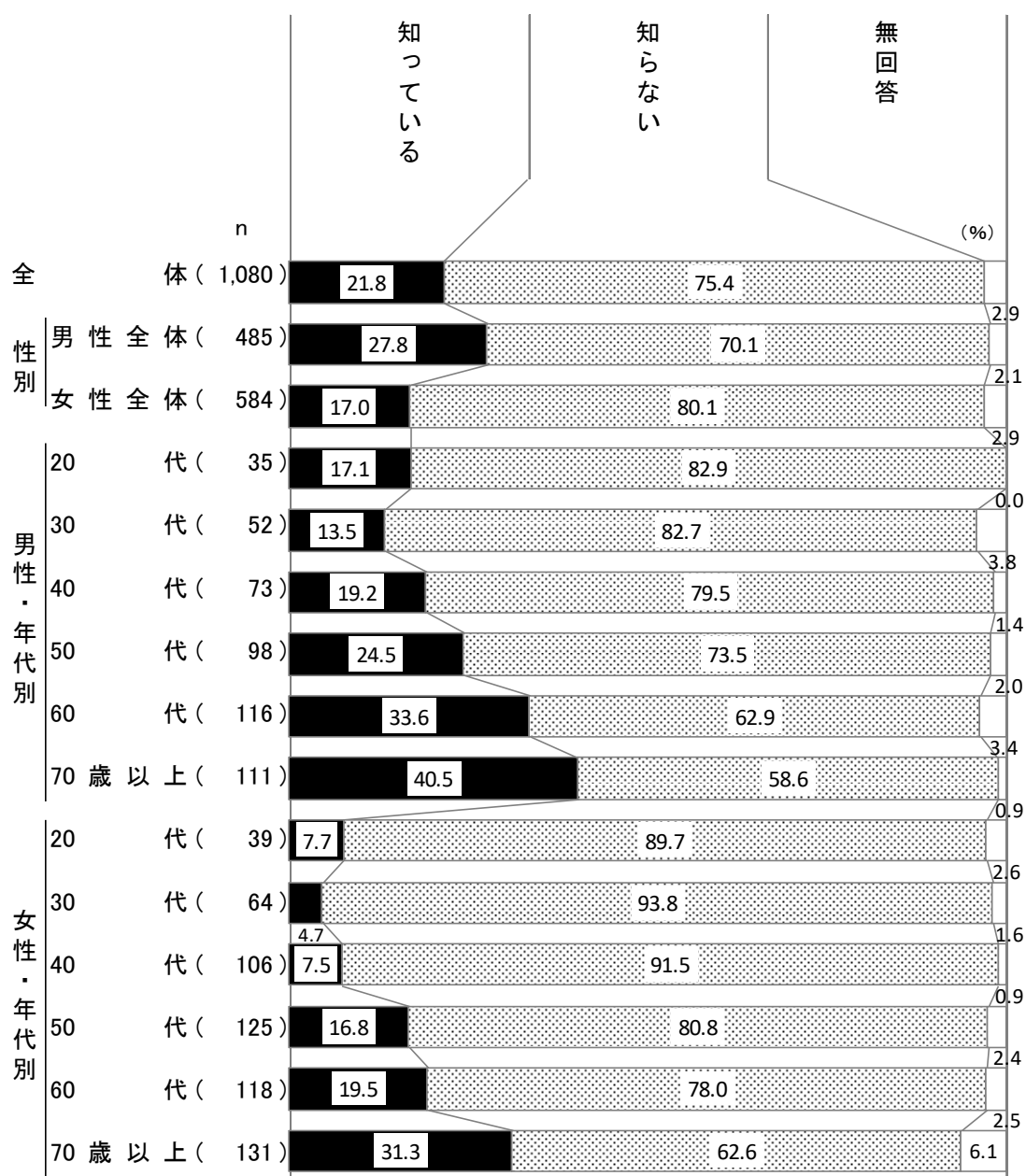
<図表7-18> 自主防災組織の認知状況/過年度推移



性別で見ると、「知っている」は男性（27.8%）が女性（17.0%）より10.8ポイント高くなっている。

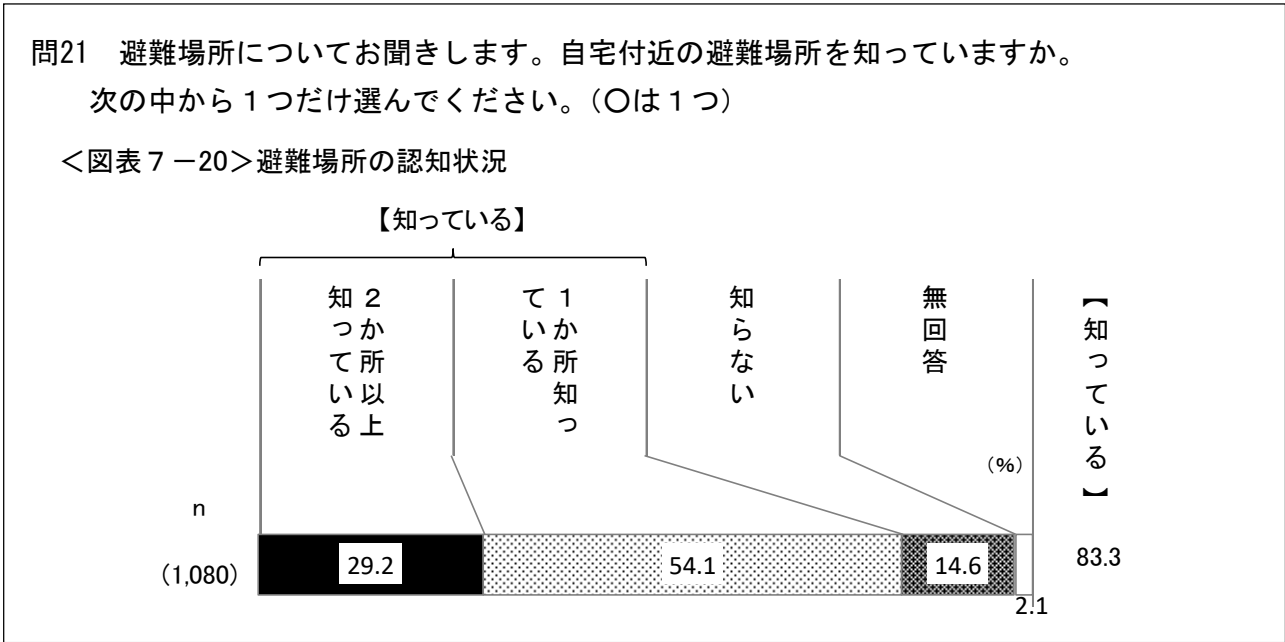
性・年代別で見ると、「知っている」は男性70歳以上（40.5%）で約4割、女性70歳以上（31.3%）で3割強と高くなっている。一方、「知らない」は男性20代（82.9%）と男性30代（82.7%）で8割強、女性20代（89.7%）で約9割、女性30代（93.8%）・女性40代（91.5%）で9割強と高くなっている。（図表7-19）

<図表7-19> 自主防災組織の認知状況／性別、性・年代別



(4) 避難場所の認知状況

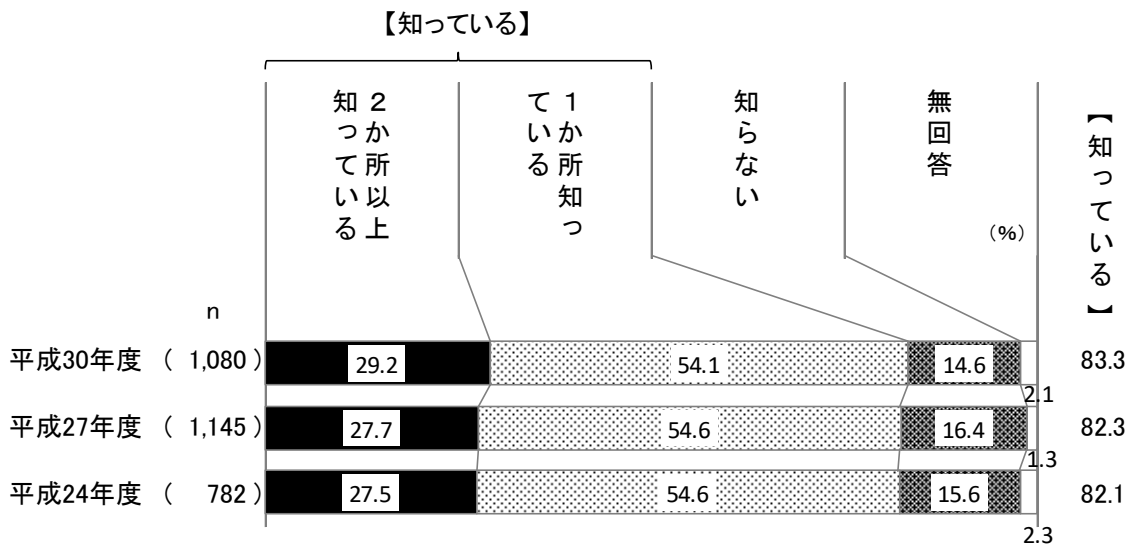
◇【知っている】が8割強



自宅付近の避難場所を知っているか聞いたところ、「2か所以上知っている」(29.2%)と「1か所知っている」(54.1%)の2つを合わせた【知っている】(83.3%)が8割強と高くなっている。一方、「知らない」(14.6%)は1割台半ばとなっている。(図表7-20)

前回の調査結果と比較すると、【知っている】は1.0ポイント増加している。(図表7-21)

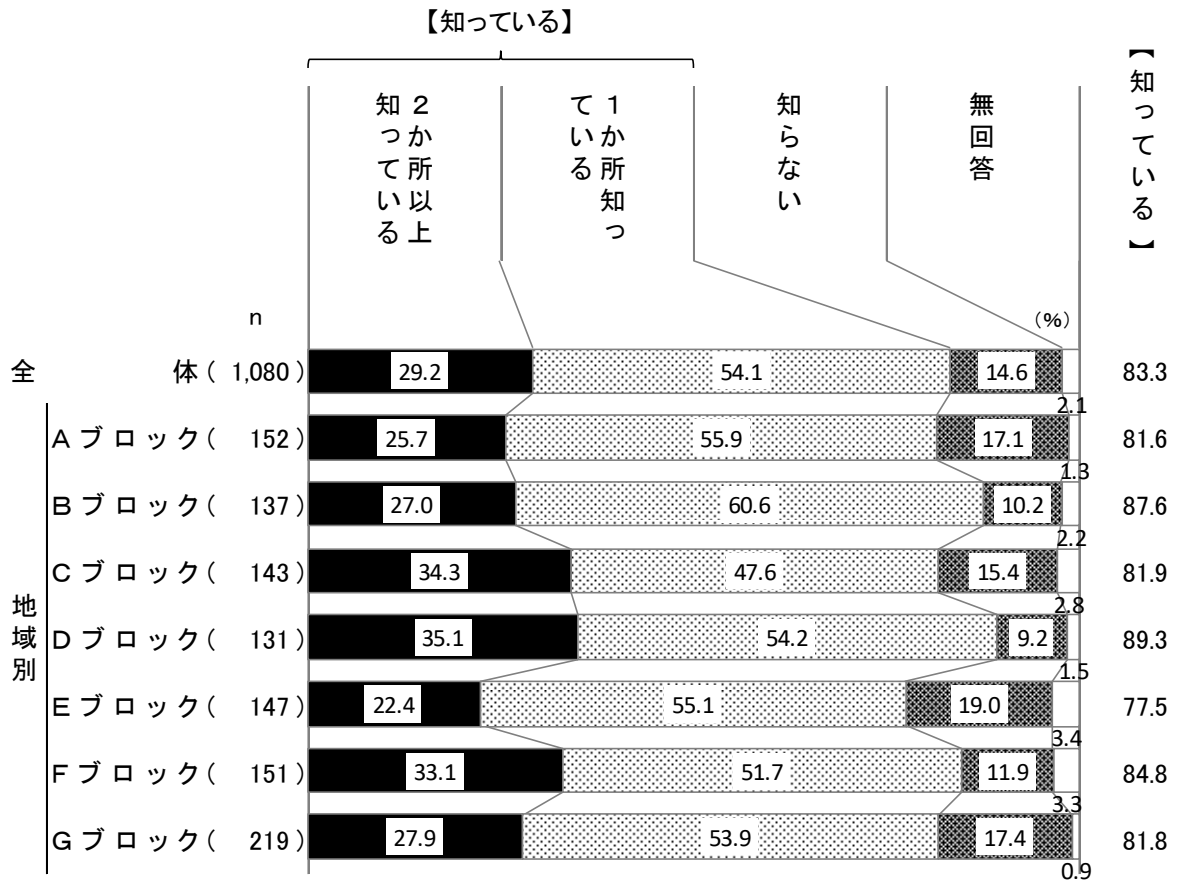
<図表7-21>避難場所の認知状況/過年度推移



地域別でみると、「2か所以上知っている」はCブロック（34.3%）とDブロック（35.1%）で3割台半ばと高くなっている。「知らない」はEブロック（19.0%）で約2割と高くなっている。

（図表7-22）

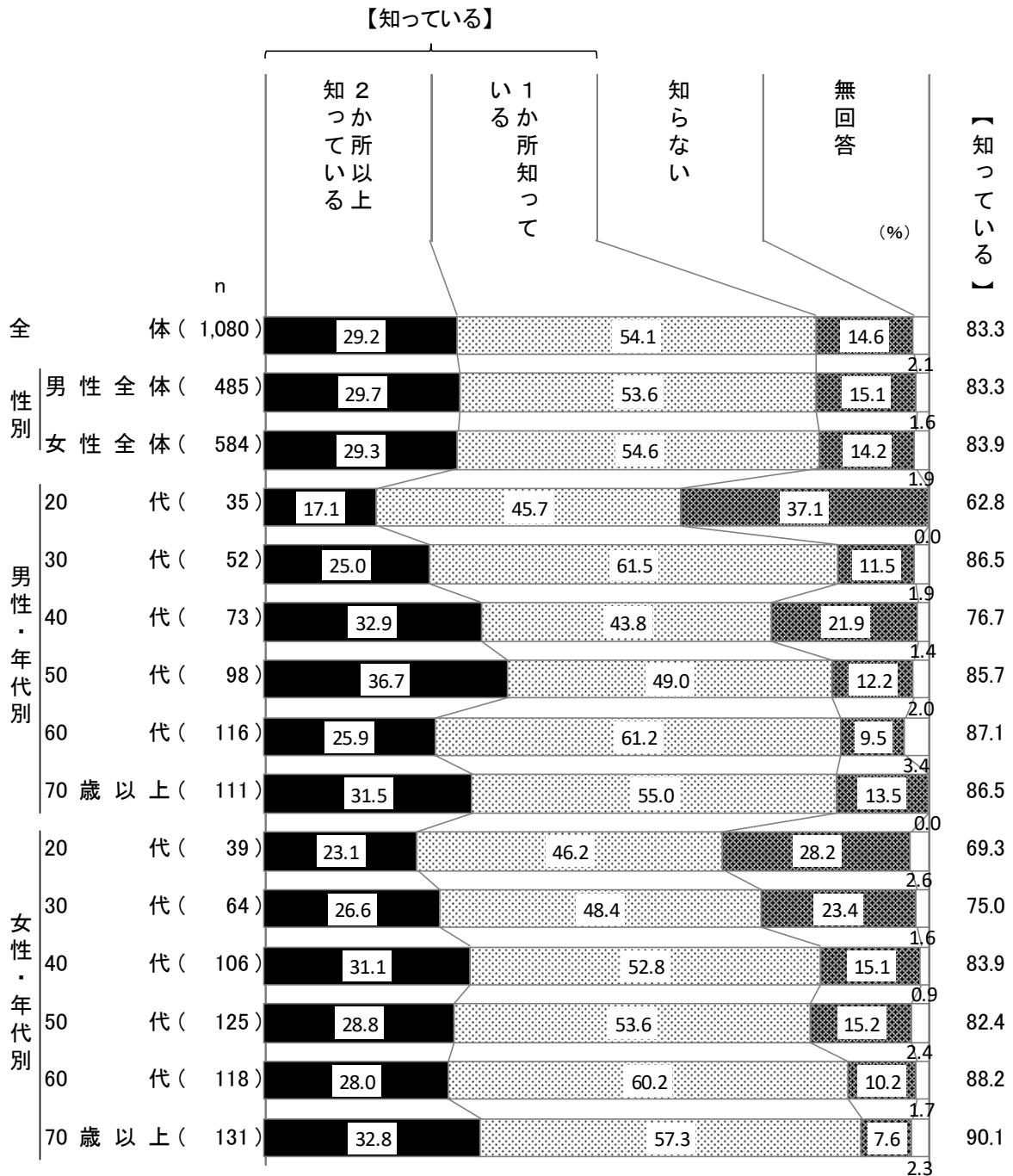
＜図表7-22＞避難場所の認知状況／地域別



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年代別でみると、【知っている】は女性70歳以上（90.1%）で約9割と高くなっている。「知らない」は男性20代（37.1%）で4割弱と高くなっている。（図表7-23）

<図表7-23>避難場所の認知状況／性別、性・年代別

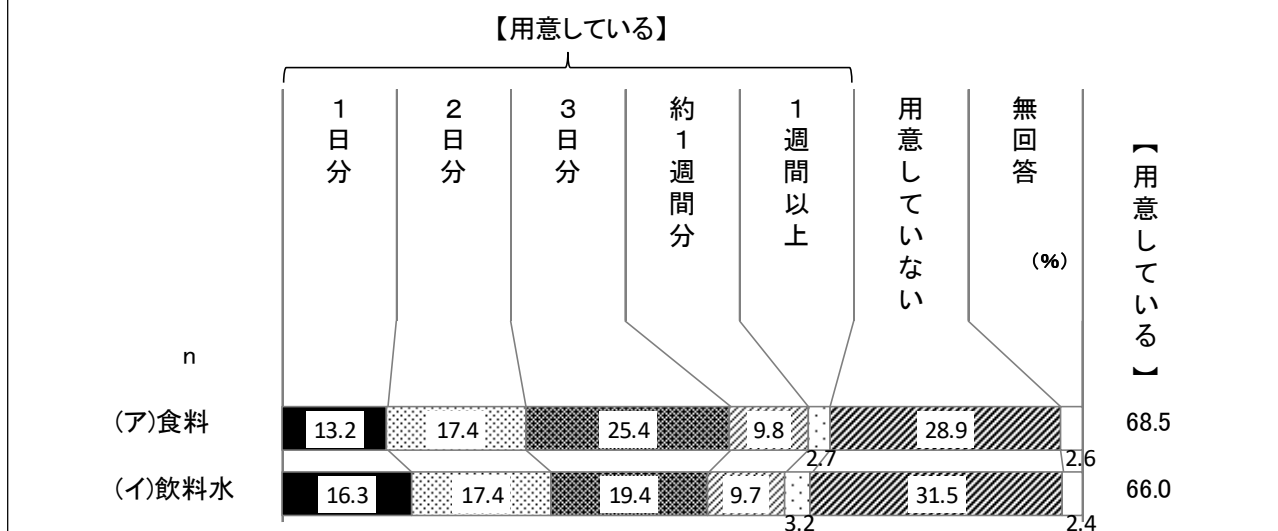


(5) 備蓄品の状況（食料・飲料水）

◇【用意している】は食料・飲料水ともに7割弱

問22 あなたのお宅では、非常持ち出し用を含めて家族の何日分の食料がありますか。また、家族の何日分の飲料水を備蓄していますか。次の項目について、それぞれ1つずつ番号を選んでください。（〇はそれぞれ1つずつ）

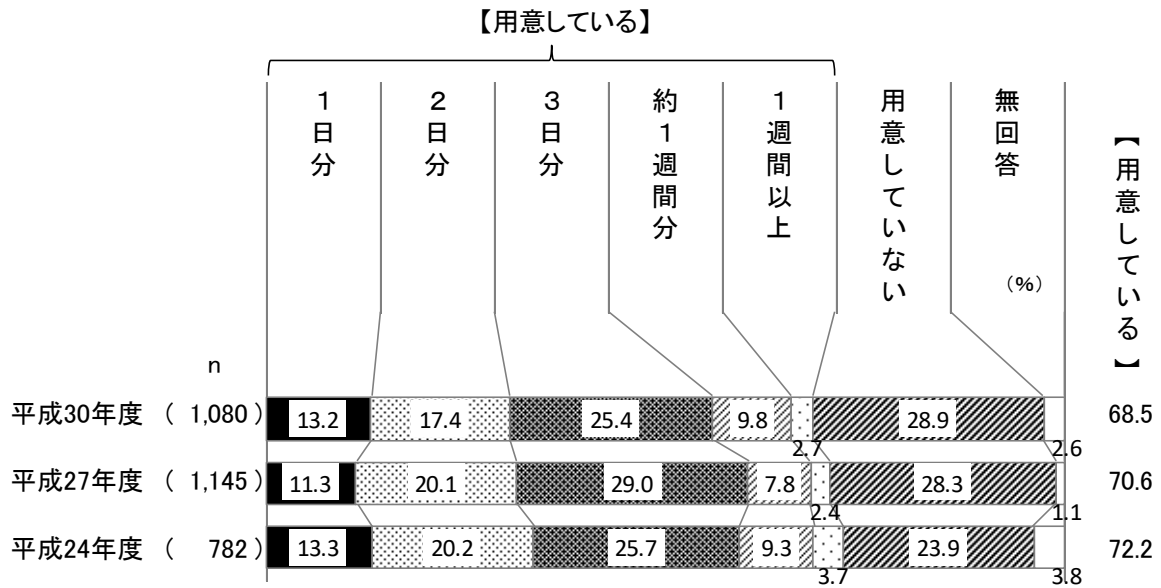
<図表7-24>備蓄品の状況（食料・飲料水）



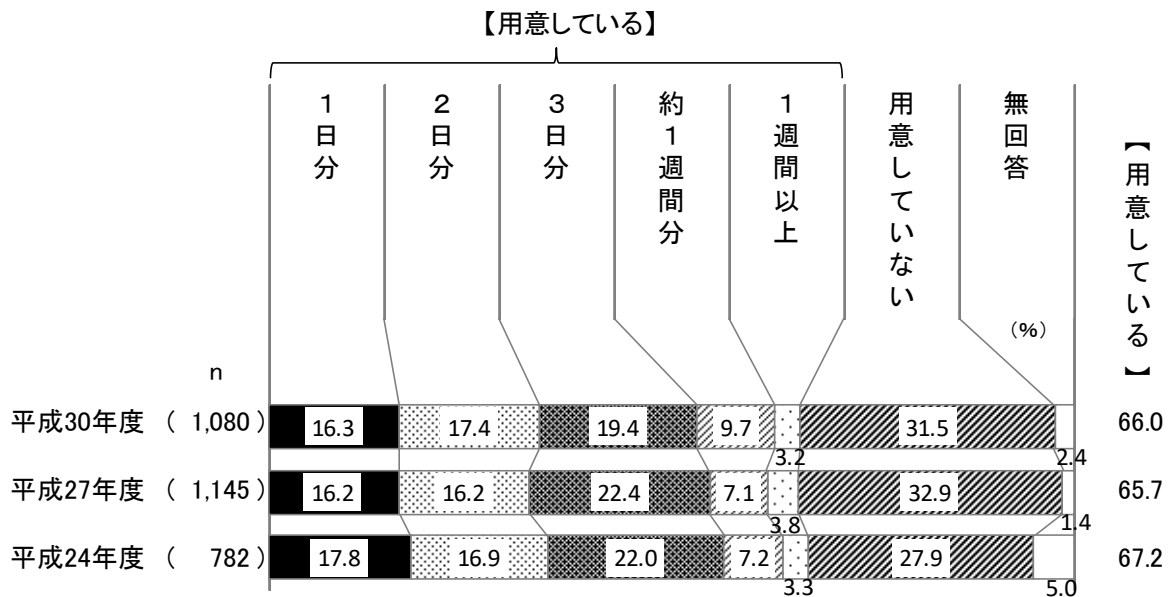
食料・飲料水の備蓄品の状況を聞いたところ、「1日分」、「2日分」、「3日分」、「約1週間分」、「1週間以上」の5つを合わせた【用意している】は、(ア)食料(68.5%)、(イ)飲料水(66.0%)でともに7割弱となっている。一方、「用意していない」は、(ア)食料(28.9%)が3割弱、(イ)飲料水(31.5%)が3割強となっている。(図表7-24)

前回の調査結果と比較すると、【用意している】は（ア）食料で2.1ポイント減少し、（イ）飲料水で0.3ポイント増加している。（図表7-25・7-26）

<図表7-25> 備蓄品の状況（ア）食料／過年度推移



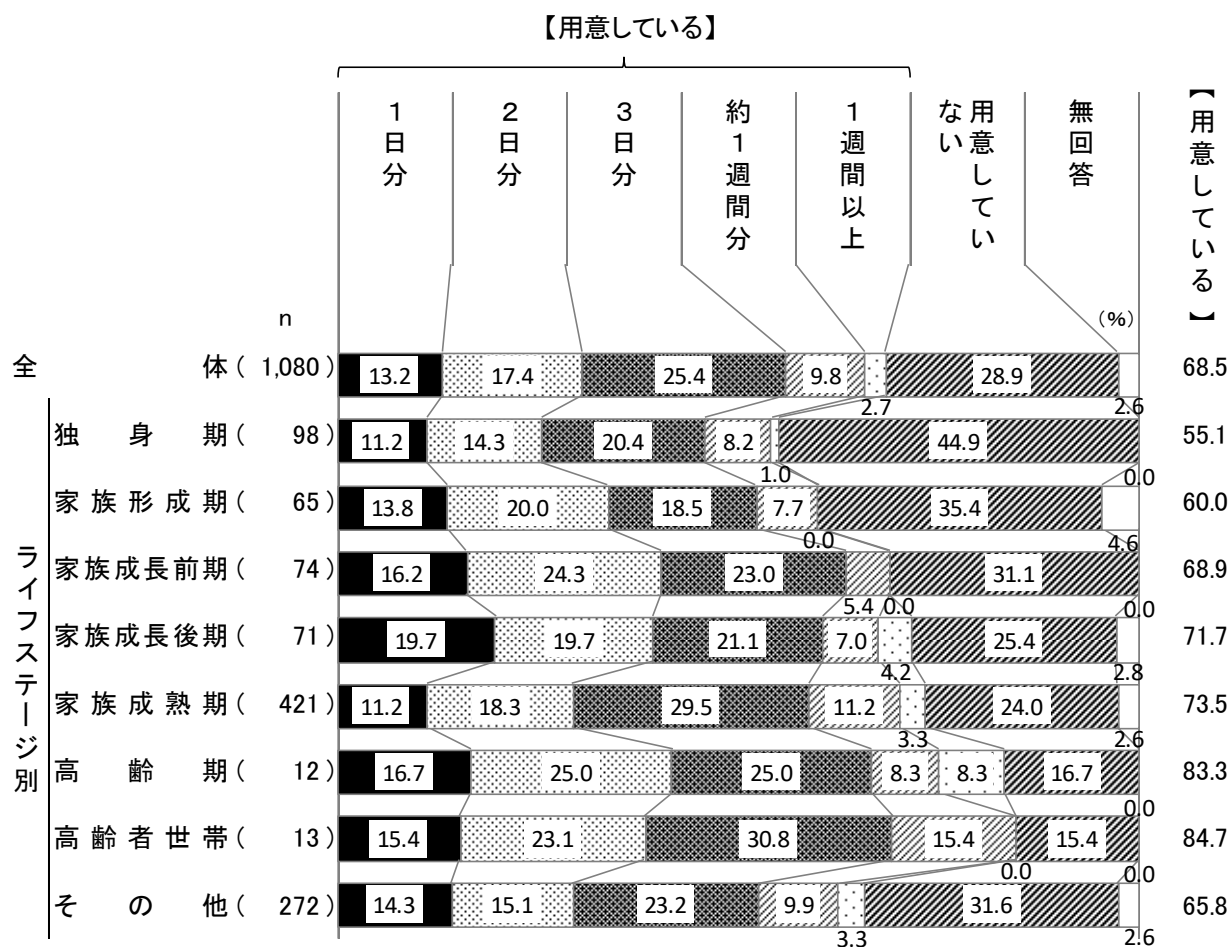
<図表7-26> 備蓄品の状況（イ）飲料水／過年度推移





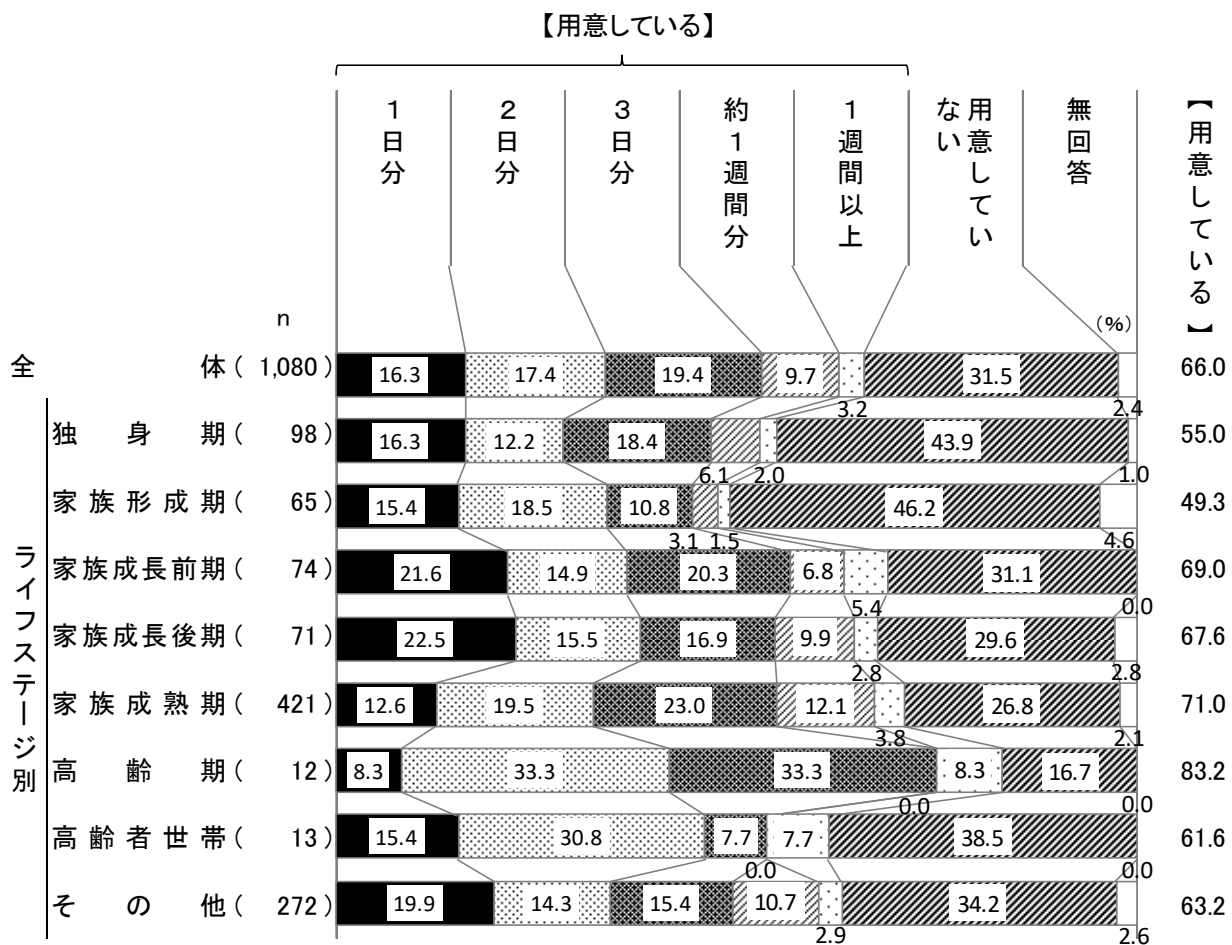
(ア) 食料についてライフステージ別で見ると、【用意している】は家族成熟期（73.5%）で7割強と高くなっている。一方、「用意していない」は独身期（44.9%）で4割台半ばと高くなっている。（図表7-27）

<図表7-27> 備蓄品の状況（ア）食料／ライフステージ別



(イ) 飲料水についてライフステージ別で見ると、【用意している】は家族成熟期（71.0%）で7割強となっている。（図表7-28）

<図表7-28> 備蓄品の状況（イ）飲料水／ライフステージ別

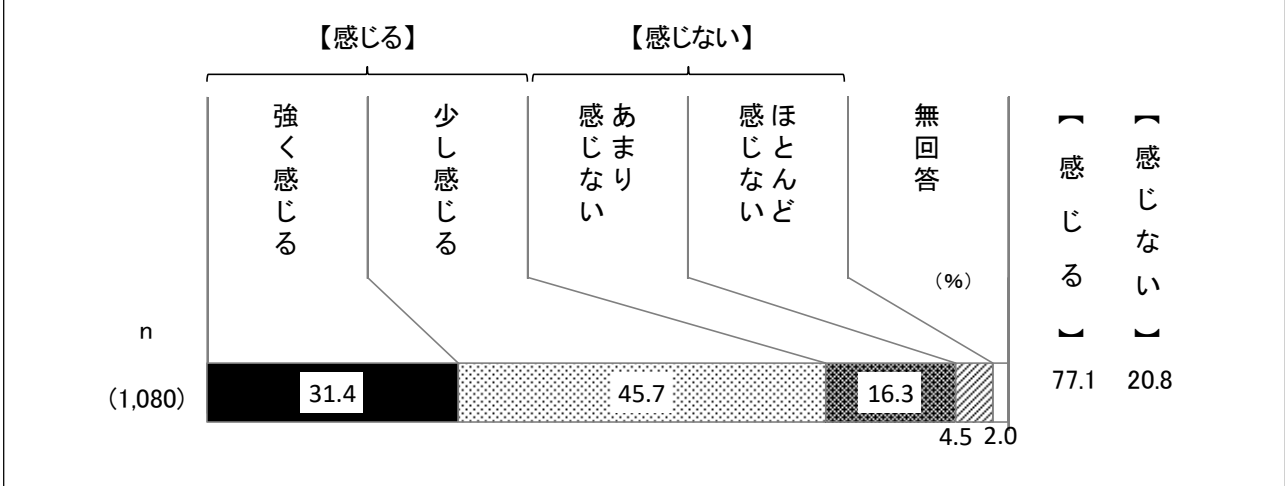


(6) 身近な犯罪への不安

◇【感じる】が8割弱

問23 身近な犯罪についてお伺いします。「空き巣」、「ひったくり」、「不審者の出没」、「振り込め詐欺」、「悪徳商法」などの身近な犯罪への不安を感じますか。次の中から1つ選んでください。(○は1つ)

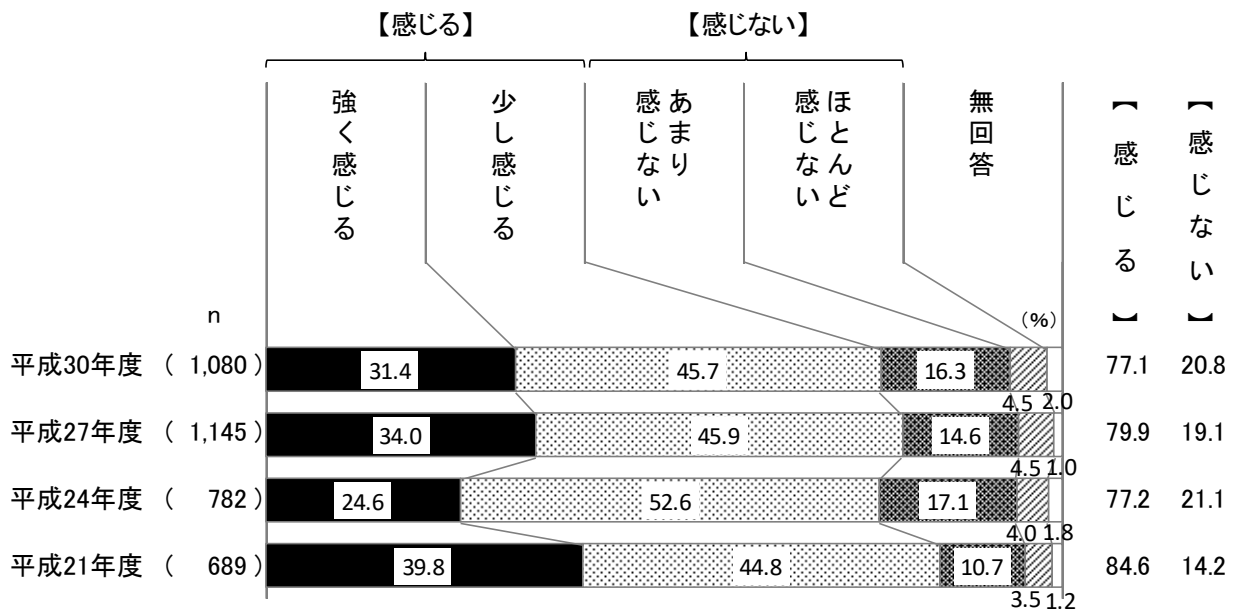
<図表7-29>身近な犯罪への不安



身近な犯罪への不安を感じるか聞いたところ、「強く感じる」(31.4%)と「少し感じる」(45.7%)の2つを合わせた【感じる】(77.1%)が8割弱と高くなっている。一方、「あまり感じない」(16.3%)と「ほとんど感じない」(4.5%)の2つを合わせた【感じない】(20.8%)は約2割となっている。(図表7-29)

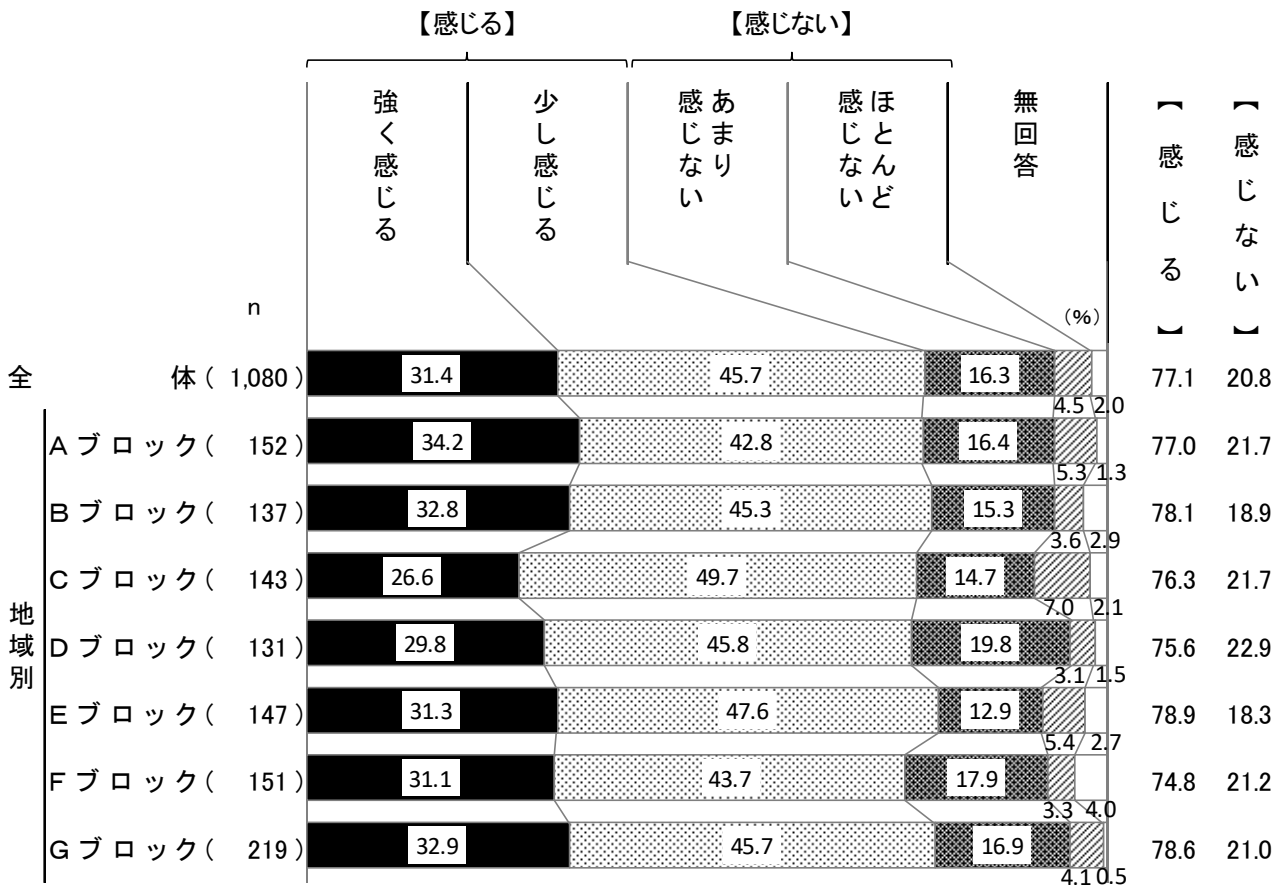
過年度の調査結果の推移をみると、【感じる】は平成27年度と比べて2.8ポイント減少している。(図表7-30)

<図表7-30>身近な犯罪への不安/過年度推移



地域別でみると、「強く感じる」はAブロック（34.2%）で3割台半ばと高くなっている。「あまり感じない」はDブロック（19.8%）で約2割と高くなっている。（図表7-31）

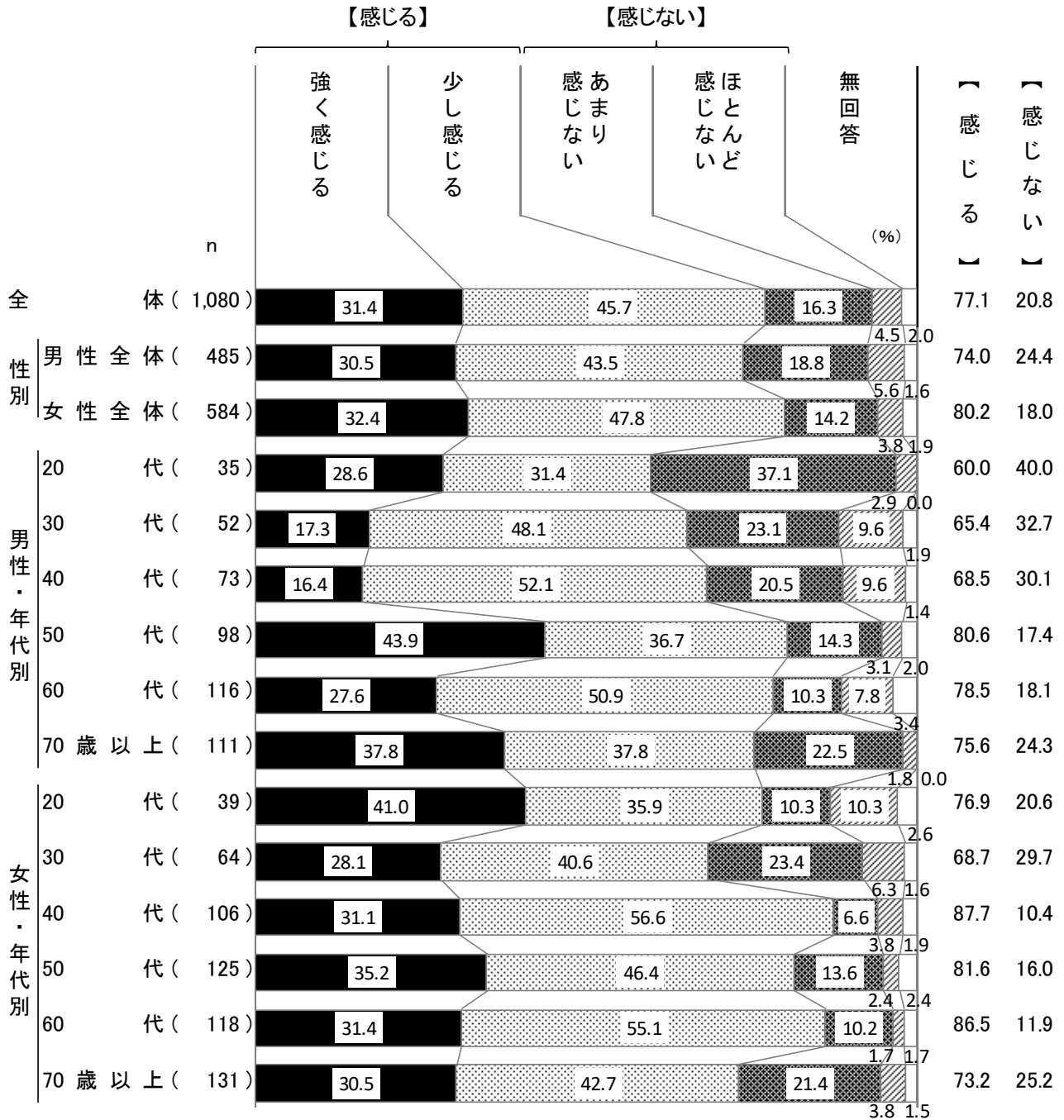
＜図表7-31＞身近な犯罪への不安／地域別



性別でみると、【感じる】は女性（80.2%）が男性（74.0%）より6.2ポイント高くなっている。性・年代別でみると、【感じる】は女性40代（87.7%）と女性60代（86.5%）で9割弱と高くなっている。「強く感じる」は男性50代（43.9%）と女性20代（41.0%）で4割強と高くなっている。【感じない】は男性20代（40.0%）で4割、女性30代（29.7%）で約3割と高くなっている。

（図表7-32）

＜図表7-32＞身近な犯罪への不安／性別、性・年代別

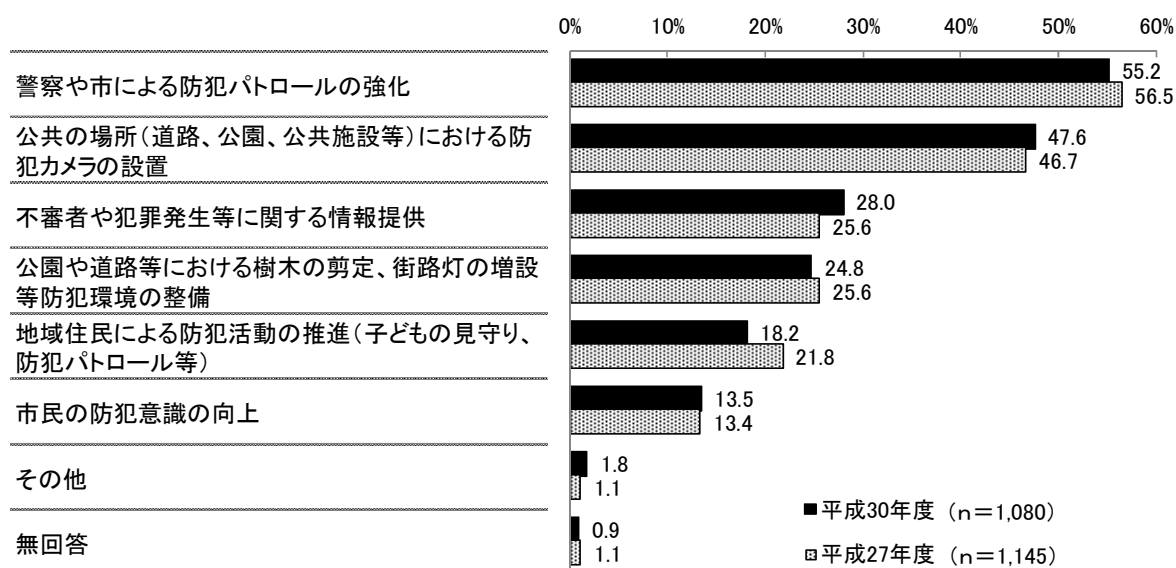


(7) 安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと

◇「警察や市による防犯パトロールの強化」が5割台半ば

問24 安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために、あなたが特に必要だと思う防犯対策は何ですか。次の中から2つまで選んでください。(〇は2つまで)

<図表7-33>安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと



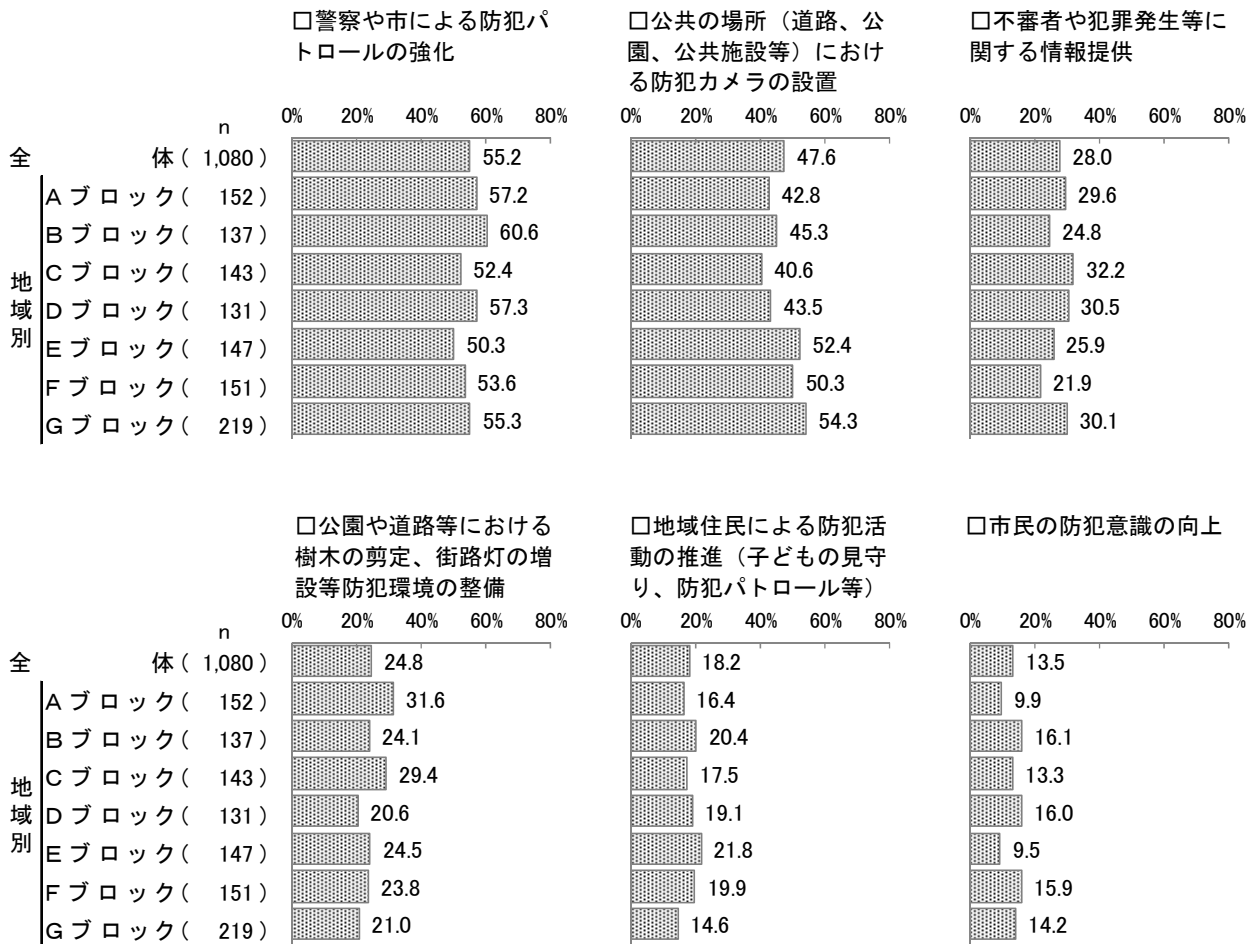
安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なことを聞いたところ、「警察や市による防犯パトロールの強化」(55.2%)が5割台半ばで最も高く、次いで「公共の場所(道路、公園、公共施設等)における防犯カメラの設置」(47.6%)、「不審者や犯罪発生等に関する情報提供」(28.0%)、「公園や道路等における樹木の剪定、街路灯の増設等防犯環境の整備」(24.8%)、「地域住民による防犯活動の推進(子どもの見守り、防犯パトロール等)」(18.2%)となっている。

(図表7-33)

前回の調査結果と比較すると、「不審者や犯罪発生等に関する情報提供」は2.4ポイント増加している。一方、「地域住民による防犯活動の推進(子どもの見守り、防犯パトロール等)」は3.6ポイント減少している。(図表7-33)

上位6項目について地域別でみると、「警察や市による防犯パトロールの強化」はBブロック(60.6%)で約6割と高くなっている。「公共の場所(道路、公園、公共施設等)における防犯カメラの設置」はGブロック(54.3%)で5割台半ばと高くなっている。(図表7-34)

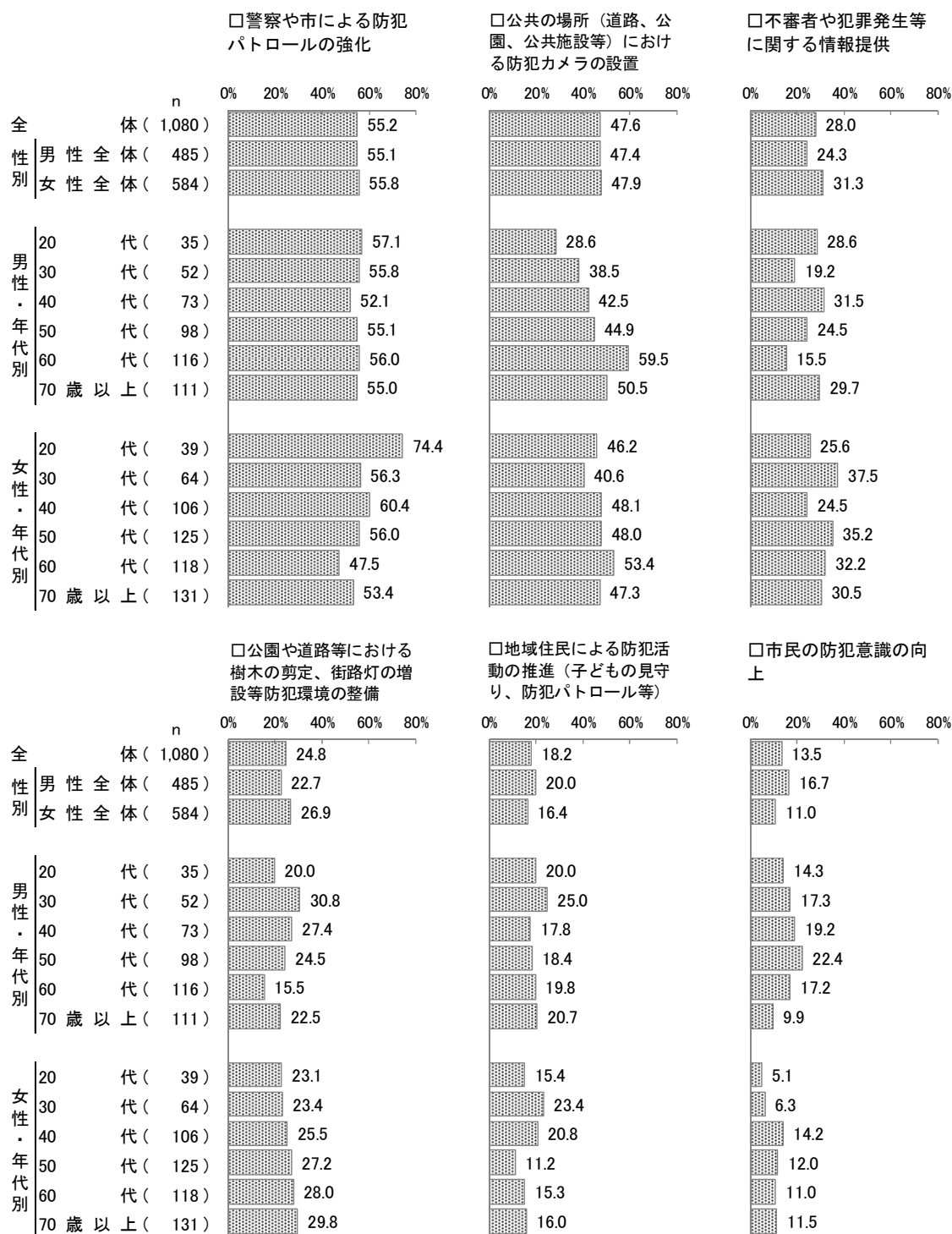
<図表7-34>安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと  
／地域別(上位6項目)



上位6項目について性別でみると、「不審者や犯罪発生等に関する情報提供」は女性（31.3%）が男性（24.3%）より7.0ポイント高く、「公園や道路等における樹木の剪定、街路灯の増設等防犯環境の整備」は女性（26.9%）が男性（22.7%）より4.2ポイント高くなっている。「市民の防犯意識の向上」は男性（16.7%）が女性（11.0%）より5.7ポイント高く、「地域住民による防犯活動の推進（子どもの見守り、防犯パトロール等）」は男性（20.0%）が女性（16.4%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「警察や市による防犯パトロールの強化」は女性20代（74.4%）で7割台半ばと高くなっている。「公共の場所（道路、公園、公共施設等）における防犯カメラの設置」は男性60代（59.5%）で約6割と高くなっている。（図表7-35）

<図表7-35>安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと  
／性別、性・年代別（上位6項目）



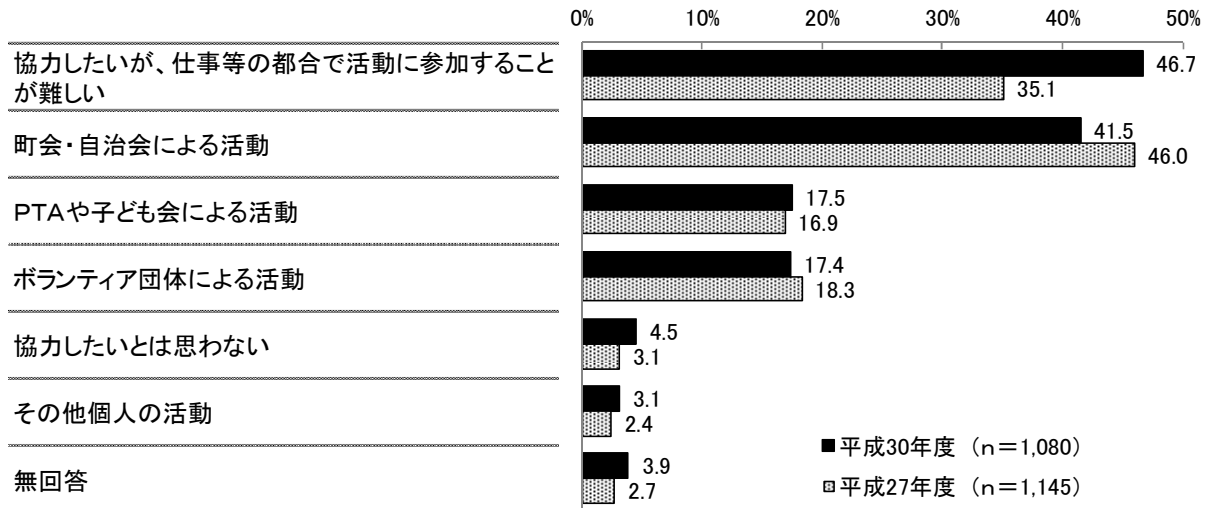


(8) 協力したいと思う防犯活動

◇「町会・自治会による活動」が4割強

問25 安全で安心して暮らせるまちにするためには、市民の皆さんの協力が必要です。あなたが協力している、または協力したいと思う防犯活動は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

<図表7-36>協力したいと思う防犯活動



協力している、または協力したいと思う防犯活動を聞いたところ、「協力したいが、仕事等の都合で活動に参加することが難しい」(46.7%)が5割弱と最も高く、次いで「町会・自治会による活動」(41.5%)、「PTAや子ども会による活動」(17.5%)、「ボランティア団体による活動」(17.4%)となっている。(図表7-36)

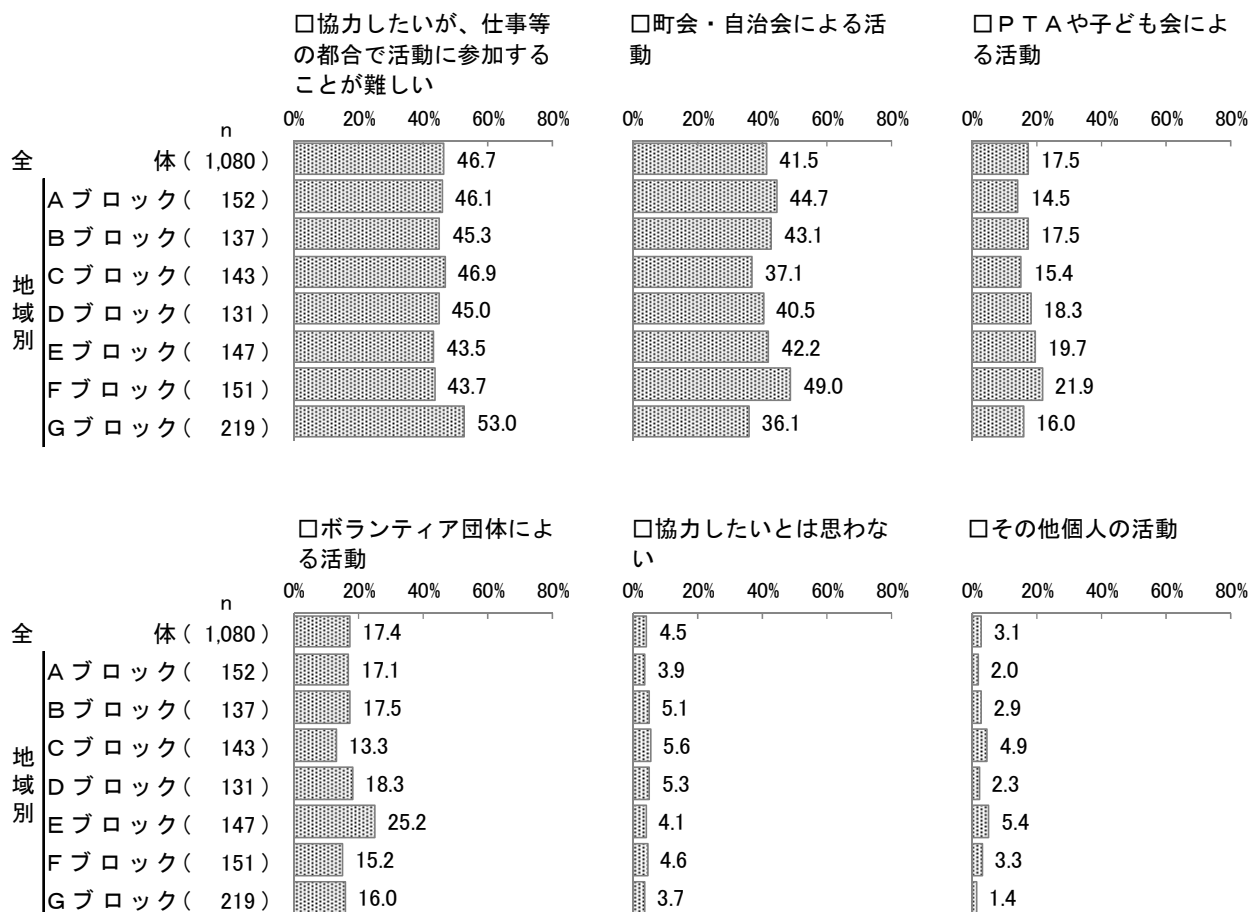
前回の調査結果と比較すると、「協力したいが、仕事等の都合で活動に参加することが難しい」は11.6ポイント増加している。一方、「町会・自治会による活動」は4.5ポイント減少している。

(図表7-36)

地域別でみると、「町会・自治会による活動」はFブロック（49.0%）で約5割と高くなっている。「ボランティア団体による活動」はEブロック（25.2%）で2割台半ばと高くなっている。

（図表7-37）

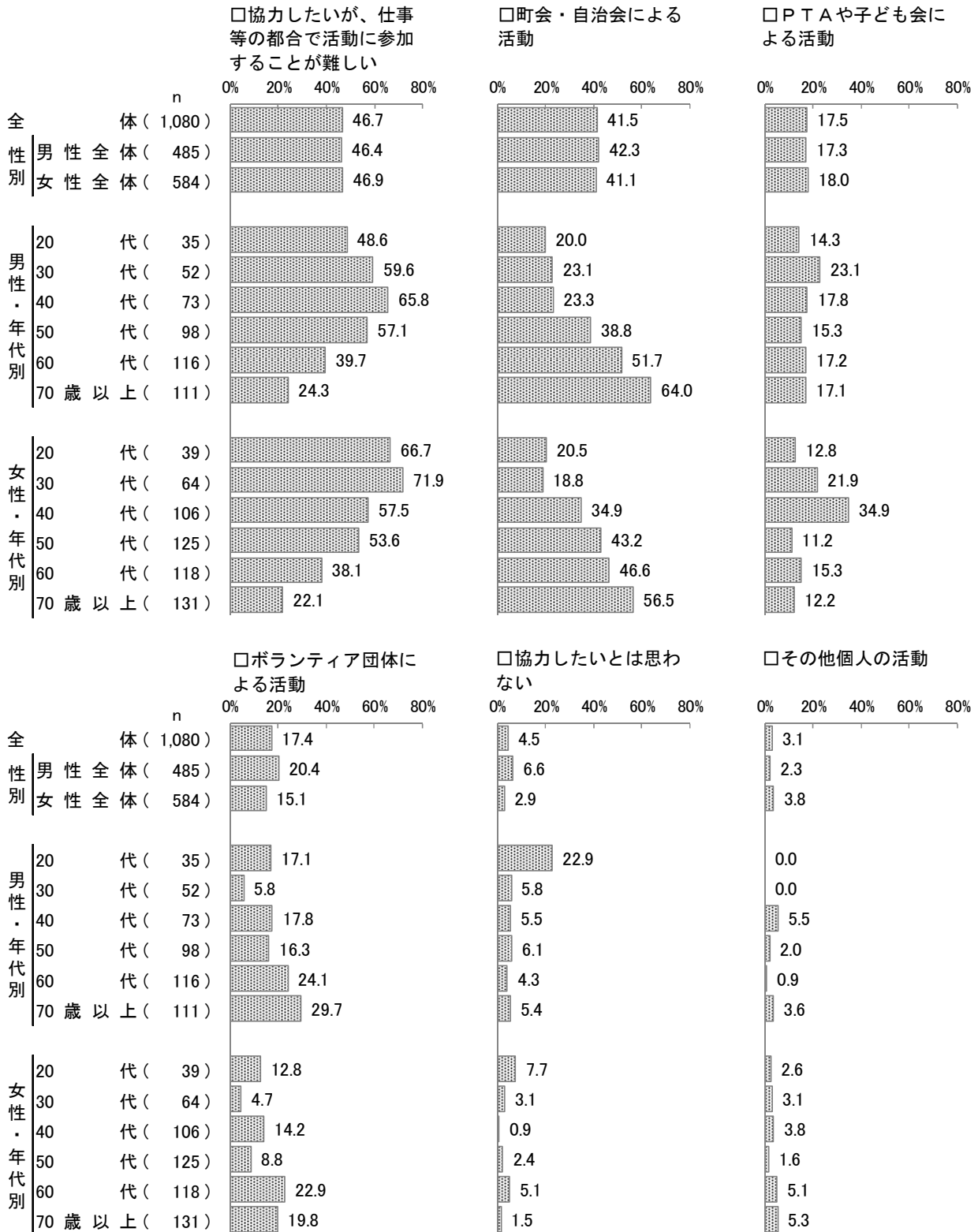
<図表7-37>協力したいと思う防犯活動／地域別



性別で見ると、「ボランティア団体による活動」は男性（20.4%）が女性（15.1%）より5.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「町会・自治会による活動」は男性70歳以上（64.0%）で6割強、女性70歳以上（56.5%）で6割弱と高くなっている。「PTAや子ども会による活動」は女性40代（34.9%）で3割台半ばと高くなっている。「協力したいが、仕事等の都合で活動に参加することが難しい」は女性30代（71.9%）で7割強、女性20代（66.7%）で7割弱、男性40代（65.8%）で6割台半ばと高くなっている。（図表7-38）

＜図表7-38＞協力したいと思う防犯活動／性別、性・年代別

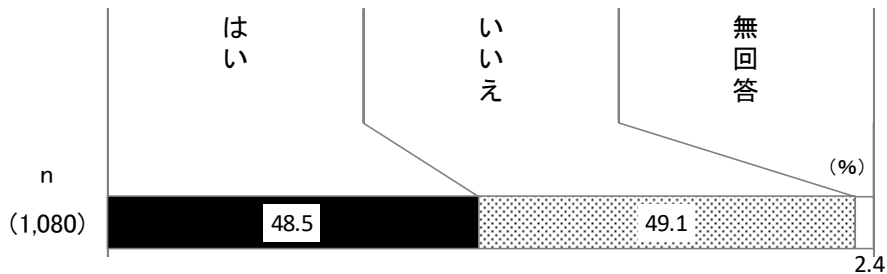


(9) 町会・自治会への加入

◇「はい」が5割弱

問26 町会・自治会は、地域の皆さんが安全で安心して暮らすための様々な活動をしています。  
あなたは、町会・自治会に加入していますか。(○は1つ)

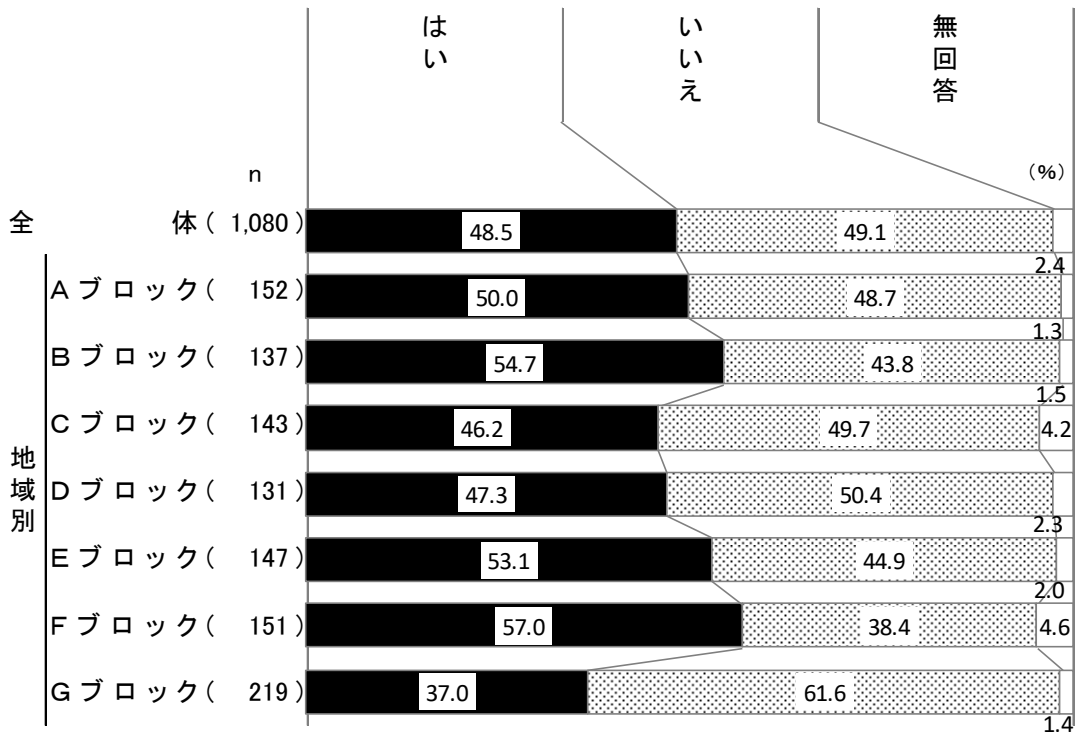
<図表7-39>町会・自治会への加入



町会・自治会への加入について聞いたところ、「はい」(48.5%)が5割弱となっている。一方、「いいえ」(49.1%)も約5割となっている。(図表7-39)

地域別でみると、「はい」はFブロック(57.0%)で6割弱と高くなっている。「いいえ」はGブロック(61.6%)で6割強と高くなっている。(図表7-40)

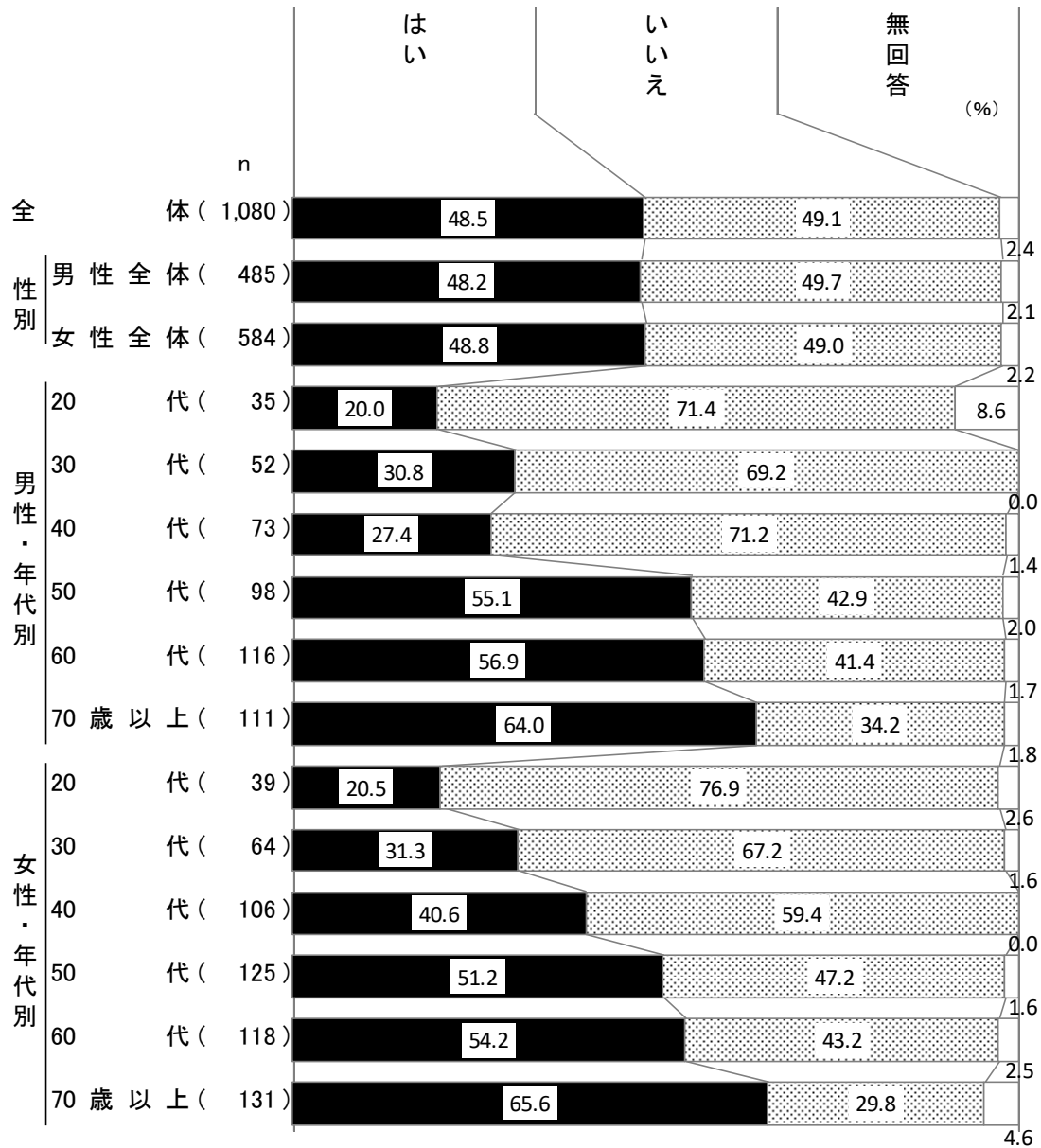
<図表7-40>町会・自治会への加入/地域別



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

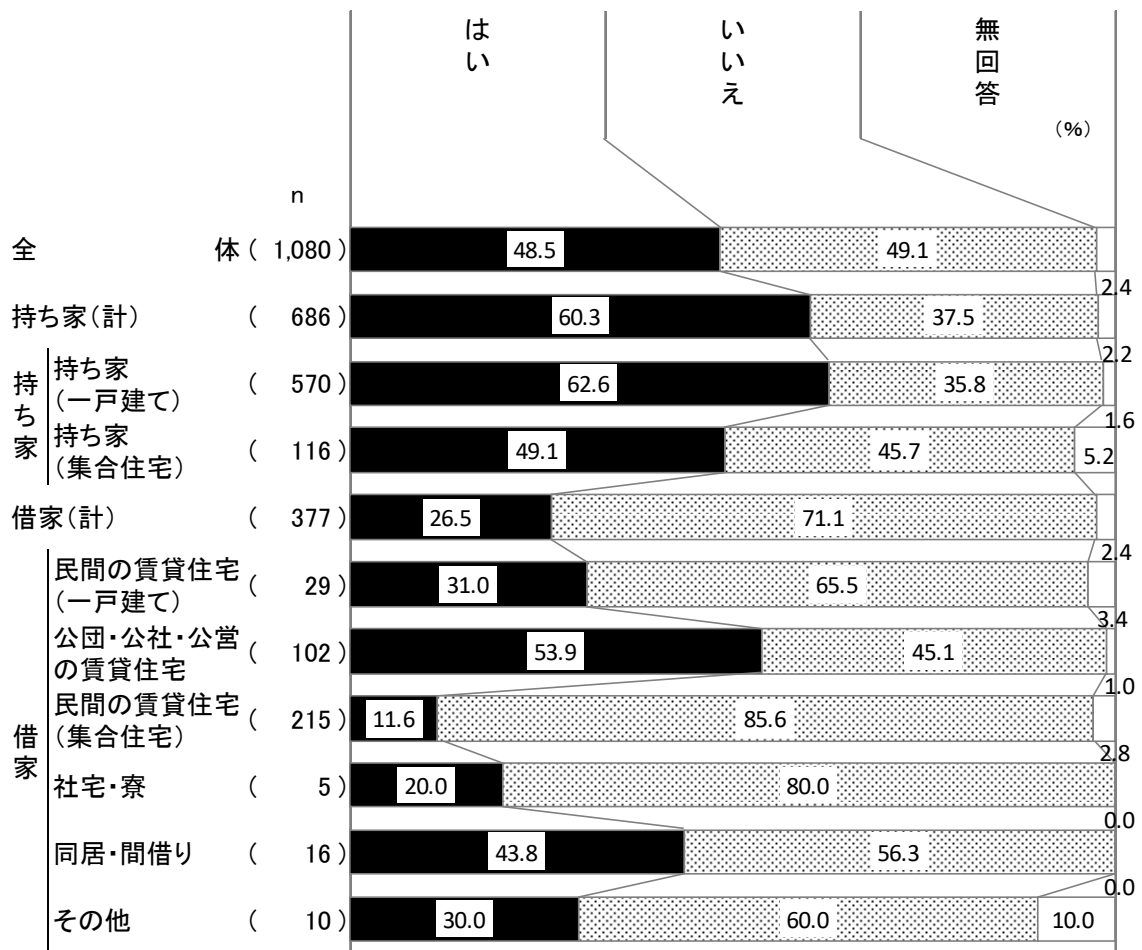
性・年代別でみると、「はい」は女性70歳以上（65.6%）で6割台半ば、男性70歳以上（64.0%）で6割強と高くなっている。「いいえ」は女性20代（76.9%）で8割弱、男性20代（71.4%）・男性40代（71.2%）で7割強、男性30代（69.2%）で約7割と高くなっている。（図表7-41）

<図表7-41>町会・自治会への加入／性別、性・年代別



住居形態別でみると、「はい」は持ち家（一戸建て）（62.6%）で6割強と高くなっている。一方、「いいえ」は民間の賃貸住宅（集合住宅）（85.6%）で8割台半ばと高くなっている。（図表7-42）

<図表7-42> 町会・自治会への加入／住居形態別



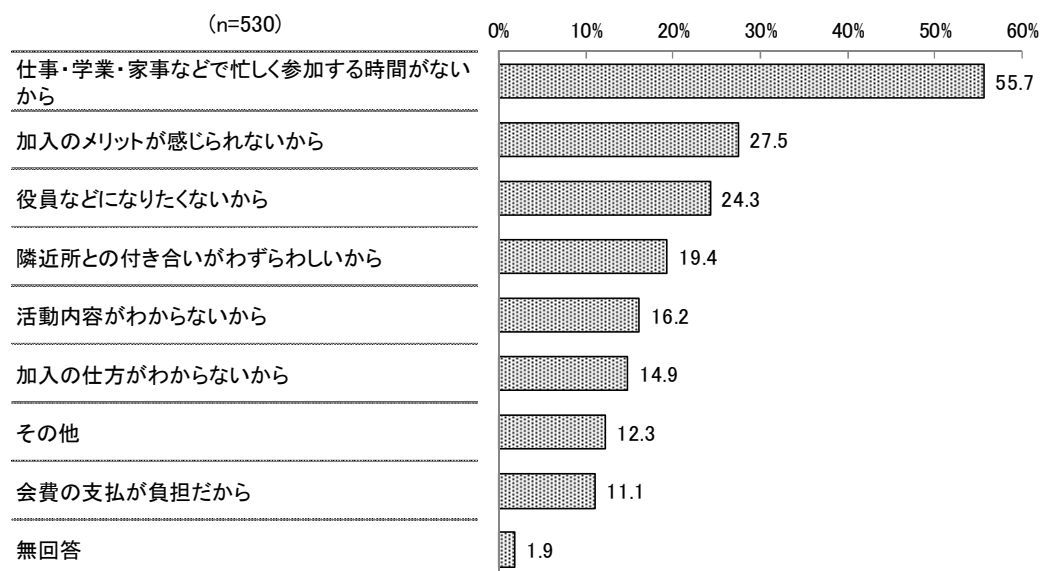
(10)「町会・自治会」に加入していない理由

◇「仕事・学業・家事などで忙しく参加する時間がないから」が5割台半ば

(問26で、「2 いいえ」を選んだ方に)

問26-1 「町会・自治会」に加入していない理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。(○は3つまで)

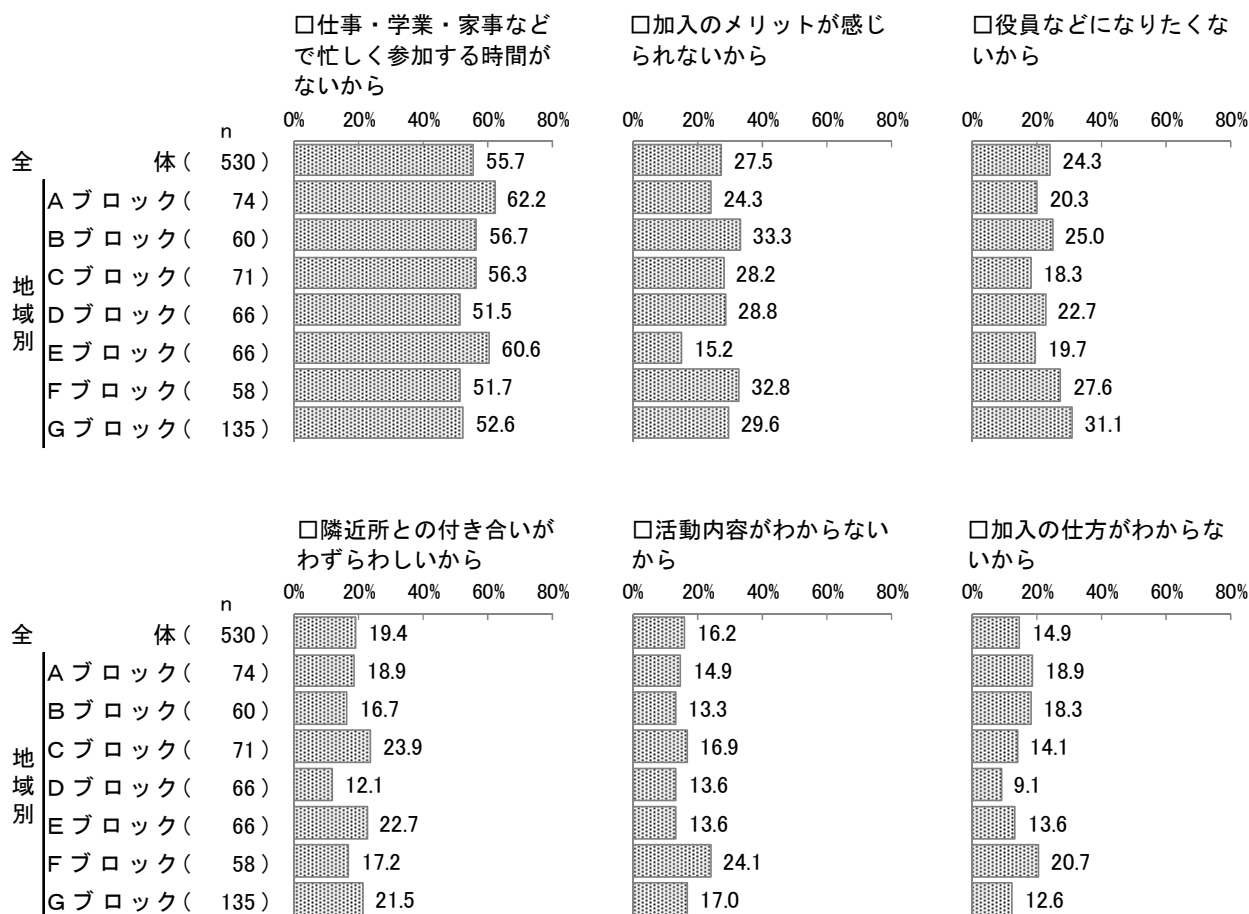
<図表7-43>「町会・自治会」に加入していない理由



問26で、「いいえ」を選んだ方に、「町会・自治会」に加入していない理由について聞いたところ、「仕事・学業・家事などで忙しく参加する時間がないから」(55.7%)が5割台半ばで最も高く、次いで「加入のメリットが感じられないから」(27.5%)、「役員などになりたくないから」(24.3%)となっている。(図表7-43)

地域別でみると、「仕事・学業・家事などで忙しく参加する時間がないから」はAブロック(62.2%)で6割強、Eブロック(60.6%)で約6割と高くなっている。「加入のメリットが感じられないから」はBブロック(33.3%)とFブロック(32.8%)で3割強と高くなっている。「役員などになりたくないから」はGブロック(31.1%)で3割強と高くなっている。(図表7-44)

<図表7-44> 「町会・自治会」に加入していない理由／地域別

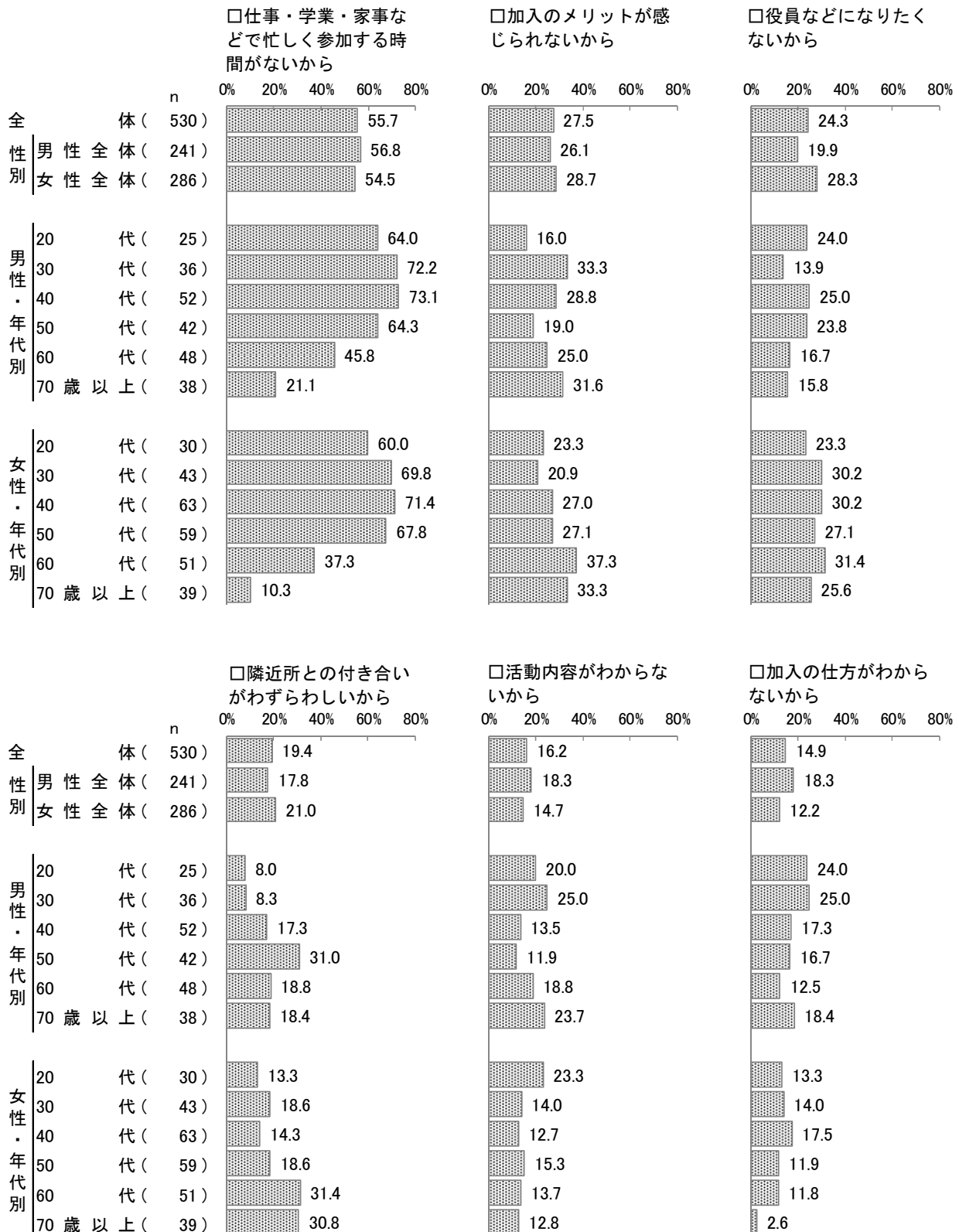




性別で見ると、「役員などになりたくないから」は女性（28.3%）が男性（19.9%）より8.4ポイント高くなっている。「加入の仕方がわからないから」は男性（18.3%）が女性（12.2%）より6.1ポイント高くなっている。

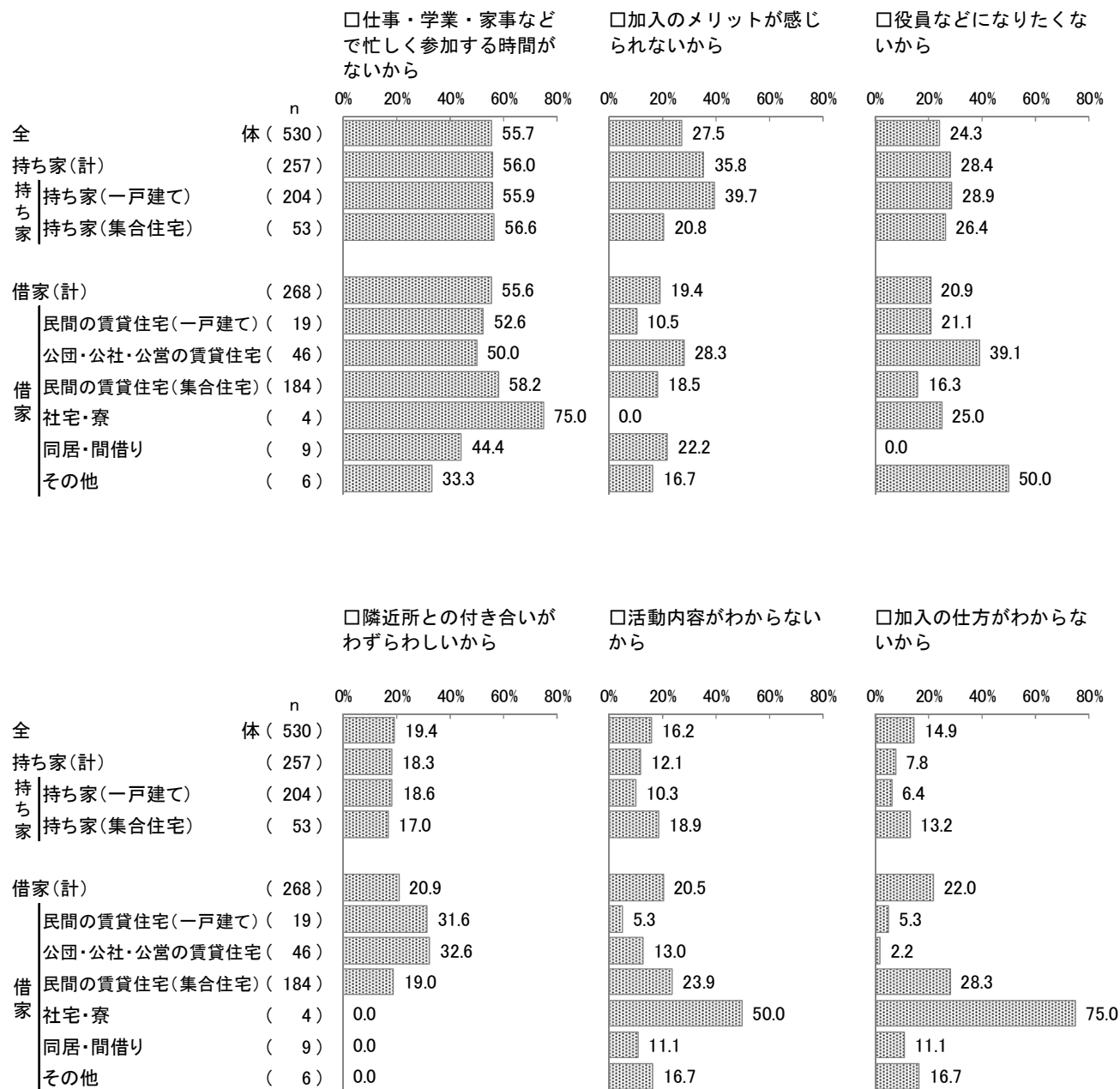
性・年代別で見ると、「仕事・学業・家事などで忙しく参加する時間がないから」は男性30代（72.2%）・男性40代（73.1%）と女性40代（71.4%）で7割強と高くなっている。「加入のメリットが感じられないから」は女性60代（37.3%）で4割弱と高くなっている。（図表7-45）

<図表7-45> 「町会・自治会」に加入していない理由／性別、性・年代別



住居形態別でみると、「仕事・学業・家事などで忙しく参加する時間がないから」は民間の賃貸住宅（集合住宅）（58.2%）で6割弱と高くなっている。「加入のメリットを感じられないから」は持ち家（一戸建て）（39.7%）で約4割と高くなっている。（図表7-46）

＜図表7-46＞町会・自治会」に加入していない理由／住居形態別



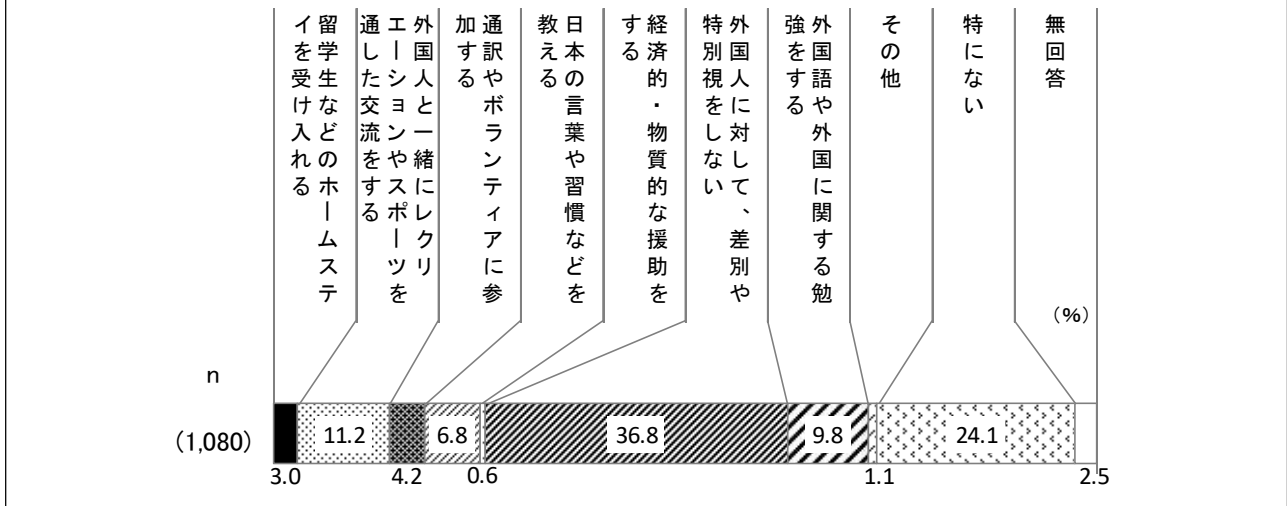
## 8. 多文化共生

### (1) 多文化共生のための活動の参加意向

◇「外国人に対して、差別や特別視をしない」が4割弱

問27 今後、外国との交流が進む中で、あなたが参加できることや、自分でしたいと思うのはどのようなことですか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

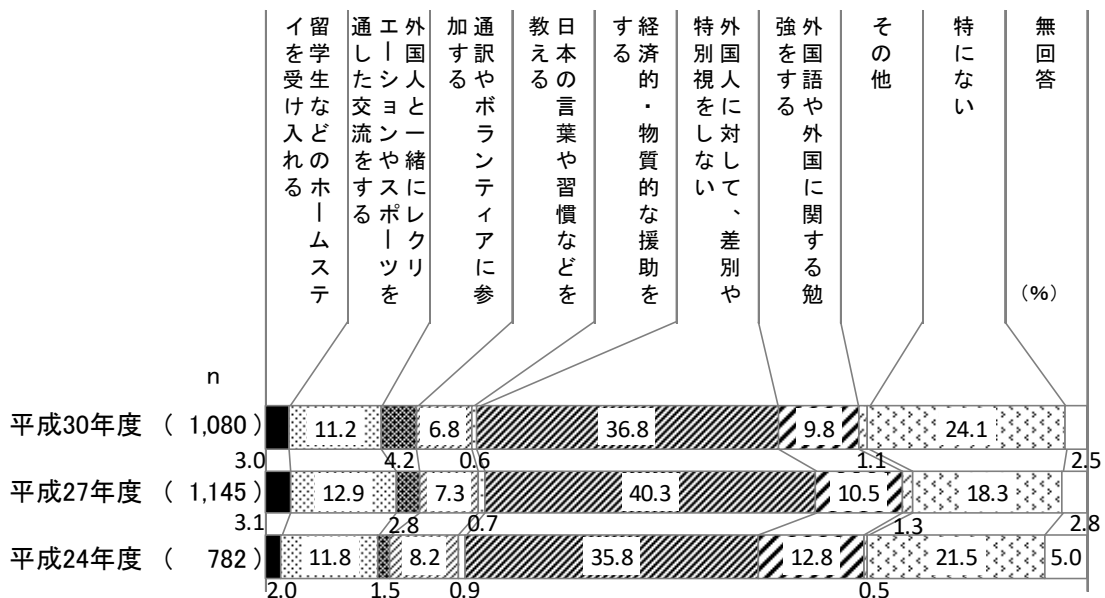
＜図表8-1＞多文化共生のための活動の参加意向



多文化共生のための活動の参加意向を聞いたところ、「外国人に対して、差別や特別視をしない」(36.8%)が4割弱で最も高く、次いで「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通じた交流をする」(11.2%)、「外国語や外国に関する勉強をする」(9.8%)、「日本の言葉や習慣などを教える」(6.8%)となっている。(図表8-1)

前回の調査結果と比較すると、「外国人に対して、差別や特別視をしない」は3.5ポイント減少している。(図表8-2)

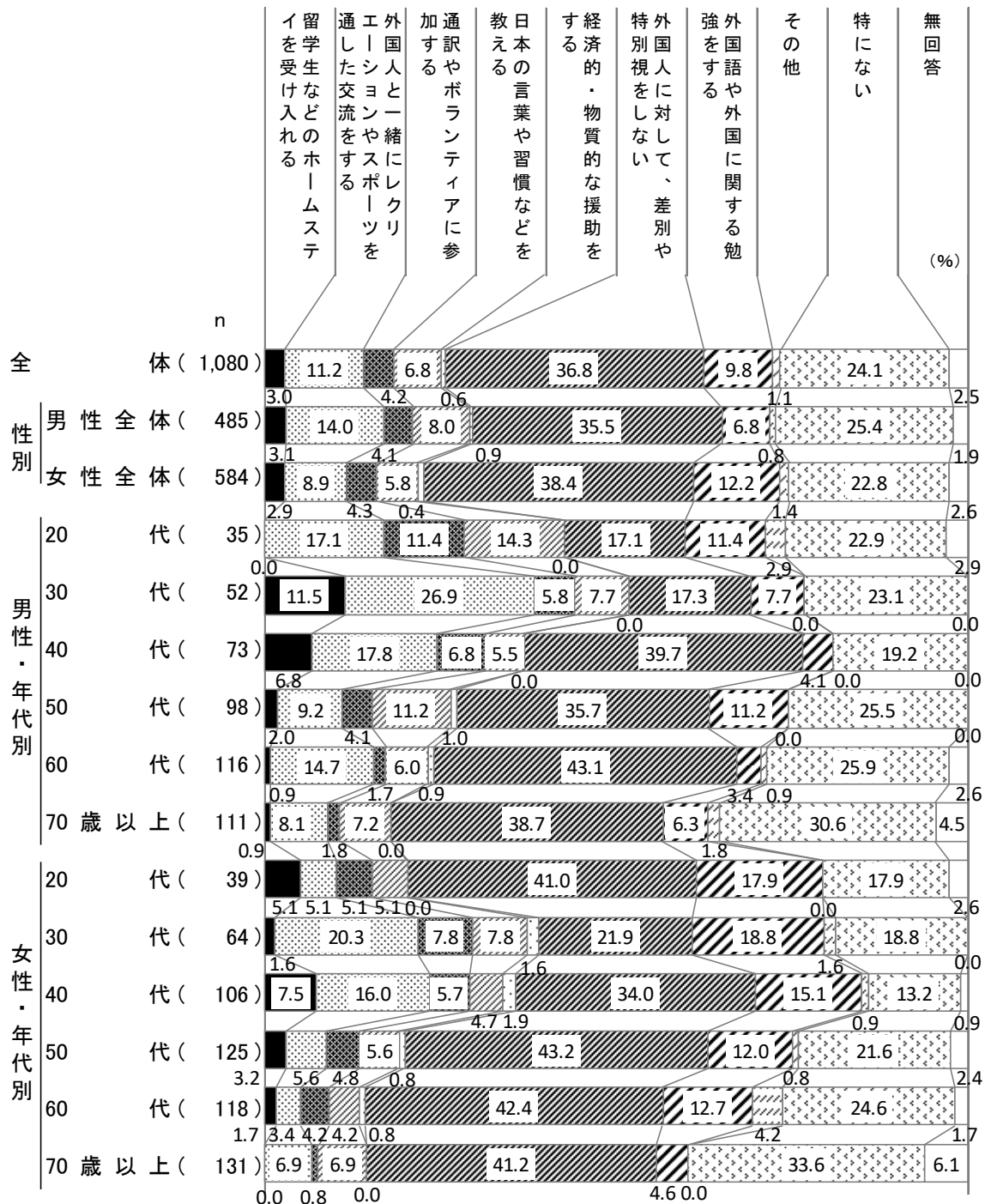
＜図表8-2＞多文化共生のための活動の参加意向／過年度推移



性別でみると、「外国語や外国に関する勉強をする」は女性（12.2%）が男性（6.8%）より5.4ポイント高くなっている。「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通じた交流をする」は男性（14.0%）が女性（8.9%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「外国人に対して、差別や特別視をしない」は男性60代（43.1%）、女性50代（43.2%）で4割強と高くなっている。「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通じた交流をする」は男性30代（26.9%）で3割弱と高くなっている。「外国語や外国に関する勉強をする」は女性20代（17.9%）、女性30代（18.8%）で2割弱と高くなっている。（図表8-3）

＜図表8-3＞多文化共生のための活動の参加意向／性別、性・年代別

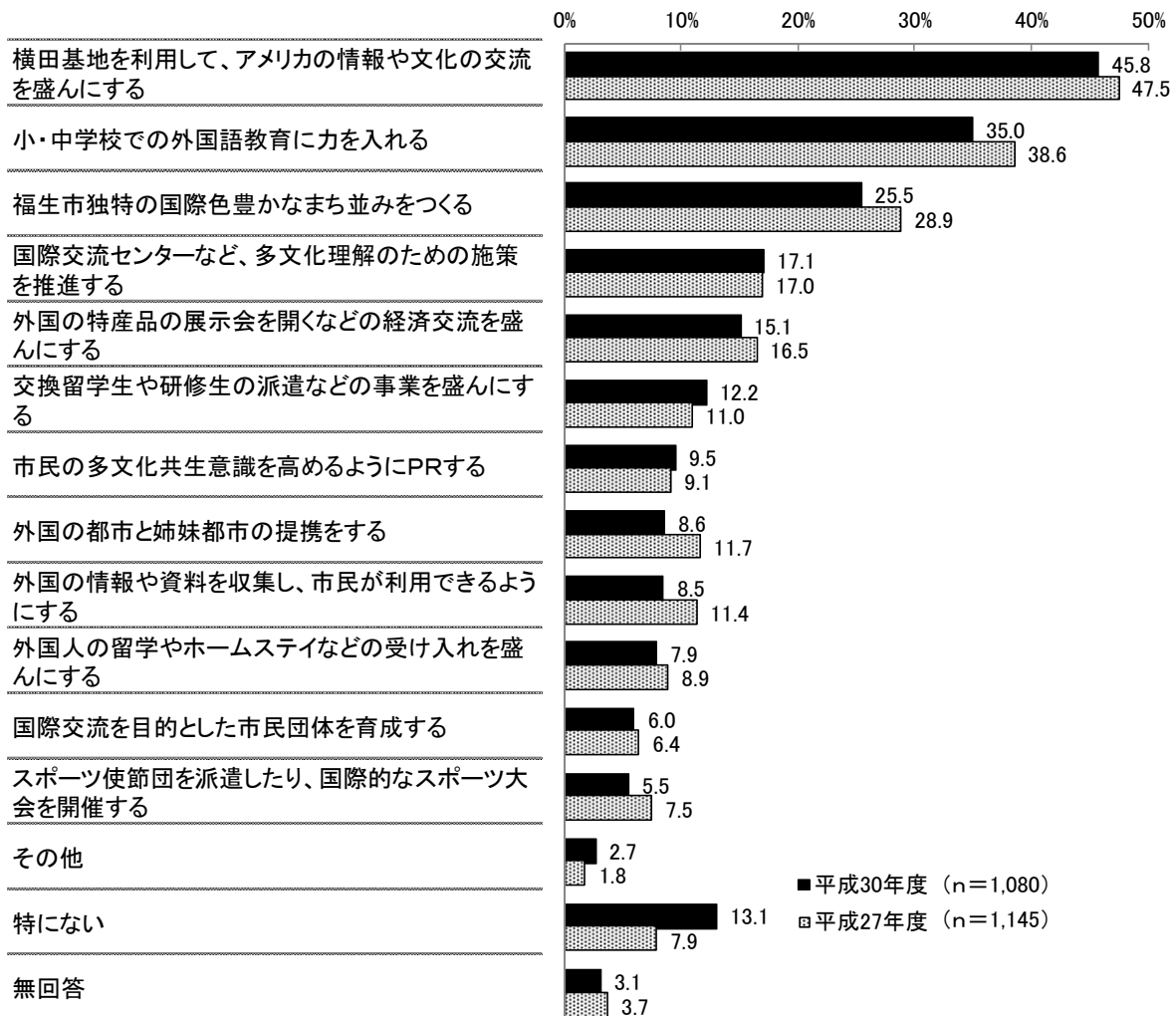


(2) 多文化共生を進めていく上での重点項目

◇「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」が4割台半ば

問28 多文化共生を進めていく上で、特に力を入れるべきだと思うことを、次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)

<図表8-4>多文化共生を進めていく上での重点項目



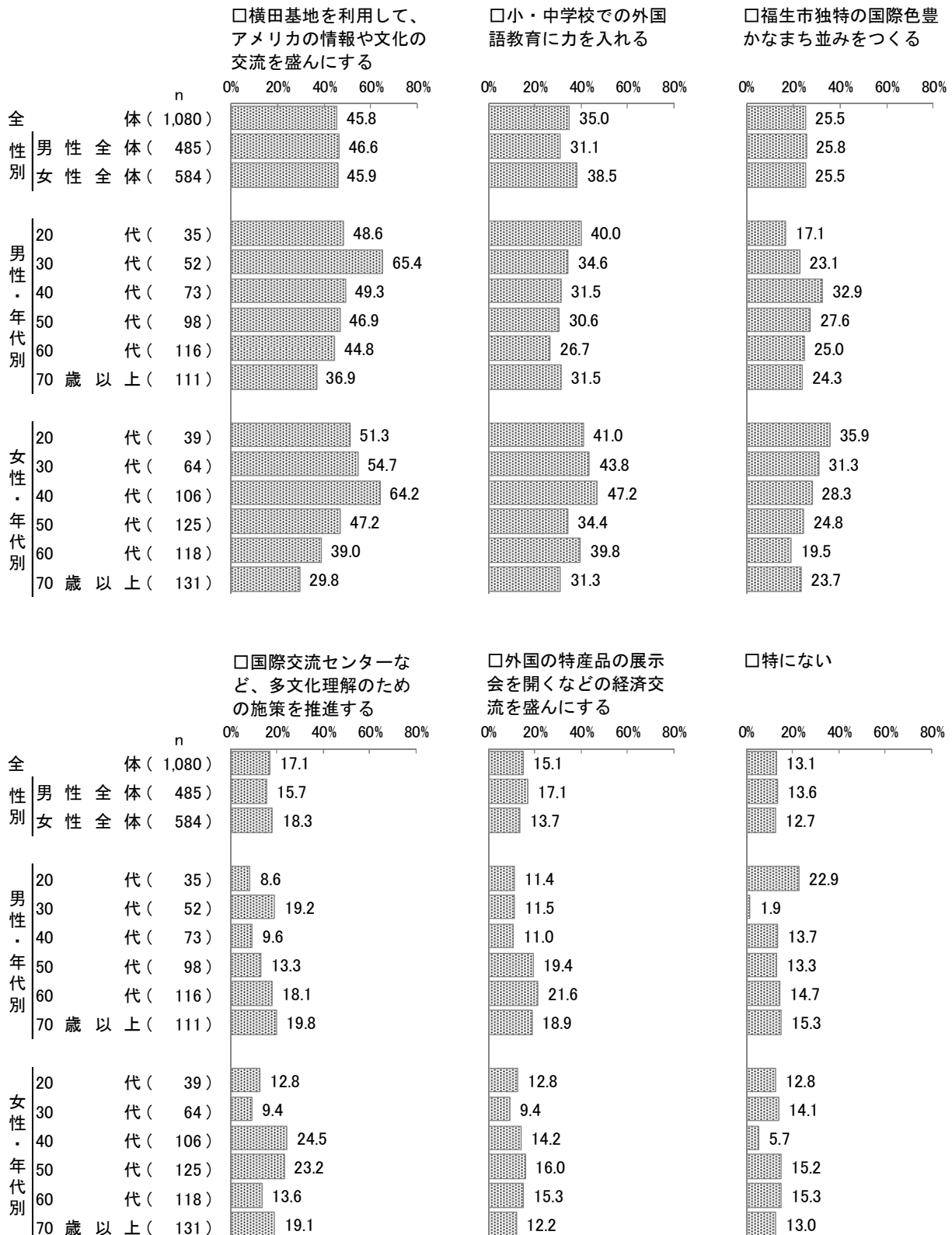
多文化共生を進めていく上で、特に力を入れるべきことを聞いたところ、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」(45.8%)が4割台半ばで最も高く、次いで「小・中学校での外国語教育に力を入れる」(35.0%)、「福生市独特の国際色豊かなまち並みをつくる」(25.5%)、「国際交流センターなど、多文化理解のための施策を推進する」(17.1%)、「外国の特産品の展示会を開くなどの経済交流を盛んにする」(15.1%)となっている。(図表8-4)

前回の調査結果と比較すると、「小・中学校での外国語教育に力を入れる」は3.6ポイント減少している。(図表8-4)

上位6項目について性別でみると、「小・中学校での外国語教育に力を入れる」は女性（38.5%）が男性（31.1%）より7.4ポイント高くなっている。「外国の特産品の展示会を開くなどの経済交流を盛んにする」は男性（17.1%）が女性（13.7%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」は男性30代（65.4%）と女性40代（64.2%）で6割台半ばと高くなっている。「小・中学校での外国語教育に力を入れる」は女性40代（47.2%）で5割弱と高くなっている。「福生市独特の国際色豊かなまち並みをつくる」は女性20代（35.9%）で3割台半ばと高くなっている。（図表8-5）

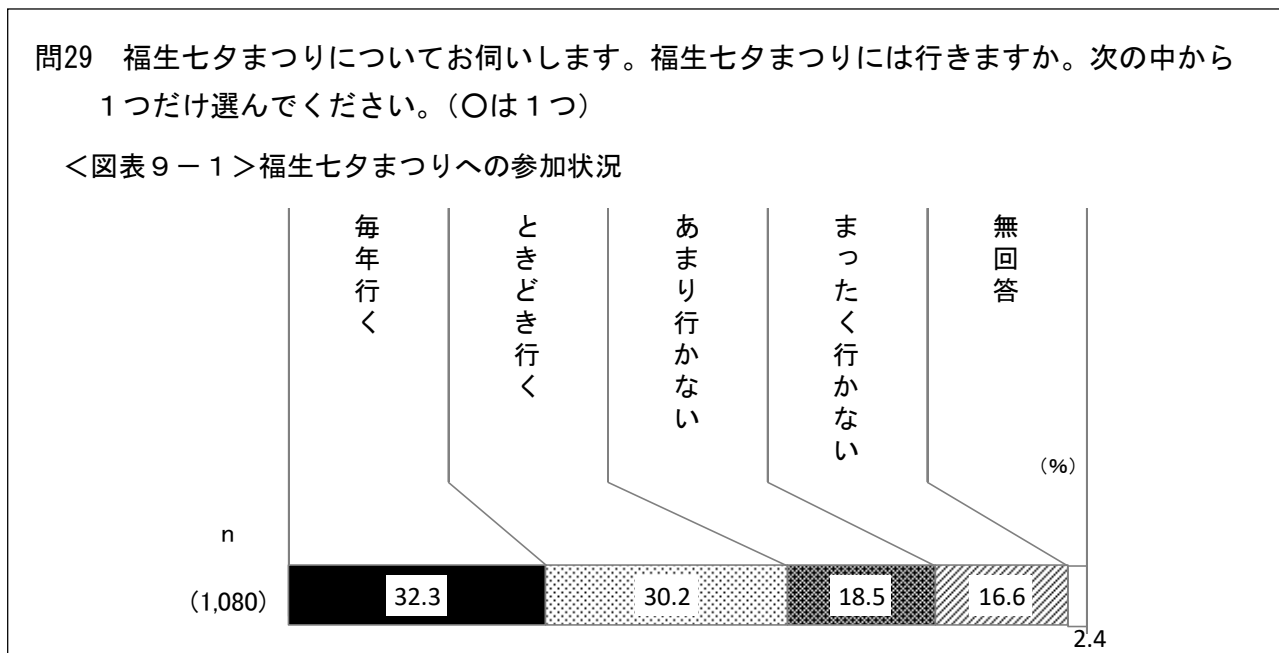
＜図表8-5＞多文化共生を進めていく上での重点項目／性別、性・年代別（上位6項目）



## 9. イベント・観光

### (1) 福生七夕まつりへの参加状況

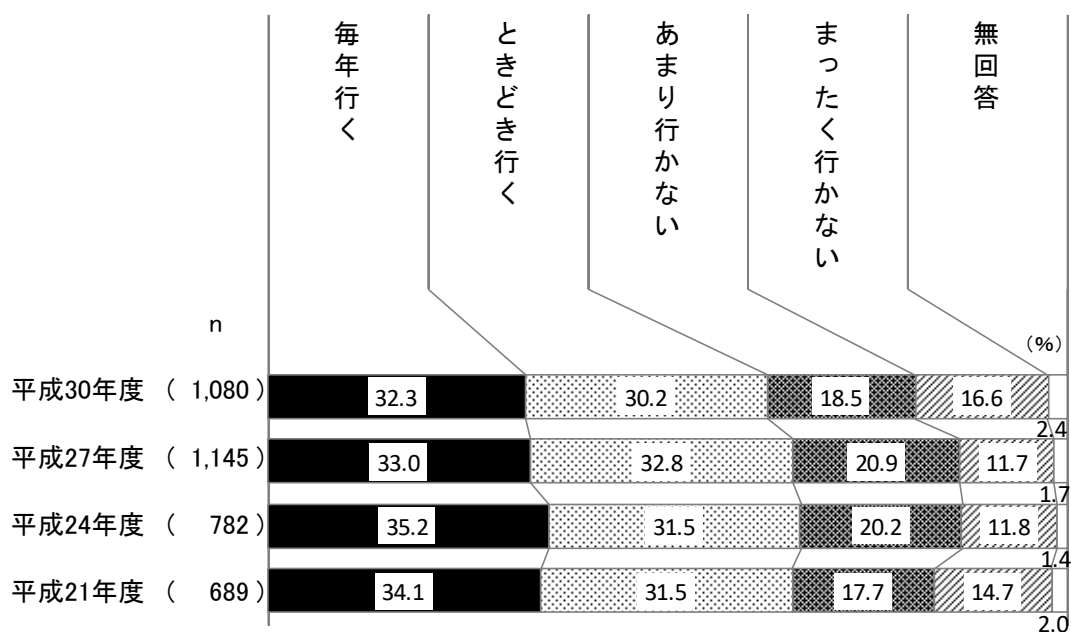
◇「毎年行く」が3割強



福生七夕まつりへの参加状況を聞いたところ、「毎年行く」(32.3%)が3割強となっている。「あまり行かない」(18.5%)、「まったく行かない」(16.6%)は2割弱となっている。(図表9-1)

過年度の調査結果の推移をみると、「毎年行く」と「ときどき行く」の割合に大きな傾向の変化は見られない。(図表9-2)

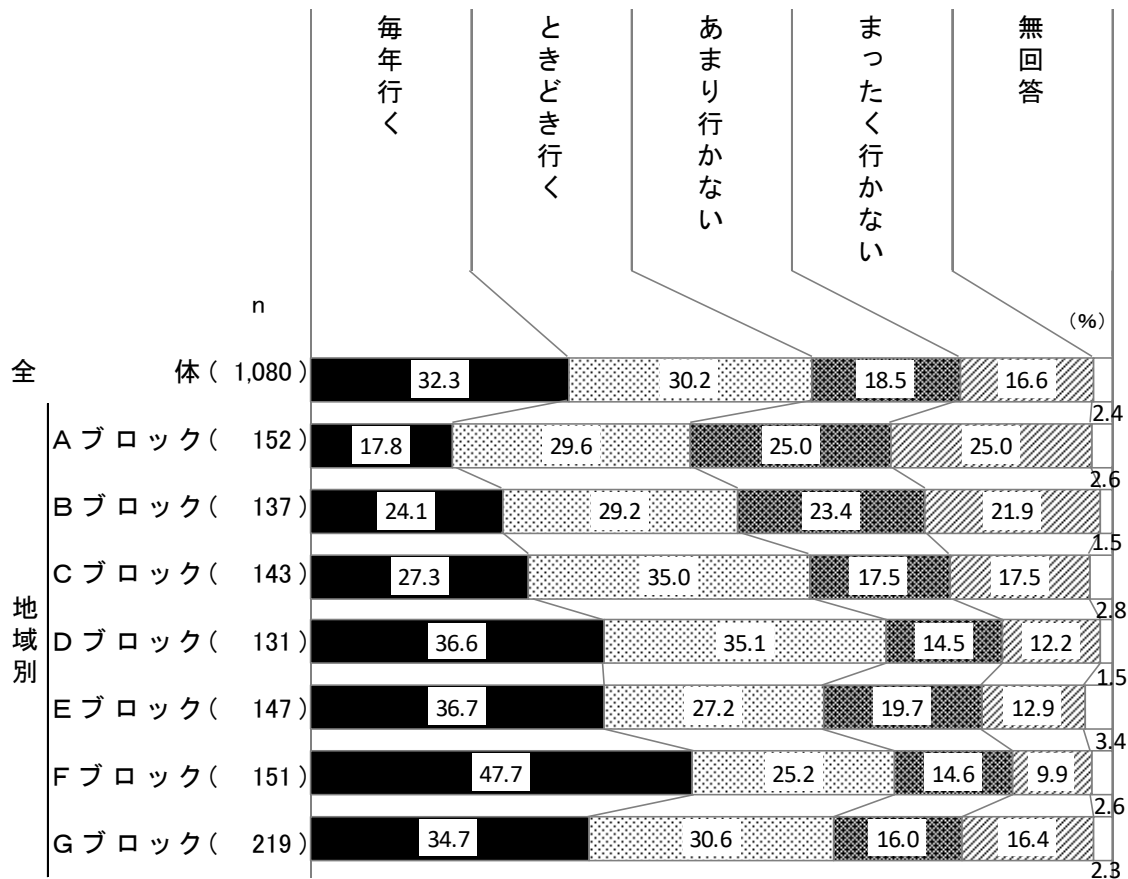
<図表9-2>福生七夕まつりへの参加状況/過年度推移



(注) 「あまり行かない」は、前回調査以前では「めったに行かない」としていた。

地域別でみると、「毎年行く」はFブロック（47.7%）で5割弱と高くなっている。「ときどき行く」はCブロック（35.0%）、Dブロック（35.1%）で3割台半ばと高くなっている。「あまり行かない」はAブロック（25.0%）で2割台半ばと高く、「まったく行かない」はAブロック（25.0%）で2割台半ばとなっている。（図表9－3）

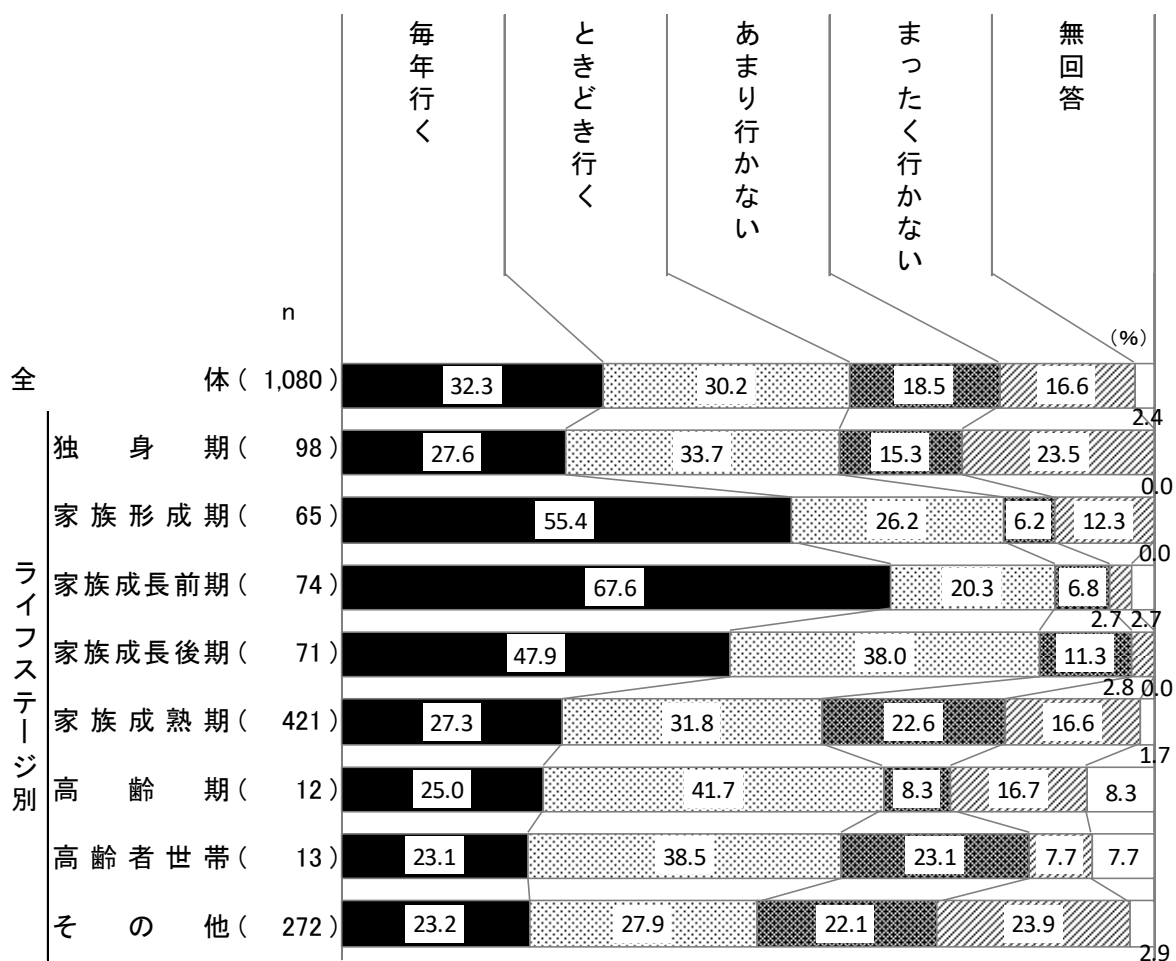
＜図表9－3＞福生七夕まつりへの参加状況／地域別





ライフステージ別でみると、「毎年行く」は家族成長前期 (67.6%) で7割弱、家族形成期 (55.4%) で5割台半ばと高くなっている。(図表9-4)

＜図表9-4＞福生七夕まつりへの参加状況／ライフステージ別



(2) 福生七夕まつりに行く理由

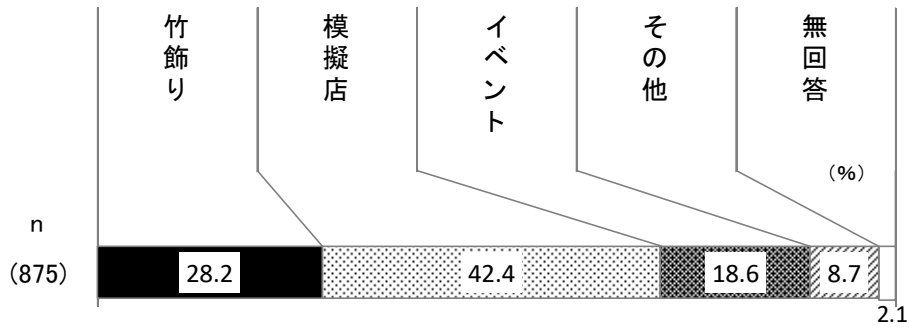
◇「模擬店」が4割強

(問29で、「1 毎年行く」「2 ときどき行く」「3 あまり行かない」を選んだ方に)

問29-1 七夕まつりに行く目的は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

(○は1つ)

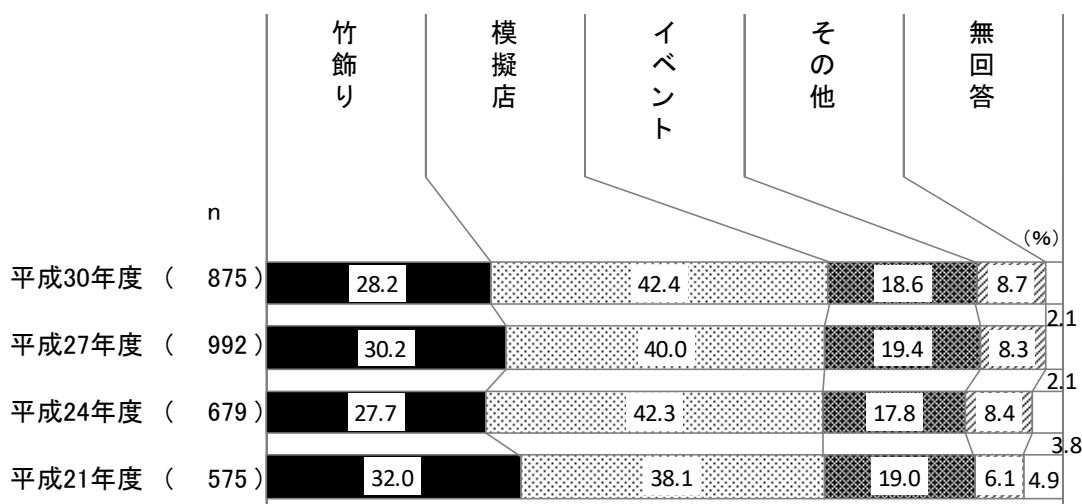
<図表9-5>福生七夕まつりに行く理由



福生七夕まつりに「毎年行く」、「ときどき行く」、「あまり行かない」と答えた方に、福生七夕まつりに行く理由を聞いたところ、「模擬店」(42.4%)が4割強で最も高く、次いで「竹飾り」(28.2%)、「イベント」(18.6%)となっている。(図表9-5)

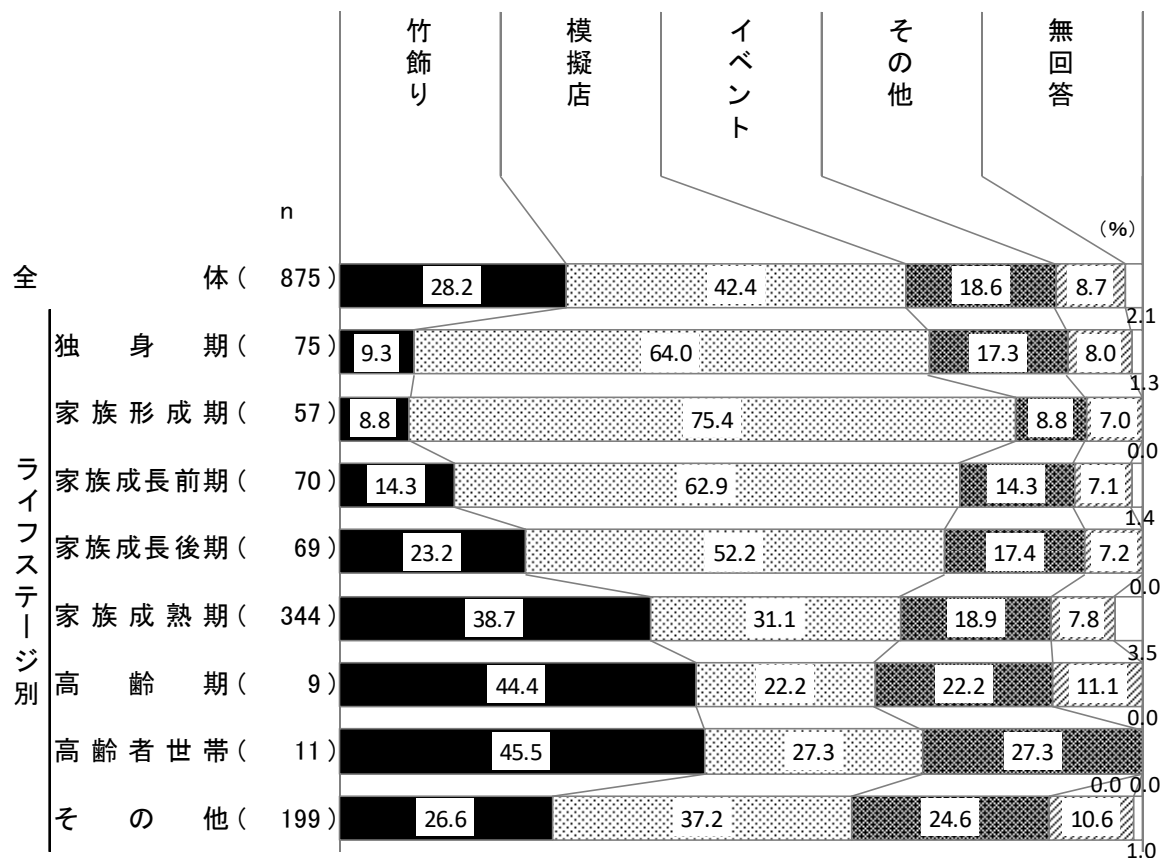
過年度の調査結果の推移をみると、「模擬店」が第1位、「竹飾り」が第2位、「イベント」が第3位となっている傾向に変化はみられない。(図表9-6)

<図表9-6>福生七夕まつりに行く理由/過年度推移



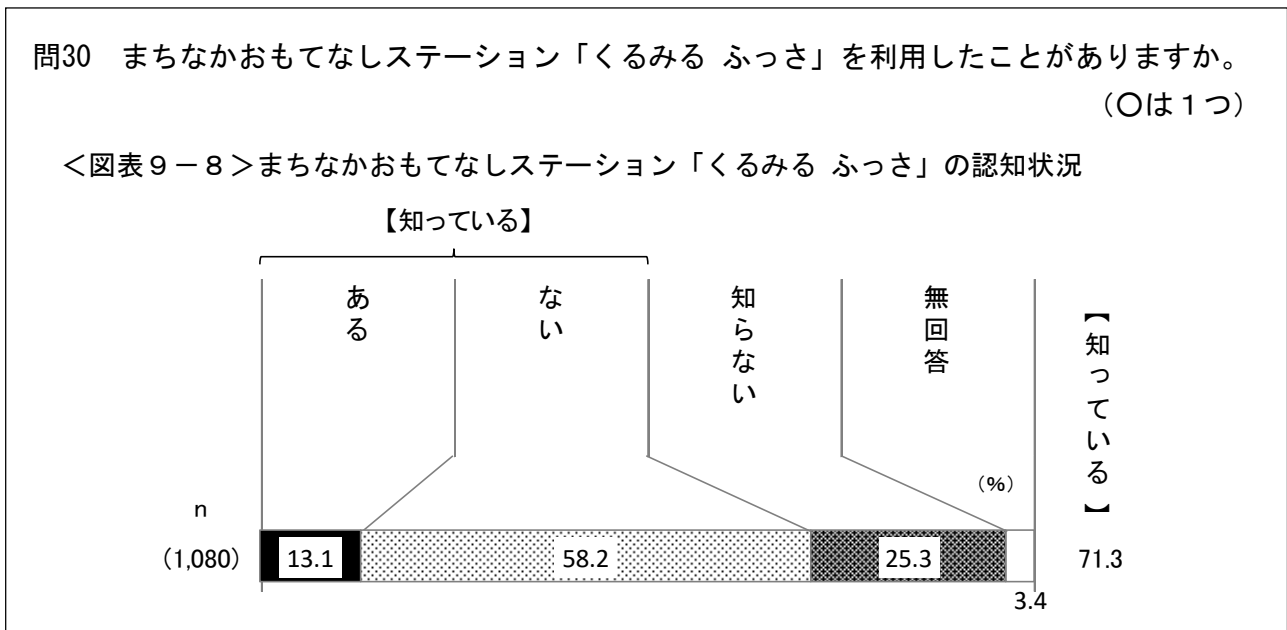
ライフステージ別でみると、「模擬店」は家族形成期（75.4%）で7割台半ば、独身期（64.0%）、家族成長前期（62.9%）で6割強と高くなっている。（図表9-7）

<図表9-7>福生七夕まつりに行く理由／ライフステージ別



(3) まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の認知状況

◇【知っている】が7割強

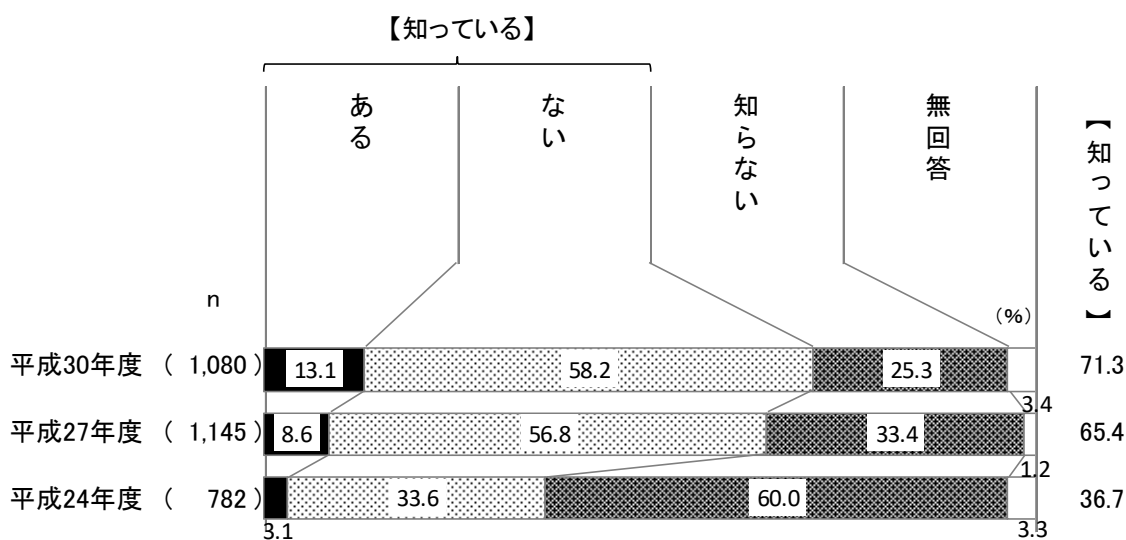


まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」(13.1%)が1割強となっており、これと「ない」(58.2%)の2つを合わせた【知っている】(71.3%)が7割強となっている。一方、「知らない」(25.3%)は2割台半ばとなっている。

(図表9-8)

前回の調査結果と比較すると、「ある」は4.5ポイント増加し、【知っている】は5.9ポイント増加している。(図表9-9)

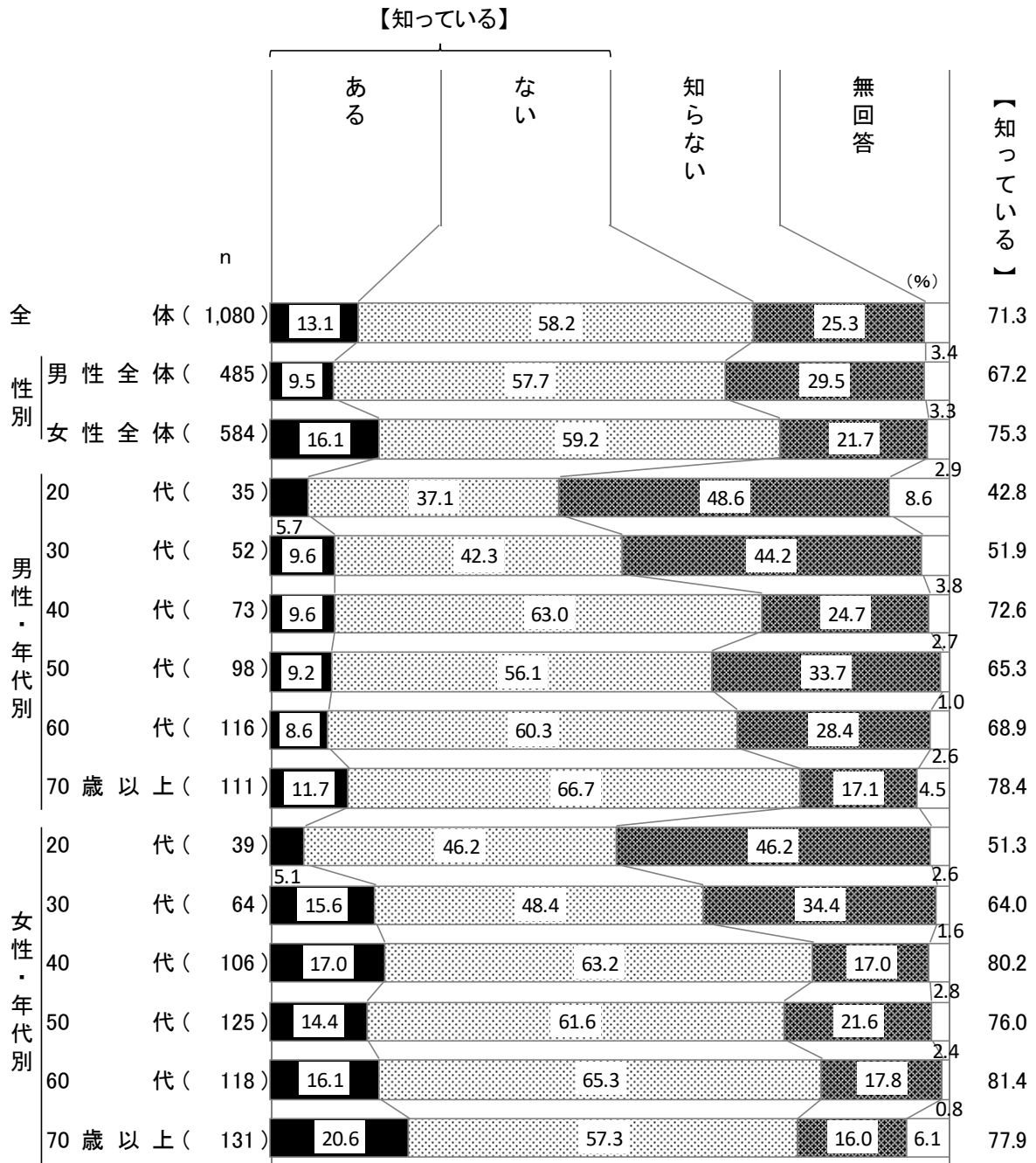
<図表9-9> まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の認知状況/過年度推移



性別で見ると、【知っている】は女性（75.3%）が男性（67.2%）より8.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は女性60代（81.4%）で8割強、女性40代（80.2%）で約8割と高くなっている。一方、「知らない」は男性20代（48.6%）と女性20代（46.2%）で5割弱と高くなっている。（図表9-10）

<図表9-10>まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の認知状況  
／性別、性・年代別



(4) まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の利用目的

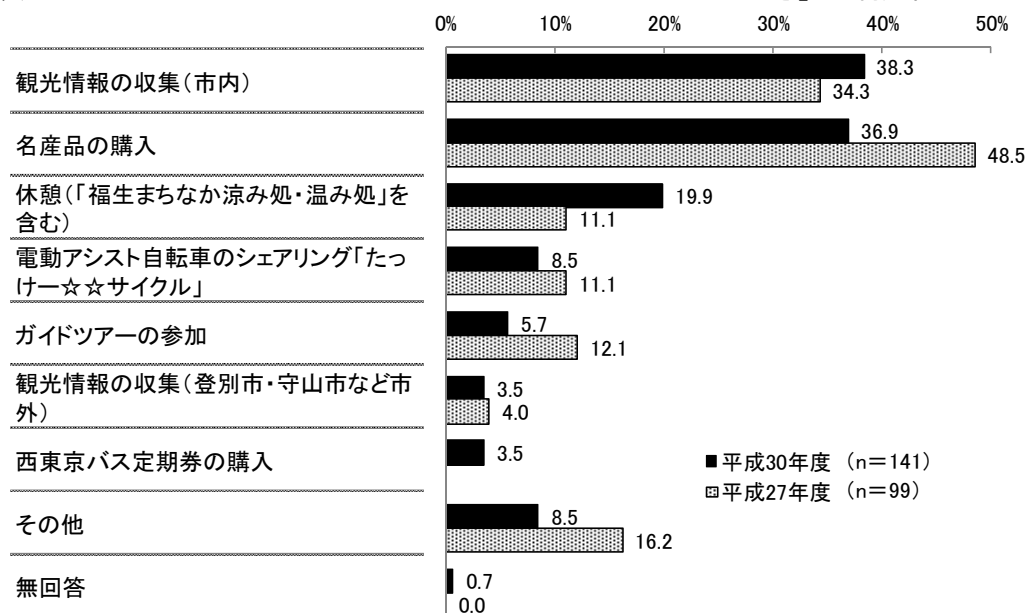
◇「観光情報の収集（市内）」が4割弱

(問30で、「1 ある」を選んだ方に)

問30-1 利用した目的は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

(○はいくつでも)

<図表9-11> まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の利用目的



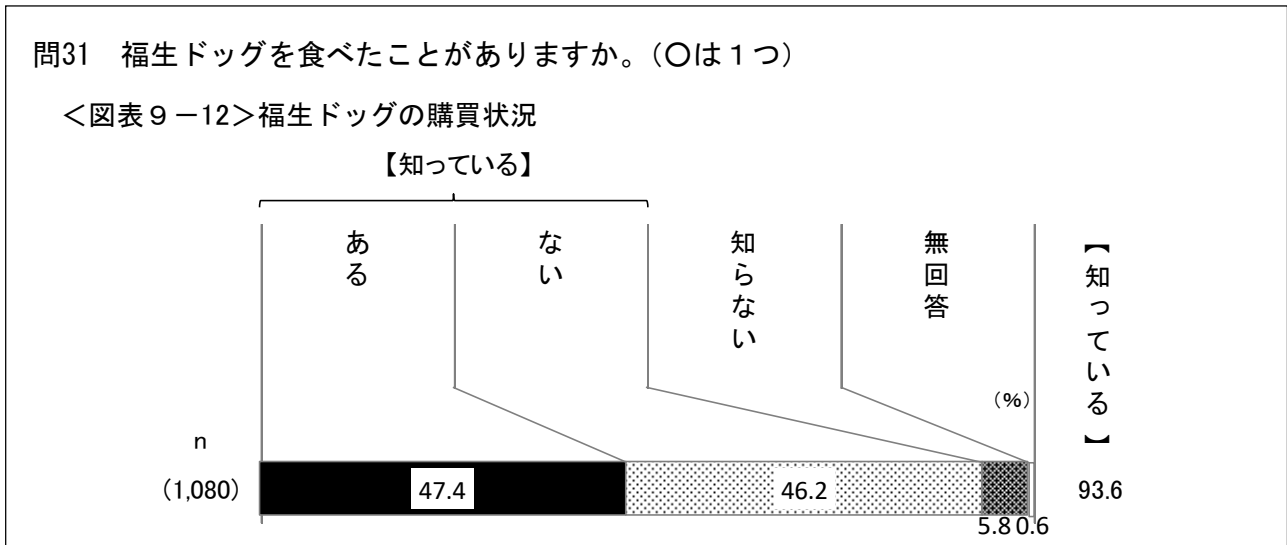
(注)「西東京バス定期券の購入」は、今回調査で追加した選択肢である。

まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」を利用したことが「ある」と答えた方に、利用した目的を聞いたところ、「観光情報の収集（市内）」（38.3%）が4割弱で最も高く、次いで「名産品の購入」（36.9%）、「休憩（『福生まちなか涼み処・温み処』を含む）」（19.9%）、「電動アシスト自転車のシェアリング『たっけー☆☆サイクル』」（8.5%）となっている。（図表9-11）

前回の調査結果と比較すると、「休憩（『福生まちなか涼み処・温み処』を含む）」は8.8ポイント増加している。一方、「名産品の購入」は11.6ポイント減少している。（図表9-11）

(5) 福生ドッグの購買状況

◇食べたことが「ある」が5割弱

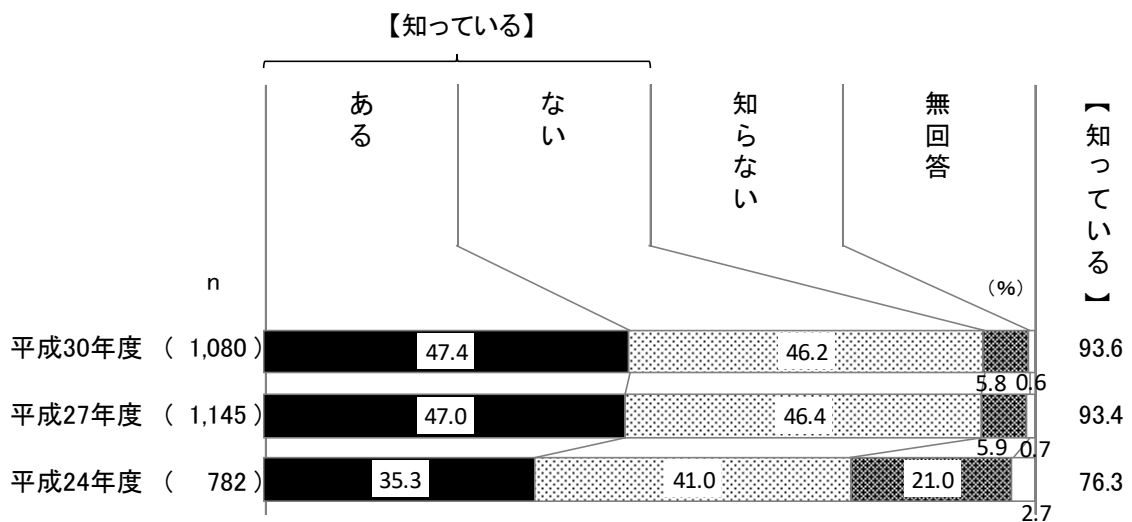


福生ドッグを食べたことがあるか聞いたところ、「ある」(47.4%)が5割弱となっており、これと「ない」(46.2%)の2つを合わせた【知っている】(93.6%)は9割強と高くなっている。

(図表9-12)

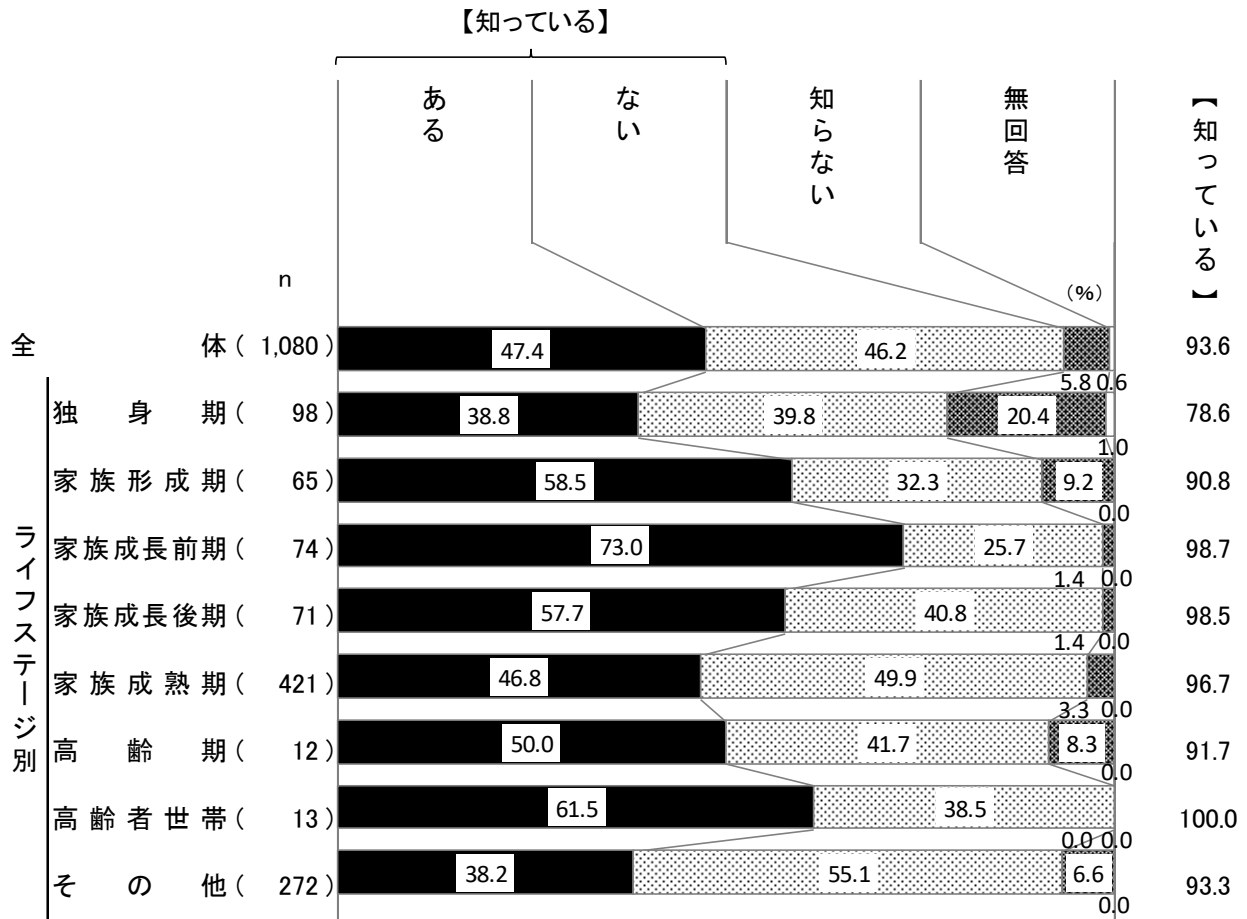
前回の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表9-13)

<図表9-13>福生ドッグの購買状況/過年度推移



ライフステージ別で見ると、【知っている】は独身期を除いてすべてのライフステージで9割以上と高くなっている。食べたことが「ある」は家族成長前期（73.0%）で約7割強、家族形成期（58.5%）、家族成長後期（57.7%）で6割弱と高くなっている。（図表9-14）

<図表9-14>福生ドッグの購買状況／ライフステージ別



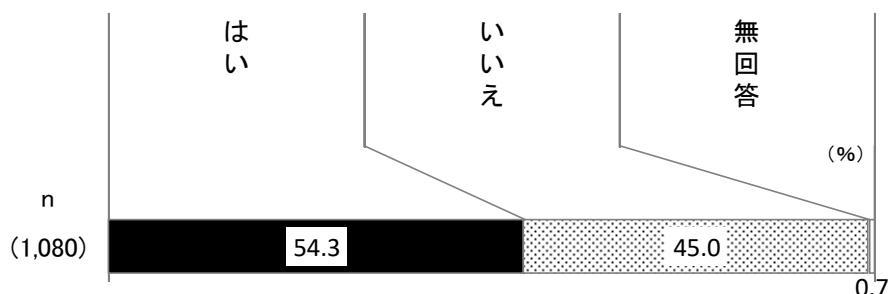


(6) 福生ロケーションサービスの認知状況

◇「知っている」が5割台半ば

問32 ロケ支援について、福生市では福生ロケーションサービスを設置し、映画やTVドラマのロケ撮影の誘致に取り組んでいます。ご存知ですか。(○は1つ)

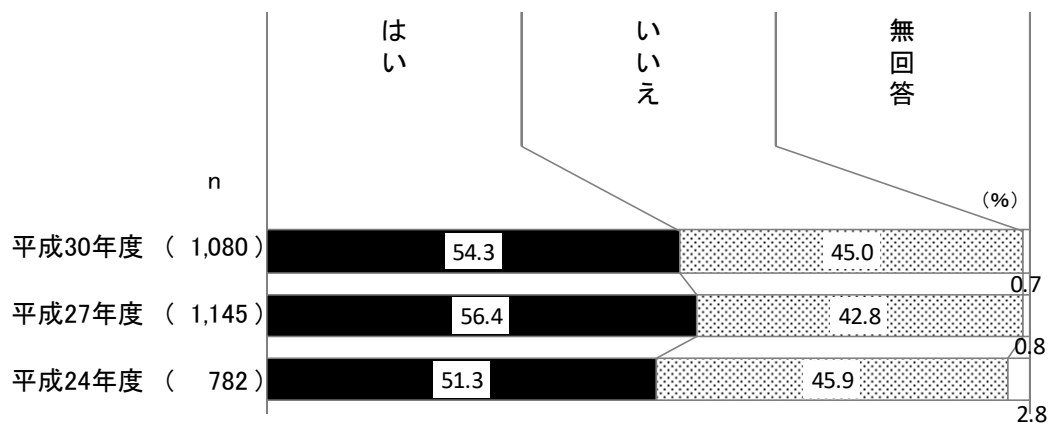
＜図表9-15＞福生ロケーションサービスの認知状況



福生市では福生ロケーションサービスを設置し、映画やTVドラマのロケ撮影の誘致に取り組んでいることを知っているか聞いたところ、「はい」(54.3%)が5割台半ば、「いいえ」(45.0%)は4割台半ばとなっている。(図表9-15)

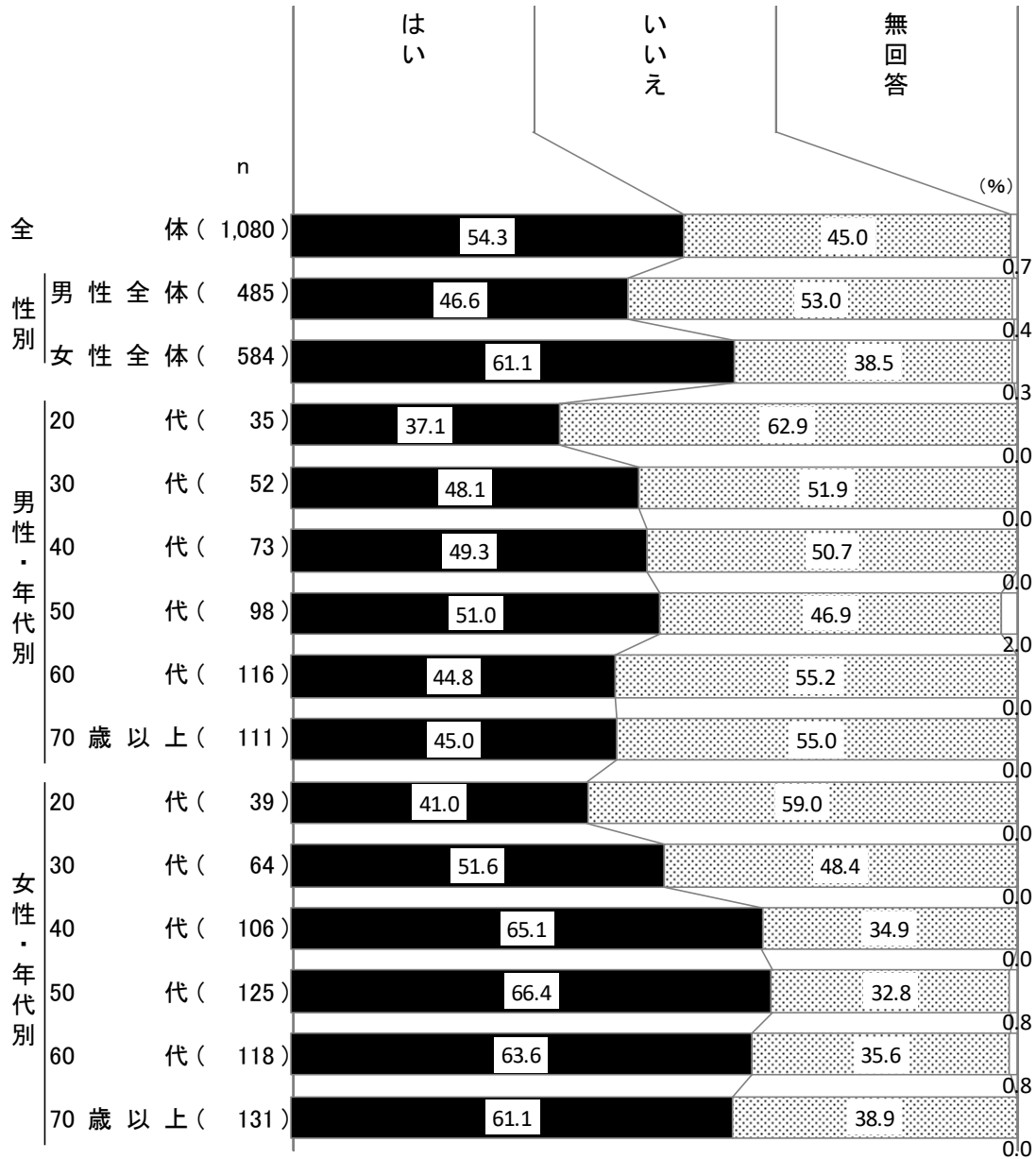
前回の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表9-16)

＜図表9-16＞福生ロケーションサービスの認知状況／過年度推移



性別で見ると、「はい」は女性（61.1%）が男性（46.6%）より14.5ポイント高くなっている。  
 性・年代別で見ると、「はい」は女性50代（66.4%）で7割弱、女性40代（65.1%）で6割台半ばと高くなっている。一方、「いいえ」は男性20代（62.9%）で6割強、女性20歳以上（59.0%）で約6割と高くなっている。（図表9-17）

<図表9-17>福生ロケーションサービスの認知状況／性別、性・年代別



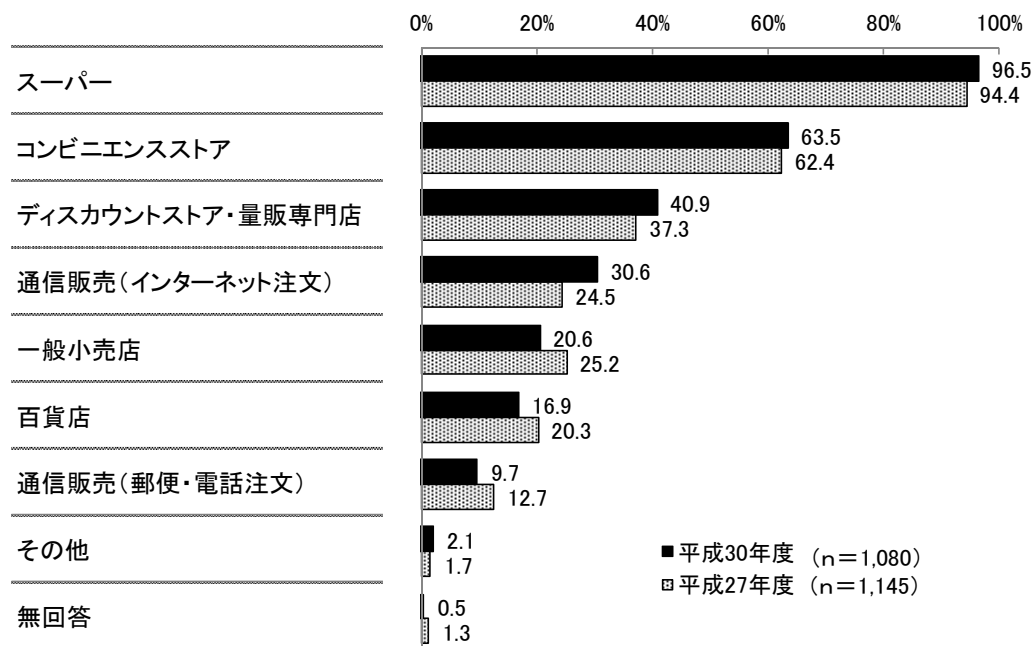
## 10. 消費生活

### (1) 日用品・食料品の購入店舗

◇「スーパー」が9割台後半

問33 日用品・食料品のお買い物についてお伺いします。どのような店舗で買い物をしますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

<図表10-1>日用品・食料品の購入店舗

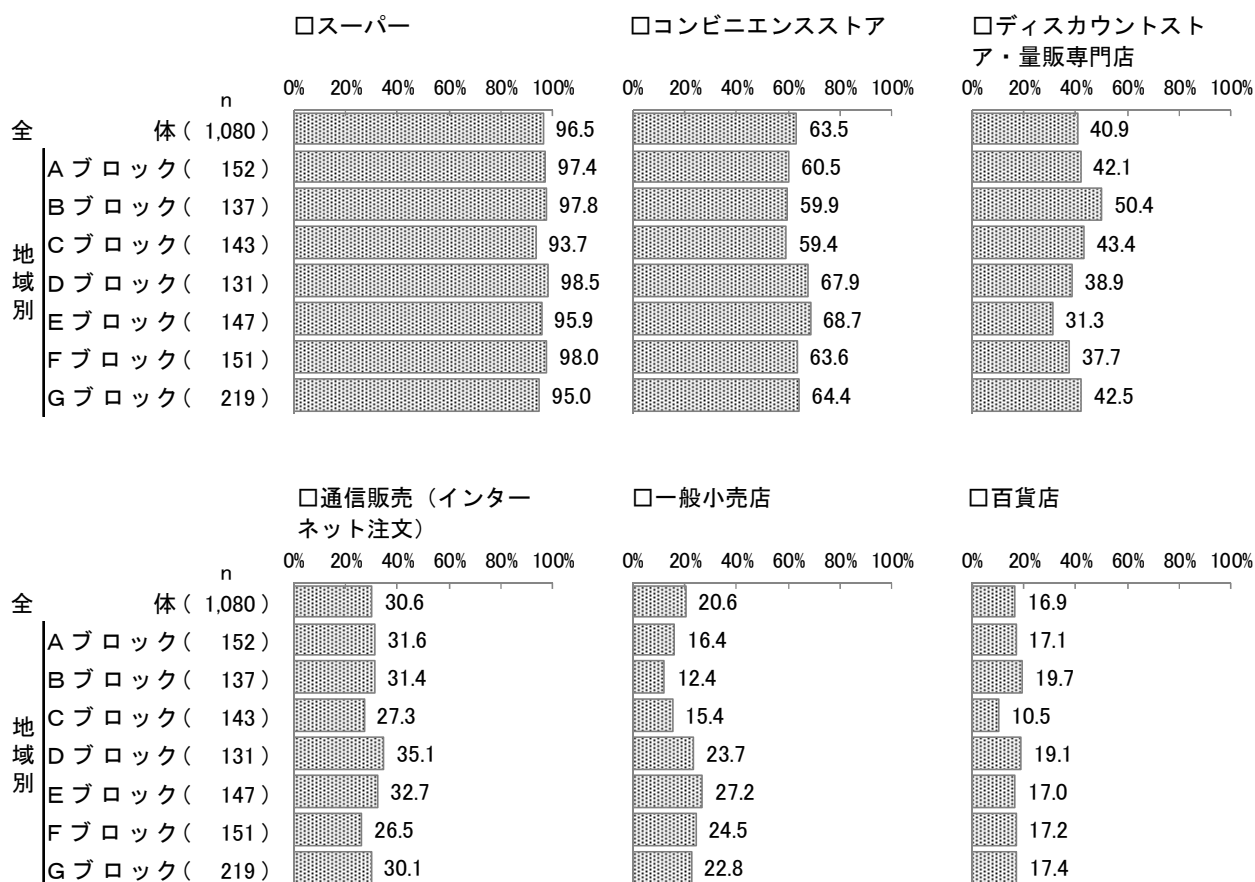


日用品・食料品の購入店舗を聞いたところ、「スーパー」(96.5%)が9割台後半で最も高く、次いで「コンビニエンスストア」(63.5%)、「ディスカウントストア・量販専門店」(40.9%)、「通信販売(インターネット注文)」(30.6%)、「一般小売店」(20.6%)となっている。(図表10-1)

前回の調査結果と比較すると、「通信販売(インターネット注文)」は6.1ポイント増加している。一方、「一般小売店」は4.6ポイント減少している(図表10-1)

上位6項目について地域別でみると、「コンビニエンスストア」はDブロック（67.9%）とEブロック（68.7%）で7割弱と高くなっている。「ディスカウントストア・量販専門店」はBブロック（50.4%）で約5割と高くなっている。（図表10-2）

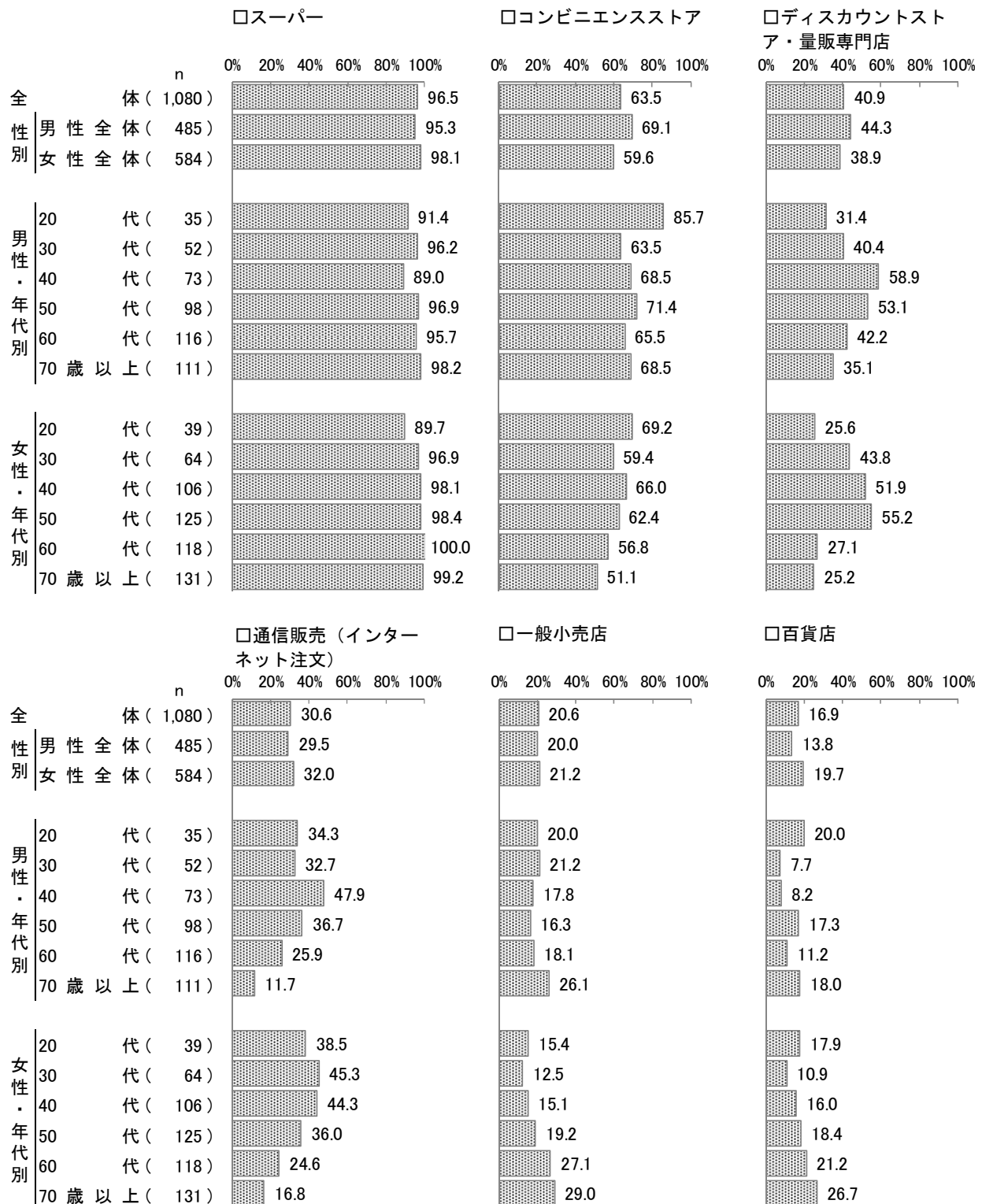
＜図表10-2＞日用品・食料品の購入店舗／地域別（上位6項目）



上位6項目について性別でみると、「コンビニエンスストア」は男性（69.1%）が女性（59.6%）より9.5ポイント高く、「ディスカウントストア・量販専門店」は男性（44.3%）が女性（38.9%）より5.4ポイント高く、「百貨店」は女性（19.7%）が男性（13.8%）より5.9ポイント高くなっている。

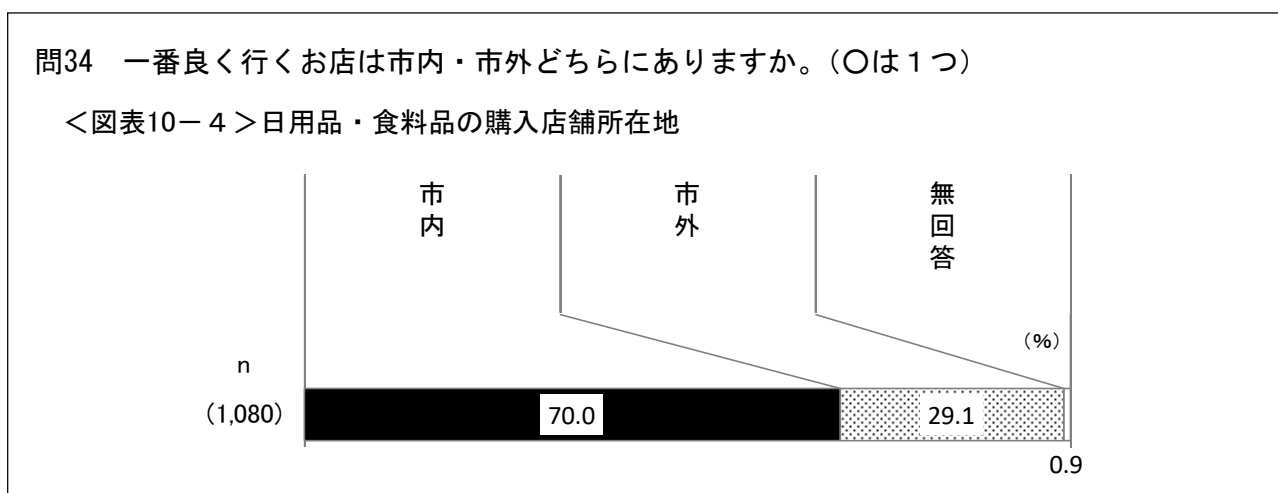
性・年代別でみると、「コンビニエンスストア」は男性20代（85.7%）で8割台半ばと高くなっている。「ディスカウントストア・量販専門店」は男性40代（58.9%）で6割弱と高くなっている。「通信販売（インターネット注文）」は男性40代（47.9%）が5割弱、女性30代（45.3%）・女性40代（44.3%）で4割台半ばと高くなっている。（図表10-3）

＜図表10-3＞日用品・食料品の購入店舗／性別、性・年代別（上位6項目）



## (2) 日用品・食料品の購入店舗所在地

◇「市内」が7割

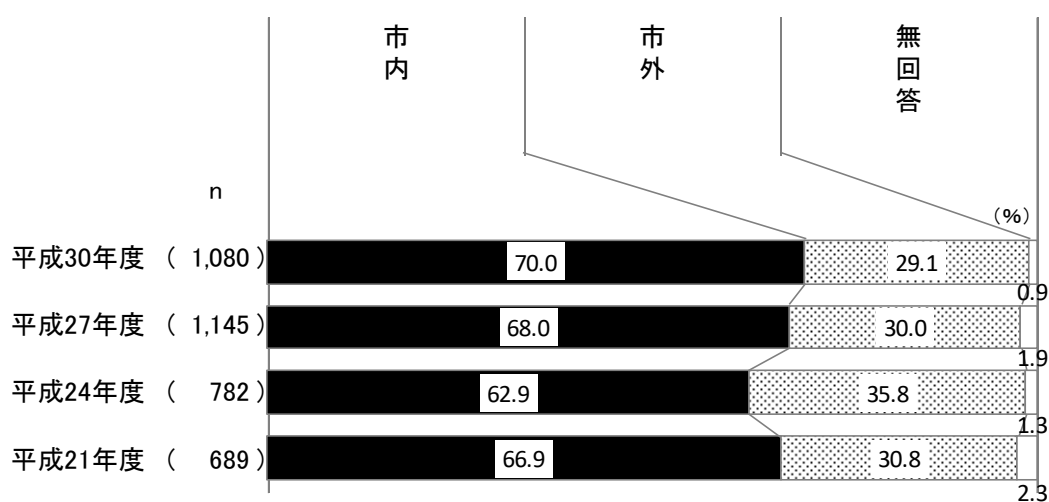


一番良く行くお店は市内・市外どちらにあるか聞いたところ、「市内」(70.0%)が7割と高くなっている。一方、「市外」(29.1%)は約3割となっている。(図表10-4)

過年度の調査結果の推移をみると、「市内」は平成27年度に比べて2.0ポイント増加している。

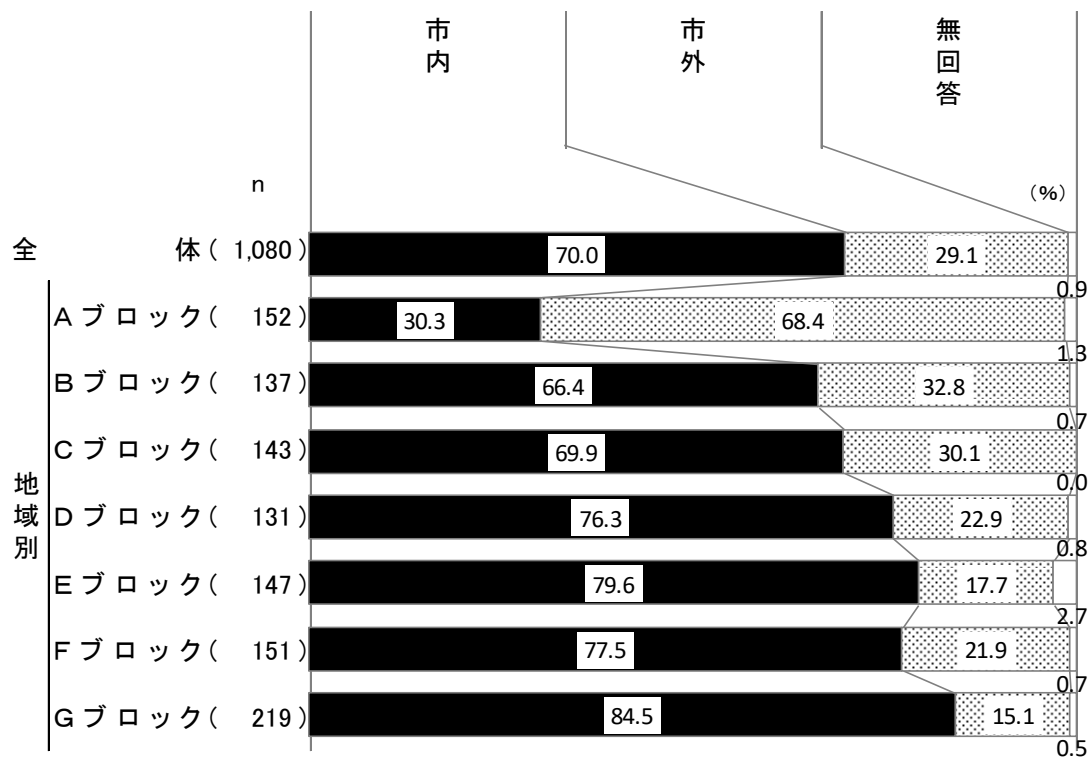
(図表10-5)

<図表10-5>日用品・食料品の購入店舗所在地／過年度推移



地域別でみると、「市内」はGブロック（84.5%）で8割台半ば、Eブロック（79.6%）で約8割、Fブロック（77.5%）で8割弱と高くなっている。一方、「市外」はAブロック（68.4%）で7割弱と高くなっている。（図表10-6）

＜図表10-6＞日用品・食料品の購入店舗所在地／地域別

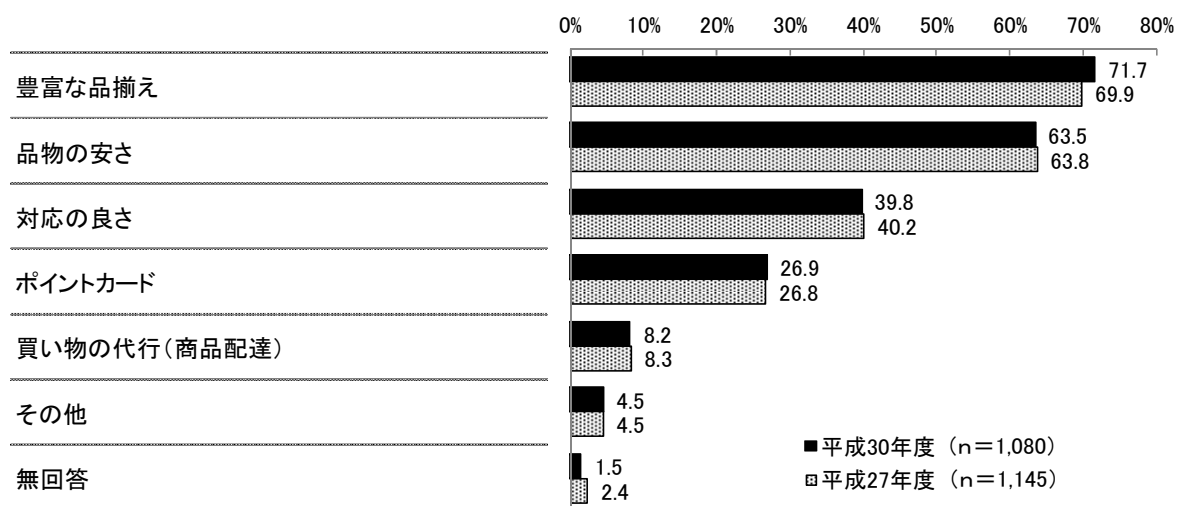


### (3) 市内の商店に希望するサービス

◇「豊富な品揃え」が7割強

問35 市内の商店にどのようなサービスを望みますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。(○はいくつでも)

<図表10-7>市内の商店に希望するサービス



市内の商店に希望するサービスを聞いたところ、「豊富な品揃え」(71.7%)が7割強で最も高く、次いで「品物の安さ」(63.5%)、「対応の良さ」(39.8%)、「ポイントカード」(26.9%)となっている。(図表10-7)

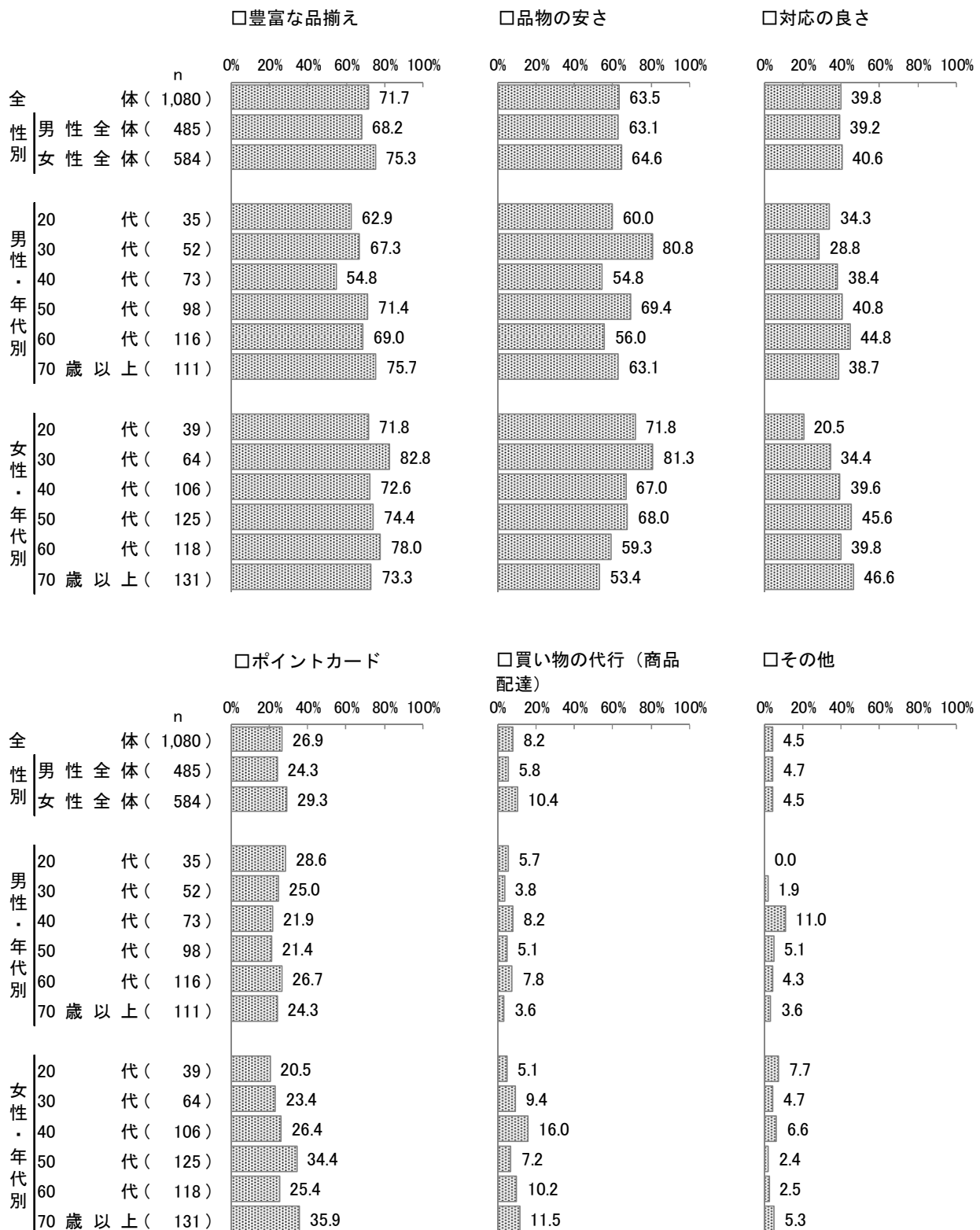
前回の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表10-7)



性別で見ると、「豊富な品揃え」は女性（75.3%）が男性（68.2%）より7.1ポイント高く、「ポイントカード」は女性（29.3%）が男性（24.3%）より5.0ポイント高くなっている。

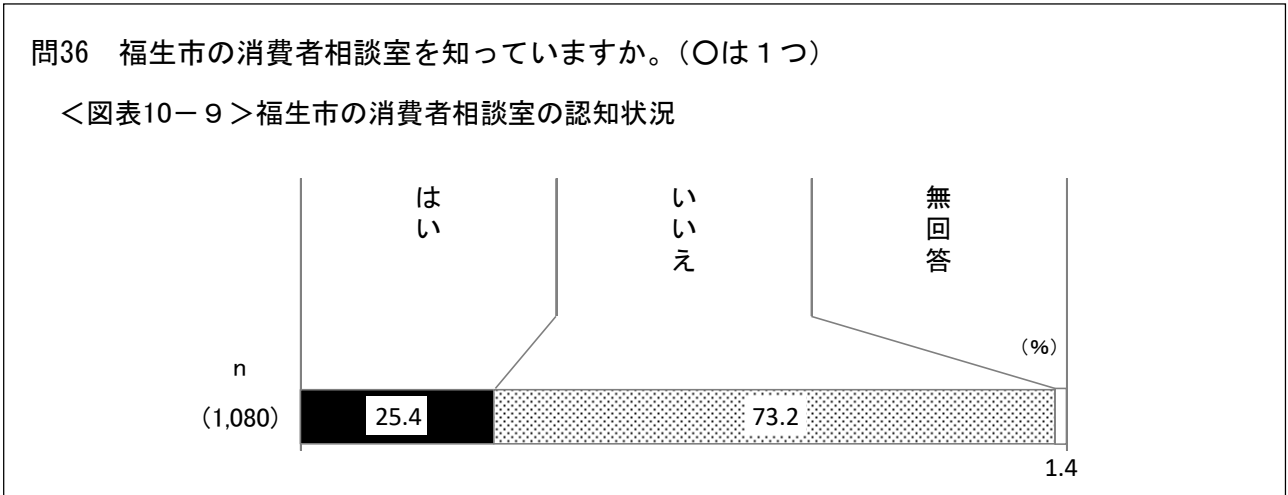
性・年代別で見ると、「豊富な品揃え」は女性30代（82.8%）で8割強と高くなっている。「品物の安さ」は男性30代（80.8%）で約8割、女性30代（81.3%）で8割強と高くなっている。「対応の良さ」は女性70歳以上（46.6%）で5割弱と高くなっている。「ポイントカード」は女性50代（34.4%）と女性70歳以上（35.9%）で3割台半ばと高くなっている。（図表10-8）

<図表10-8>市内の商店に希望するサービス／性別、性・年代別



(4) 福生市の消費者相談室の認知状況

◇「知っている」が2割台半ば

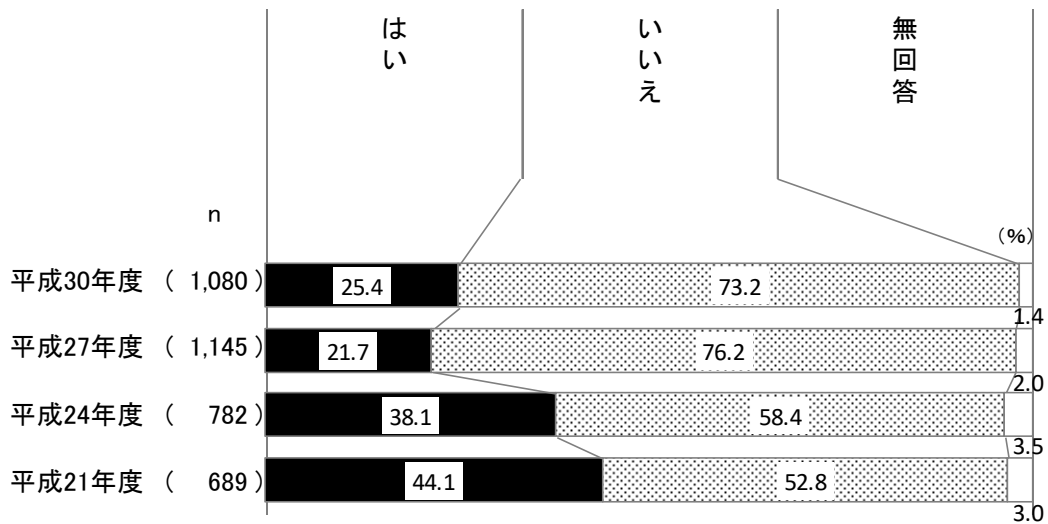


福生市の消費者相談室を知っているか聞いたところ、「はい」(25.4%)が2割台半ば、「いいえ」(73.2%)が7割強となっている。(図表10-9)

過年度の調査結果の推移をみると、「はい」は平成27年度に比べて3.7ポイント増加している。

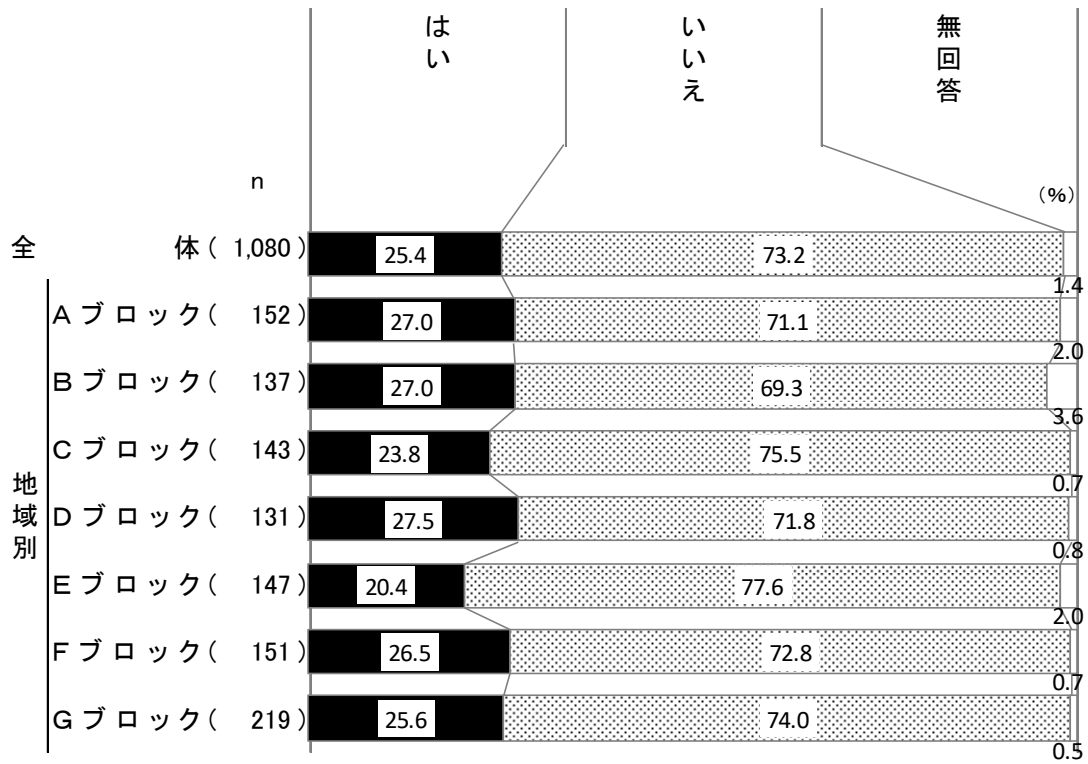
(図表10-10)

<図表10-10> 福生市の消費者相談室の認知状況／過年度推移



地域別でみると、「いいえ」はEブロック（77.6%）で8割弱と高くなっている。（図表10-11）

＜図表10-11＞福生市の消費者相談室の認知状況／地域別

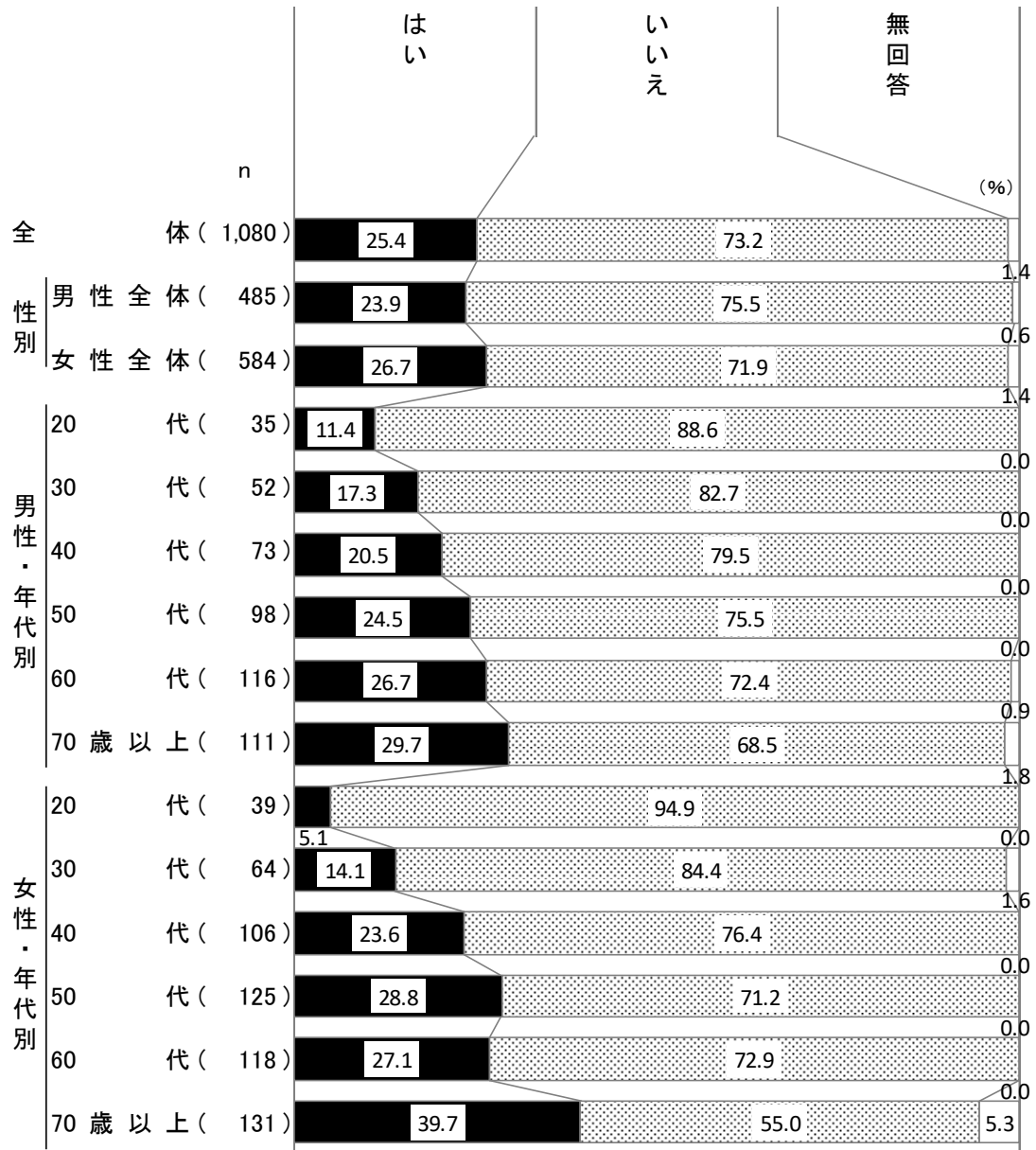


性別で見ると、「はい」は女性（26.7%）が男性（23.9%）より2.8ポイント高く、「いいえ」は男性（75.5%）が女性（71.9%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「はい」は女性70歳以上（39.7%）で約4割と高くなっている。一方、「いいえ」は女性20代（94.9%）で9割台半ば、男性20代（88.6%）で9割弱と高くなっている。

（図表10-12）

＜図表10-12＞福生市の消費者相談室の認知状況／性別、性・年代別

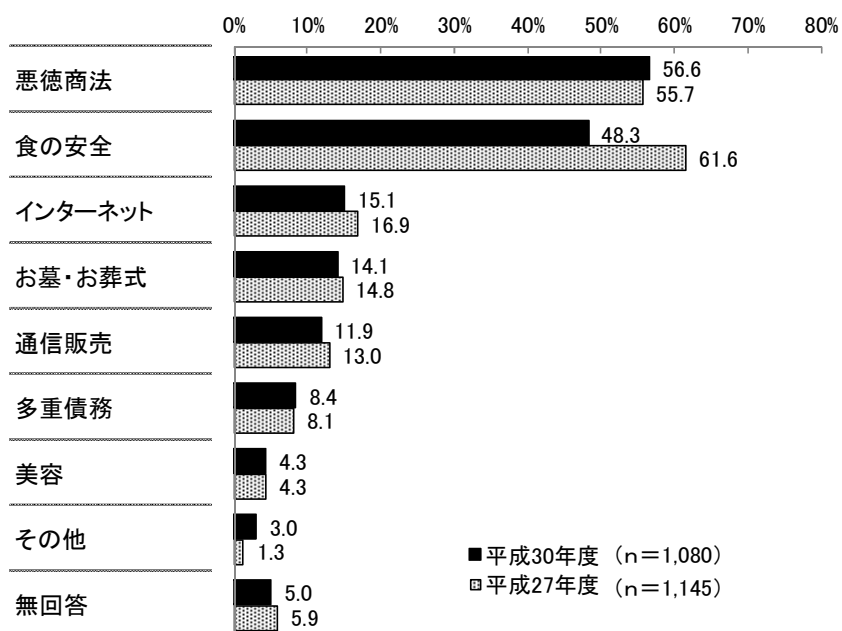


## (5) 消費者問題についての関心事

◇「悪徳商法」が6割弱

問37 消費者問題でどのようなテーマに関心がありますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

<図表10-13>消費者問題についての関心事



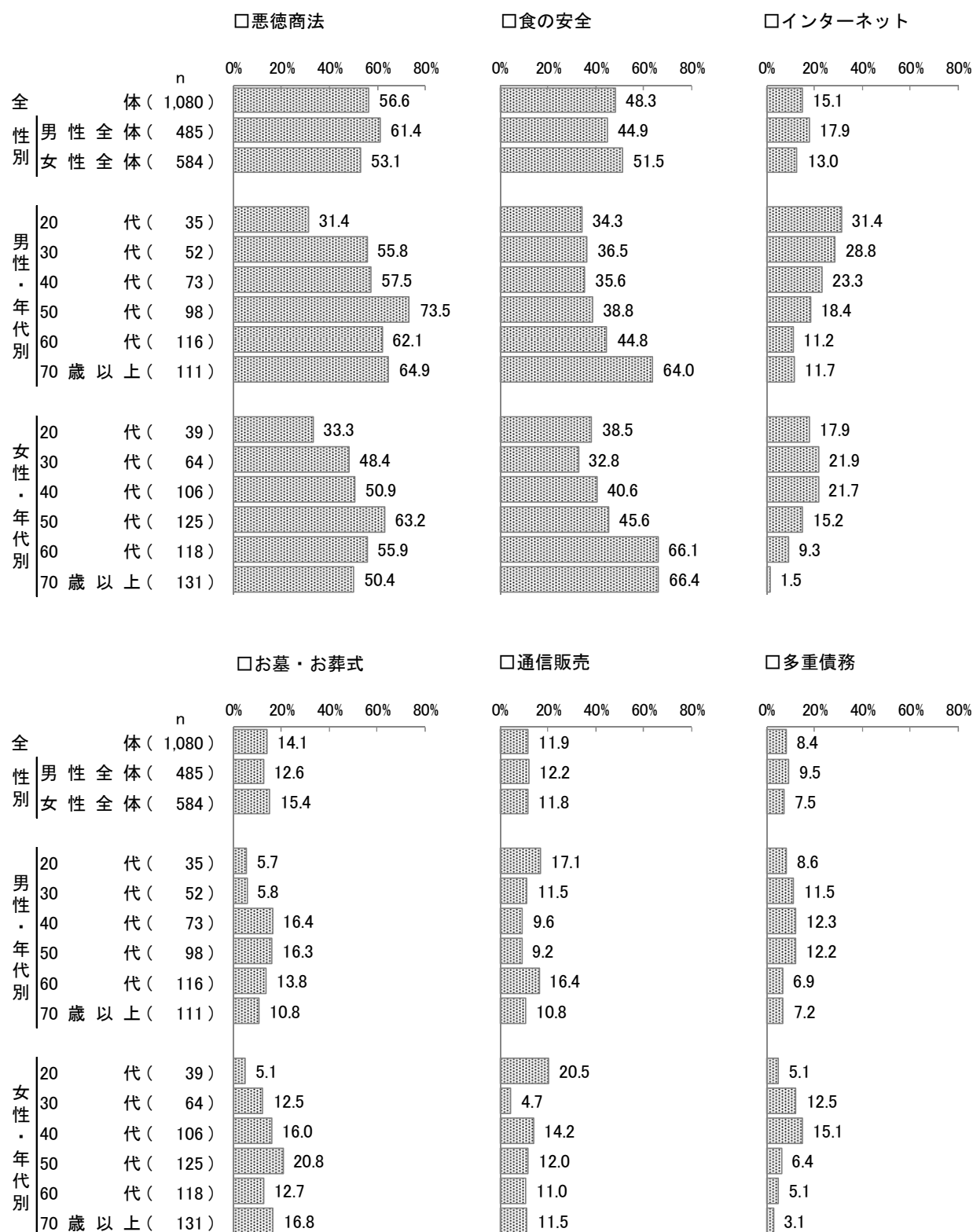
消費者問題についての関心事を聞いたところ、「悪徳商法」(56.6%)が6割弱で最も高く、次いで「食の安全」(48.3%)、「インターネット」(15.1%)、「お墓・お葬式」(14.1%)、「通信販売」(11.9%)となっている。(図表10-13)

前回の調査結果と比較すると、「食の安全」は13.3ポイント減少している。(図表10-13)

上位6項目について性別でみると、「悪徳商法」は男性（61.4%）が女性（53.1%）より8.3ポイント高くなっている。「食の安全」は女性（51.5%）が男性（44.9%）より6.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「悪徳商法」は男性50代（73.5%）で7割強と高くなっている。「食の安全」は女性60代（66.1%）、女性70歳以上（66.4%）で7割弱、男性70歳以上（64.0%）で6割強と高くなっている。「インターネット」は男性20代（31.4%）で3割強と高くなっている。（図表10-14）

<図表10-14>消費者問題についての関心事／性別、性・年代別（上位6項目）



# 11. 男女共同参画

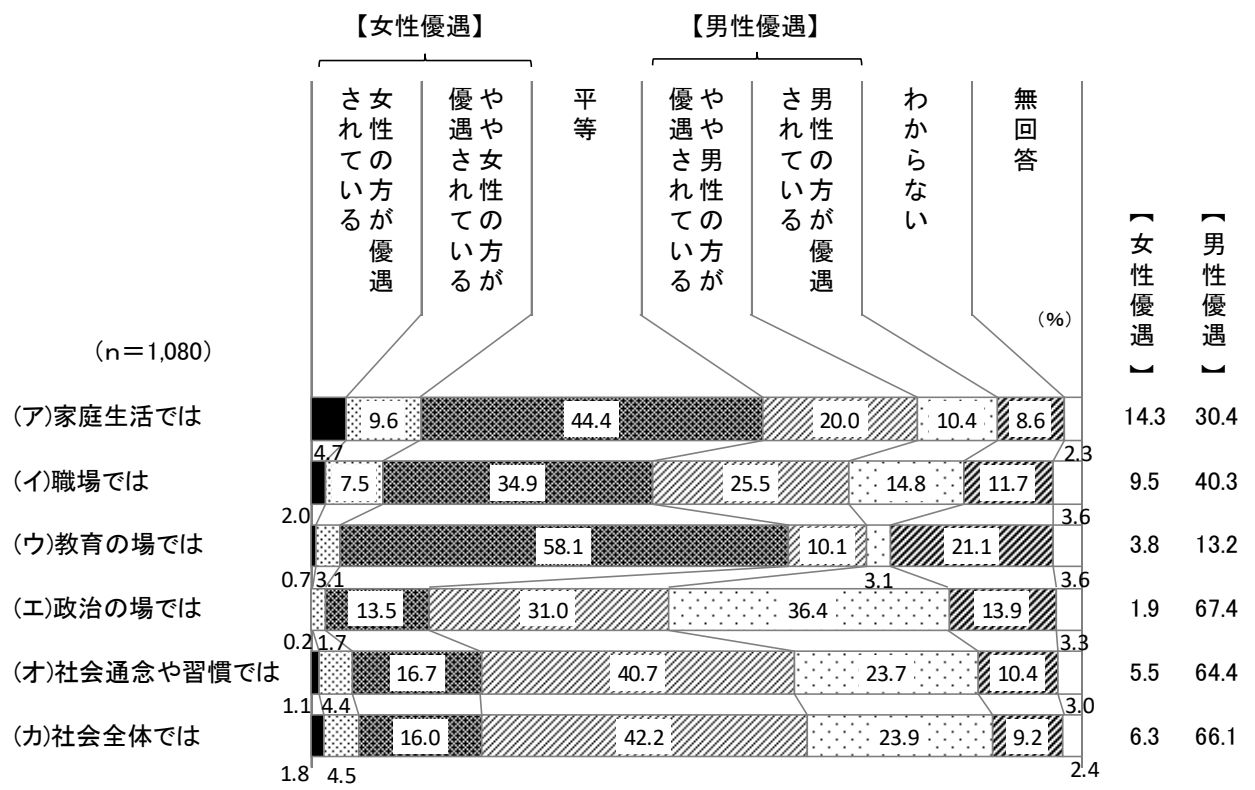
## (1) 男女の地位

◇「平等」は「教育の場では」が6割弱

問38 あなたの身近なそれぞれの場において、男女の地位は平等になっていると思いますか。その場にいない場合でも、周りを見て最も近いと感じるものをお選びください。

(ア) から (カ) までの各項目について、それぞれ1つずつ選んで下の表の番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

<図表11-1>男女の地位



男女の地位は平等になっていると思うか、6項目に分けて聞いたところ、「平等」は、(ウ) 教育の場では(58.1%)が6割弱で最も高く、次いで(ア) 家庭生活では(44.4%)、(イ) 職場では(34.9%)となっている。

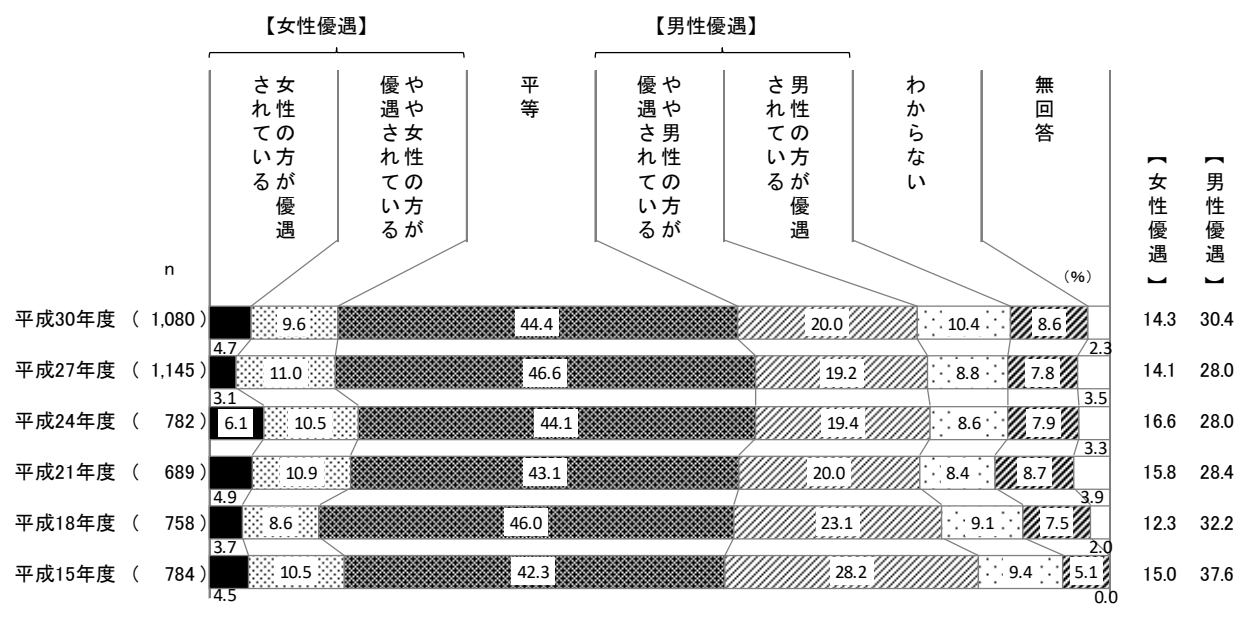
「女性の方が優遇されている」と「やや女性の方が優遇されている」の2つを合わせた【女性優遇】は、(ア) 家庭生活では(14.3%)が1割台半ばとなっている。

「やや男性の方が優遇されている」と「男性の方が優遇されている」の2つを合わせた【男性優遇】は、(エ) 政治の場では(67.4%)が7割弱で最も高く、次いで(カ) 社会全体では(66.1%)、(オ) 社会通念や習慣では(64.4%)となっている。(図表11-1)

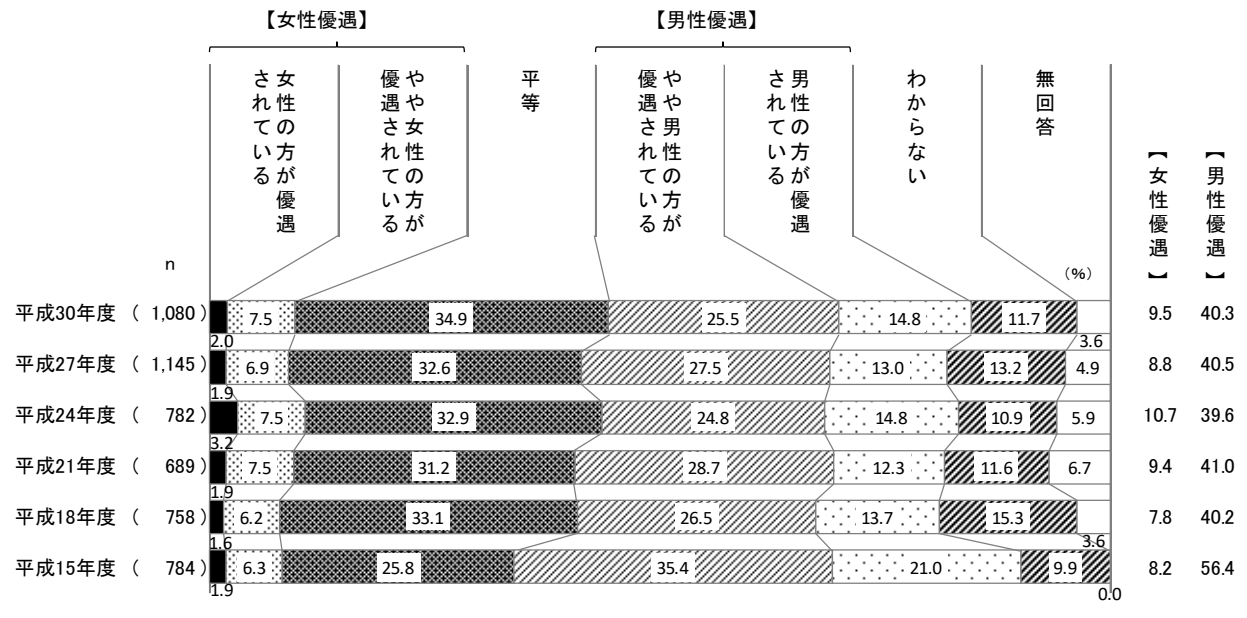
過年度の調査結果の推移をみると、(ア) 家庭生活では、(イ) 職場では、(ウ) 教育の場ではの3項目は平成21年度以降大きな傾向の変化はみられない。(オ) 社会通念や習慣ではについては「男性の方が優遇されている」が平成27年度に比べて7.5ポイント増加している。(カ) 社会全体ではについては「男性の方が優遇されている」が平成27年度に比べて3.0ポイント増加している。

(図表11-2~11-6)

<図表11-2> 男女の地位 (ア) 家庭生活では/過年度推移

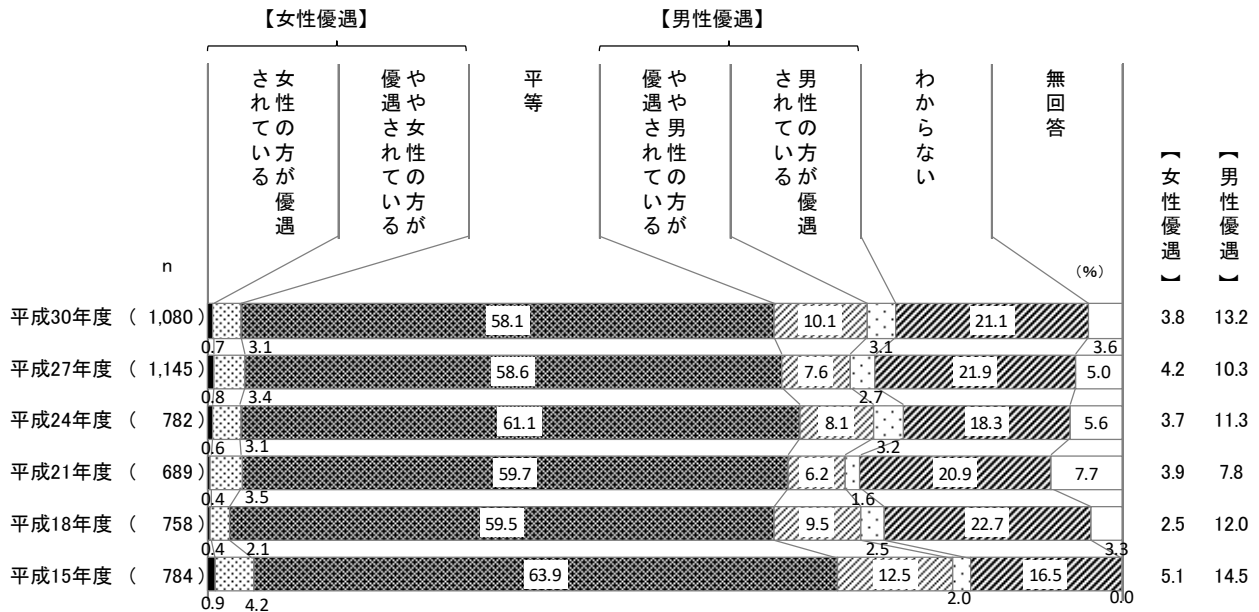


<図表11-3> 男女の地位 (イ) 職場では/過年度推移

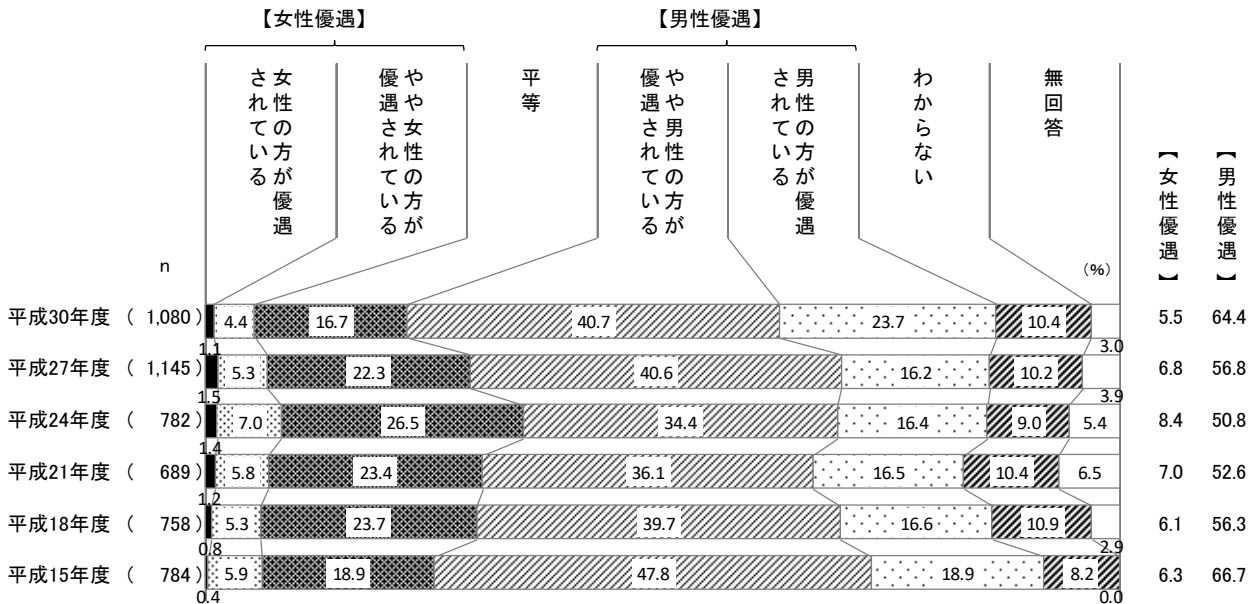




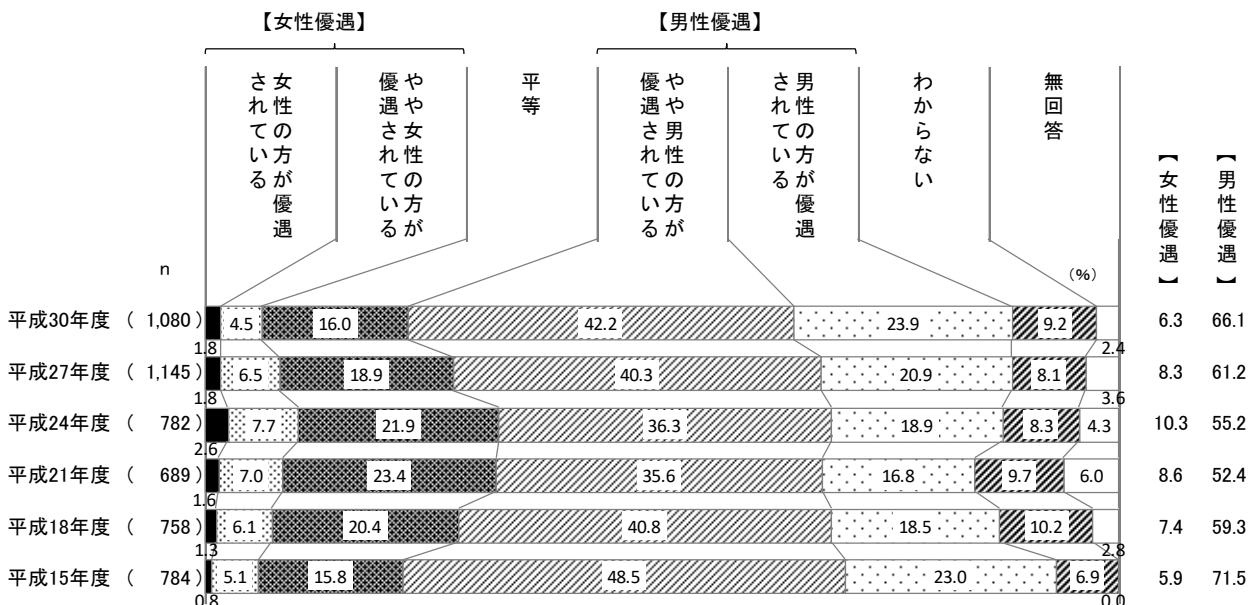
<図表11-4>男女の地位（ウ）教育の場では／過年度推移



<図表11-5>男女の地位（オ）社会通念や習慣では／過年度推移



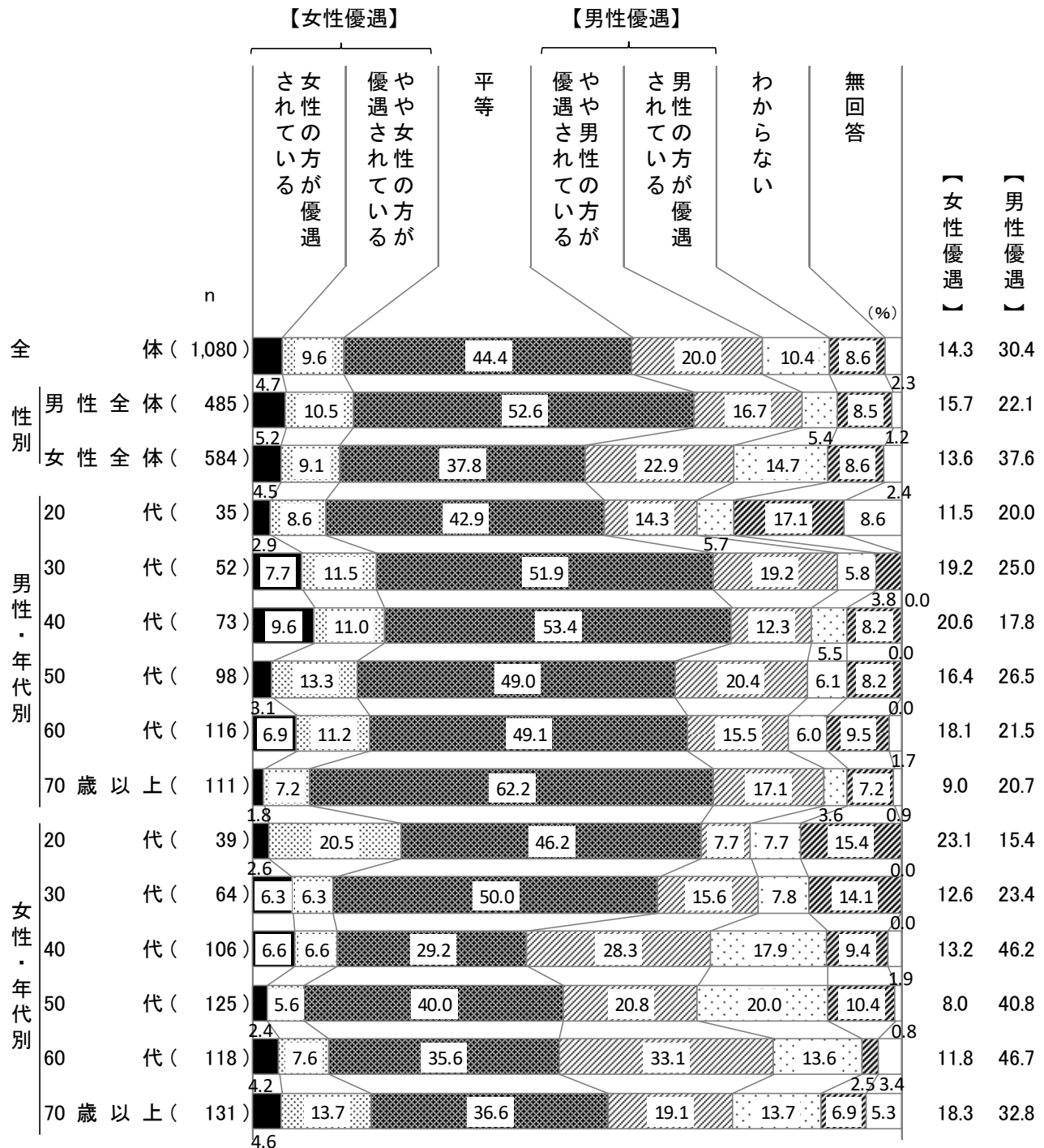
<図表11-6>男女の地位（カ）社会全体では／過年度推移



(ア) 家庭生活では性別でみると、「平等」は男性（52.6%）が女性（37.8%）より14.8ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（37.6%）が男性（22.1%）より15.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「平等」は男性70歳以上（62.2%）で6割強と高くなっている。【男性優遇】は女性40代（46.2%）、女性60代（46.7%）で5割弱と高くなっている。（図表11-7）

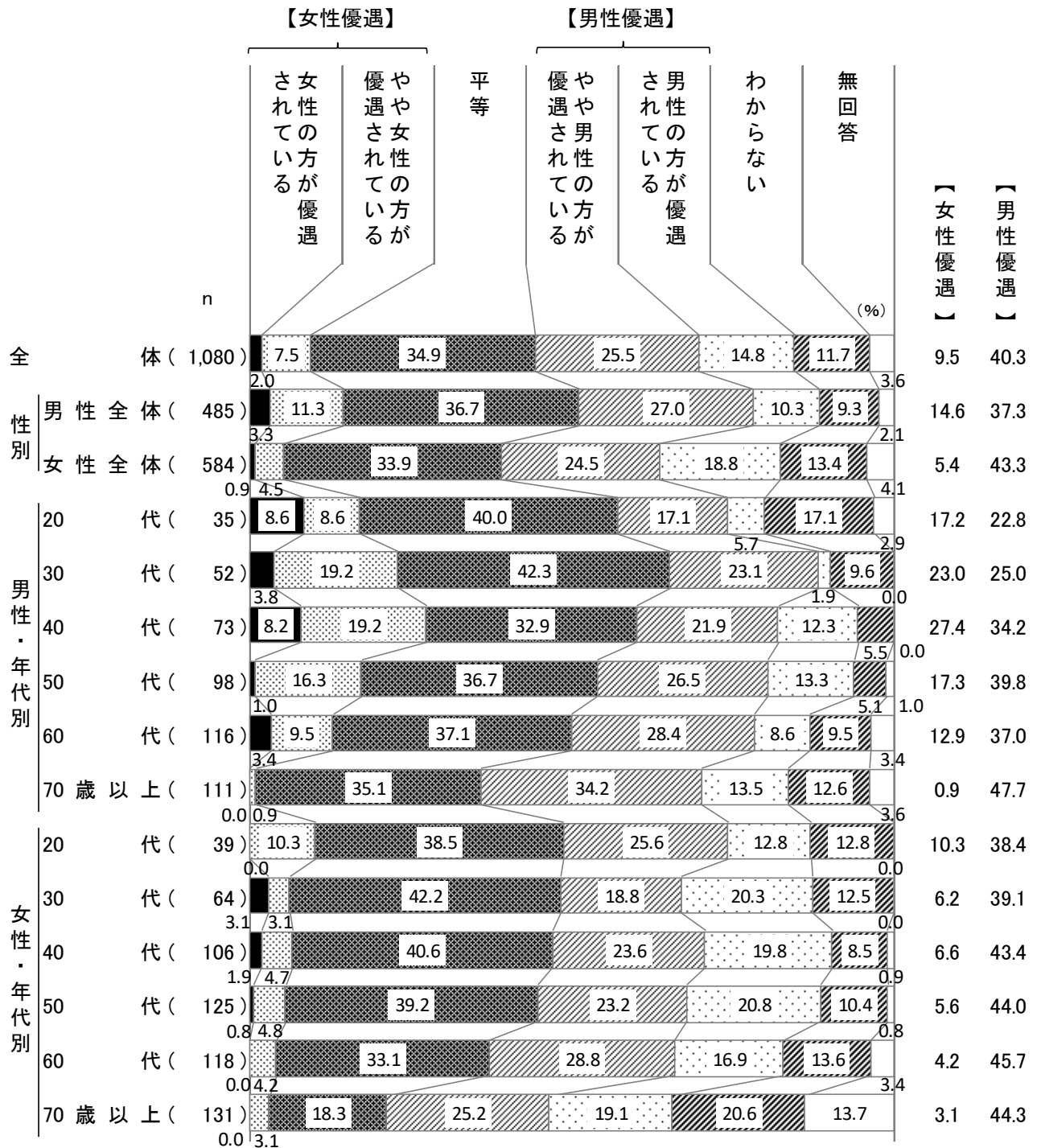
<図表11-7>男女の地位（ア）家庭生活では／性別、性・年代別



(イ) 職場ではについて性別でみると、【女性優遇】は男性（14.6%）が女性（5.4%）より9.2ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（43.3%）が男性（37.3%）より6.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【女性優遇】は男性40代（27.4%）で3割弱と高くなっている。「平等」は男性30代（42.3%）と女性30代（42.2%）で4割強と高くなっている。【男性優遇】は男性70歳以上（47.7%）で5割弱、女性60代（45.7%）と女性70歳以上（44.3%）で4割台半ばと高くなっている。（図表11-8）

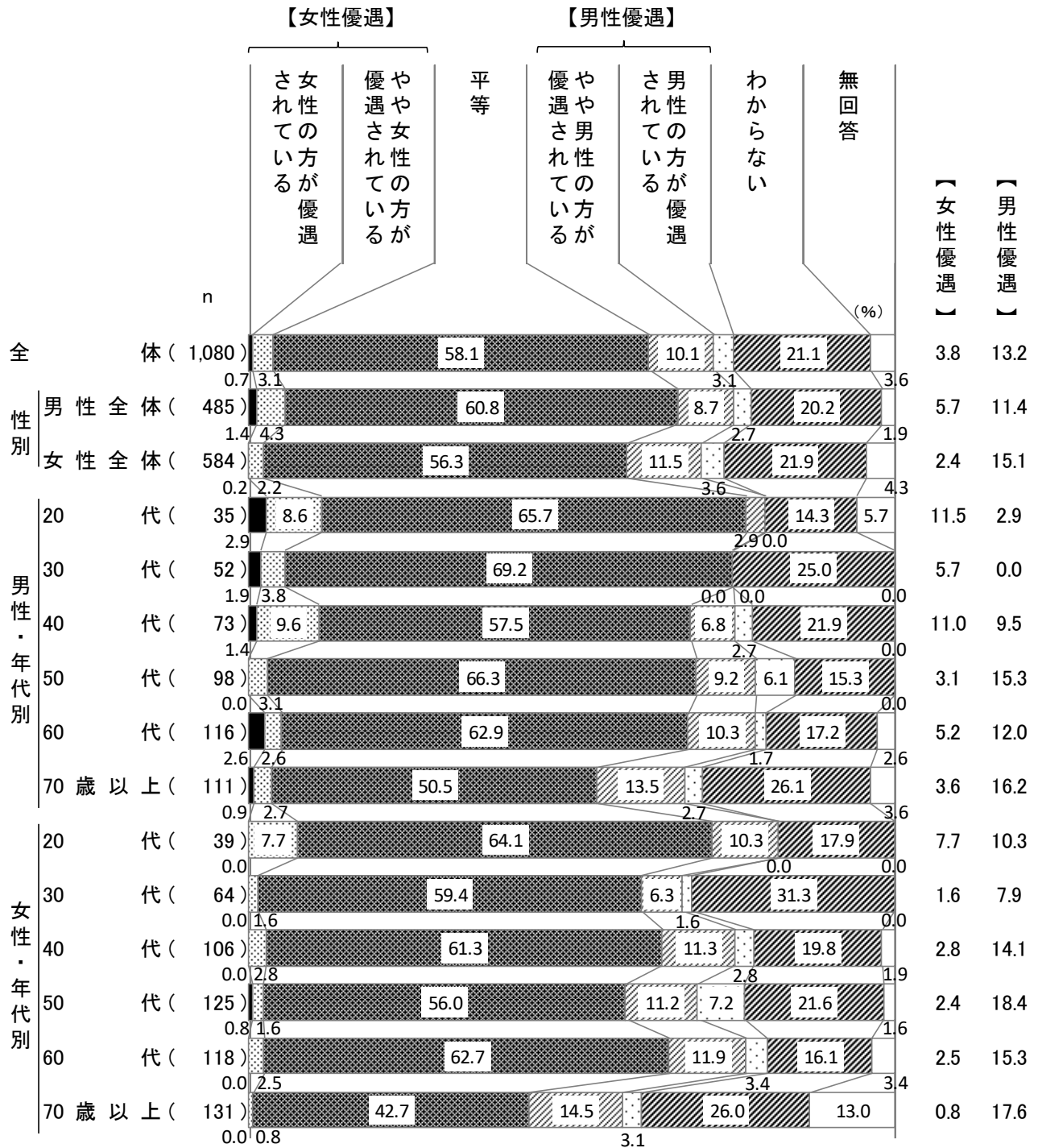
<図表11-8>男女の地位（イ）職場では／性別、性・年代別



(ウ) 教育の場では性別でみると、「平等」は男性（60.8%）が女性（56.3%）より4.5ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（15.1%）が男性（11.4%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「平等」は男性30代（69.2%）で約7割、男性50代（66.3%）で7割弱と高くなっている。【男性優遇】は女性50代（18.4%）・女性70歳以上（17.6%）と男性70歳以上（16.2%）で2割弱となっている。（図表11-9）

<図表11-9>男女の地位（ウ）教育の場では／性別、性・年代別

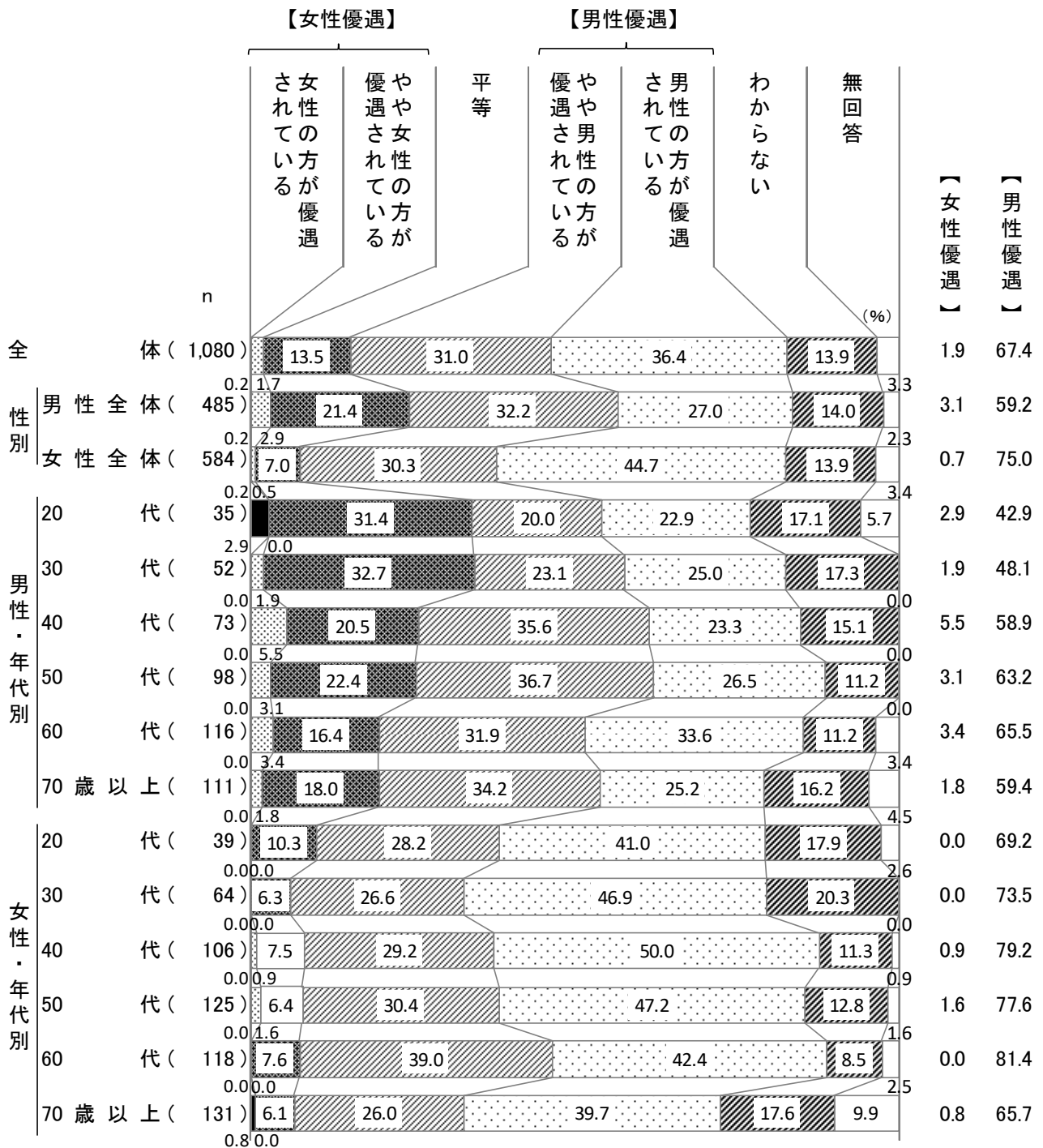


(エ) 政治の場では性別でみると、「平等」は男性（21.4%）が女性（7.0%）より14.4ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（75.0%）が男性（59.2%）より15.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「平等」は男性20代（31.4%）と男性30代（32.7%）で3割強となっている。【男性優遇】は女性60代（81.4%）で8割強、女性40代（79.2%）で約8割と高くなっている。

(図表11-10)

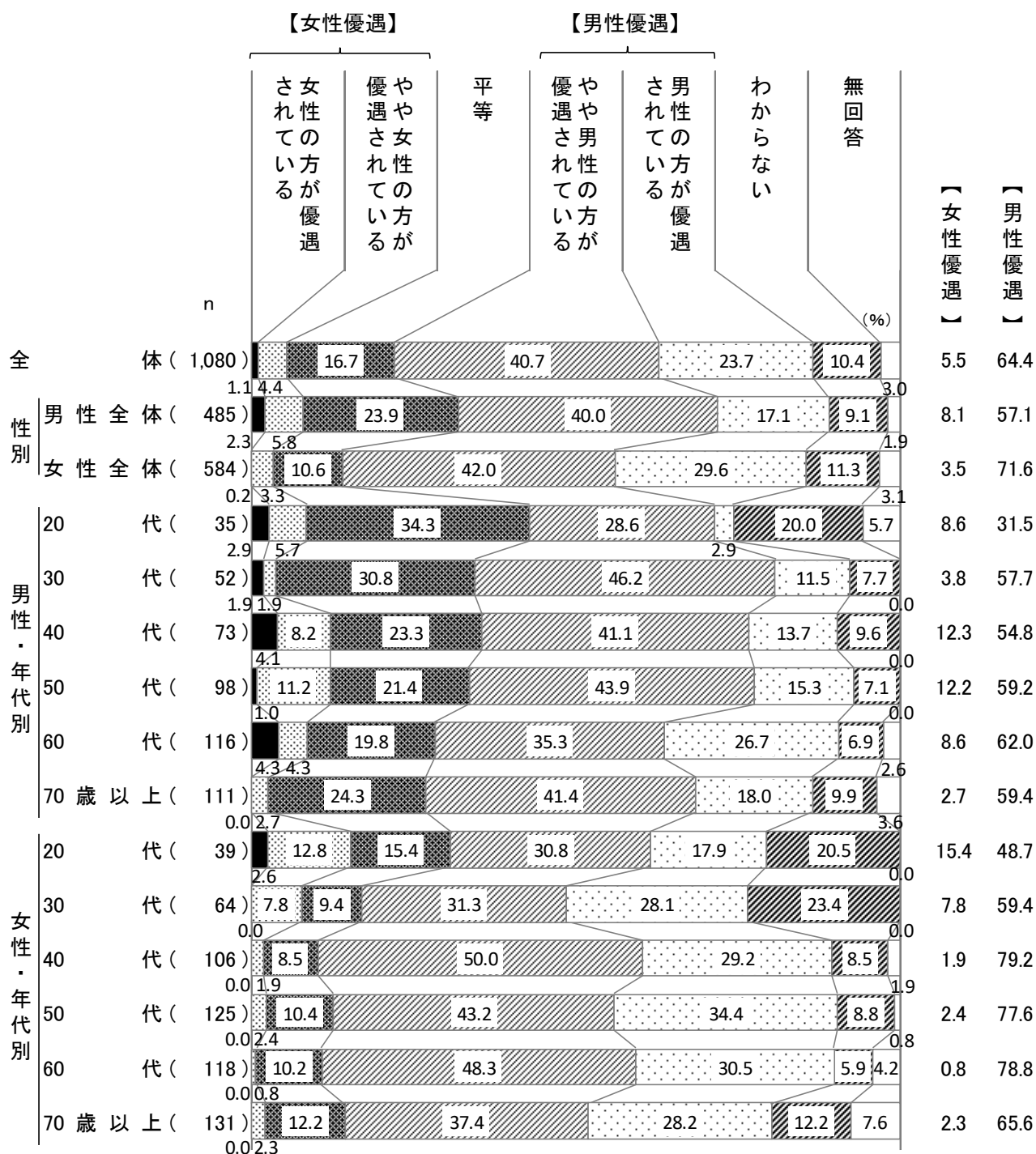
<図表11-10>男女の地位 (エ) 政治の場では/性別、性・年代別



(オ) 社会通念や習慣ではについて性別で見ると、「平等」は男性（23.9%）が女性（10.6%）より13.3ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（71.6%）が男性（57.1%）より14.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「平等」は男性20代（34.3%）で3割台半ば、男性30代（30.8%）で約3割となっている。【男性優遇】は女性40代（79.2%）で約8割と、女性50代（77.6%）・女性60代（78.8%）で8割弱と高くなっている。（図表11-11）

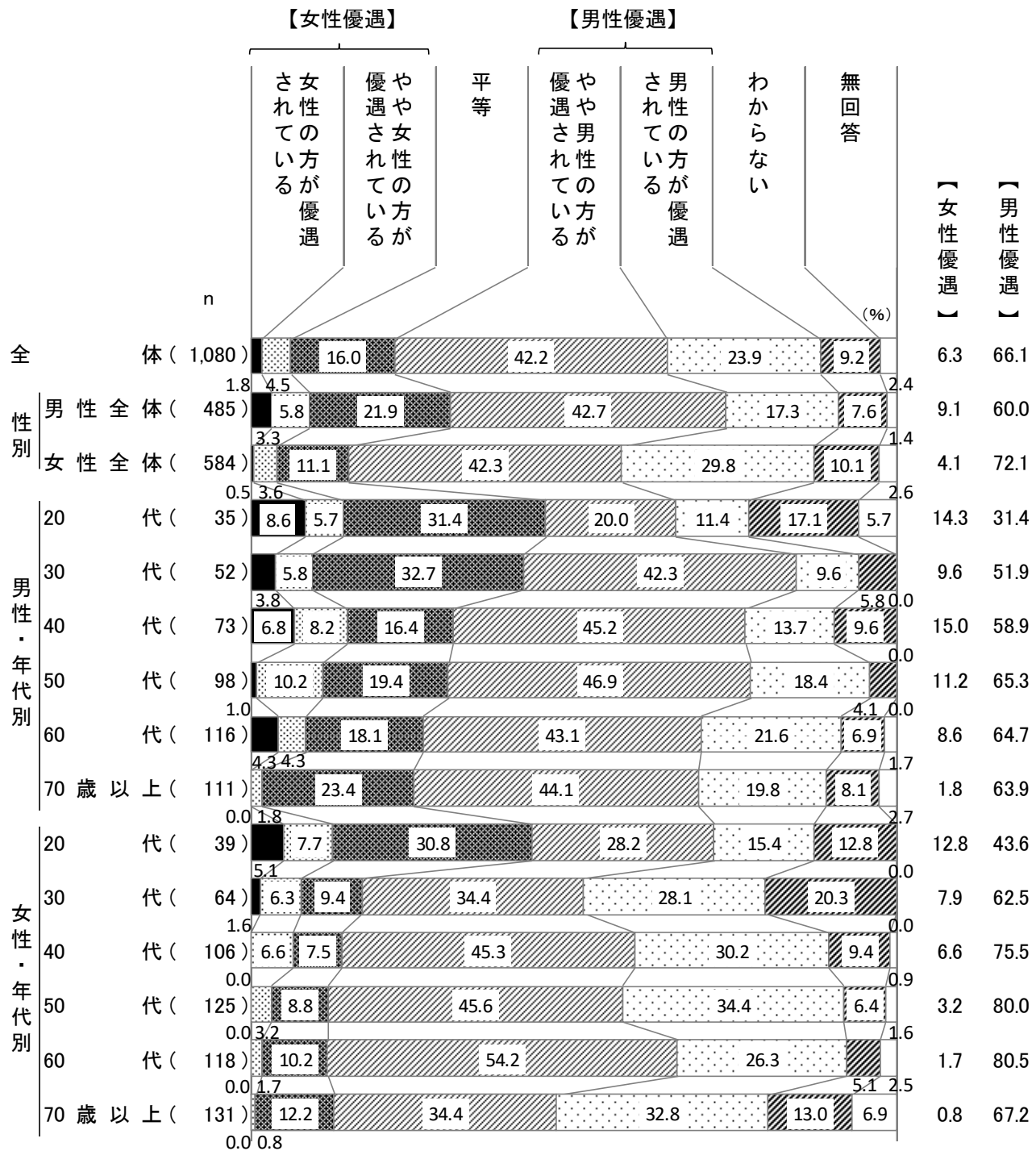
<図表11-11>男女の地位（オ）社会通念や習慣では／性別、性・年代別



(カ) 社会全体ではについて性別でみると、「平等」は男性（21.9%）が女性（11.1%）より10.8ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（72.1%）が男性（60.0%）より12.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「平等」は男性20代（31.4%）と男性30代（32.7%）で3割強と高くなっている。【男性優遇】は女性50代（80.0%）で8割、女性60代（80.5%）で約8割と高くなっている。（図表11-12）

<図表11-12>男女の地位（カ）社会全体では／性別、性・年代別

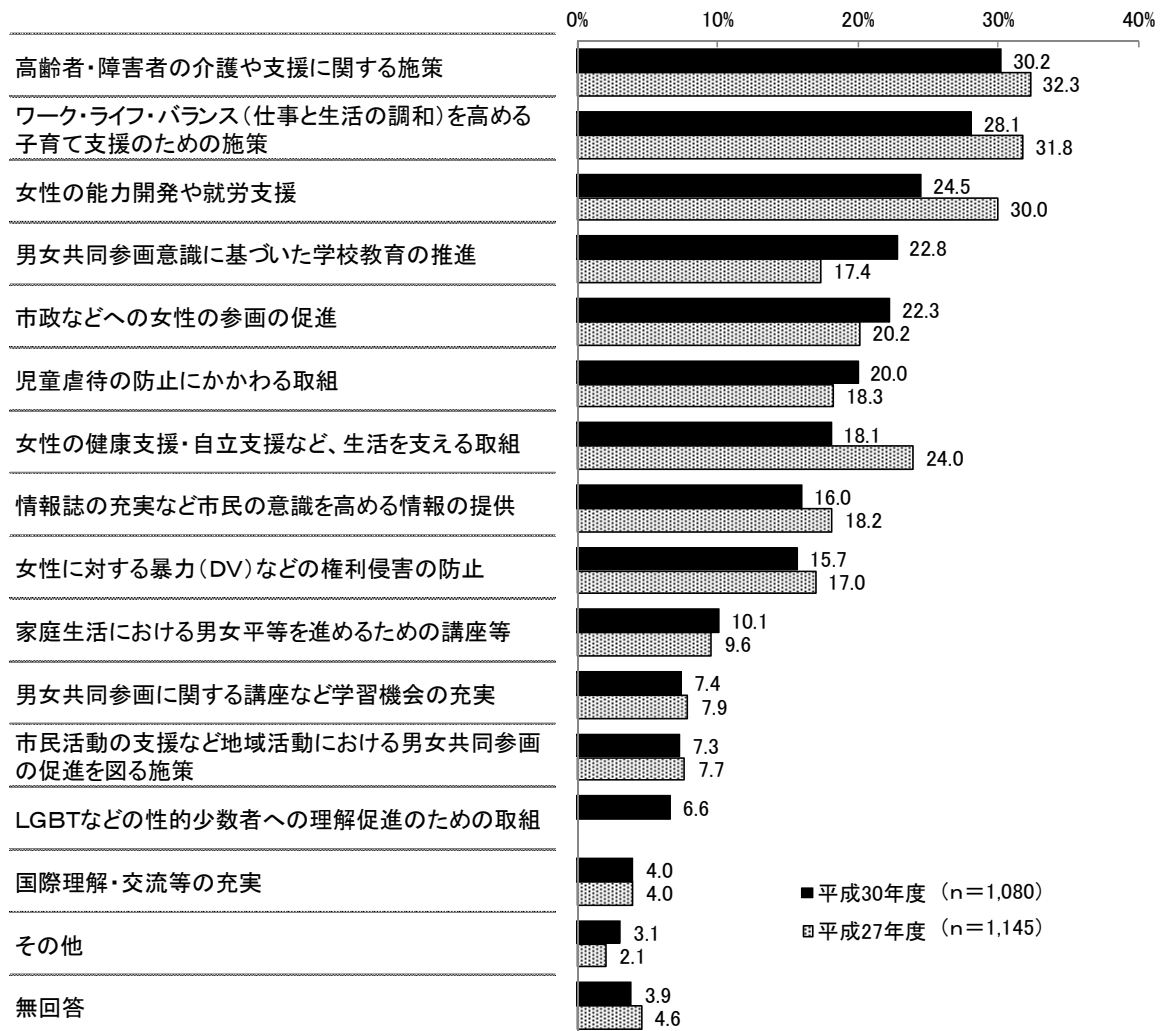


## (2) 男女共同参画社会の実現に向けた重点的取組

◇「高齢者・障害者の介護や支援に関する施策」が約3割

問39 男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべきと思う取組はどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)

<図表11-13> 男女共同参画社会の実現に向けた重点的取組



(注)「LGBTなどの性的少数者への理解促進のための取組」は、今回調査で追加した選択肢である。

男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべきと思う取組を聞いたところ、「高齢者・障害者の介護や支援に関する施策」(30.2%)が約3割で最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を高める子育て支援のための施策」(28.1%)、「女性の能力開発や就労支援」(24.5%)、「男女共同参画意識に基づいた学校教育の推進」(22.8%)、「市政などへの女性の参画の促進」(22.3%)となっている。(図表11-13)

前回の調査結果と比較すると、「男女共同参画意識に基づいた学校教育の推進」は5.4ポイント増加し、「女性の健康支援・自立支援など、生活を支える取組」は5.9ポイント減少している。

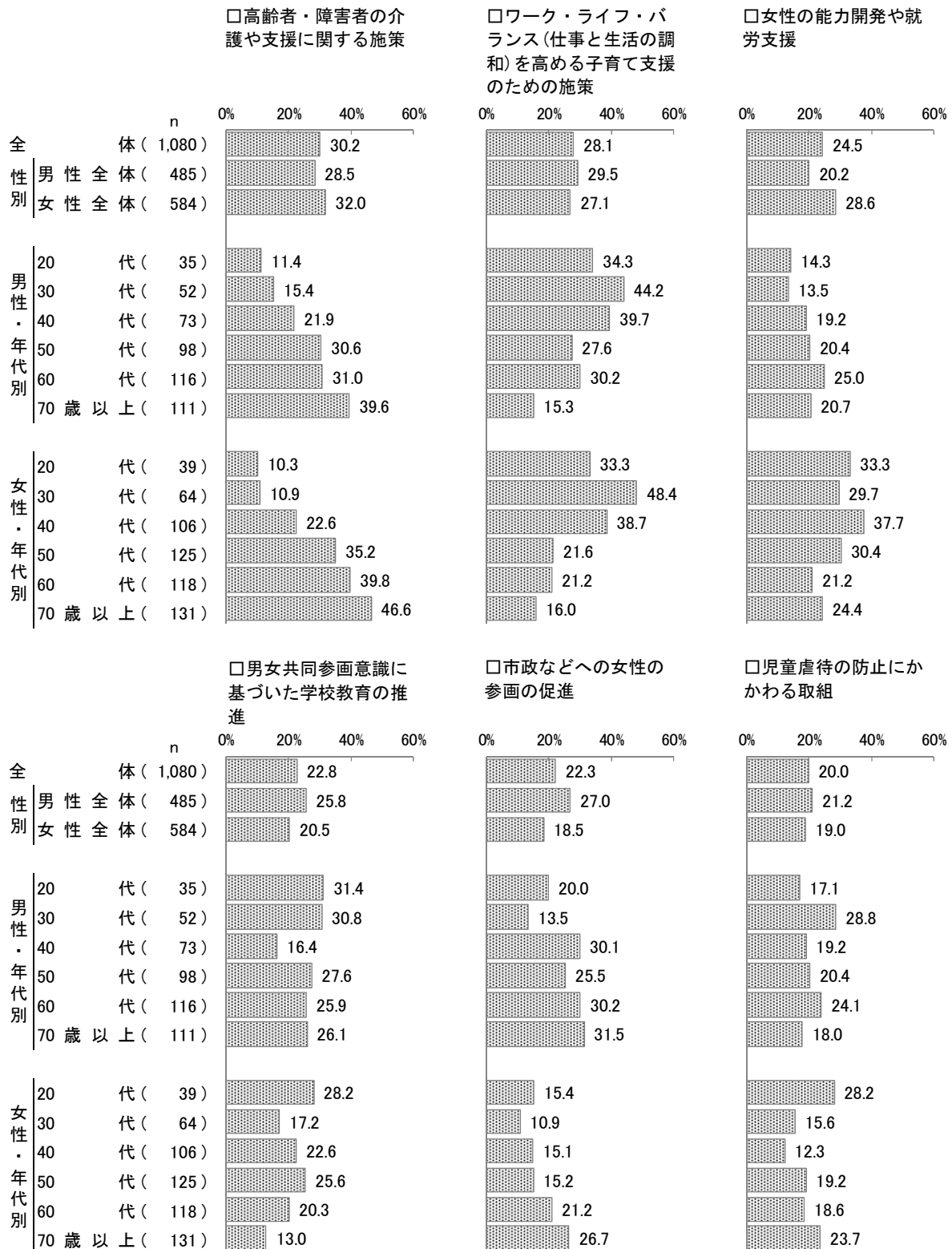
(図表11-13)



上位6項目について性別でみると、「女性の能力開発や就労支援」は女性(28.6%)が男性(20.2%)より8.4ポイント高くなっている。「市政などへの女性の参画の促進」は男性(27.0%)が女性(18.5%)より8.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者・障害者の介護や支援に関する施策」は女性70歳以上(46.6%)で5割弱と高くなっている。「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を高める子育て支援のための施策」は女性30代(48.4%)で5割弱と高くなっている。「女性の能力開発や就労支援」は女性40代(37.7%)で4割弱と高くなっている。(図表11-14)

<図表11-14>男女共同参画社会の実現に向けた重点的取組/性別、性・年代別(上位6項目)



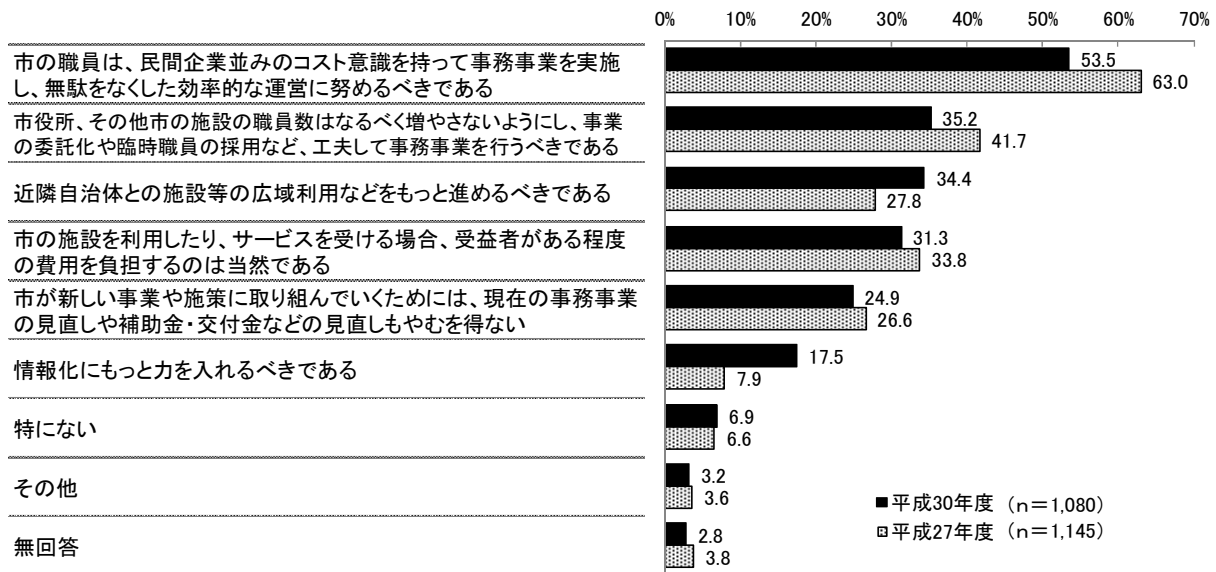
## 12. 行政改革

### (1) 市の行政改革

◇「市の職員は、民間企業並みのコスト意識を持って事務事業を実施し、無駄をなくした効率的な運営に努めるべきである」が5割強

問40 あなたは、市にどのような行政改革を求めますか。あなたの考えに近いものを次の中から3つまで選んでください。(○は3つまで)

<図表12-1>市の行政改革



市にどのような行政改革を求めるか聞いたところ、「市の職員は、民間企業並みのコスト意識を持って事務事業を実施し、無駄をなくした効率的な運営に努めるべきである」(53.5%)が5割強で最も高く、次いで「市役所、その他市の施設の職員数はなるべく増やさないようにし、事業の委託化や臨時職員の採用など、工夫して事務事業を行うべきである」(35.2%)、「近隣自治体との施設等の広域利用などをもっと進めるべきである」(34.4%)となっている。(図表12-1)

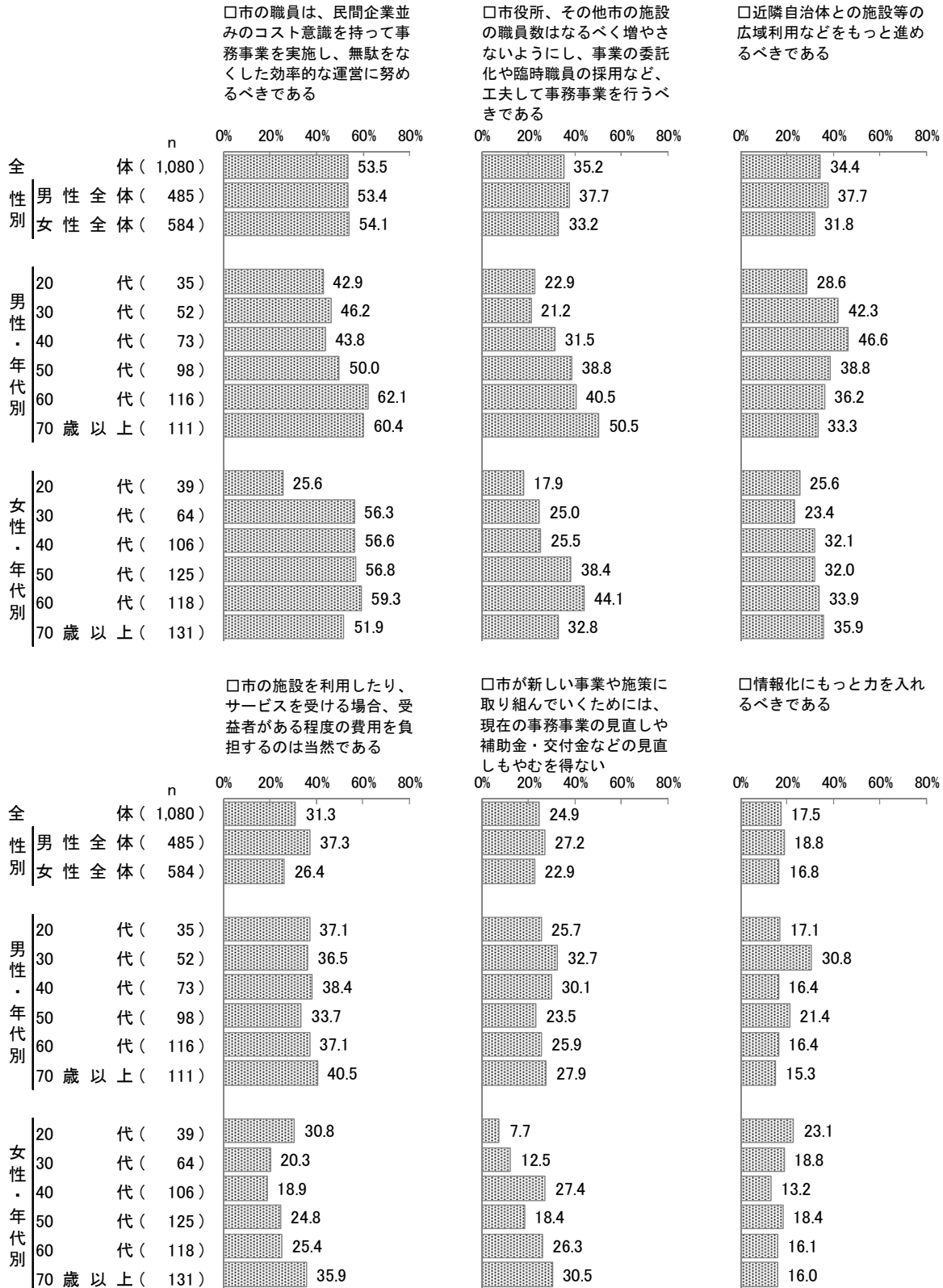
前回の調査結果と比較すると、「情報化にもっと力を入れるべきである」は9.6ポイント増加し、「近隣自治体との施設等の広域利用などをもっと進めるべきである」は6.6ポイント増加している。一方、「市の職員は、民間企業並みのコスト意識を持って事務事業を実施し、無駄をなくした効率的な運営に努めるべきである」は9.5ポイント減少し、「市役所、その他市の施設の職員数はなるべく増やさないようにし、事業の委託化や臨時職員の採用など、工夫して事務事業を行うべきである」は6.5ポイント減少している。(図表12-1)

上位6項目について性別でみると、「市の施設を利用したり、サービスを受ける場合、受益者がある程度の費用を負担するのは当然である」は男性（37.3%）が女性（26.4%）より10.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「市の職員は、民間企業並みのコスト意識を持って事務事業を実施し、無駄をなくした効率的な運営に努めるべきである」は男性60代（62.1%）で6割強と高く、「市役所、その他市の施設の職員数はなるべく増やさないようにし、事業の委託化や臨時職員の採用など、工夫して事務事業を行うべきである」は男性70歳以上（50.5%）で約5割と高くなっている。

(図表12-2)

<図表12-2>市の行政改革／性別、性・年代別（上位6項目）

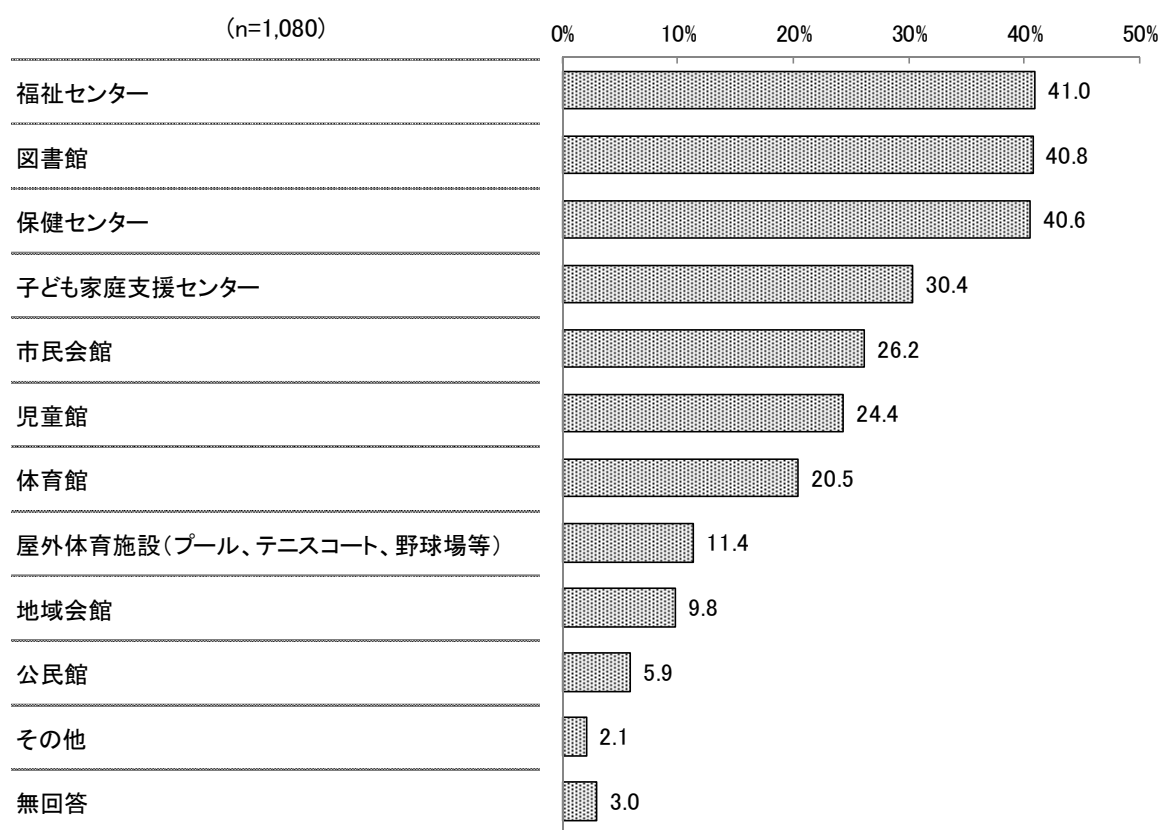


## (2) 市が優先的に維持すべき公共施設

◇「福祉センター」が4割強

問41 財政的に厳しい状況であっても、市が優先的に維持すべき公共施設はどれだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)

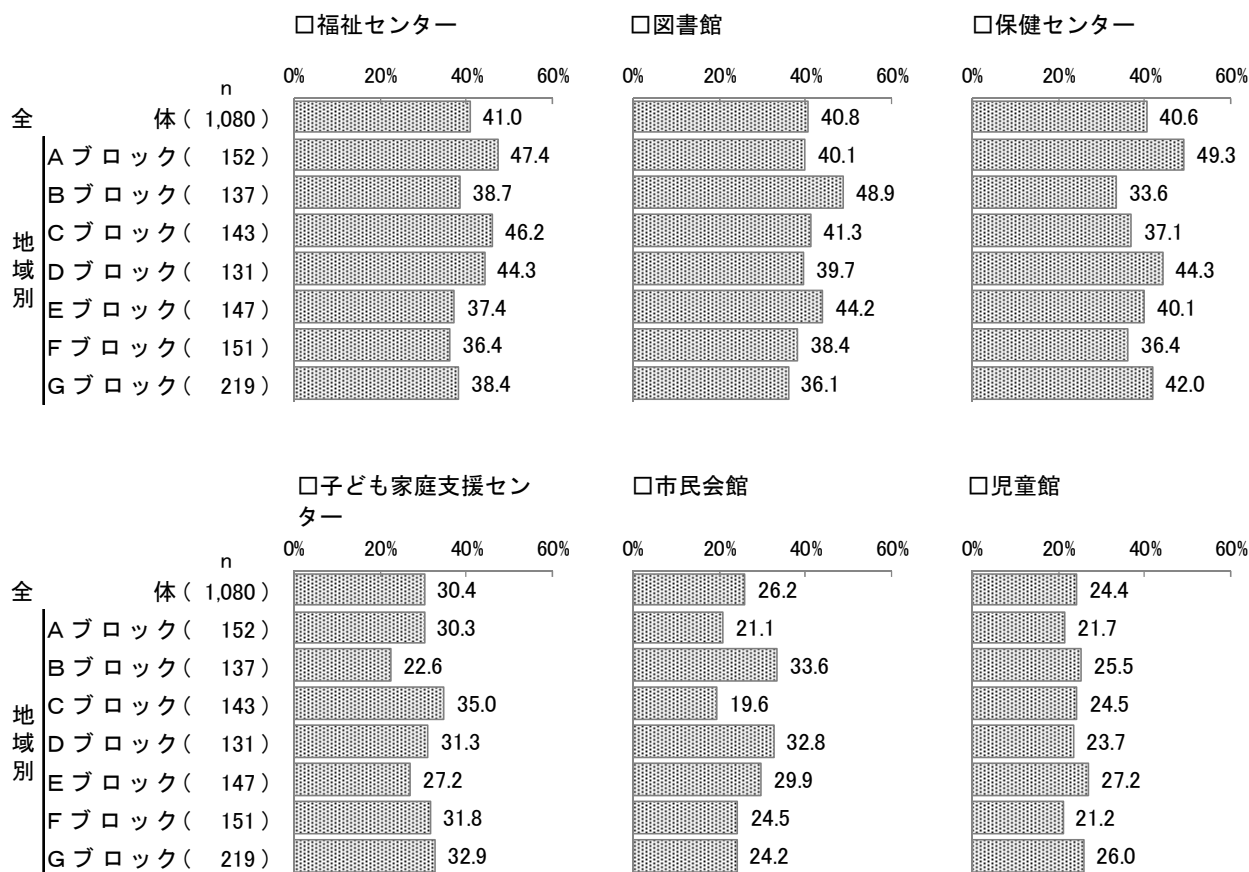
<図表12-3> 市が優先的に維持すべき公共施設



市が優先的に維持すべき公共施設を聞いたところ、「福祉センター」(41.0%)が4割強で最も高く、次いで「図書館」(40.8%)、「保健センター」(40.6%)、「子ども家庭支援センター」(30.4%)、「市民会館」(26.2%)となっている。(図表12-3)

上位6項目について地域別でみると、「福祉センター」はAブロック（47.4%）とCブロック（46.2%）で5割弱と高くなっている。「図書館」はCブロック（48.9%）で5割弱と高くなっている。「保健センター」はAブロック（49.3%）で約5割と高くなっている。（図表12-4）

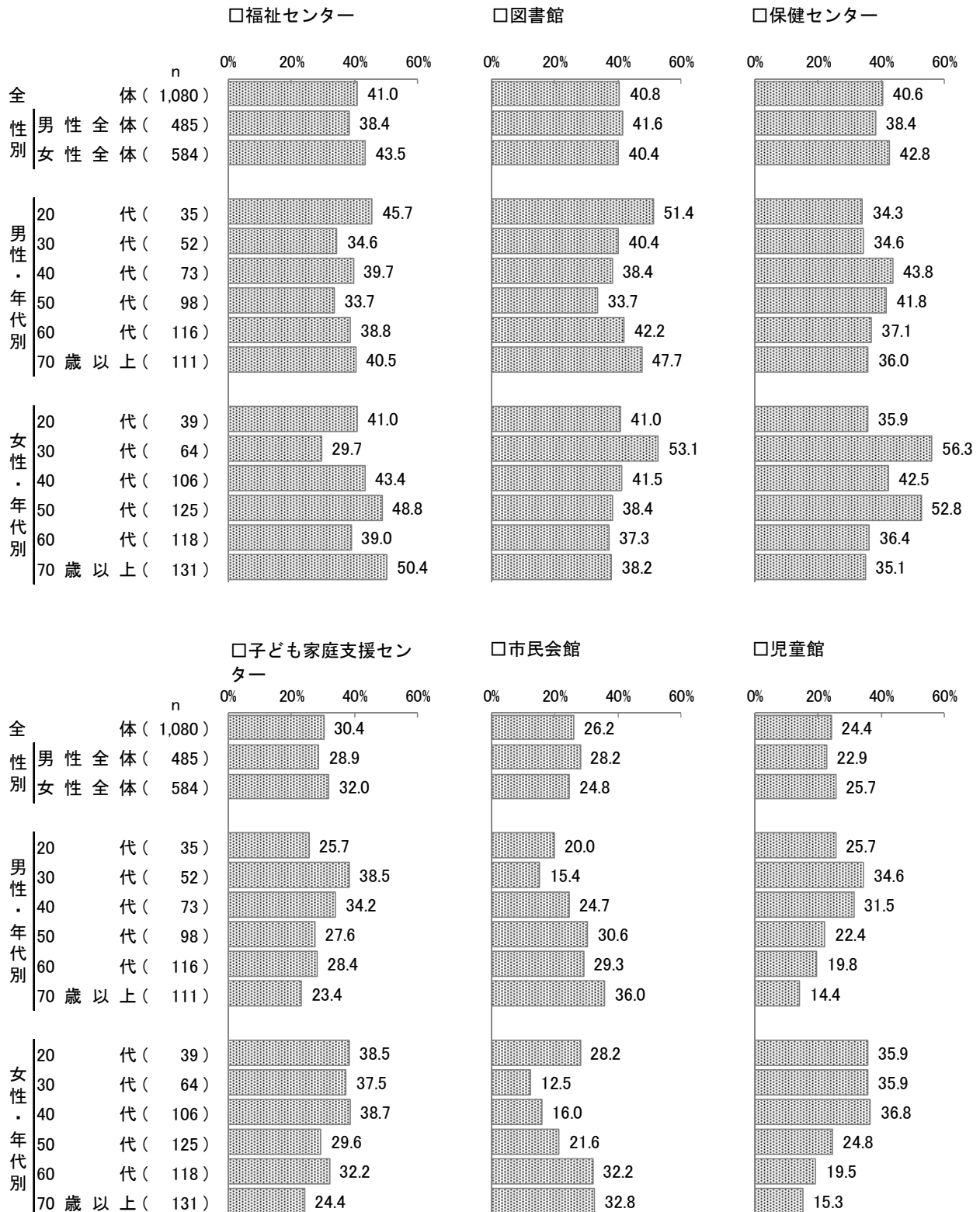
＜図表12-4＞市が優先的に維持すべき公共施設／地域別（上位6項目）



上位6項目について性別で見ると、「福祉センター」は女性（43.5%）が男性（38.4%）より5.1ポイント高くなっている。「市民会館」は男性（28.2%）が女性（24.8%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「福祉センター」は女性70歳以上（50.4%）で約5割と高くなっている。「図書館」は男性20代（51.4%）と女性30代（53.1%）で5割強と高くなっている。「保健センター」は女性30代（56.3%）で6割弱と高くなっている。（図表12-5）

＜図表12-5＞男女共同参画社会の実現に向けた重点的取組／性別、性・年代別（上位6項目）

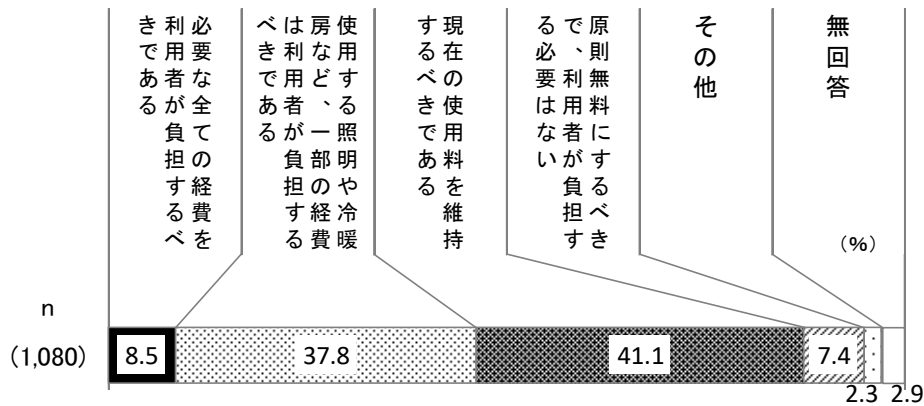


(3) 公共施設で利用者が負担する費用

◇「現在の使用料を維持するべきである」が4割強

問42 スポーツ施設や集会施設などの一部の公共施設では、受益者負担の考えから、使用料をいただいています。現在の使用料は施設の維持管理にかかる経費の一部であり、残りは税金でまかっていますが、利用者が負担する費用はどれくらいが適当だと思いますか。

<図表12-6> 公共施設で利用者が負担する費用

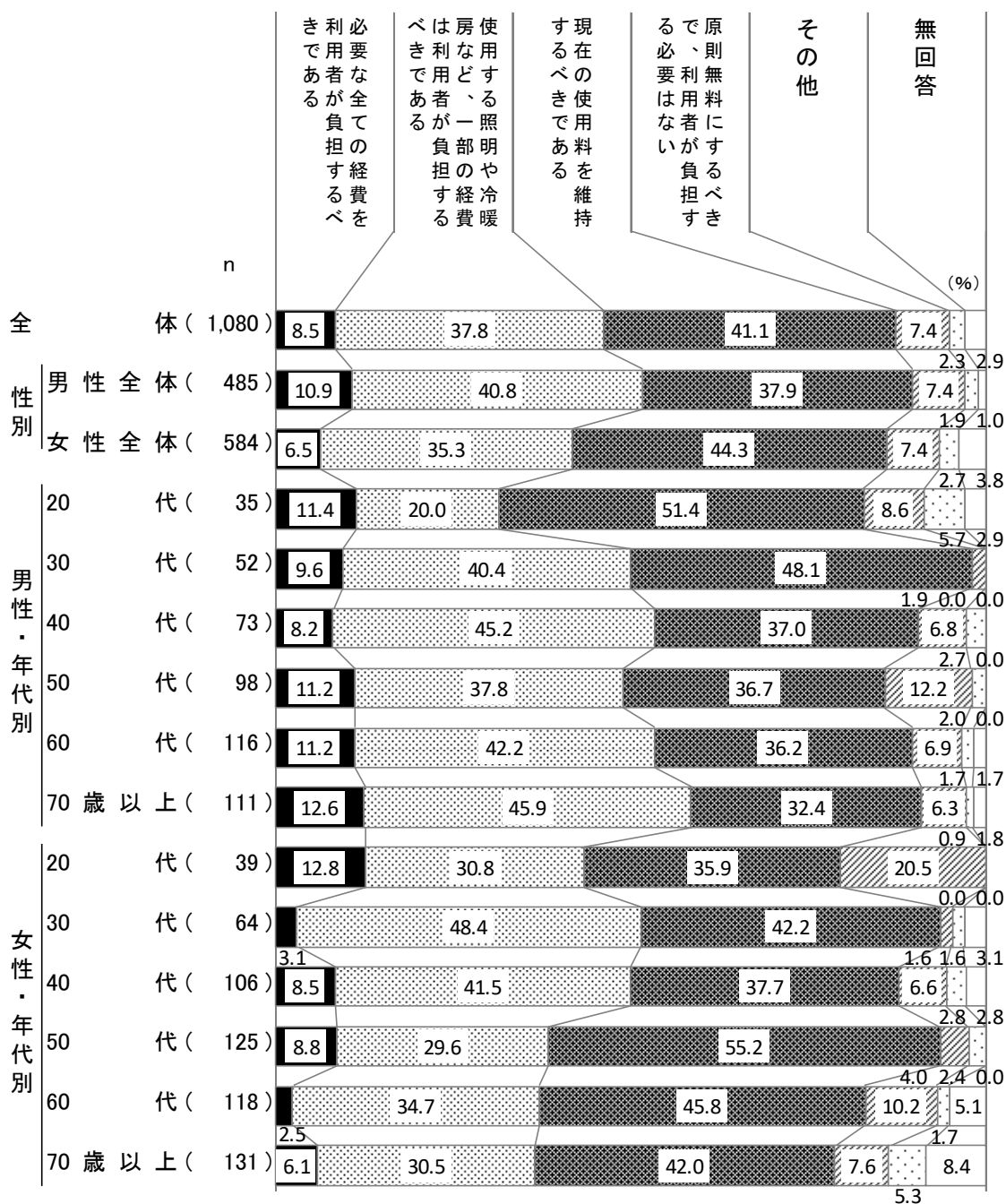


公共施設で利用者が負担する費用を聞いたところ、「現在の使用料を維持するべきである」(41.1%)が4割強で最も高く、次いで「使用する照明や冷暖房など、一部の経費は利用者が負担するべきである」(37.8%)、「必要な全ての経費を利用者が負担するべきである」(8.5%)、「原則無料にするべきで、利用者が負担する必要はない」(7.4%)となっている。(図表12-6)

性別でみると、「現在の使用料を維持するべきである」は女性（44.3%）が男性（37.9%）より6.4ポイント高くなっている。「使用する照明や冷暖房など、一部の経費は利用者が負担するべきである」は男性（40.8%）が女性（35.3%）より5.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「現在の使用料を維持するべきである」は女性50代（55.2%）で5割台半ばと高くなっている。「使用する照明や冷暖房など、一部の経費は利用者が負担するべきである」は女性30代（48.4%）で5割弱と高くなっている。（図表12-7）

<図表12-7>公共施設で利用者が負担する費用／性別、性・年代別





### 13. 広報・ホームページ

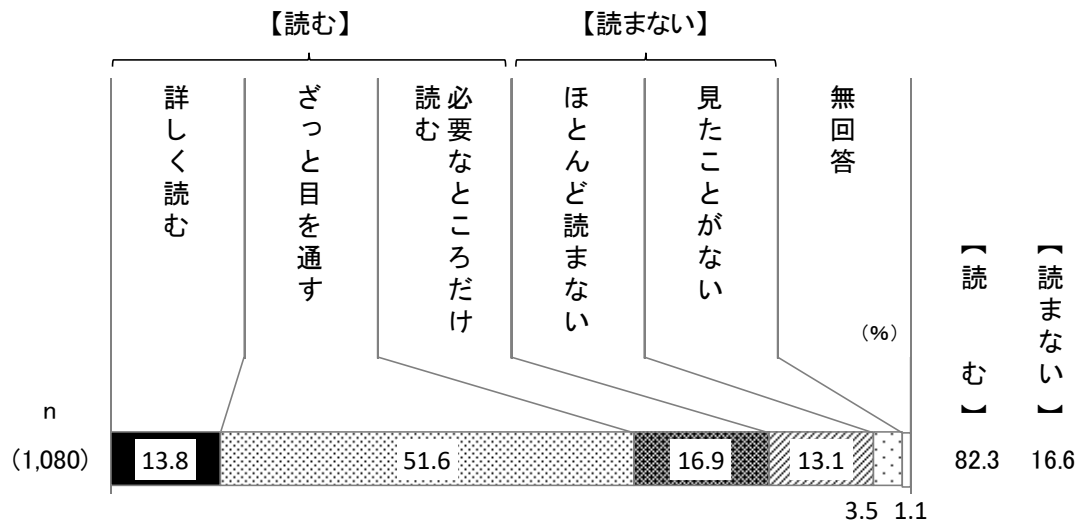
#### (1) 「広報ふっさ」の閲読状況

◇【読む】が8割強

問43 市では、『広報ふっさ』、『福生市議会だより』、『福生の教育』を発行していますが、あなたはそれぞれの程度読んでいますか。

(1) 『広報ふっさ』をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

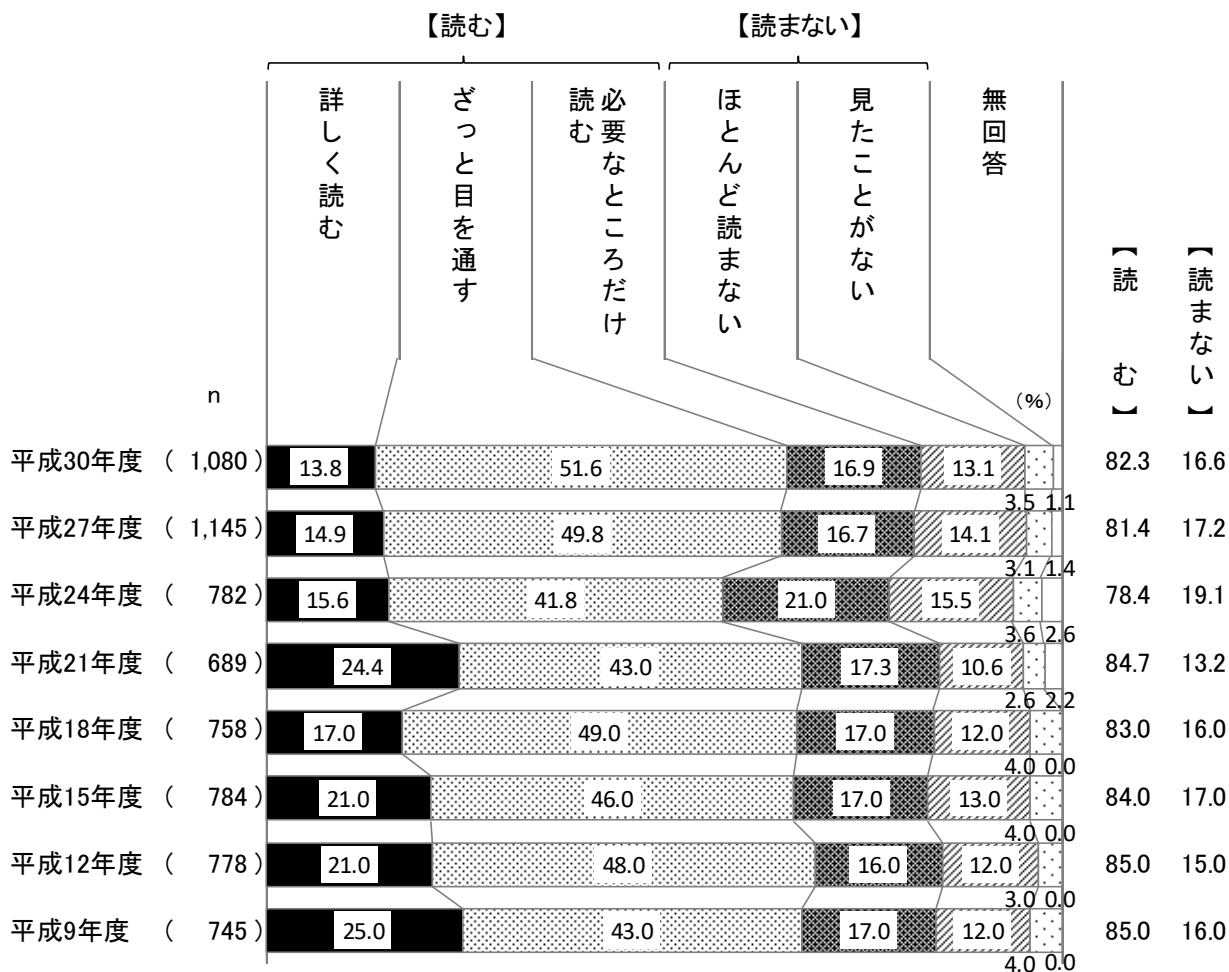
<図表13-1> 「広報ふっさ」の閲読状況



「広報ふっさ」の閲読状況を聞いたところ、「詳しく読む」(13.8%)と「ざっと目を通す」(51.6%)、「必要などころだけ読む」(16.9%)の3つを合わせた【読む】(82.3%)が8割強と高くなっている。一方、「ほとんど読まない」(13.1%)と「見たことがない」(3.5%)の2つを合わせた【読まない】(16.6%)は2割弱となっている。(図表13-1)

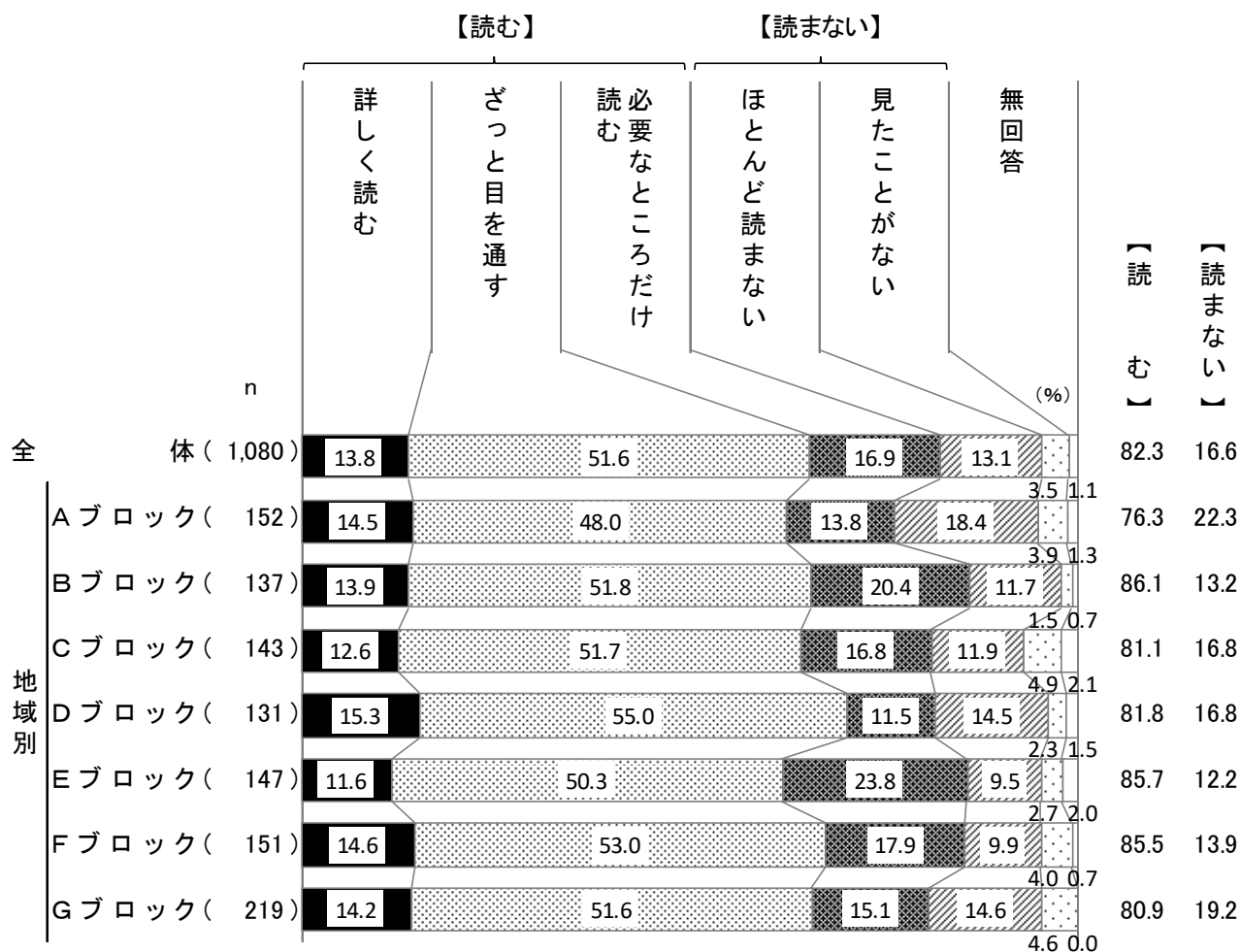
過年度の調査結果の推移をみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表13-2)

<図表13-2> 「広報ふっさ」の閲読状況/過年度推移



地域別でみると、【読む】はBブロック（86.1%）で9割弱と高くなっている。（図表13-3）

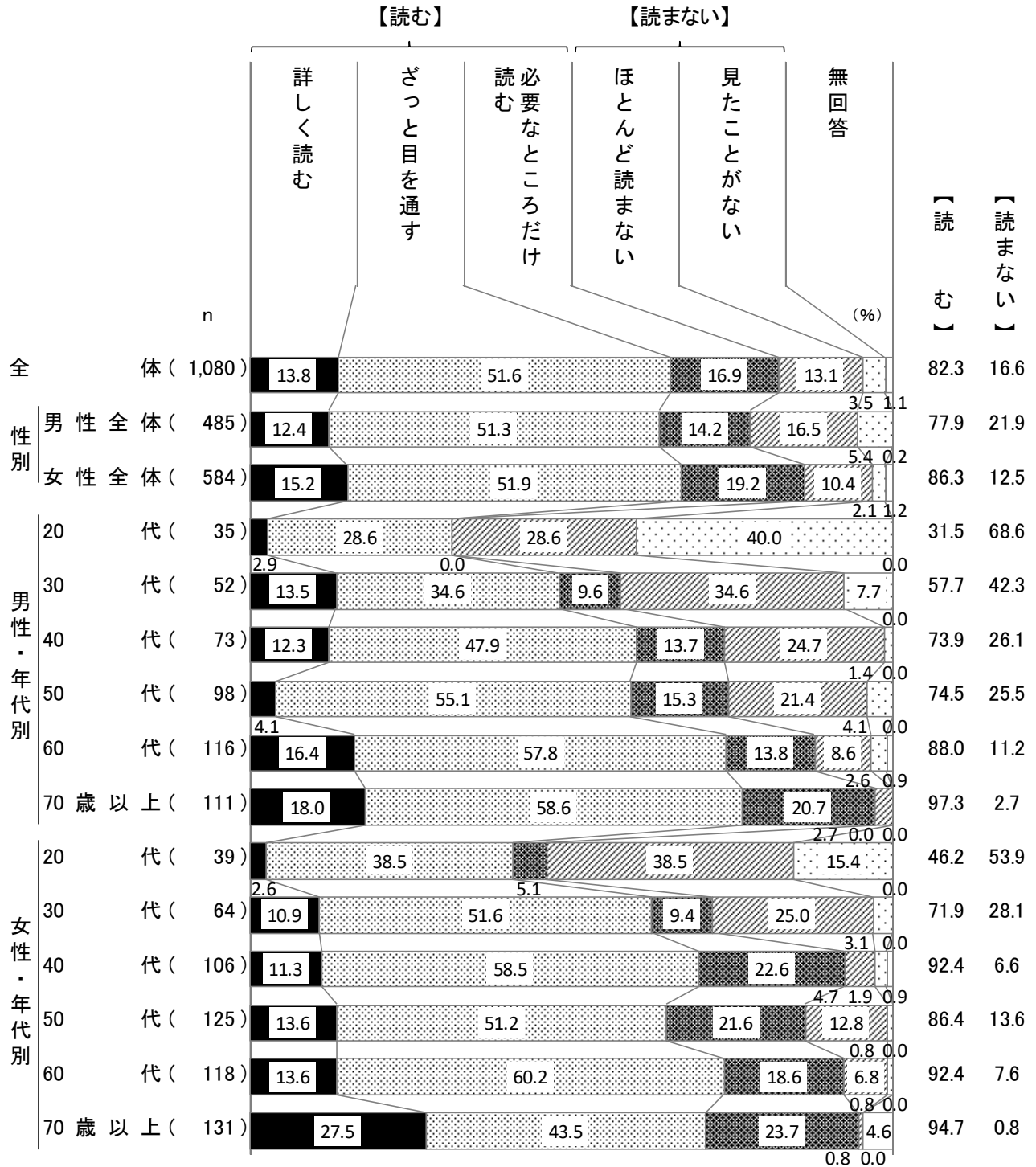
<図表13-3> 「広報ふっさ」の閲読状況／地域別



性別でみると、【読む】は女性（86.3%）が男性（77.9%）より8.4ポイント高くなっている。

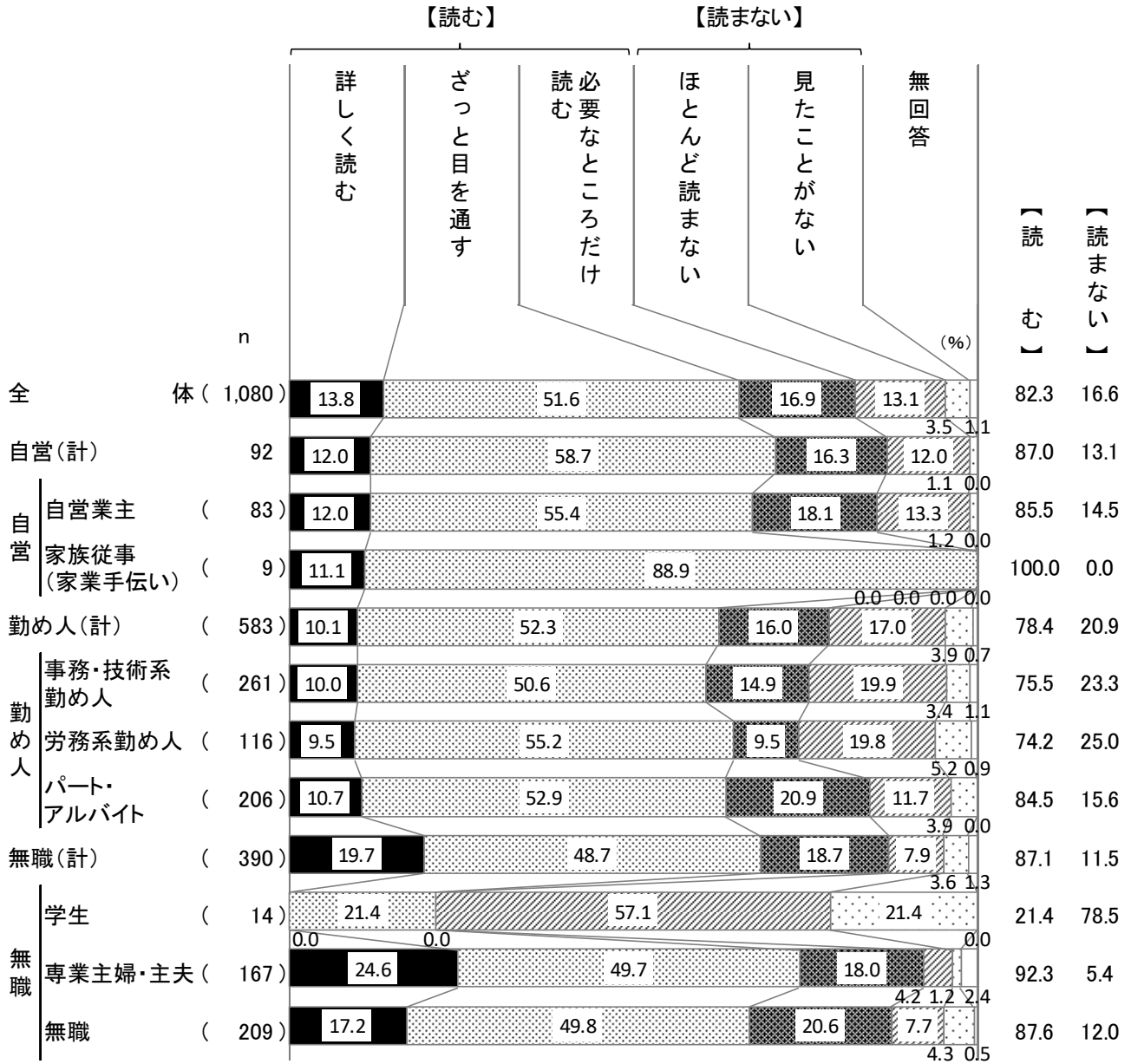
性・年代別でみると、【読む】は男性70歳以上（97.3%）と女性40代（92.4%）・女性60代（92.4%）・女性70歳以上（94.7%）で9割台と高くなっている。一方、【読まない】は男性20代（68.6%）で7割弱、女性20代（53.9%）で5割強と高くなっている。（図表13-4）

<図表13-4> 「広報ふっさ」の閲読状況／性別、性・年代別



職業別でみると、【読む】は専業主婦・主夫（92.3%）で9割強と高くなっている。一方、【読まない】は労務系勤め人（25.0%）で2割台半ば、事務・技術系勤め人（23.3%）で2割強と高くなっている。（図表13-5）

<図表13-5> 「広報ふっさ」の閲読状況／職業別



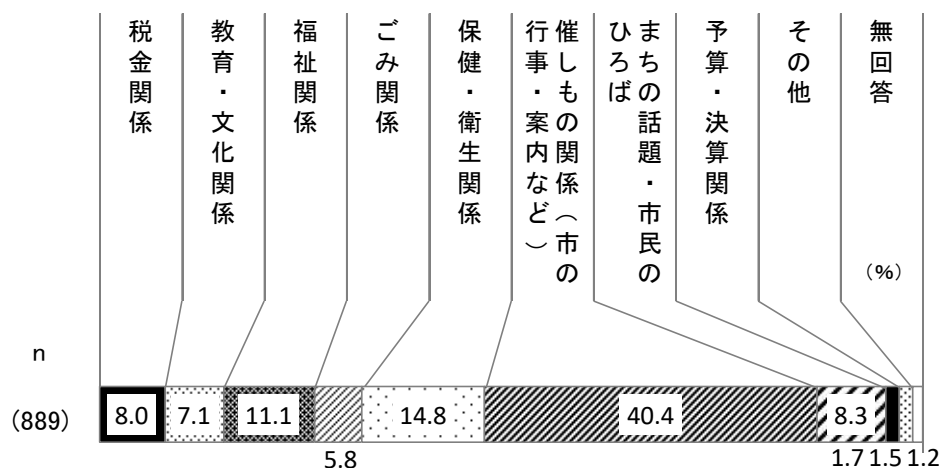
(2) 「広報ふっさ」で関心のある記事

◇「催しもの関係（市の行事・案内など）」が約4割

(問43(1)で、「1 詳しく読む」「2 ざっと目を通す」「3 必要なところだけ読む」を選んだ方に)

問43-1 主にどのような内容に関心を持って読まれますか。次の中から1つだけ選んでください。(〇は1つ)

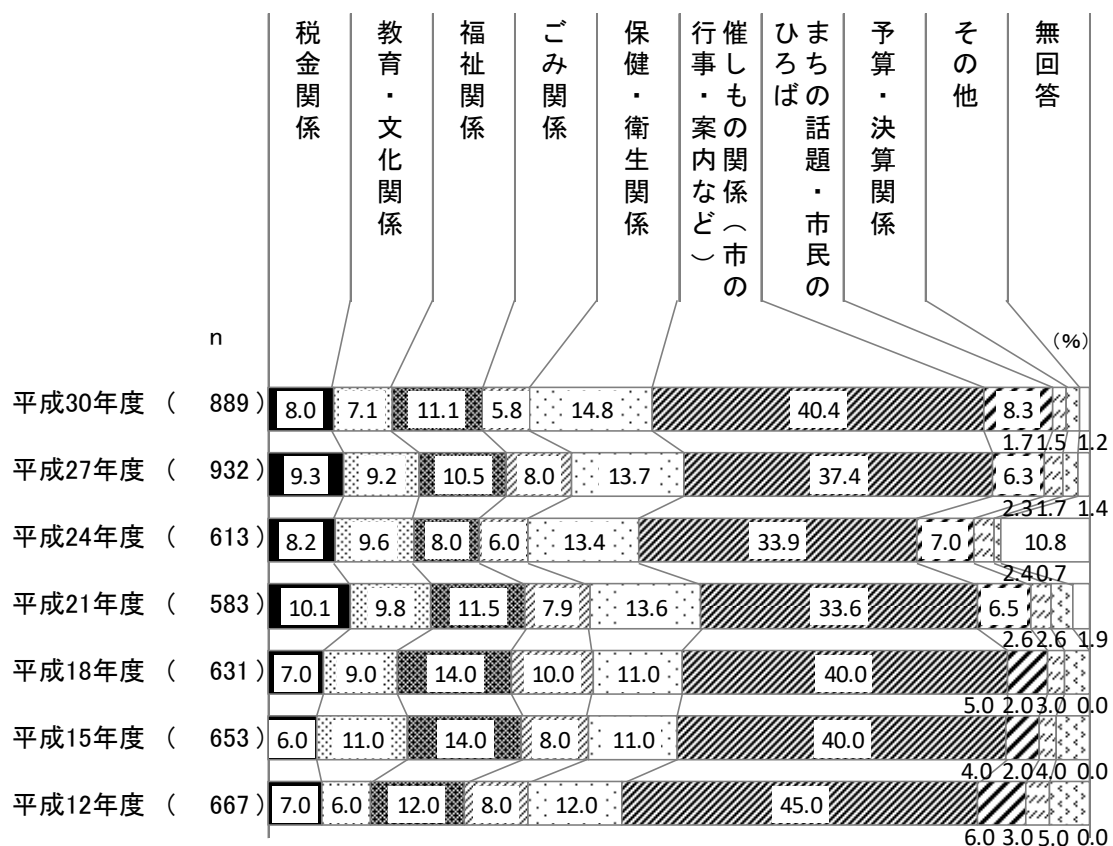
<図表13-6> 「広報ふっさ」で関心のある記事



問43(1)で、「広報ふっさ」を「詳しく読む」、「ざっと目を通す」、「必要なところだけ読む」と答えた方に、関心のある記事を聞いたところ、「催しもの関係（市の行事・案内など）」(40.4%)が約4割で最も高く、次いで「保健・衛生関係」(14.8%)、「福祉関係」(11.1%)、「まちの話題・市民のひろば」(8.3%)、「税金関係」(8.0%)となっている。(図表13-6)

過年度の調査結果の推移をみると、「催しもの関係（市の行事・案内など）」は平成27年度と比べて3.0ポイント増加している。（図表13－7）

＜図表13－7＞ 「広報ふっさ」で関心のある記事／過年度推移

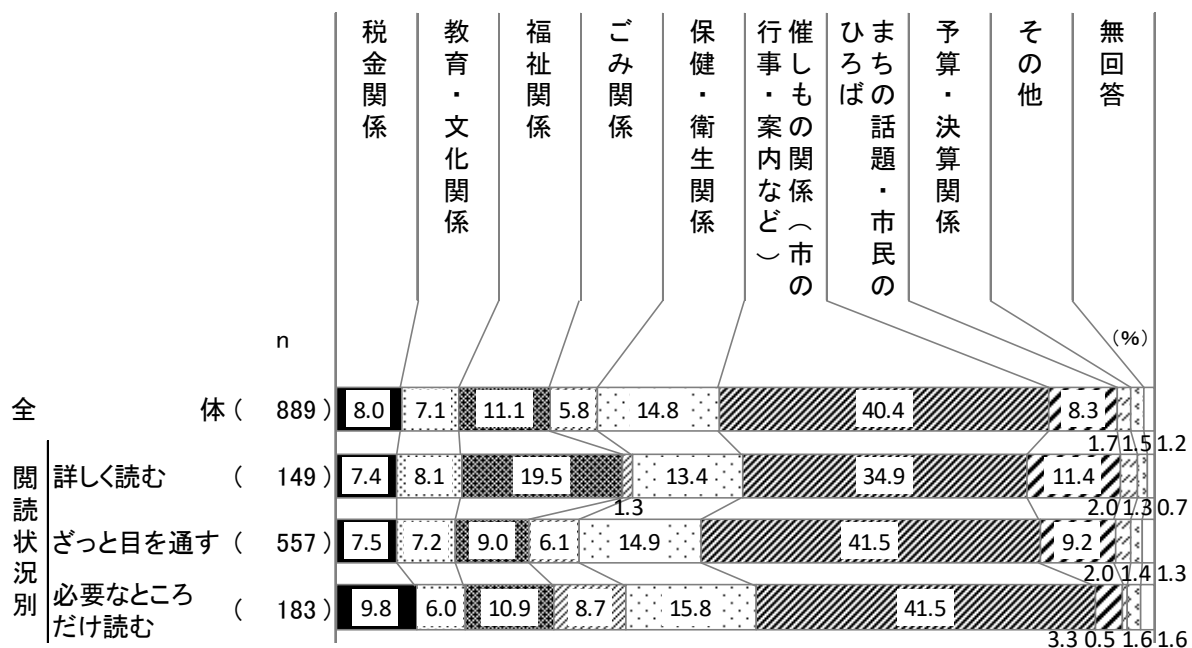


(注) 平成18年調査以前の選択肢「市の大きな行事」は、「催しもの関係（市の行事・案内など）」に含めている。

閲読状況別でみると、「福祉関係」は詳しく読む（19.5%）で約2割となっている。

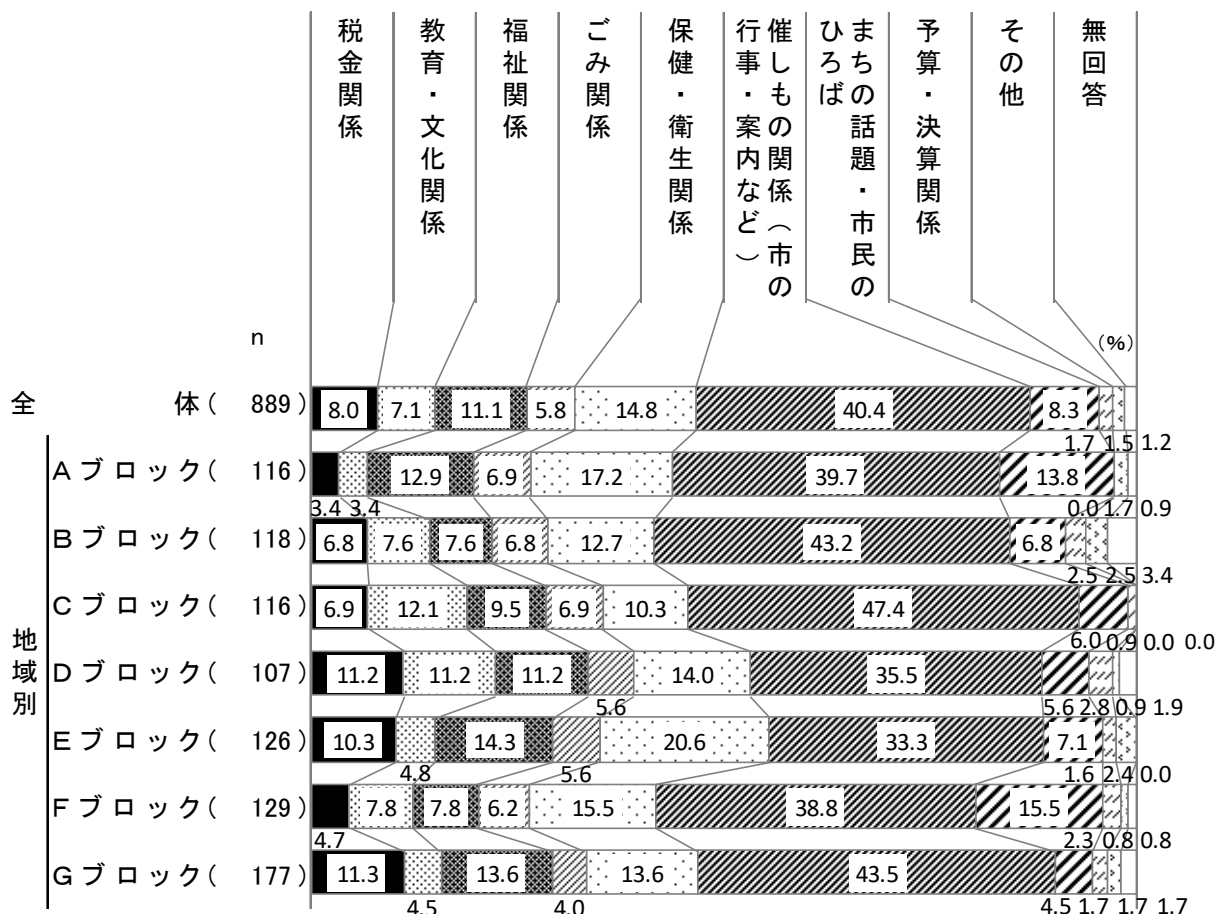
(図表13-8)

<図表13-8> 「広報ふっさ」で関心のある記事／閲読状況別



地域別でみると、「催しもの関係（市の行事・案内など）」はCブロック（47.4%）で5割弱と高くなっている。「保健・衛生関係」はEブロック（20.6%）で約2割となっている。（図表13-9）

<図表13-9> 「広報ふっさ」で関心のある記事／地域別

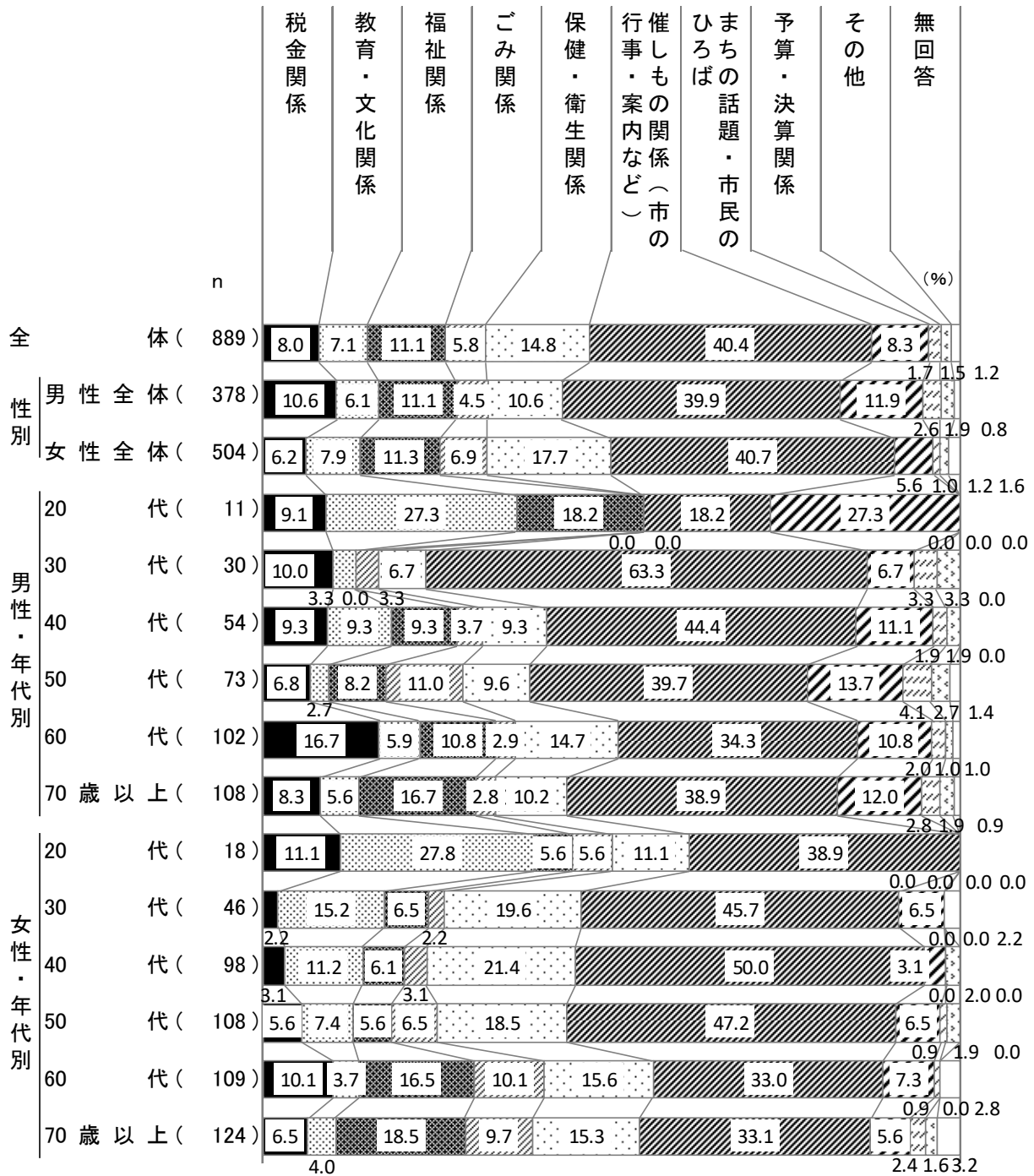




性別で見ると、「保健・衛生関係」は女性（17.7%）が男性（10.6%）より7.1ポイント高くなっている。「まちの話題・市民のひろば」は男性（11.9%）が女性（5.6%）より6.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「催しもの関係（市の行事・案内など）」は男性30代（63.3%）で6割強と高くなっている。「保健・衛生関係」は女性40代（21.4%）で2割強と高くなっている。「福祉関係」は女性70歳以上（18.5%）で2割弱と高くなっている。（図表13-10）

<図表13-10> 「広報ふっさ」で関心のある記事／性別、性・年代別



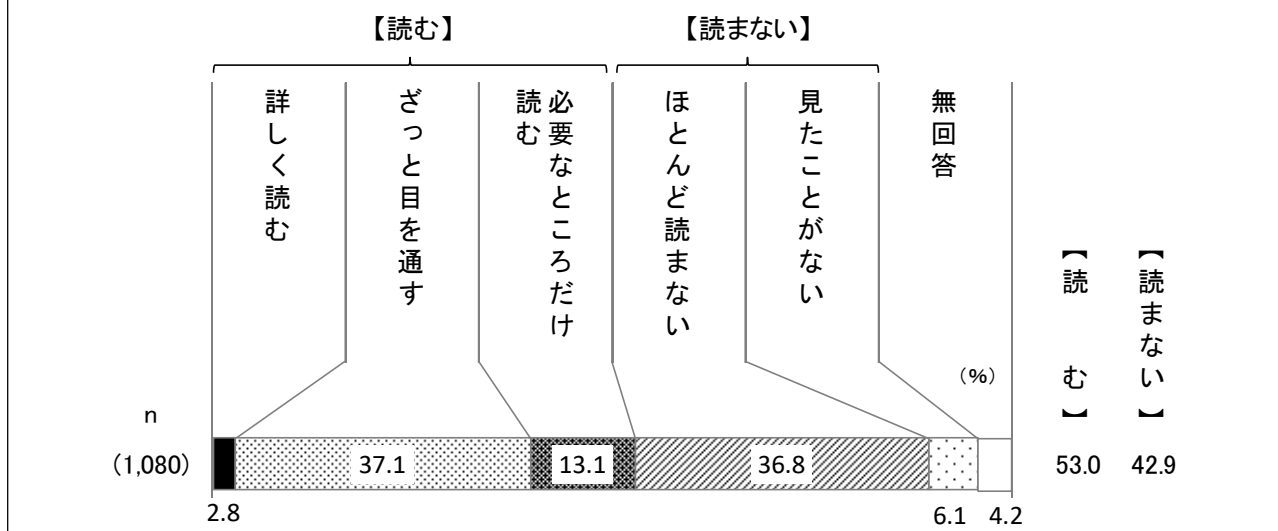
(3) 「福生市議会だより」の閲読状況

◇【読む】が5割強

問43 市では、『広報ふっさ』、『福生市議会だより』、『福生の教育』を発行していますが、あなたはそれぞれの程度読んでいますか。

(2) 『福生市議会だより』をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

<図表13-11> 「福生市議会だより」の閲読状況

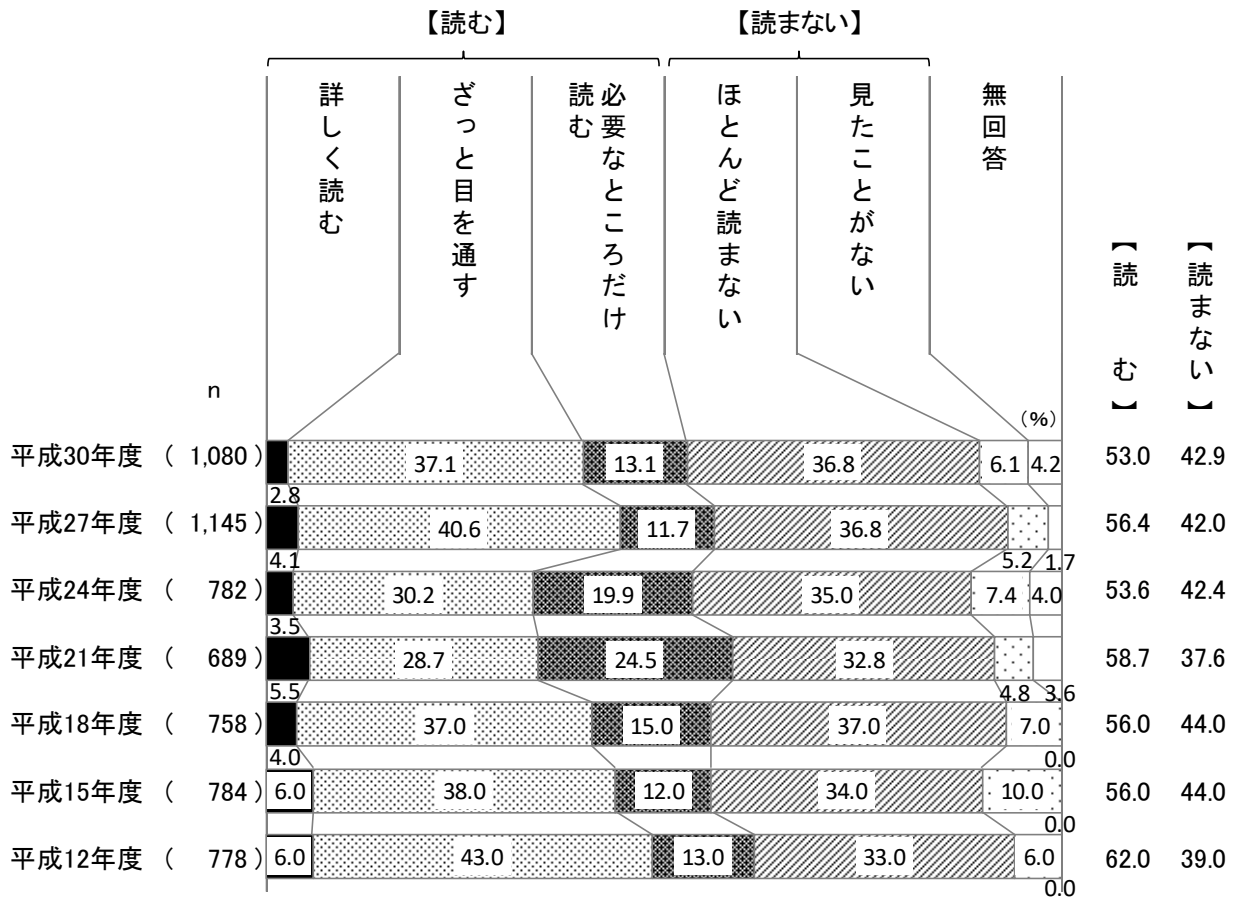


「福生市議会だより」の閲読状況を聞いたところ、「詳しく読む」(2.8%)と「ざっと目を通す」(37.1%)、「必要なところだけ読む」(13.1%)の3つを合わせた【読む】(53.0%)が5割強と高くなっている。一方、「ほとんど読まない」(36.8%)と「見たことがない」(6.1%)の2つを合わせた【読まない】(42.9%)は4割強となっている。(図表13-11)

過年度の調査結果の推移をみると、【読む】は平成27年度と比べて3.4ポイント減少している。

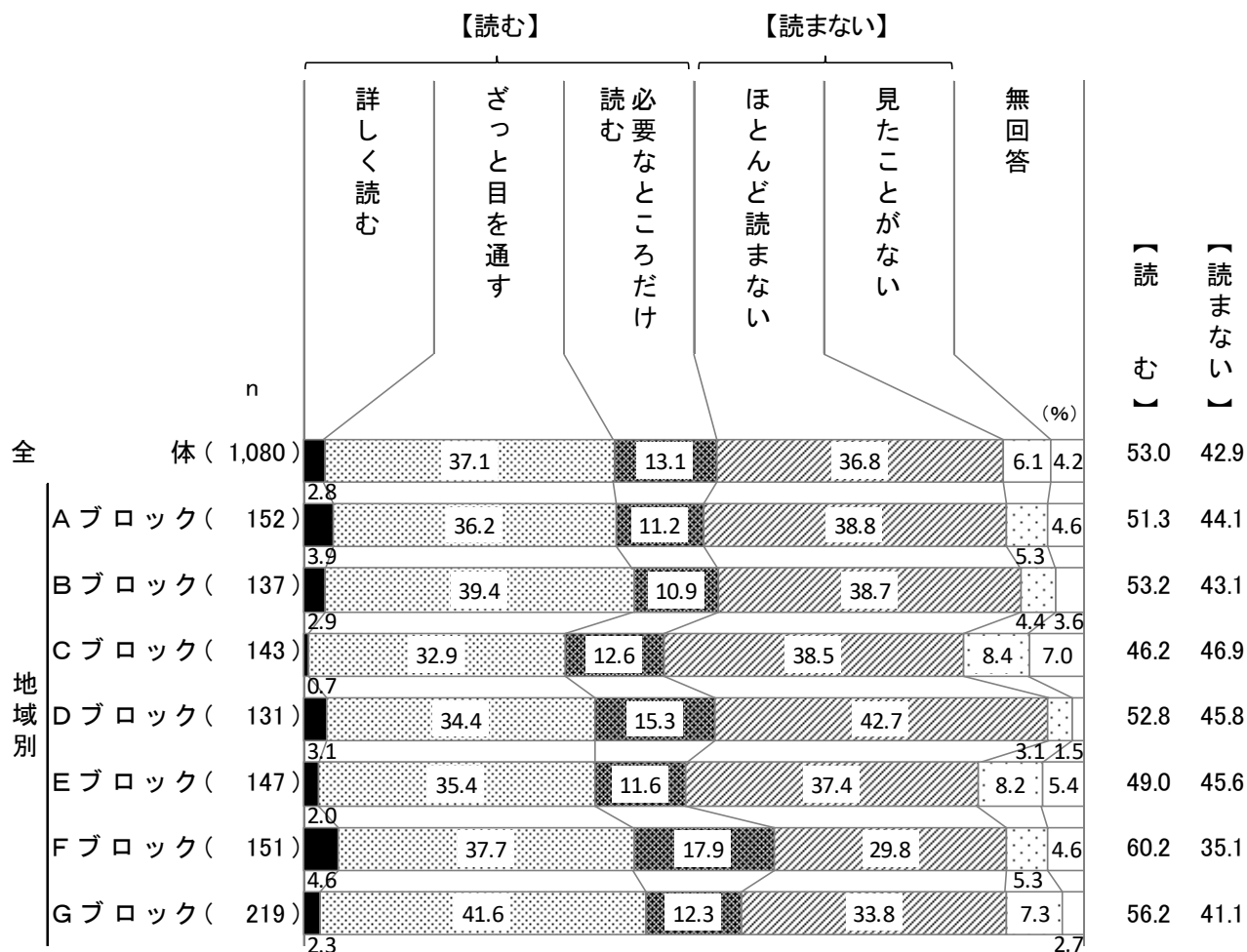
(図表13-12)

<図表13-12> 「福生市議会だより」の閲読状況／過年度推移



地域別でみると、【読む】はFブロック（60.2%）で約6割と高くなっている。一方、【読まない】はCブロック（46.9%）で5割弱と高くなっている。（図表13-13）

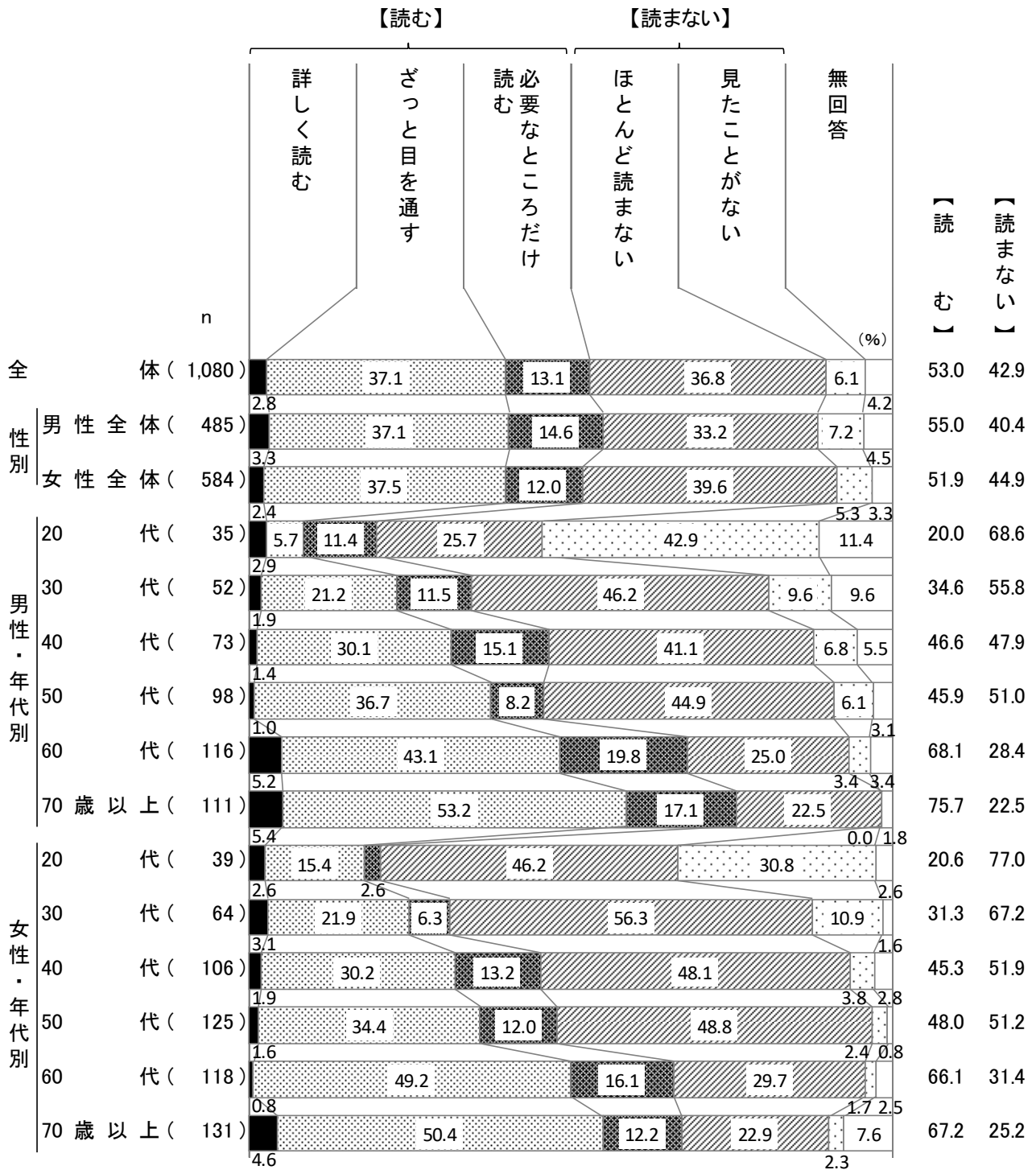
＜図表13-13＞「福生市議会だより」の閲読状況／地域別



性別でみると、【読む】は男性（55.0%）が女性（51.9%）より3.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【読む】は男性70歳以上（75.7%）で7割台半ば、女性60代（66.1%）、女性70歳以上（67.2%）で7割弱と高くなっている。一方、【読まない】は女性20代（77.0%）で8割弱、男性20代（68.6%）で7割弱と高くなっている。（図表13-14）

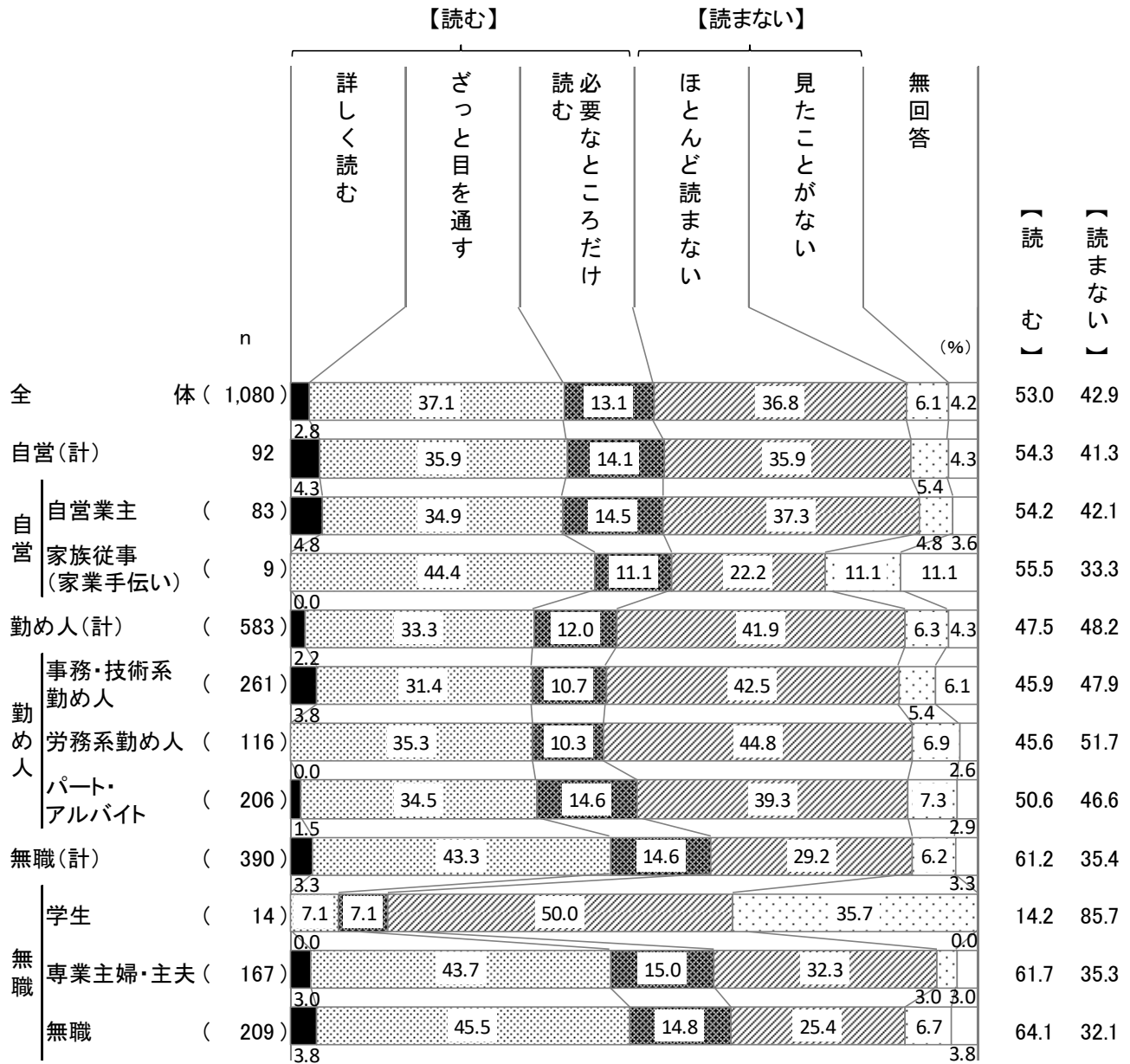
<図表13-14> 「福生市議会だより」の閲読状況／性別、性・年代別



職業別でみると、【読む】は無職（64.1%）で6割台半ば、専業主婦・主夫（61.7%）で6割強と高くなっている。【読まない】は労務系勤め人（51.7%）で5割強と高くなっている。

（図表13-15）

<図表13-15> 「福生市議会だより」の閲読状況／職業別



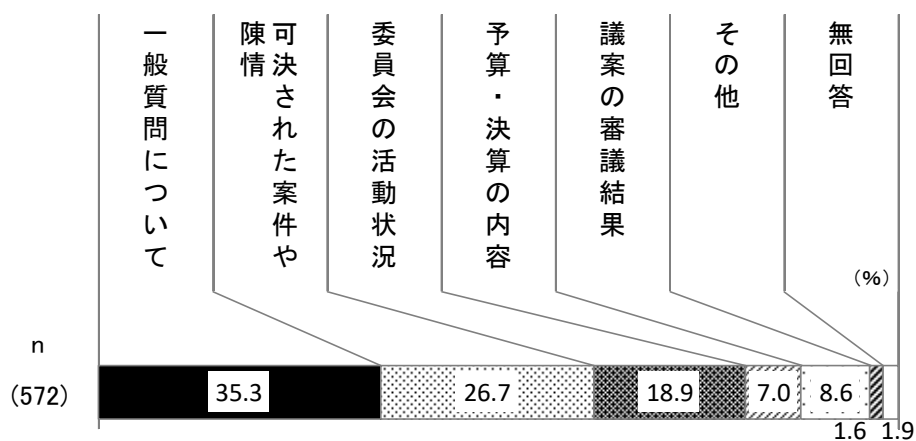
(4)「福生市議会だより」で関心のある記事

◇「一般質問について」が3割台半ば

(問43(2)で、「1 詳しく読む」「2 ざっと目を通す」「3 必要なところだけ読む」を選んだ方に)

問43-2 主にどのような内容に関心を持って読まれますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

<図表13-16>「福生市議会だより」で関心のある記事

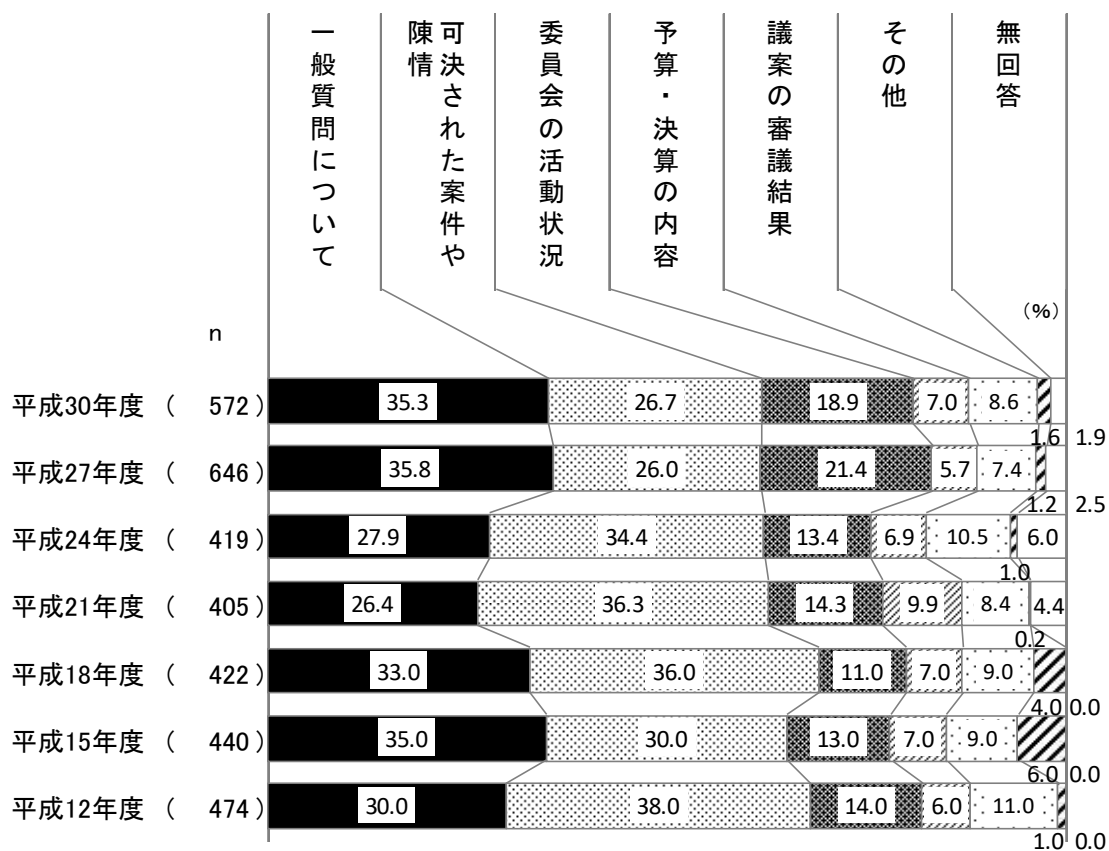


(注)「議案の審議結果」は、前回調査以前では「本会議の経過」としていた。

問43(2)で、「福生市議会だより」を「詳しく読む」、「ざっと目を通す」、「必要なところだけ読む」と答えた方に、関心のある記事を聞いたところ、「一般質問について」(35.3%)が3割台半ばで最も高く、次いで「可決された案件や陳情」(26.7%)、「委員会の活動状況」(18.9%)となっている。(図表13-16)

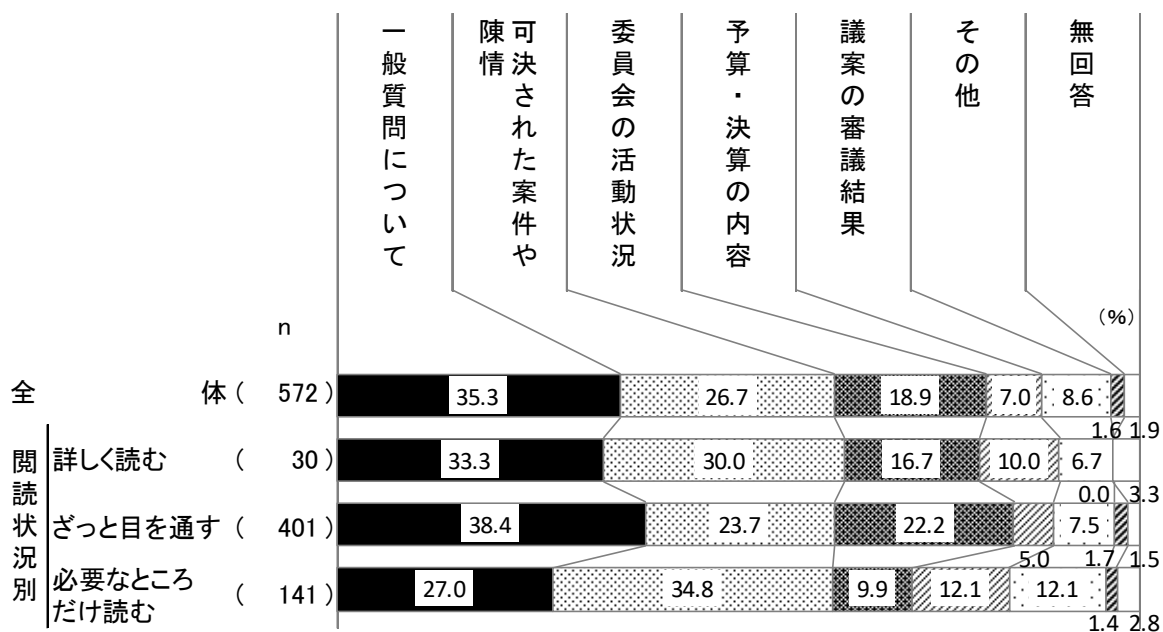
過年度の調査結果の推移をみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表13-17)

<図表13-17> 「福生市議会だより」で関心のある記事／過年度推移



閲読状況別でみると、「一般質問について」はざっと目を通す(38.4%)で4割弱と高くなっている。(図表13-18)

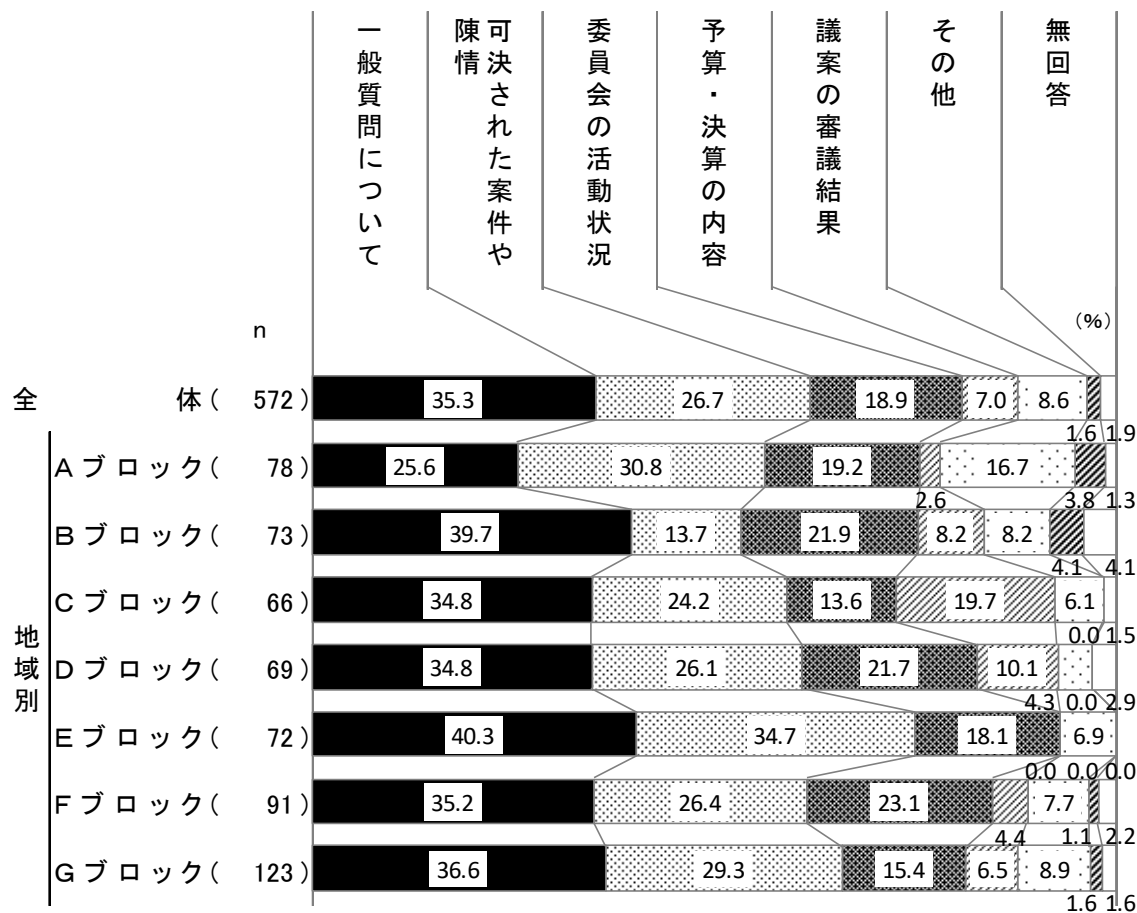
<図表13-18> 「福生市議会だより」で関心のある記事／閲読状況別





地域別でみると、「一般質問について」はBブロック（39.7%）とEブロック（40.3%）で約4割と高くなっている。「可決された案件や陳情」はEブロック（34.7%）で3割台半ばと高くなっている。（図表13-19）

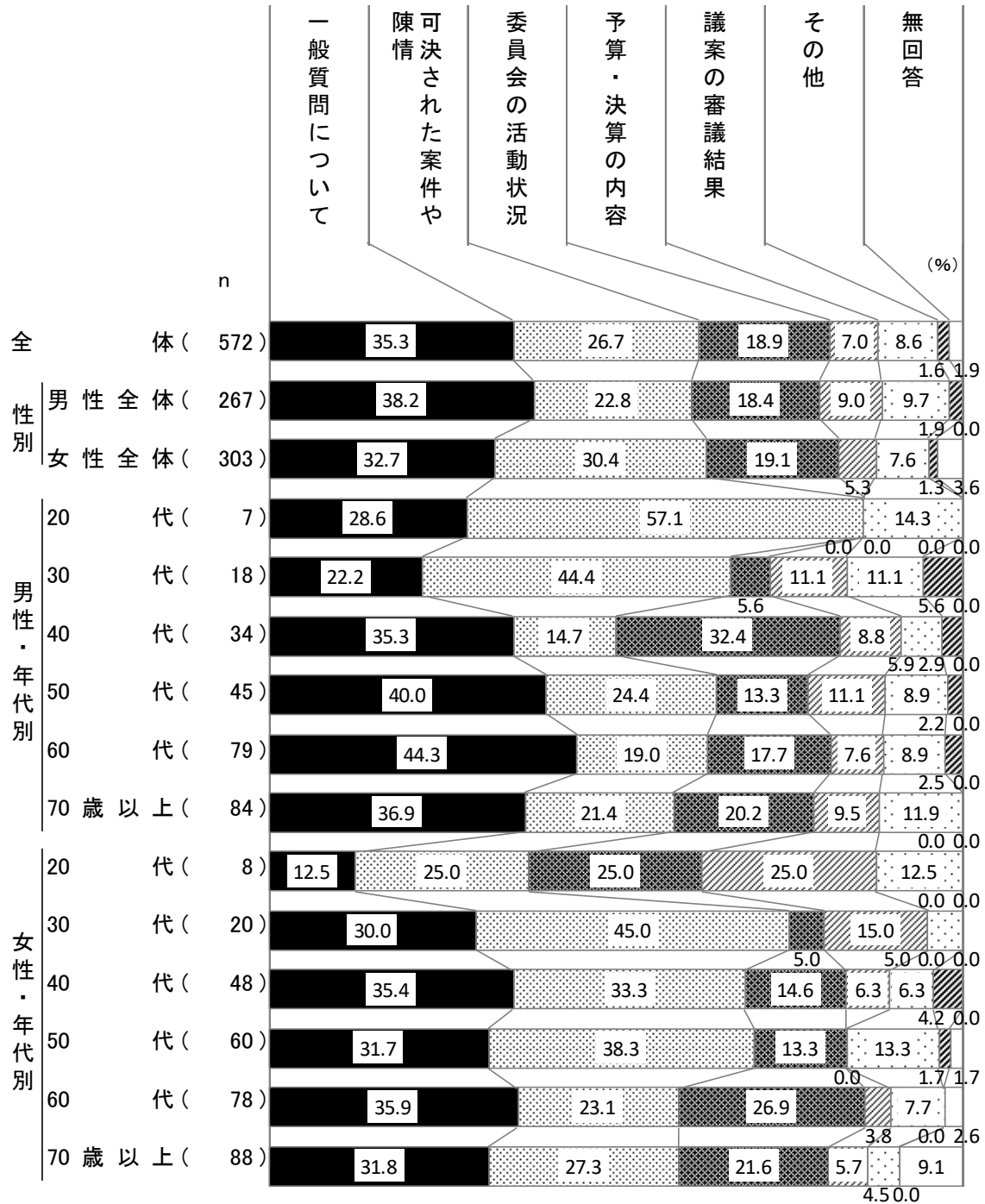
<図表13-19> 「福生市議会だより」で関心のある記事／地域別



性別でみると、「可決された案件や陳情」は女性（30.4%）が男性（22.8%）より7.6ポイント高くなっている。「一般質問について」は男性（38.2%）が女性（32.7%）より5.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「一般質問について」は男性60代（44.3%）で4割台半ばと高くなっている。（図表13-20）

<図表13-20> 「福生市議会だより」で関心のある記事／性別、性・年代別



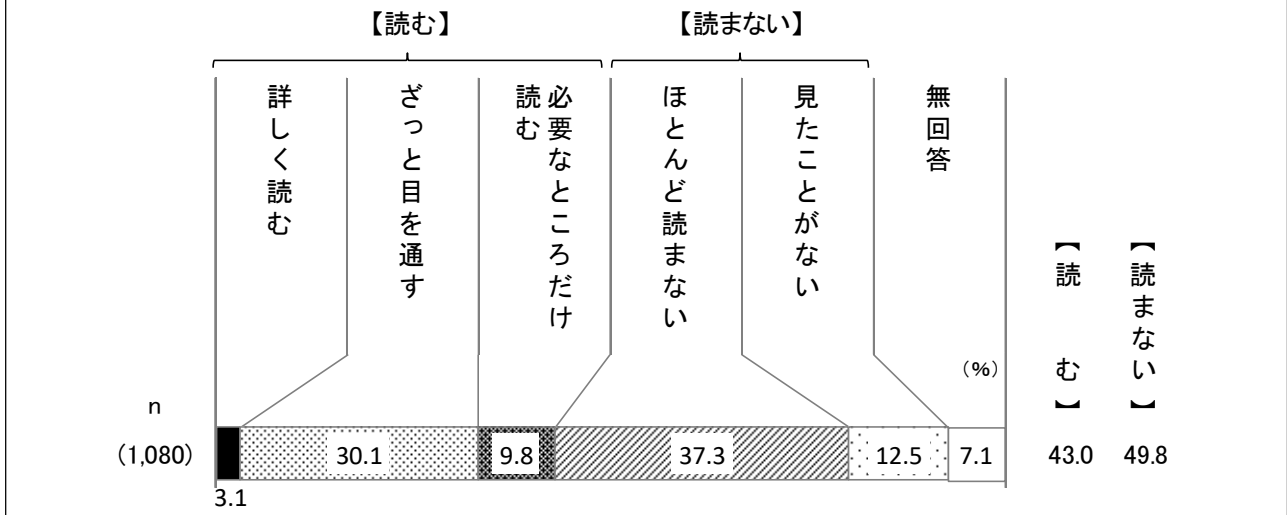
(5)「福生の教育」の閲読状況

◇【読む】が4割強

問43 市では、『広報ふっさ』、『福生市議会だより』、『福生の教育』を発行していますが、あなたはそれぞれの程度読んでいますか。

(3)『福生の教育』をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

<図表13-21>「福生の教育」の閲読状況

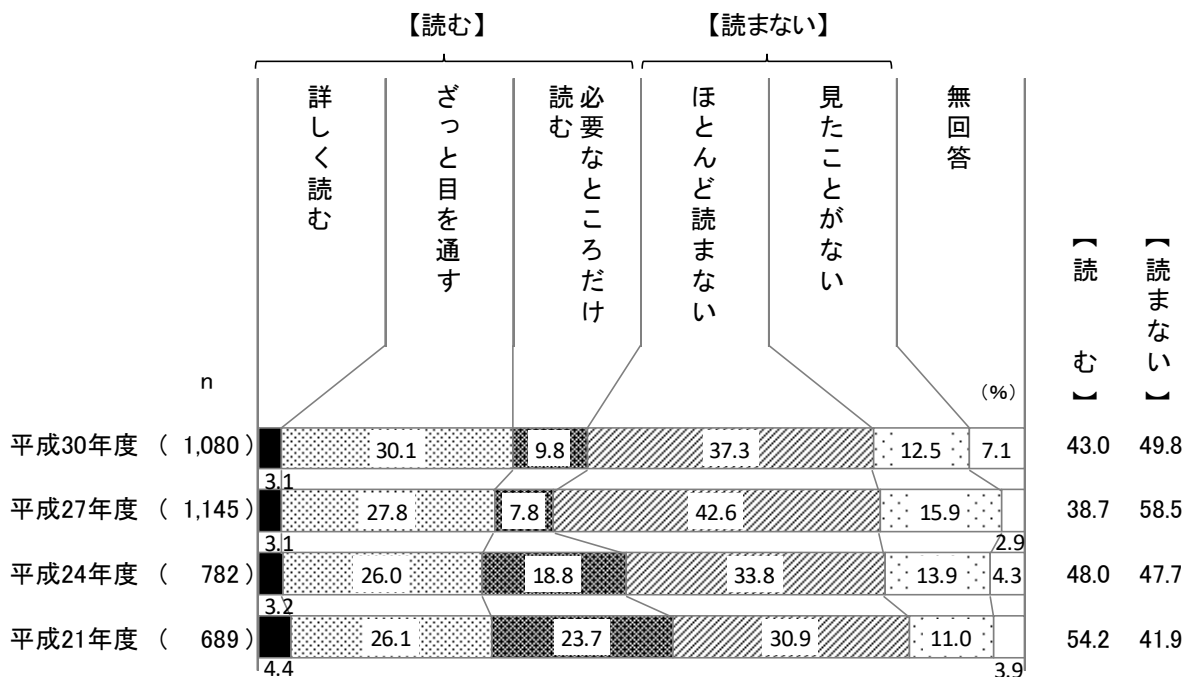


「福生の教育」の閲読状況を聞いたところ、「詳しく読む」(3.1%)と「ざっと目を通す」(30.1%)、「必要などころだけ読む」(9.8%)の3つを合わせた【読む】(43.0%)が4割強となっている。一方、「ほとんど読まない」(37.3%)と「見たことがない」(12.5%)の2つを合わせた【読まない】(49.8%)は約5割となっている。(図表13-21)

過年度の調査結果の推移をみると、【読む】は平成27年度と比べて4.3ポイント増加している。

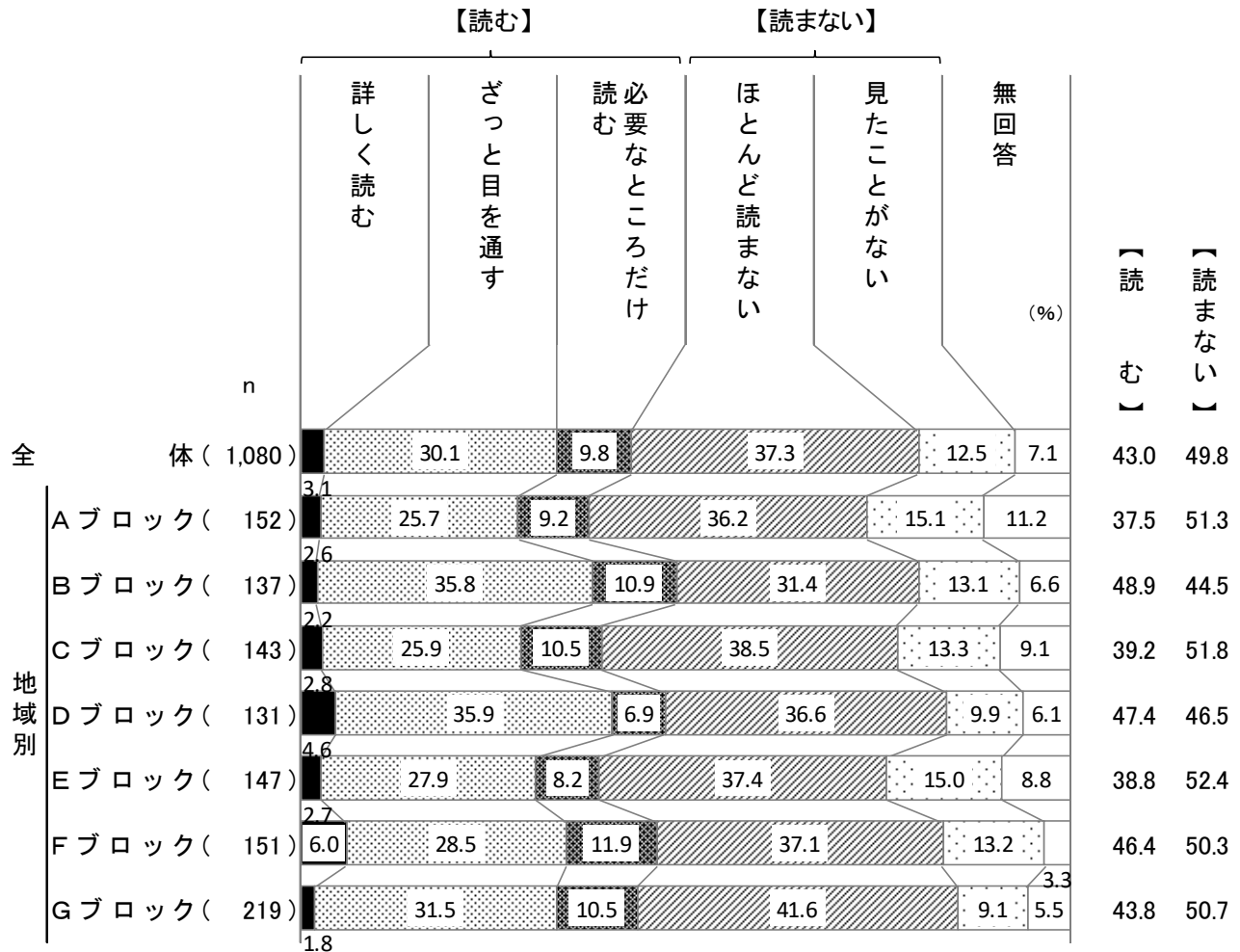
(図表13-22)

<図表13-22>「福生の教育」の閲読状況／過年度推移



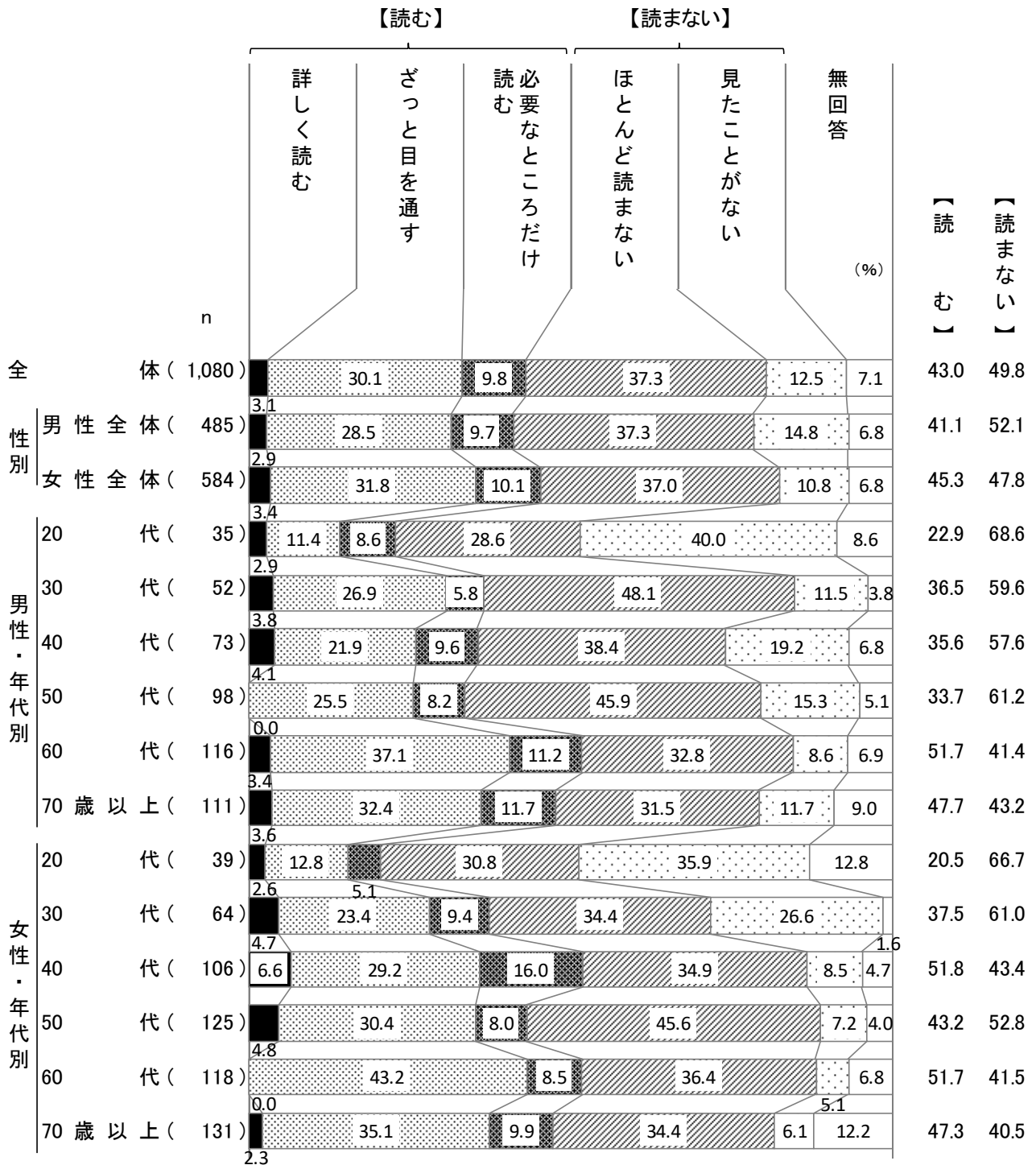
地域別でみると、【読む】はBブロック（48.9%）とDブロック（47.4%）・Fブロック（46.4%）で5割弱と高くなっている。一方、【読まない】はAブロック（51.3%）とCブロック（51.8%）・Eブロック（52.4%）で5割強と高くなっている。（図表13-23）

<図表13-23> 「福生の教育」の閲読状況／地域別



性別でみると、【読む】は女性（45.3%）が男性（41.1%）より4.2ポイント高くなっている。  
 性・年代別でみると、【読む】は男性60代（51.7%）と女性40代（51.8%）・女性60代（51.7%）で5割強と高くなっている。一方、【読まない】は男性20代（68.6%）と女性20代（66.7%）で7割弱と高くなっている。（図表13-24）

<図表13-24> 「福生の教育」の閲読状況／性別、性・年代別



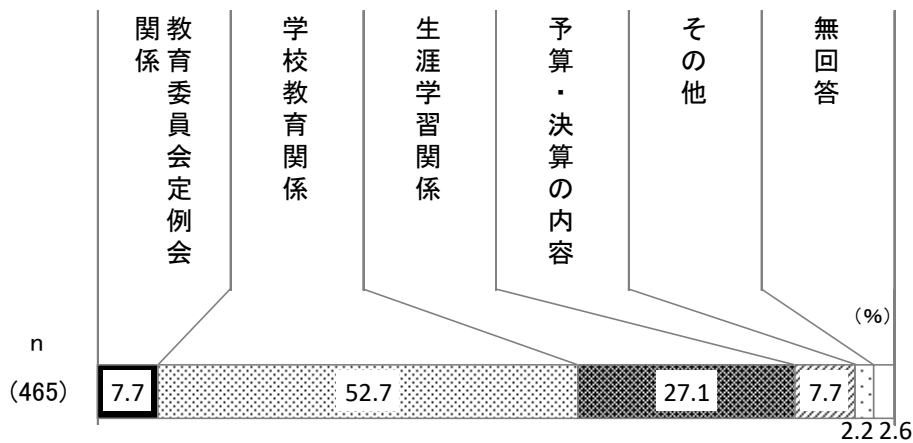
(6) 「福生の教育」で関心のある記事

◇「学校教育関係」が5割強

(問43(3)で、「1 詳しく読む」「2 ざっと目を通す」「3 必要なところだけ読む」を選んだ方に)

問43-3 主にどのような内容に関心を持って読まれますか。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

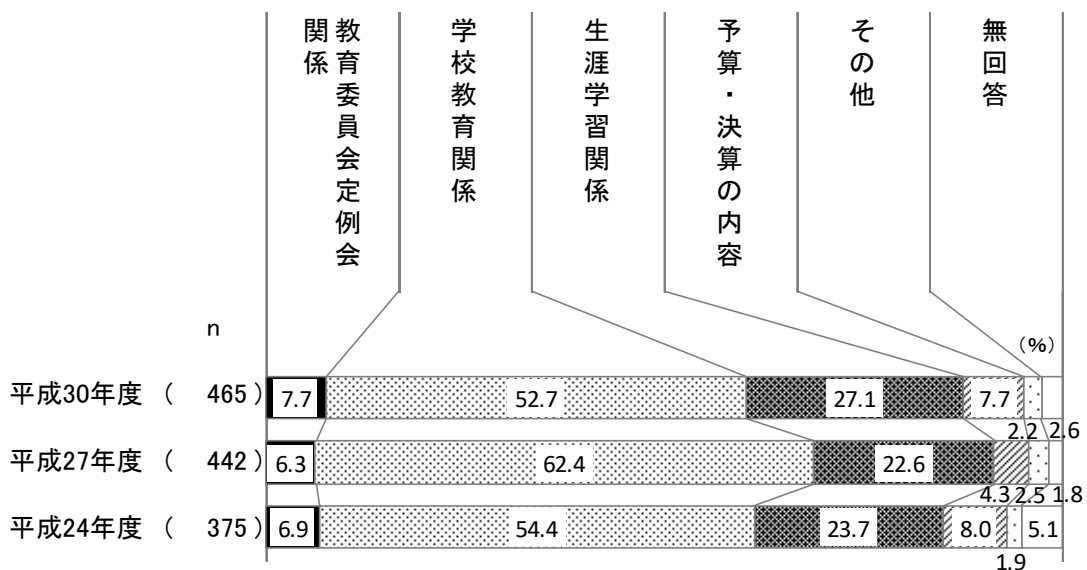
<図表13-25> 「福生の教育」で関心のある記事



問43(3)で、「福生の教育」を「詳しく読む」、「ざっと目を通す」、「必要なところだけ読む」と答えた方に、関心のある記事を聞いたところ、「学校教育関係」(52.7%)が5割強で最も高く、次いで「生涯学習関係」(27.1%)、「教育委員会定例会関係」(7.7%)、「予算・決算の内容」(7.7%)となっている。(図表13-25)

前回の調査結果と比較すると、「生涯学習関係」は4.5ポイント増加している。一方、「学校教育関係」は9.7ポイント減少している。(図表13-26)

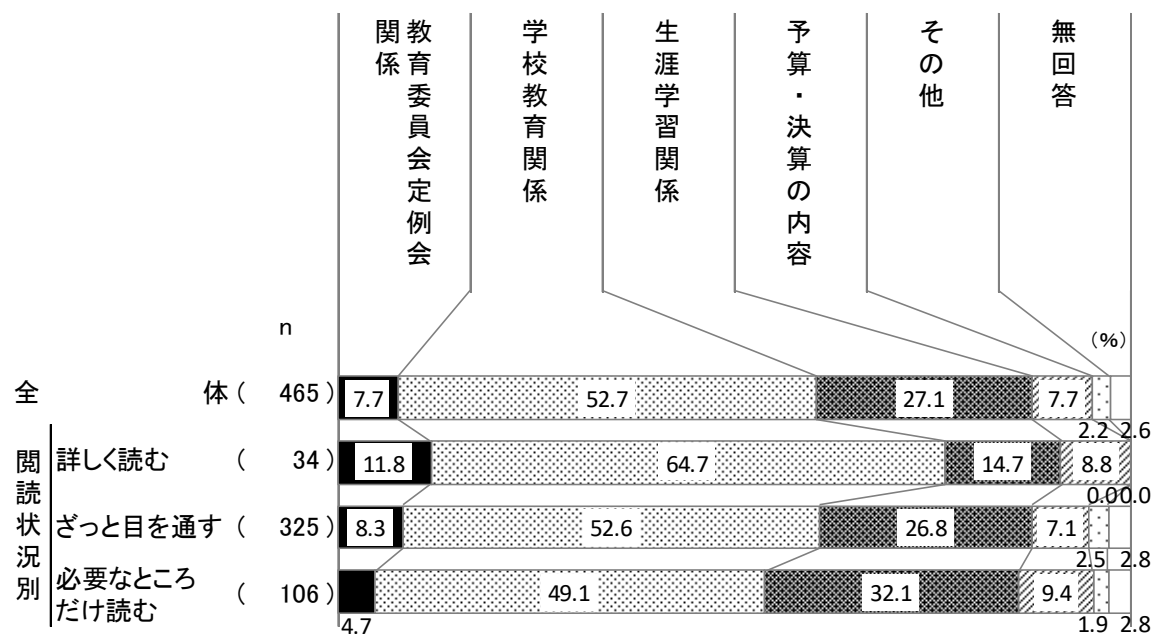
<図表13-26> 「福生の教育」で関心のある記事／過年度推移



閲読状況別でみると、「学校教育関係」は詳しく読む（64.7%）で6割台半ばと高くなっている。

（図表13-27）

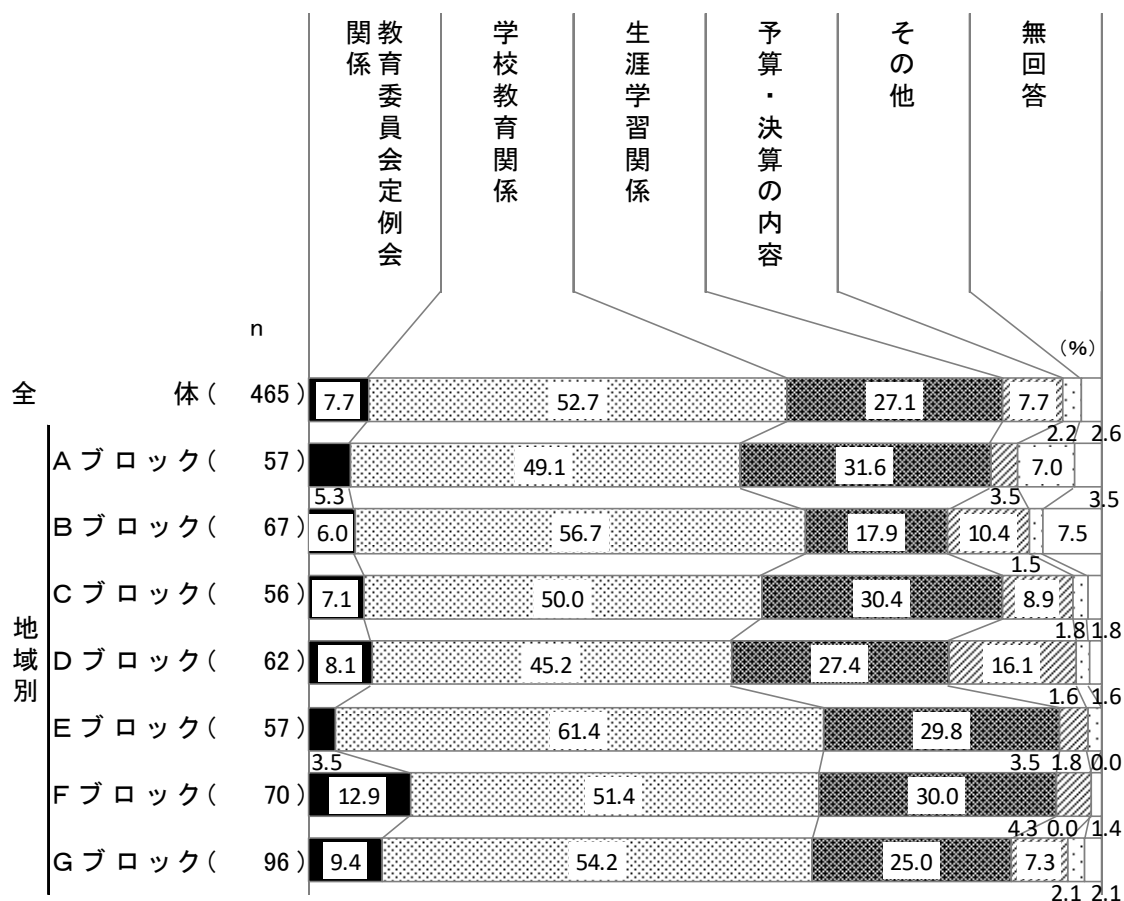
＜図表13-27＞「福生の教育」で関心のある記事／閲読状況別



地域別でみると、「学校教育関係」はEブロック（61.4%）で6割強と高くなっている。

（図表13-28）

＜図表13-28＞「福生の教育」で関心のある記事／地域別

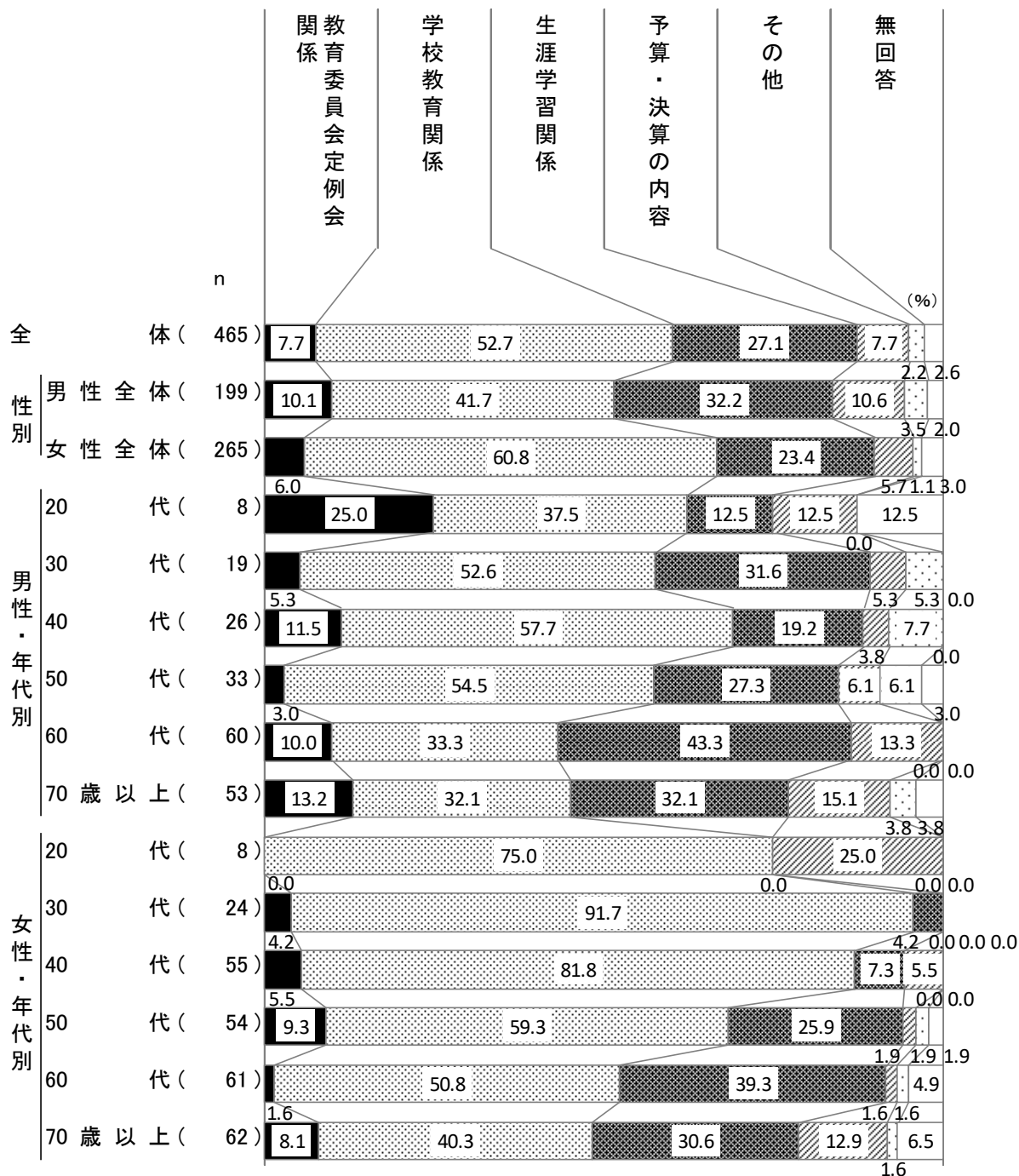


性別で見ると、「学校教育関係」は女性（60.8%）が男性（41.7%）より19.1ポイント高くなっている。「生涯学習関係」は男性（32.2%）が女性（23.4%）より8.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「学校教育関係」は女性40代（81.8%）で8割強と高くなっている。「生涯学習関係」は男性60代（43.3%）で4割強、女性60代（39.3%）で約4割と高くなっている。

(図表13-29)

<図表13-29> 「福生の教育」で関心のある記事／性別、性・年代別





(7) 市の情報を何から得ているか

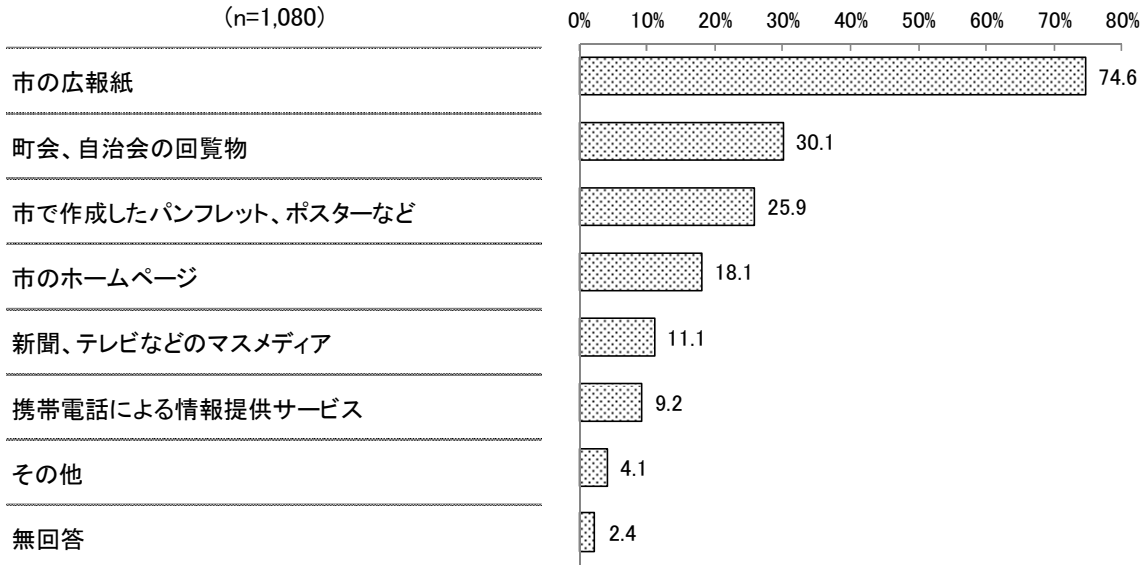
◇「市の広報紙」が7割台半ば

問44 あなたは市の情報を特に何から得ていますか。あてはまるものを全て選んでください。

(○はいくつでも)

<図表13-30>市の情報を何から得ているか

(n=1,080)



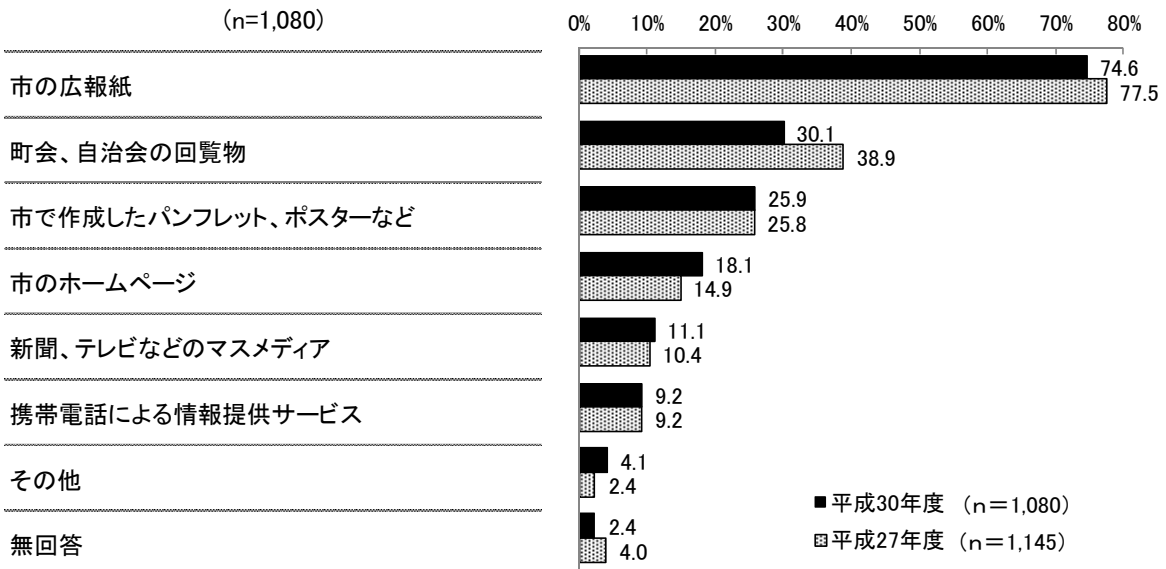
市の情報を何から得ているか聞いたところ、「市の広報紙」(74.6%)が7割台半ばで最も高く、次いで「町会、自治会の回覧物」(30.1%)、「市で作成したパンフレット、ポスターなど」(25.9%)、「市のホームページ」(18.1%)、「新聞、テレビなどのマスメディア」(11.1%)となっている。

(図表13-30)

前回の調査結果と比較すると、「市のホームページ」は3.2ポイント増加している。一方、「町会、自治会の回覧物」は8.8ポイント減少している。(図表13-31)

<図表13-31>市の情報を何から得ているか/過年度推移

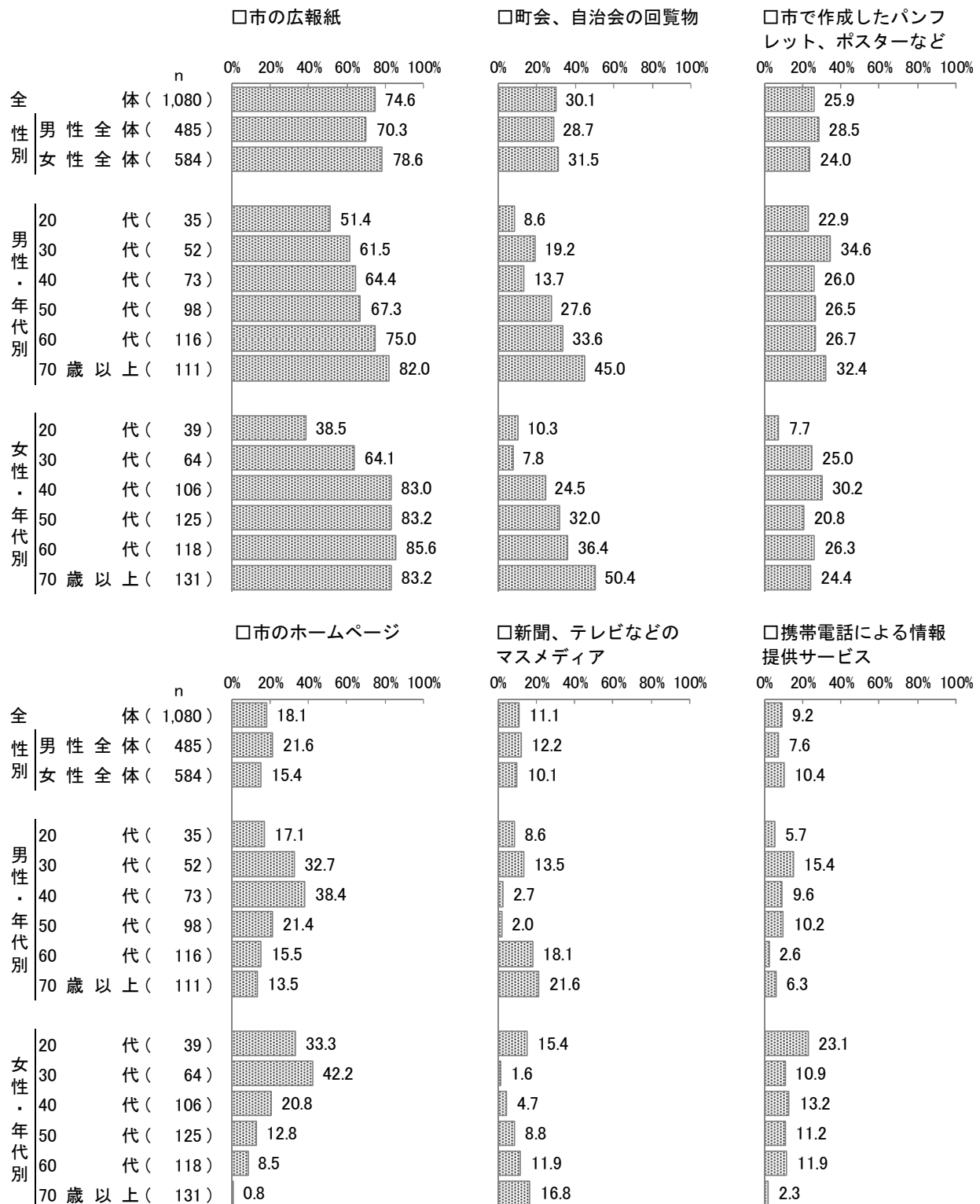
(n=1,080)



上位6項目について性別でみると、「市の広報紙」は女性（78.6%）が男性（70.3%）より8.3ポイント高く、「市のホームページ」は男性（21.6%）が女性（15.4%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「市の広報紙」は女性60代（85.6%）で8割台半ばと高くなっている。「町会、自治会の回覧物」は女性70歳以上（50.4%）で約5割、男性70歳以上（45.0%）で4割台半ばと高くなっている。「市のホームページ」は女性30代（42.2%）で4割強と高くなっている。「新聞、テレビなどのマスメディア」は男性70歳以上（21.6%）で2割強と高くなっている。（図表13-32）

＜図表13-32＞市の情報を何から得ているか／性別、性・年代別（上位6項目）

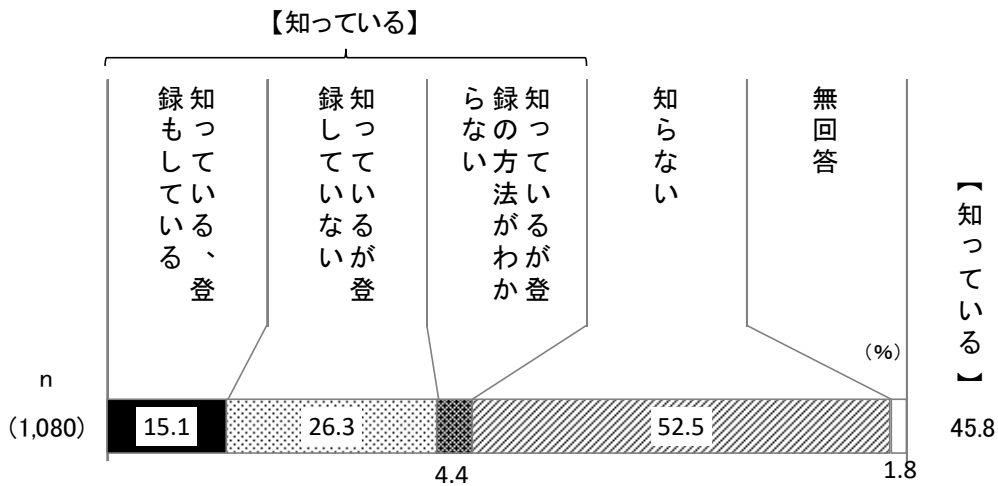


(8)「ふっさ情報メール」の認知状況

◇「知っている、登録もしている」が1割台半ば

問45 市では携帯電話やパソコンのメール機能を活用し、あらかじめ登録していただいた利用者の携帯電話やパソコンに「ふっさ情報メール」として、防災情報や各種イベント情報など、生活に役立つ情報を配信しています。この「ふっさ情報メール」について次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

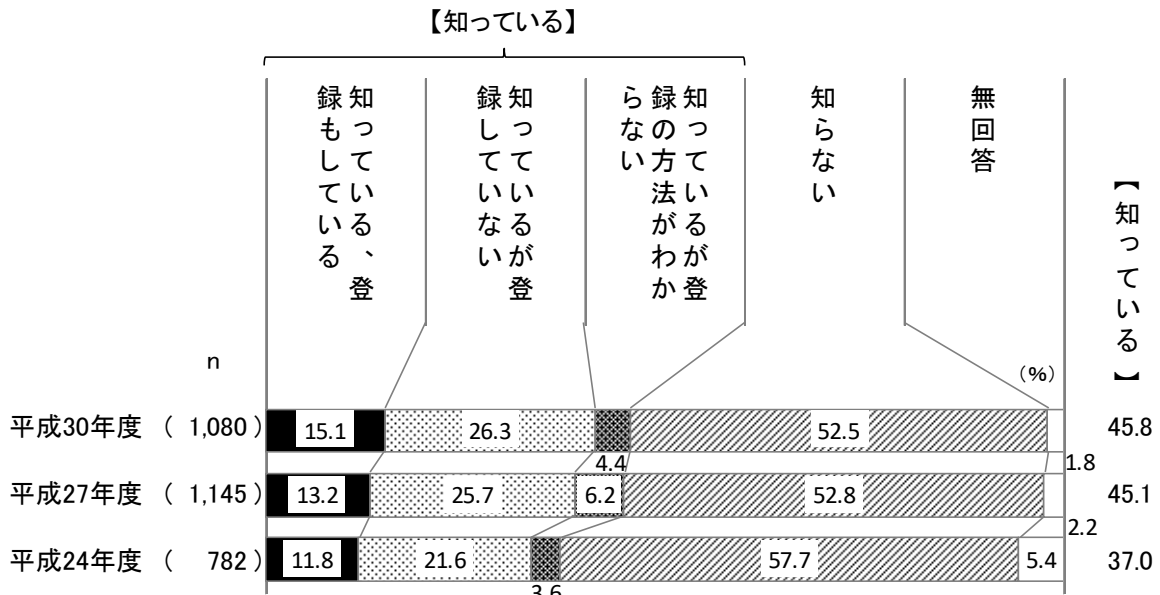
<図表13-33>「ふっさ情報メール」の認知状況



「ふっさ情報メール」の認知状況を聞いたところ、「知っている、登録もしている」(15.1%)が1割台半ばとなっており、これと「知っているが登録していない」(26.3%)、「知っているが登録の方法がわからない」(4.4%)の3つを合わせた【知っている】(45.8%)が4割台半ばとなっている。一方、「知らない」(52.5%)は5割強となっている。(図表13-33)

前回の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表13-34)

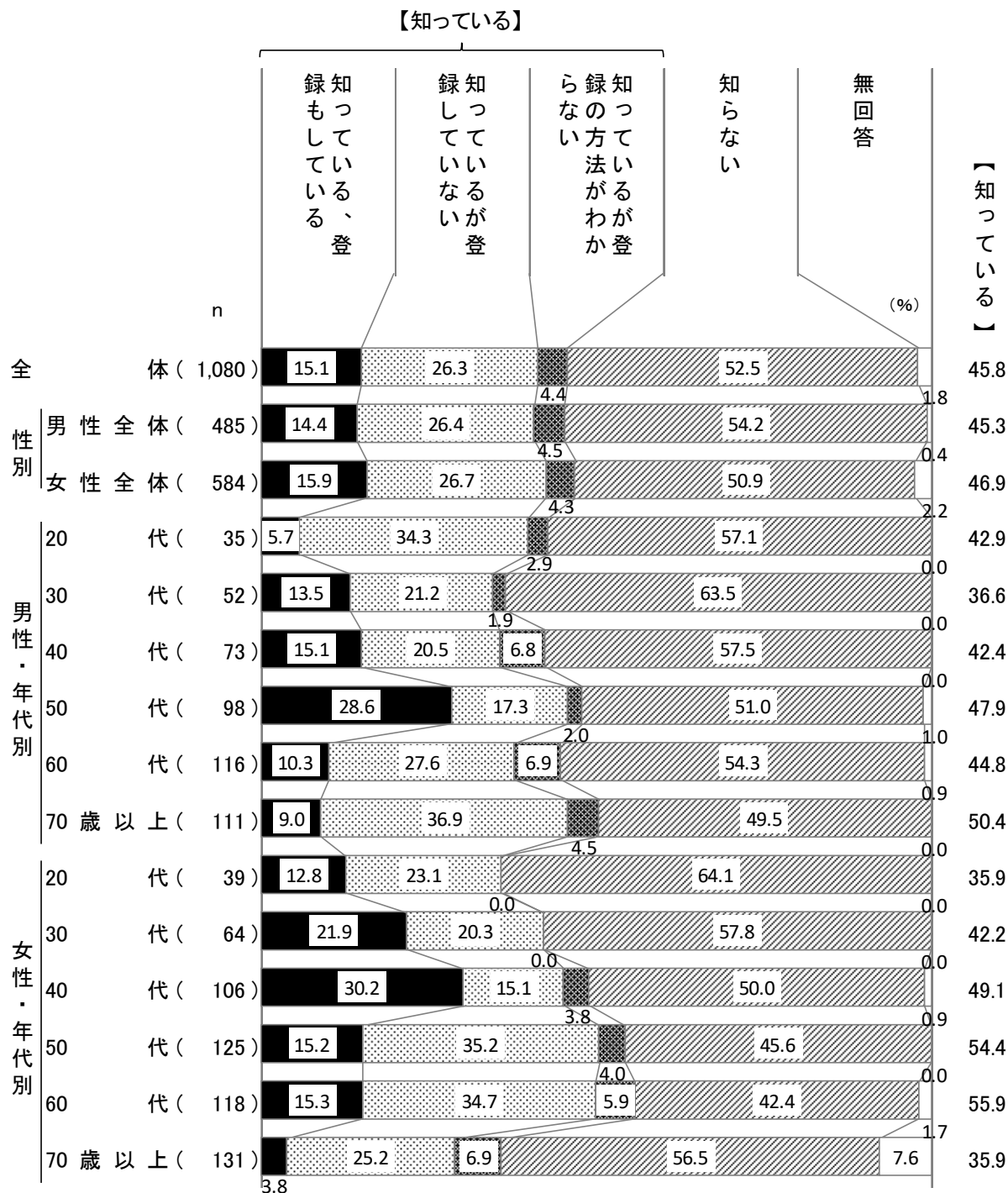
<図表13-34>「ふっさ情報メール」の認知状況/過年度推移



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年代別でみると、【知っている】は女性50代（54.4%）と女性60代（55.9%）で5割台半ば、男性70歳以上（50.4%）で約5割と高くなっている。「知っている、登録もしている」は女性40代（30.2%）で約3割と高くなっている。「知らない」は女性20代（64.1%）で6割台半ば、男性30代（63.5%）で6割強と高くなっている。（図表13-35）

<図表13-35> 「ふっさ情報メール」の認知状況／性別、性・年代別

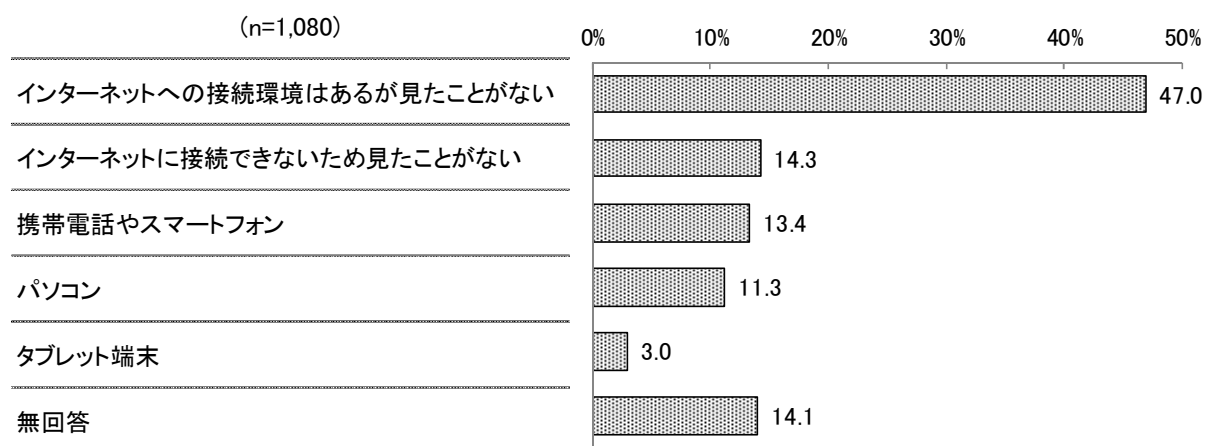


## (9) 福生市議会ホームページの閲覧方法

◇「インターネットへの接続環境はあるが見たことがない」が5割弱

問46 市ホームページに掲載している「福生市議会ホームページ」についてお伺いします。あなたはどのような方法でご覧になりますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。  
(〇はいくつでも)

<図表13-36>福生市議会ホームページの閲覧方法

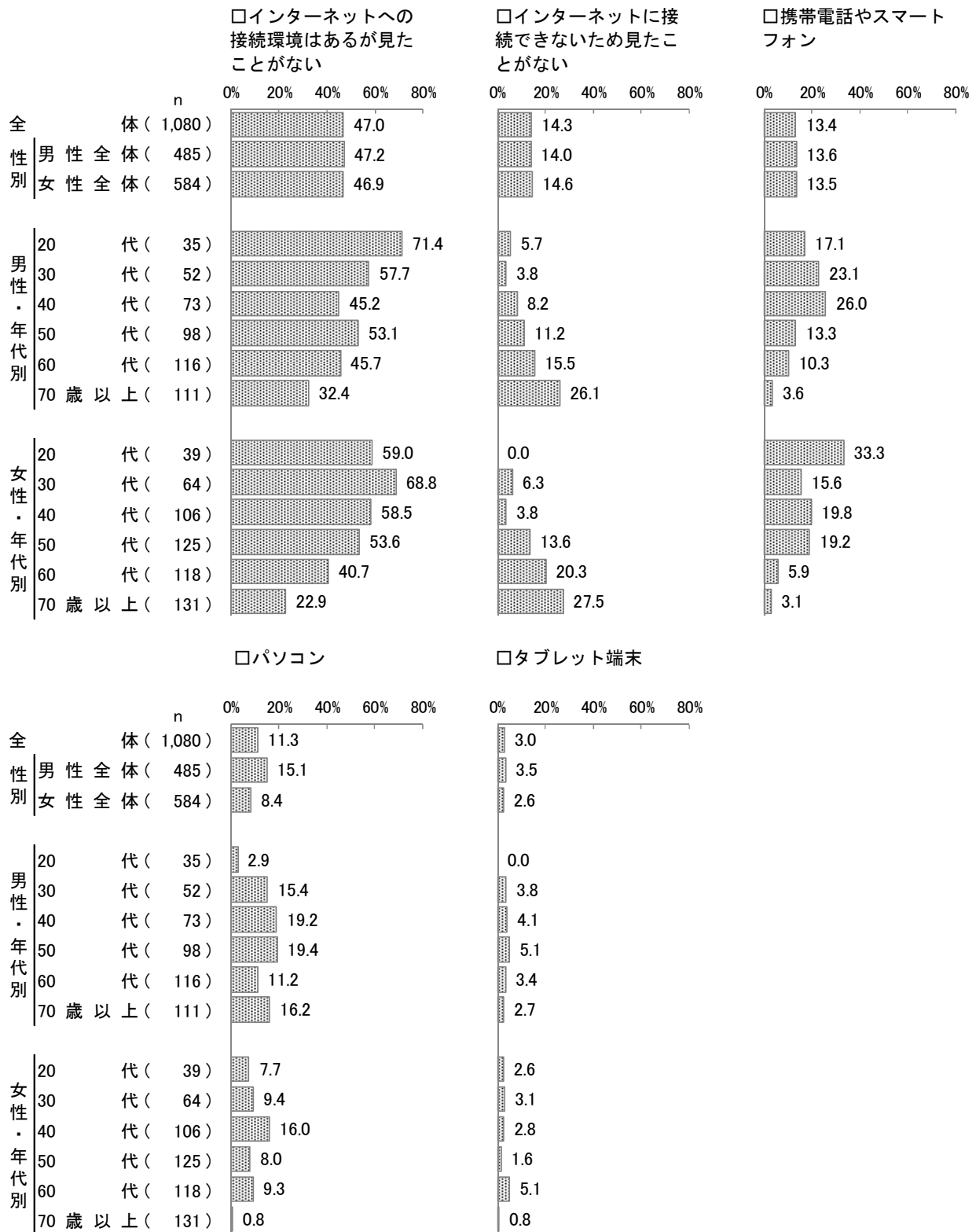


「福生市議会ホームページ」の閲覧方法を聞いたところ、「インターネットへの接続環境はあるが見たことがない」(47.0%)が5割弱で最も高く、次いで「インターネットに接続できないため見たことがない」(14.3%)、「携帯電話やスマートフォン」(13.4%)、「パソコン」(11.3%)、「タブレット端末」(3.0%)となっている。(図表13-36)

性別で見ると、「パソコン」は男性（15.1%）が女性（8.4%）より6.7ポイント高くなっている。  
 性・年代別で見ると、「インターネットへの接続環境はあるが見たことがない」は男性20代（71.4%）で7割強、女性30代（68.8%）で7割弱と高くなっている。「インターネットに接続できないため見たことがない」は女性70歳以上（27.5%）と男性70歳以上（26.1%）で3割弱と高くなっている。「携帯電話やスマートフォン」は女性20代（33.3%）で3割強と高くなっている。

（図表13-37）

＜図表13-37＞福生市議会ホームページの閲覧方法／性別、性・年代別



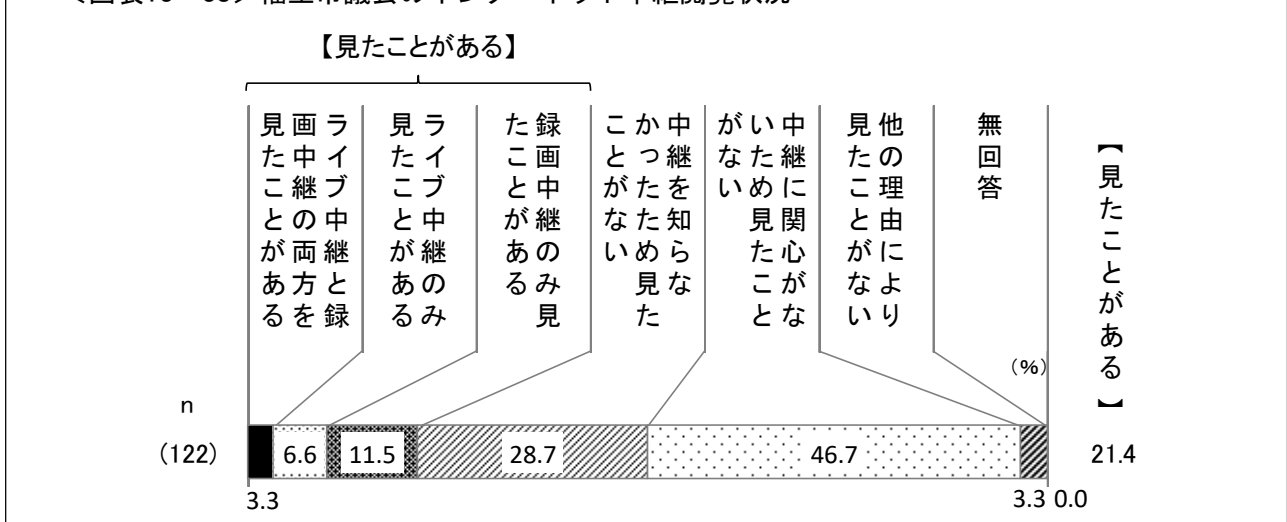
(10) 福生市議会のインターネット中継閲覧状況

◇【見たことがある】が2割強

(問46で、「1 パソコン」を選んだ方に)

問46-1 福生市議会ホームページで配信している「インターネット中継」についてお伺いします。次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

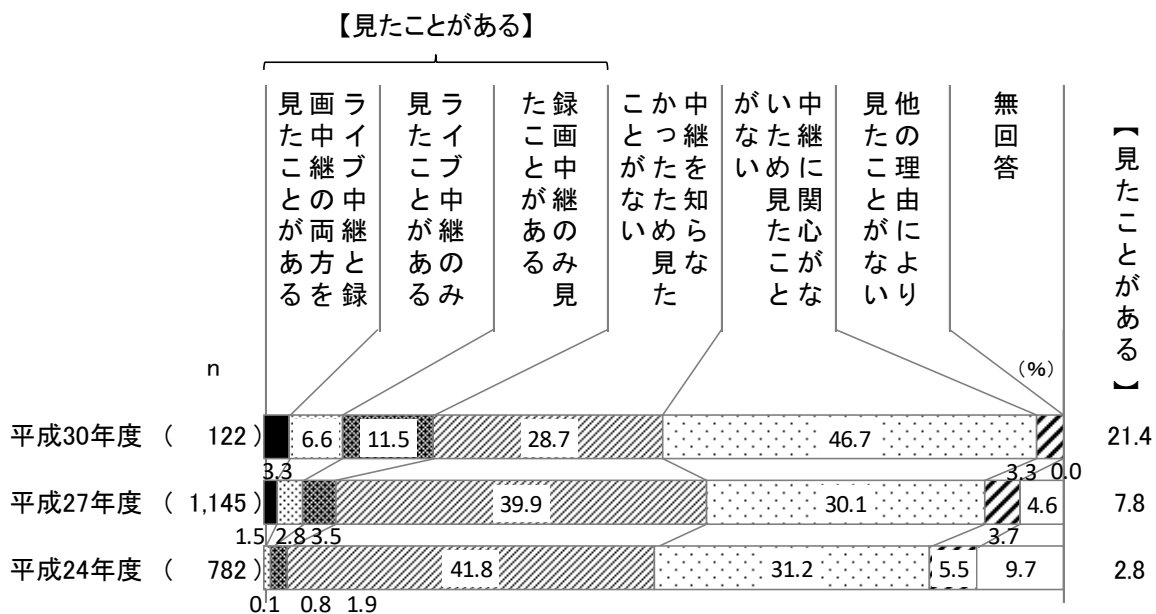
<図表13-38>福生市議会のインターネット中継閲覧状況



問46で、「パソコン」を選んだ方に、福生市議会のインターネット中継閲覧状況を聞いたところ、「ライブ中継と録画中継の両方を見たことがある」(3.3%)と「ライブ中継のみ見たことがある」(6.6%)、「録画中継のみ見たことがある」(11.5%)の3つを合わせた【見たことがある】(21.4%)が2割強となっている。一方、「中継を知らなかったため見たことがない」(28.7%)は3割弱、「中継に関心がないため見たことがない」(46.7%)は5割弱となっている。(図表13-38)

前回の調査結果と比較すると、【見たことがある】は13.6ポイント増加している。(図表13-39)

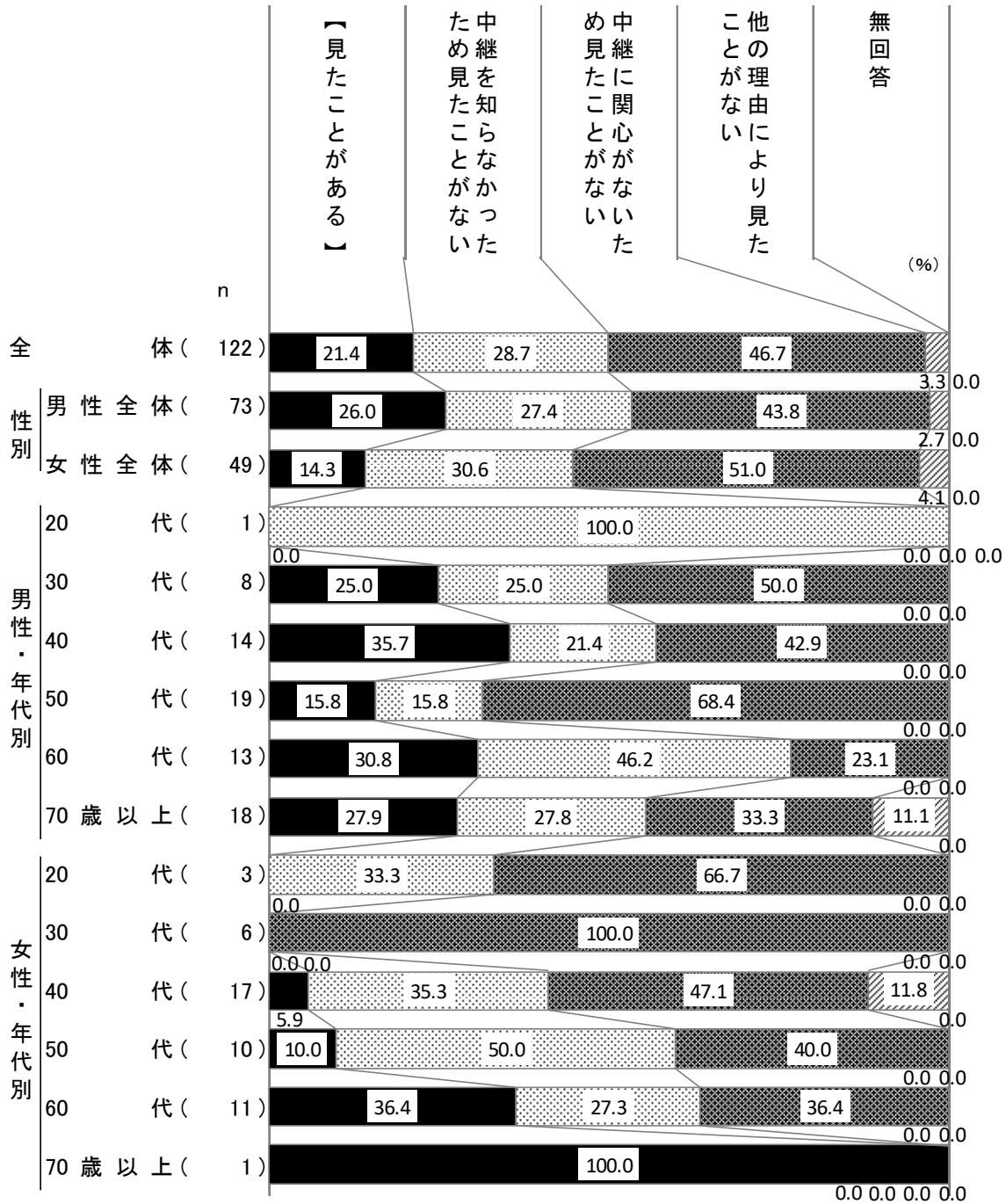
<図表13-39>福生市議会のインターネット中継閲覧状況/過年度推移



(注) 平成27年調査以前は、すべての人が回答している。

性別で見ると、【見たことがある】は男性（26.0%）が女性（14.3%）より11.7ポイント高くなっている。「中継に関心がないため見たことがない」は女性（51.0%）が男性（43.8%）より7.2ポイント高くなっている。（図表13-40）

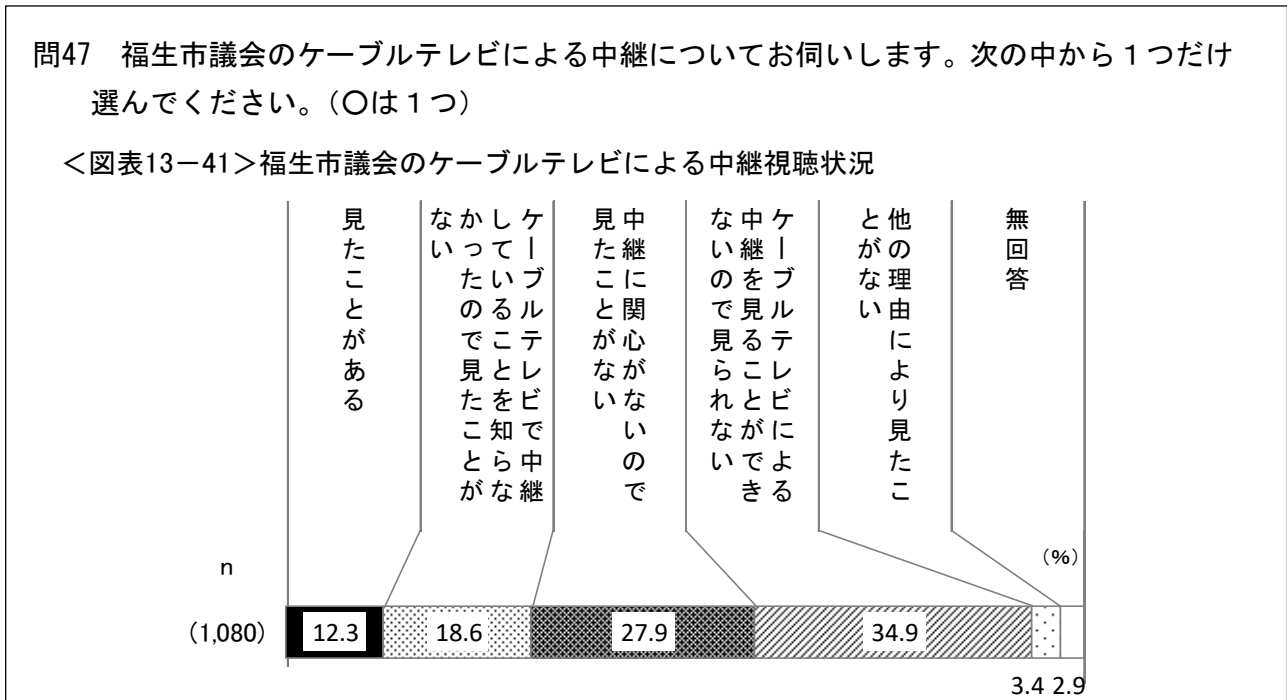
<図表13-40>福生市議会のインターネット中継閲覧状況／性別、性・年代別





(11) 福生市議会のケーブルテレビによる中継視聴状況

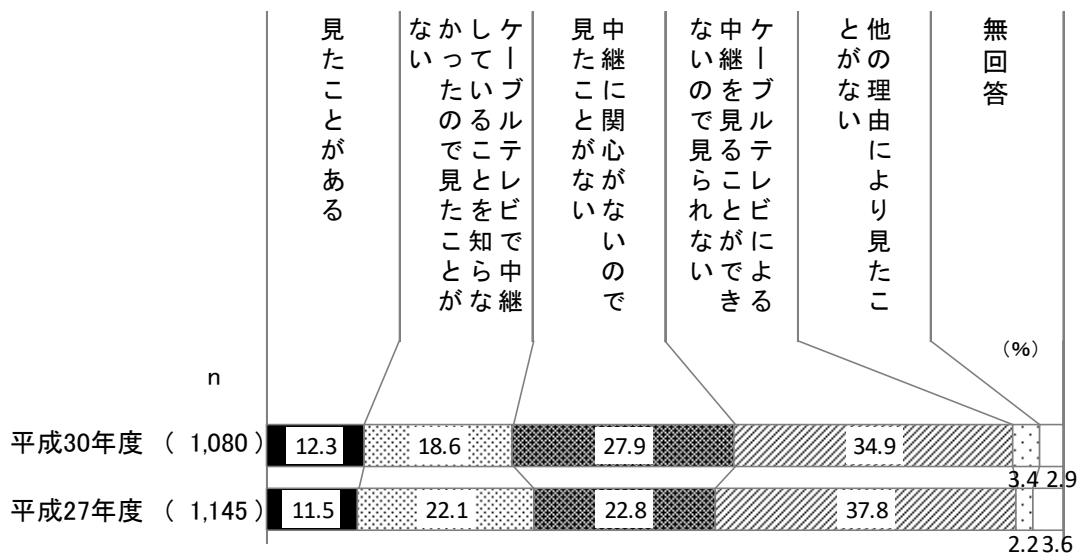
◇「見たことがある」が1割強



福生市議会のケーブルテレビによる中継視聴状況を聞いたところ、「見たことがある」(12.3%)が1割強となっている。一方、「ケーブルテレビによる中継を見ることができないので見られない」(34.9%)は3割台半ば、「中継に関心がないので見たことがない」(27.9%)は3割弱、「ケーブルテレビで中継していることを知らなかったのを見たことがない」(18.6%)は2割弱となっている。(図表13-41)

前回の調査結果と比較すると、「中継に関心がないので見たことがない」は平成27年度と比べて5.1ポイント増加している。(図表13-42)

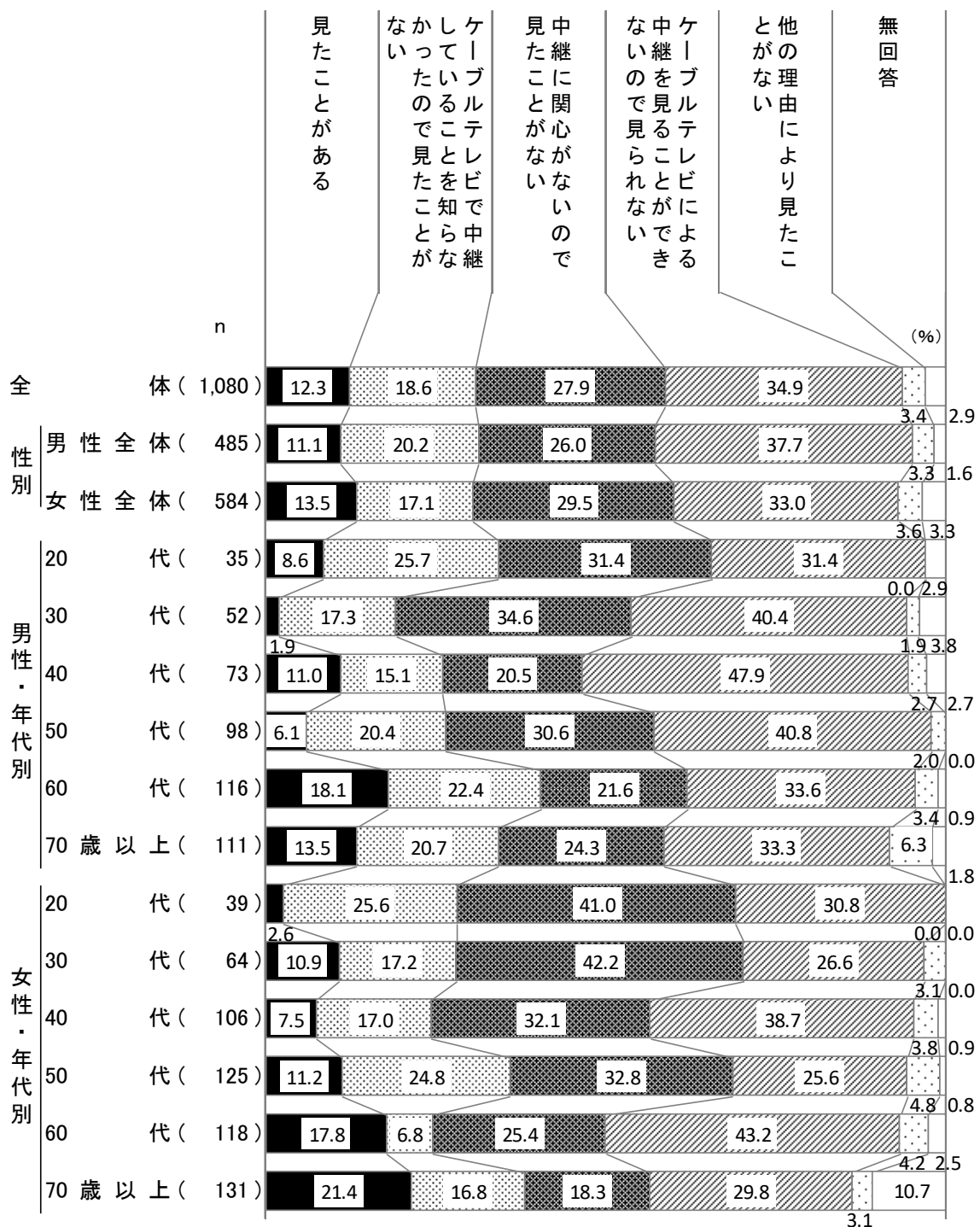
<図表13-42>福生市議会のケーブルテレビによる中継視聴状況/過年度推移



性別でみると、「ケーブルテレビによる中継を見ることができないので見られない」は男性（37.7%）が女性（33.0%）より4.7ポイント高くなっている。一方、「中継に関心がないので見たことがない」は女性（29.5%）が男性（26.0%）より3.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「見たことがある」は女性70歳以上（21.4%）で2割強と高くなっている。「ケーブルテレビによる中継を見ることができないので見られない」は男性40代（47.9%）で5割弱と高くなっている。「中継に関心がないので見たことがない」は女性20代（41.0%）と女性30代（42.2%）で4割強と高くなっている。「ケーブルテレビで中継していることを知らなかったので見たことがない」は男性20代（25.7%）と女性20代（25.6%）・女性50代（24.8%）で2割台半ばと高くなっている。（図表13-43）

＜図表13-43＞福生市議会のケーブルテレビによる中継視聴状況／性別、性・年代別



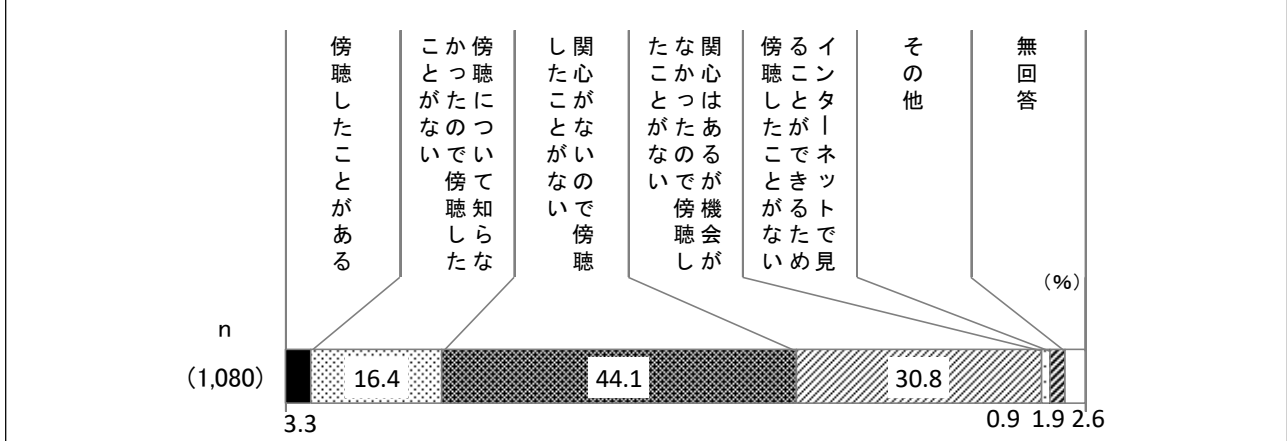
(12) 福生市議会本会議の傍聴経験

◇「傍聴したことがある」が3.3%

問48 福生市議会本会議の傍聴についてお伺いします。次の中から1つだけ選んでください。

(○は1つ)

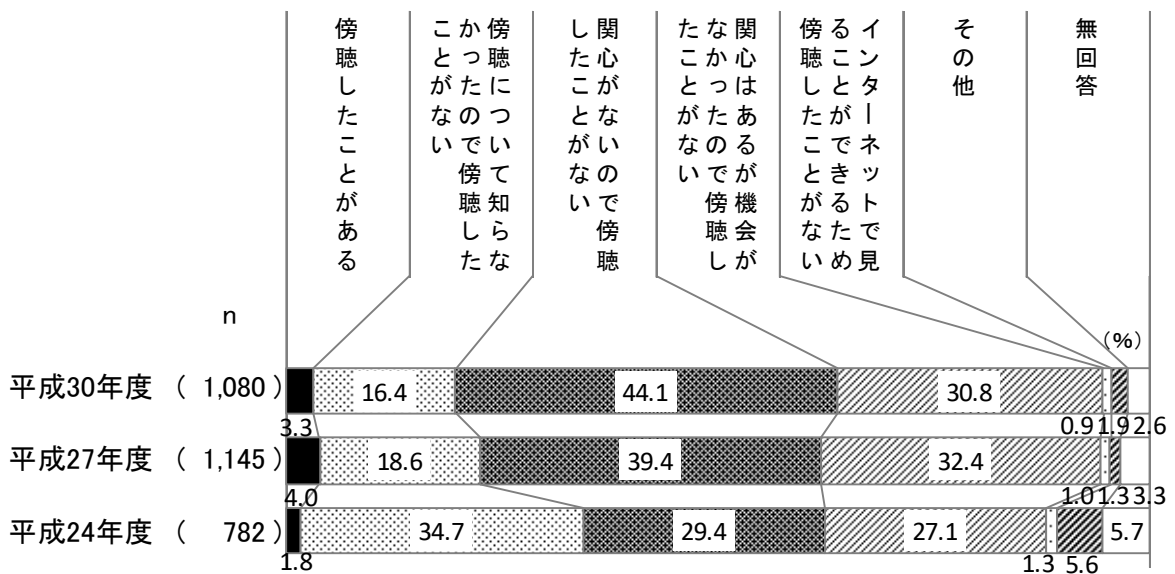
<図表13-44>福生市議会本会議の傍聴経験



福生市議会本会議の傍聴経験を聞いたところ、「傍聴したことがある」が3.3%となっている。一方、「関心がないので傍聴したことがない」(44.1%)は4割台半ば、「関心はあるが機会がなかったため傍聴したことがない」(30.8%)は約3割、「傍聴について知らなかったため傍聴したことがない」(16.4%)は2割弱となっている。(図表13-44)

前回の調査結果と比較すると、「関心がないので傍聴したことがない」は平成27年度と比べて4.7ポイント増加している。(図表13-45)

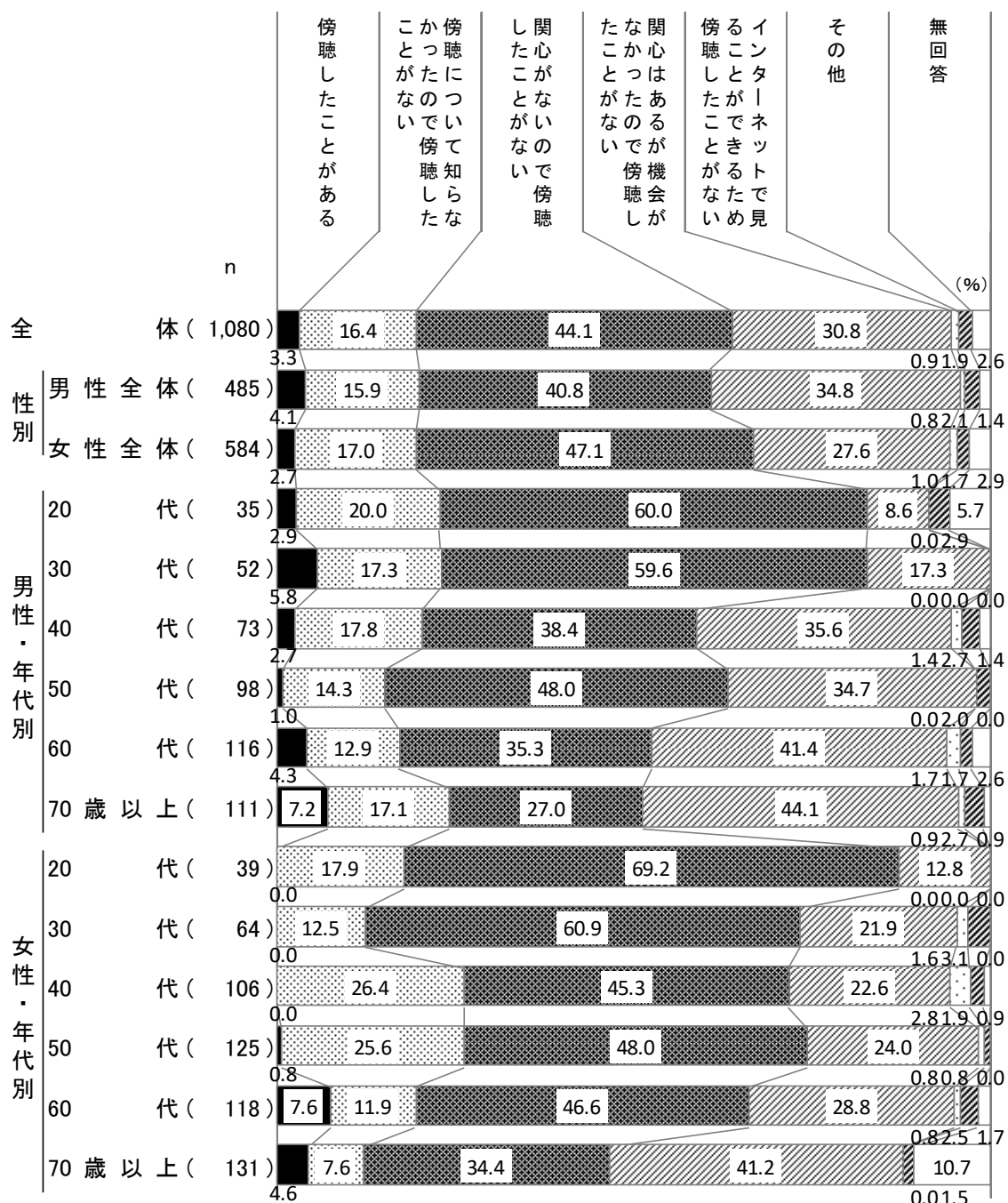
<図表13-45>福生市議会本会議の傍聴経験/過年度推移



性別でみると、「関心はあるが機会がなかったので傍聴したことがない」は男性（34.8％）が女性（27.6％）より7.2ポイント高くなっている。「関心がないので傍聴したことがない」は女性（47.1％）が男性（40.8％）より6.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「傍聴したことがある」は女性60代（7.6％）と男性70歳以上（7.2％）で1割弱となっている。「関心がないので傍聴したことがない」は女性20代（69.2％）で約7割と高くなっている。「関心はあるが機会がなかったので傍聴したことがない」は男性70歳以上（44.1％）で4割台半ばと高くなっている。「傍聴について知らなかったので傍聴したことがない」は女性40代（26.4％）で3割弱と高くなっている。（図表13-46）

<図表13-46>福生市議会本会議の傍聴経験／性別、性・年代別



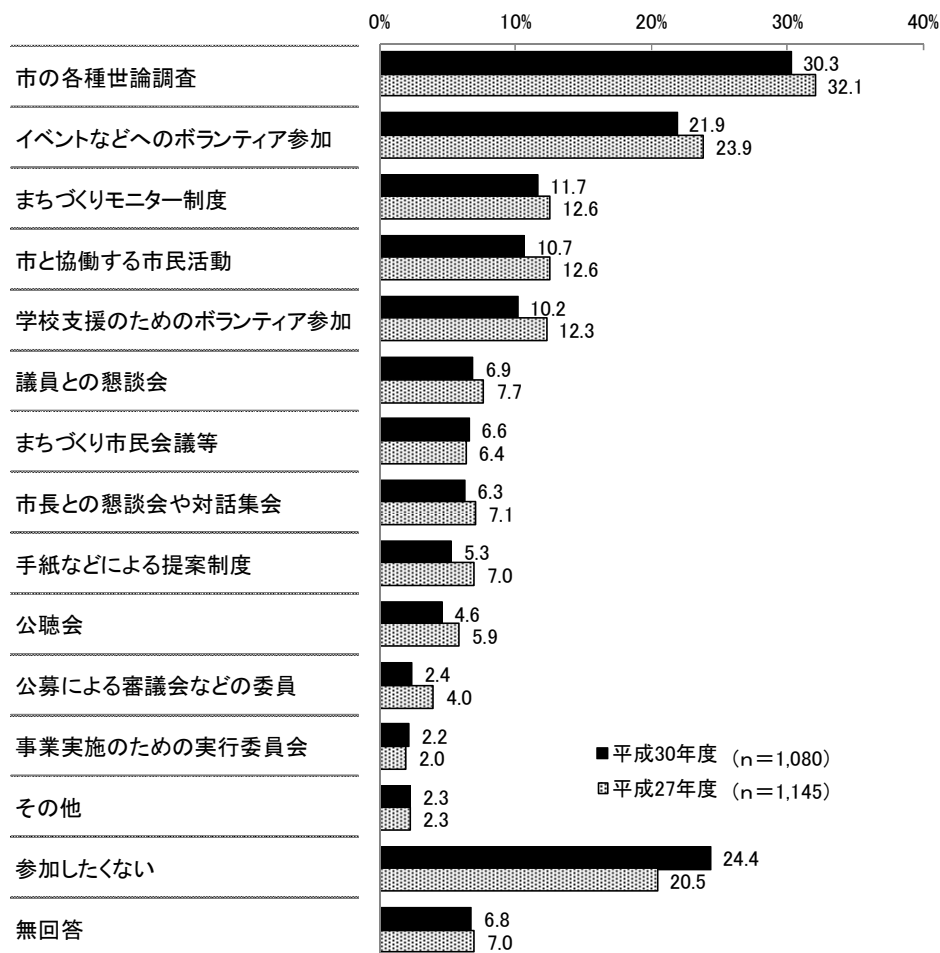
## 14. 市民と市政

### (1) 市政への市民参加

◇「市の各種世論調査」が約3割

問49 「市政への市民参加」ということが言われていますが、あなたはどのような方法で市政に参加したいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(○は3つまで)

<図表14-1> 市政への市民参加



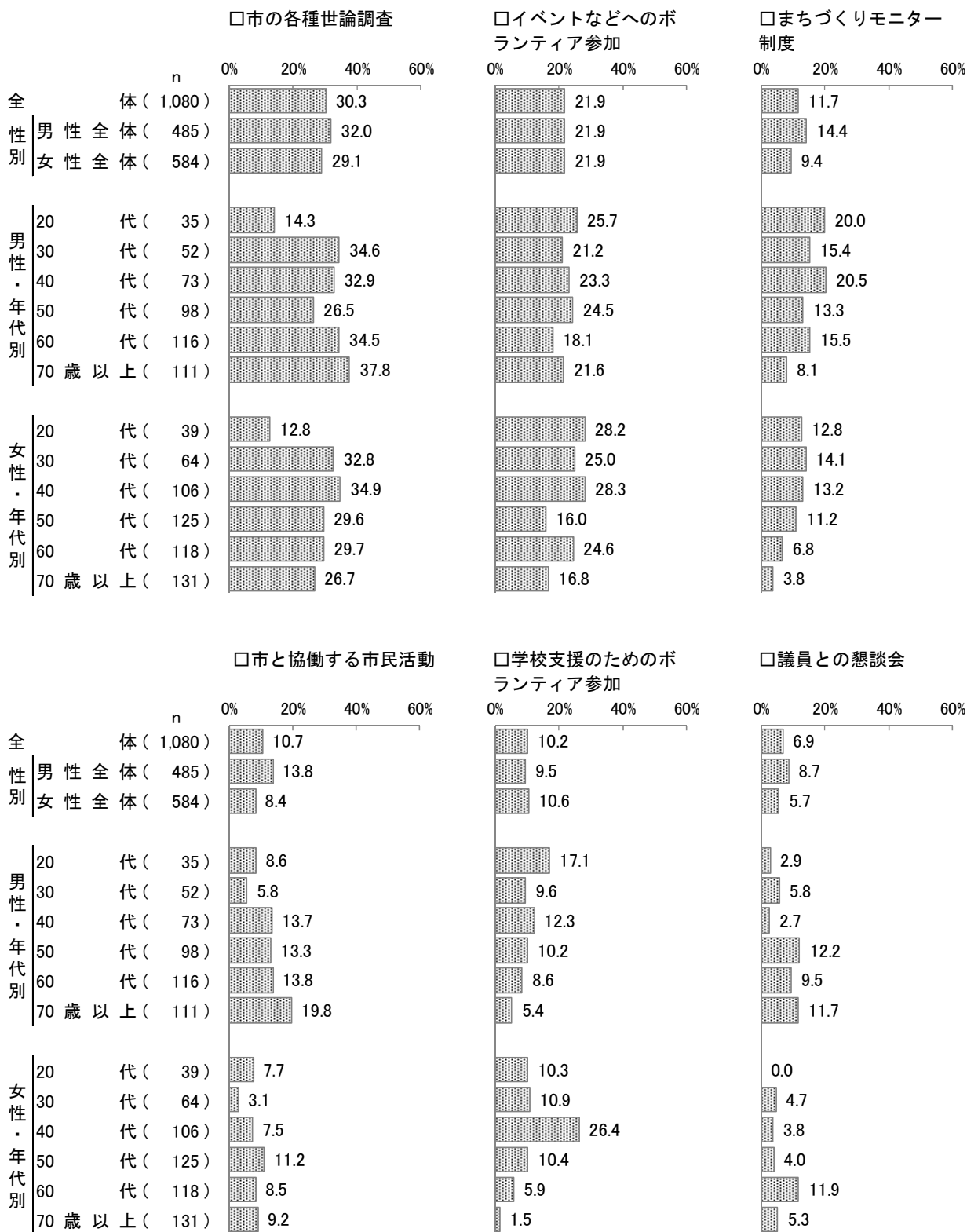
どのような方法で市政に参加したいと思うか聞いたところ、参加したいと思う中では、「市の各種世論調査」(30.3%)が約3割で最も高く、次いで「イベントなどへのボランティア参加」(21.9%)、「まちづくりモニター制度」(11.7%)、「市と協働する市民活動」(10.7%)、「学校支援のためのボランティア参加」(10.2%)となっている。(図表14-1)

前回の調査結果と比較すると、「参加したくない」は3.9ポイント増加している。(図表14-1)

上位6項目について性別でみると、「市と協働する市民活動」は男性（13.8%）が女性（8.4%）より5.4ポイント高くなっている。

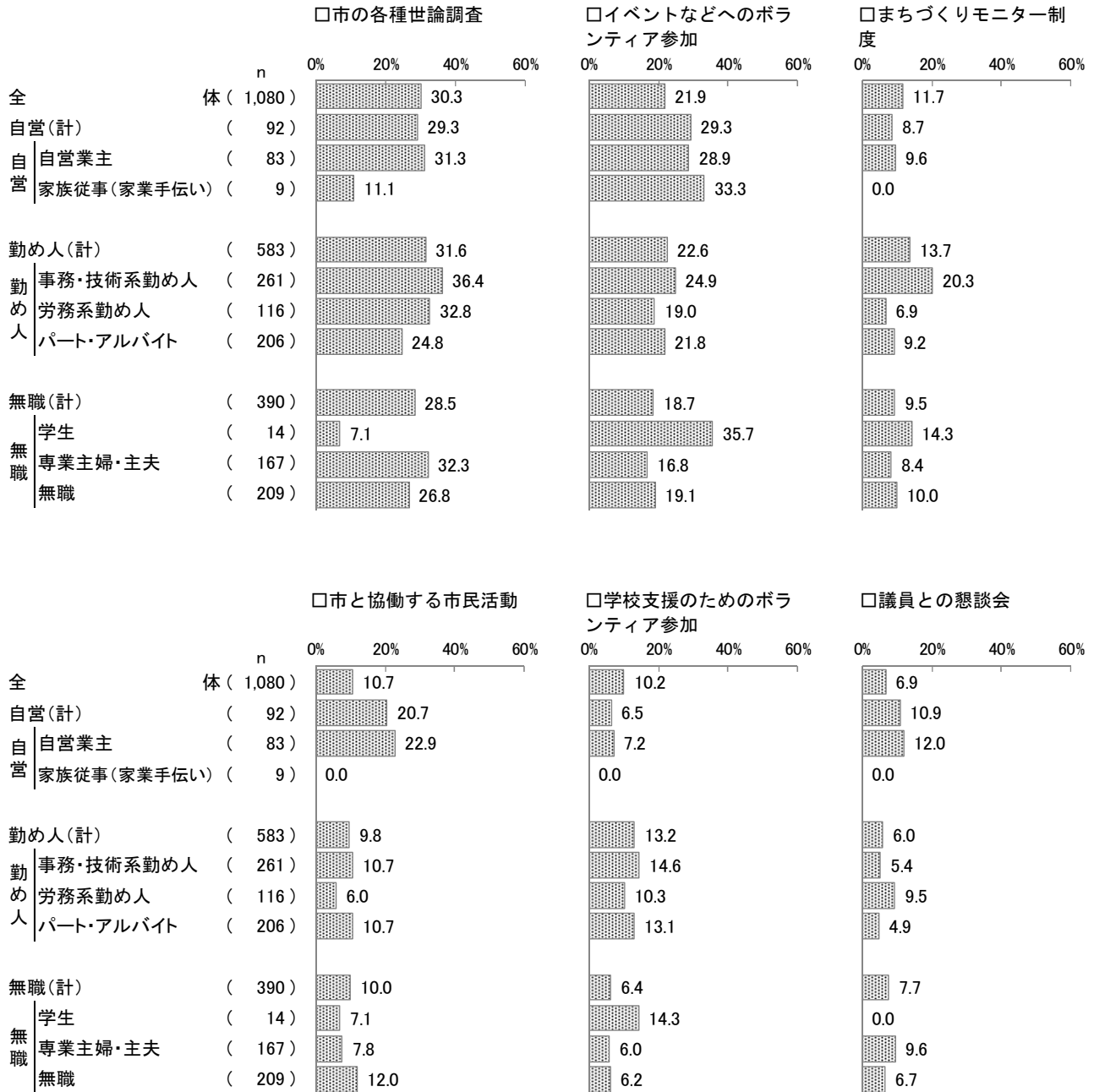
性・年代別でみると、「市の各種世論調査」は男性70歳以上（37.8%）で4割弱と高くなっている。「イベントなどへのボランティア参加」は女性40代（28.3%）と女性20代（28.2%）で3割弱と高くなっている。「学校支援のためのボランティア参加」は女性40代（26.4%）で3割弱と高くなっている。（図表14-2）

＜図表14-2＞市政への市民参加／性別、性・年代別（上位6項目）



上位6項目について職業別でみると、「市の各種世論調査」は事務・技術系勤め人（36.4%）で4割弱と高くなっている。「まちづくりモニター制度」は事務・技術系勤め人（20.3%）で約2割と高くなっている。（図表14-3）

＜図表14-3＞市政への市民参加／職業別（上位6項目）

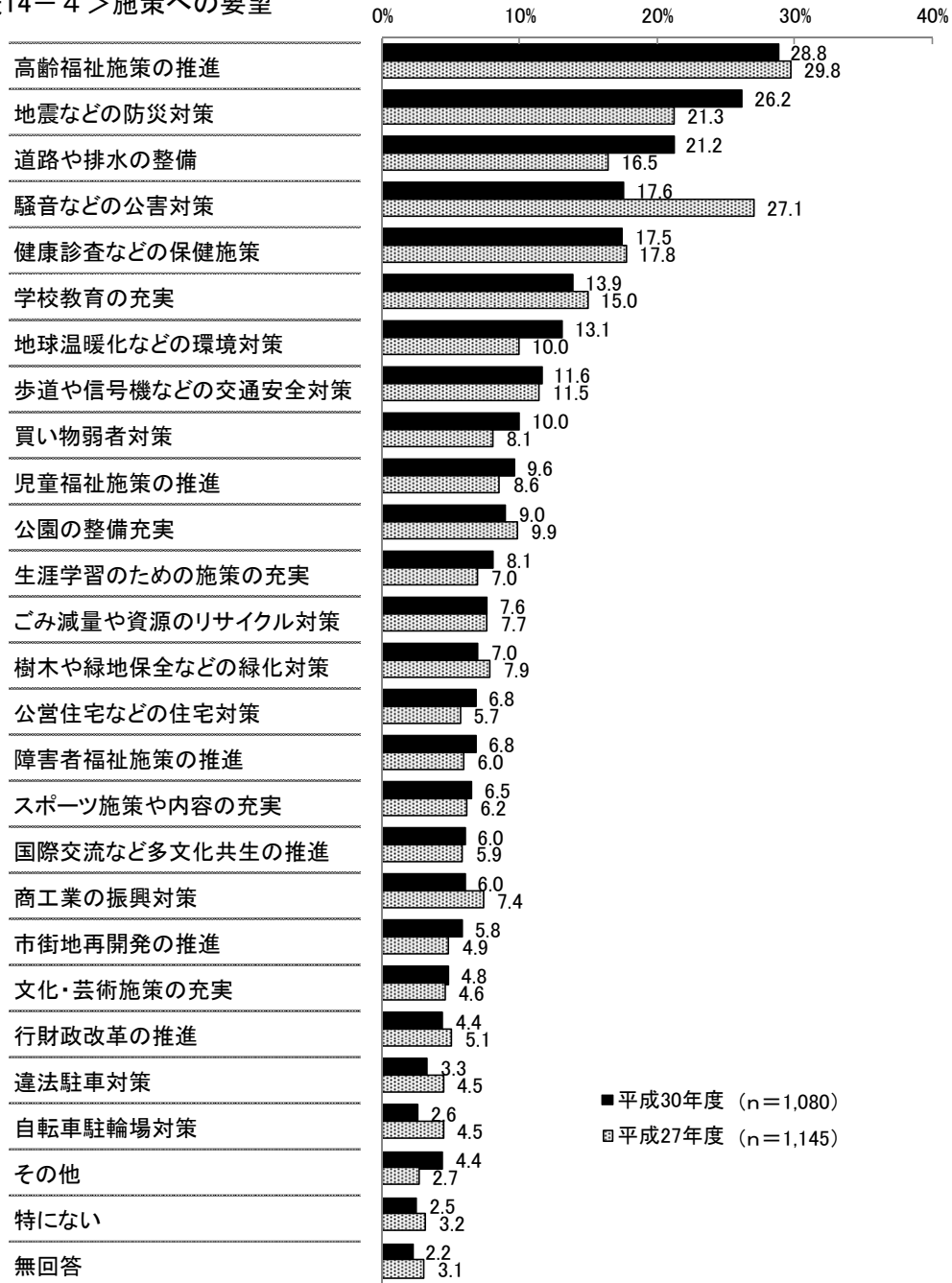


## (2) 施策への要望

◇「高齢福祉施策の推進」が3割弱

問50 これからの市政に対して、あなたが特に力を入れて欲しいことがありましたら、次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)

＜図表14-4＞施策への要望



施策への要望を聞いたところ、「高齢福祉施策の推進」(28.8%)が3割弱で最も高く、次いで「地震などの防災対策」(26.2%)、「道路や排水の整備」(21.2%)、「騒音などの公害対策」(17.6%)、「健康診査などの保健施策」(17.5%)となっている。(図表14-4)

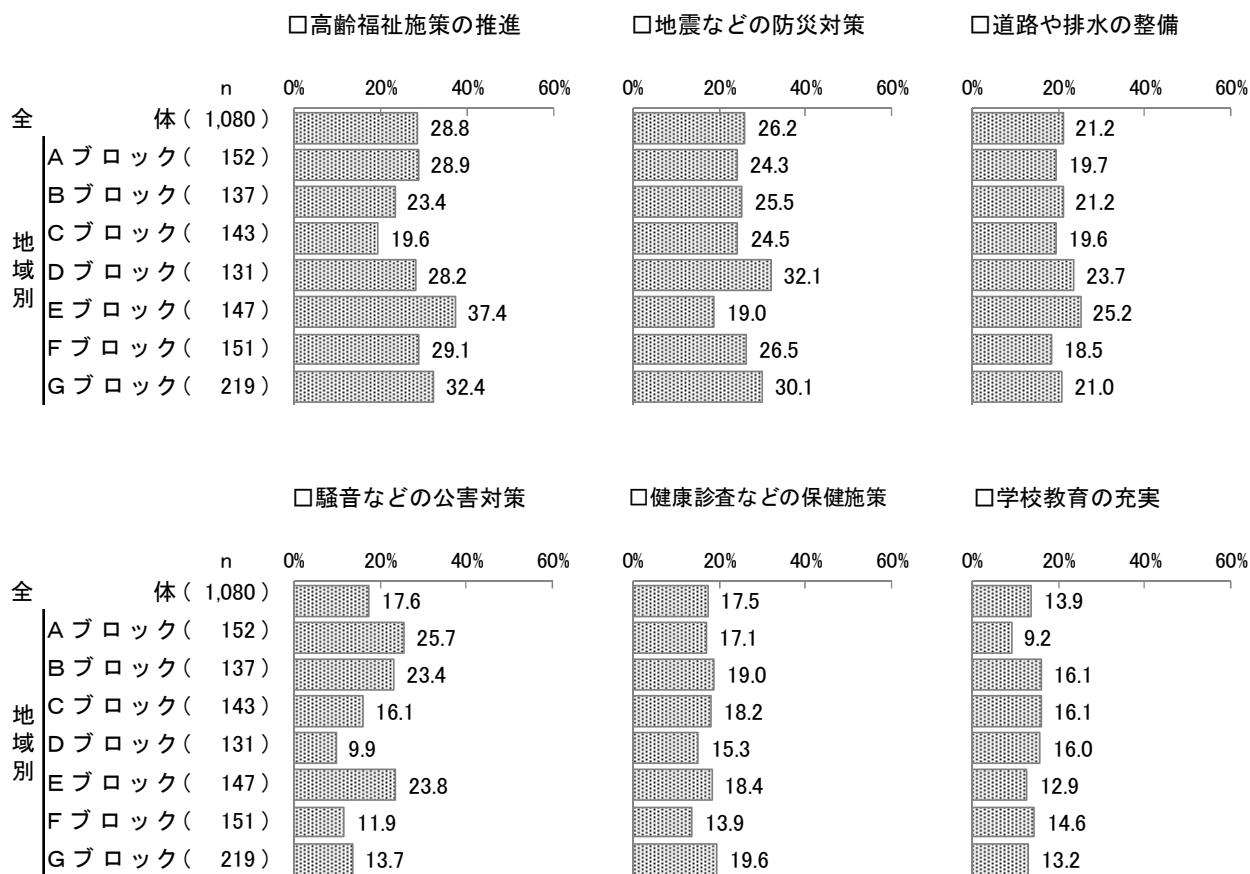
前回の調査結果と比較すると、「地震などの防災対策」は4.9ポイント増加し、「道路や排水の整備」は4.7ポイント増加している。一方、「騒音などの公害対策」は9.5ポイント減少している。

(図表14-4)



上位6項目について地域別でみると、「高齢福祉施策の推進」はEブロック（37.4%）で4割弱と高くなっている。「地震などの防災対策」はDブロック（32.1%）で3割強と高くなっている。「道路や排水の整備」はEブロック（25.2%）で2割台半ばと高くなっている。（図表14－5）

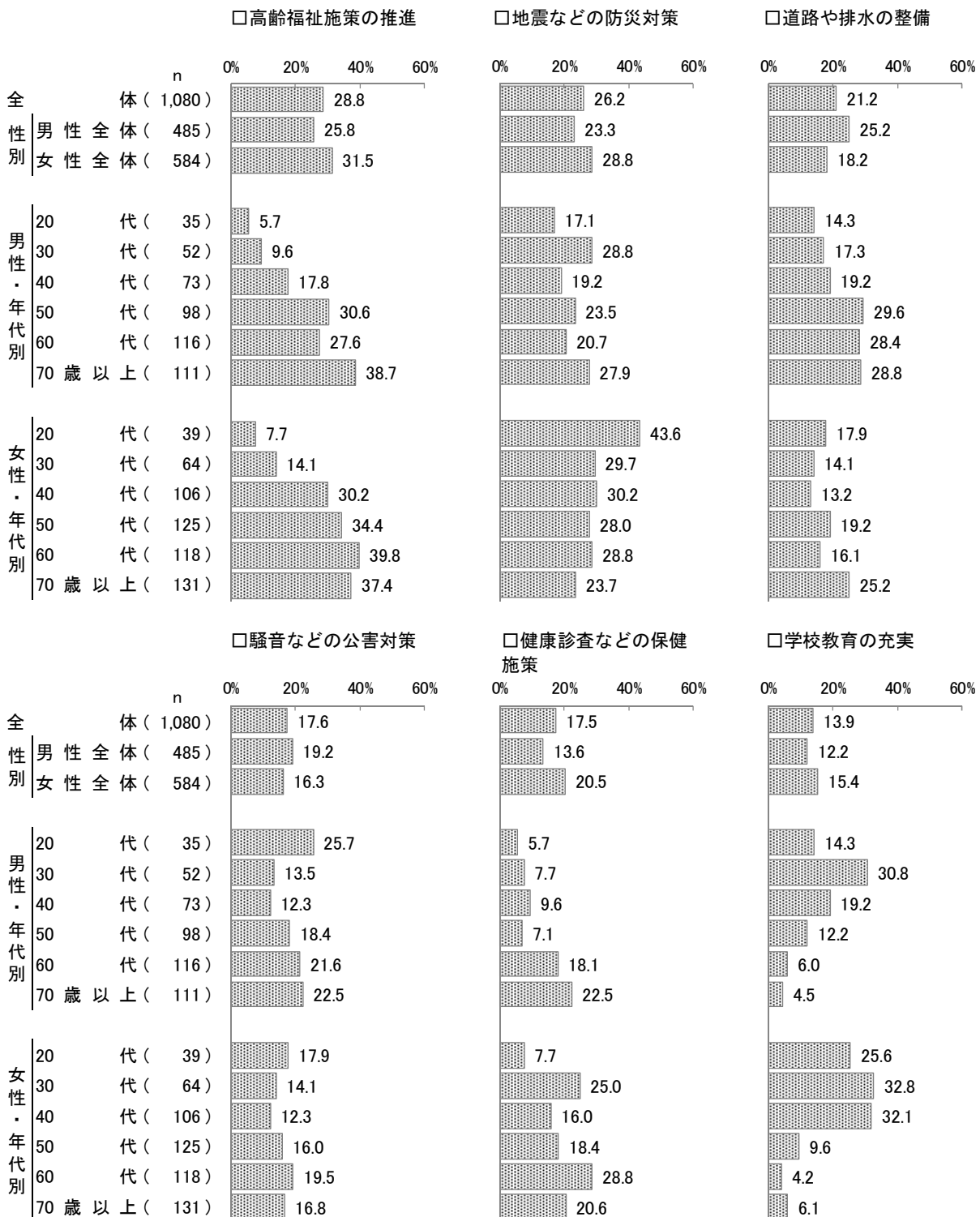
＜図表14－5＞施策への要望／地域別（上位6項目）



上位6項目について性別でみると、「道路や排水の整備」は男性（25.2%）が女性（18.2%）より7.0ポイント高くなっている。「健康診査などの保健施策」は女性（20.5%）が男性（13.6%）より6.9ポイント高くなっている。

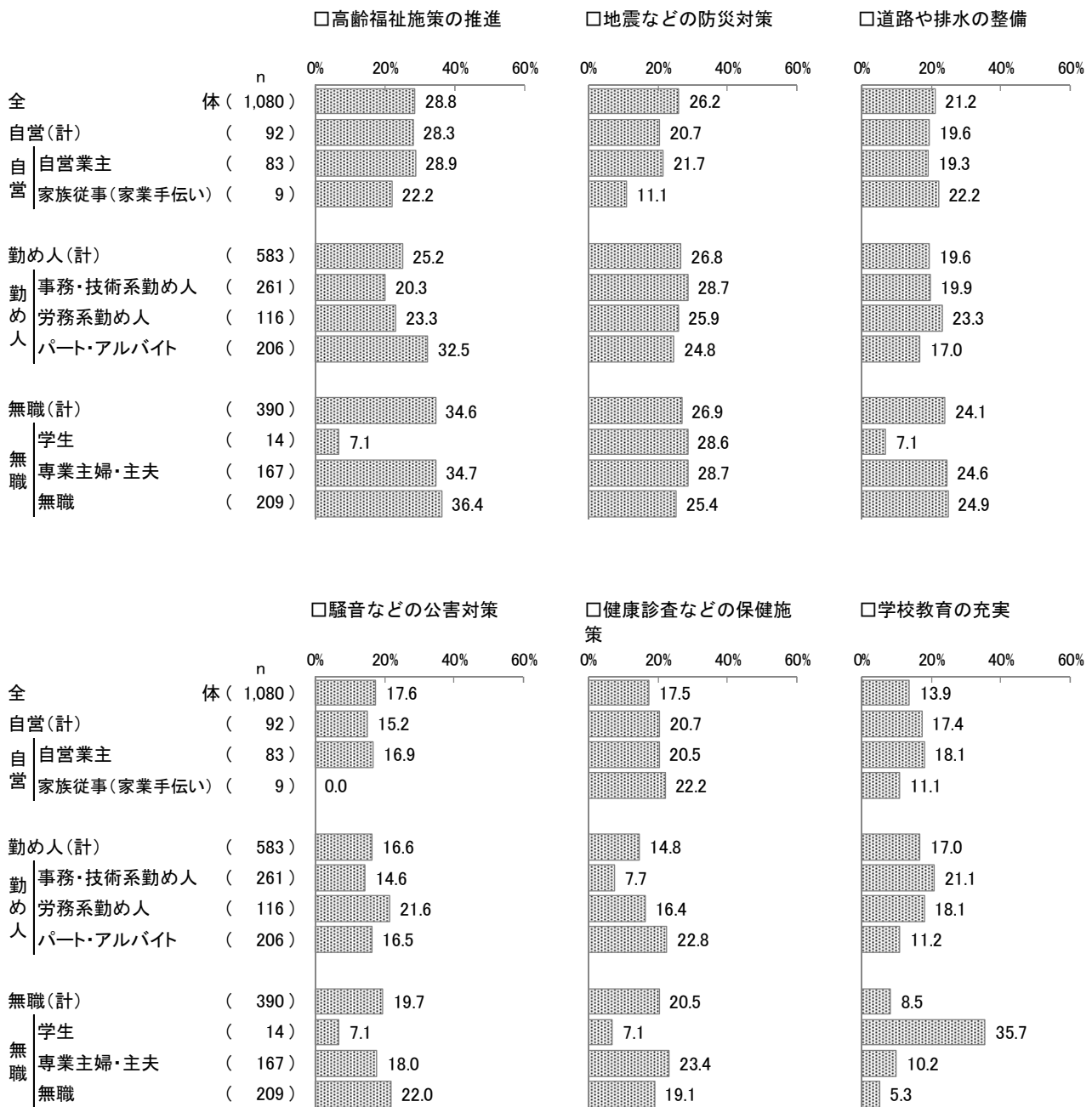
性・年代別でみると、「高齢福祉施策の推進」は男性70歳以上（38.7%）で4割弱、女性60代（39.8%）で約4割と高くなっている。「地震などの防災対策」は女性20代（43.6%）で4割強と高くなっている。「道路や排水の整備」は男性50代（29.6%）で約3割、男性60代（28.4%）、男性70歳以上（28.8%）で3割弱と高くなっている。「学校教育の充実」は女性30代（32.8%）と女性40代（32.1%）で3割強と高くなっている。（図表14-6）

<図表14-6> 施策への要望／性別、性・年代別（上位6項目）



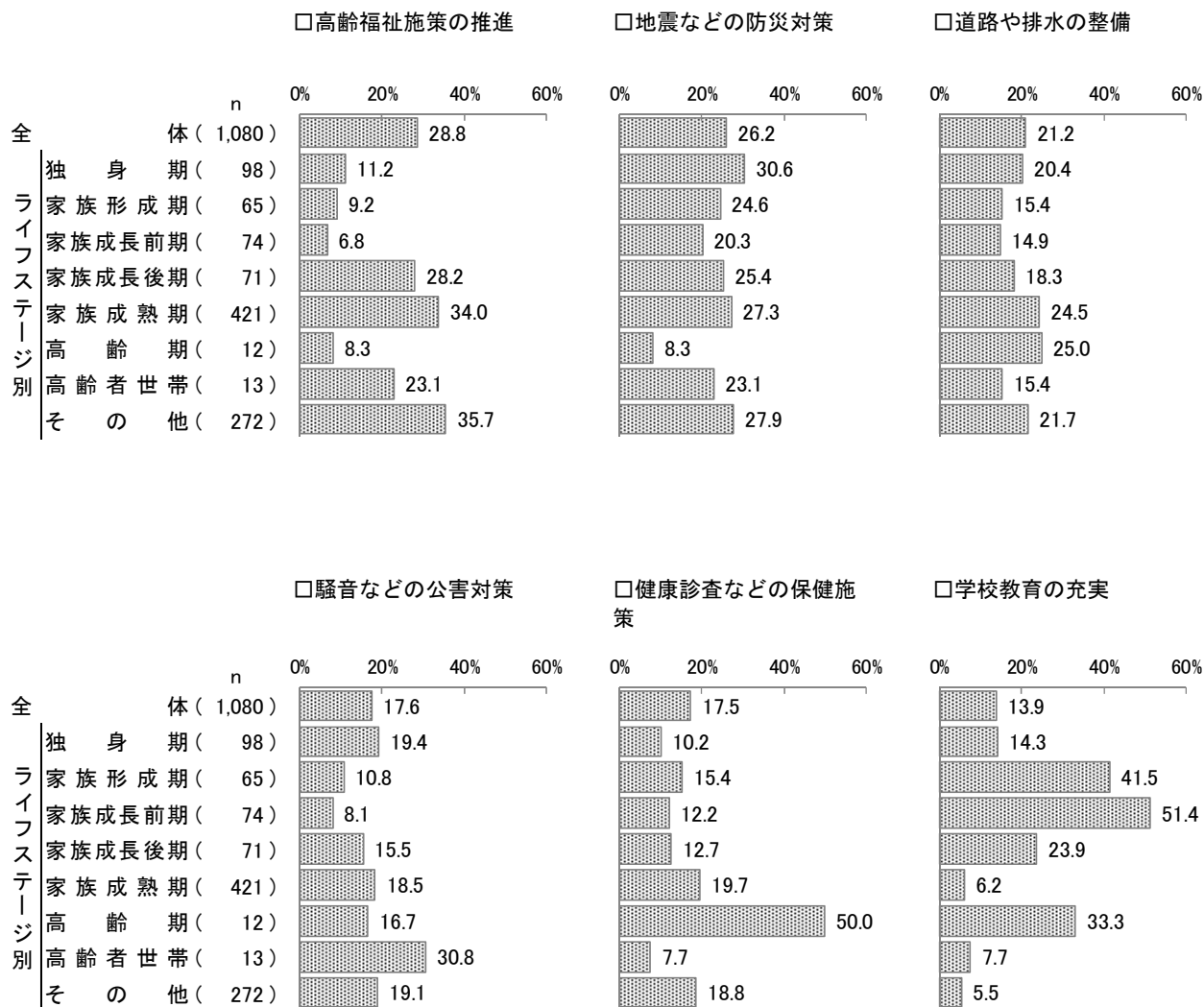
上位6項目について職業別でみると、「高齢福祉施策の推進」は無職（36.4%）で4割弱と高くなっている。（図表14-7）

＜図表14-7＞施策への要望／職業別（上位6項目）



上位6項目についてライフステージ別でみると、「高齢福祉施策の推進」はその他（35.7%）で3割台半ば、家族成熟期（34.0%）で3割強と高くなっている。「学校教育の充実」は家族成長前期（51.4%）で5割強と高くなっている。（図表14-8）

＜図表14-8＞施策への要望／ライフステージ別（上位6項目）



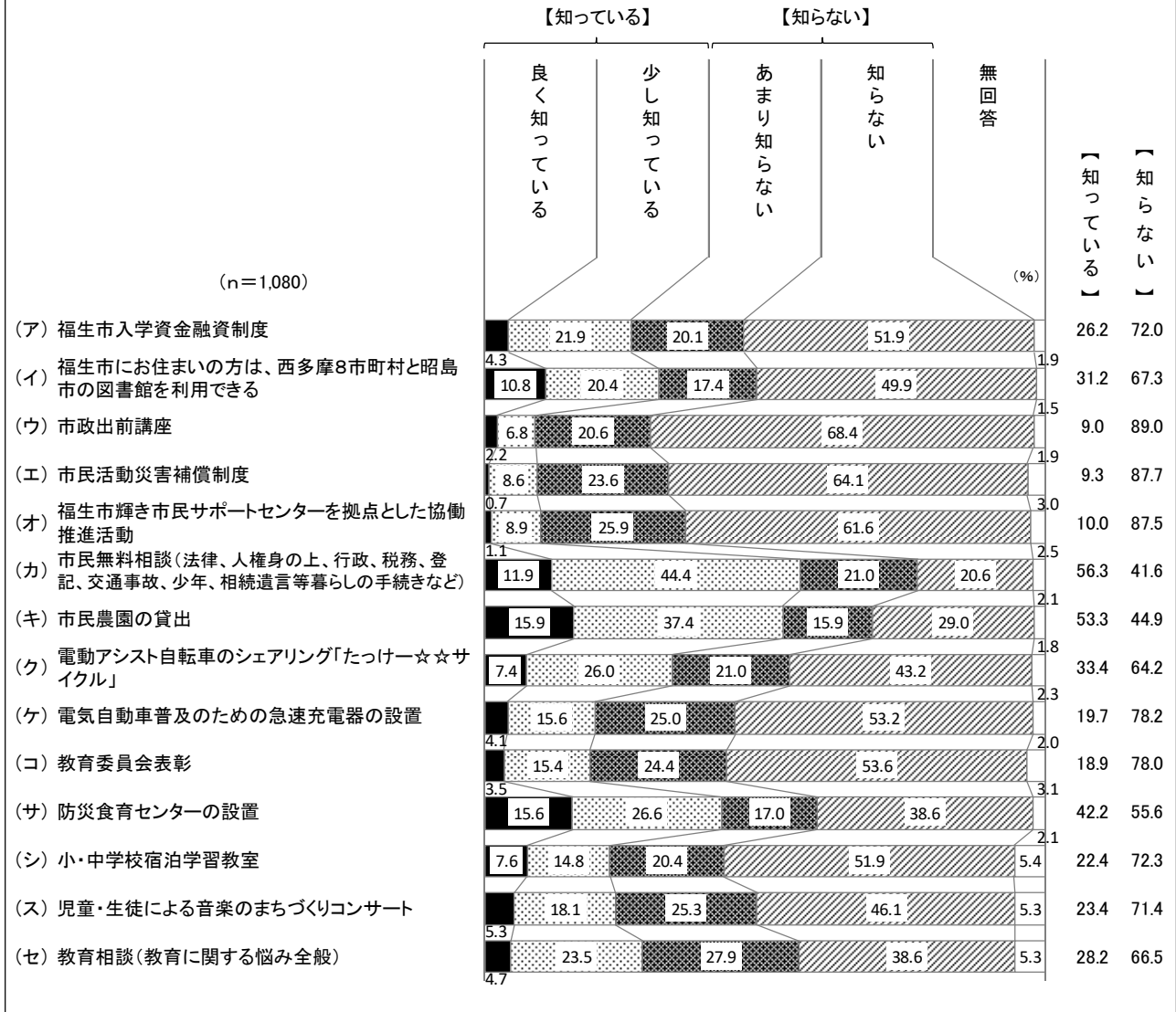
(3) 施策の認知状況

◇【知っている】は「市民無料相談」が6割弱

問51 あなたは次の市の施策についてご存知ですか。下の表の(ア)から(セ)の項目について、それぞれ1つずつ番号を選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

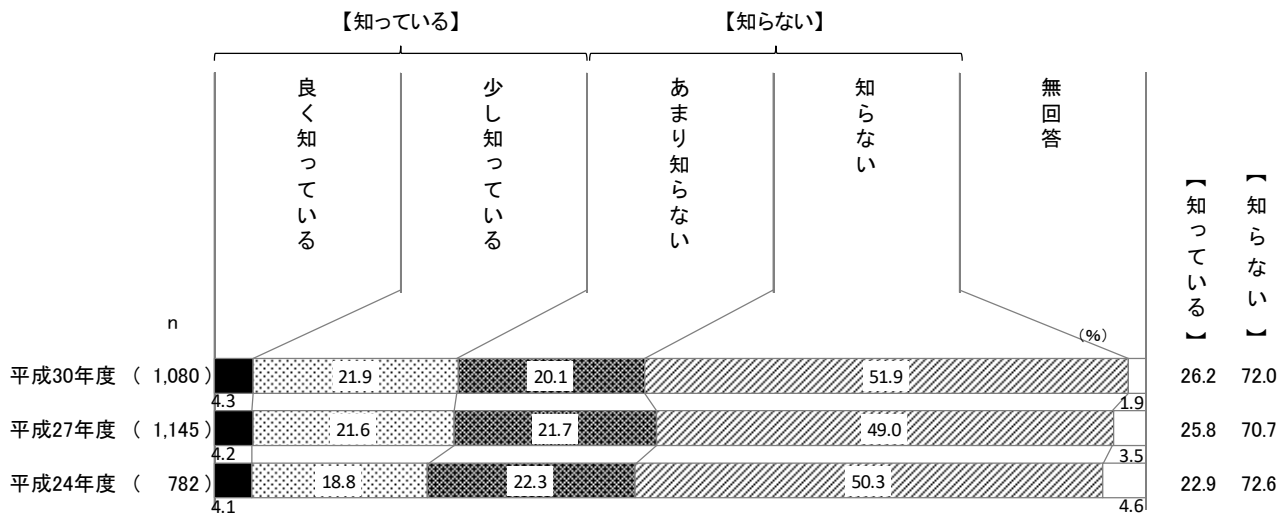
<図表14-9> 施策の認知状況



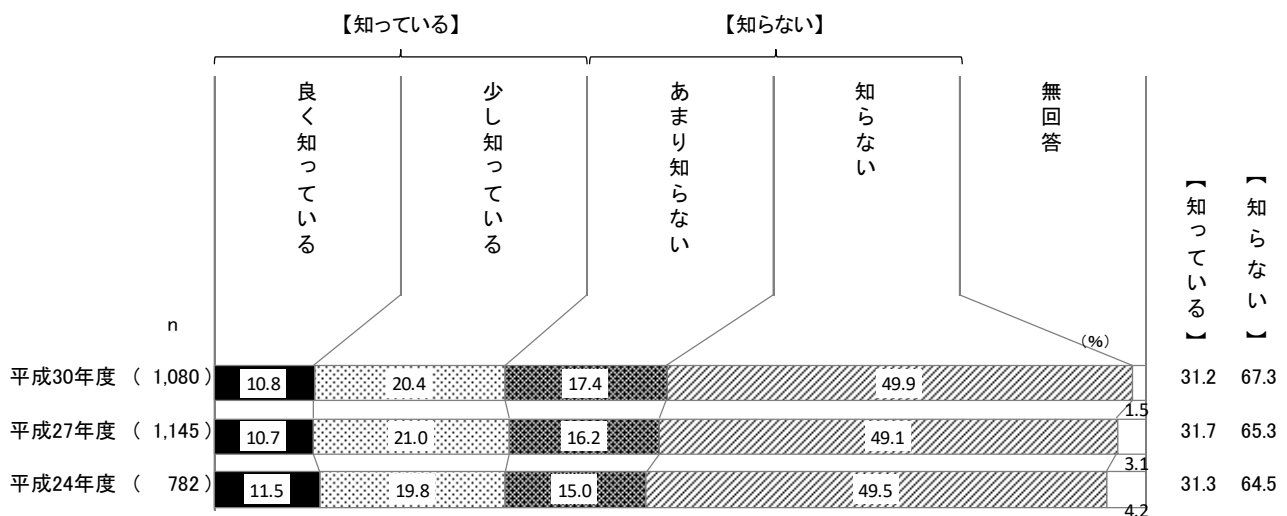
市の施策の認知状況を14項目に分けて聞いたところ、「良く知っている」と「少し知っている」の2つを合わせた【知っている】は、(カ)市民無料相談(法律、人権身の上、行政、税務、登記、交通事故、少年、相続遺言等暮らしの手続きなど)(56.3%)が6割弱で最も高く、次いで(キ)市民農園の貸出(53.3%)、(サ)防災食育センターの設置(42.2%)、(ク)電動アシスト自転車のシェアリング「たっけー☆☆サイクル」(33.4%)、(イ)福生市にお住まいの方は、西多摩8市町村と昭島市の図書館を利用できる(31.2%)となっている。(図表14-9)

(ア)～(ク)の8項目について前回の調査結果と比較すると、【知っている】は(オ)福生市輝き市民サポートセンターを拠点とした協働推進活動出で8.5ポイント減少し、(ク)電動アシスト自転車のシェアリング「たっけー☆☆サイクル」で4.3ポイント減少している。(図表14-10～14-17)

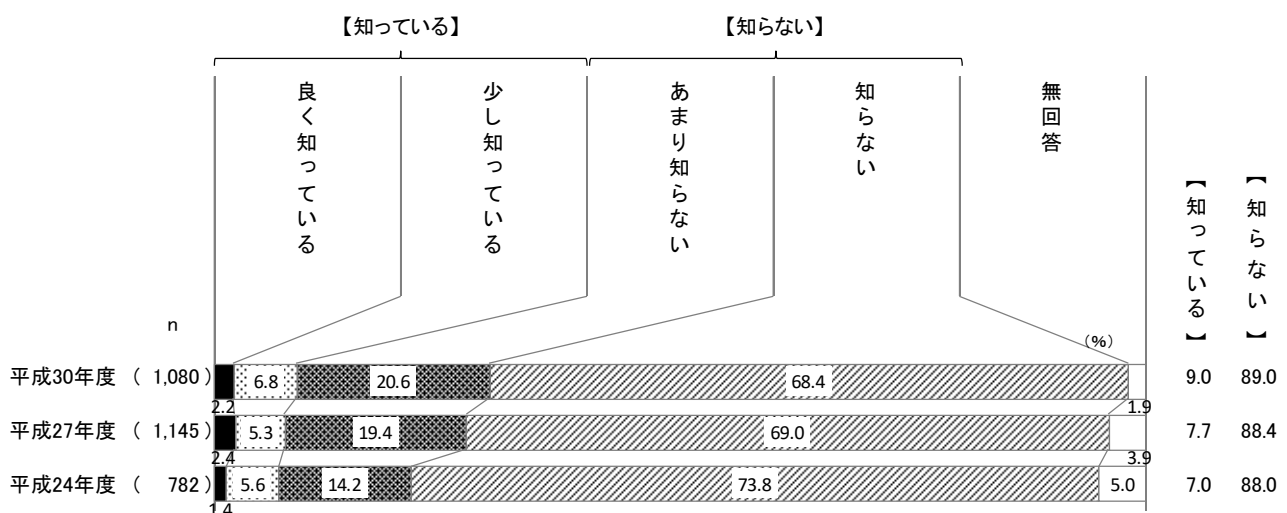
<図表14-10>施策の認知状況(ア)福生市入学資金融資制度/過年度推移



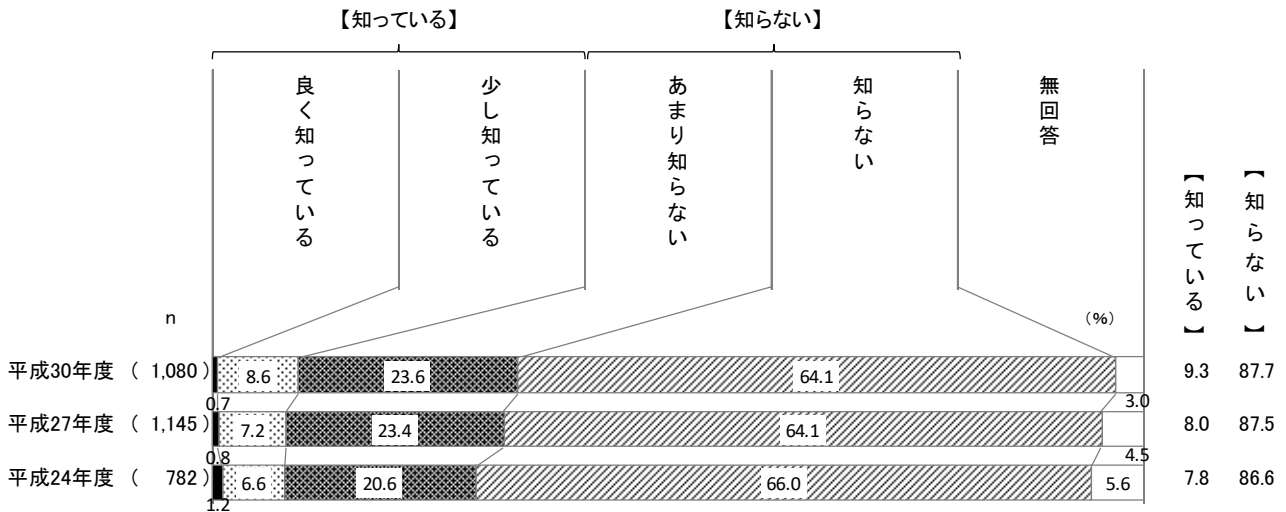
<図表14-11>施策の認知状況(イ)福生市にお住まいの方は、西多摩8市町村と昭島市の図書館を利用できる/過年度推移



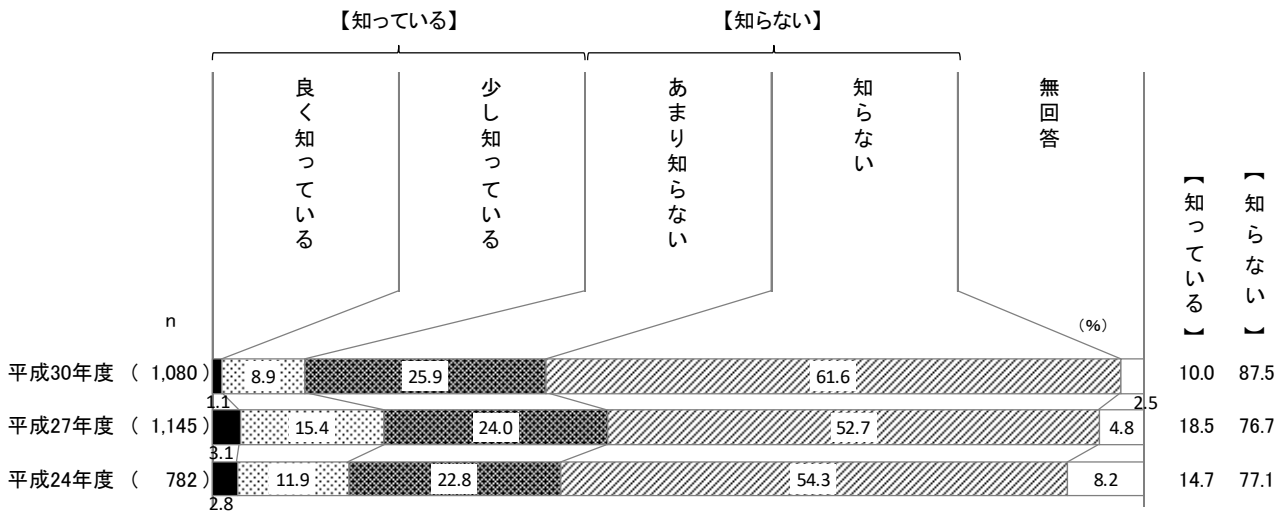
<図表14-12>施策の認知状況(ウ)市政出前講座/過年度推移



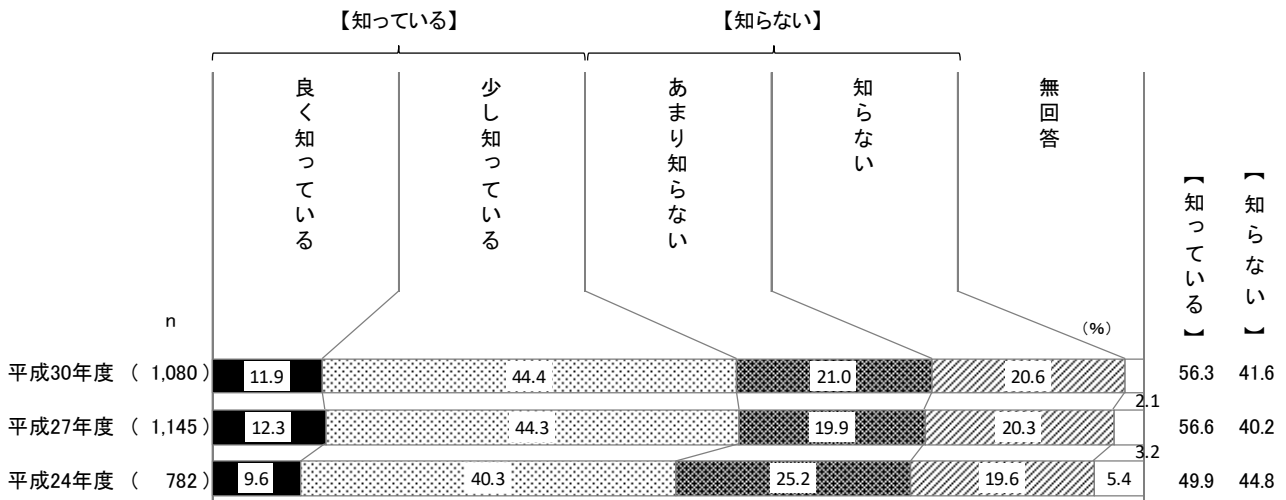
＜図表14-13＞施策の認知状況（エ）市民活動災害補償制度／過年度推移



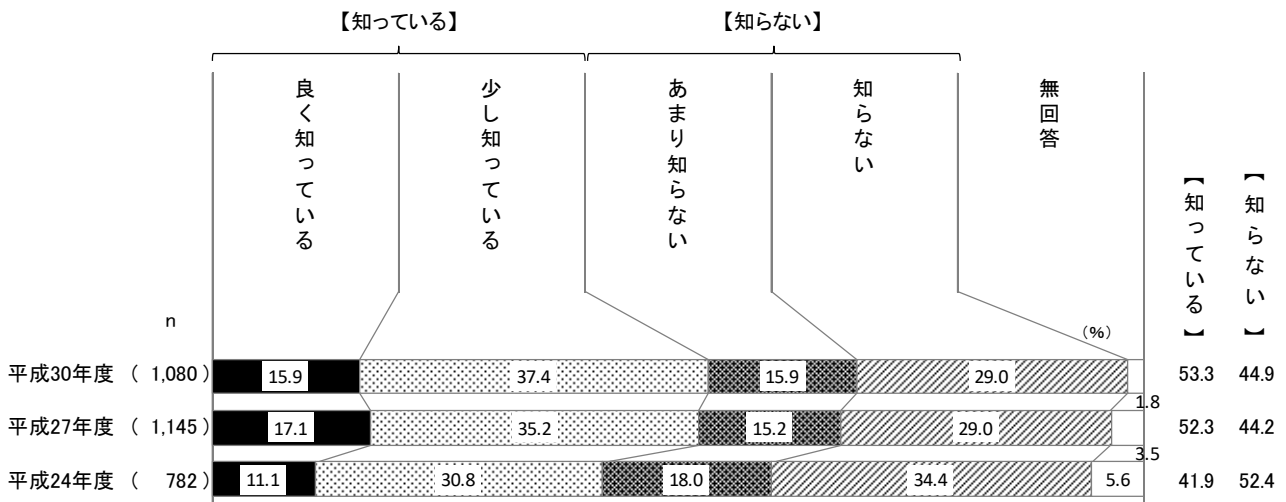
＜図表14-14＞施策の認知状況（オ）福生市輝き市民サポートセンター／過年度推移



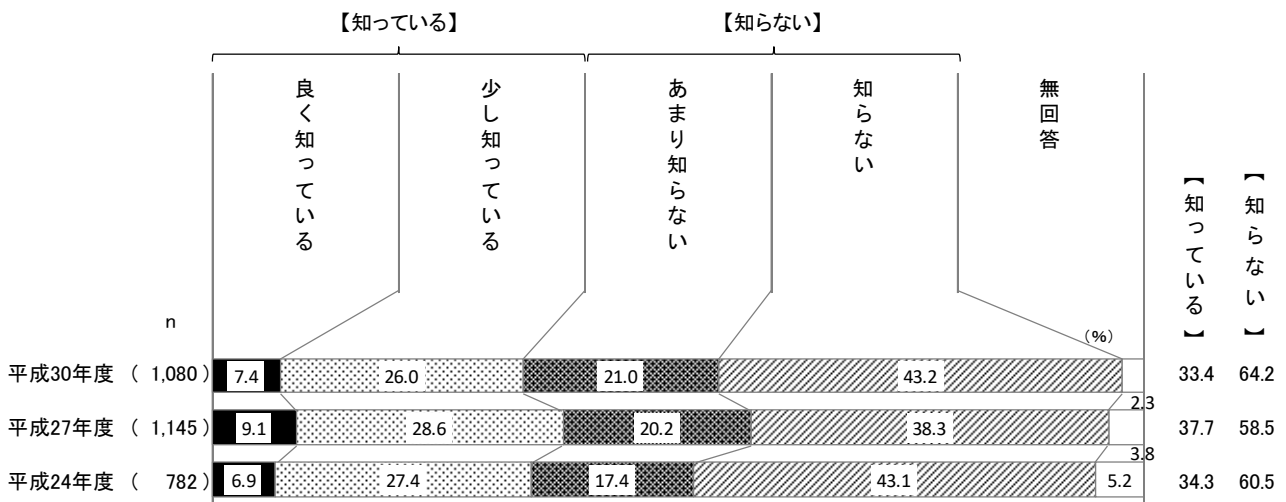
＜図表14-15＞施策の認知状況（カ）市民無料相談／過年度推移



<図表14-16> 施策の認知状況（キ） 市民農園の貸出／過年度推移



<図表14-17> 施策の認知状況（ク） 電動アシスト自転車のシェアリング「たっけー☆☆サイクル」／過年度推移



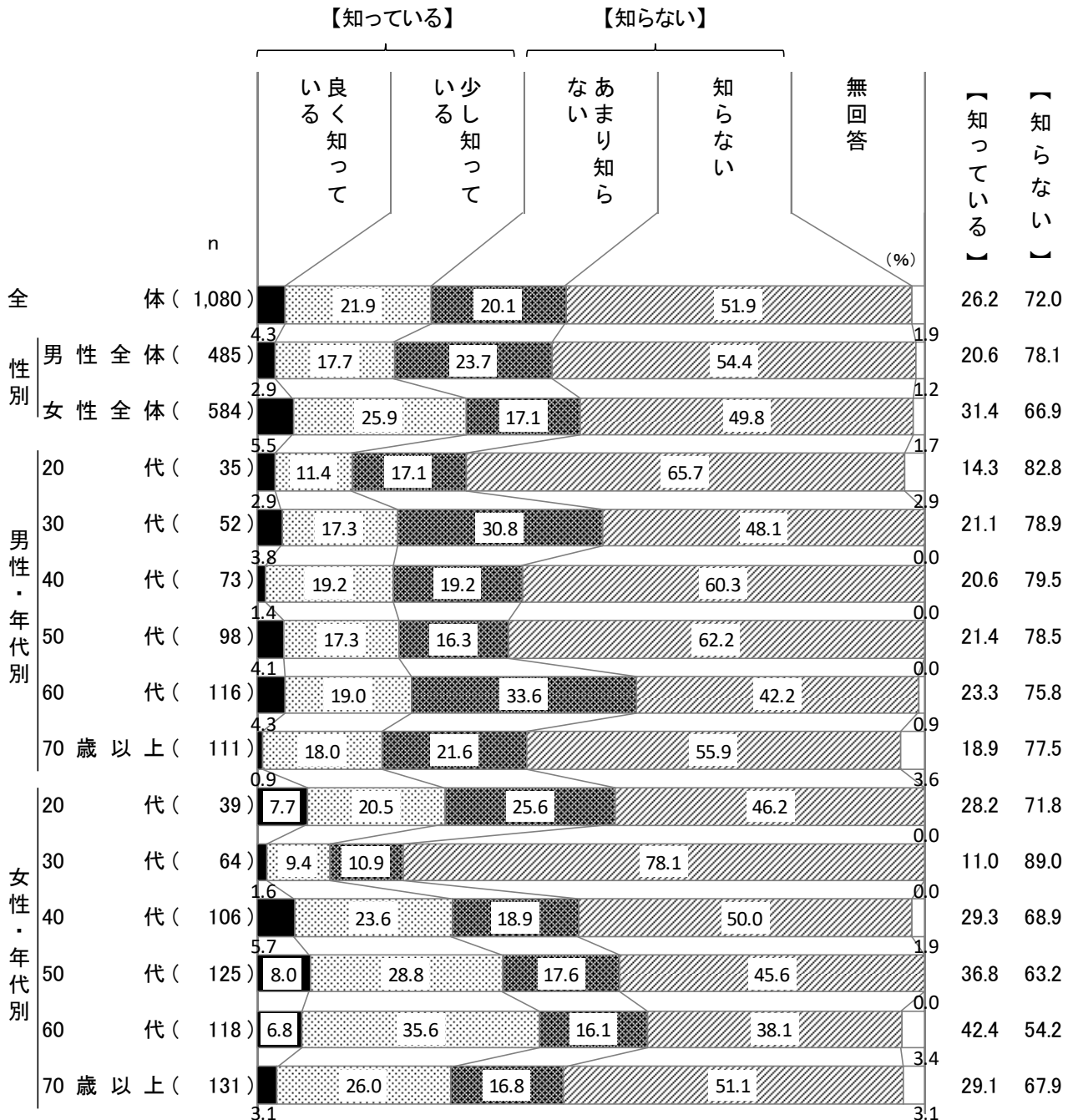
(注) 平成24年度調査の結果は、「電気自動車・電動アシスト自転車のシェアリング」の認知状況について質問した結果を示す。



(ア) 福生市入学資金融資制度について性別で見ると、【知っている】は女性（31.4%）が男性（20.6%）より10.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は女性60代（42.4%）で4割強、女性50代（36.8%）で4割弱と高くなっている。一方、【知らない】は女性30代（89.0%）で約9割、男性20代（82.8%）で8割強と高くなっている。（図表14-18）

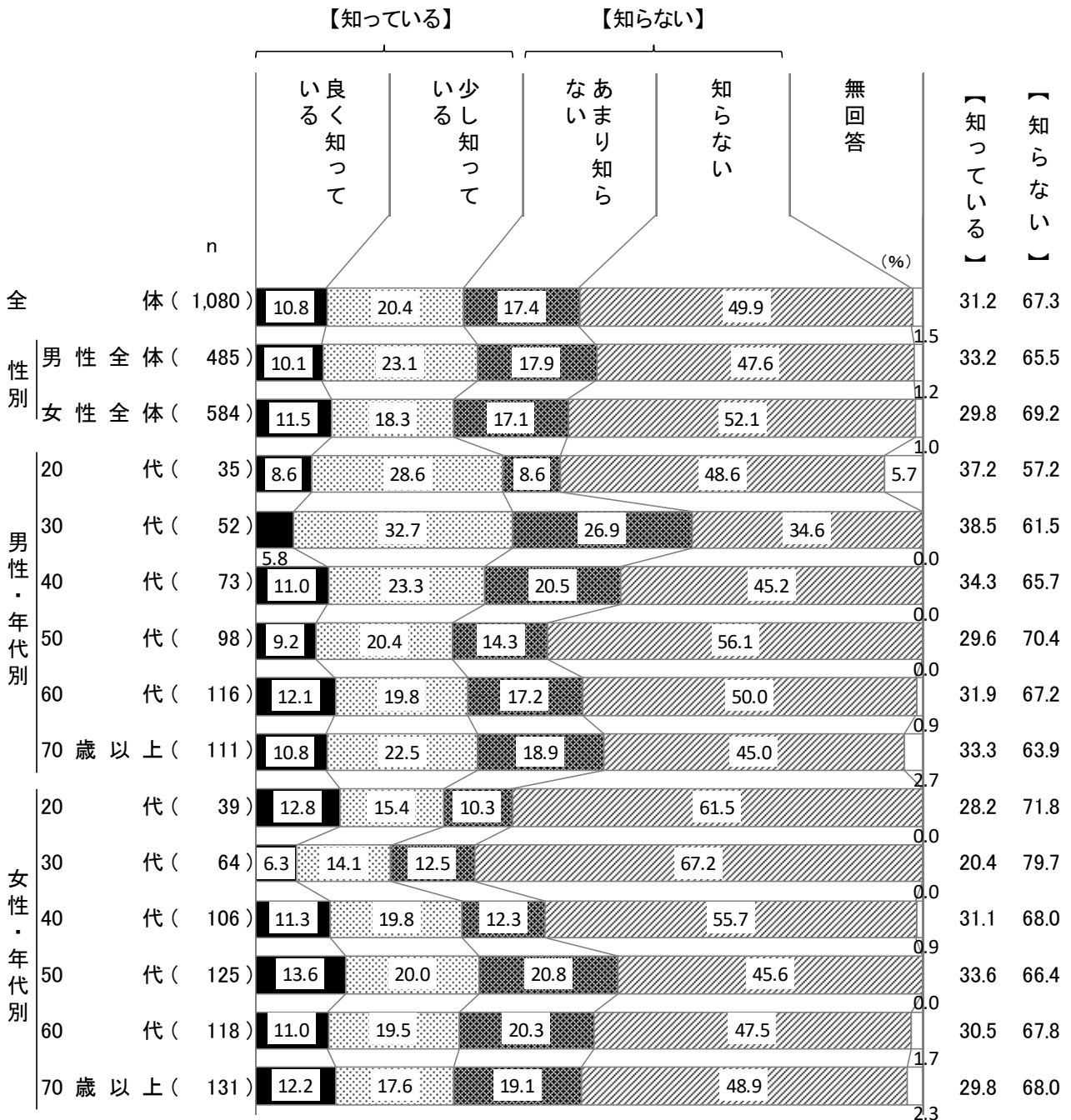
<図表14-18> 施策の認知状況（ア）福生市入学資金融資制度／性別、性・年代別



(イ) 福生市にお住まいの方は、西多摩8市町村と昭島市の図書館を利用できるについて性別でみると、【知っている】は男性（33.2%）が女性（29.8%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は男性20代（37.2%）と男性30代（38.5%）で4割弱と高くなっている。一方、【知らない】は女性30代（79.7%）で約8割、女性20代（71.8%）で7割強と高くなっている。（図表14-19）

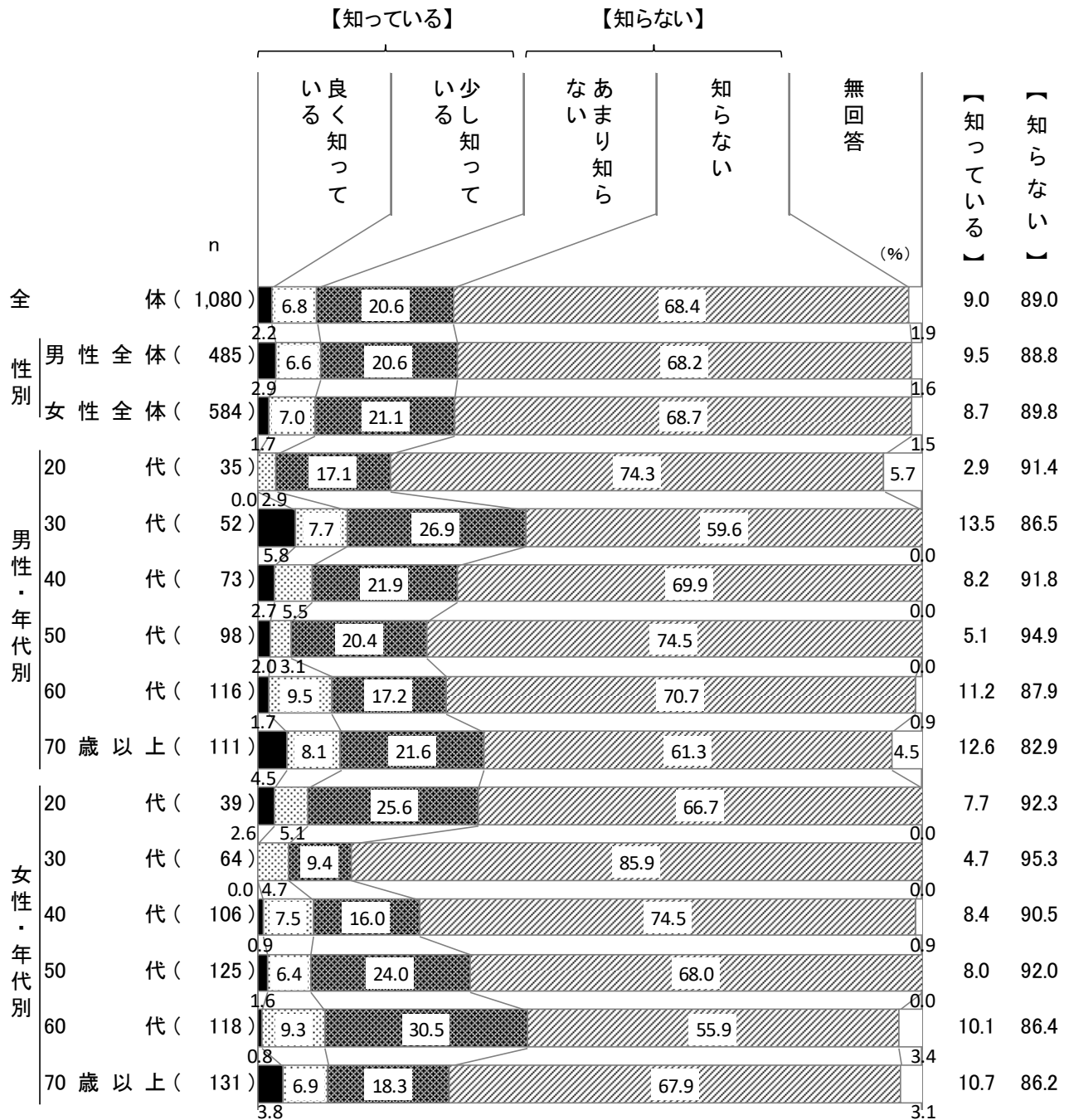
<図表14-19> 施策の認知状況（イ）福生市にお住まいの方は、西多摩8市町村と昭島市の図書館を利用できる／性別、性・年代別



(ウ) 市政出前講座について性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年代別でみると、【知っている】は男性30代（13.5%）と男性70歳以上（12.6%）で1割強となっている。一方、【知らない】は女性30代（95.3%）、男性50代（94.9%）で9割台半ばと高くなっている。（図表14-20）

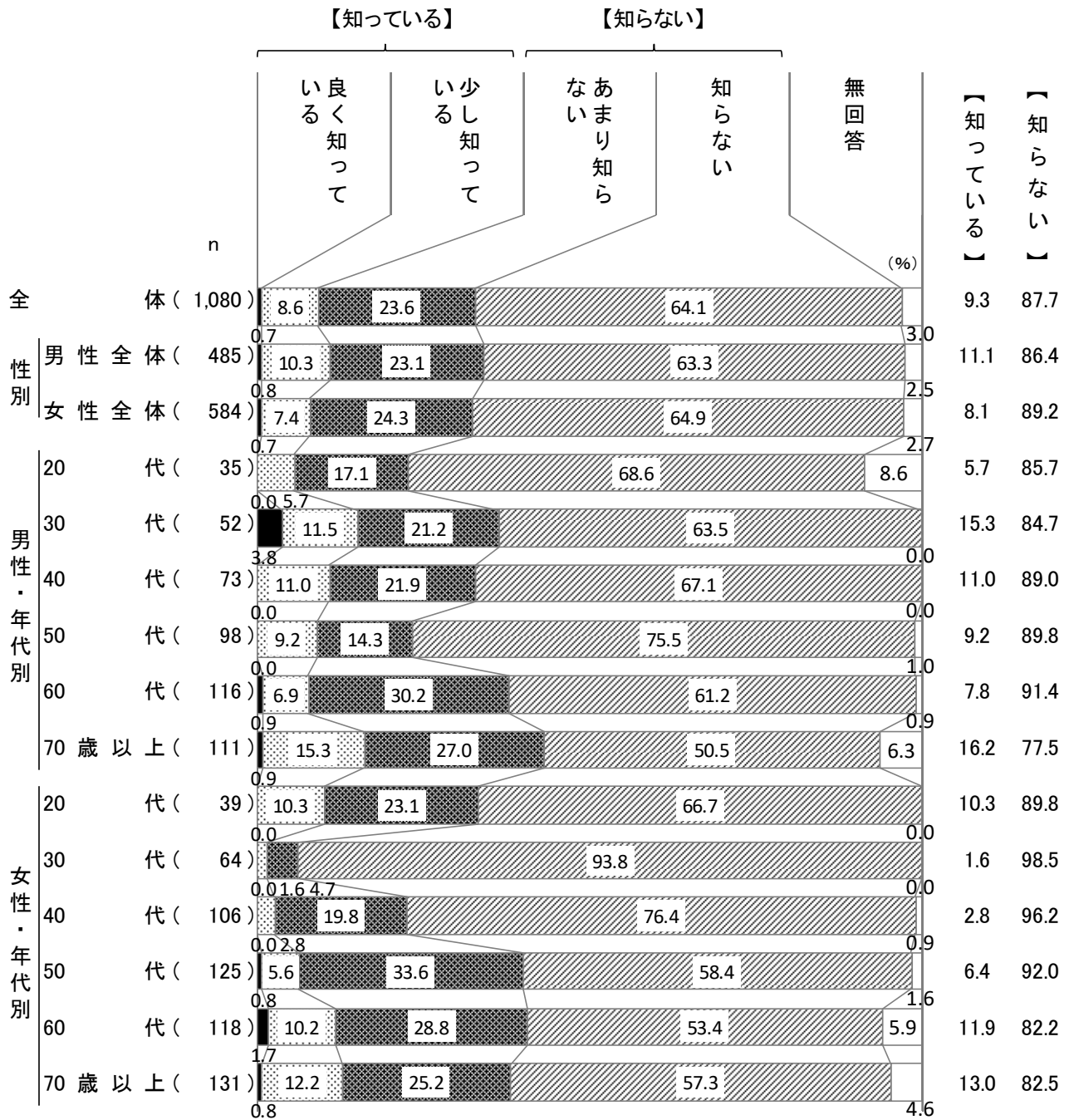
<図表14-20> 施策の認知状況（ウ） 市政出前講座／性別、性・年代別



(エ) 市民活動災害補償制度について性別で見ると、【知っている】は男性(11.1%)が女性(8.1%)より3.0ポイント高くなっている。

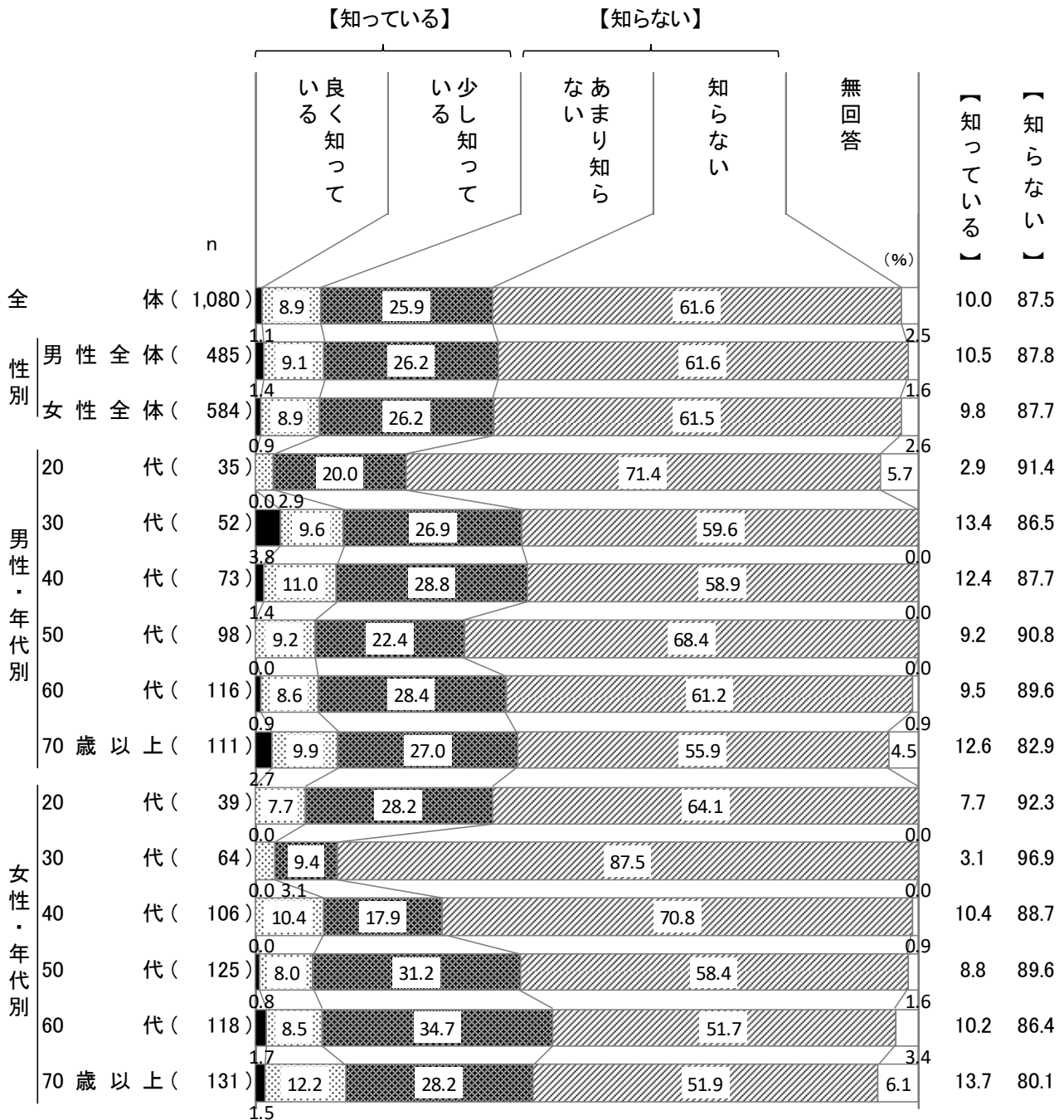
性・年代別で見ると、【知っている】は男性70歳以上(16.2%)で2割弱、男性30代(15.3%)で1割台半ばとなっている。(図表14-21)

<図表14-21> 施策の認知状況 (エ) 市民活動災害補償制度 / 性別、性・年代別



(オ) 福生市輝き市民サポートセンターについて性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。性・年代別でみると、【知っている】は女性70歳以上（13.7%）と男性30代（13.4%）・男性40代（12.4%）で1割強となっている。一方、【知らない】は男性20代（91.4%）・男性50代（90.8%）と女性20代（92.3%）・女性30代（96.9%）で9割台と高くなっている。（図表14-22）

<図表14-22> 施策の認知状況（オ）福生市輝き市民サポートセンター／性別、性・年代別

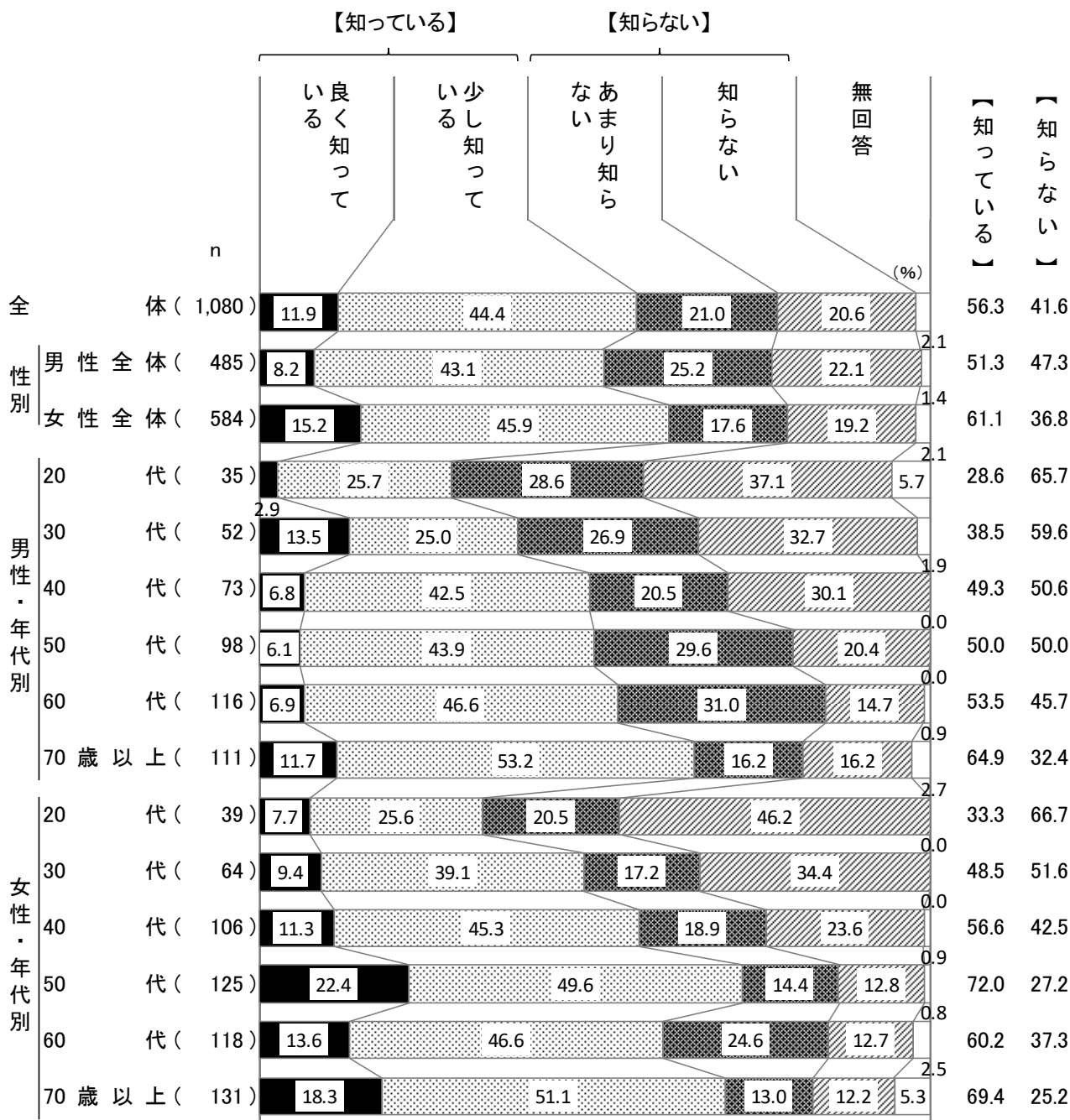


(カ) 市民無料相談について性別で見ると、【知っている】は女性（61.1%）が男性（51.3%）より9.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は女性50代（72.0%）で7割強と高くなっている。一方、【知らない】は女性20代（66.7%）で7割弱、男性20代（65.7%）で6割台半ばと高くなっている。

(図表14-23)

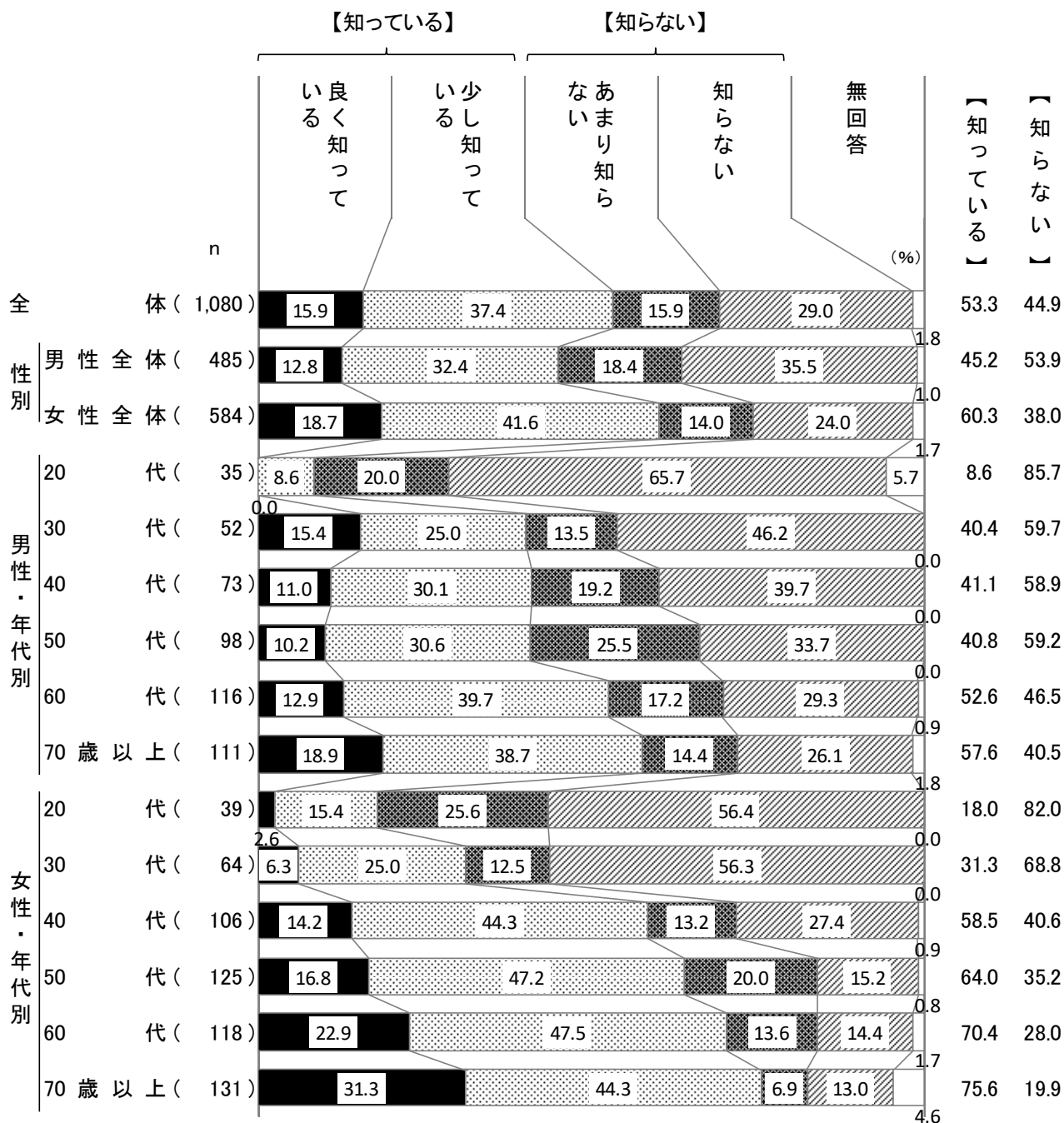
<図表14-23> 施策の認知状況 (カ) 市民無料相談 / 性別、性・年代別



(キ) 市民農園の貸出について性別で見ると、【知っている】は女性（60.3%）が男性（45.2%）より15.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は女性70歳以上（75.6%）で7割台半ば、女性60代（70.4%）で約7割と高くなっている。一方、【知らない】は男性20代（85.7%）で8割台半ば、女性20代（82.0%）で8割強と高くなっている。（図表14-24）

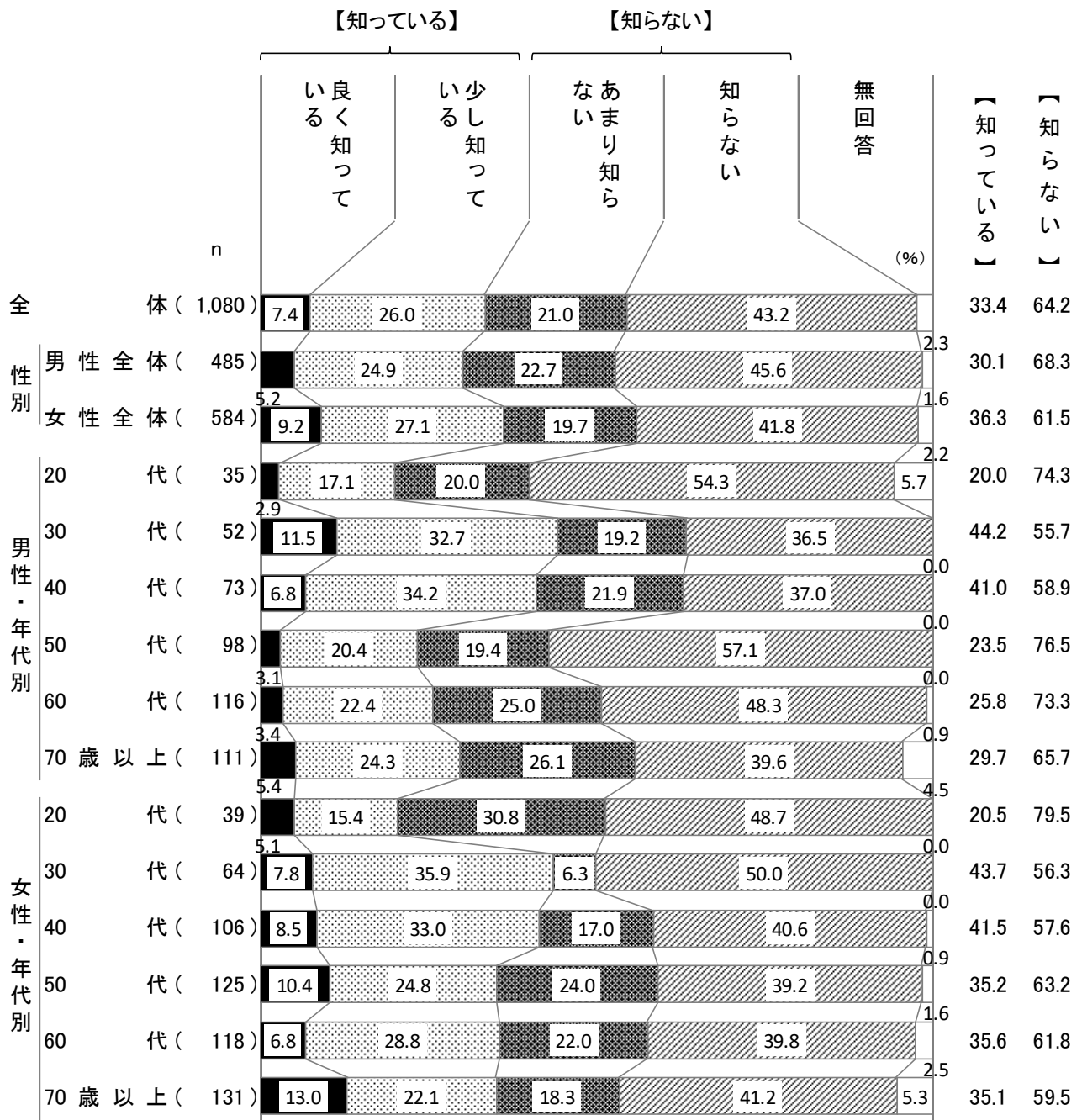
<図表14-24> 施策の認知状況（キ）市民農園の貸出／性別、性・年代別



(ク) 電動アシスト自転車のシェアリング「たっけー☆☆サイクル」について性別で見ると、【知っている】は女性（36.3%）が男性（30.1%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は男性30代（44.2%）で4割台半ば、女性30代（43.7%）と女性40代（41.5%）で4割強と高くなっている。一方、【知らない】は女性20代（79.5%）で約8割、男性50代（76.5%）で8割弱と高くなっている。（図表14-25）

<図表14-25> 施策の認知状況(ク) 電動アシスト自転車のシェアリング「たっけー☆☆サイクル」  
／性別、性・年代別

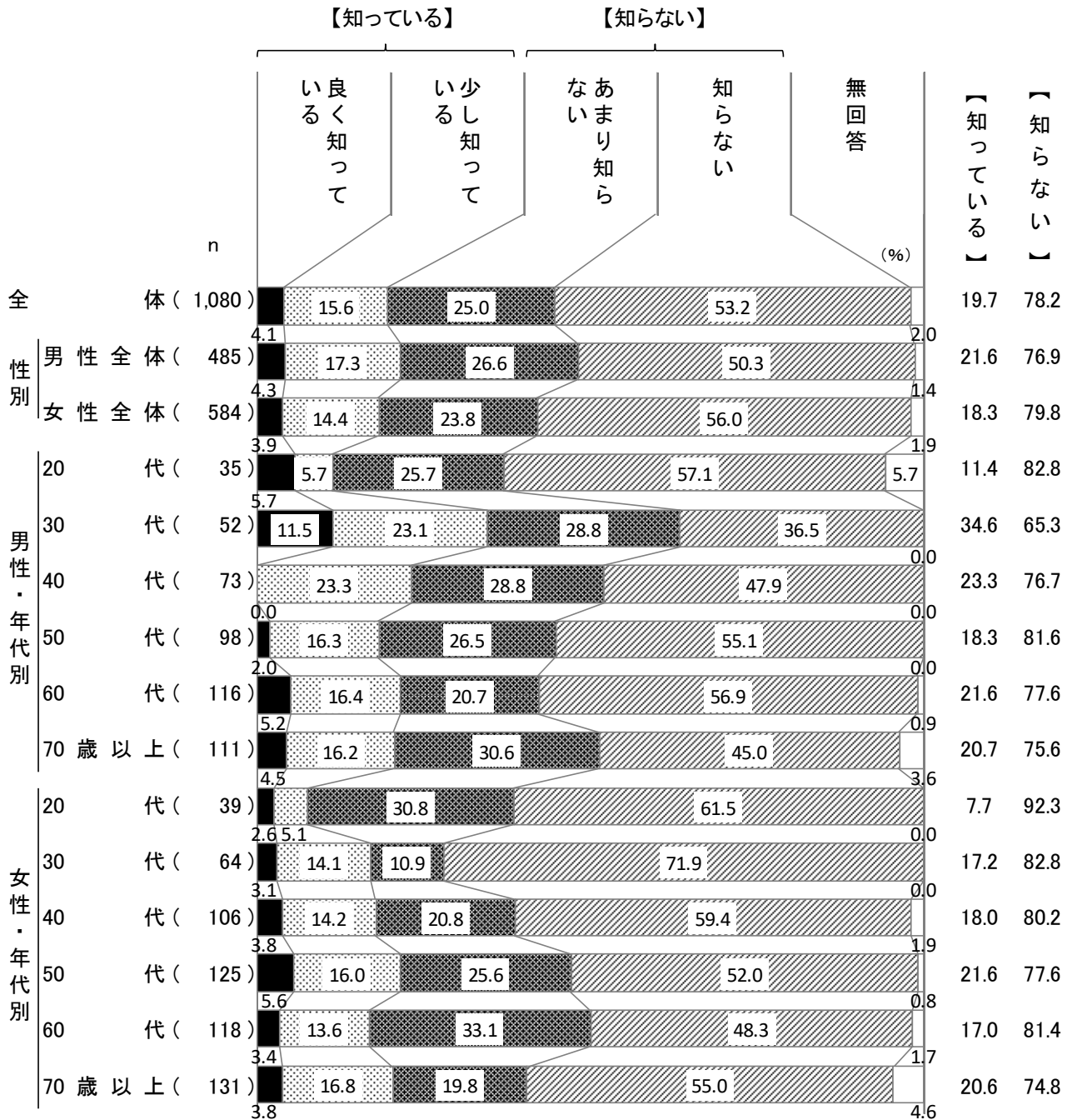




(ケ) 電気自動車普及のための急速充電器の設置について性別で見ると、【知っている】は男性(21.6%)が女性(18.3%)より3.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は男性30代(34.6%)で3割台半ばと高くなっている。一方、【知らない】は女性20代(92.3%)で9割強、男性20代(82.8%)・男性50代(81.6%)と女性30代(82.8%)・女性60代(81.4%)で8割強と高くなっている。(図表14-26)

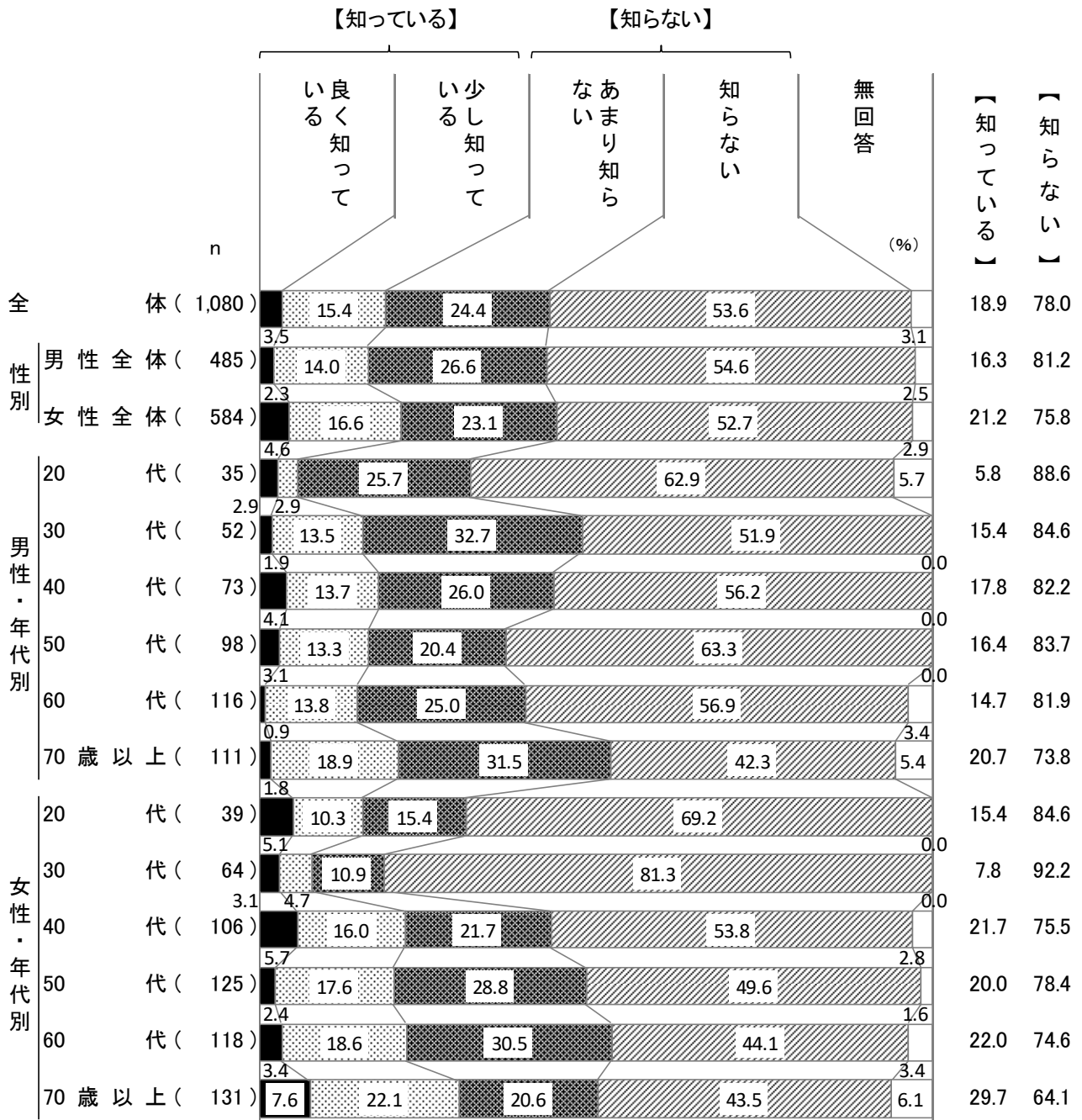
<図表14-26> 施策の認知状況(ケ) 電気自動車普及のための急速充電器の設置/性別、性・年代別



(コ) 教育委員会表彰について性別でみると、【知っている】は女性（21.2%）が男性（16.3%）より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性70歳以上（29.7%）で約3割と高くなっている。一方、【知らない】は女性30代（92.2%）で9割強と高くなっている。（図表14-27）

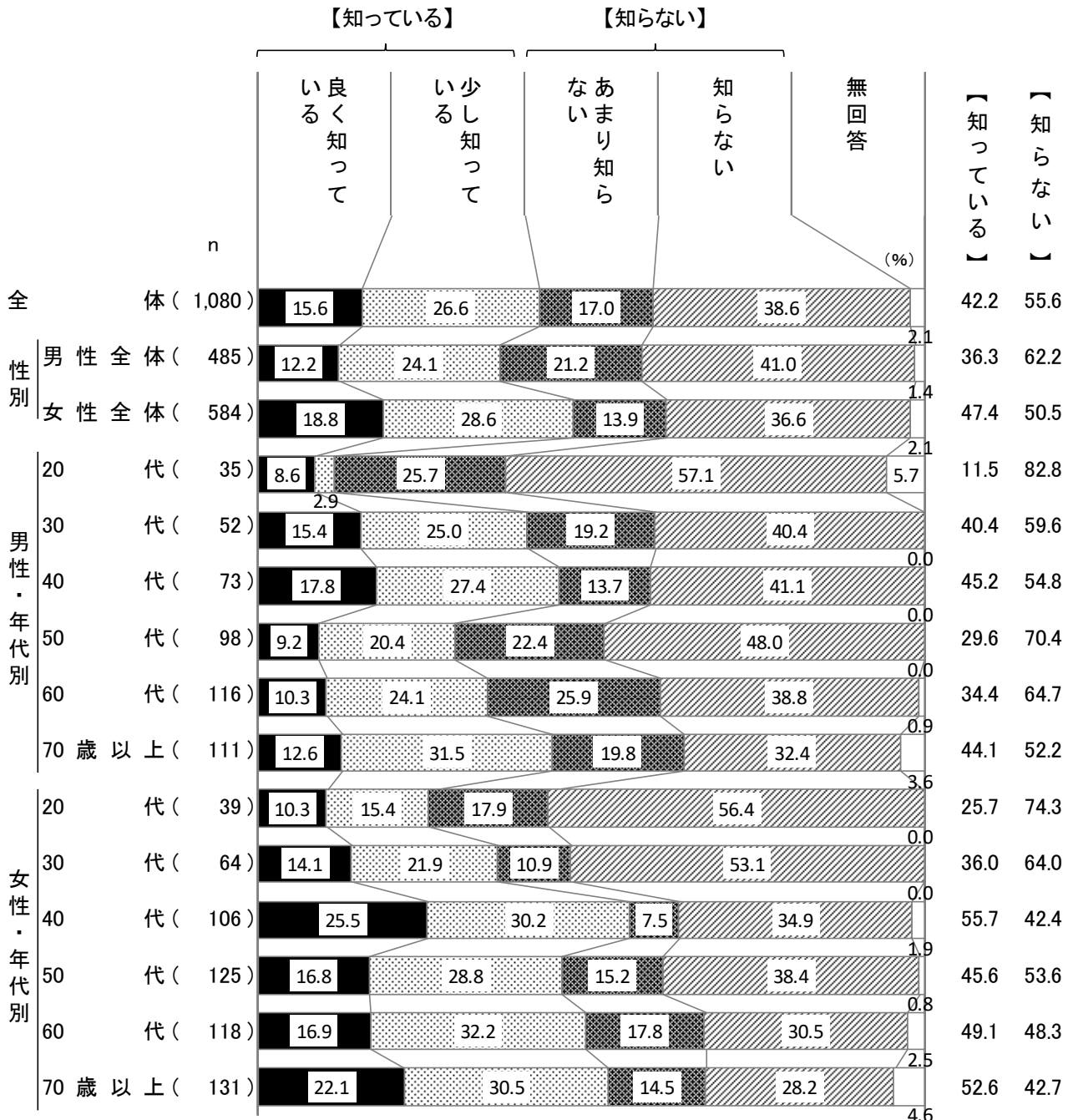
<図表14-27> 施策の認知状況（コ）教育委員会表彰／性別、性・年代別



(サ) 防災食育センターの設置について性別で見ると、【知っている】は女性（47.4%）が男性（36.3%）より11.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は女性40代（55.7%）で5割台半ば、女性70歳以上（52.6%）で5割強と高くなっている。一方、【知らない】は男性20代（82.8%）で8割強、女性20代（74.3%）で7割台半ばと高くなっている。（図表14-28）

<図表14-28> 施策の認知状況（サ）防災食育センターの設置／性別、性・年代別

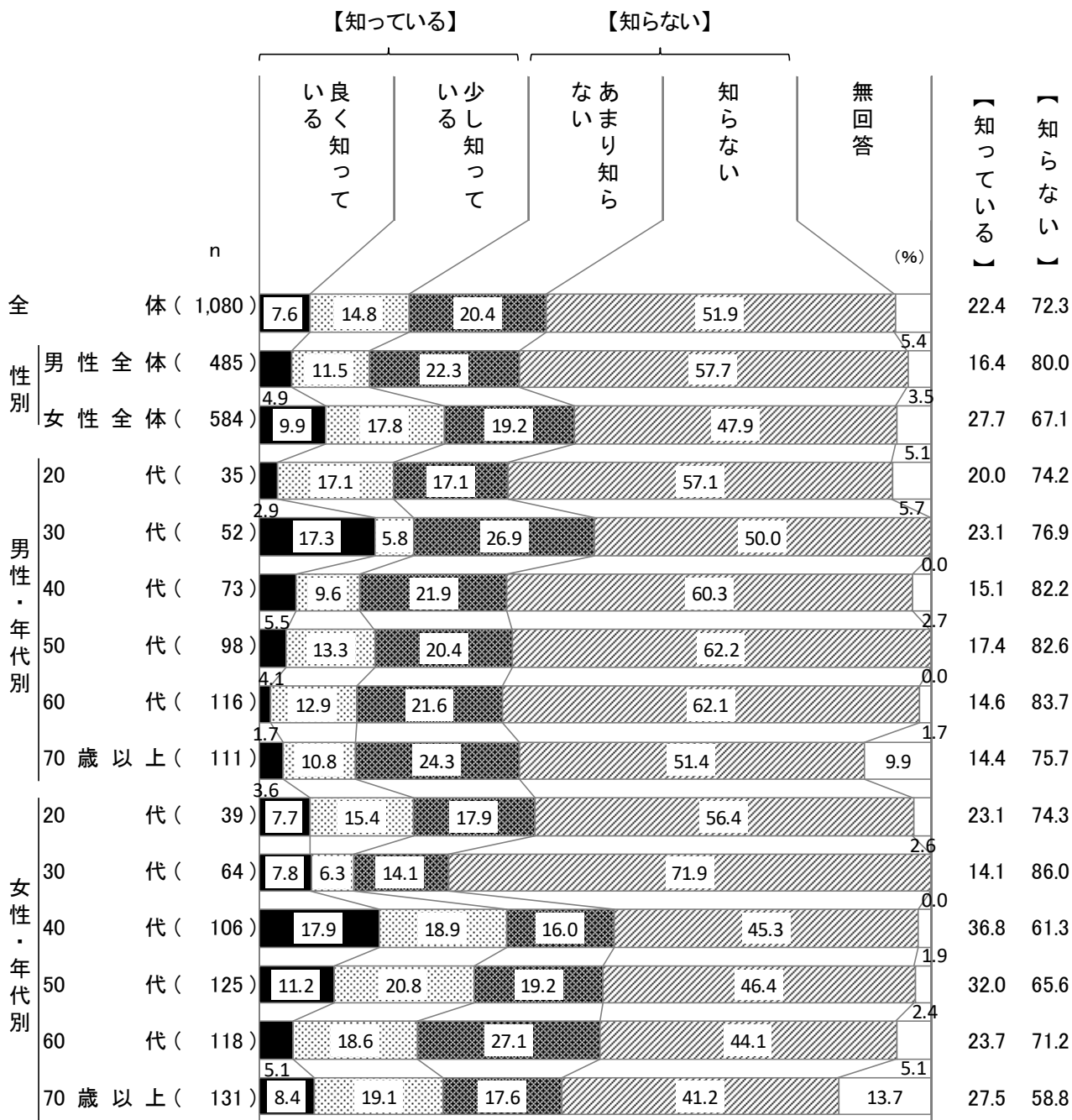


(シ)小・中学校宿泊学習教室について性別で見ると、【知っている】は女性(27.7%)が男性(16.4%)より11.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は女性40代(36.8%)で4割弱と高くなっている。一方、【知らない】は女性30代(86.0%)で9割弱、男性60代(83.7%)で8割強と高くなっている。

(図表14-29)

<図表14-29> 施策の認知状況(シ)小・中学校宿泊学習教室/性別、性・年代別

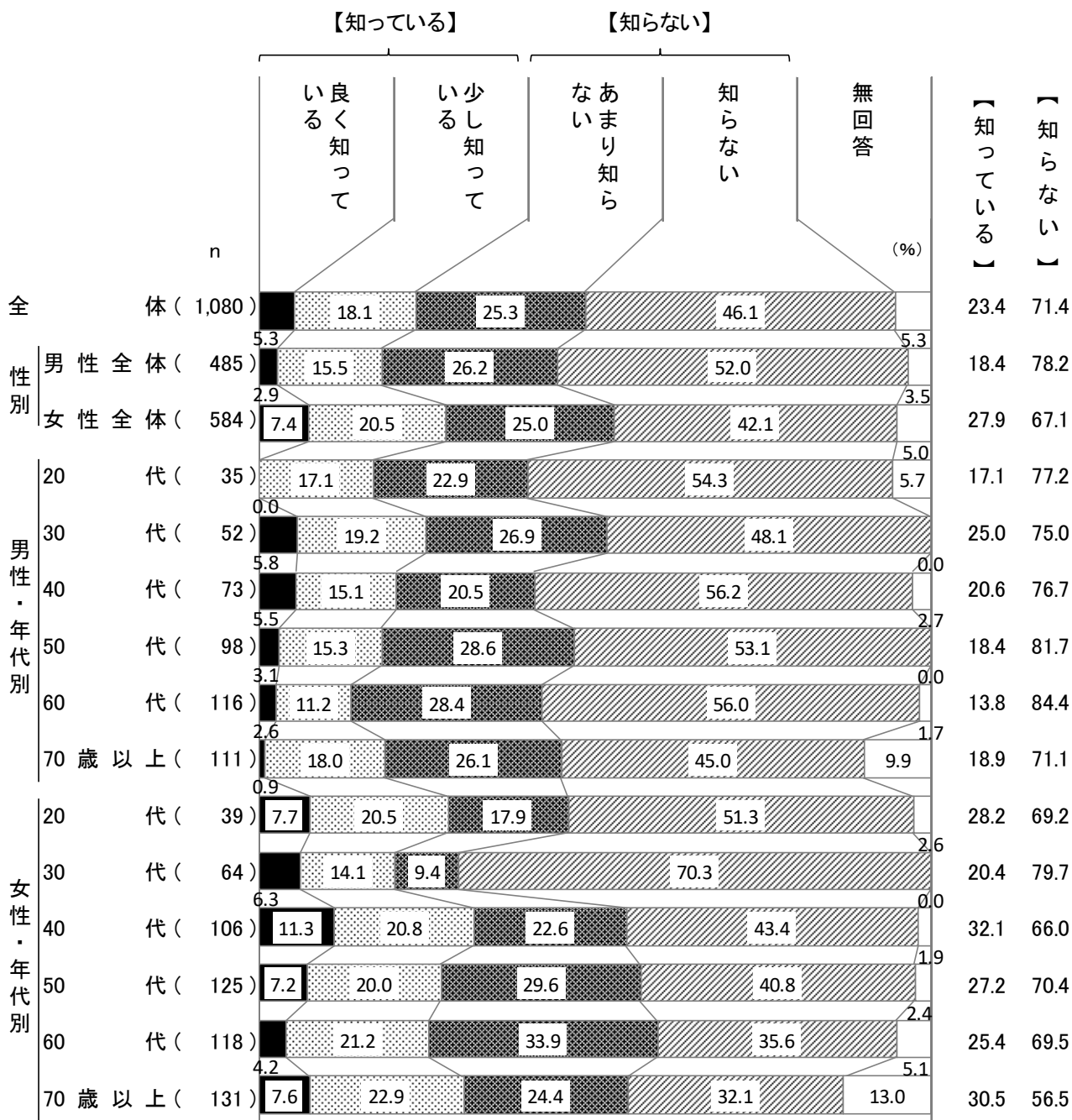


(ス) 児童・生徒による音楽のまちづくりコンサートについて性別で見ると、【知っている】は女性 (27.9%) が男性 (18.4%) より9.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は女性40代 (32.1%) で3割強と高くなっている。一方、【知らない】は男性60代 (84.4%) で8割台半ば、男性50代 (81.7%) で8割強と高くなっている。

(図表14-30)

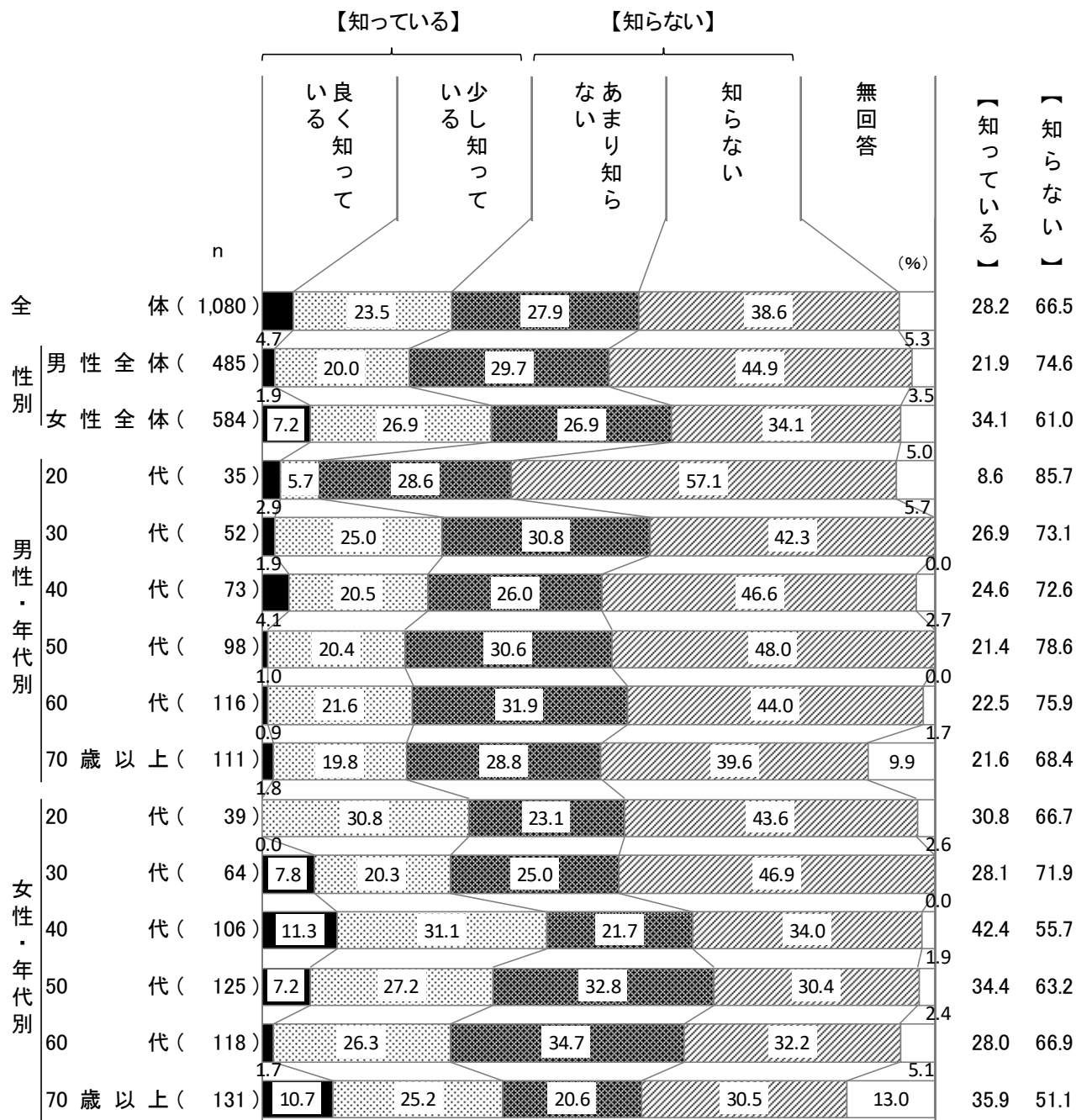
<図表14-30> 施策の認知状況 (ス) 児童・生徒による音楽のまちづくりコンサート  
／性別、性・年代別



(セ) 教育相談（教育に関する悩み全般）について性別で見ると、【知っている】は女性（34.1%）が男性（21.9%）より12.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【知っている】は女性40代（42.4%）で4割強、女性70歳以上（35.9%）で3割台半ばと高くなっている。一方、【知らない】は男性20代（85.7%）で8割台半ば、男性50代（78.6%）で8割弱と高くなっている。（図表14-31）

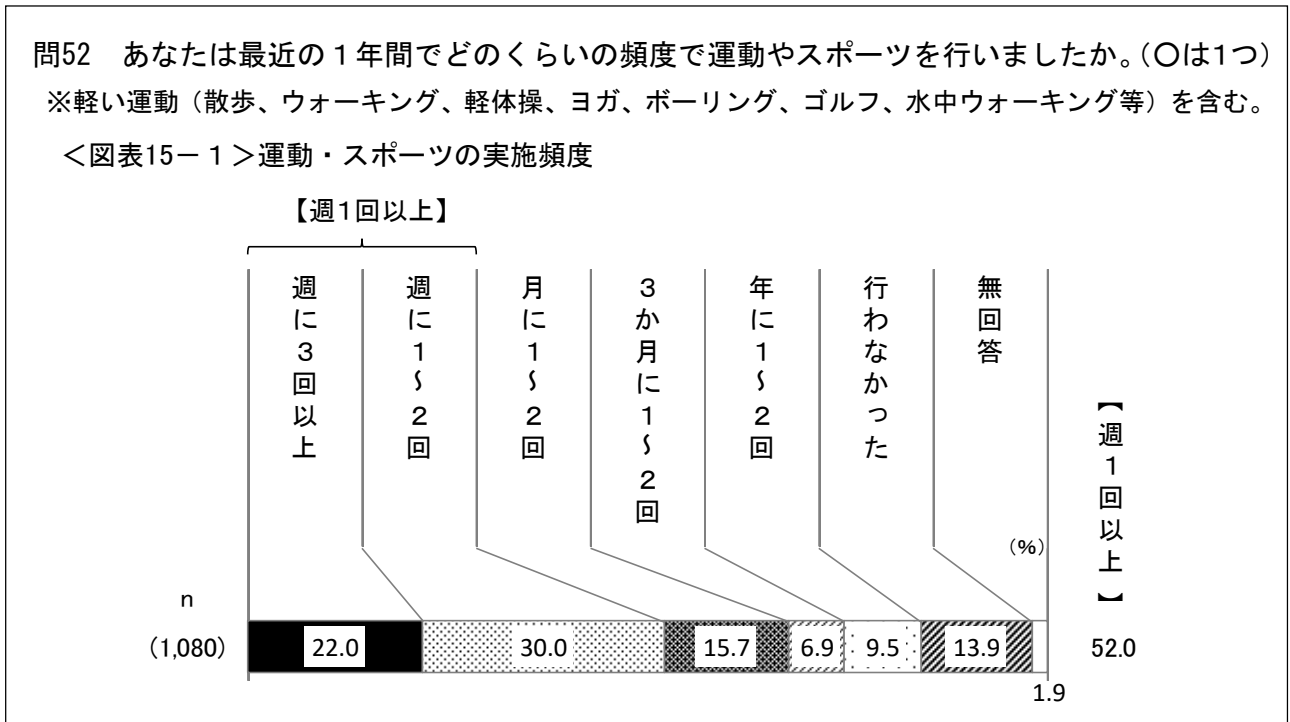
<図表14-31> 施策の認知状況（セ）教育相談（教育に関する悩み全般）／性別、性・年代別



## 15. 生涯学習

### (1) 運動・スポーツの実施頻度

◇【週1回以上】が5割強



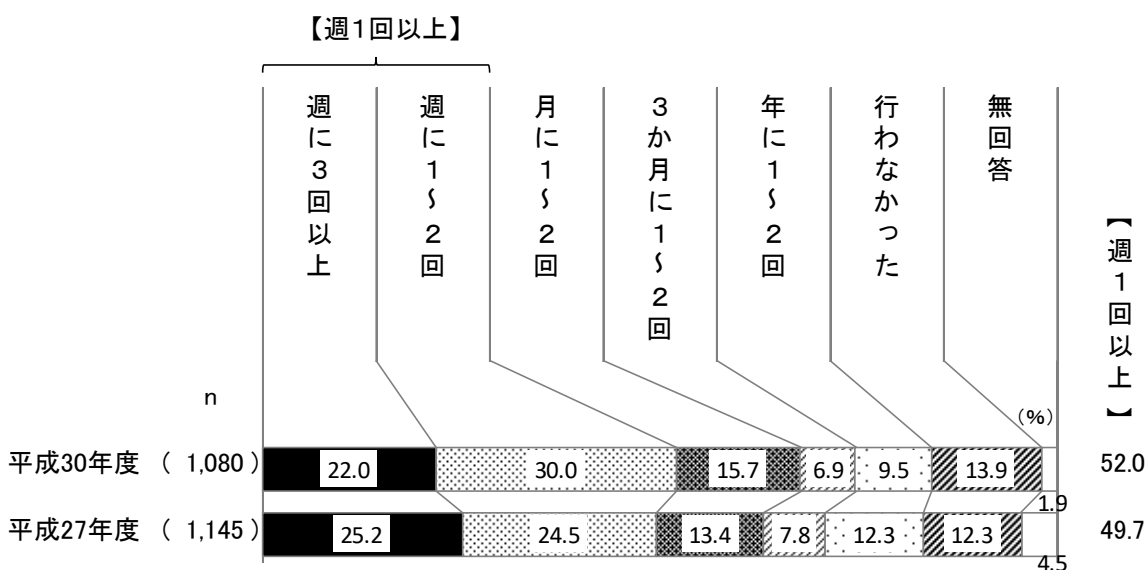
運動・スポーツの実施頻度を聞いたところ、「週に3回以上」(22.0%)と「週に1~2回」(30.0%)の2つを合わせた【週1回以上】(52.0%)が5割強となっている。「月に1~2回」(15.7%)と「行わなかった」(13.9%)はそれぞれ1割を超えている。

(図表15-1)

前回の調査結果と比較すると、【週1回以上】は平成27年度と比べて2.3ポイント増加している。

(図表15-2)

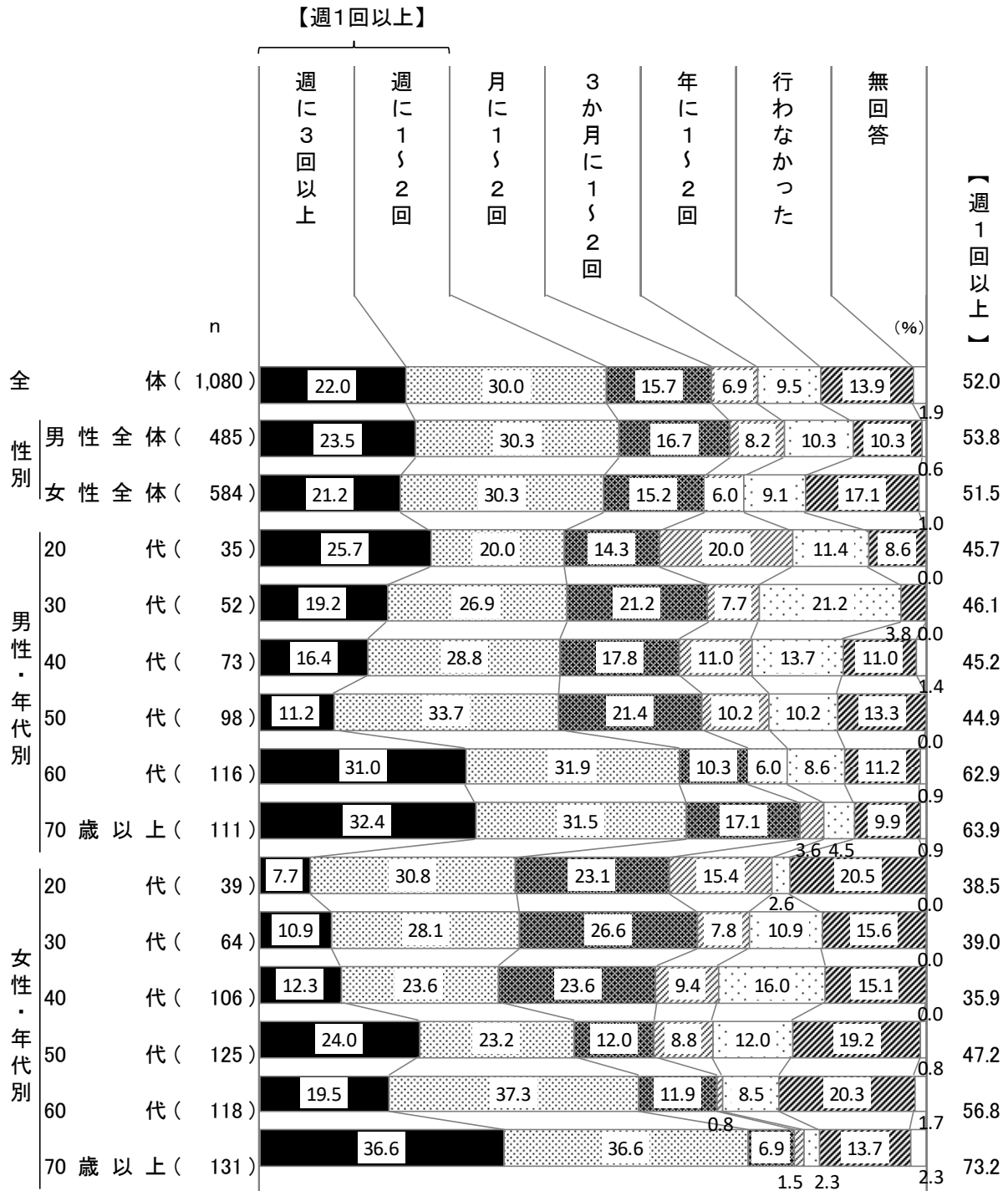
<図表15-2>運動・スポーツの実施頻度/過年度推移



性別で見ると、「行わなかった」は女性（17.1%）が男性（10.3%）より6.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、【週1回以上】は女性70歳以上（73.2%）で7割強、男性70歳以上（63.9%）で6割強と高くなっている。「行わなかった」は女性20代（20.5%）と女性50代（19.2%）・女性60代（20.3%）で約2割となっている。（図表15-3）

＜図表15-3＞運動・スポーツの実施頻度／性別、性・年代別



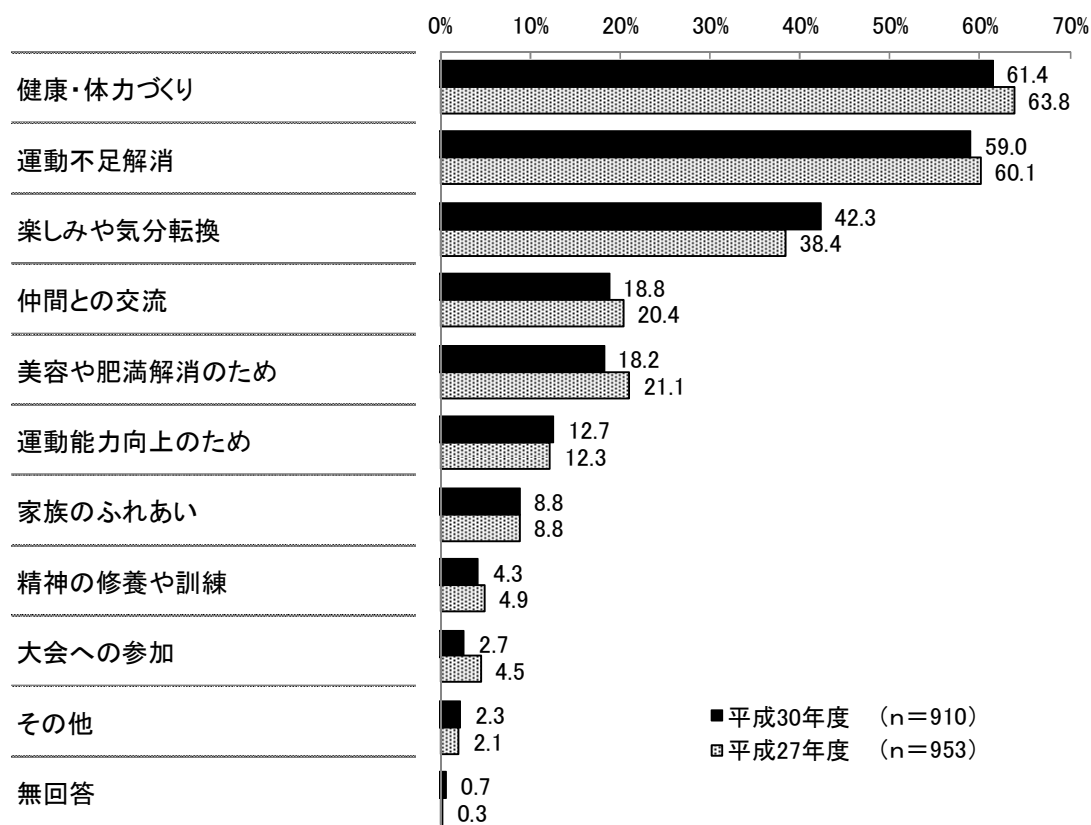


## (2) 運動する目的

◇「健康・体力づくり」が6割強

(問52で、「1」～「5」(最近の1年間で運動やスポーツを行った)を選んだ方に)  
問52-1 運動する目的は何ですか。(〇はいくつでも)

<図表15-4>運動する目的



(注)「楽しみや気分転換」は、前回調査では「楽しみや気晴らし」としていた。

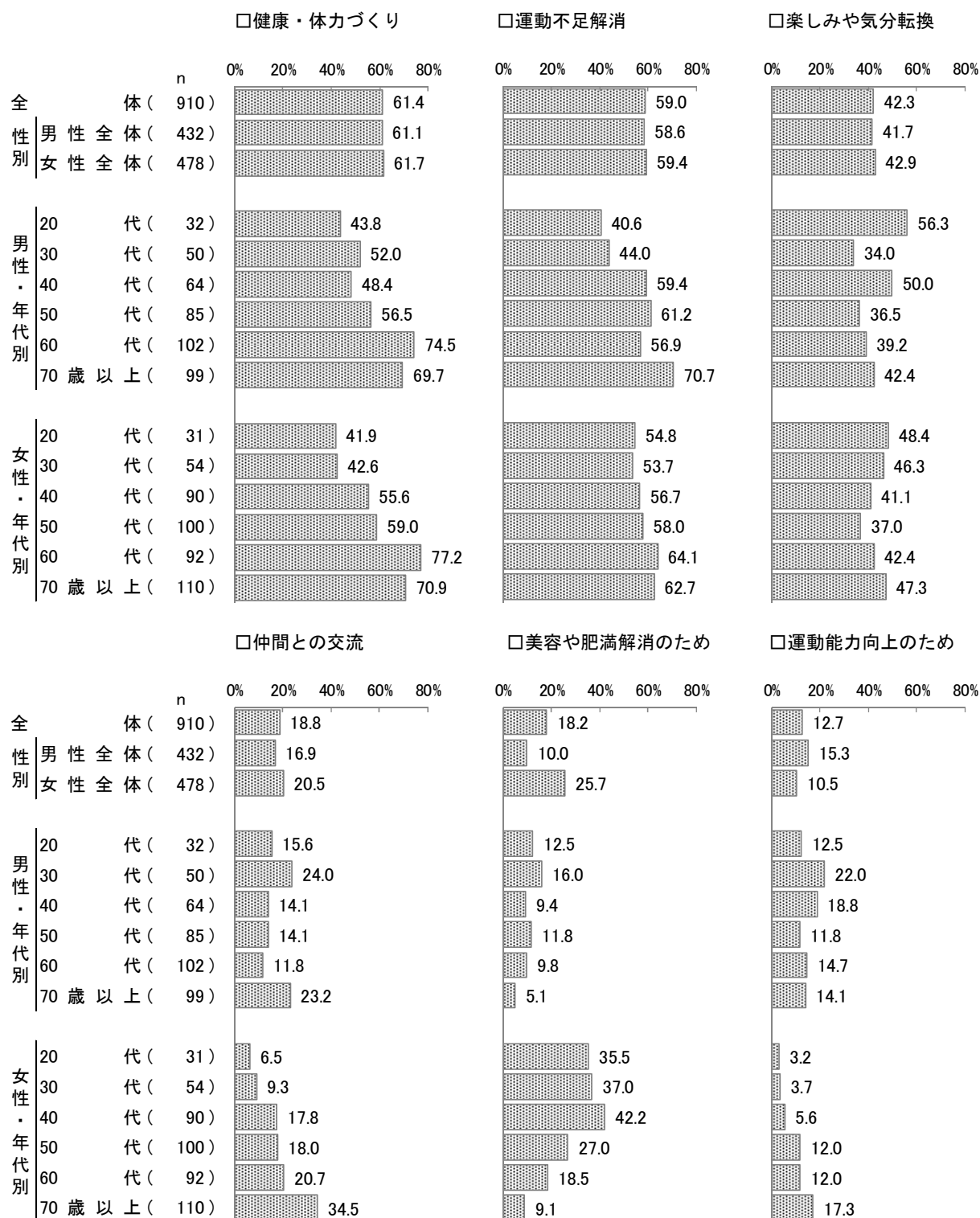
問52で、最近の1年間で運動やスポーツを行ったと答えた方に、運動する目的を聞いたところ、「健康・体力づくり」(61.4%)が6割強で最も高く、次いで「運動不足解消」(59.0%)、「楽しみや気分転換」(42.3%)、「仲間との交流」(18.8%)、「美容や肥満解消のため」(18.2%)となっている。(図表15-4)

前回の調査結果と比較すると、「美容や肥満解消のため」は2.9ポイント減少している。一方、「楽しみや気分転換」は3.9ポイント増加している。(図表15-4)

上位6項目について性別でみると、「美容や肥満解消のため」は女性（25.7%）が男性（10.0%）より15.7ポイント高く、「運動能力向上のため」は男性（15.3%）が女性（10.5%）より4.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「健康・体力づくり」は女性60代（77.2%）で8割弱と高くなっている。「運動不足解消」は男性70歳以上（70.7%）で約7割と高くなっている。「楽しみや気分転換」は男性20代（56.3%）で6割弱と高くなっている。「仲間との交流」は女性70歳以上（34.5%）で3割台半ばと高くなっている。「美容や肥満解消のため」は女性40代（42.2%）で4割強と高くなっている。（図表15-5）

<図表15-5>運動する目的／性別、性・年代別（上位6項目）



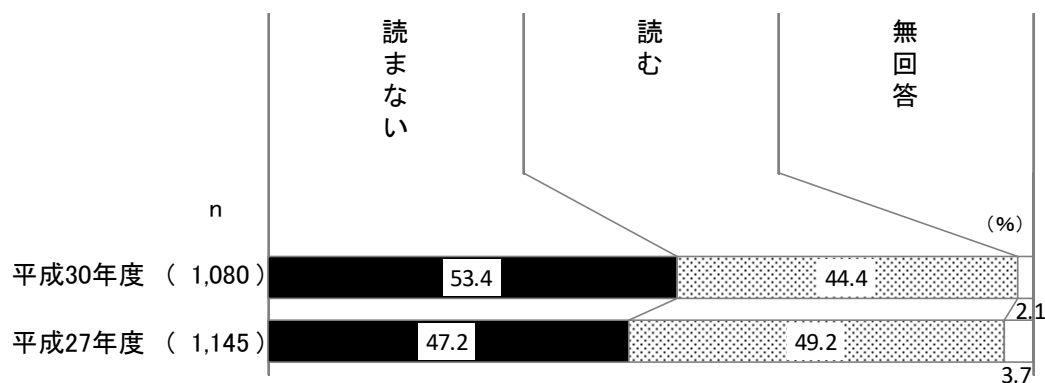
### (3) 読書の頻度

◇「読む」が4割台半ば

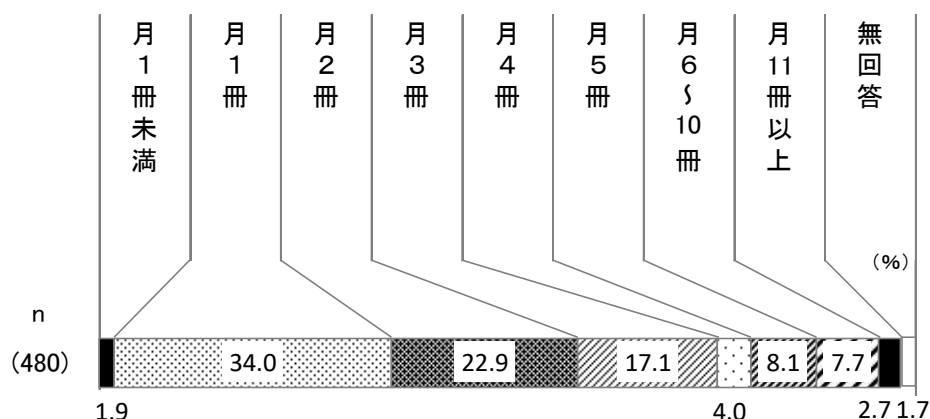
問53 あなたは1か月間に平均何冊本を読みますか。(読む方は冊数もお答えください。)

(○は1つ)

<図表15-6> 読書をしているか



<図表15-7> 1か月に読む冊数



読書をしているか聞いたところ、「読む」(44.4%)が4割台半ばとなっている。「読まない」(53.4%)は5割強となっている。(図表15-6)

前回の調査結果と比較すると、「読まない」は平成27年度と比べて6.2ポイント増加している。

(図表15-6)

「読む」と答えた方に、1か月に読む冊数を聞いたところ、「月1冊」(34.0%)が3割強で最も高く、次いで「月2冊」(22.9%)、「月3冊」(17.1%)となっている。(図表15-7)

性別でみると、【月1冊以下】は女性（19.0%）が男性（12.6%）より6.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「読まない」は女性30代（60.9%）で約6割、男性20代（60.0%）で6割と高くなっている。【月1冊以下】は女性30代（21.9%）で2割強と高くなっている。

（図表15－8）

＜図表15－8＞読書の頻度／性別、性・年代別

